千葉県文化財センター調査報告書第330集

# 千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1

——山武町栗焼棒遺跡——

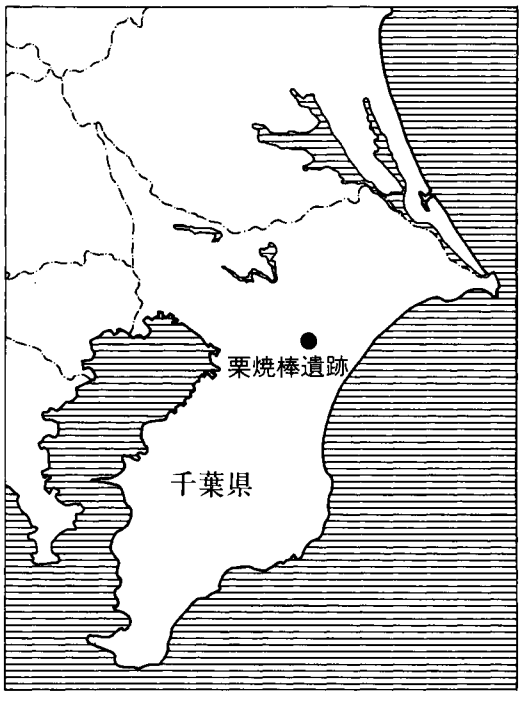
平成10年3月

日本道路公団

財団法人　千葉県文化財センター

# 千葉東金道路(二期)埋蔵文化財調査報告書1

## —山武町栗焼棒遺跡—



# 序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第330集として、日本道路公団の千葉東金道路（二期）建設事業に伴って実施した山武郡山武町栗焼棒遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、大型の掘立柱建物跡が発見されたほか、古墳時代の土器が多く出土するなど、この地域の古代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年３月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　　中　村　好　成

# 凡　例

1　本書は、日本道路公団による千葉東金道路（二期）建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県山武郡山武町矢部字日向497-1ほかに所在する栗焼棒遺跡(遺跡コード405－002）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、日本道路公団の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆はII－１、III－１の旧石器時代及びII－２、縄文時代の石器については技師　永塚俊司が担当し、その他は副所長　加藤修司が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、山武町教育委員会、日本道路公団の御指導、御協力を得た。また、古墳時代の一部の土器について原田享二氏、村山好文氏、石製品の石材については高橋直樹氏の御指導を得た。

7　本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第１図、第４図　国土地理院発行　1/50、000地形図「東金」(Ｎ１－54－19－11)

8　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

9　本書で呼称した遺構番号は、編集の都合上、調査時の番号と異なる。

10　旧石器時代の出土遺物記号凡例は本文中に示してある。

11　竪穴住居跡平面図、床面上の破線範囲は硬化面を示している。竈のトーン部分は山砂等の構築材の遺存範囲を示している。

12　土器実測図についての表現基準は以下のとおりである（図参照)。

①ヘラナデ　＝基本的には「輪積痕をヘラによってナデ消す」技法を「ヘラナデ」とすべきであり、粘土積み上げ後の土器制作の第１段階の成形技法と言える。通常ヘラ削りやヘラ磨きに連続するが、ヘラナデで成形が終了する場合も多い。しかし、ヘラ削りやヘラ磨きとの区別が難しく、図示しづらい。曖昧な実測表現での混乱を避けるため、文章表現としている。

②ヘラ削り　＝器種問わず内外面とも図示してある。ただし、方向を示す矢印は図示せず「タテ、ヨコ、回転」等の文章表現としている。

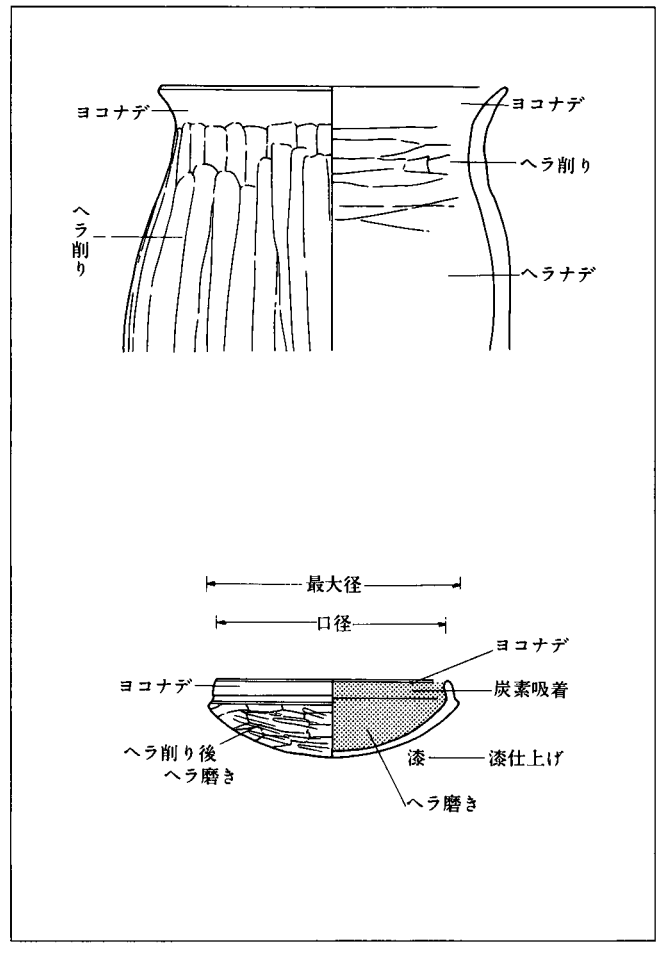
③ヘラ磨き　＝坏の内面はすべて文章表現としている。

④口縁部ヨコナデ＝器種問わず内外面とも図示はしていない。すべて文章表現である。

⑤彩色処理　＝赤彩は赤色印刷である。黒色処理は本来は専門家の観察によって「炭素吸着」と漆仕上げ」の違いを明白にすべきである。しかし、量的な問題もあり、今回は先学諸氏の報告を参照に、主に断面観察により、内部にまで色素が及んでいるものを「炭素吸着」、黒色や褐色平面範囲が明瞭で、内部にまで色素が及んでいない塗膜状のものはすべて「漆仕上げ」とした。炭素吸着はスクリーントーンで、漆仕上げは「漆」と実測図に明記した。漆仕上げの範囲は文章で説明してある。

⑤須恵器　　＝断面を黒色で塗りつぶしてある。実線は稜線及びヘラ削り範囲を示す。破線はロクロ痕を示す。

⑥ロクロ土師器　＝実線は稜線及びヘラ削り範囲を示す。破線はロクロ痕を示す。底部成形は原則として文章表現とした。



# 本文目次


Ⅰ　はじめに……1
　1　調査の概要……1
　2　遺跡の位置と環境……3
Ⅱ　検出した遺構と遺物……8
　1　旧石器時代……8
　　（1）概要……8
　　（2）遺構・遺物……11
　2　縄文時代……66
　　（1）概要……66
　　（2）遺構・遺物……66
　3　古墳時代……74
　　（1）概要……74
　　（2）遺構・遺物……74
　4　歴史時代……151
　　（1）概要……151
　　（2）遺構・遺物……151
Ⅲ　まとめ……172
　1　旧石器時代……172
　2　縄文時代……175
　3　古墳時代……175
　4　歴史時代……197
報告書抄録……巻末


# 挿図目次


第1図　千葉東金道路（二期）建設予定地と関連遺跡……1
第2図　遺構分布図・調査区配置図……4
第3図　遺跡周辺の地形……5
第4図　周辺の遺跡……
第5図　栗焼棒遺跡と近隣の古墳の位置関係……6
第6図　下層確認範囲と旧石器本調査範囲及び石器集中地点……9
第7図　基本層序……10
第8図　石器集中地点と地点間接合……10
第9図　石器集中1　石器出土分布図―器種別（上）と出土石器（下）……17
第10図　石器集中1　石器出土分布図―石材別…18
第11図　石器集中2　石器出土分布図―器種別…19
第12図　石器集中2　石器出土分布図―石材別…20
第13図　石器集中2　出土石器……21

第14図　石器集中３　石器出土分布図―器種別…22
第15図　石器集中３　石器出土分布図―石材別（上）と出土石器（下）……23
第16図　石器集中４　石器出土分布図―器種別…24
第17図　石器集中４　集中域ｂ（上）、ａ（下）主要な出土石器……25
第18図　石器集中４　石器出土分布図―石材別…26
第19図　石器集中４　石材別接合関係図と主要な出土石器（１）……27
第20図　石器集中４　石材別接合関係図と主要な出土石器（２）……28
第21図　石器集中４　出土石器（１）……29
第22図　石器集中４　出土石器（２）……30
第23図　石器集中４　出土石器（３）……31
第24図　石器集中４　出土石器（４）……32
第25図　石器集中４　出土石器（５）……33
第26図　石器集中４　出土石器（６）……34
第27図　石器集中４　出土石器（７）……35
第28図　石器集中４　出土石器（８）……36
第29図　石器集中４　出土石器（９）……37
第30図　石器集中４　出土石器（10）……38
第31図　石器集中４　出土石器（11）……39
第32図　石器集中４　出土石器（12）……40
第33図　石器集中４　出土石器（13）……41
第34図　石器集中４　出土石器（14）……42
第35図　石器集中４　出土石器（15）……43
第36図　石器集中４　出土石器（16）……44
第37図　石器集中４　出土石器（17）……45
第38図　石器集中４　出土石器（18）……46
第39図　石器集中４　出土石器（19）……47
第40図　石器集中４　出土石器（20）……48
第41図　石器集中地点外　出土石器……49
第42図　縄文時代遺構分布図……69
第43図　１～14号土坑……70
第44図　縄文時代土器拓影（１）……71
第45図　縄文時代土器拓影（２）……72
第46図　縄文時代以降の石器……73
第47図　古墳時代遺構分布図……75
第48図　１号住居跡……76
第49図　２号住居跡……77
第50図　３号住居跡……78
第51図　４号住居跡……80
第52図　５号住居跡……81
第53図　６号住居跡……82
第54図　７号住居跡……84
第55図　８号住居跡……85
第56図　９号住居跡……87
第57図　10号住居跡……89
第58図　11号住居跡……90
第59図　11号住居跡（古）……91
第60図　12号住居跡……92
第61図　13号住居跡（１）……94
第62図　13号住居跡（２）……95
第63図　13号住居跡（３）……96
第64図　14号住居跡……97
第65図　15号住居跡……99
第66図　16号住居跡（１）……100
第67図　16号住居跡（２）……101
第68図　17号住居跡……102
第69図　18号住居跡……103
第70図　19号住居跡……104
第71図　20号住居跡（１）……105
第72図　20号住居跡（２）……106
第73図　21号住居跡……107
第74図　22号住居跡……108
第75図　23号住居跡……109
第76図　24号住居跡……110
第77図　25号住居跡（１）……112
第78図　25号住居跡（２）……113
第79図　25号住居跡（３）……114
第80図　26号住居跡……115
第81図　27号住居跡（１）……116
第82図　27号住居跡（２）……117
第83図　28号住居跡……118

第84図　29号住居跡……120
第85図　30号住居跡……121
第86図　31号住居跡……122
第87図　32号住居跡……124
第88図　33号住居跡……125
第89図　34号住居跡……125
第90図　35号住居跡……126
第91図　36号住居跡……127
第92図　37号住居跡……128
第93図　38号住居跡（１）……129
第94図　38号住居跡（２）……130
第95図　38号住居跡（古）……131
第96図　39号住居跡……132
第97図　40号住居跡……133
第98図　41号住居跡（１）……134
第99図　41号住居跡（２）……135
第100図　42号住居跡……136
第101図　43号住居跡……137
第102図　44号住居跡……138
第103図　45号住居跡……139
第104図　46号住居跡……140
第105図　47号住居跡……141
第106図　48号住居跡……142
第107図　49号住居跡……143
第108図　50号住居跡……144
第109図　15号土坑～18号土坑……145
第110図　19号土坑（１）……147
第111図　19号土坑（２）……148
第112図　20号土坑……149
第113図　１号溝……150
第114図　表採遺物……150
第115図　51号住居跡……151
第116図　歴史時代遺構分布図……152
第117図　52号住居跡……153
第118図　53号住居跡……153
第119図　54号住居跡……154
第120図　55号住居跡……155
第121図　56号住居跡……156
第122図　57号住居跡……157
第123図　58号住居跡……157
第124図　59号住居跡……159
第125図　60号住居跡……160
第126図　61号住居跡……160
第127図　62号住居跡……161
第128図　63号住居跡……161
第129図　21号土坑～23号土坑……162
第130図　１号掘立柱建物跡……163
第131図　２号掘立柱……164
第132図　３号掘立柱……165
第133図　３号、４号溝……166
第134図　５号、６号溝……167
第135図　２号溝……168
第136図　１号塚……169
第137図　１号塚出土貨幣（１）……170
第138図　１号塚出土貨幣（２）……171
第139図　坏の形状羅列……176
第140図　形状と寸法と成形……177
第141図　形状と寸法と塗採……177
第142図　いわゆる東北系とされる土器……179
第143図　分類結果①～⑨……180
第144図　各類の共伴頻度……183
第145図　①、②類の最大径……184
第146図　③、④、⑤類の最大径……185
第147図　坏の変遷（１）……186
第148図　坏の変遷（２）……187
第149図　甕の集成と球胴率（１）……189
第150図　甕の集成と球胴率（２）……190
第151図　小形甕の集成と球胴率……190
第152図　甑と高坏の集成……191
第153図　主な出土須恵器……194
第154図　集落の移動……196
第155図　歴史時代土師器の最大径……197

# 表目次


第１表 石材と器種組成　石器集中１～３ ……51
第２表 石材と器種組成　石器集中4 a ・b ……52
第３表 石材と器種組成　石器集中4 a ……53
第４表 石材と器種組成　石器集中4 b ……54
第５表 石器観察表　石器集中１（１） ……55
第６表 石器観察表　石器集中１（２） ……56
第７表 石器観察表　石器集中２（１） ……57
第８表 石器観察表　石器集中２（２） ……58
第９表 石器観察表　石器集中３ ……58
第10表 石器観察表　石器集中４（１） ……59
第11表 石器観察表　石器集中４（２） ……60
第12表 石器組成表　石器集中４（３） ……61
第13表 石器組成表　石器集中４（４） ……62
第14表 石器組成表　石器集中４（５） ……63
第15表 石器組成表　石器集中４（６） ……64
第16表 石器組成表　石器集中４（７） ……65
第17表 縄文時代　石器観察表 ……73


# 図版目次


巻　頭　石製品の石材
図版１　栗焼棒遺跡遠景
図版２　旧石器時代　石器集中４
図版３　旧石器時代　石器集中２、３
図版４　縄文時代　１、２、３号土坑
図版５　縄文時代　４、５、６号土坑
図版６　縄文時代　７、８、９号土坑
図版７　縄文時代　10、11、12号土坑
図版８　縄文時代　13、14号土坑
図版９　古墳時代　１、２号住居跡
図版10　古墳時代　３、４号住居跡
図版11　古墳時代　５、６、７号住居跡
図版12　古墳時代　７，８住居跡跡
図版13　古墳時代　９、10号住居跡
図版14　古墳時代　11、12号住居跡
図版15　古墳時代　13号住居跡
図版16　古墳時代　13、14、15号住居跡
図版17　古墳時代　15、16、17号住居跡
図版18　古墳時代　16、17号住居跡
図版19　古墳時代　17、18、19号住居跡
図版20　古墳時代　20、21号住居跡
図版21　古墳時代　22、23、24号住居跡
図版22　古墳時代　24、25号住居跡
図版23　古墳時代　26、27号住居跡
図版24　古墳時代　28、29号住居跡
図版25　古墳時代　29、30号住居跡
図版26　古墳時代　30、31号住居跡
図版27　古墳時代　32、33号住居跡
図版28　古墳時代　34、35、36号住居跡
図版29　古墳時代　37、38号住居跡
図版30　古墳時代　39号住居跡
図版31　古墳時代　40、41号住居跡
図版32　古墳時代　41、42号住居跡
図版33　古墳時代　42、43、44号住居跡
図版34　古墳時代　45、46、47号住居
図版35　古墳時代　48、49、50号住居跡
図版36　古墳時代　15、16、18号土坑
図版37　古墳時代　19、20号土坑
図版38　歴史時代　51、52号住居跡
図版39　歴史時代　53、54号住居跡
図版40　歴史時代　55、56号住居跡
図版41　歴史時代　57、58号住居跡
図版42　歴史時代　59、60、61号住居跡
図版43　歴史時代　61、62、63号住居跡

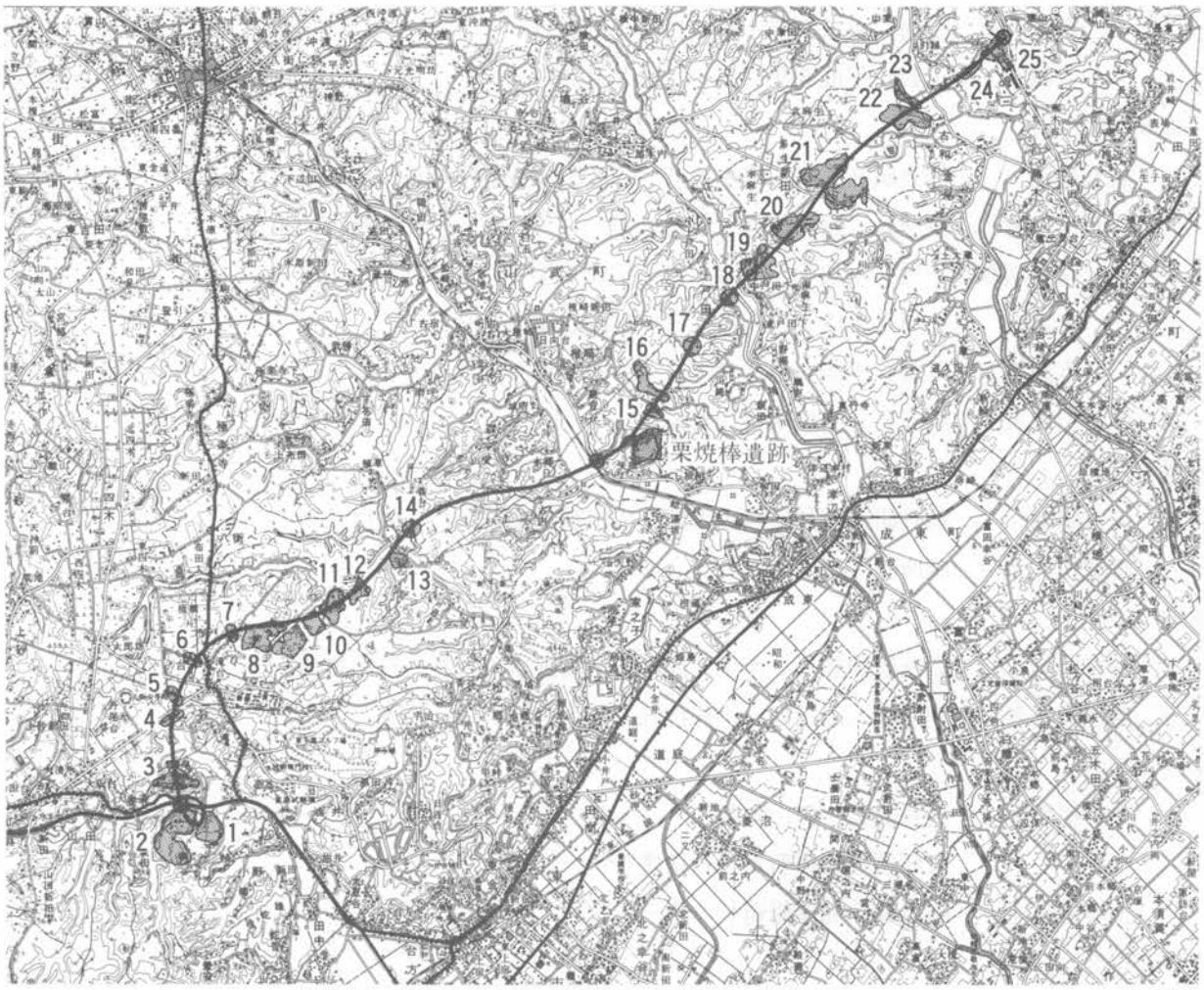
図版44　歴史時代　22、23号土坑、３、４号溝
図版45　歴史時代　２、６号溝、１号掘立
図版46　歴史時代　２号掘立、１号塚
図版47　歴史時代　１号塚
図版48　歴史時代　１号塚、調査風景
図版49　石器集中４ａ出土石器（１）
図版50　石器集中４ａ出土石器（２）
図版51　石器集中４ａ出土石器（３）
図版52　石器集中４ｂ出土石器（１）
図版53　石器集中４ｂ出土石器（２）
図版54　石器集中４ｂ出土石器（３）
図版55　石器集中４ｂ出土石器（４）
図版56　石器集中４ｂ出土石器（５）
図版57　石器集中４ｂ出土石器（６）
図版58　石器集中２、３、地点外
図版59　縄文土器１
図版60　縄文土器２
図版61　縄文時代以降の石器
図版62　１～４号住居跡出土土器
図版63　５～９号住居跡出土土器
図版64　９～13号住居跡出土土器
図版65　13号住居跡出土土器
図版66　14～16号住居跡出土土器
図版67　16～19号住居跡出土土器
図版68　19～22号住居跡出土土器
図版69　23～25号住居跡出土土器
図版70　25～27号住居跡出土土器
図版71　27～30号住居跡出土土器
図版72　29～34号住居跡出土土器
図版73　35、36号住居跡出土土器
図版74　38、39号住居跡出土土器
図版75　39～41号住居跡出土土器
図版76　41、42号住居跡出土土器
図版77　41～49号住居跡出土土器
図版78　49号住居跡、19号土坑出土土器
図版79　19号土坑、１、２号溝、50～61号住居跡出土土器
図版80　石製品、土製品（１）
図版81　石製品、土製品（２）
図版82　銅製品、鉄製品、羽口
図版83　鉄製品、漆仕上げの土器

# Ⅰ はじめに

## 1 調査の概要

### （1）調査の経緯と経過

日本道路公団は、現在東金市山田台が終点（(仮称)東金インターチェンジ）となっている千葉東金道路の延伸を計画し、平成４年、東京第一建設局から、山武郡松尾町（(仮称)松尾インターチェンジ）までの事業地内（二期工事）における埋蔵文化財の有無について、千葉県教育委員会に照会がなされた。これを受けて千葉県教育委員会は、事業地内には複数の遺跡がある旨回答し、協議の結果、記録保存の措置を講ずることとなり、当文化財センターが発掘調査を実施することになった。事業地内の遺跡の数はその後、現地踏査が数回実施された結果、最終的に25箇所となった（第１図）。その中で栗焼棒遺跡は（仮称）山武インターチェンジ部分となるため面積も広く、遺構密度も高いと判断されたため、最優先で発掘調査が開始されることとなった。事業地内の伐採、進入路問題等、事前の環境整備が整い、平成５年１月５日から上層の確認調査が開始された。調査対象面積は当初は台地先端部の痩せ尾根地域を対象外としたため




第1図　千葉東金道路(二期)建設予定地と関連遺跡

1.尾亭遺跡　2.羽戸遺跡　3.前畑遺跡　4.丹尾台遺跡　5.ビンダライ遺跡　6.滝台遺跡
7.板橋遺跡　8.万才楽遺跡　9.万谷遺跡　10.新堀遺跡　11.市谷遺跡　12.油谷遺跡　13.酒蔵城遺跡
14.ヲフサ野遺跡　15.駄野塚遺跡　16.東嵐山遺跡　17.上人塚遺跡　18.小川崎台遺跡　19.久保谷遺跡
20.大長作遺跡　21.一本松遺跡　22.大山遺跡　23.赤羽根遺跡　24.千神塚群　25.四ッ塚遺跡

13,500㎡であった。確認調査の結果、遺跡北辺部に緩傾斜の埋没谷が検出され、この地域を除く11,400㎡が本調査範囲となった。しかし、その後、当初対象外とされた痩せ尾根地域にも土器が散布していることがわかり、調査の結果、竪穴住居跡が数軒検出されたため関係諸機関と協議の上、調査対象範囲が17,900㎡、本調査範囲は12,800㎡と変更になった。本調査は同年2月1日から、平成6年3月31日まで行なわれ、縄文時代土坑14基、古墳時代後期竪穴住居跡50軒、土坑6基、溝状遺構1条、歴史時代竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡3棟、土坑3基、溝状遺構5条、近世の塚1基が検出された。また、下層の調査は確認調査が平成5年4月1日から開始され、17,900㎡の4％の716㎡のグリッド調査が実施された。その結果4箇所の旧石器代石器集中地点が検出され、平成6年1月から同年3月31日まで1,557㎡の本調査が実施された。遺物は旧石器時代石器類、縄文土器(後期)、石器、古墳時代後期から平安時代にかけての土師器、須恵器、金属製品、石製品、土製品のほか、近世の陶磁器、銭も出土した。年度ごとの担当者は以下のとおりである。

平成4年度

調査組織　調査研究部長　天野努　部長補佐　深澤克友　班長　鈴木定明

調査担当者　班長代理　岡田誠造　技師　落合章雄　技師　豊田秀治

確認調査（上層）平成5年1月5日～1月29日

本調査　（上層）平成5年2月1日～3月31日

平成5年度

調査組織　調査研究部長　高木博彦　成田調査事務所長　矢戸三男

調査担当者　副所長　豊田佳伸（9月まで）　技師　半沢幹雄

確認調査（下層）平成5年4月1日～平成6年1月31日

本調査　（上層）平成5年4月1日～平成6年3月31日

本調査　（下層）平成6年2月1日～平成6年3月31日

整理担当者　副所長　高田博（10月から）

平成6年度

調査組織　調査研究部長　西山太郎　成田調査事務所長　矢戸三男

整理担当者　副所長　高田博

平成7年度

調査組織　調査研究部長　西山太郎　成田調査事務所長　石田廣美

整理担当者　副所長　高田博　主任技師　井上哲朗

平成8年度

調査組織　調査部長　西山太郎

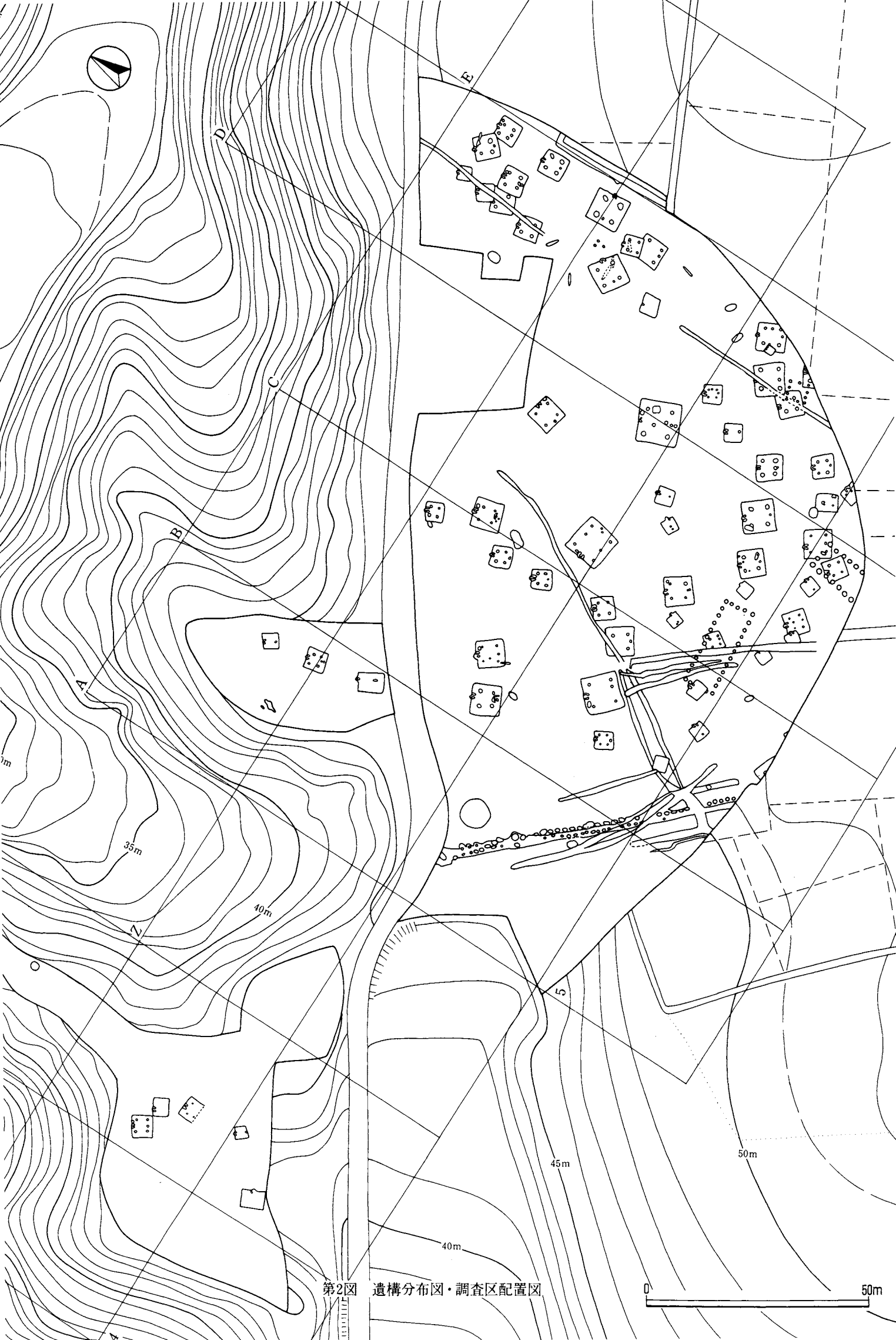
東部調査事務所長　石田廣美

整理担当者　副所長　加藤修司

平成9年度

調査組織　調査部長　西山太郎　東部調査事務所長　石田廣美

整理担当者　副所長　加藤修司




第2図　遺構分布図・調査区配置図

（２）調査の方法（第２図）

発掘調査は、公共座標に応じて地区割りを行い、大グリッドを20m、その大グリッド内に２mの小グリッドを設定した。大グリッドは東西（横）方向にアルフアベット（A、B、C、）を、南北（縦）方向に数字（１、２、３、）を付けて呼称した。上層の確認調査は対象面積の10％についてトレンチを設定し、主にバックホウにより遺構確認面まで掘り下げた。下層は４％についてグリッドを設定し、武蔵野ローム上面までクラムシェルを併用しながら掘り下げた。上層の本調査はバックホウにより表土を除去し、遺構確認面を露呈させ、ジョレンによる精査後、原則的に土層観察用ベルトを残しながら掘り下げ、後に土層観察を行った。下層の本調査は石器類出土面より30cm程上部までをバックホウにより除去し、その後ジョレンによりローム面を少しずつ削平していった。上層の出土遺物は大形のものや遺構床面直上、住居跡竈内と言ったものについては出土位置を記録し、小破片は一括して取り上げた。遺構に帰属しない遺物は、グリッド名を付して一括して取り上げた。下層の遺物は本調査で出土したものについてはすべて出土位置、層位を記録し、小グリッド内の通し番号を付して取り上げた。

## ２　遺跡の位置と環境（第３図、第４図）

栗焼棒遺跡は、山武郡山武町矢部字日向497－1他に所在し、作田川（成東川）中流域北岸の標高約45mから50mの台地上に位置している。旧国名では上総国武射郡（かずさこくむさぐん）である。この地域は九十九里平野に向かっていくつもの中小河川が流れ、それに伴って小支谷が複雑に形成されている。分断された各台地上には、前方後円墳を中心に有力な古墳群がいくつも分布することで知られ、千葉県教育委員会でも５カ年にわたり、当地域の「重要古墳群測量調査」を実施している[1)]。それは国指定史跡である殿塚、姫塚に代表される木戸川流域の「芝山古墳群」、大型の前方後円墳である西ノ台古墳（３）や不動塚古墳（４）を含む作田川流域の「板附古墳群」の他、木戸川下流域の「大堤古墳群」、「蕪木古墳群」「大塚古墳群」、栗山川流域の「柏熊古墳群」、「大里田辺台古墳群」、境川流域の「麻生新田古墳群」(15)、胡摩手台古墳群（13）である。その他にも、1996年に国立歴史民俗博物館によって「駄ノ塚古墳」（１）の研究報告[2)]がなされている。このように、栗焼棒遺跡周辺の古墳研究成果、報告が、当地域の首長墓から国造制の成立、展開等を語る上で重要な役割を果たしていると言えよう。その中でも栗焼棒遺跡に関わる重要なものの第一は「駄ノ塚古墳」であろう。

報告によれば、駄ノ塚古墳は一辺62m、高さ10m、南面に横穴式石室を営み、二重の周溝をめぐらす大型の方墳である。現在の行政区画上、成東町にあるものの、山武町の栗焼棒遺跡とは同じ台地上に立地し、集落から400m程しか離れていない(第５図)。ＴＰ209とされる須恵器の出土から、古墳の年代観を７世紀初頭に位置づけられている。周辺にある不動塚古墳（４）等の前方後円墳以後の当地域において、首長墓的存在であることはまちがいない。栗焼棒遺跡では、同時期に比定される遺構、遺物が出土し、駄ノ塚古墳に関わったであろう人々の痕跡の一部が今回検出されたと言える。

駄ノ塚古墳の他に注目したい遺跡は、成東町比良台遺跡群[3)](比良台、八坂台、真赤土遺跡)である(17)。当地域は古墳に比べて集落跡の調査例が意外と少なく、その中で比良台遺跡群は古墳時代後期から平安時代の集落跡の貴重な資料を提供している。ここでは各遺跡とも６世紀後半以降になって急激に竪穴住居跡が増加する傾向があり、その後も掘立柱建物跡を含む集落が平安時代まで継続している。さらに、古墳時代後期集落から約300m離れて同じ台地上に、60m級の前方後円墳や40m級の方墳などもあり、こうした事象は栗焼棒遺跡と共通性が極めて高く、興味深い。

以上、6世紀後半から7世紀前半にかけての栗焼棒遺跡周辺の状況を記したが、それ以降においても、当地域は郡寺、郡衙関連の有力な推定地があることで知られている。成東町真行寺廃寺跡（6）の調査[4]では、大量の瓦や鍛冶工房跡とともに「武射寺」「大寺」の墨書土器が出土したことから、真行寺が武射郡の郡寺である可能性が極めて高くなった。その他、小川廃寺（16)、湯坂廃寺（5）でも瓦の出土例がある。また、本年度、千葉県教育委員会による詳細分布調査において、成東町嶋戸東遺跡（18）から大規模な掘立柱建物跡が検出され、注目された[5]。今回の栗焼棒遺跡の調査での大型の掘立柱建物跡も含め、官衙関連遺構として今後も議論が高まるであろう[6]。いずれにしても本遺跡周辺は武射郡内でも、政治的、社会的に中心地域であったと考えられる。

注1 千葉県教育委員会　1989～93『千葉県重要古墳群測量調査報告－山武地区古墳群(1)～(5)』

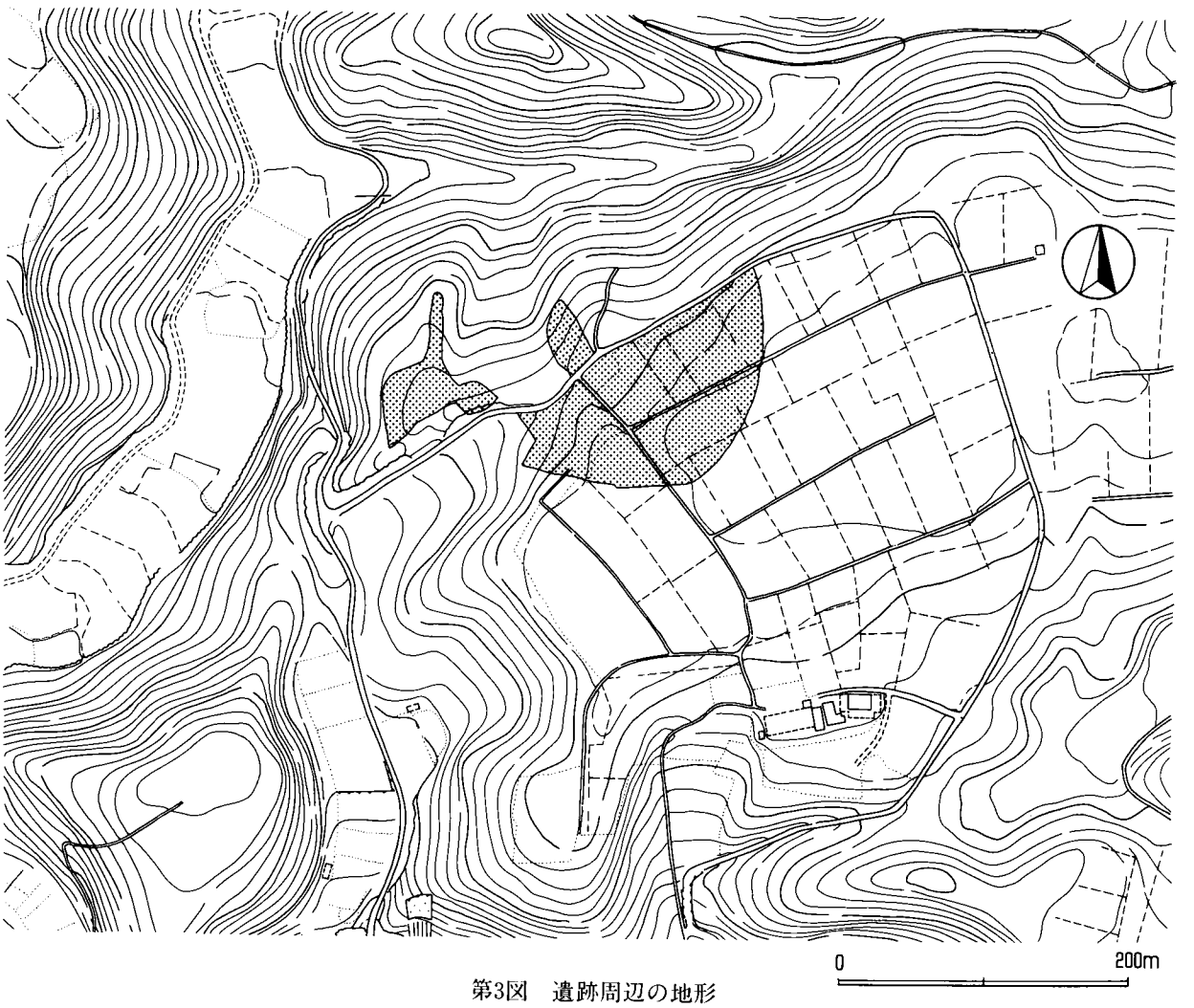
2 国立歴史民俗博物館　1996「千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告第65集　東国における古墳の終末《附編》』

3 ㈶山武郡市文化財センター　1992『比良台遺跡群』

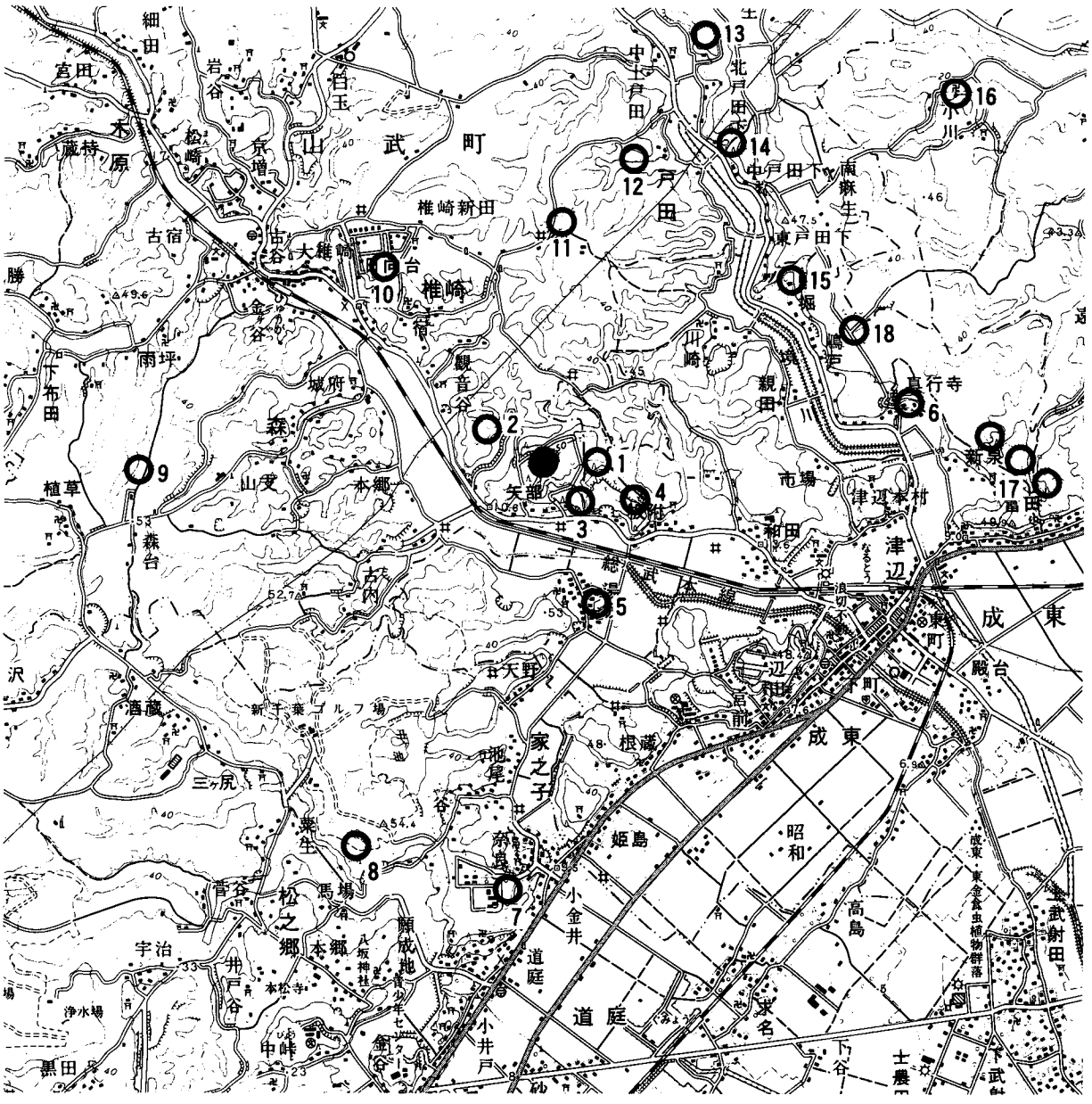
4 成東町教育委員会　1985『成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告』

5 ㈶山武郡市文化財センター　1994「II嶋戸東遺跡」『年報№9 附編　調査報告』、隣接地区を平成9年10月1日から31日まで㈶千葉県文化財センターが実施し、報告書も刊行中である。

6 半澤幹雄　1994「栗焼棒遺跡出土の掘立柱建物跡について『研究連絡紙第42号』㈶千葉県文化財センター
栗田則久　1995『シンポジウム3 地方官衙とその周辺－千葉県の古代官衙とその周辺－』日本考古学協会茨城大会実行委員会、ひたちなか市

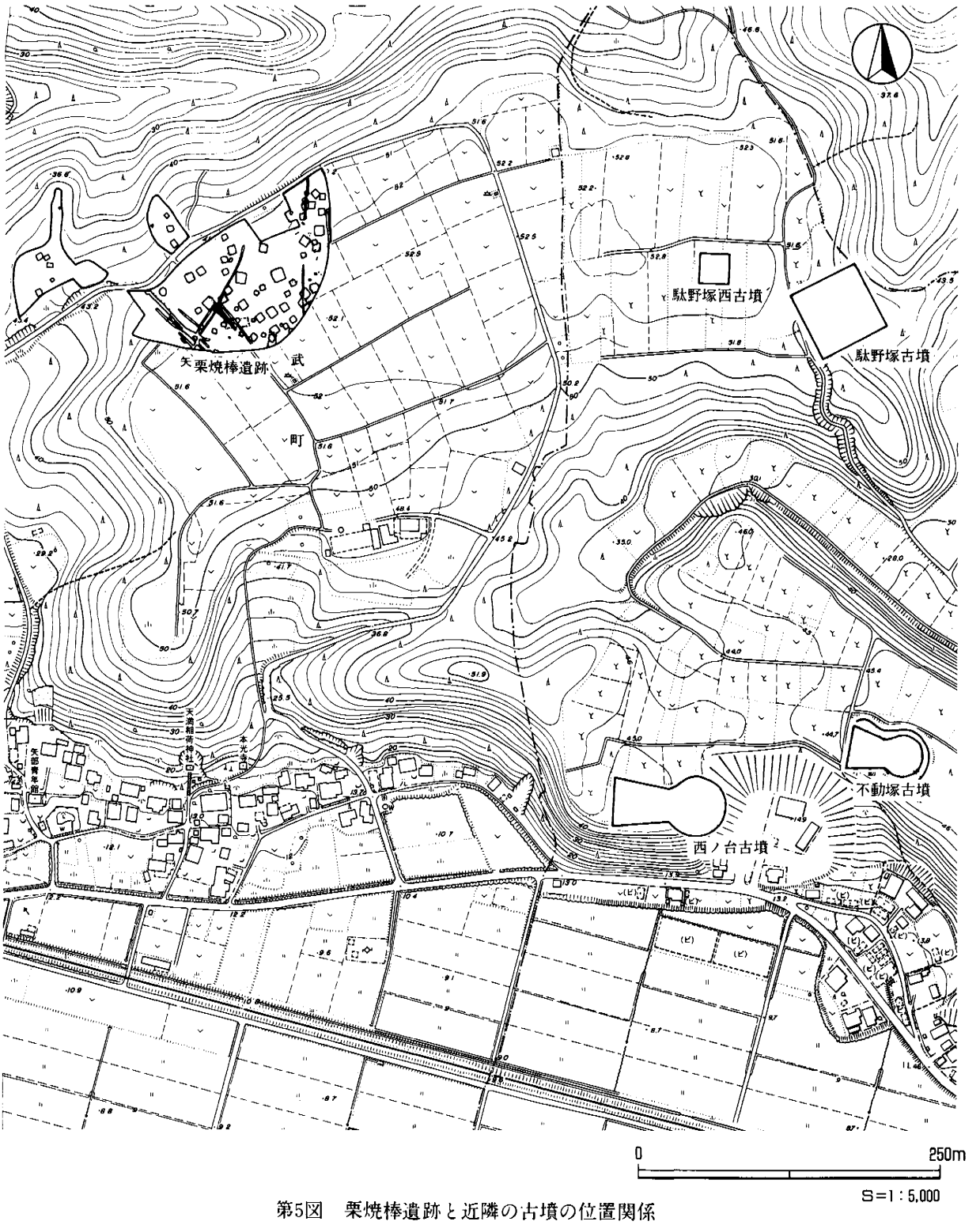



第3図　遺跡周辺の地形




第4図　周辺の遺跡　●：栗焼棒遺跡　5万分の1

1. 駄ノ塚古墳　2. 木戸谷遺跡　3. 西ノ台古墳　4. 不動塚古墳
5. 湯坂遺跡　6. 真行寺廃寺跡　7. 道庭遺跡　8. 家之子古墳群
9. 森台古墳群　10. 荒追遺跡　11. 西花岡遺跡　12. 妙見崎台遺跡
13. 胡摩手台古墳群　14. 朝凪遺跡　15. 麻生新田古墳群　16. 小川廃寺跡
17. 比良台遺跡群　18. 嶋戸東遺跡




第5図　栗焼棒遺跡と近隣の古墳の位置関係

(国立歴史民俗博物館研究報告第65集から一部改変)

# II　検出した遺構と遺物

## 1　旧石器時代

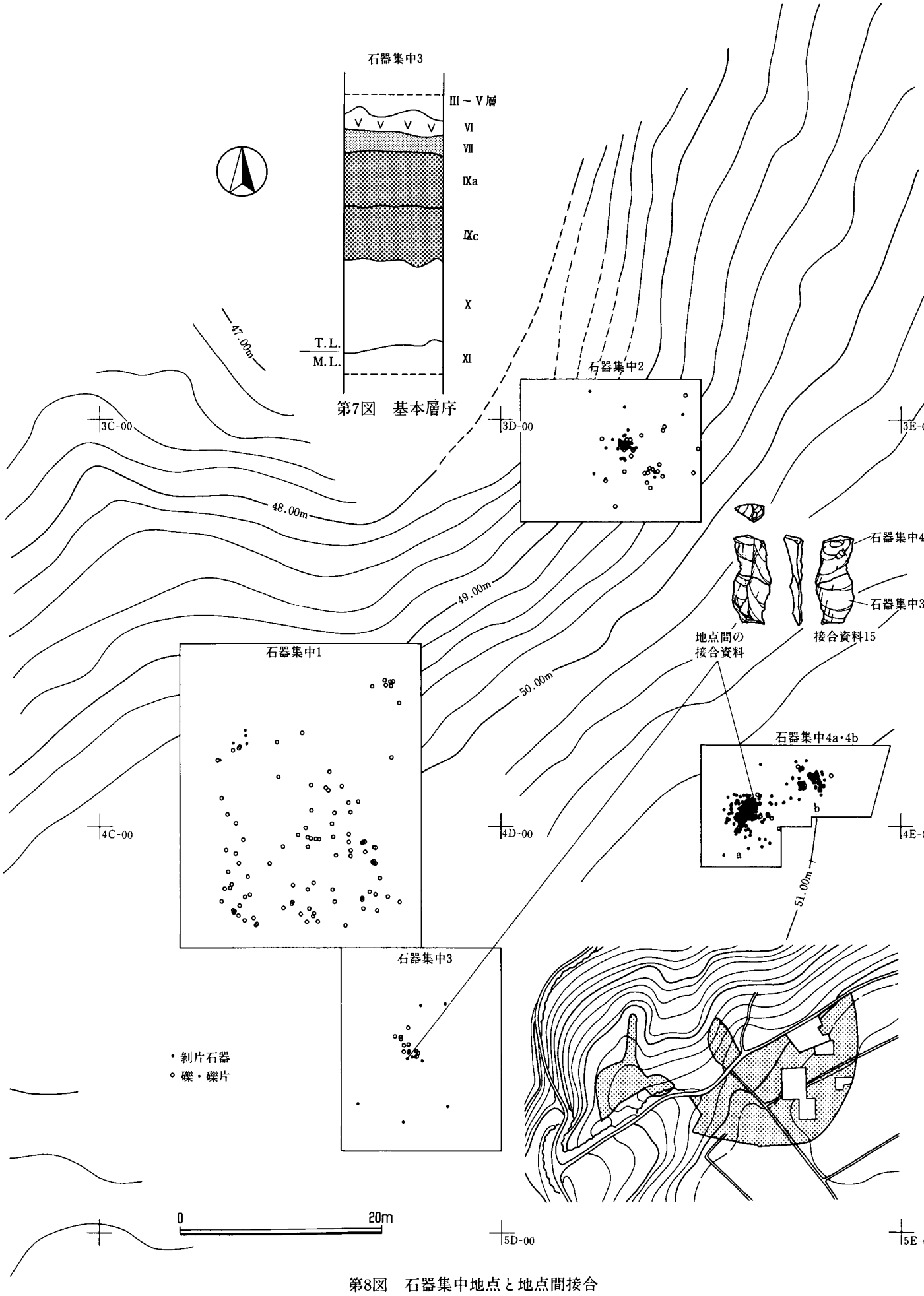
### （1）概要（第6～8図）

旧石器時代の本調査は、合計5つの地区において行われた。そのうち1地区は、黒曜石製の尖頭器のみの単独出土であり、遺物の広がりは確認できなかった。その他の4つの本調査範囲では遺物の広がりが確認され、第1本調査範囲～第4本調査範囲と呼称された。今回の報告では、出土層位をもとに、下層検出石器群から石器集中1（第3本調査範囲）、石器集中2（第2本調査範囲）、石器集中3（第4本調査範囲）、石器集中4（第1本調査範囲）と名称を変更した（第6図）。すべての石器集中地点は、ＡＴ（姶良丹沢火山灰）層よりも下位にあり、第二黒色帯を中心として出土した。文化層の分離については、地点により地形の影響などローム層の堆積が一様でないことから、単純にそれぞれの石器集中地点の出土層位を当てはめるわけにはいかない。この点についてはそれぞれの石器集中を検討した後、触れることとする。

4つの石器集中は、台地上の平坦部から谷部に向かう傾斜地にかけて広がり、空白部はみられるが全体として環状を呈している。石器集中1のみが散漫な出土状況を示し、径約20mの範囲に広がるが、その他の石器集中は、径5m内外の小範囲にまとまっていることが特徴である。石器集中1はチャート・砂岩・珪質頁岩等の小円礫・礫片が主体を占め、分布も散漫な状況を呈している。石器集中2は黒曜石の剝片・砕片を中心に小礫素材の楔形石器、縦長剝片素材の彫刻刀形石器が出土している。石器集中3はナイフ形石器、楔形石器等を含むが総出土点数が22点と小規模な石器集中である。石器集中4には、集中域が2カ所あり、質量ともに本遺跡の主体を占める。Ⅶ層下部からⅨ層上面を中心に検出され、楔形石器、楔形石器調整剝片をはじめ、ナイフ形石器、彫刻刀形石器等、400点近くの石器が出土した。黒曜石、珪質頁岩、チャートが主に利用されている。

立川ロームの基本層序は、より台地平坦部に位置し、安定したロームの堆積を見せる石器集中3のものを柱状図として掲載した（第7図）。Ⅵ層より上層はソフト化によって分層が困難であった。ここではⅢ～Ⅴ層としている。地点によっては、ソフトロームとⅥ層の境界を形成する波状部のくぼみにⅤ層が観察できる。Ⅵ層はＡＴ包含層である。Ⅶ層は、通常、第2黒色帯上半部として設定されているが、本遺跡では、やや薄く分層しているようである。下総台地の北東地域においては、ＡＴ層より下層で最も暗い色調を呈するのは、調査時の記載でⅨｃ層の位置に当たる。一方で、図面注記によると、調査者は、このⅨｃ層のみを第2黒色帯と認識していることがうかがわれる。また同地域においては、ⅦはＡＴの下位への拡散によりⅥと同様の色調を呈するものが多いことも、ATより下位の分層に際して、現状の認識と若干の誤差を生ぜしめている原因の一つと考える。そこで本報告にあたっては以下のように、若干の修正を行うことにする。調査時Ⅶ層はスコリアの入り具合によってⅥ層と分離されているが、本来は調査時でいうⅨａ層の上半部がⅦ層に含まれ第2黒色帯上半部を形成し、Ⅸａ層下半部とⅨｃ層が第2黒色帯下半部と考えた方が現状にあった理解と思われる。Ⅹ層は立川ローム最下層で、Ⅺ層は武蔵野ローム最上層である。なお、以下各石器集中における出土層位の記載、石器観察表の出土層位は調査当時のものを踏襲している。

第6図　下層確認範囲と旧石器本調査範囲及び石器集中地点




第7図　基本層序

第8図　石器集中地点と地点間接合

（2）遺構・遺物

**石器集中1**（第9、10図、図版58）

**分　布**　北西方向に若干傾斜した平坦地に分布している。ローム層の堆積は谷に向かって次第に層厚は薄くなり、最も谷部に近い標高が低い地点ではIX層直上にIII層が堆積している。平面分布は分離できるほど明確な集中域はみられず、散漫な出土状況を呈している（第9図）。

垂直分布は、ほぼ傾斜に沿って出土しており48.367～49.891Mに広がり、出土層位はX層中位～XI層上面を中心にIX層下部～XI層に分布する。

**石　材**　チャート29点、ホルンフェルス20点、珪質頁岩18点、砂岩16点、流紋岩15点を主体とし、凝灰岩3点、頁岩3点、安山岩2点、メノウ1点、泥岩1点、緑泥片岩1点で構成される。同一母岩として抽出できる資料はなかった。

**器　種**　楔形石器1点、剥片1点、砕片3点、礫42点、礫片71点の合計118点が出土した。礫・礫片が主体であり、重量で全体の99%以上を占める。出土状況・出土層位から自然礫の可能性も否定できないが、周辺の石器集中で主体となる楔形石器の素材に、本石器集中地で出土している小円礫と同様のものを利用していることから、人為的な石器集中としてとらえることとした。

楔形石器（第9図1）　凝灰岩製であり、背面に自然面をもつ剥片を素材としたものである。

礫・礫片　いずれも2～5cm程度の偏平な小円礫である。

**石器集中2**（第11～13図、図版3、58）

**分　布**　石器集中1の北東方向に位置し、より谷部に分布している。土層断面図をみても、石器集中1より傾斜が強いことがわかる。平面分布はやや散漫な状況を呈するが、剥片・砕片の集中域と礫・礫片の集中域の2カ所に分離できる。垂直分布は、47.975～48.641Mの範囲に広がり、出土層位はIX層下部～X層上面を主体に、IX～XI層に分布している。

**石　材**　黒曜石48点を主体とし、チャート14点、流紋岩6点、珪質頁岩5点、砂岩5点、安山岩2点で構成される。黒曜石は3D-03西側に、径2mの小範囲にまとまって検出された。その多くが、両極剥離に伴うと考えられる砕片・剥片である。

**器　種**　楔形石器5点、彫刻刀形石器1点、剥片20点、砕片29点、礫11点、礫片15点の合計81点が出土した。

楔形石器（第13図1～5）　1・2・4・5は径1～2.0cmの小円礫を素材とし、基本的には長軸方向に加撃を加えたものである。3は幅広の剥片を横位に用いているが、剥離はあまり進んでいない。石材は1・5はチャート、2・4は珪質頁岩、3は黒曜石である。

彫刻刀形石器（第13図13）　縦長剥片を素材とし、左側縁には主要剥離面側からの調整が施される。先端には樋状剥離面が3面観察される。また、主要剥離面先端右側縁には、微細剥離痕もみられる。

剥片（第13図6～12）　剥片・砕片のほとんどが黒曜石で占められ、図示したものもすべて黒曜石製である。明確には分離できなかったが、剥片・砕片の多くは楔形石器調整剥片と考えられる。

**石器集中3**（第14、15図、図版3、58）

**分　布**　石器集中1・2に比べ谷部から離れ、台地平坦部に分布する。平面分布は4×3mの範囲に散漫な出土状況を呈している。その周囲に広がるものは、礫・礫片である。垂直分布は、49.826～50.421Mの範囲に広がり、IX層を中心に、VII～IXc層から出土している。礫・礫片はやや下位から検出されてい

る。

**石　材**　珪質頁岩８点、黒曜石５点、チャート３点、ホルンフェルス２点、頁岩２点、砂岩２点で構成される。黒曜石は石器集中２・４と同様の石質であり、しかも、石器集中３と石器集中４では地点間の接合関係が確認された（第８図）。

**器　種**　ナイフ形石器１点、楔形石器１点、微細剥離痕のある剥片１点、剥片12点、砕片１点、礫１点、礫片４点の合計22点が出土した。

ナイフ形石器（第15図１）　縦長の小剥片を素材とし、打面側を基部に設定している。主要剥離面側から左側面のみに急角度調整を施している。珪質頁岩製。

楔形石器（第15図２）　上下端に剥離痕が観察されるため、楔形石器とした。明確に両極剥離を行ったものであるのか断定はできない。

**石器集中４**（第16～40図、図版２、49～57）

**分　布**　本遺跡の中では台地中央よりの平坦地に分布している。これは南北方向の土層断面図と石器の垂直分布がほぼ水平分布であることからも理解される。平面分布は２カ所の集中域に分離できる（第16図）。集中域ａは、3D-95・96、4D-05・06を中心に、径約5.0mの円形の分布を呈する。集中域ｂは、集中域ａの東に隣接する。3D-87を中心に、径約3.5mの円形の分布を呈するが、分布の中央部分が縄文時代の遺構によって攪乱を受けている。遺構からは同石器群に所属する遺物も若干出土している。

垂直分布は、平面分布と同様にまとまりをみせ、50.222～50.900Mの範囲に広がる。出土層位はⅥ～Ⅸａｂ層が中心である（調査時の記載で「Ⅸａｂ層」となっているが、他の石器集中地点と統一した見解にたてば「Ⅸａ層」ということになろう）。集中域ａの方が砕片の組成率が高く、これら微細遺物は本来の包含層からかなり遊離している可能性がある。一方、集中域ｂは微細遺物の組成率が低く、本石器集中の中ではやや大形の遺物が多く、接合関係も密であることから、原位置に近い分布を示していると考えられる。以上のことを勘案すると、石器の出土層位は、Ⅸａｂ層上面もしくはⅦ層下部に所属するものと考える。

**石　材**　石器集中４は、黒曜石１分類139点、珪質頁岩11分類146点、チャート６分類34点、ホルンフェルス７分類29点、頁岩２分類13点、メノウ３分類７点、砂岩２分類７点、凝灰岩１分類２点、安山岩１分類２点、流紋岩１分類１点、片岩１分類１点で構成される[1]。点数的には黒曜石・珪質頁岩を主体とし、チャート・ホルンフェルス・頁岩・メノウがその他を補っている状況である。一方、重量で比較すると、その立場は逆転する。ホルンフェルス（466.67ｇ）・チャート（437.58ｇ）を主体とし、珪質頁岩（178.82ｇ）・頁岩（146.46ｇ）・黒曜石（76.06ｇ）の順となっている。

以下、主要な石材である、黒曜石、珪質頁岩、チャート、ホルンフェルス、頁岩、メノウ、砂岩について概要を説明する。

黒曜石　自然面・不純物・縞模様の状況、透明度からは特定の母岩を抽出することができないため黒曜石Ａとして一括する。黒曜石Ａは透明度があまりなく曇った様相を呈し、自然面は平坦であり円礫を利用したものではない。不純物はまばらにはいるが、剥片剥離を左右するほどの大きなものはない。

合計139点（76.06ｇ）出土し、うち135点が集中域ａに、４点が集中域ｂに属する（第19図）。ナイフ形石器１点、楔形石器６点、楔形石器調整剥片７点、微細剥離痕のある剥片３点、剥片64点、砕片58点が含まれる。特徴としてはやはり砕片の点数が突出していることである。楔形石器調整剥片と明確に認識できたものは７点のみであったが、剥片・砕片ともに両極剥離の際に剥離されたものが多くを占めると考えら

れる。

珪質頁岩　いわゆる珪質化したものを11に分類した。この中には、単独・分類不能のものを含む。以下、各石材ともに同様である。

珪質頁岩１は若干透明度のある茶色を呈し、透明度のある部分はどちらかというとメノウに近い様相である。自然面は凝灰岩質で覆われ、黄土色を呈する。ナイフ形石器1点、楔形石器６点、楔形石器調整剥片３点、剥片36点、砕片１点を含む、合計46点（50.42ｇ）が出土した。集中域ａから45点、集中域ｂにある縄文時代陥し穴の覆土から１点出土した（第19図）。

珪質頁岩Ａは灰色がかった緑茶色を呈した一群である。色調・石質から特徴的なものをＡ１～Ａ６まで抽出分類を行った。それ以外の分類不能なものは珪質頁岩Ａとした。彫刻刀形石器１点、楔形石器９点、楔形石器調整剥片11点、微細剥離痕のある剥片５点、石核１点、剥片33点、砕片20点を含む、合計80点（103.66ｇ）の資料がある。集中域ａから71点、集中域ｂから９点が出土した（第19図）。

珪質頁岩Ｂはチョコレート色を呈した一群である。その中で、白色がかった明るいチョコレート色を呈した母岩をＢ１と呼称した。珪質頁岩Ｂ・Ｂ１はナイフ形石器１点、楔形石器２点、楔形石器調整剥片１点、剥片３点の合計７点（20.09ｇ）で構成される。ナイフ形石器１点を除き、すべて集中域ａから出土した（第20図）。

チャート　６の分類を行った。単独母岩・分類不能のものを除くと、すべて接合関係によって明らかにされた母岩分類であり、しかも、小さな偏平礫まで復原されたものが多い。接合資料は、すべて両極剥離に関係したものである（第20図）。個々の母岩の特徴には触れないが、チャート全体の石器組成は楔形石器10点、楔形石器調整剥片９点、剥片４点、砕片１点、礫６点、礫片４点を含む合計34点（437.58ｇ）である。

ホルンフェルス　７つの分類を行った。合計29点が検出されたが大形の石器が多く、総重量が466.67ｇと本遺跡において主要な石材となっている。母岩分類のできた１～６のうち、ホルンフェルス２のみが集中域ａに属し、それ以外は集中域ｂに属する（第20図）。器種は、楔形石器調整剥片１点、スクレイパー１点、石核１点、Ｕ剥片２点を含み、楔形石器関係の資料は少ない。

頁岩　珪質化していない一群。頁岩１、単独・不明の２分類を行った。

頁岩１は焦げ茶を呈し、粘りのない乾燥した様相を呈している。しかし、被熱のために節理に沿って破砕された資料であり、本来の色調を呈しているとは思われない。頁岩１のみでは、石核１点（破砕３点）、剥片７点、砕片１点を含む、合計11点（126.78ｇ）で構成される。３点が集中域ａから、８点が集中域ｂから出土した。集中域ｂから出土した８点のうち２点は縄文時代陥し穴の覆土からの検出である。また、集中域ａと集中域ｂ間の接合関係がみられるのはこの母岩のみである（第20図）。

メノウ　メノウ１・２と単独・不明の３分類を行った。メノウ１は、自然面が黄土色、剥離面は白色を呈するが、透明感はあまりなく、節理が縦横に走っている。接合資料により両極剥離によるものと判断される。メノウ２も両極剥離に関連するものであり、自然面が焦げ茶を呈し、透明感はない。メノウ全体では、楔形石器2点、楔形石器調整剥片３点、剥片２点の７点を組成する。うち６点が集中域ｂに分布する（第20図）。

砂岩　砂岩１、単独・不明の２分類を行った。楔形石器２点、楔形石器調整剥片３点、礫片２点を組成する。うち６点が集中域ｂに分布する（第20図）。砂岩１は接合により、偏平の小円礫に復原され、長軸方向の加撃により、両極剥離を繰り返していることが理解される。

**器　種**　石器集中４はナイフ形石器３点、彫刻刀形石器１点、楔形石器38点、楔形石器調整剥片39点、スクレイパー１点、微細剥離痕のある剥片11点、石核５点、打面再生剥片１点、剥片178点、砕片87点、礫・礫片17点の合計381点が出土している[2)]。集中域ａと集中域ｂの内訳は第３・４表のとおりであるが、両者の石器組成には大きな相違点が見られる。集中域ａは剥片・砕片（特に砕片）の占める割合が高く、石器一点の大きさ（重量）が、集中域ｂよりも格段に小さい。石器の大きさについては、第17図を見れば一目瞭然である。一方、集中域ｂは砕片の占める割合が低く、出土した石器には多くの接合関係が見られる。

ナイフ形石器（第21、34図１・２・80）　１は集中域ａに分布する。縦長剥片を素材とし、右側縁先端側に急角度の調整を施している。基部端、左側縁は未調整である。刃部先端側には微細剥離痕が観察される。珪質頁岩Ｂ。２・80は集中域ｂに分布する。２は、厚みのある剥片を素材とし、主要剥離面側から急角度調整を施している。基部の欠損した先端部分と解釈し図示したが、刃部の角度が鈍角であることから基部片の可能性も否定できない。黒曜石Ａ。80は横長剥片を素材し、素材剥片の打点側のみを不規則に調整している。珪質頁岩１。

彫刻刀形石器（第21図３）　集中域ａから１点出土した。左肩に一条の樋状剥離痕が観察される。その他には調整痕は見られない。珪質頁岩Ａ。

楔形石器（第21～31図４～21・35・40～42・44・46・47・50・53～58・60・62・63・66・67）　集中域ａから22点、集中域ｂから16点が出土した。

小円礫をそのまま利用して両極剥離を繰り返したものと、剥片を利用したものとに、大きく２分される。小円礫利用のものはすべて集中域ｂに属し、それらは接合によって原石近くにまで復原されている。接合資料３・４・６・11・12のような楔形石器どうしの接合関係の存在から、剥片利用のものの多くは両極剥離によって得られた剥片（楔形石器調整剥片）を素材としていると考えられる。また、そのことは素材となった楔形石器調整剥片の主要剥離面を有した楔形石器の存在からもいえる。一方、接合資料17のように一般的な剥片剥離を示す接合資料からは、楔形石器調整剥片以外の、通常の剥片を素材とした楔形石器の存在も肯定される。

利用される石材は、原石利用のものがチャート（20・50・54～57・62・63・66・67）、砂岩（58・60）、メノウ（44・53）、頁岩（21）を主体としているのに対して、剥片利用のものは珪質頁岩Ａ（11～18・35）、珪質頁岩１（19・40～42・46・47）、黒曜石Ａ（４～９）、珪質頁岩Ｂ（10）を使っている。

楔形石器調整剥片（第24～32、39図22・24～32・36～39・43・45・48・49・51・52・59・61・64・65・115）　集中域ａから22点、集中域ｂから17点出土した。楔形石器調整剥片は、図示できる、より特徴的なものを抽出したため、その数は実態を示しているものではない。特に集中域ａの剥片・砕片の多くは両極剥離によるものと考えられる。

スクレイパー（第35図87）　集中域ｂから1点出土した。分厚い剥片を素材とし、主要剥離面側に調整を施し、やや不規則な刃部を形成している。刃部形成のための調整剥片が接合している（接合資料19）。ホルンフェルス１。

微細剥離痕のある剥片（第38、40図97～104・122・123）　集中域ａから５点、集中域ｂから６点が出土した。利用石材は、黒曜石（97・98）、珪質頁岩Ａ（99～103）、片岩（104）、ホルンフェルス（122・123）である。

石核（第24、35、37図34・82・94～96）　集中域ａから１点、集中域ｂから２点出土した。34は節理面

で覆われた偏平な剥片を利用し、幅広な剥片を剥離している。打面と作業面の形成する稜は鋸歯状を呈し、スクレイパーの刃部様である。ホルンフェルス。82は剥片利用の石核で、上下左右から剥離を繰り返している。同様の石核から剥離された剥片も出土している（第39図113）。94～96は接合によって１点の石核となった。（接合資料23）。おそらく被熱により節理面から破砕された資料である。頁岩１。

剥片（第24、33～40図23・68～79・81・83～86・88～93・105～114・116～121）　集中域ａから145点、集中域ｂから33点出土した。接合資料以外で16点図示した（105～114・116～121）。剥片はやはり両極剥離によるものが多いが、117や118のように分厚いやや大振りな剥片も出土していることは注目される。33は凝灰岩製の打面再生剥片である。

砕片　図示はしていない。集中域ａで83点、集中域ｂで４点が出土している。集中域ａに偏在している。多くの砕片が、楔形石器の調整剥片ととらえられる。

**接合資料**　両集中域で接合関係の判明した資料は23個体に及ぶ。そのうちの１個体は、石器集中３との地点間の接合による（接合資料15）。集中域ａ内で10個体、集中域ｂ内で９個体の接合関係がみられる。両集中域にまたがって接合したものは１個体のみであった（接合資料22）。各集中域にみられる接合資料は両極剥離に伴うものであり、楔形石器同士や楔形石器と調整剥片の接合が大半を占めるが、集中域ａは両極剥離の進んだ小形なもの、集中域ｂでは小円礫（原石）まで復元できる大形なものが目立っている。（第17図）

接合資料１～６（第25、26図35～47）　楔形石器同士もしくは、楔形石器と調整剥片の接合資料である。両極剥離によって剥離・分割された剥片の両者が、その後も両極剥離を繰り返しているものもある（接４・６）。接１・３・４・６は集中域ａ、接２・５は集中域ｂ内にそれぞれ分布する。石材は接1が珪質頁岩A3、接２がチャート５、接３・４・６が珪質頁岩１、接５がメノウ２である。

接合資料７～12（第27～32図48～67）　これら接合資料はすべて集中域ｂ内に分布するものである。すべて、両極剥離を繰り返すことによって剥片剥離を繰り返している。接合の結果、多くが素材となった原石まで復原できた。接９・10は偏平な小円礫を素材としたもので、大きく２分割された後も、それぞれ両極剥離を繰り返している。接11は59が剥離された後に、さらに両極剥離を繰り返した結果、器体に対して垂直だった鋭角な刃部は、大きく斜めに変形している。接12は、両極剥離のみではなく、新しい刃部形成を目的としたものか、素材の大きさを減じるためのものか判断はできないが、端部の折断行為が観察される（62）。石材は接7がチャート４、接８がメノウ１、接９はチャート２、接10はチャート３、接11は砂岩１、接12はチャート１である。

接合資料13・14・17・18・20～22（第33～37図68～72、77～85、88～93）　剥片同士の剥離面接合資料である。接17は、ナイフ形石器を含む幅広の剥片剥離を行う一般的なものを示している。また、同一母岩には多くの楔形石器を有し、その接合資料も確認されている（接３・４・６）。つまりそれら接合資料に属する楔形石器は、一般的な剥片剥離によって剥離された剥片を素材として両極剥離を繰り返していることが理解される。石材は接13がホルンフェルス１、接14が黒曜石Ａ、接17が珪質頁岩１、接18が珪質頁岩18、接20がホルンフェルス２、接21がホルンフェルス３、接22が頁岩１である。

接合資料15・16（第34図73～76）　剥片の折面同士の接合資料である。石材は黒曜石Ａ。このような縦長の剥片は98以外ではこれらに限られる。

接合資料19（第35図86～87）　スクレイパーと刃部調整剥片の接合資料である。ホルンフェルス１。

接合資料23（第37図94～96）　石核が被熱のために破砕されたものである。破砕面で接合している。頁岩1。

**石器集中地点外**（第41図、図版58下段）

1は32号住居跡の張り床ロームから出土した。メノウ製のナイフ形石器。先端部両側縁に調整を施している。基部欠損として図示したが、逆の可能性もある。

2は4B-47のグリッド一括資料である。安山岩製の先端部の欠損した片面調整の尖頭器である。

3は27号住居跡から出土した珪質頁岩製のナイフ形石器である。素材を短軸方向に用い、主要剥離面側から急角度調整を施している。

4は、3Y-42のIII層中から単独出土した、黒曜石製の尖頭器である。周辺を拡張し、調査を行ったが、遺物の広がりは確認できなかった。尖頭器は右側縁中央やや基部よりに最大幅をもつ、左右非対称な形態を呈する。先端の樋状剥離痕状に見える剥離面は裏面（左側縁）を「切る」のみで、正面の剥離面には「切られ」ている。

5は42号住居跡のカマド内から出土した黒曜石製の尖頭器である。平面形は4と同様に中央やや基部よりに最大幅をもつ、左右非対称形と考えられる。正面は凸面を、裏面はやや平坦な面を呈している。正面から裏面へと剥離が進行している。

6は3D-57のグリッド一括資料である。珪質頁岩製のナイフ形石器である。右側縁基部端に主要剥離面側から急角度調整が施されている。

7は4D-73のグリッド一括資料である。安山岩製のナイフ形石器である。素材剥片を横位に用い、両側縁に急角度調整を施している。

注1　石材ごとの分類についてはやや変則的となっているので、石材の分類と表記について触れたい。

各石器石材は究極的には、それぞれに所属すべき母岩に帰属されるが、今日我々が観察して、それらを認識できるのは特徴的な母岩に限られる。本報告においては、そのように母岩に帰属できると判断できたものについては、石材名の後にアラビア数字を付し分類している。いくつかの母岩に分類できると思われるが非常に類似しているため、それらを明確にし得ないものについては、石材名の後にアルファベットを付した。その中で近似のものについてはアルファベットの後にアラビア数字を付し分類を行った。

その他、単独母岩・分類不明のものについては、石材名のみの表記とした。

2　器種の認定にあたって特に問題となったのは、楔形石器とその関連資料である。本遺跡においては、偏平な小円礫を素材として、両極剥離を繰り返している多くの資料が検出された。それら関連資料である、楔形石器・楔形石器調整剥片・石核・剥片・砕片について以下に分類の基準を示しておく。

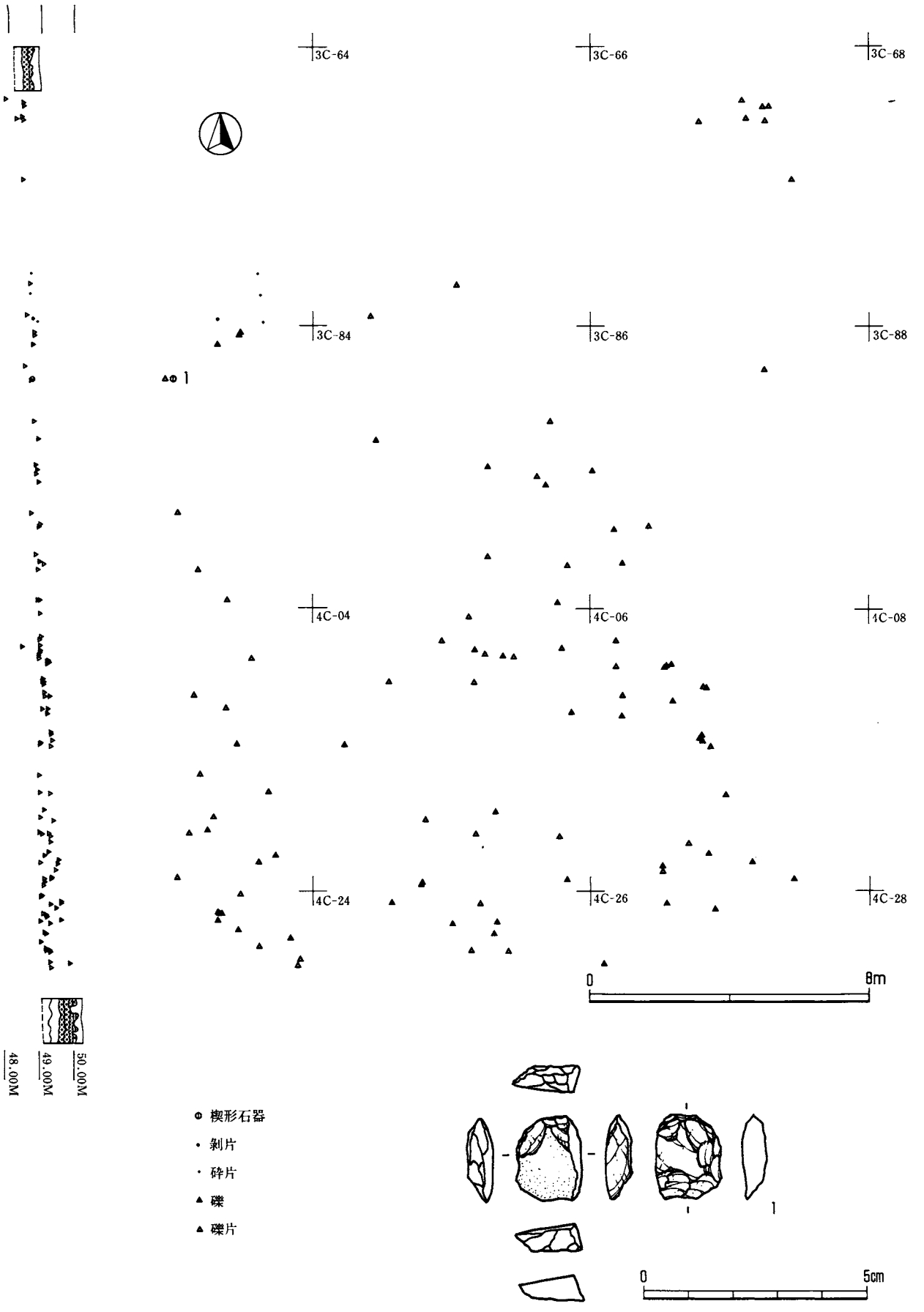
**楔形石器**　複数回の両極剥離によって形成された2カ所一対の稜を持つもの。

**楔形石器調整剥片**　両極剥離によって剥離されたもので、2カ所一対の稜を持たないもの。上下端に稜をもつもの、背面に上下端からの剥離痕があるもの、主要剥離面の剥離方向が上下端からのもの等、両極剥離の際に特徴的に剥離される剥片について、特にこの名称を与えた。また、両極剥離によって剥離された剥片に対して、再度両極剥離を繰り返したものは楔形石器と分類している。

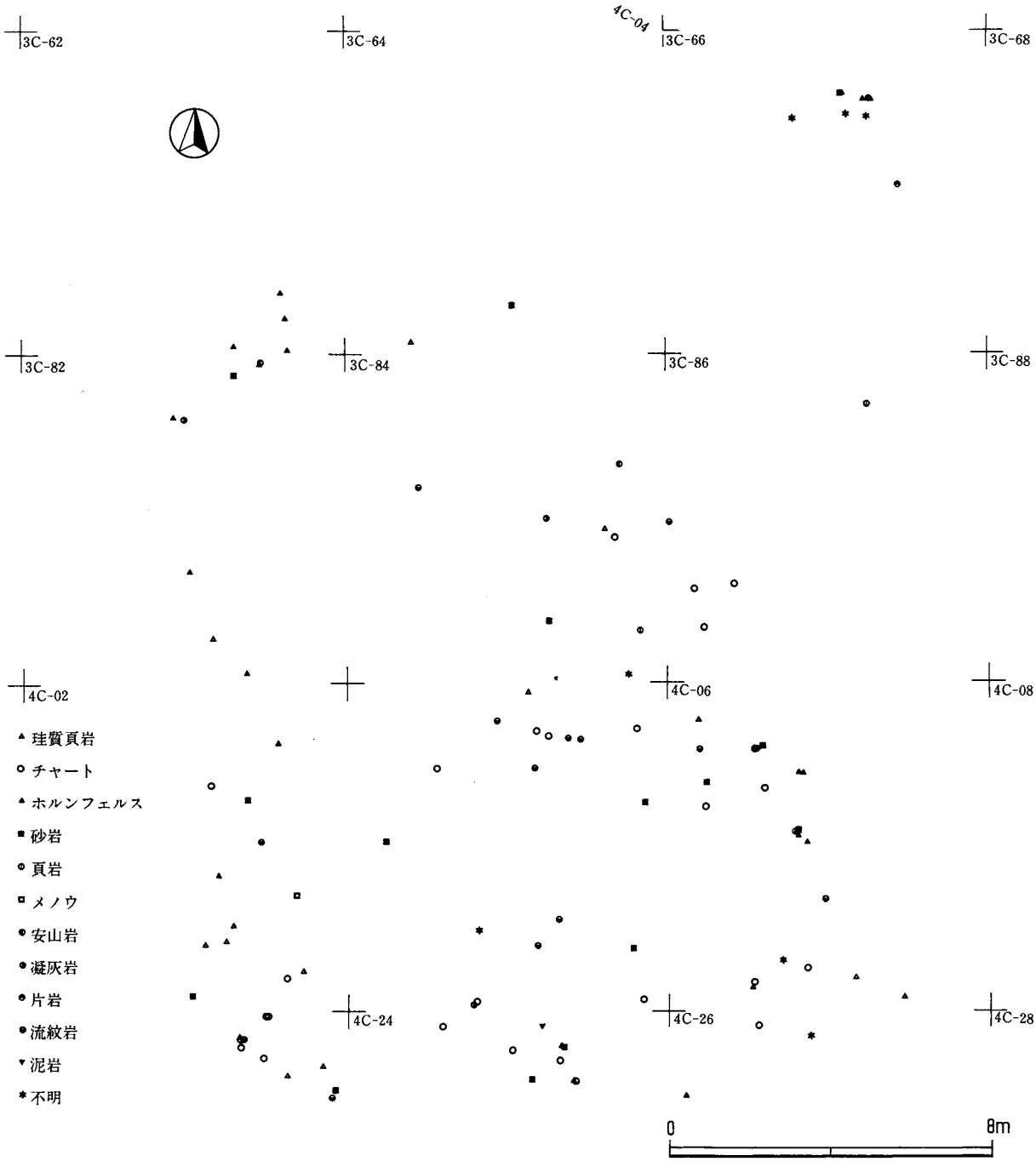
**石核**　楔形石器と石核については石器の用途・機能の問題となるが、今回は上記の楔形石器の分類に含まないものを石核とした。つまり、両極剥離によって剥片剥離を行わない残核をいう。

**剥片・砕片**　上記のような楔形石器調整剥片以外のものを指す。しかしながら、楔形石器調整剥片はより特徴的なもののみを抽出しているため、剥片・砕片の中には、両極剥離の際に剥離されたものを含んでいるといえる。

なお、砕片は長さ・幅の両者が10.0㎜未満のものとする。




第9図　石器集中1　石器出土分布図－器種別(上)と出土石器(下)




第10図　石器集中1　石器出土分布図－石材別

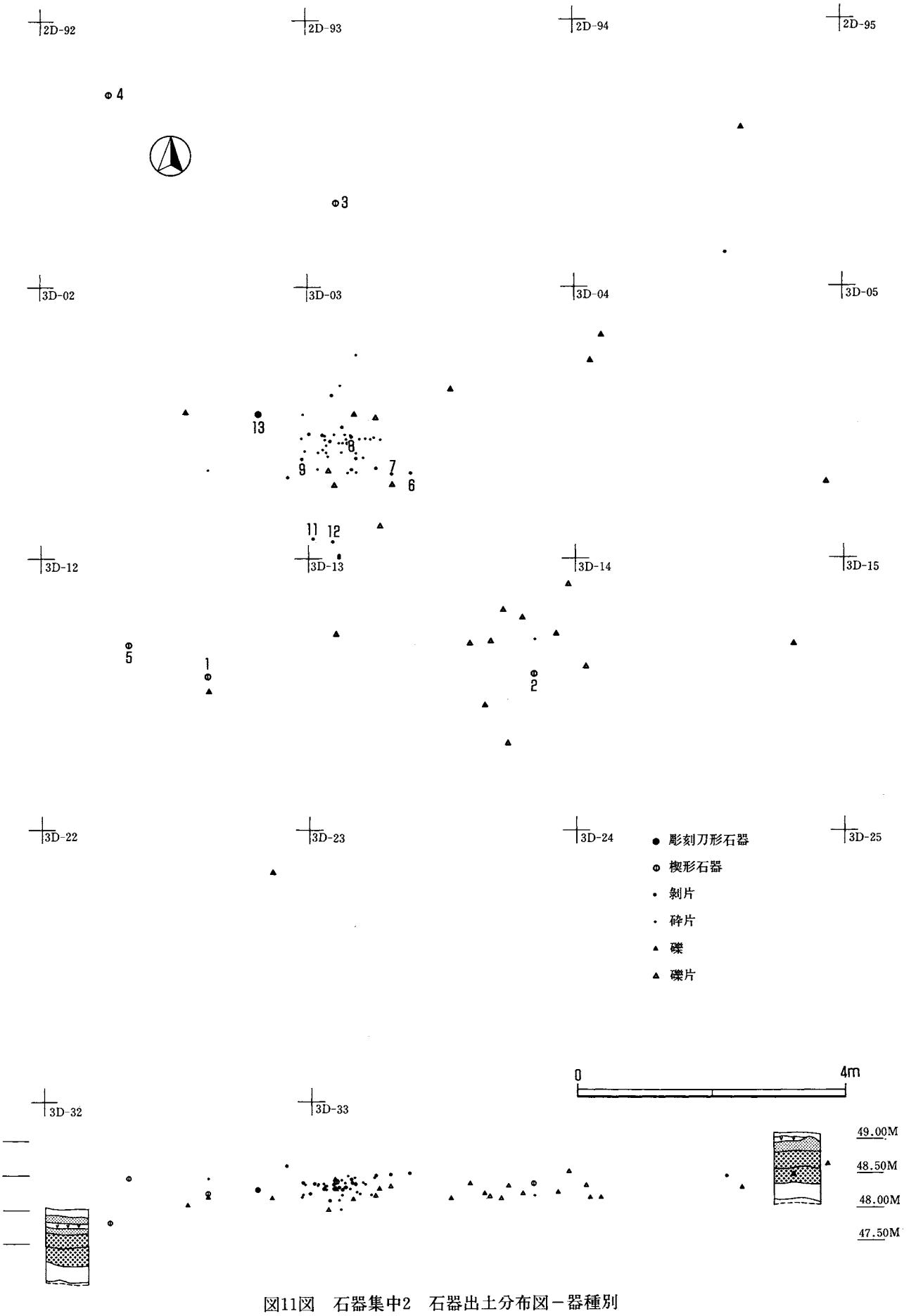
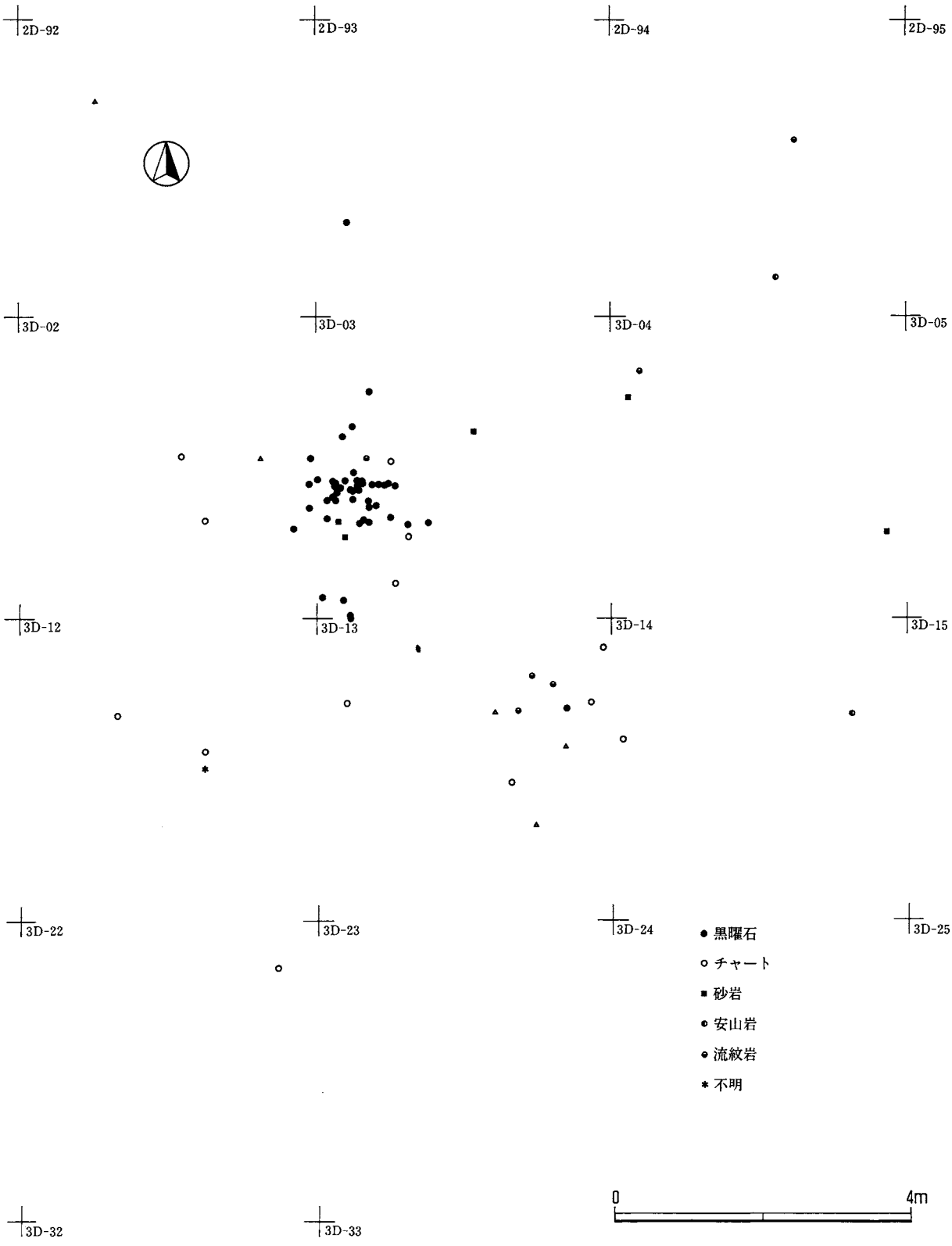
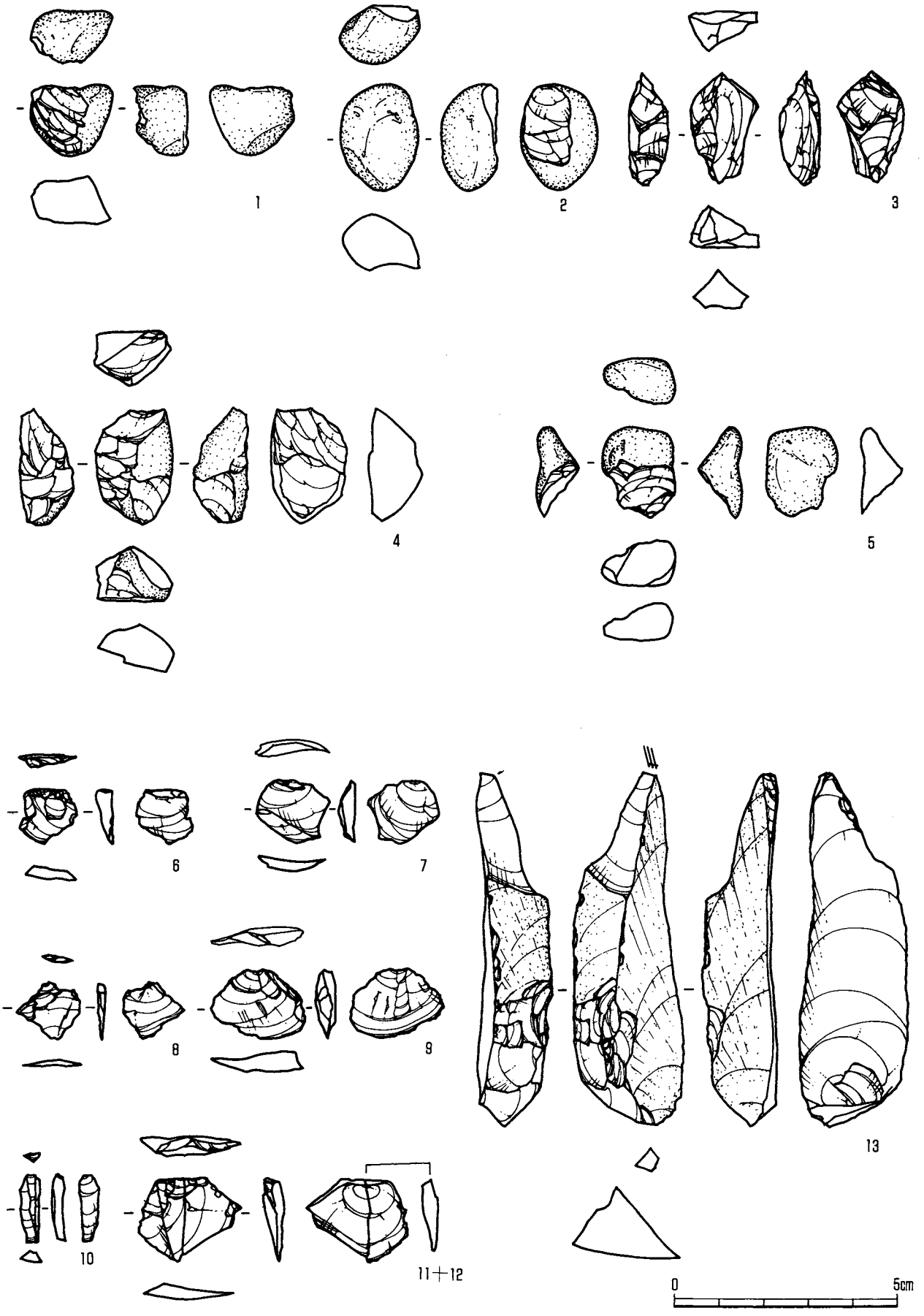


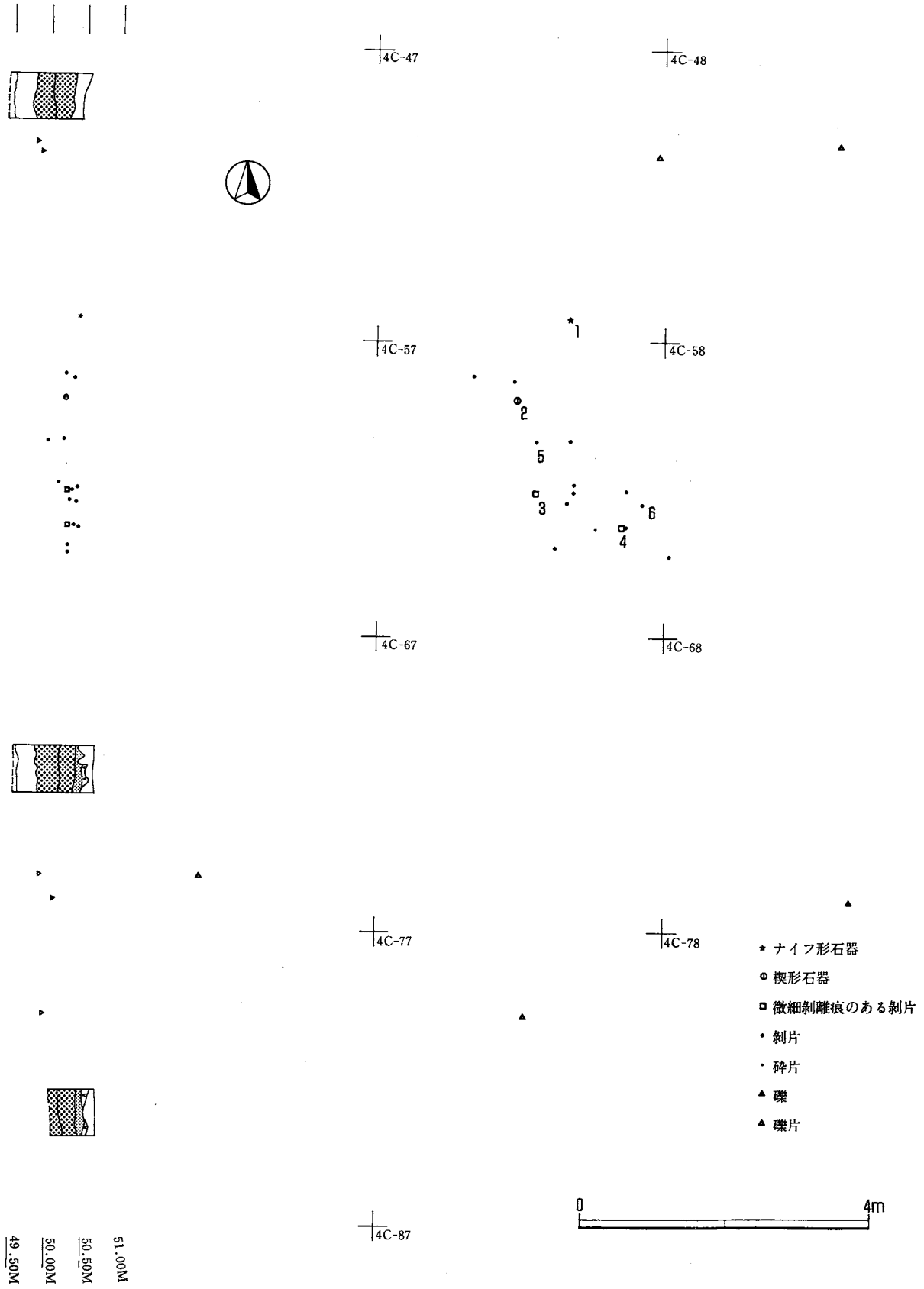

図11図　石器集中2　石器出土分布図－器種別



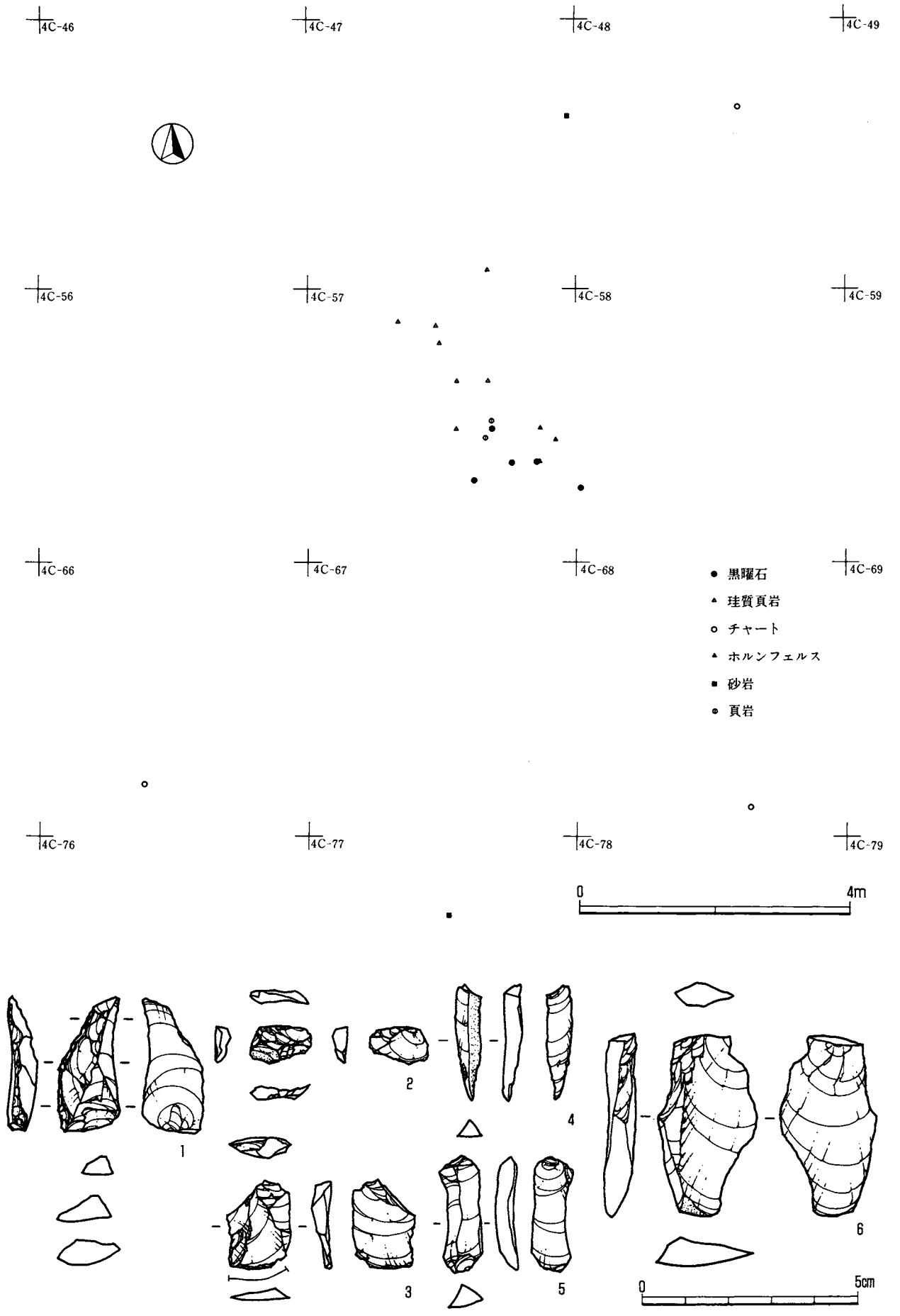

第12図　石器集中2　石器出土分布図－石材別



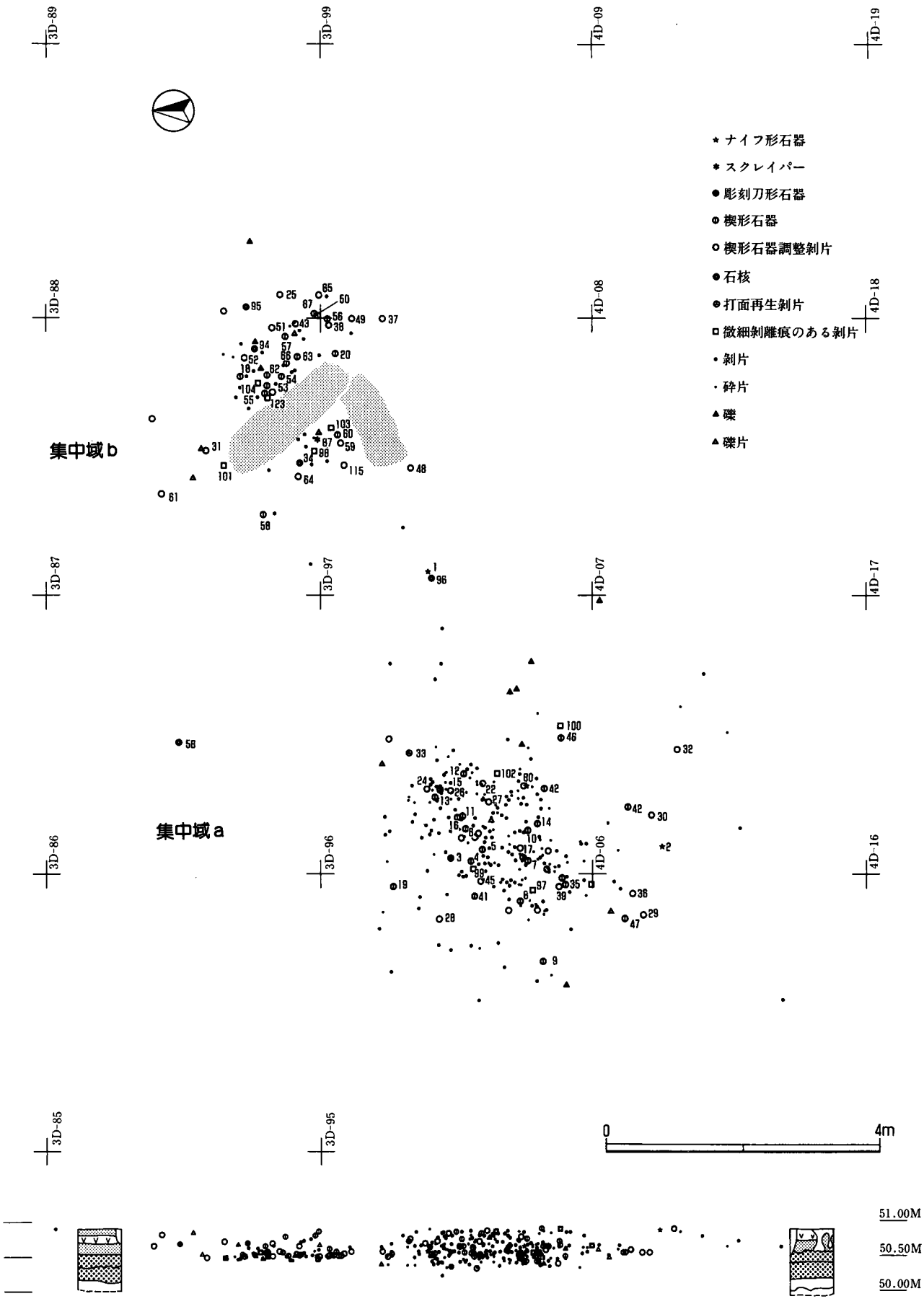

第13図　石器集中2　出土石器



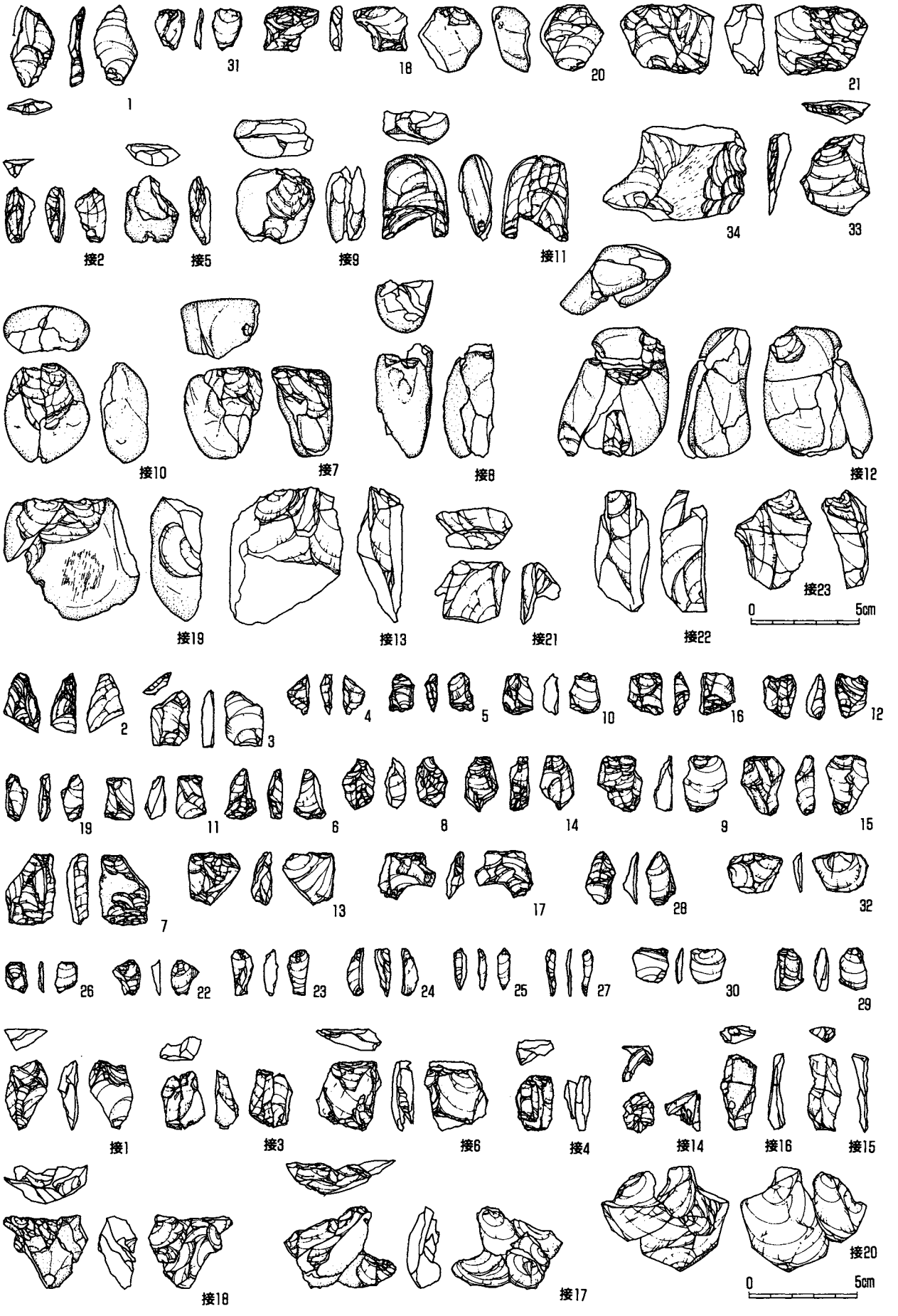

第14図　石器集中3　石器出土分布図－器種別



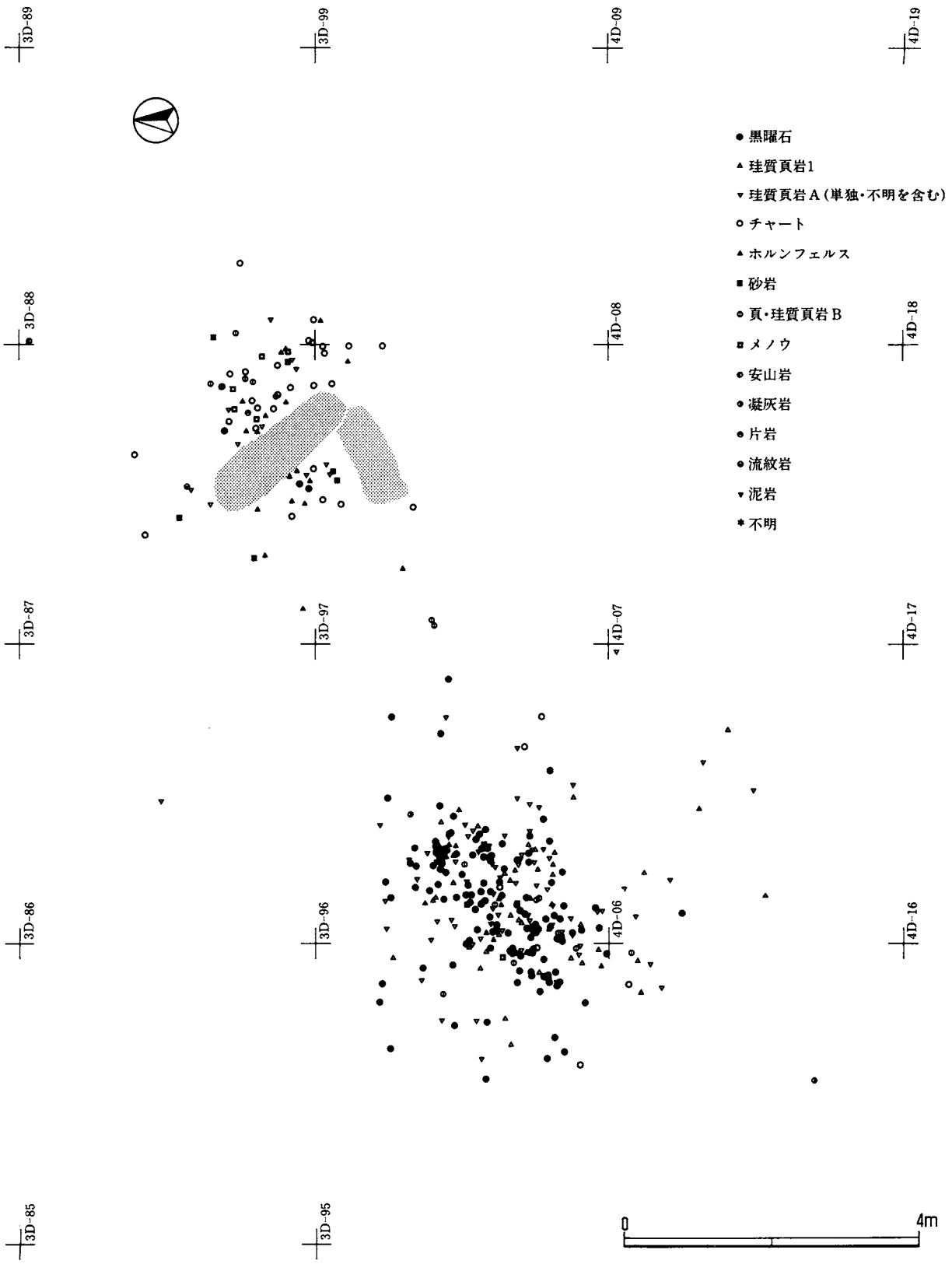

第15図　石器集中3　石器出土分布図－石材別(上)と出土石器(下)




第16図　石器集中4　石器出土分布図－器種別

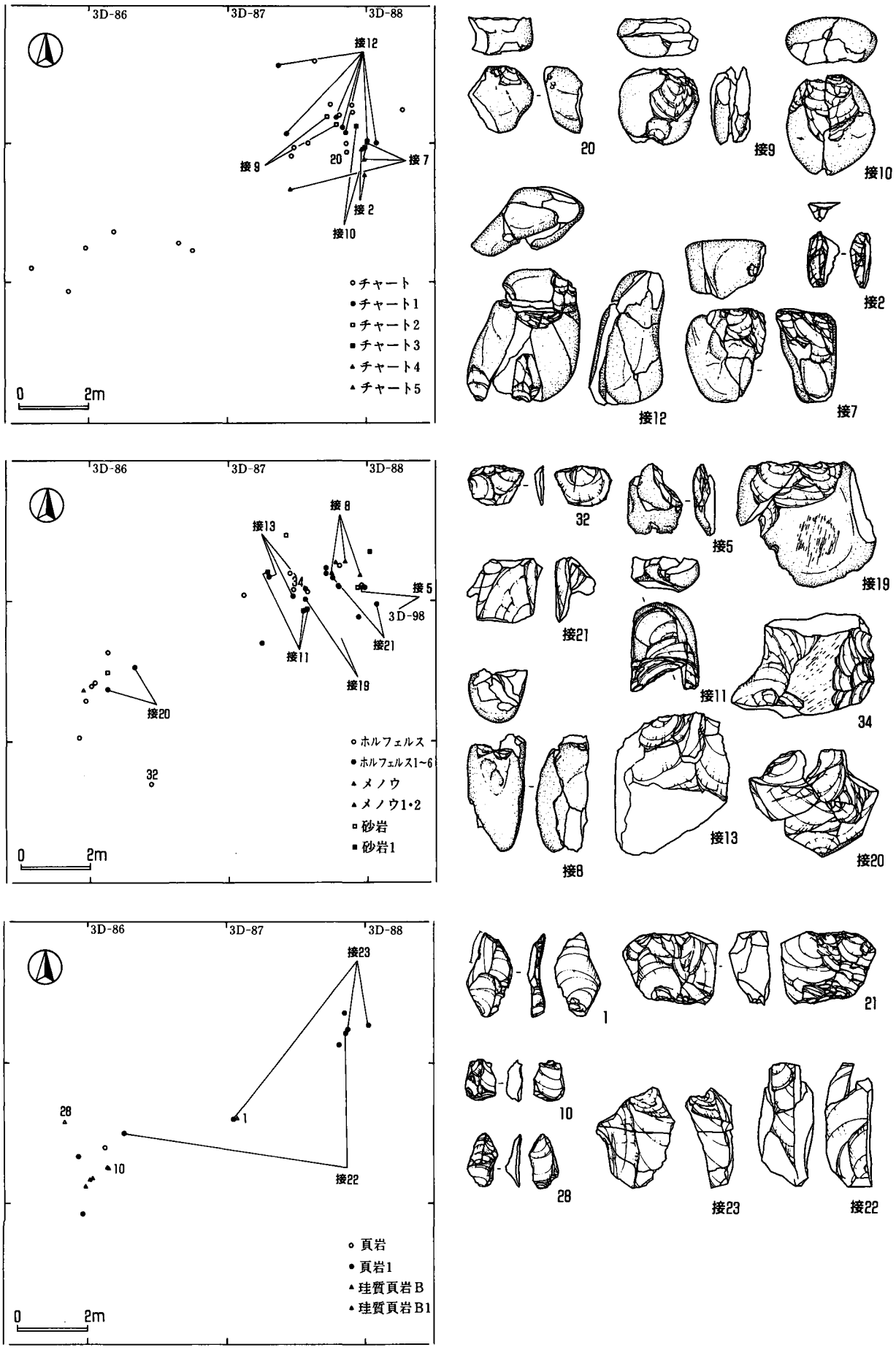



第17図　石器集中4 集中域b(上), a(下)主要な出土石器



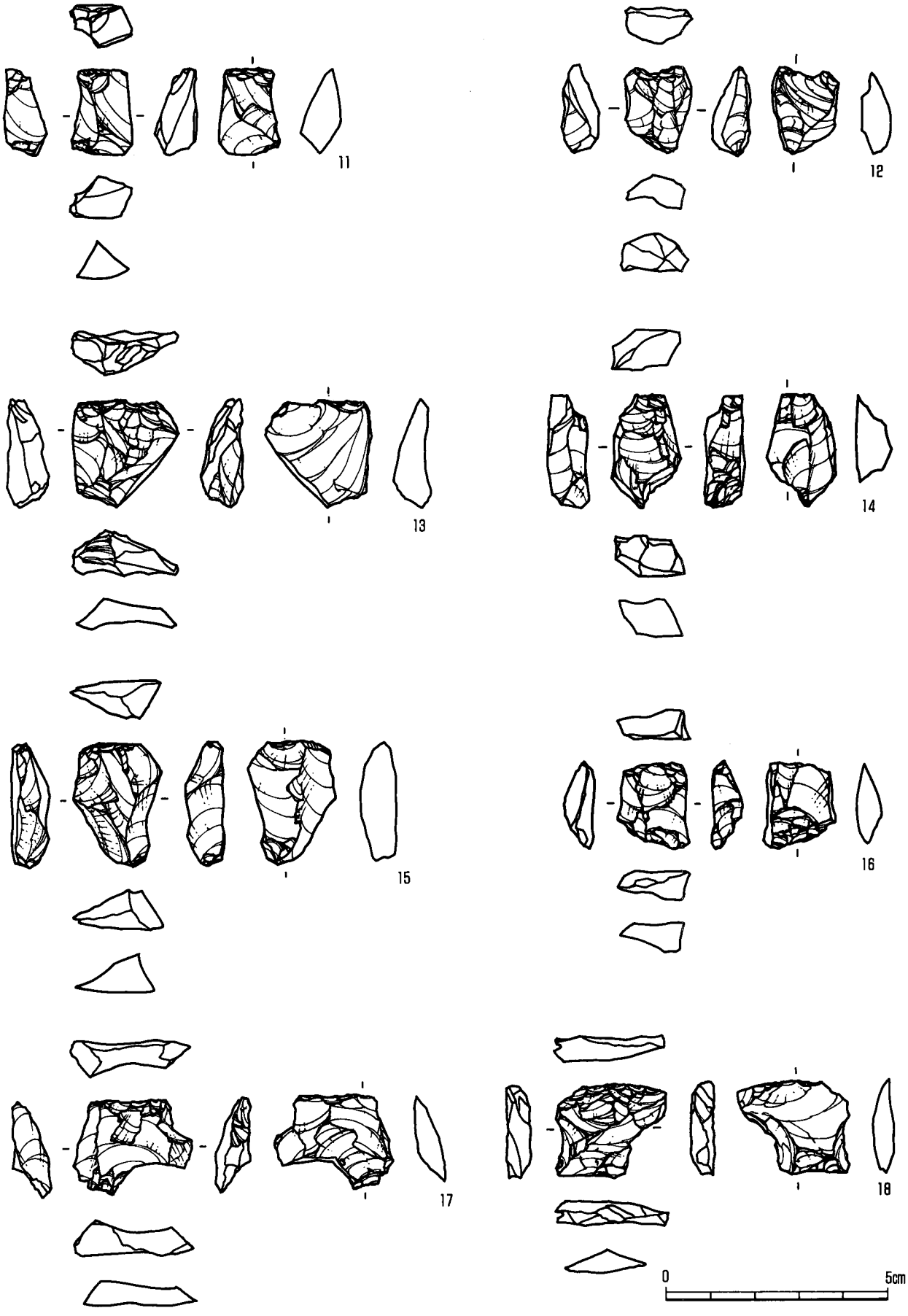

第18図　石器集中4　石器出土分布図－石材別

第19図　石器集中4　石材別接合関係図と主要な出土石器(1)
(黒曜岩A・珪質頁岩1・珪質頁岩・珪質頁岩A)

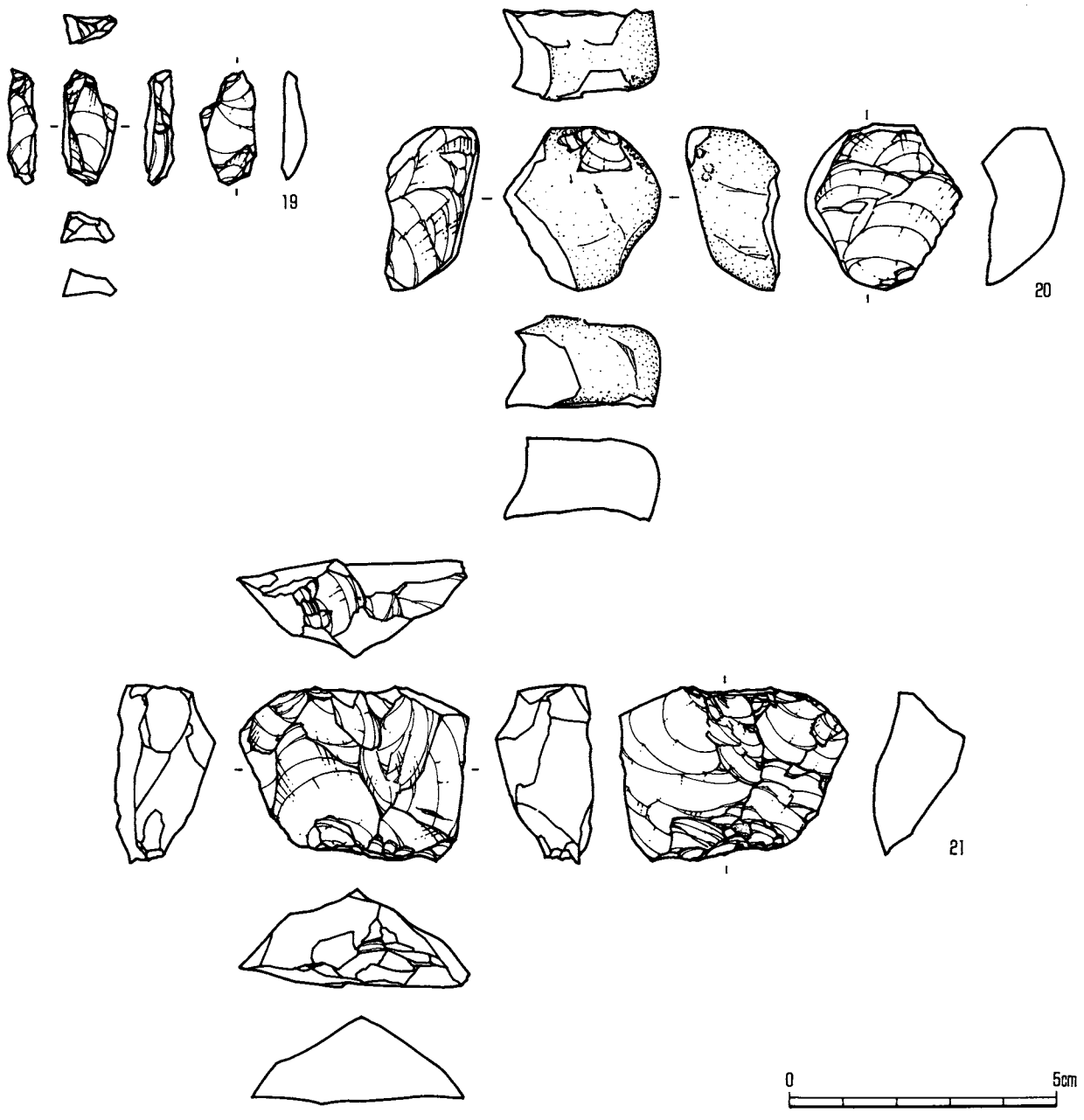



第20図　石器集中4　石材別接合関係図と主要な出土石器(2)
(チャート・ホルンフェルス・メノウ・砂岩・頁岩・珪質頁岩B)

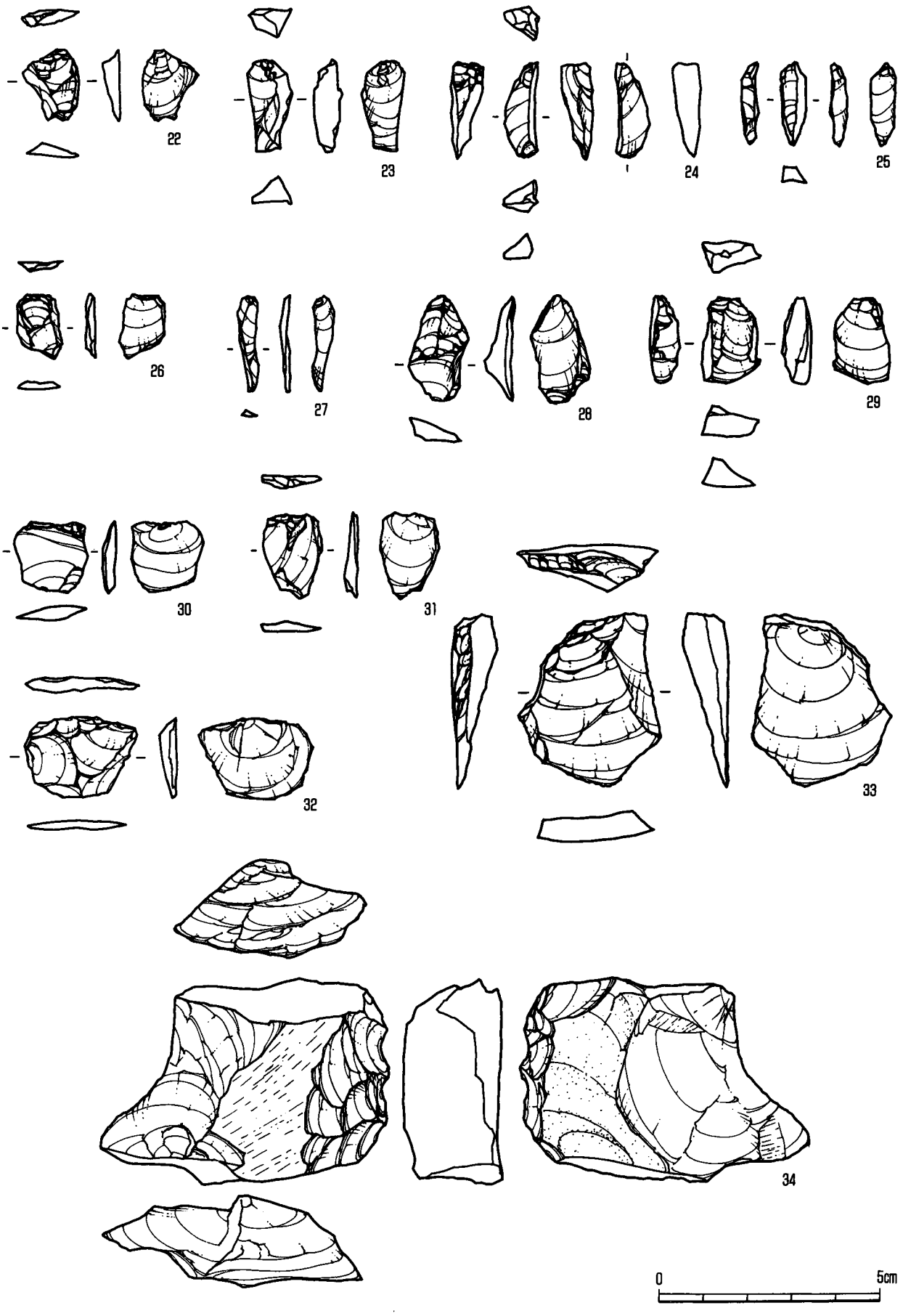
第21図　石器集中4　出土石器(1)



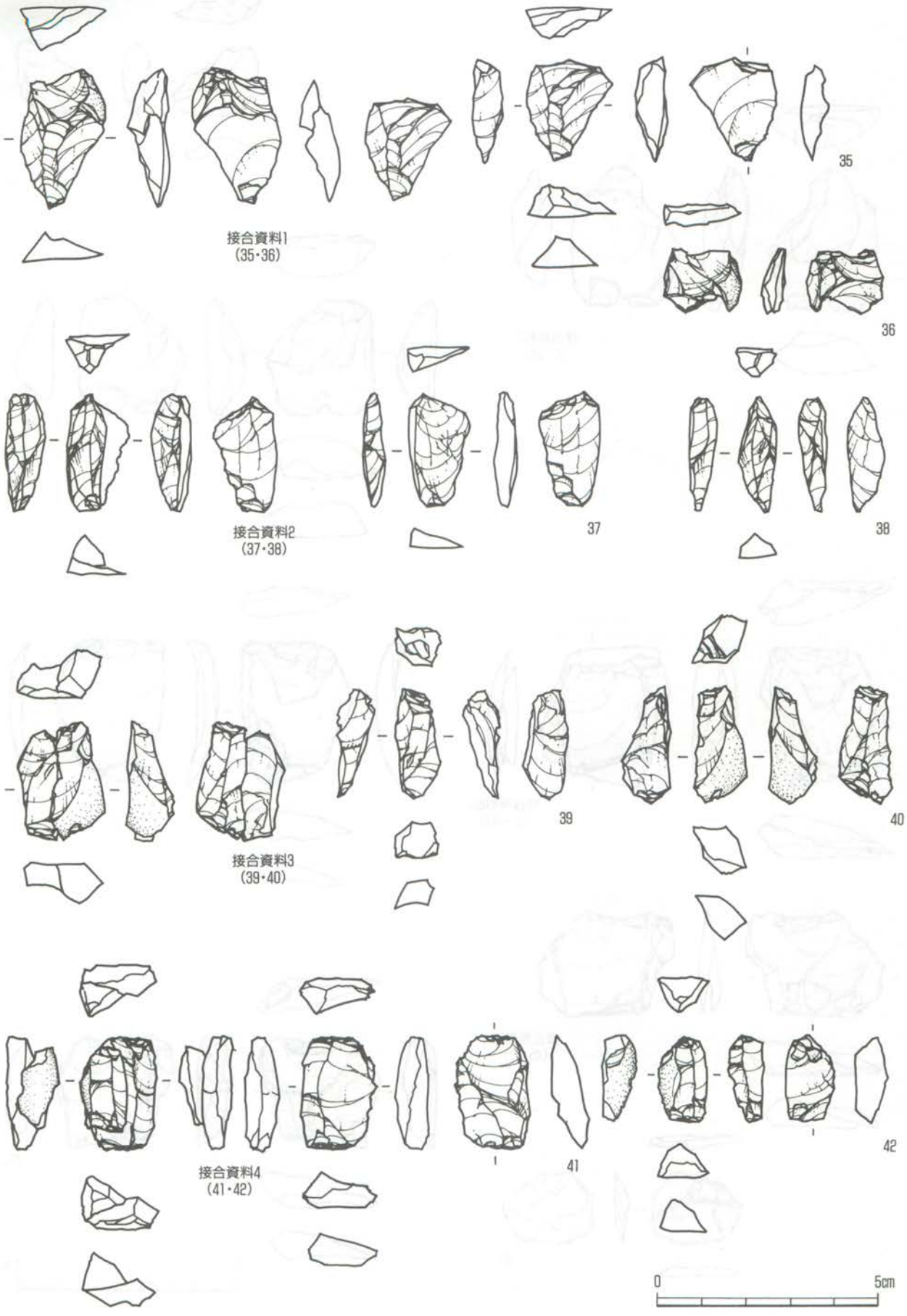

第22図　石器集中4　出土石器(2)



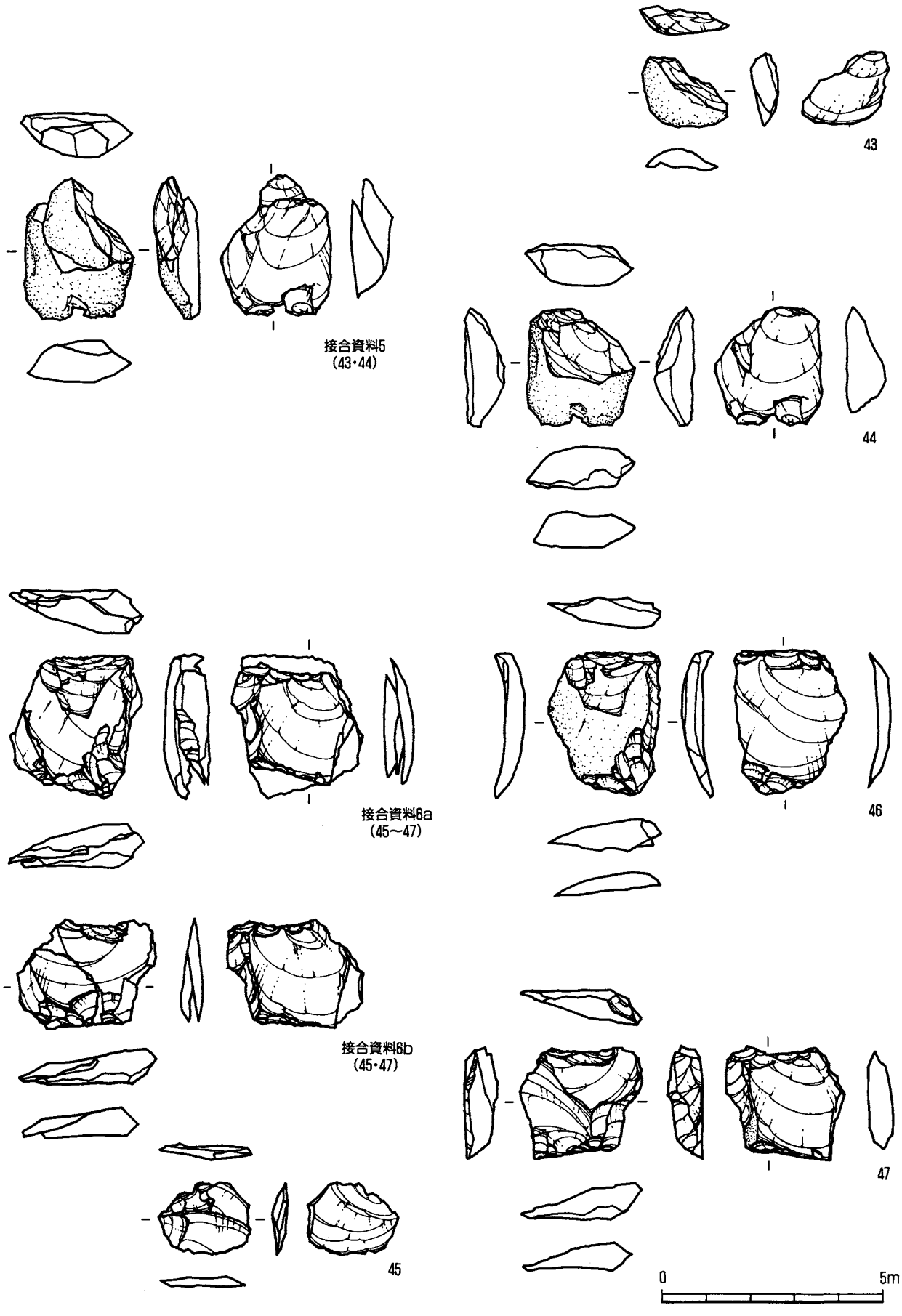

第23図　石器集中4　出土石器(3)



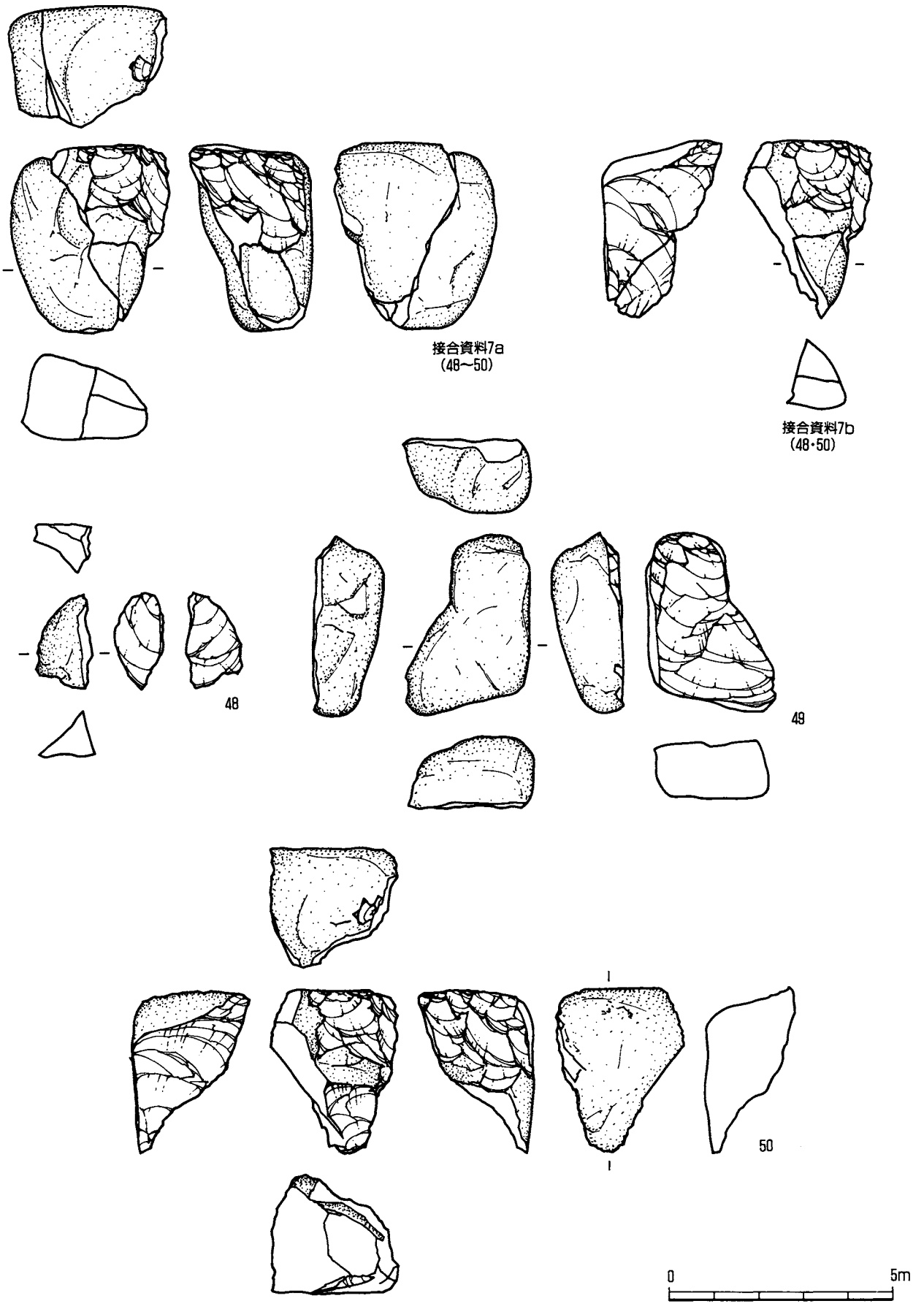

第24図　石器集中4　出土石器(4)



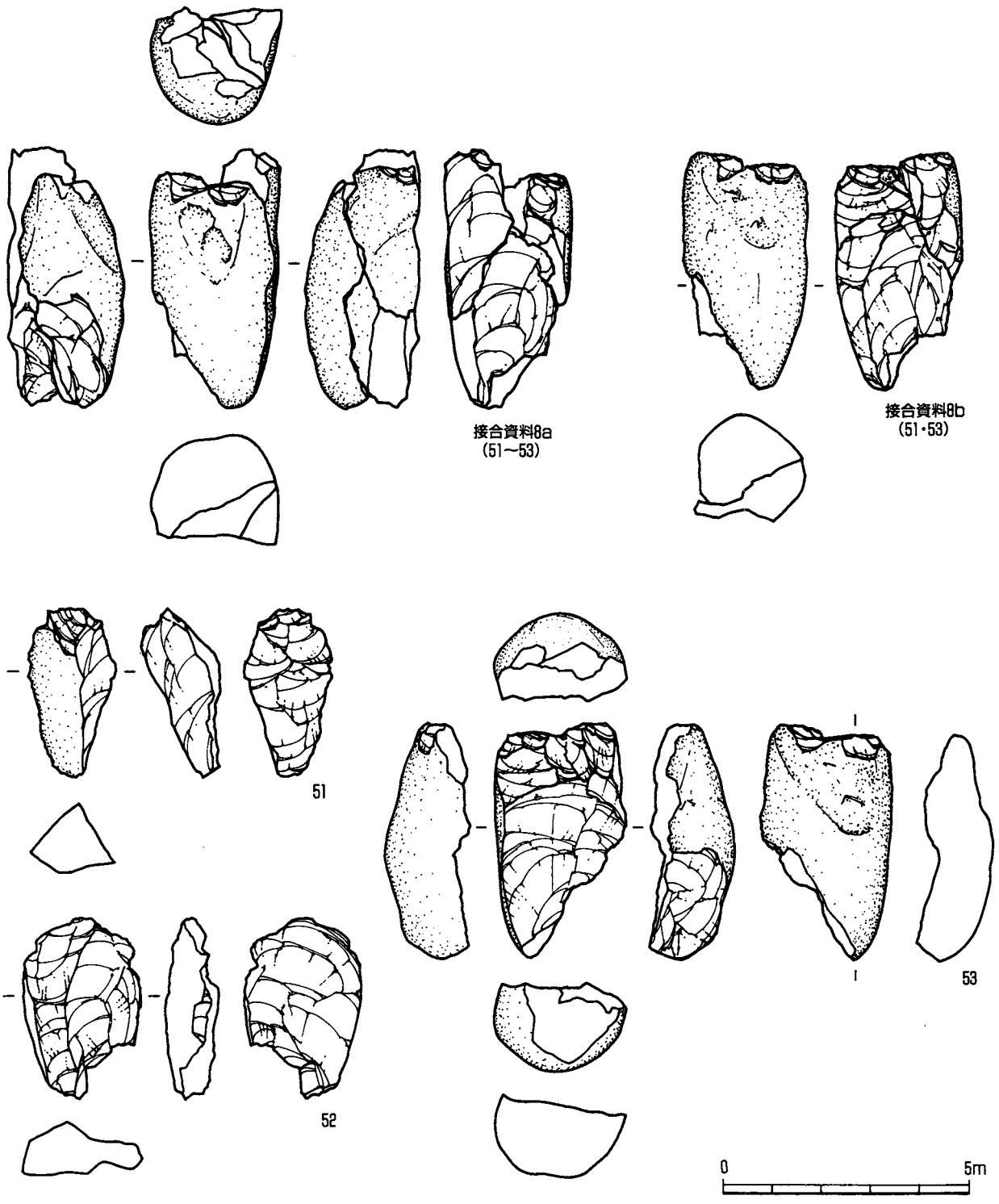

第25図　石器集中4　出土石器(5)



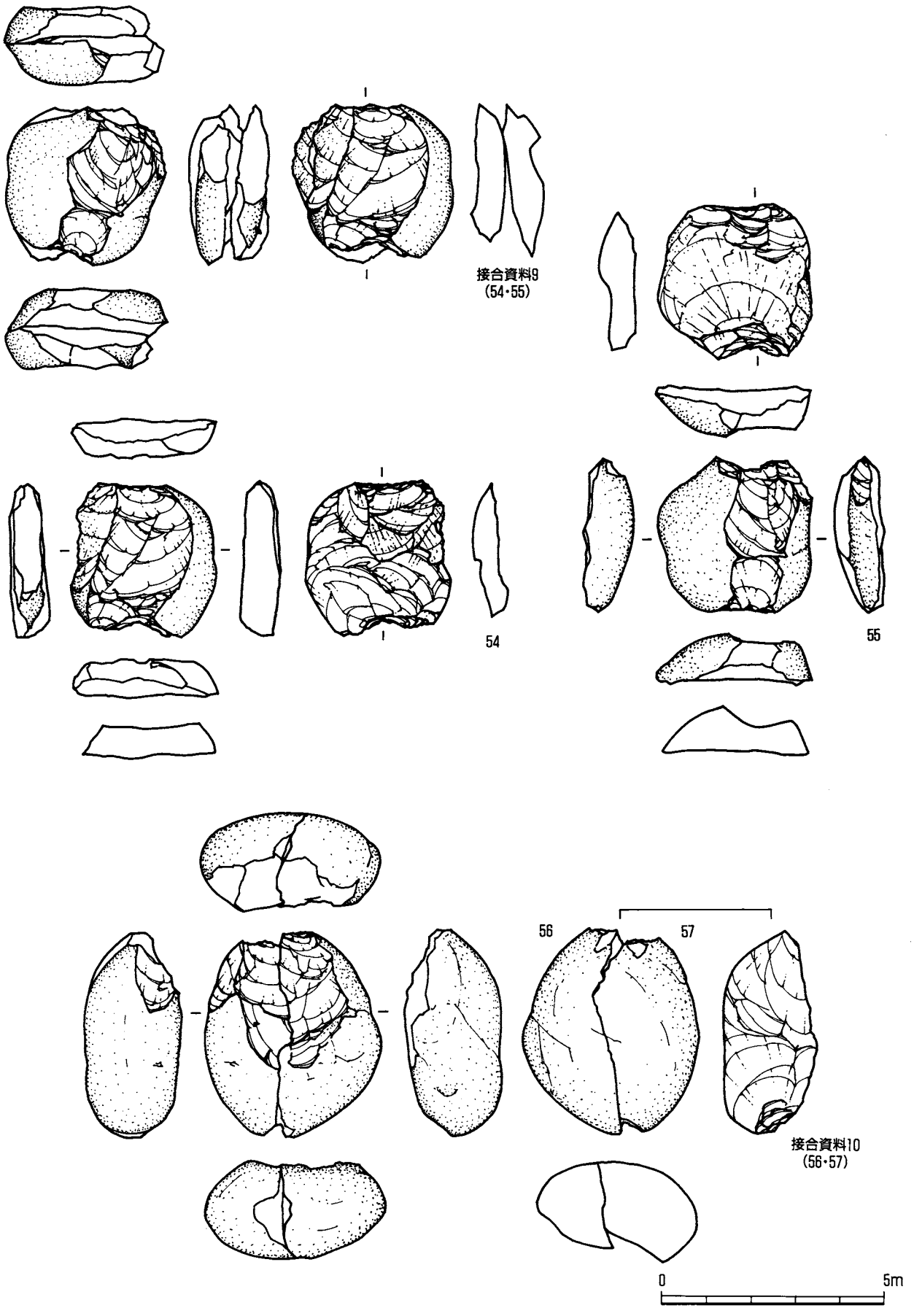

第26図　石器集中4　出土石器(6)



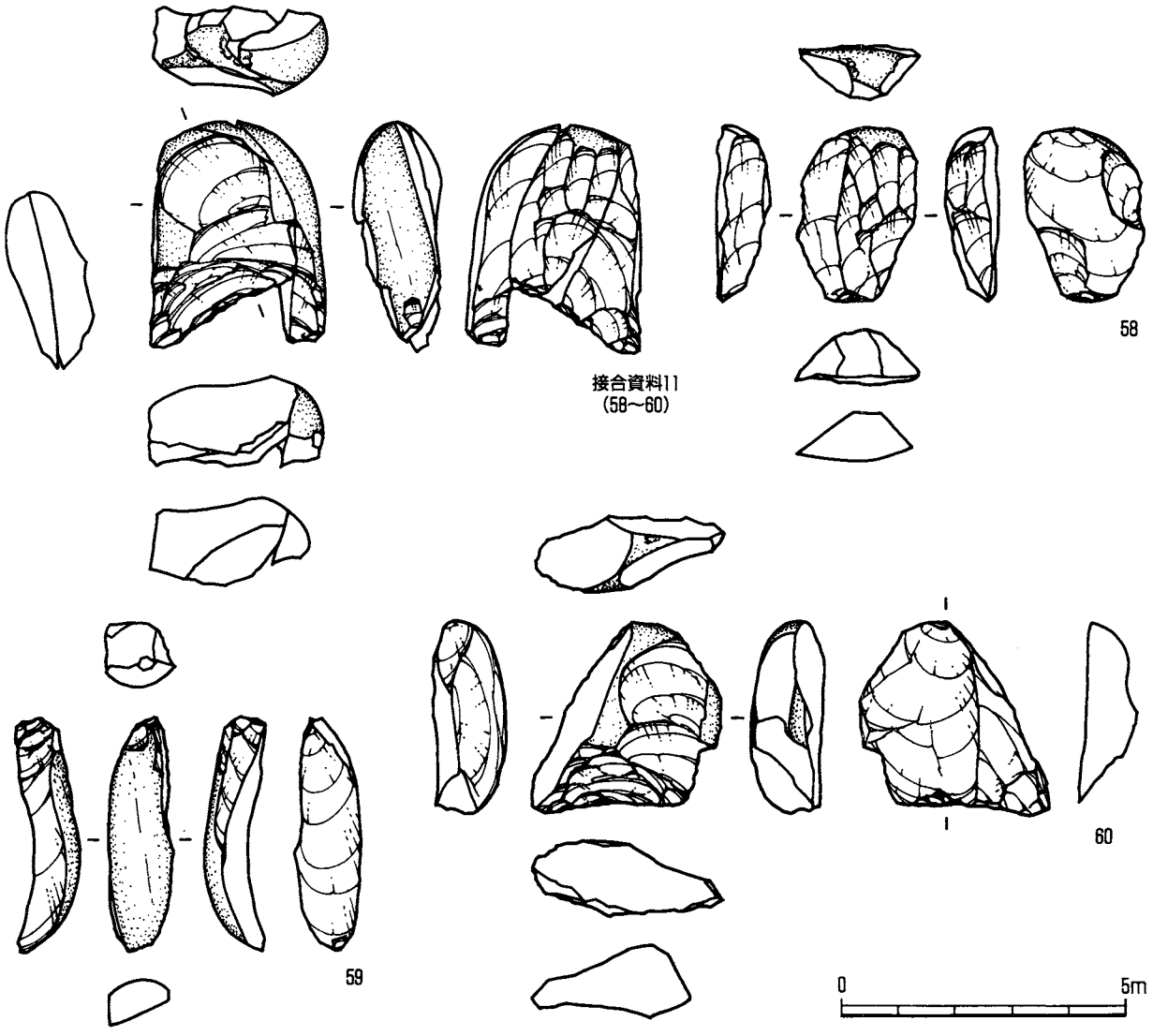

第27図　石器集中4　出土石器(7)



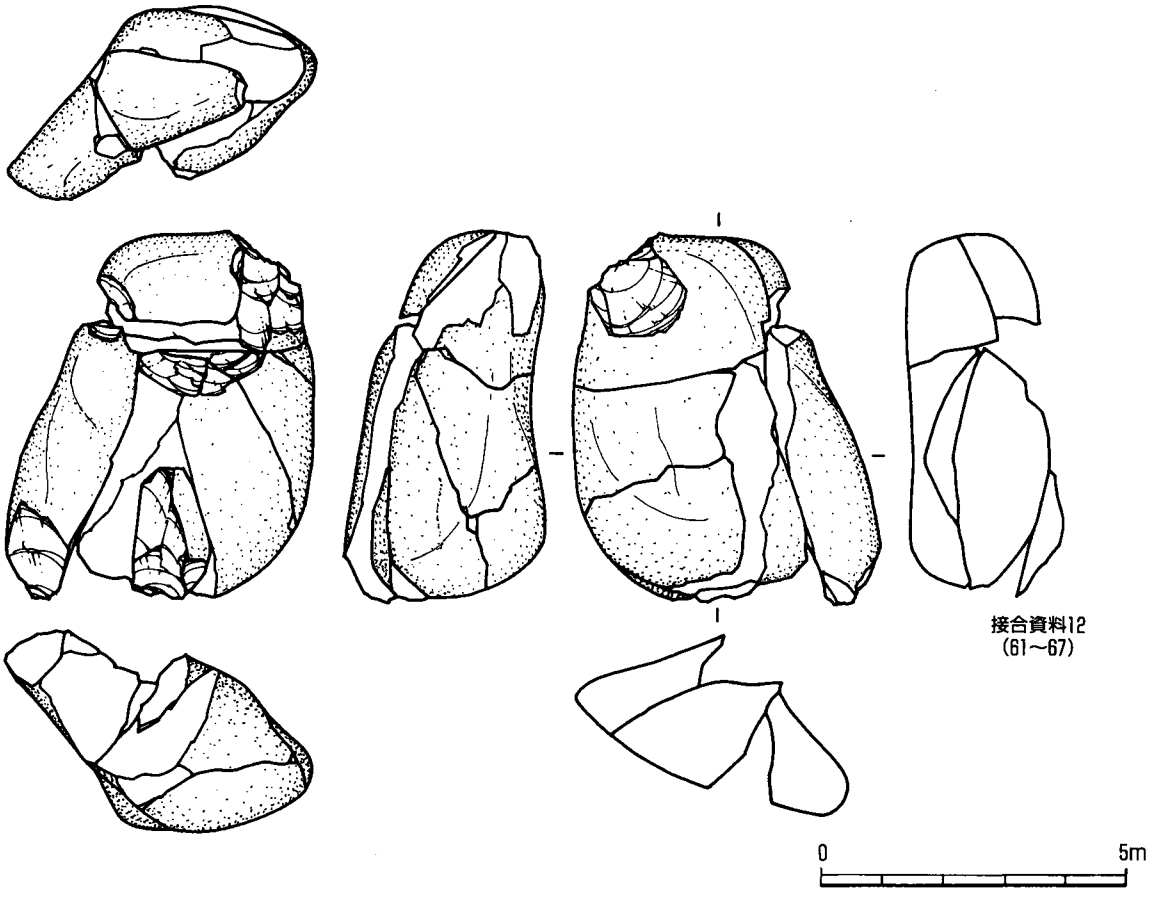

第28図　石器集中4　出土石器(8)

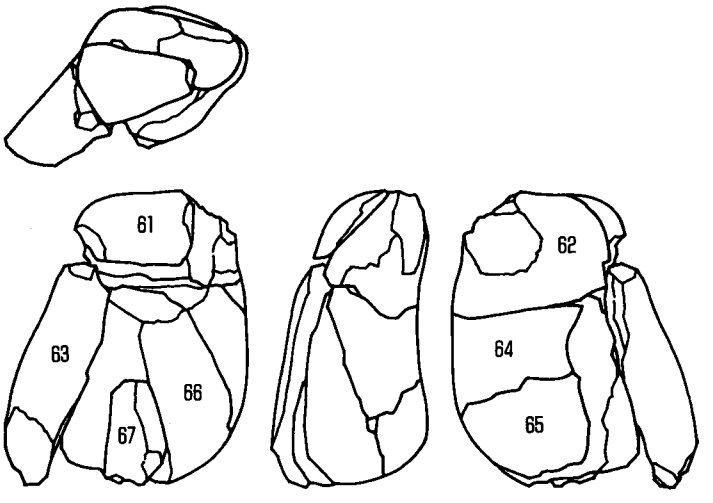



第29図　石器集中4　出土石器(9)

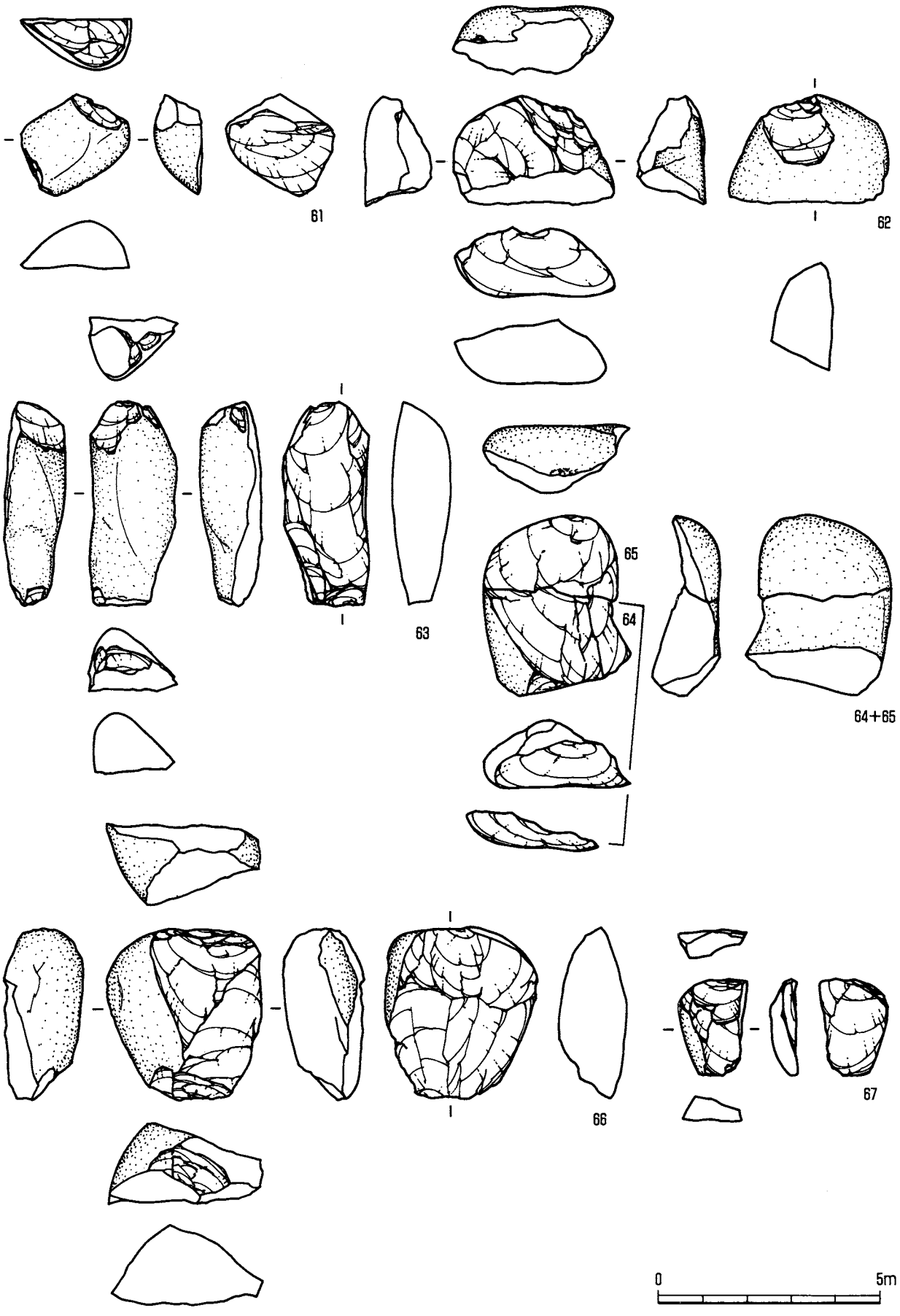



第30図　石器集中4　出土石器(10)

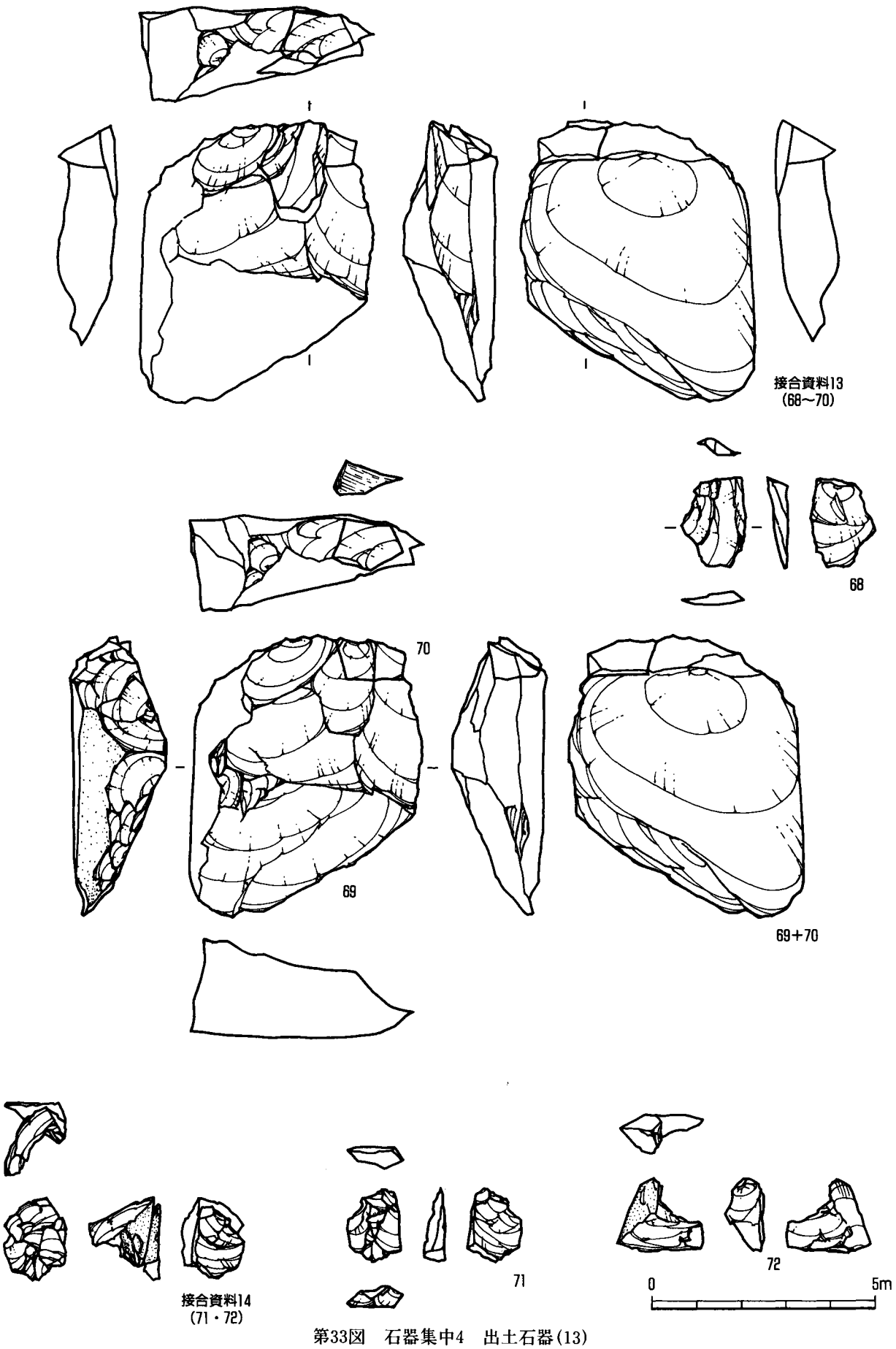


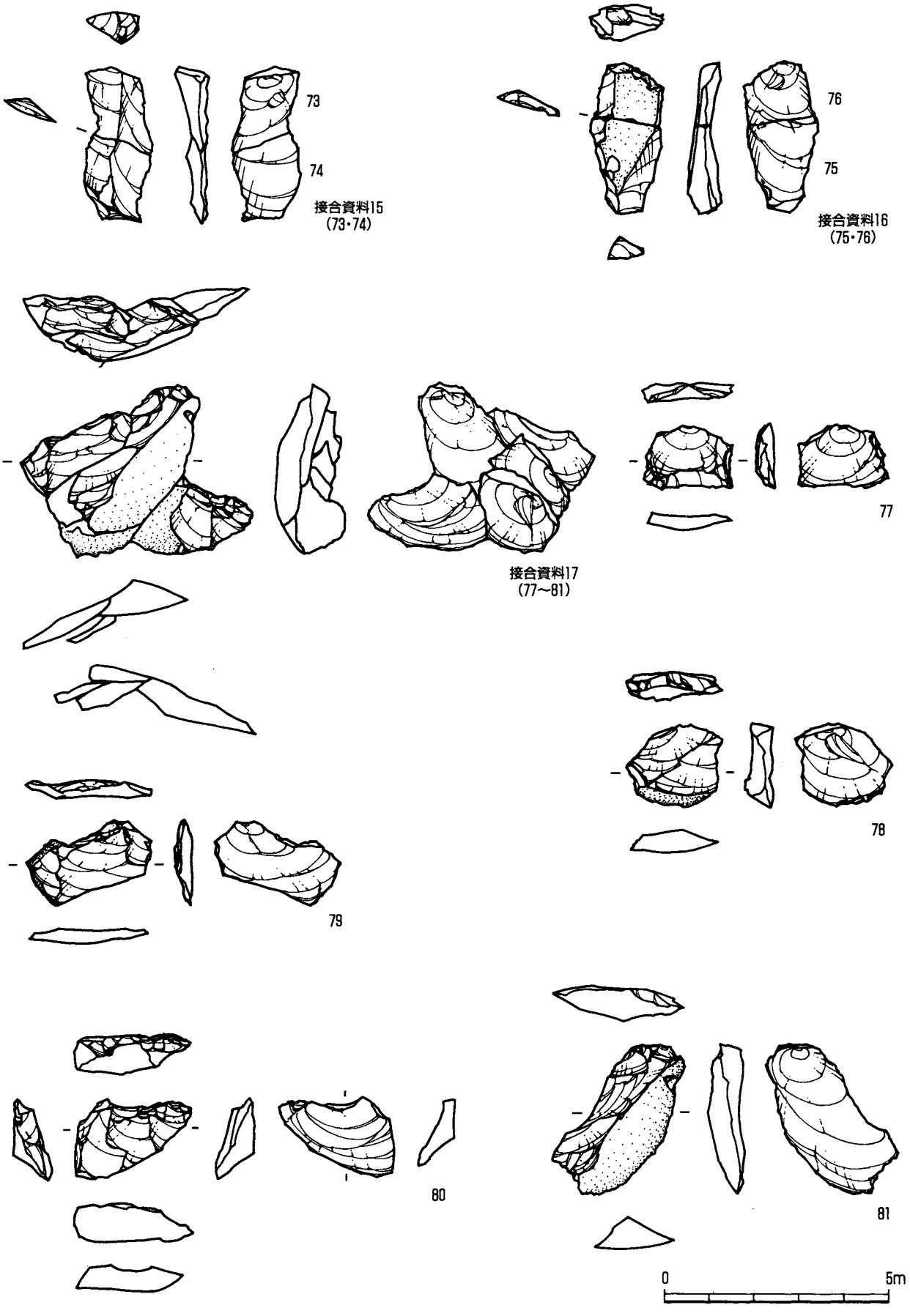

第31図　石器集中4　出土石器(11)



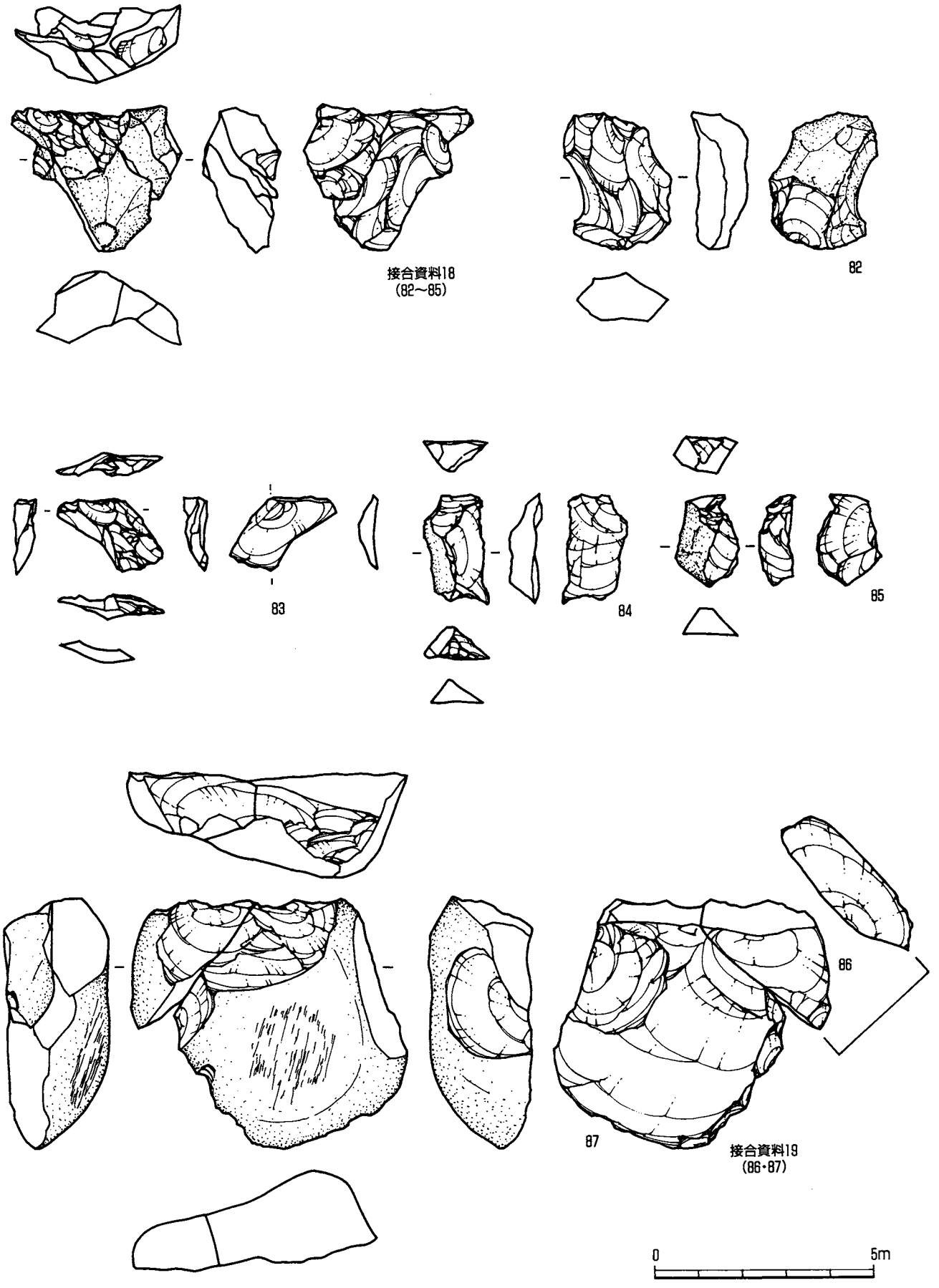

第32図　石器集中4　出土石器(12)



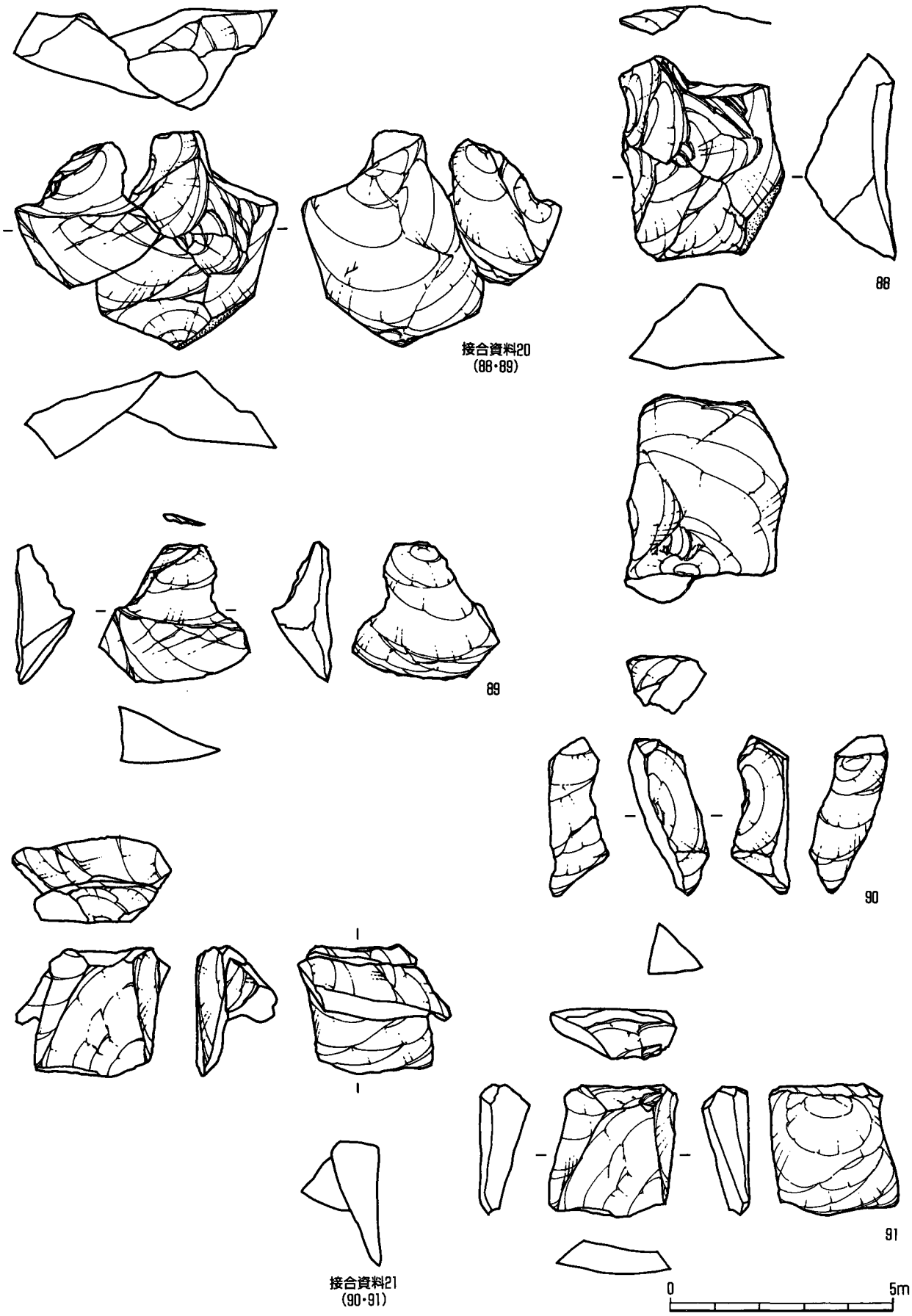

第33図　石器集中4　出土石器(13)



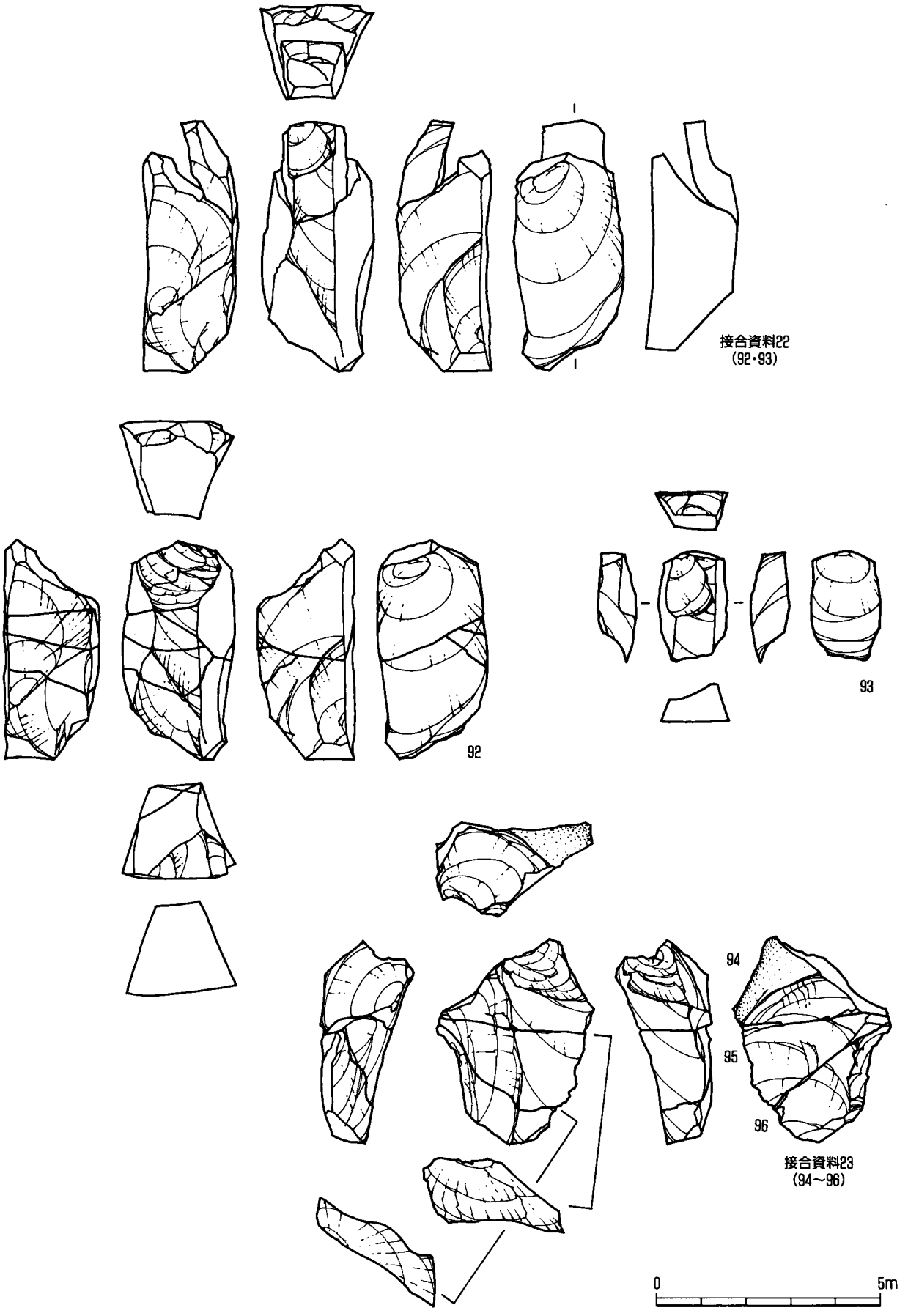

第34図　石器集中4　出土石器(14)



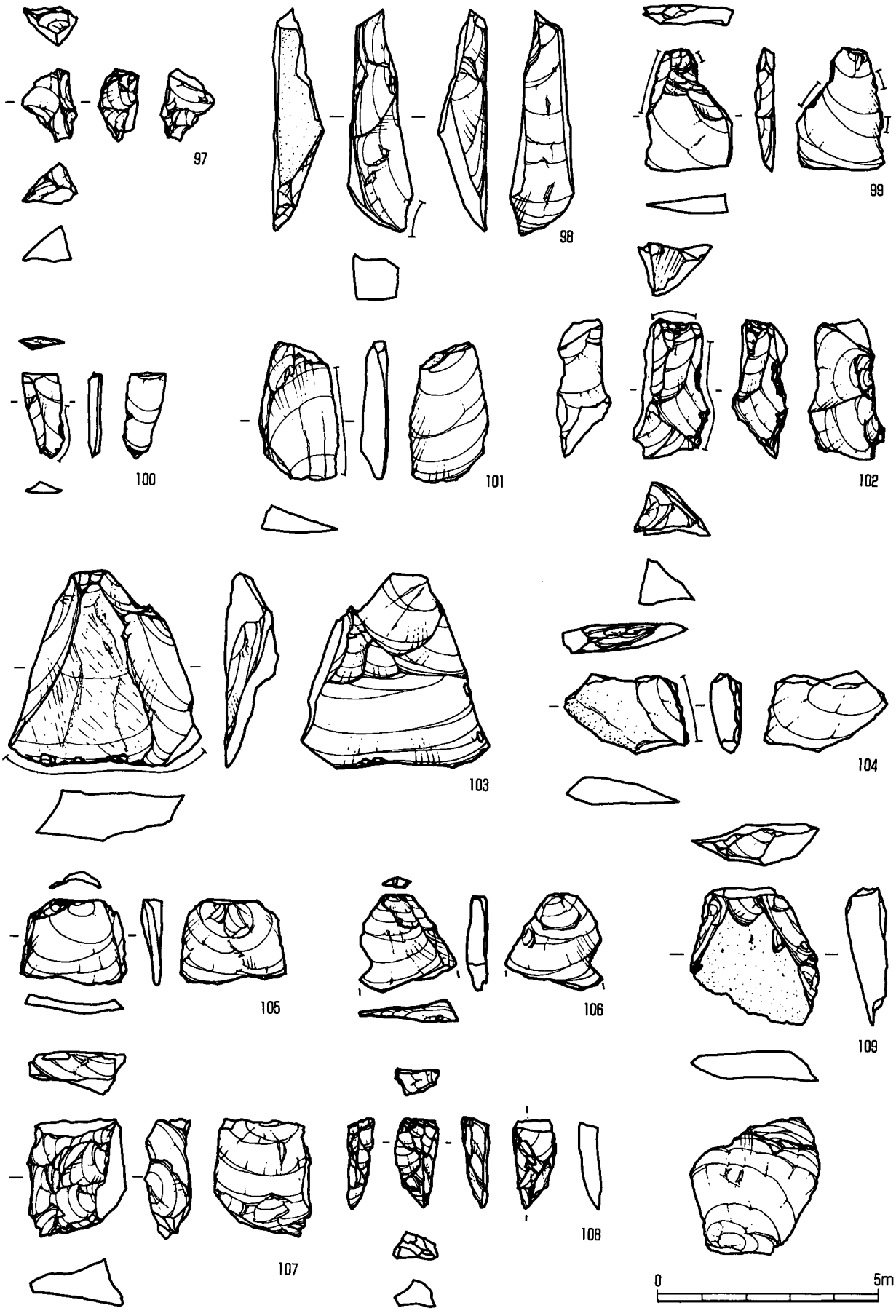

第35図　石器集中4　出土石器(15)



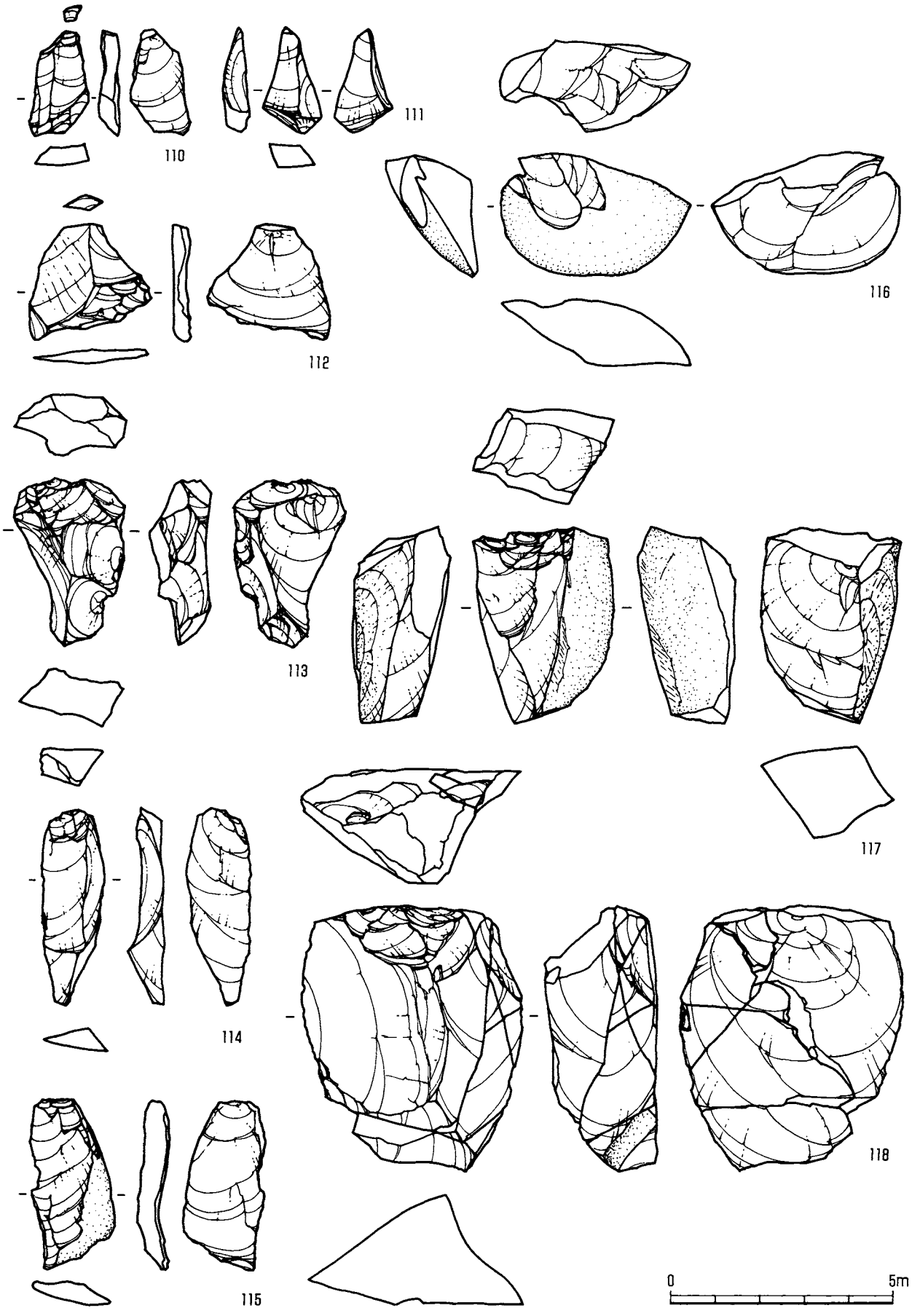

第36図　石器集中4　出土石器(16)



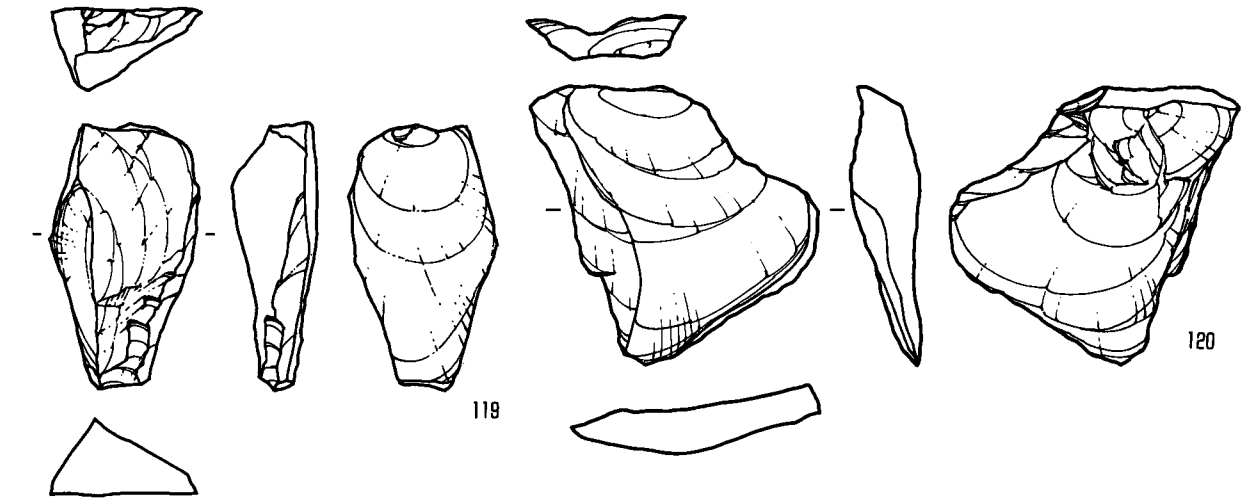

第37図　石器集中4　出土石器(17)

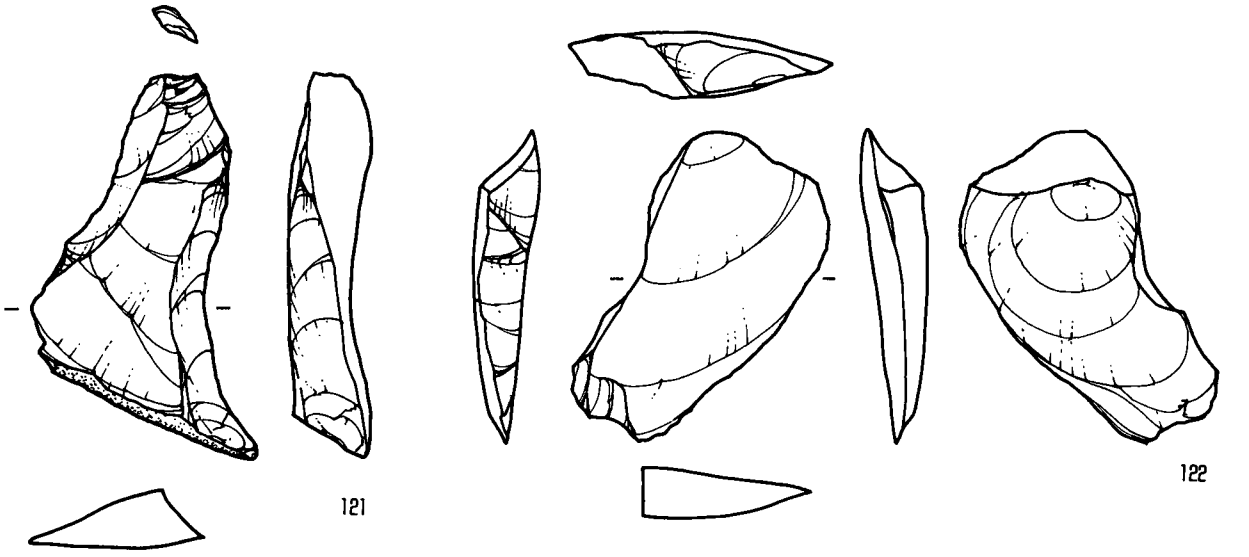


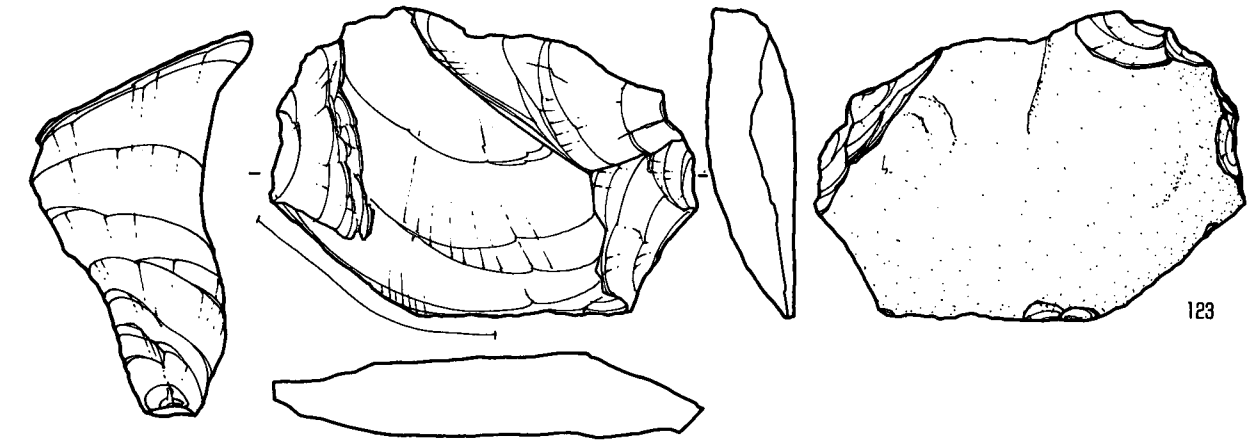

第38図　石器集中4　出土石器(18)

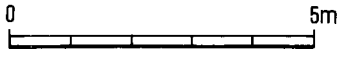



第39図　石器集中4　出土石器(19)




第40図　石器集中4　出土石器(20)

第41図　石器集中地点外　出土石器

**観察表について**

1．挿図番号　実測図として掲載した遺物の通し番号。この番号は遺物の出土平面図と写真図版の番号に一致する。実測図として報告できなかったものについては、取り上げ番号順に、以下に掲載した。

2．グリッド・遺物番号　出土したグリッドと遺物の取り上げ番号（注記番号）。

3．打面形状　Ｃは自然面、Ｓは節理面、Ｐは点状打面、Ｌは線状打面、１は平坦打面、２以上は複剝離打面、空欄は欠損等による打面なし・計測不可を示す。

4．背面構成　主要剝離面の剝離方向を基準として、背面を構成する剝離面の種類と数を示した。素材を大きく変形させたものは書かないが、素材の背面構成が窺われるものに関しては、観察される範囲で書く。Ｃは自然面、Ｓは節理面、Ｈは頭部側、Ｔは尾部側、Ｒは背面を正面にして右方、Ｌは左方、Ｄは背面側、Ｖは腹面側（両者は作業面調整剝片、角柱状の剝片など90°に近い剝離角をもつ剝離面の場合）からの剝離面数を示す。

5．調整部位・折面部位　主要剝離面の剝離方向を基準として、調整部位と折断部位の位置を示した。Ｈは頭部側、Ｔは尾部側、Ｒは背面を正面にして右側、Ｌは左側を示す。

6．末端形状　Ｆは通常の末端（フェザーエンド）、Ｈはちょうつがい状（ヒンジフラクチャー）、Ｏはアーチ状（ウートラパッセ）を示す。

7．母岩番号　石材の種類と、母岩別資料の分類を示す。

特定母岩に帰属できると判断できたものについては、石材名の後にアラビア数字を付し分類している。非常に特徴的ではあるが、その中で、いくつかの母岩に分類できると思われ、それらを明確にし得ないものについては、石材名の後にアルファベットを付した。その中で近似のものについてはアルファベットの後にアラビア数字を付し分類を行った。

その他、単独母岩・分類不明のものについては、石材名のみの表記とした。

| 石器集中1 | 楔形石器 | 剝片 | 破片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャート | | | | 21 | 8 | 29 | 24.58 |
| | | | | 226.85 | 27.88 | 254.73 | 35.18 |
| ホルンフェルス | | 1 | 3 | | 16 | 20 | 16.95 |
| | | 1.95 | 0.39 | | 17.90 | 20.24 | 2.80 |
| 珪質頁岩 | | | | 7 | 11 | 18 | 15.25 |
| | | | | 48.99 | 38.44 | 87.43 | 12.08 |
| 砂岩 | | | | 5 | 11 | 16 | 13.56 |
| | | | | 36.64 | 38.09 | 74.73 | 10.32 |
| 流紋岩 | | | | 6 | 9 | 15 | 12.71 |
| | | | | 114.35 | 27.22 | 141.57 | 19.55 |
| 凝灰岩 | 1 | | | 1 | 1 | 3 | 2.54 |
| | 2.07 | | | 22.60 | 33.75 | 58.42 | 8.07 |
| 頁岩 | | | | | 3 | 3 | 2.54 |
| | | | | | 6.00 | 6.00 | 0.83 |
| 安山岩 | | | | | 2 | 2 | 1.69 |
| | | | | | 3.70 | 3.70 | 0.51 |
| メノウ | | | | | 1 | 1 | 0.85 |
| | | | | | 2.08 | 2.08 | 0.29 |
| 泥岩 | | | | | 1 | 1 | 0.85 |
| | | | | | 0.96 | 0.96 | 0.13 |
| 緑泥片岩 | | | | | 1 | 1 | 0.85 |
| | | | | | 7.65 | 7.65 | 1.06 |
| 不明 | | | | 2 | 7 | 9 | 7.63 |
| | | | | 30.98 | 35.49 | 66.47 | 9.18 |
| 合計（点数） | 1 | 1 | 3 | 42 | 71 | 118 | 100.00 |
| 合計（重量） | 2.07 | 1.95 | 0.39 | 480.41 | 239.16 | 723.98 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 0.85 | 0.85 | 2.54 | 35.59 | 60.17 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 0.29 | 0.27 | 0.05 | 66.36 | 33.03 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（g）

| 石器集中2 | 楔形石器 | 彫刻刀形石器 | 剝片 | 破片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 | 1 | | 19 | 28 | | | 48 | 59.26 |
| | 2.33 | | 8.86 | 1.24 | | | 12.43 | 4.35 |
| チャート | 2 | | | 1 | 4 | 7 | 14 | 17.28 |
| | 7.40 | | | 0.01 | 55.26 | 20.19 | 82.86 | 29.01 |
| 流紋岩 | | | | | 3 | 3 | 6 | 7.41 |
| | | | | | 62.38 | 16.33 | 78.71 | 27.55 |
| 珪質頁岩 | 2 | 1 | | | | 2 | 5 | 6.17 |
| | 11.41 | 23.02 | | | | 3.06 | 37.49 | 13.12 |
| 砂岩 | | | | | 2 | 3 | 5 | 6.17 |
| | | | | | 40.45 | 10.12 | 50.57 | 17.70 |
| 安山岩 | | | 1 | | 1 | | 2 | 2.47 |
| | | | 10.01 | | 10.24 | | 20.25 | 7.09 |
| 不明 | | | | | 1 | | 1 | 1.23 |
| | | | | | 3.34 | | 3.34 | 1.17 |
| 合計（点数） | 5 | 1 | 20 | 29 | 11 | 15 | 81 | 100.00 |
| 合計（重量） | 21.14 | 23.02 | 18.87 | 1.25 | 171.67 | 49.7 | 285.65 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 6.17 | 1.23 | 24.69 | 35.80 | 13.58 | 18.52 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 7.40 | 8.06 | 6.61 | 0.44 | 60.10 | 17.40 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（g）

| 石器集中3 | ナイフ形石器 | 楔形石器 | R剝片 | 剝片 | 破片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 珪質頁岩 | 1 | 1 | 1 | 5 | | | | 8 | 36.36 |
| | 2.51 | 0.33 | 1.01 | 5.43 | | | | 9.28 | 21.59 |
| 黒曜石 | | | 1 | 3 | 1 | | | 5 | 22.73 |
| | | | 0.45 | 2.84 | 0.15 | | | 3.44 | 8.00 |
| チャート | | | | | | 1 | 2 | 3 | 13.64 |
| | | | | | | 9.19 | 4.19 | 13.38 | 31.13 |
| ホルンフェルス | | | | 2 | | | | 2 | 9.09 |
| | | | | 8.63 | | | | 8.63 | 20.08 |
| 頁岩 | | | | 2 | | | | 2 | 9.09 |
| | | | | 0.92 | | | | 0.92 | 2.14 |
| 砂岩 | | | | | | | 2 | 2 | 9.09 |
| | | | | | | | 7.33 | 7.33 | 17.05 |
| 合計（点数） | 1 | 1 | 2 | 12 | 1 | 1 | 4 | 22 | 100.00 |
| 合計（重量） | 2.51 | 0.33 | 1.46 | 17.82 | 0.15 | 9.19 | 11.52 | 42.98 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 4.55 | 4.55 | 9.09 | 54.55 | 4.55 | 4.55 | 18.18 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 5.84 | 0.77 | 3.40 | 41.46 | 0.35 | 21.38 | 26.80 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（g）

第1表　石材と器種組成　石器集中1～3

| 石器集中4a・b | ナイフ形石器 | 彫刻刀形石器 | 楔形石器 | 楔形石器調整剥片 | スクレイパー | R剥片 | U剥片 | 石核 | 打面再生剥片 | 剥片 | 砕片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石A | 1 | | 6 | 7 | | 1 | 2 | | | 64 | 58 | | | 139 | 36.48 |
| | 3.82 | | 16.12 | 2.04 | | 1.20 | 6.30 | | | 43.00 | 3.58 | | | 76.06 | 5.33 |
| 珪質頁岩 | | | | 1 | | | | | | 4 | 4 | 2 | 2 | 13 | 3.41 |
| | | | | 2.45 | | | | | | 1.16 | 0.15 | 0.18 | 0.71 | 4.65 | 0.33 |
| 珪質頁岩1 | 1 | | 6 | 3 | | | | | | 35 | 1 | | | 46 | 12.07 |
| | 2.69 | | 16.14 | 2.87 | | | | | | 28.61 | 0.11 | | | 50.42 | 3.53 |
| 珪質頁岩A | | | 1 | 4 | | 1 | 2 | | | 23 | 20 | | | 51 | 13.39 |
| | | | 2.70 | 0.78 | | 4.30 | 3.36 | | | 11.37 | 1.11 | | | 23.62 | 1.66 |
| 珪質頁岩A1 | | 1 | 1 | 3 | | | 1 | | | 1 | | | | 7 | 1.84 |
| | | 2.90 | 2.13 | 1.77 | | | 15.81 | | | 8.93 | | | | 31.54 | 2.21 |
| 珪質頁岩A2 | | | | | | | | 1 | | 3 | | | | 4 | 1.05 |
| | | | | | | | | 9.02 | | 5.42 | | | | 14.44 | 1.01 |
| 珪質頁岩A3 | | | 4 | 1 | | | 1 | | | | | | | 6 | 1.57 |
| | | | 11.94 | 1.12 | | | 2.14 | | | | | | | 15.20 | 1.07 |
| 珪質頁岩A4 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 3 | 0.79 |
| | | | 5.96 | 0.60 | | | | | | | | | | 6.56 | 0.46 |
| 珪質頁岩A5 | | | 1 | 2 | | | | | | 3 | | | | 6 | 1.57 |
| | | | 3.25 | 2.18 | | | | | | 2.52 | | | | 7.95 | 0.56 |
| 珪質頁岩A6 | | | | | | | | | | 3 | | | | 3 | 0.79 |
| | | | | | | | | | | 4.35 | | | | 4.35 | 0.30 |
| チャート | | | 1 | 2 | | | | | | 4 | 1 | 6 | 4 | 18 | 4.72 |
| | | | 17.03 | 3.87 | | | | | | 4.20 | 0.04 | 170.42 | 38.48 | 234.04 | 16.40 |
| チャート1 | | | 4 | 3 | | | | | | | | | | 7 | 1.84 |
| | | | 56.85 | 23.57 | | | | | | | | | | 80.42 | 5.64 |
| チャート2 | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 0.52 |
| | | | 27.81 | | | | | | | | | | | 27.81 | 1.95 |
| チャート3 | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 0.52 |
| | | | 46.60 | | | | | | | | | | | 46.60 | 3.27 |
| チャート4 | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | 3 | 0.79 |
| | | | 21.99 | 24.16 | | | | | | | | | | 46.15 | 3.23 |
| チャート5 | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | 2.56 | | | | | | | | | | 2.56 | 0.18 |
| ホルンフェルス | | | | 1 | | | | 1 | | 8 | 2 | | | 12 | 3.15 |
| | | | | 1.65 | | | | 66.04 | | 82.51 | 0.32 | | | 150.52 | 10.55 |
| ホルンフェルス1 | | | | | 1 | | 1 | | | 5 | | | | 7 | 1.84 |
| | | | | | 79.10 | | 51.61 | | | 83.01 | | | | 213.72 | 14.98 |
| ホルンフェルス2 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | 35.29 | | | | 35.29 | 2.47 |
| ホルンフェルス3 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | 14.28 | | | | 14.28 | 1.00 |
| ホルンフェルス4 | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | 14.92 | | | 14.42 | | | | 29.34 | 2.06 |
| ホルンフェルス5 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | 4.19 | | | | 4.19 | 0.29 |
| ホルンフェルス6 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | 19.33 | | | | 19.33 | 1.35 |
| 頁岩 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | 19.34 | | | | | | | 0.34 | | | | 19.68 | 1.38 |
| 頁岩1 | | | | | | | | 3 | | 7 | 1 | | | 11 | 2.89 |
| | | | | | | | | 17.80 | | 108.85 | 0.13 | | | 126.78 | 8.88 |
| 珪質頁岩B | 1 | | | 1 | | | | | | 2 | | | | 4 | 1.05 |
| | 3.58 | | | 1.13 | | | | | | 2.78 | | | | 7.49 | 0.52 |
| 珪質頁岩B1 | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | 3 | 0.79 |
| | | | 12.36 | | | | | | | 0.24 | | | | 12.60 | 0.88 |
| メノウ | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 0.26 |
| | | | | | | | | | | 1.28 | | | | 1.28 | 0.09 |
| メノウ1 | | | 1 | 2 | | | | | | 1 | | | | 4 | 1.05 |
| | | | 21.87 | 13.36 | | | | | | 0.20 | | | | 35.43 | 2.48 |
| メノウ2 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 | 0.52 |
| | | | 6.07 | 1.45 | | | | | | | | | | 7.52 | 0.53 |
| 砂岩 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | 3 | 0.79 |
| | | | | 0.23 | | | | | | | | | 8.48 | 8.71 | 0.61 |
| 砂岩1 | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | 4 | 1.05 |
| | | | 15.49 | 5.72 | | | | | | | | | | 21.21 | 1.49 |
| 凝灰岩 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | 8.48 | 0.20 | | | | 8.68 | 0.61 |
| 安山岩 | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | 25.51 | | | | 25.51 | 1.79 |
| 流紋岩 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 0.26 |
| | | | | | | | | | | | | | 9.72 | 9.72 | 0.68 |
| 片岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 0.26 |
| | | | | | | | 3.37 | | | | | | | 3.37 | 0.24 |
| 合計（点数） | 3 | 1 | 38 | 39 | 1 | 2 | 9 | 5 | 1 | 178 | 87 | 8 | 9 | 381 | 100.00 |
| 合計（重量） | 10.09 | 2.90 | 303.65 | 91.51 | 79.10 | 5.50 | 97.51 | 92.86 | 8.48 | 501.99 | 5.44 | 170.60 | 57.39 | 1427.02 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 0.79 | 0.26 | 9.97 | 10.24 | 0.26 | 0.52 | 2.36 | 1.31 | 0.26 | 46.72 | 22.83 | 2.10 | 2.36 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 0.71 | 0.20 | 21.28 | 6.41 | 5.54 | 0.39 | 6.83 | 6.51 | 0.59 | 35.18 | 0.38 | 11.95 | 4.02 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（g）

第2表　石材と器種組成　石器集中4a・b

| 石器集中４ａ | ナイフ形石器 | 彫刻刀形石器 | 楔形石器 | 楔形石器調整剥片 | スクレイパー | Ｒ剥片 | Ｕ剥片 | 石核 | 打面再生剥片 | 剥片 | 砕片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石Ａ | 1 | | 6 | 7 | | 1 | 1 | | | 62 | 57 | | | 135 | 46.39 |
| | 3.82 | | 16.12 | 2.04 | | 1.20 | 0.16 | | | 41.75 | 3.53 | | | 68.62 | 18.60 |
| 珪質頁岩 | | | | | | | | | | 4 | 3 | 2 | 2 | 11 | 3.78 |
| | | | | | | | | | | 1.16 | 0.10 | 0.18 | 0.71 | 2.15 | 0.58 |
| 珪質頁岩１ | 1 | | 6 | 3 | | | | | | 34 | 1 | | | 45 | 15.46 |
| | 2.69 | | 16.14 | 2.87 | | | | | | 26.76 | 0.11 | | | 48.57 | 13.17 |
| 珪質頁岩Ａ | | | | 4 | | 1 | 1 | | | 21 | 20 | | | 47 | 16.15 |
| | | | | 0.78 | | 4.30 | 0.42 | | | 9.19 | 1.11 | | | 15.80 | 4.28 |
| 珪質頁岩Ａ１ | | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | 4 | 1.37 |
| | | 2.90 | 2.13 | 1.27 | | | | | | | | | | 6.30 | 1.71 |
| 珪質頁岩Ａ２ | | | | | | | | 1 | | 3 | | | | 4 | 1.37 |
| | | | | | | | | 9.02 | | 5.42 | | | | 14.44 | 3.91 |
| 珪質頁岩Ａ３ | | | 4 | 1 | | | 1 | | | | | | | 6 | 2.06 |
| | | | 11.94 | 1.12 | | | 2.14 | | | | | | | 15.20 | 4.12 |
| 珪質頁岩Ａ４ | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 0.69 |
| | | | 5.96 | | | | | | | | | | | 5.96 | 1.62 |
| 珪質頁岩Ａ５ | | | 1 | 2 | | | | | | 3 | | | | 6 | 2.06 |
| | | | 3.25 | 2.18 | | | | | | 2.52 | | | | 7.95 | 2.16 |
| 珪質頁岩Ａ６ | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.69 |
| | | | | | | | | | | 2.90 | | | | 2.90 | 0.79 |
| チャート | | | | | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 6 | 2.06 |
| | | | | | | | | | | | 0.04 | 1.57 | 4.97 | 6.58 | 1.78 |
| チャート１ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| チャート２ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| チャート３ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| チャート４ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| チャート５ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス | | | | 1 | | | | | | 4 | 1 | | | 6 | 2.06 |
| | | | | 1.65 | | | | | | 62.60 | 0.20 | | | 64.45 | 17.47 |
| ホルンフェルス１ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス２ | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 0.69 |
| | | | | | | | | | | 35.29 | | | | 35.29 | 9.57 |
| ホルンフェルス３ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス４ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス５ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス６ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 頁岩 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | 0.34 | | | | 0.34 | 0.09 |
| 頁岩１ | | | | | | | | | | 3 | | | | 3 | 1.03 |
| | | | | | | | | | | 25.62 | | | | 25.62 | 6.95 |
| 珪質頁岩Ｂ | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | 3 | 1.03 |
| | | | | 1.13 | | | | | | 2.78 | | | | 3.91 | 1.06 |
| 珪質頁岩Ｂ１ | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | 3 | 1.03 |
| | | | 12.36 | | | | | | | 0.24 | | | | 12.60 | 3.42 |
| メノウ | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | 1.28 | | | | 1.28 | 0.35 |
| メノウ１ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| メノウ２ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 砂岩 | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 0.34 |
| | | | | 0.23 | | | | | | | | | | 0.23 | 0.06 |
| 砂岩１ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 凝灰岩 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 0.69 |
| | | | | | | | | | 8.48 | 0.20 | | | | 8.68 | 2.35 |
| 安山岩 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | 22.01 | | | | 22.01 | 5.97 |
| 流紋岩 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 片岩 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 合計（点数） | 2 | 1 | 22 | 22 | 0 | 2 | 3 | 1 | 1 | 145 | 83 | 5 | 4 | 291 | 100.00 |
| 合計（重量） | 6.51 | 2.90 | 67.90 | 13.27 | 0.00 | 5.50 | 2.72 | 9.02 | 8.48 | 240.06 | 5.09 | 1.75 | 5.68 | 368.88 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 0.69 | 0.34 | 7.56 | 7.56 | 0.00 | 0.69 | 1.03 | 0.34 | 0.34 | 49.83 | 28.52 | 1.72 | 1.37 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 1.76 | 0.79 | 18.41 | 3.60 | 0.00 | 1.49 | 0.74 | 2.45 | 2.30 | 65.08 | 1.38 | 0.47 | 1.54 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（ｇ）

第３表　石材と器種組成　石器集中４ａ

| 石器集中４ｂ | ナイフ形石器 | 彫刻刀形石器 | 楔形石器 | 楔形石器調整剥片 | スクレイパー | R剥片 | U剥片 | 石核 | 打面再生剥片 | 剥片 | 砕片 | 礫 | 礫片 | 合計 | 組成比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石Ａ | | | | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | 4 | 4.44 |
| | | | | | | | 6.14 | | | 1.25 | 0.05 | | | 7.44 | 0.70 |
| 珪質頁岩 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | 2 | 2.22 |
| | | | | 2.45 | | | | | | | 0.05 | | | 2.50 | 0.24 |
| 珪質頁岩１ | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1.11 |
| | | | | | | | | | | 1.85 | | | | 1.85 | 0.17 |
| 珪質頁岩Ａ | | | 1 | | | | 1 | | | 2 | | | | 4 | 4.44 |
| | | | 2.70 | | | | 2.94 | | | 2.18 | | | | 7.82 | 0.74 |
| 珪質頁岩Ａ１ | | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 3 | 3.33 |
| | | | | 0.50 | | | 15.81 | | | 8.93 | | | | 25.24 | 2.39 |
| 珪質頁岩Ａ２ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 珪質頁岩Ａ３ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 珪質頁岩Ａ４ | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1.11 |
| | | | | 0.60 | | | | | | | | | | 0.60 | 0.06 |
| 珪質頁岩Ａ５ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 珪質頁岩Ａ６ | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1.11 |
| | | | | | | | | | | 1.45 | | | | 1.45 | 0.14 |
| チャート | | | 1 | 2 | | | | | | 4 | | 3 | 2 | 12 | 13.33 |
| | | | 17.03 | 3.87 | | | | | | 4.20 | | 168.85 | 33.51 | 227.46 | 21.50 |
| チャート１ | | | 4 | 3 | | | | | | | | | | 7 | 7.78 |
| | | | 56.85 | 23.57 | | | | | | | | | | 80.42 | 7.60 |
| チャート２ | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 2.22 |
| | | | 27.81 | | | | | | | | | | | 27.81 | 2.63 |
| チャート３ | | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | 2.22 |
| | | | 46.60 | | | | | | | | | | | 46.60 | 4.40 |
| チャート４ | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | 3 | 3.33 |
| | | | 21.99 | 24.16 | | | | | | | | | | 46.15 | 4.36 |
| チャート５ | | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 2.22 |
| | | | | 2.56 | | | | | | | | | | 2.56 | 0.24 |
| ホルンフェルス | | | | | | | | 1 | | 4 | 1 | | | 6 | 6.67 |
| | | | | | | | | 66.04 | | 19.91 | 0.12 | | | 86.07 | 8.13 |
| ホルンフェルス１ | | | | | 1 | | 1 | | | 5 | | | | 7 | 7.78 |
| | | | | | 79.10 | | 51.61 | | | 83.01 | | | | 213.72 | 20.20 |
| ホルンフェルス２ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| ホルンフェルス３ | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 2.22 |
| | | | | | | | | | | 14.28 | | | | 14.28 | 1.35 |
| ホルンフェルス４ | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 2.22 |
| | | | | | | | 14.92 | | | 14.42 | | | | 29.34 | 2.77 |
| ホルンフェルス５ | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 2.22 |
| | | | | | | | | | | 4.19 | | | | 4.19 | 0.40 |
| ホルンフェルス６ | | | | | | | | | | 2 | | | | 2 | 2.22 |
| | | | | | | | | | | 19.33 | | | | 19.33 | 1.83 |
| 頁岩 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 1.11 |
| | | | 19.34 | | | | | | | | | | | 19.34 | 1.83 |
| 頁岩１ | | | | | | | | 3 | | 4 | 1 | | | 8 | 8.89 |
| | | | | | | | | 17.80 | | 83.23 | 0.13 | | | 101.16 | 9.56 |
| 珪質頁岩Ｂ | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1.11 |
| | 3.58 | | | | | | | | | | | | | 3.58 | 0.34 |
| 珪質頁岩Ｂ１ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| メノウ | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| メノウ１ | | | 1 | 2 | | | | | | 1 | | | | 4 | 4.44 |
| | | | 21.87 | 13.36 | | | | | | 0.20 | | | | 35.43 | 3.35 |
| メノウ２ | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 2 | 2.22 |
| | | | 6.07 | 1.45 | | | | | | | | | | 7.52 | 0.71 |
| 砂岩 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 2.22 |
| | | | | | | | | | | | | | 8.48 | 8.48 | 0.80 |
| 砂岩１ | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | 4 | 4.44 |
| | | | 15.49 | 5.72 | | | | | | | | | | 21.21 | 2.00 |
| 凝灰岩 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | | | | 0.00 | 0.00 |
| 安山岩 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1.11 |
| | | | | | | | | | | 3.50 | | | | 3.50 | 0.33 |
| 流紋岩 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1.11 |
| | | | | | | | | | | | | | 9.72 | 9.72 | 0.92 |
| 片岩 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1.11 |
| | | | | | | | 3.37 | | | | | | | 3.37 | 0.32 |
| 合計（点数） | 1 | 0 | 16 | 17 | 1 | 0 | 6 | 4 | 0 | 33 | 4 | 3 | 5 | 90 | 100.00 |
| 合計（重量） | 3.58 | 0.00 | 235.75 | 78.24 | 79.10 | 0.00 | 94.79 | 83.84 | 0.00 | 261.93 | 0.35 | 168.85 | 51.71 | 1058.14 | 100.00 |
| 組成比（点数） | 1.11 | 0.00 | 17.78 | 18.89 | 1.11 | 0.00 | 6.67 | 4.44 | 0.00 | 36.67 | 4.44 | 3.33 | 5.56 | 100.00 | |
| 組成比（重量） | 0.34 | 0.00 | 22.28 | 7.39 | 7.48 | 0.00 | 8.96 | 7.92 | 0.00 | 24.75 | 0.03 | 15.96 | 4.89 | 100.00 | |

上段：点数　下段：重量（g）

第４表　石材と器種組成　石器集中４ｂ

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 調整角 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第9図1 | 3C-83 | 5 | 楔形石器 | 18.6 | 14.5 | 6.5 | 2.07 | | 凝灰岩 | | | X | 48.805 |
| | 3C-66 | 2 | 礫片 | 26.5 | 20.2 | 13.0 | 7.12 | | 不明 | | | X | 48.367 |
| | 3C-67 | 2A | 礫片 | 11.7 | 7.6 | 8.4 | 0.88 | | 安山岩 | | | X | 48.451 |
| | 3C-67 | 2B | 礫片 | | | | 0.30 | | ホルンフェルス | | | X | 48.451 |
| | 3C-67 | 2C | 礫片 | | | | 0.18 | | ホルンフェルス | | | X | 48.451 |
| | 3C-67 | 2D | 礫片 | | | | 0.27 | | ホルンフェルス | | | X | 48.451 |
| | 3C-67 | 3 | 礫片 | 11.0 | 9.0 | 4.2 | 0.54 | | ホルンフェルス | | | X | 48.472 |
| | 3C-67 | 4A | 礫片 | 16.5 | 9.3 | 4.7 | 0.85 | | ホルンフェルス | | | X | 48.453 |
| | 3C-67 | 4B | 礫片 | 14.2 | 13.6 | 7.5 | 1.73 | | ホルンフェルス | | | X | 48.453 |
| | 3C-67 | 4C | 礫片 | 12.2 | 9.3 | 4.1 | 0.66 | | 砂岩 | | | X | 48.453 |
| | 3C-67 | 4D | 礫片 | 11.8 | 8.2 | 5.6 | 0.58 | | ホルンフェルス | | | X | 48.453 |
| | 3C-67 | 5 | 礫片 | 22.4 | 15.2 | 13.9 | 7.65 | | 緑泥片岩 | | | X | 48.462 |
| | 3C-67 | 6A | 礫片 | 21.4 | 14.0 | 9.0 | 3.35 | | 不明 | | | X | 48.478 |
| | 3C-67 | 6B | 礫片 | 11.1 | 8.2 | 5.0 | 0.43 | | 不明 | | | X | 48.478 |
| | 3C-67 | 7 | 礫片 | 13.0 | 10.5 | 4.0 | 0.63 | | 不明 | | | X | 48.482 |
| | 3C-67 | 8 | 遺物なし | | | | | | 遺物なし | | | X | 48.498 |
| | 3C-67 | 9 | 遺物なし | | | | | | 遺物なし | | | X | 48.525 |
| | 3C-73 | 2 | 砕片 | 4.8 | 7.6 | 1.8 | 0.08 | | ホルンフェルス | | | X | 48.899 |
| | 3C-73 | 3 | 砕片 | 6.3 | 13.0 | 2.1 | 0.22 | | ホルンフェルス | | | X | 48.780 |
| | 3C-73 | 4 | 砕片 | 9.7 | 5.8 | 1.4 | 0.09 | | ホルンフェルス | | | X | 48.800 |
| | 3C-73 | 5 | 剝片 | 19.1 | 10.7 | 8.6 | 1.95 | | ホルンフェルス | | | X | 48.843 |
| | 3C-74 | 2 | 礫片 | 27.7 | 19.5 | 12.4 | 5.04 | | 珪質頁岩 | | | X | 48.648 |
| | 3C-75 | 1 | 礫片 | 29.0 | 20.0 | 12.2 | 6.40 | | 砂岩 | | | VII～IX a | 48.696 |
| | 3C-82 | 2 | 礫片 | 15.7 | 15.0 | 5.2 | 1.33 | | ホルンフェルス | | | X | 48.800 |
| | 3C-83 | 2 | 礫片 | 14.3 | 12.2 | 7.2 | 1.29 | | 頁岩 | | | X | 48.857 |
| | 3C-83 | 3 | 礫片 | 10.7 | 6.8 | 5.8 | 0.47 | | ホルンフェルス | | | X | 48.857 |
| | 3C-83 | 4 | 礫 | 37.4 | 21.3 | 13.4 | 13.22 | | 砂岩 | | | X | 48.884 |
| | 3C-84 | 2 | 礫 | 33.7 | 22.2 | 7.8 | 7.68 | | 流紋岩 | | | IX c | 48.969 |
| | 3C-85 | 2 | 礫片 | 19.5 | 27.0 | 4.6 | 2.82 | | 安山岩 | | | X | 48.825 |
| | 3C-87 | 2 | 礫片 | 10.8 | 8.8 | 4.8 | 0.65 | | 頁岩 | | | XI | 48.794 |
| | 3C-93 | 2 | 礫片 | 20.0 | 22.0 | 16.1 | 5.22 | | ホルンフェルス | | | | 48.925 |
| | 3C-93 | 3 | 礫片 | 21.1 | 10.6 | 6.0 | 1.30 | | 珪質頁岩 | | | | 49.009 |
| | 3C-93 | 4 | 礫片 | 11.5 | 7.0 | 5.2 | 0.46 | | ホルンフェルス | | | | 48.817 |
| | 3C-95 | 2 | 礫片 | 15.9 | 11.8 | 5.5 | 1.02 | | 砂岩 | | | X | 48.940 |
| | 3C-95 | 3 | 礫 | 43.8 | 25.1 | 24.8 | 22.60 | | 凝灰岩 | | | X | 48.901 |
| | 3C-95 | 4 | 礫片 | 20.3 | 19.0 | 6.1 | 3.34 | | 珪質頁岩 | | | X | 48.901 |
| | 3C-95 | 5 | 礫 | 44.5 | 32.2 | 21.1 | 31.95 | | チャート | | | X | 49.035 |
| | 3C-95 | 6 | 礫片 | 23.6 | 14.3 | 8.3 | 4.06 | | 頁岩 | | | X | 49.148 |
| | 3C-95 | 7 | 礫 | 43.0 | 33.7 | 12.0 | 25.98 | | 不明 | | | IX c | 49.245 |
| | 3C-96 | 2 | 礫 | 64.5 | 30.2 | 27.1 | 79.65 | | 流紋岩 | | | X | |
| | 3C-96 | 3 | 礫片 | 25.7 | 18.2 | 16.8 | 9.50 | | チャート | | | X | |
| | 3C-96 | 4 | 礫 | 33.8 | 17.9 | 15.9 | 13.31 | | チャート | | | X | |
| | 3C-96 | 5 | 礫 | 10.3 | 8.8 | 7.4 | 1.11 | | チャート | | | X | |
| | 4C-03 | 2 | 礫片 | 21.4 | 14.3 | 6.8 | 2.32 | | 珪質頁岩 | | | XI | 49.042 |
| | 4C-03 | 3 | 礫片 | 22.1 | 15.3 | 10.6 | 3.32 | | 砂岩 | | | XI | 49.094 |
| | 4C-03 | 4 | 礫 | 27.0 | 13.2 | 4.4 | 2.30 | | 流紋岩 | | | XI | 49.052 |
| | 4C-03 | 5 | 礫片 | 17.1 | 15.6 | 10.1 | 3.73 | | チャート | | | X | 49.178 |
| | 4C-04 | 2 | 礫片 | 21.0 | 16.4 | 7.8 | 3.82 | | 流紋岩 | | | XI | 49.055 |
| | 4C-04 | 3 | 礫片 | 16.0 | 9.1 | 5.3 | 0.68 | | チャート | | | XI | 49.135 |
| | 4C-04 | 4 | 礫 | 30.2 | 19.3 | 9.3 | 7.72 | | 砂岩 | | | XI | 49.010 |
| | 4C-05 | 2 | 礫片 | 12.5 | 10.6 | 9.0 | 1.32 | | 珪質頁岩 | | | XI | 49.035 |
| | 4C-05 | 3 | 礫 | 26.3 | 21.6 | 11.0 | 8.07 | | チャート | | | XI | 48.490 |
| | 4C-05 | 4 | 礫片 | 15.4 | 7.7 | 5.8 | 0.70 | | チャート | | | XI | 49.015 |
| | 4C-05 | 5 | 礫 | 15.8 | 15.4 | 4.2 | 1.58 | | 流紋岩 | | | XI | 49.045 |
| | 4C-05 | 6 | 礫片 | 22.8 | 13.4 | 6.6 | 2.82 | | 流紋岩 | | | XI | 48.949 |
| | 4C-05 | 7 | 礫片 | 32.9 | 24.4 | 6.1 | 6.42 | | 流紋岩 | | | XI | 49.126 |
| | 4C-05 | 8 | 礫片 | 20.4 | 13.4 | 10.7 | 2.21 | | チャート | | | X | 49.019 |
| | 4C-05 | 9 | 礫 | 32.5 | 17.7 | 12.6 | 10.55 | | 砂岩 | | | X | 49.326 |
| | 4C-06 | 2 | 礫片 | 26.0 | 12.2 | 11.4 | 4.00 | | 珪質頁岩 | | | X | 49.233 |
| | 4C-06 | 3 | 礫片 | 16.1 | 13.5 | 10.4 | 2.3 | | 流紋岩 | | | X | 49.317 |
| | 4C-06 | 4A | 礫片 | 12.2 | 9.6 | 8.4 | 1.35 | | 流紋岩 | | | X | 49.212 |
| | 4C-06 | 4B | 礫 | 38.2 | 24.0 | 18.9 | 19.60 | | チャート | | | | |
| | 4C-06 | 5 | 礫 | 14.6 | 10.0 | 6.2 | 1.20 | | 砂岩 | | | X | 49.268 |
| | 4C-06 | 6 | 礫片 | 20.2 | 9.9 | 4.6 | 1.00 | | ホルンフェルス | | | XI | 49.136 |
| | 4C-06 | 7 | 礫片 | 13.1 | 6.2 | 2.1 | 0.20 | | ホルンフェルス | | | XI | 49.165 |
| | 4C-06 | 8 | 礫 | 41.5 | 22.6 | 24.4 | 27.87 | | チャート | | | XI | 49.291 |
| | 4C-06 | 9 | 礫片 | 15.7 | 9.8 | 6.5 | 1.15 | | 砂岩 | | | XI | 49.136 |
| | 4C-06 | 10 | 礫 | 17.0 | 6.0 | 4.5 | 0.64 | | チャート | | | XI | 49.209 |
| | 4C-06 | 11 | 礫片 | 27.3 | 11.3 | 10.4 | 4.62 | | 砂岩 | | | X | 49.327 |
| | 4C-06 | 12 | 礫 | 37.9 | 13.5 | 12.5 | 8.11 | | 流紋岩 | | | X | 49.335 |
| | 4C-06 | 13 | 礫片 | 13.3 | 18.3 | 9.2 | 2.52 | | ホルンフェルス | | | X | 49.377 |
| | 4C-06 | 14 | 礫片 | 10.5 | 9.8 | 3.9 | 0.44 | | ホルンフェルス | | | X | 49.340 |

第5表　石器観察表　石器集中1（1）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 調整角 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4C-13 | 2 | 礫 | 29.3 | 21.3 | 7.1 | 6.28 | | 珪質頁岩 | | | X | |
| | 4C-13 | 3 | 礫片 | 25.5 | 16.6 | 12.2 | 5.00 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-13 | 4 | 礫片 | 18.3 | 11.1 | 3.9 | 1.23 | | 砂岩 | | | XI | |
| | 4C-13 | 5 | 礫片 | 28.2 | 24.0 | 18.5 | 12.03 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-13 | 6 | 礫 | 23.3 | 8.1 | 6.8 | 1.36 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-13 | 7 | 礫片 | 20.4 | 14.0 | 8.5 | 3.04 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-13 | 8 | 礫片 | 24.3 | 8.7 | 8.8 | 2.08 | | メノウ | | | XI | |
| | 4C-13 | 9 | 遺物なし | | | | | | 遺物なし | | | XI | |
| | 4C-13 | 10 | 礫片 | 17.0 | 11.8 | 7.0 | 1.81 | | ホルンフェルス | | | XI | |
| | 4C-14 | 2 | 礫片 | 43.3 | 25.5 | 23.0 | 33.75 | | 凝灰岩 | | | XI | 49.156 |
| | 4C-14 | 3 | 礫片 | 22.3 | 21.6 | 14.7 | 6.00 | | チャート | | | XI | 49.170 |
| | 4C-14 | 4 | 礫片 | 25.6 | 16.7 | 14.5 | 7.21 | | 不明 | | | XI | 49.438 |
| | 4C-15 | 2 | 礫片 | 22.1 | 12.3 | 4.4 | 1.36 | | 流紋岩 | | | XI | 49.265 |
| | 4C-15 | 3 | 礫 | 44.8 | 20.6 | 12.0 | 15.03 | | 流紋岩 | | | XI | 49.160 |
| | 4C-15 | 4 | 礫片 | 23.6 | 13.2 | 11.0 | 3.73 | | 砂岩 | | | XI | 49.305 |
| | 4C-15 | 5 | 礫 | 31.5 | 19.8 | 13.4 | 12.16 | | チャート | | | XI | 49.339 |
| | 4C-16 | 2 | 礫片 | 20.0 | 14.2 | 5.7 | 2.21 | | 流紋岩 | | | X | 49.337 |
| | 4C-16 | 3 | 礫 | 18.1 | 11.8 | 8.3 | 1.30 | | チャート | | | XI | 49.260 |
| | 4C-16 | 4 | 礫片 | 16.9 | 16.0 | 8.6 | 2.80 | | 不明 | | | XI | 49.319 |
| | 4C-16 | 5 | 礫 | 22.0 | 20.2 | 18.2 | 12.78 | | チャート | | | X | 49.500 |
| | 4C-16 | 6 | 礫片 | 14.0 | 7.5 | 4.5 | 0.57 | | 珪質頁岩 | | | X | 49.439 |
| | 4C-17 | 2 | 礫 | 25.5 | 20.0 | 13.7 | 7.55 | | 珪質頁岩 | | | X | 49.545 |
| | 4C-17 | 4 | 礫 | 17.2 | 5.9 | 5.5 | 0.64 | | 珪質頁岩 | | | XI | 49.337 |
| | 4C-23 | 2 | 礫片 | 17.8 | 14.5 | 6.7 | 1.81 | | 砂岩 | | | X | |
| | 4C-23 | 3 | 礫 | 41.0 | 21.3 | 19.8 | 16.52 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-23 | 4 | 礫片 | 27.0 | 21.0 | 8.4 | 5.33 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-23 | 5A | 礫 | 21.7 | 18.3 | 14.5 | 7.58 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-23 | 5B | 礫 | 11.3 | 4.0 | 2.3 | 0.10 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-23 | 6 | 礫片 | | | | 4.82 | | 流紋岩 | | | XI | |
| | 4C-23 | 7 | 礫 | 29.8 | 20.5 | 10.7 | 8.93 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-23 | 8 | 遺物なし | | | | | | 遺物なし | | | XI | |
| | 4C-23 | 9 | 礫 | 34.8 | 15.0 | 15.3 | 13.37 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-23 | 10 | 礫片 | 17.2 | 17.2 | 5.4 | 2.12 | | 流紋岩 | | | XI | |
| | 4C-23 | 11 | 礫 | 6.0 | 4.3 | 2.4 | 0.07 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-23 | 12 | 礫片 | 8.3 | 5.8 | 1.8 | 0.15 | | 珪質頁岩 | | | XI | |
| | 4C-23 | 13 | 遺物なし | | | | 0.11 | | 遺物なし | | | XI | |
| | 4C-23 | 14 | 礫片 | 6.9 | 4.9 | 1.9 | 0.06 | | チャート | | | XI | |
| | 4C-24 | 2 | 礫 | 33.8 | 22.3 | 8.0 | 8.44 | | チャート | | | X | 49.335 |
| | 4C-25 | 2A | 礫 | 27.2 | 19.3 | 12.0 | 8.97 | | チャート | | | X | 49.289 |
| | 4C-25 | 2B | 礫 | 26.2 | 10.1 | 10.8 | 3.74 | | チャート | | | X | 49.289 |
| | 4C-25 | 3 | 礫片 | 27.8 | 20.0 | 14.9 | 12.84 | | 砂岩 | | | XI | 49.198 |
| | 4C-25 | 4 | 遺物なし | | | | | | 遺物なし | | | XI | 49.177 |
| | 4C-25 | 5 | 礫片 | 20.3 | 11.2 | 4.9 | 0.96 | | 泥岩 | | | IX | 49.627 |
| | 4C-25 | 6A | 礫 | 26.5 | 18.4 | 5.6 | 3.95 | | 砂岩 | | | IX | 49.629 |
| | 4C-25 | 6B | 礫 | 16.6 | 11.1 | 9.1 | 2.07 | | 珪質頁岩 | | | IX | 49.629 |
| | 4C-25 | 7 | 礫 | 36.0 | 25.5 | 21.9 | 19.57 | | チャート | | | XI | 49.191 |
| | 4C-25 | 8A | 礫 | 35.1 | 24 | 16.2 | 18.44 | | チャート | | | X | 49.336 |
| | 4C-25 | 8B | 礫片 | 18.1 | 11.5 | 7.1 | 1.31 | | 砂岩 | | | X | 49.336 |
| | 4C-26 | 2 | 礫 | 30.0 | 17.7 | 5.8 | 5.00 | | 不明 | | | X | 49.450 |
| | 4C-26 | 3 | 礫 | 29.4 | 15.3 | 16.1 | 8.85 | | チャート | | | X | 49.627 |
| | 4C-26 | 4 | 礫 | 33.6 | 18.8 | 16.6 | 14.57 | | 珪質頁岩 | | | IX | 49.891 |

第6表　石器観察表　石器集中1（2）

## 第7表　石器観察表　石器集中2（1）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | O | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図1 | 3D-12 | 3 | 楔形石器 | 18.8 | 16.5 | 11.5 | 4.57 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | IXc | 48.236 |
| 第13図2 | 3D-13 | 11 | 楔形石器 | 23.5 | 17.5 | 12.5 | 5.99 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | X | 48.378 |
| 第13図3 | 2D-93 | 2 | 楔形石器 | 24.9 | 15.0 | 9.0 | 2.33 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IXc | 48.428 |
| 第13図4 | 2D-92 | 2 | 楔形石器 | | | | 5.42 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 47.975 |
| 第13図5 | 3D-12 | 2 | 楔形石器 | 16.2 | 20.3 | 8.6 | 2.83 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI | 48.460 |
| 第13図6 | 3D-03 | 28 | 剥片 | 12.2 | 12.7 | 3.3 | 0.33 | 2 | 108 | ○ | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.535 |
| 第13図7 | 3D-03 | 29 | 剥片 | 13.3 | 15.4 | 2.5 | 0.44 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.514 |
| 第13図8 | 3D-03 | 48 | 剥片 | 12.2 | 13.9 | 1.8 | 0.19 | P | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | X | 48.334 |
| 第13図9 | 3D-02 | 8 | 剥片 | 14.6 | 20.5 | 3.9 | 0.93 | L | | | | | 3 | | | | | 1 | | | | | | 黒曜石 | | | X | 48.393 |
| 第13図10 | 3D-12 | 6 | 剥片 | 14.4 | 4.7 | 2.9 | 0.15 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | | |
| 第13図11 | 3D-03 | 9 | 剥片 | 18.1 | 9.6 | 3.9 | 0.60 | 1 | 111 | ○ | | | 4 | | | | | | | | | R | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.390 |
| 第13図12 | 3D-03 | 10 | 剥片 | 17.2 | 13.6 | 4.2 | 0.62 | 1 | 106 | ○ | | | | | | 1 | | | | | | L | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.369 |
| 第13図13 | 3D-02 | 3 | 彫刻刀形石器 | 77.4 | 24.3 | 15.0 | 23.02 | P | | | ○ | ○ | | 1 | | | 6 | 1 | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 48.296 |
| | 2D-94 | 2 | 鉄分塊 | | | | 4.86 | | | | | | | | | | | | | | | | | 鉄分塊 | | | XI | 48.125 |
| | 2D-94 | 3 | 礫 | | | | 10.75 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | XI | 48.291 |
| | 2D-94 | 4 | 剥片 | 27.1 | 42.2 | 6.2 | 10.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 安山岩 | | | X | 48.481 |
| | 3D-02 | 2 | 礫 | 24.6 | 24.4 | 15.3 | 11.52 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | 48.075 |
| | 3D-02 | 4 | 砕片 | 3.6 | 6.9 | 1.3 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | | 48.296 |
| | 3D-02 | 5 | 剥片 | 17.7 | 16.1 | 5.3 | 1.06 | | | | | | 3 | | | | 1 | | | | | LT・H | H | 黒曜石 | | | | 48.641 |
| | 3D-02 | 6 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 48.500 |
| | 3D-02 | 7 | 砕片 | 3.3 | 1.8 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | 48.465 |
| | 3D-02 | 9 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | IX | 48.364 |
| | 3D-02 | 10 | 砕片 | 7.0 | 7.1 | 3.1 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IX | 48.195 |
| | 3D-03 | 2 | 剥片 | 9.2 | 12.4 | 2.5 | 0.20 | P | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | X | 48.306 |
| | 3D-03 | 4 | 礫 | 39.4 | 34.0 | 22.0 | 32.45 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | X | 48.175 |
| | 3D-03 | 5 | 礫片 | 20.5 | 12.7 | 7.3 | 2.49 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | X | 48.206 |
| | 3D-03 | 6 | 砕片 | 4.3 | 5.8 | 2.1 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IX | 48.267 |
| | 3D-03 | 7 | 礫 | 47.2 | 27.2 | 20.6 | 32.25 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | XI | 48.167 |
| | 3D-03 | 8 | 礫片 | 20.7 | 14.9 | 12.1 | 3.39 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | IXc | 48.434 |
| | 3D-03 | 11 | 剥片 | 24.7 | 10.8 | 4.2 | 0.87 | 1 | 101 | ○ | | | 4 | | | | | | | | | R | F | 黒曜石 | | | X | 48.156 |
| | 3D-03 | 12 | 礫片 | 18.5 | 14.1 | 9.0 | 2.24 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Xc | 48.293 |
| | 3D-03 | 13 | 礫片 | 18.7 | 11.3 | 4.6 | 1.20 | P | | | ○ | | | | | | | | | | | | | チャート | | | IXc | 48.350 |
| | 3D-03 | 14 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | XI | 48.135 |
| | 3D-03 | 15 | 剥片 | 18.0 | 16.4 | 3.8 | 0.76 | 1 | 111 | ○ | | | 1 | | | | | | | | | T | | 黒曜石 | | | X | 48.339 |
| | 3D-03 | 16 | 剥片 | 12.2 | 11.3 | 3.5 | 0.36 | P | | | | | | | 1 | | | | | | | R | H | 黒曜石 | | | X | 48.247 |
| | 3D-03 | 17 | 砕片 | 5.0 | 4.7 | 0.8 | 0.01 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.337 |
| | 3D-03 | 18 | 砕片 | 4.8 | 8.0 | 1.0 | 0.03 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.336 |
| | 3D-03 | 19 | 砕片 | 7.5 | 7.1 | 1.7 | 0.04 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.375 |
| | 3D-03 | 20 | 砕片 | 4.9 | 7.2 | 1.2 | 0.03 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.391 |
| | 3D-03 | 21 | 砕片 | 5.2 | 5.5 | 1.1 | 0.02 | P | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.406 |
| | 3D-03 | 22 | 砕片 | 8.7 | 5.7 | 2.5 | 0.09 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IX | 48.431 |
| | 3D-03 | 23 | 砕片 | 4.0 | 4.8 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IX | 48.371 |
| | 3D-03 | 24 | 砕片 | 8.2 | 7.3 | 1.5 | 0.07 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | H | 黒曜石 | | | IX | 48.468 |
| | 3D-03 | 25 | 砕片 | 7.8 | 3.3 | 2.4 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IX | 48.303 |
| | 3D-03 | 26 | 剥片 | 16.1 | 11.5 | 5.5 | 0.52 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.384 |
| | 3D-03 | 27 | 砕片 | 4.3 | 9.5 | 1.0 | 0.03 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | T | | 黒曜石 | | | IXc | 48.415 |
| | 3D-03 | 30 | 剥片 | 13.8 | 10.3 | 4.1 | 0.56 | | | | | | | | | 3 | | | | | | H・L | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.502 |
| | 3D-03 | 31 | 砕片 | 5.1 | 13.2 | 2.1 | 0.09 | | | | | | | | | 1 | | | | | | H | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.487 |
| | 3D-03 | 32 | 砕片 | 6.3 | 5.4 | 2.1 | 0.05 | P | | | | | | | | | | | | | | | H | 黒曜石 | | | IXc | 48.504 |
| | 3D-03 | 33 | 剥片 | 22.1 | 7.0 | 2.7 | 0.31 | P | | | | | 4 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.452 |
| | 3D-03 | 34 | 砕片 | 8.8 | 7.4 | 1.1 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | IXc | 48.353 |
| | 3D-03 | 35 | 砕片 | 5.2 | 7.3 | 1.2 | 0.03 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | XI | 48.009 |
| | 3D-03 | 36 | 砕片 | 4.2 | 4.1 | 0.7 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | IX | 48.362 |
| | 3D-03 | 37 | 砕片 | 9.2 | 5.2 | 1.9 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | L・R | F | 黒曜石 | | | IX | 48.347 |
| | 3D-03 | 38 | 剥片 | 10.5 | 16.5 | 3.2 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | | H | H | 黒曜石 | | | IX | 48.311 |

## 第8表　石器観察表　石器集中2（2）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-03 | 39 | 剥片 | 26.4 | 8.2 | 3.2 | 0.34 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | Ⅸ | 48.393 |
| | 3D-03 | 40 | 砕片 | 5.5 | 3.7 | 1.5 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅸ | 48.383 |
| | 3D-03 | 41 | 砕片 | 3.2 | 5.2 | 0.5 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.235 |
| | 3D-03 | 42 | 剥片 | 11.1 | 11.1 | 3.5 | 0.26 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.138 |
| | 3D-03 | 43 | 砕片 | 6.9 | 9.2 | 3.3 | 0.15 | | | | | | | | | 1 | | | | | | H | F | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.211 |
| | 3D-03 | 44 | 礫片 | 17.0 | 8.1 | 4.2 | 0.61 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅺ | 47.996 |
| | 3D-03 | 45 | 砕片 | 7.0 | 11.7 | 2.0 | 0.10 | P | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | F | 黒曜石 | | | Ⅺ | 48.258 |
| | 3D-03 | 46 | 砕片 | 5.1 | 3.5 | 1.1 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.298 |
| | 3D-03 | 47 | 砕片 | 5.4 | 4.5 | 1.2 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.334 |
| | 3D-03 | 49 | 砕片 | 5.4 | 2.8 | 1.3 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.315 |
| | 3D-03 | 50 | 砕片 | 3.1 | 6.8 | 2.0 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | H | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.211 |
| | 3D-03 | 3A | 剥片 | 8.9 | 10.8 | 2.7 | 0.21 | 1 | 122 | | | | 3 | | | | | | | | | | H | 黒曜石 | | | Ⅹ | 48.283 |
| | 3D-03 | 3B | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | |
| | 3D-04 | 2 | 礫 | 25.7 | 21.2 | 12.5 | 8.20 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅺ | 48.165 |
| | 3D-04 | 3 | 礫 | 39.0 | 23.1 | 15.7 | 19.18 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | Ⅺ | 48.169 |
| | 3D-04 | 4 | 礫片 | 26.7 | 21.0 | 8.0 | 6.12 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅸa | 48.641 |
| | 3D-05 | 1 | 礫片 | 15.3 | 12.4 | 8.6 | 2.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | |
| | 3D-12 | 4 | 礫 | 23.7 | 13.3 | 11.9 | 3.34 | | | | | | | | | | | | | | | | | 不明 | | | Ⅸc | 48.162 |
| | 3D-12 | 5 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | |
| | 3D-13 | 2 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | Ⅸc | 48.406 |
| | 3D-13 | 3 | 鉄分塊 | | | | 2.94 | | | | | | | | | | | | | | | | | 鉄分塊 | | | Ⅹc | 48.398 |
| | 3D-13 | 4 | 礫片 | 15.5 | 11.3 | 11.1 | 1.11 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅹc | 48.363 |
| | 3D-13 | 5 | 礫片 | 17.0 | 16.0 | 8.5 | 2.82 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | Ⅺ | 48.189 |
| | 3D-13 | 6 | 礫片 | 31.3 | 19.0 | 10.7 | 5.83 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | Ⅸc | 48.173 |
| | 3D-13 | 7 | 礫片 | 40.1 | 21.0 | 16.9 | 7.68 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | Ⅺ | 48.230 |
| | 3D-13 | 8 | 砕片 | 6.0 | 5.2 | 1.4 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石 | | | Ⅺ | 48.215 |
| | 3D-13 | 9 | 礫 | 39.5 | 36.1 | 23.6 | 37.69 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅺ | 48.251 |
| | 3D-13 | 10 | 礫片 | 28.0 | 23.6 | 16.0 | 10.45 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅺ | 48.572 |
| | 3D-13 | 12 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | Ⅶ | 49.020 |
| | 3D-13 | 13 | 礫 | 6.5 | 4.9 | 2.9 | 0.11 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅺ | 48.237 |
| | 3D-13 | 14 | 礫片 | 18.3 | 10.6 | 6.0 | 1.95 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅹ | 48.333 |
| | 3D-13 | 15 | 礫片 | 11.7 | 14.3 | 7.5 | 1.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅹ | 48.314 |
| | 3D-14 | 2 | 礫片 | 15.3 | 8.9 | 4.6 | 0.76 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅺ | 48.345 |
| | 3D-14 | 3 | 礫 | 34.4 | 21.8 | 9.8 | 10.24 | | | | | | | | | | | | | | | | | 安山岩 | | | Ⅺ | 48.500 |
| | 3D-22 | 2 | 礫 | 24.3 | 16.9 | 11.6 | 5.94 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅺ | 48.176 |

## 第9表　石器観察表　石器集中3

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図1 | 4C-47 | 2 | ナイフ形石器 | 30.2 | 13.8 | 6.5 | 2.51 | 1 | 122 | ○ | | | 3 | | 1 | | | | 90 | 53 | R | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅶ層中 | 50.421 |
| 第15図2 | 4C-57 | 13 | 楔形石器 | 8.1 | 13.9 | 2.8 | 0.33 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅸa上位 | 50.256 |
| 第15図3 | 4C-57 | 9 | R剥片 | 19.7 | 14.5 | 4.9 | 1.01 | P | | | | | 5 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅸa上位 | 50.278 |
| 第15図4 | 4C-57 | 16 | R剥片 | 25.4 | 5.7 | 4.1 | 0.45 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | L | | F | 黒曜石 | | | Ⅸa層上面 | 50.271 |
| 第15図5 | 4C-57 | 10 | 剥片 | 26.0 | 9.0 | 4.7 | 0.95 | P | | | | | 2 | 3 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅸc中位 | 49.991 |
| 第15図6 | 4C-57 | 4 | 剥片 | 41.8 | 22.8 | 6.8 | 5.7 | 1 | 103 | | ○ | | 4 | | | | | | | | | | F | ホルンフェルス | | | Ⅶ層 | 50.385 |
| | 4C-47 | 3 | 礫片 | 27.2 | 18.5 | 8.9 | 5.96 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅸc層中位 | 49.910 |
| | 4C-48 | 2 | 礫片 | 18.9 | 10.1 | 5.4 | 1.25 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅹ層上面 | 49.826 |
| | 4C-57 | 2 | 剥片 | 19.0 | 17.0 | 5.4 | 1.33 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | T | | 珪質頁岩 | | | Ⅸa上面 | 50.349 |
| | 4C-57 | 3 | 剥片 | 22.8 | 23.6 | 7.2 | 2.93 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | H | H | ホルンフェルス | | | Ⅶ層 | 50.410 |
| | 4C-57 | 5 | 砕片 | 8.7 | 7.5 | 2.4 | 0.15 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | H | F | 黒曜石 | | | Ⅶ層 | 50.408 |
| | 4C-57 | 6 | 剥片 | 15.9 | 17.0 | 7.3 | 1.42 | 2 | 97 | | | | 1 | | | | | | | | | T | | 黒曜石 | | | Ⅸa上面 | 50.337 |
| | 4C-57 | 7 | 剥片 | 13.5 | 20.6 | 4.5 | 0.8 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | F | 頁岩 | | | Ⅸa中位 | 50.288 |
| | 4C-57 | 8 | 剥片 | 18.6 | 14.5 | 4.5 | 1.02 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | H・T | | 黒曜石 | | | Ⅸa中位 | 50.267 |
| | 4C-57 | 11 | 剥片 | 23.8 | 11.7 | 3.3 | 0.63 | 1 | 109 | | | | 4 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅸc上面 | 50.206 |
| | 4C-57 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | Ⅸc中位 | 50.217 |
| | 4C-57 | 14 | 剥片 | 15.0 | 21.2 | 5.4 | 1.22 | 1 | 113 | | | | 4 | 1 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅸa上面 | 50.357 |
| | 4C-57 | 15 | 剥片 | 15.5 | 18.5 | 7.7 | 1.3 | 1 | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | F | 珪質頁岩 | | | Ⅸa上面 | 50.245 |
| | 4C-57 | 17 | 剥片 | 11.2 | 9.8 | 3.7 | 0.12 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H・T | | 頁岩 | | | Ⅸc層上面 | 50.141 |
| | 4C-58 | 2 | 剥片 | 11.4 | 10.1 | 4.6 | 0.4 | | | | | ○ | 1 | | | | | | | | | H | H | 黒曜石 | | | Ⅸa上位 | 50.272 |
| | 4C-66 | 2 | 礫片 | 29.1 | 14.7 | 7.1 | 2.94 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅸc中位 | 49.901 |
| | 4C-68 | 2 | 礫 | 27.0 | 18.5 | 13.0 | 9.19 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅸc上位 | 50.088 |
| | 4C-77 | 2 | 礫片 | 25.5 | 11.0 | 6.2 | 1.37 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅸc中位 | 49.974 |

## 第10表　石器観察表　石器集中４（１）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図１ | 3D-97 | 14 | ナイフ形石器 | 36.9 | 21.4 | 7.5 | 3.58 | 1 | 116 | | | | 4 | | | | | | 78 | 72 | L | | | 珪質頁岩Ｂ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.575 |
| 第21図２ | 4D-06 | 5 | ナイフ形石器 | 24.1 | 16.9 | 11.2 | 3.82 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石Ａ | | | | 50.850 |
| 第21図３ | 3D-96 | 194 | 彫刻刀形石器 | 25.4 | 17.1 | 5.6 | 2.90 | | | | | ○ | 4 | | 1 | | | | | | | Ｈ・Ｔ | | 珪質頁岩Ａ１ | | | | 50.354 |
| 第21図４ | 3D-96 | 110 | 楔形石器 | 18.1 | 10.0 | 5.4 | 0.76 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石Ａ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.534 |
| 第21図５ | 3D-96 | 5 | 楔形石器 | 16.7 | 10.7 | 5.2 | 0.86 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石Ａ | | | Ⅲ～Ⅵ | 50.817 |
| 第21図６ | 3D-96 | 130 | 楔形石器 | 23.1 | 14.6 | 6.3 | 1.86 | | | | | | | | | | | | 65.63 | | | | | 黒曜石Ａ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.545 |
| 第21図７ | 3D-96 | 103 | 楔形石器 | 31.7 | 24.0 | 9.4 | 6.96 | | | | | | | | | | | | 73.38 | | | | | 黒曜石Ａ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.570 |
| 第21図８ | 3D-95 | 55 | 楔形石器 | 22.7 | 15.7 | 10.2 | 2.52 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石Ａ | | | | 50.465 |
| 第21図９ | 3D-95 | 1 | 楔形石器 | 25.6 | 20.1 | 7.6 | 3.16 | | | | | | | | | | | | 30.95 | | | | | 黒曜石Ａ | | | Ⅲ | 50.896 |
| 第21図10 | 3D-96 | 175 | 楔形石器 | 18.1 | 13.9 | 6.5 | 11.64 | | | | | | | | | | | | 86.40 | | | | | 珪質頁岩Ｂ１ | | | | 50.430 |
| 第22図11 | 3D-96 | 128 | 楔形石器 | 20.2 | 14.5 | 11.0 | 2.13 | | | | | | | | | | | | 35.70 | | | | | 珪質頁岩Ａ１ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.737 |
| 第22図12 | 3D-96 | 68 | 楔形石器 | 19.4 | 14.3 | 7.6 | 2.17 | | | | | | | | | | | | 52.40 | | | | | 珪質頁岩Ａ３ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.656 |
| 第22図13 | 3D-96 | 158 | 楔形石器 | 25.0 | 23.6 | 8.1 | 4.16 | | | | | | | | | | | | 32.76 | | | | | 珪質頁岩Ａ３ | | | | 50.504 |
| 第22図14 | 3D-96 | 176 | 楔形石器 | 24.8 | 17.2 | 10.8 | 3.55 | | | | | | | | | | | | 20.31 | | | | | 珪質頁岩Ａ３ | | | | 50.418 |
| 第22図15 | 3D-96 | 169 | 楔形石器 | 26.9 | 19.3 | 9.1 | 3.95 | | | | | | | | | | | | 70.82 | | | | | 珪質頁岩Ａ４ | | | | 50.545 |
| 第22図16 | 3D-96 | 24 | 楔形石器 | 19.8 | 16.5 | 6.5 | 2.01 | | | | | | | | | | | | 35.60 | | | | | 珪質頁岩Ａ４ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.847 |
| 第22図17 | 3D-96 | 142 | 楔形石器 | 21.4 | 25.8 | 6.9 | 3.25 | | | | | | | | | | | | 30.40 | | | | | 珪質頁岩Ａ５ | | | | 50.543 |
| 第22図18 | 3D-87 | 28 | 楔形石器 | 20.7 | 24.5 | 5.4 | 2.70 | | | | | | | | | | | | 61.60 | | | | | 珪質頁岩Ａ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.537 |
| 第23図19 | 3D-95 | 41 | 楔形石器 | 20.8 | 9.4 | 5.9 | 1.15 | | | | | | | | | | | | 56.66 | | | | | 珪質頁岩１ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.530 |
| 第23図20 | 3D-97 | 7 | 楔形石器 | 33.3 | 28.3 | 16.0 | 17.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.570 |
| 第23図21 | 3D-98 | 1C | 楔形石器 | 31.2 | 42.0 | 16.9 | 19.34 | | | | | | | | | | | | 75.66 | | | | | 頁岩 | | 一括 | | |
| 第24図22 | 3D-96 | 64 | 楔形石器調整剥片 | 14.9 | 11.7 | 2.9 | 0.37 | P | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | F | 黒曜石Ａ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.693 |
| 第24図23 | 3D-95 | 28 | 剥片 | 21.0 | 9.2 | 5.9 | 1.00 | P | | | ○ | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | Ｔ | | 黒曜石Ａ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.649 |
| 第24図24 | 3D-96 | 78 | 楔形石器調整剥片 | 22.1 | 8.0 | 6.9 | 0.91 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩Ａ１ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.674 |
| 第24図25 | 3D-88 | 9 | 楔形石器調整剥片 | 19.3 | 5.9 | 4.0 | 0.50 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩Ａ１ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.585 |
| 第24図26 | 3D-96 | 21 | 楔形石器調整剥片 | 14.4 | 9.8 | 2.5 | 0.40 | L | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | Ｔ | | 珪質頁岩１ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.826 |
| 第24図27 | 3D-96 | 9 | 楔形石器調整剥片 | 21.5 | 4.5 | 2.2 | 0.14 | P | | | | | 4 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩Ａ | | | Ⅲ～Ⅵ | 50.858 |
| 第24図28 | 3D-95 | 30 | 楔形石器調整剥片 | 23.7 | 13.0 | 5.2 | 1.13 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩Ｂ | | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.698 |
| 第24図29 | 4D-05 | 2A | 楔形石器調整剥片 | 19.0 | 12.2 | 6.7 | 1.55 | 1 | 96 | ○ | | | 4 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩Ａ５ | | | | 50.550 |
| 第24図30 | 4D-06 | 4 | 楔形石器調整剥片 | 15.7 | 16.7 | 2.5 | 0.63 | L | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | 珪質頁岩Ａ５ | | | | 50.550 |
| 第24図31 | 3D-87 | 53 | 楔形石器調整剥片 | 18.6 | 13.0 | 2.5 | 0.60 | L | | ○ | | | 1 | | | 1 | | | | | | | H | 珪質頁岩Ａ４ | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.489 |
| 第24図32 | 4D-06 | 7 | 楔形石器調整剥片 | 25.1 | 18.0 | 3.6 | 1.65 | L | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | F | ホルンフェルス | | | | 50.880 |
| 第24図33 | 3D-96 | 27 | 打面再生剥片 | 37.0 | 31.0 | 9.3 | 8.48 | 2（1） | 106 | | | | 3 | | | 1 | 7 | | | | | | F | 凝灰岩 | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.710 |
| 第24図34 | 3D-87 | 54 | 石核 | 66.9 | 42.6 | 22.5 | 66.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | ホルンフェルス | | | Ⅵ～Ⅶ | 50.525 |
| 第25図35 | 3D-95 | 52 | 楔形石器 | 19.7 | 22.7 | 6.7 | 2.06 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩Ａ３ | 接１ | 楔形石器調整剥片？ | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.503 |
| 第25図36 | 4D-05 | 3 | 楔形石器調整剥片 | 14.5 | 17.2 | 4.6 | 1.12 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | Ｔ | | 珪質頁岩Ａ３ | 接１ | | | 50.591 |
| 第25図37 | 3D-97 | 4 | 楔形石器調整剥片 | 24.9 | 14.2 | 4.7 | 1.45 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | | チャート５ | 接２ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.570 |
| 第25図38 | 3D-97 | 17 | 楔形石器調整剥片 | 25.4 | 8.1 | 5.9 | 1.11 | P | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | F | チャート５ | 接２ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.512 |
| 第25図39 | 3D-95 | 59 | 楔形石器調整剥片 | 24.5 | 8.2 | 8.5 | 1.57 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩１ | 接３ | | | 50.384 |
| 第25図40 | 4D-06 | 3 | 楔形石器 | 26.4 | 14.7 | 8.2 | 2.68 | | | | | | | | | | | | 75.76 | | | | | 珪質頁岩１ | 接３ | | | 50.556 |
| 第25図41 | 3D-95 | 58 | 楔形石器 | 24.7 | 16.9 | 7.0 | 2.88 | | | | | | | | | | | | 60.63 | | | | | 珪質頁岩１ | 接４ | | | 50.480 |
| 第25図42 | 3D-96 | 50 | 楔形石器 | 18.5 | 11.0 | 8.0 | 1.60 | | | | | | | | | | | | 67.71 | | | | | 珪質頁岩１ | 接４ | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.628 |
| 第26図43 | 3D-87 | 61 | 楔形石器調整剥片 | 16.0 | 19.0 | 5.7 | 1.45 | P | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | Ｈ | F | メノウ２ | 接５ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.550 |
| 第26図44 | 3D-98 | 1D | 楔形石器 | 26.3 | 24.3 | 9.0 | 6.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | メノウ２ | 接５ | 一括 | | |
| 第26図45 | 3D-95 | 44 | 楔形石器調整剥片 | 17.9 | 19.1 | 3.1 | 0.90 | L | | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | F | 珪質頁岩１ | 接６ | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.512 |
| 第26図46 | 3D-96 | 62 | 楔形石器 | 31.7 | 25.1 | 5.5 | 3.69 | | | | | | | | | | | | 54.44 | | | | | 珪質頁岩１ | 接６ | | Ⅵ～Ⅸａｂ | 50.703 |
| 第26図47 | 4D-05 | 4 | 楔形石器 | 23.7 | 28.0 | 6.7 | 4.14 | | | | | | | | | | | | 54.39 | | | | | 珪質頁岩１ | 接６ | | | 50.560 |
| 第27図48 | 3D-97 | 3 | 楔形石器調整剥片 | 19.9 | 11.5 | 12.2 | 1.92 | P | | | ○ | | | | | | | | | | | | F | チャート４ | 接７ | | Ⅲ | 50.755 |
| 第27図49 | 3D-97 | 5 | 楔形石器調整剥片 | 43.3 | 25.0 | 15.5 | 22.24 | P | | | ○ | | | | | | | | | | | | O | チャート４ | 接７ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.569 |
| 第27図50 | 3D-88 | 3 | 楔形石器 | 38.8 | 32.2 | 24.0 | 21.99 | | | | | | | | | | | | 45.70 | | | | | チャート４ | 接７ | | Ⅲ | 50.866 |
| 第28図51 | 3D-87 | 52 | 楔形石器調整剥片 | 34.6 | 17.5 | 12.5 | 6.14 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | メノウ１ | 接８ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.644 |
| 第28図52 | 3D-87 | 32 | 楔形石器調整剥片 | 36.2 | 23.7 | 10.4 | 7.22 | | | | ○ | | 1 | 1 | | | | | | | | | | メノウ１ | 接８ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.509 |
| 第28図53 | 3D-87 | 55 | 楔形石器 | 45.3 | 26.9 | 15.7 | 21.87 | | | | | | | | | | | | 89 | | | | | メノウ１ | 接８ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.525 |
| 第29図54 | 3D-87 | 44 | 楔形石器 | 33.9 | 32.5 | 8.3 | 12.81 | | | | | | | | | | | | 47.60 | | | | | チャート２ | 接９ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.544 |
| 第29図55 | 3D-87 | 40 | 楔形石器 | 33.4 | 34.0 | 10.1 | 15.00 | | | | | | | | | | | | 56.56 | | | | | チャート２ | 接９ | | Ⅵ～Ⅶ | 50.557 |
| 第29図56 | 3D-97 | 18 | 楔形石器 | 44.8 | 22.1 | 19.7 | 24.60 | | | | | | | | | | | | 75.90 | | | | | チャート３ | 接10 | | Ⅵ～Ⅶ | 50.610 |
| 第29図57 | 3D-87 | 4 | 楔形石器 | 45.0 | 22.1 | 21.7 | 22.00 | | | | | | | | | | | | 62.102 | | | | | チャート３ | 接10 | | Ⅲ | 50.776 |
| 第30図58 | 3D-87 | 7 | 楔形石器 | 30.8 | 20.6 | 8.9 | 5.99 | | | | | | | | | | | | 30.76 | | | | | 砂岩１ | 接11 | | Ⅵ～Ⅶ | 50.645 |
| 第30図59 | 3D-97 | 11 | 楔形石器調整剥片 | 40.0 | 12.7 | 11.8 | 4.61 | P | | | ○ | | 4 | | | | | | | | | | | 砂岩１ | 接11 | | Ⅵ～Ⅶ | 50.514 |
| 第30図60 | 3D-97 | 10 | 楔形石器 | 31.6 | 33.7 | 11.5 | 9.50 | | | | ○ | | | | | | | | 40.75 | | | | | 砂岩１ | 接11 | | Ⅵ～Ⅶ | 50.510 |
| 第32図61 | 3D-87 | 2 | 楔形石器調整剥片 | 24.4 | 18.7 | 11.3 | 5.72 | 1 | 102 | | ○ | | | | | | | | | | | | | チャート１ | 接12 | | Ⅲ | 50.826 |
| 第32図62 | 3D-87 | 38 | 楔形石器 | 27.6 | 33.5 | 16.2 | 14.90 | | | | ○ | | | | | | | | 80 | | | Ｔ | | チャート１ | 接12 | 楔形石器片 | Ⅵ～Ⅶ | 50.555 |
| 第32図63 | 3D-87 | 47 | 楔形石器 | 45.2 | 19.2 | 17.3 | 14.98 | | | | ○ | | | | | | | | 90.74 | | | | | チャート１ | 接12 | | Ⅵ～Ⅶ | 50.525 |

## 第11表　石器観察表　石器集中４（２）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図64 | 3D-87 | 9 | 楔形石器調整剥片 | 26.4 | 30.1 | 16.1 | 10.86 | 1 | 93 | | ○ | | | | | | | | | | | T | | チャート１ | 接12 | | VI～VII | 50.660 |
| 第32図65 | 3D-88 | 10 | 楔形石器調整剥片 | 21.9 | 30.4 | 9.0 | 6.99 | C | 68 | | ○ | | | | | | | | | | | T | | チャート１ | 接12 | | VI～VII | 50.495 |
| 第32図66 | 3D-87 | 46 | 楔形石器 | 38.1 | 35.4 | 17.1 | 25.10 | | | | ○ | | | | | | | | 75,76 | | | | | チャート１ | 接12 | | VI～VII | 50.486 |
| 第32図67 | 3D-88 | 4 | 楔形石器 | 20.9 | 15.5 | 5.2 | 1.87 | | | | | | | | | | | | 45,25 | | | | | チャート１ | 接12 | | III | 50.800 |
| 第33図68 | 3D-87 | 8 | 剥片 | 20.1 | 14.7 | 3.5 | 0.93 | 1 | 109 | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | ホルンフェルス１ | 接13 | | VI～VII | 50.644 |
| 第33図69 | 3D-87 | 11 | 剥片 | 62.7 | 31.2 | 21.1 | 68.81 | 6（2） | | ○ | ○ | | 3 | | 1 | | 6 | | | | | | F | ホルンフェルス１ | 接13 | | VI～VII | 50.519 |
| 第33図70 | 3D-87 | 18 | 剥片 | 12.5 | 15.2 | 8.8 | 1.52 | | | | | ○ | | | | | | 1 | | | | | F | ホルンフェルス１ | 接13 | | VI～VII | 50.485 |
| 第33図71 | 3D-96 | 208 | 剥片 | 16.2 | 18.2 | 8.5 | 1.21 | | | | | | | | | | | | | | | | H・T | 黒曜石A | 接14 | | | 50.518 |
| 第33図72 | 3D-95 | 37 | 剥片 | 15.9 | 13.1 | 4.9 | 0.74 | P | | | | | 3 | | | | 1 | | | | | | | 黒曜石A | 接14 | | VI～IXab | 50.631 |
| 第34図73 | 3D-96 | 79 | 剥片 | 19.1 | 13.0 | 7.0 | 1.13 | 2 | 109 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | T | | 黒曜石A | 接15 | 4C-57-8を接合 | VI～IXab | 50.632 |
| 第34図74 | 4C-57 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 接15 | 石器集中３ | | |
| 第34図75 | 3D-95 | 34 | 剥片 | 21.0 | 16.0 | 7.4 | 2.00 | | | | ○ | | 1 | 2 | | | | | | | | | H・T | 黒曜石A | 接16 | | VI～IXab | 50.635 |
| 第34図76 | 3D-95 | 43 | 剥片 | 13.5 | 15.2 | 5.3 | 1.11 | P | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | T | 黒曜石A | 接16 | | VI～IXab | 50.504 |
| 第34図77 | 3D-95 | 10 | 剥片 | 14.0 | 20.0 | 4.0 | 1.19 | 2 | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | | F | 珪質頁岩１ | 接17 | | VI～IXab | 50.796 |
| 第34図78 | 3D-96 | 186 | 剥片 | 17.6 | 22.5 | 6.2 | 2.35 | 1 | 111 | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩１ | 接17 | | VI～IXab | 50.354 |
| 第34図79 | 29号 | 2 | 剥片 | 19.0 | 28.1 | 4.0 | 1.85 | | | | | | 3 | | | | | | | | | H | H | 珪質頁岩１ | 接17 | | | |
| 第34図80 | 3D-96 | 56 | ナイフ形石器 | 28.8 | 26.4 | 6.7 | 2.69 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩１ | 接17 | | VI～IXab | 50.626 |
| 第34図81 | 3D-96 | 22 | 剥片 | 33.7 | 27.5 | 7.7 | 4.68 | 1 | | | ○ | | 2 | | | 1 | | | | | | | F | 珪質頁岩１ | 接17 | | VI～VII | 50.835 |
| 第35図82 | 3D-86 | 3 | 石核 | 33.1 | 24.8 | 11.8 | 9.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A２ | 接18 | | III | 50.692 |
| 第35図83 | 3D-96 | 137 | 剥片 | 16.4 | 24.1 | 4.8 | 1.19 | 1 | 111 | ○ | | | 3 | 2 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A２ | 接18 | | VI～IXab | 50.544 |
| 第35図84 | 3D-96 | 161 | 剥片 | 24.8 | 14.0 | 7.2 | 2.03 | | | | | ○ | 2 | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A２ | 接18 | | | 50.487 |
| 第35図85 | 3D-96 | 7 | 剥片 | 20.9 | 14.8 | 7.8 | 2.20 | | | | | | 3 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A２ | 接18 | | III～VI | 50.857 |
| 第35図86 | 29号 | 6 | 剥片 | 28.6 | 33.6 | 13.7 | 11.37 | 1 | 118 | ○ | ○ | | 1 | | | | | | | | | | | ホルンフェルス１ | 接19 | | | |
| 第35図87 | 3D-87 | 13 | スクレイパー | 53.9 | 50.6 | 23.2 | 79.10 | 1 | 120 | | ○ | | 2 | | | | | 1 | 71 | | | | | ホルンフェルス１ | 接19 | | VI～VII | 50.485 |
| 第36図88 | 3D-96 | 111 | 剥片 | 46.1 | 37.2 | 19.3 | 27.48 | 1 | 142 | ○ | ○ | ○ | 2 | | | 2 | 2 | | | | | | F | ホルンフェルス２ | 接20 | | VI～IXab | 50.536 |
| 第36図89 | 3D-96 | 123 | 剥片 | 30.1 | 32.8 | 12.4 | 7.81 | 1 | 124 | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | F | ホルンフェルス２ | 接20 | | VI～IXab | 50.572 |
| 第36図90 | 3D-87 | 43 | 剥片 | 36.9 | 12.5 | 12.6 | 5.04 | 1 | 126 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | F | ホルンフェルス３ | 接21 | | VI～VII | 50.450 |
| 第36図91 | 3D-98 | 2 | 剥片 | 28.9 | 27.5 | 10.7 | 9.24 | 1 | 118 | | | | | | | | | | | | | | H | ホルンフェルス３ | 接21 | | VI～VII | 50.516 |
| 第37図92 | 3D-96 | 152 | 剥片 | 48.3 | 24.6 | 20.4 | 23.80 | 2 | 124 | | | | 4 | 2 | | | 1 | 1 | | | | | O | 頁岩１ | 接22 | 被熱により破砕 | | 50.552 |
| 第37図93 | 3D-87 | 35 | 剥片 | 25.2 | 15.3 | 8.4 | 3.12 | 2 | 86 | | | | 2 | 1 | | | | 1 | | | | | H | 頁岩１ | 接22 | 被熱により破砕 | VI～VII | 50.462 |
| 第37図94 | 3D-87 | 34 | 石核 | 28.0 | 32.0 | 22.0 | 7.77 | | | | | | | | | | | | | | | | | 頁岩１ | 接23 | 石核片被熱により破砕 | VI～VII | 50.535 |
| 第37図95 | 3D-88 | 8 | 石核 | 19.0 | 32.9 | 4.3 | 6.41 | | | | | | | | | | | | | | | | | 頁岩１ | 接23 | 被熱により破砕石核片 | VI～VII | 50.689 |
| 第37図96 | 3D-97 | 9 | 石核 | 11.2 | 14.9 | 32.2 | 3.62 | | | | | | | | | | | | | | | | | 頁岩１ | 接23 | 被熱により破砕石核片 | VI～VII | 50.624 |
| 第38図97 | 3D-95 | 48 | R剥片 | 15.1 | 13.1 | 7.9 | 1.20 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.542 |
| 第38図98 | 3D-87 | 12 | U剥片 | 50.3 | 13.6 | 11.3 | 6.14 | 1 | 106 | | ○ | | | 2 | | | 1 | | | | | R | F | 黒曜石A | | | VI～VII | 50.465 |
| 第38図99 | 3D-96 | 88 | U剥片 | 27.1 | 19.6 | 4.0 | 2.14 | 1 | 104 | ○ | | | 4 | 1 | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A３ | | | VI～IXab | 50.556 |
| 第38図100 | 3D-96 | 29 | U剥片 | 19.4 | 8.8 | 2.6 | 0.42 | | | | | | | 2 | | | | | | | R | H・T | | 珪質頁岩A | | | VI～VII | 50.885 |
| 第38図101 | 3D-87 | 20 | U剥片 | 29.4 | 18.0 | 5.7 | 2.94 | | | | | ○ | 2 | 1 | | | | | | | R | H・T | H | 珪質頁岩A | | | VI～VII | 50.480 |
| 第38図102 | 3D-96 | 15 | R剥片 | 31.0 | 17.6 | 12.0 | 4.30 | S | 60 | | | | 1 | | | | 2 | | | | | | H？ | 珪質頁岩A | | | III～VI | 50.850 |
| 第38図103 | 3D-97 | 16 | U剥片 | 40.3 | 42.3 | 11.6 | 15.81 | 1 | 125 | ○ | | | 4 | | | | | | | | | L・R | F | 珪質頁岩A１ | | | VI～VII | 50.519 |
| 第38図104 | 3D-87 | 37 | U剥片 | 26.4 | 17.8 | 6.3 | 3.37 | | | | | | | | | | | | | | | | | 片岩？ | | | VI～VII | 50.547 |
| 第38図105 | 3D-96 | 1B | 剥片 | 18.7 | 23.4 | 3.8 | 1.42 | 1 | 112 | ○ | | | 2 | | | | 1 | | | | | | H | 黒曜石A | | | | |
| 第38図106 | 3D-96 | 205 | 剥片 | 20.5 | 22.5 | 4.0 | 1.39 | 1 | 108 | | | | 2 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | | 50.381 |
| 第38図107 | 3D-95 | 21 | 剥片 | 26.3 | 21.5 | 10.3 | 5.19 | | | | | | | | 3 | | 2 | | | | | H | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.646 |
| 第38図108 | 3D-96 | 193 | 剥片 | 19.8 | 9.3 | 5.5 | 1.00 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | 楔形石器調整剥片？ | | 50.420 |
| 第38図109 | 3D-96 | 126 | 剥片 | 35.3 | 26.8 | 9.2 | 6.13 | 1 | 115 | | ○ | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | H | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.739 |
| 第39図110 | 3D-87 | 49 | 剥片 | 24.8 | 12.7 | 4.3 | 1.45 | 1 | 111 | ○ | | | 2 | 1 | | 1 | | | | | | R | F | 珪質頁岩A６ | | | VI～VII | 50.710 |
| 第39図111 | 3D-95 | 20 | 剥片 | | | | 1.28 | | | | | | | | | | | | | | | | | メノウ | | | VI～IXab | 50.544 |
| 第39図112 | 3D-96 | 36A | 剥片 | 24.7 | 27.4 | 5.5 | 2.63 | 1 | 110 | | | ○ | 1 | | | 1 | | | | | | T | | 珪質頁岩B | | | VI～IXab | 50.639 |
| 第39図113 | 3D-87 | 26 | 剥片 | 37.0 | 25.3 | 10.9 | 8.93 | 2（1） | 115 | | | | 3 | 1 | 2 | | | | | | | | O | 珪質頁岩A１ | | 石核調整剥片 | VI～VII | 50.610 |
| 第39図114 | 3D-97 | 2 | 剥片 | 43.8 | 14.2 | 8.1 | 3.64 | 1 | 101 | | ○ | | 3 | | | | | | | | | | F | ホルンフェルス５ | | | III | 50.795 |
| 第39図115 | 3D-97 | 13 | 楔形石器調整剥片 | 36.6 | 18.5 | 6.2 | 3.57 | L | | ○ | ○ | | 4 | | | | | | | | | | F | チャート | | | VI～VII | 50.544 |
| 第39図116 | 3D-87 | 45 | 剥片 | 32.2 | 42.0 | 19.6 | 18.18 | 3 | 121 | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | ホルンフェルス６ | | | VI～VII | 50.569 |
| 第39図117 | 22号 | 2 | 剥片 | 44.5 | 31.7 | 20.5 | 24.58 | 1 | 117 | ○ | ○ | | 6 | | | | | | | | | L | O | 頁岩１ | | 被熱により破砕 | | |
| 第39図118 | 22号 | 4 | 剥片 | 57.8 | 49.8 | 25.4 | 54.41 | 1 | 111 | ○ | | | 6 | | | 2 | | | | | | | O | 頁岩１ | | 被熱により破砕 | | |
| 第40図119 | 3D-95 | 47 | 剥片 | 43.7 | 24.2 | 13.9 | 12.24 | 1 | 84 | | | ○ | 1 | | | 1 | 1 | | | | | T | | ホルンフェルス | | | VI～IXab | 50.604 |
| 第40図120 | 3D-87 | 39 | 剥片 | 47.7 | 38.7 | 8.1 | 14.42 | 1 | 118 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | H | ホルンフェルス４ | | | VI～VII | 50.630 |
| 第40図121 | 3D-87 | 16 | 剥片 | 62.2 | 36.2 | 10.5 | 18.79 | 1 | 105 | ○ | | ○ | 1 | 2 | | 1 | | | | | | | O | ホルンフェルス | | | VI～VII | 50.543 |
| 第40図122 | 3D-98 | 1A | U剥片 | 52.9 | 29.6 | 9.0 | 14.92 | L | | | | | 2 | | | 1 | | | | | L | | | ホルンフェルス４ | | 一括 | | |
| 第40図123 | 3D-87 | 41 | U剥片 | 49.1 | 70.7 | 12.9 | 51.61 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | H | F | ホルンフェルス１ | | | VI～VII | 50.505 |
| | 3D-87 | 1 | 礫片 | | | | 0.43 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | |
| | 3D-87 | 3 | 礫片 | | | | 7.64 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | III | 50.849 |
| | 3D-87 | 5 | 剥片 | 16.8 | 19.7 | 6.2 | 1.98 | 1 | 117 | ○ | | | 3 | | 1 | | | | | | | T | | 珪質頁岩A | | | III | 50.735 |

## 第12表　石器観察表　石器集中４（３）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-87 | 6 | 剥片 | 9.8 | 11.1 | 2.5 | 0.25 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | ホルンフェルス | | | III | 50.750 |
| | 3D-87 | 10 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～VII | 50.657 |
| | 3D-87 | 14 | 礫片 | | | | 33.08 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～VII | 50.654 |
| | 3D-87 | 15 | 砕片 | 6.5 | 6.6 | 1.5 | 0.05 | P | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | VI～VII | 50.567 |
| | 3D-87 | 17 | 剥片 | 19.5 | 8.9 | 5.5 | 0.66 | P | | | | | 2 | | | 1 | 1 | | | | | | | 黒曜石A | | | VI～VII | 50.505 |
| | 3D-87 | 19 | 剥片 | 12.4 | 6.9 | 3.0 | 0.34 | | | | | | | | | | | | | | | | F | ホルンフェルス | | | VI～VII | 50.557 |
| | 3D-87 | 21 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～VII | 50.569 |
| | 3D-87 | 22 | 礫片 | | | | 9.72 | | | | | | | | | | | | | | | | | 流紋岩 | | | VI～VII | 50.535 |
| | 3D-87 | 23 | 楔形石器調整剥片 | 12.2 | 7.8 | 3.6 | 0.30 | L | | | ○ | | 3 | | | | | | | | | | F | チャート | | | VI～VII | 50.656 |
| | 3D-87 | 24 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～VII | 50.490 |
| | 3D-87 | 25 | 剥片 | 18.2 | 10.0 | 4.7 | 0.59 | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | H | H | 黒曜石A | | | VI～VII | 50.465 |
| | 3D-87 | 27 | 剥片 | 15.0 | 14.8 | 3.3 | 0.71 | 1 | 121 | | | | | | 1 | | | | | | | R | F | チャート | | | VI～VII | 50.467 |
| | 3D-87 | 29 | 剥片 | 9.9 | 10.3 | 2.0 | 0.20 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | メノウI | 接 | | VI～VII | 50.485 |
| | 3D-87 | 30 | 砕片 | 9.8 | 8.4 | 2.0 | 0.13 | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | H | F | 頁岩1 | | | VI～VII | 50.476 |
| | 3D-87 | 31 | 砕片 | 7.2 | 9.6 | 1.5 | 0.05 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～VII | 50.501 |
| | 3D-87 | 33 | 剥片 | 27.8 | 10.5 | 7.0 | 2.31 | P | | | ○ | ○ | | | | | | 1 | | | | L | F | チャート | | 楔形石器片？ | VI～VII | 50.535 |
| | 3D-87 | 36 | 剥片 | 12.5 | 9.3 | 5.6 | 0.53 | | | | | | | | | | | | | | | | | ホルンフェルス | | | VI～VII | 50.542 |
| | 3D-87 | 42 | 楔形石器調整剥片 | | | | 2.45 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | VI～VII | 50.510 |
| | 3D-87 | 48 | 剥片 | 9.0 | 22.6 | 4.0 | 0.58 | | | | ○ | | 1 | 1 | | | | | | | | | | チャート | | | VI～VII | 50.606 |
| | 3D-87 | 50 | 礫片 | | | | 0.84 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | VI～VII | 50.510 |
| | 3D-87 | 51 | 剥片 | 15.8 | 9.4 | 4.6 | 0.55 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | | ホルンフェルス5 | | | VI～VII | 50.549 |
| | 3D-87 | 56 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | |
| | 3D-87 | 57 | 剥片 | 12.0 | 16.7 | 2.3 | 0.38 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | F | ホルンフェルス1 | | | VI～VII | 50.444 |
| | 3D-87 | 58 | 剥片 | 16.0 | 20.0 | 5.5 | 1.12 | 1 | 104 | | | | 1 | | | | 2 | | | | | | O | 頁岩1 | | 被熱により破砕 | VI～VII | 50.491 |
| | 3D-87 | 59 | 礫 | | | | 32.82 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～VII | 50.460 |
| | 3D-87 | 60 | 礫 | | | | 135.63 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～VII | 50.481 |
| | 3D-87 | 62 | 砕片 | 7.8 | 6.2 | 2.2 | 0.12 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | ホルンフェルス | | | VI～VII | 50.465 |
| | 3D-88 | 2 | 剥片 | 20.3 | 26.5 | 6.9 | 3.50 | 2 | 127 | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | 安山岩 | | | III | 50.900 |
| | 3D-88 | 5 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | |
| | 3D-88 | 6 | 礫 | | | | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～VII | 50.666 |
| | 3D-88 | 7 | 楔形石器調整剥片 | 23.8 | 14.5 | 3.2 | 1.11 | L | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | | F | 砂岩1 | | | VI～VII | 50.720 |
| | 3D-95 | 2 | 剥片 | 19.2 | 14.9 | 3.0 | 0.79 | 1 | 106 | | | | 2 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A | | | III | 50.832 |
| | 3D-95 | 3 | 砕片 | 7.2 | 6.4 | 1.3 | 0.05 | P | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | III | 50.835 |
| | 3D-95 | 4 | 砕片 | 5.7 | 8.6 | 1.4 | 0.07 | P | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | III | 50.844 |
| | 3D-95 | 5 | 剥片 | 16.4 | 17.0 | 5.9 | 0.99 | 2 | 79 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | F | 黒曜石A | | | III | 50.827 |
| | 3D-95 | 6 | 砕片 | 9.8 | 8.0 | 1.2 | 0.11 | P | | | | | | | | 1 | | | | | | R | | 黒曜石A | | | III | 50.822 |
| | 3D-95 | 7 | 剥片 | 15.3 | 13.3 | 7.3 | 0.90 | C | 101 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | R | F | 珪質頁岩1 | | | VI～IXab | 50.700 |
| | 3D-95 | 8 | 剥片 | 15.9 | 14.8 | 2.4 | 0.38 | P | | ○ | | | 3 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI～IXab | 50.874 |
| | 3D-95 | 9 | U剥片 | 13.0 | 7.2 | 2.6 | 0.16 | | | | | | 1 | | | | | | | | | L | | 黒曜石 | | | VI～IXab | 50.640 |
| | 3D-95 | 11 | 砕片 | 6.2 | 9.9 | 3.7 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | | | | ホルンフェルス | | | VI～IXab | 50.608 |
| | 3D-95 | 12 | 楔形石器 | 9.6 | 14.9 | 6.0 | 0.72 | | | | | | | | | | | | 71 | | | | | 珪質頁岩B1 | | 楔形石器片 | VI～IXab | 50.651 |
| | 3D-95 | 13 | 剥片 | 6.6 | 10.3 | 3.1 | 0.11 | 2 | 93 | | | | | | 1 | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI～IXab | 50.651 |
| | 3D-95 | 14 | 剥片 | 10.0 | 10.2 | 4.1 | 0.25 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.690 |
| | 3D-95 | 15 | 砕片 | 3.9 | 3.8 | 1.4 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.664 |
| | 3D-95 | 16 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～IXab | 50.666 |
| | 3D-95 | 17 | 砕片 | 3.8 | 7.4 | 1.5 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～IXab | 50.634 |
| | 3D-95 | 18 | 剥片 | 12.2 | 9.1 | 1.1 | 0.12 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A | | | VI～IXab | 50.628 |
| | 3D-95 | 19 | 剥片 | 8.5 | 9.1 | 4.0 | 0.35 | | | | | | | | | | | | | | | | | 頁岩1 | | 被熱により破砕 | VI～IXab | 50.565 |
| | 3D-95 | 22 | 楔形石器調整剥片 | 10.7 | 13.6 | 4.9 | 0.67 | | | ○ | | | 3 | | | | | | | | | | H | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.498 |
| | 3D-95 | 23 | 楔形石器調整剥片 | 14.3 | 7.2 | 1.9 | 0.17 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.575 |
| | 3D-95 | 24 | 剥片 | 19.1 | 8.5 | 3.6 | 0.40 | P | | | | | 3 | | | 1 | | | | | | T | | 珪質頁岩1 | | | VI～IXab | 50.700 |
| | 3D-95 | 25 | 礫 | | | | 0.50 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI～IXab | 50.589 |
| | 3D-95 | 26 | 剥片 | 17.8 | 5.1 | 3.3 | 0.18 | P | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.616 |
| | 3D-95 | 27 | 剥片 | 12.5 | 10.7 | 1.8 | 0.14 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.521 |
| | 3D-95 | 29 | 剥片 | 8.2 | 12.2 | 1.8 | 0.12 | P | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI～IXab | 50.545 |
| | 3D-95 | 31 | 剥片 | 14.8 | 6.5 | 3.0 | 0.20 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A | | | VI～IXab | 50.565 |
| | 3D-95 | 32 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～IXab | 50.680 |
| | 3D-95 | 33 | 砕片 | 7.1 | 9.9 | 5.1 | 0.42 | | | | | | | | | | | 4 | | | | H・T・R・L | | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.616 |
| | 3D-95 | 35 | 剥片 | 11.7 | 11.7 | 2.2 | 0.23 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | H | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.570 |
| | 3D-95 | 36 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～IXab | 50.553 |
| | 3D-95 | 38 | 剥片 | 4.3 | 10.7 | 2.6 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩1 | | | VI～IXab | 50.662 |
| | 3D-95 | 39 | 剥片 | 14.3 | 9.8 | 3.5 | 0.30 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI～IXab | 50.619 |
| | 3D-95 | 40 | 砕片 | 6.3 | 6.0 | 2.5 | 0.09 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | VI～IX | 50.550 |

## 第13表　石器観察表　石器集中４（４）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-95 | 42 | 剥片 | 17.6 | 11.6 | 7.2 | 1.05 | 1 | 118 | | | | 2 | | | | | | | | | R | H | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.535 |
| | 3D-95 | 45 | 剥片 | 13.0 | 4.3 | 3.9 | 0.20 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.557 |
| | 3D-95 | 46 | 剥片 | 13.9 | 14.5 | 2.6 | 0.50 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.595 |
| | 3D-95 | 49 | 剥片 | 9.0 | 10.2 | 1.5 | 0.13 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.555 |
| | 3D-95 | 50 | 砕片 | 4.2 | 3.0 | 0.5 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.495 |
| | 3D-95 | 51 | 砕片 | 3.2 | 4.1 | 0.9 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | H | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.480 |
| | 3D-95 | 53 | 砕片 | 6.4 | 2.8 | 0.7 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.460 |
| | 3D-95 | 54 | 剥片 | 14.8 | 6.1 | 3.9 | 0.37 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H・R | | 黒曜石A | | | | 50.485 |
| | 3D-95 | 56 | 剥片 | 9.2 | 11.0 | 3.3 | 0.38 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | H | 黒曜石A | | | | 50.468 |
| | 3D-95 | 57 | 剥片 | 11.7 | 11.0 | 2.7 | 0.43 | | | | ○ | | 1 | | | 1 | | | | | | H・T | | 黒曜石A | | | | 50.470 |
| | 3D-95 | 60 | 砕片 | 5.9 | 7.5 | 2.0 | 0.06 | | | | | | | | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | | 50.437 |
| | 3D-95 | 61 | 砕片 | 9.0 | 9.5 | 2.0 | 0.13 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H・T | | 黒曜石A | | | | 50.425 |
| | 3D-95 | 62 | 剥片 | 13.3 | 9.3 | 4.1 | 0.37 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | O | 珪質頁岩1 | | | | 50.415 |
| | 3D-95 | 63 | 剥片 | 14.6 | 10.5 | 7.1 | 0.76 | L | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | O | 黒曜石A | | | | 50.408 |
| | 3D-95 | 64 | 剥片 | 15.0 | 3.5 | 2.1 | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A | | | | 50.390 |
| | 3D-95 | 65 | 砕片 | 7.2 | 8.0 | 1.1 | 0.05 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.308 |
| | 3D-96 | 2 | 礫片 | | | | 3.41 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | III | 50.765 |
| | 3D-96 | 3 | 剥片 | 11.5 | 6.1 | 1.5 | 0.06 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | III~VI | 50.765 |
| | 3D-96 | 4 | 剥片 | 18.0 | 7.9 | 6.2 | 0.57 | | | | | ○ | | | | | | 1 | | | | | | 珪質頁岩A | | | III~VI | 50.770 |
| | 3D-96 | 6 | 砕片 | 9.8 | 6.2 | 1.3 | 0.05 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | III~VI | 50.790 |
| | 3D-96 | 8 | 剥片 | 11.5 | 11.3 | 5.8 | 0.60 | | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | L | H | 珪質頁岩1 | | | III~VI | 50.836 |
| | 3D-96 | 11 | 剥片 | 17.8 | 8.0 | 2.0 | 0.26 | 2 | 122 | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | III~VI | 50.845 |
| | 3D-96 | 12 | 剥片 | 16.9 | 8.0 | 5.9 | 0.48 | P | | | ○ | | 1 | | | | 1 | | | | | T | | 黒曜石A | | | III~VI | 50.787 |
| | 3D-96 | 13 | 楔形石器調整剥片 | 13.5 | 9.3 | 2.3 | 0.29 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A | | | III~VI | 50.772 |
| | 3D-96 | 14 | 砕片 | 5.4 | 5.2 | 1.2 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | III~VI | 50.790 |
| | 3D-96 | 16 | 剥片 | 6.0 | 10.2 | 5.3 | 0.26 | 1 | 114 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.795 |
| | 3D-96 | 17 | 剥片 | 10.5 | 9.1 | 2.8 | 0.25 | 1 | 94 | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI~VII | 50.755 |
| | 3D-96 | 18 | 砕片 | 4.9 | 4.6 | 0.5 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.780 |
| | 3D-96 | 19 | 砕片 | 7.0 | 9.2 | 2.5 | 0.10 | P | | | | | | 2 | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.740 |
| | 3D-96 | 20 | 剥片 | 18.4 | 12.6 | 8.0 | 0.99 | S | 96 | | | ○ | | | | | 1 | 1 | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI~VII | 50.785 |
| | 3D-96 | 23 | 剥片 | 8.1 | 11.3 | 2.6 | 0.25 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | H | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.768 |
| | 3D-96 | 25 | 剥片 | 12.2 | 8.0 | 3.0 | 0.22 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | R | F | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.798 |
| | 3D-96 | 26 | 剥片 | 9.9 | 9.7 | 3.3 | 0.34 | | | | ○ | | 2 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.832 |
| | 3D-96 | 28 | 剥片 | 10.8 | 12.2 | 1.5 | 0.17 | P | | | | | 2 | | 1 | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | 楔形石器調整剥片？ | VI~VII | 50.870 |
| | 3D-96 | 30 | 砕片 | 3.5 | 5.3 | 1.0 | 0.01 | I | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~VII | 50.700 |
| | 3D-96 | 31 | 礫 | | | | 0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | VI~IXab | |
| | 3D-96 | 32 | 砕片 | 5.1 | 4.1 | 0.8 | 0.02 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.616 |
| | 3D-96 | 33 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI~IXab | 50.619 |
| | 3D-96 | 34 | 砕片 | 5.1 | 3.1 | 0.8 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.615 |
| | 3D-96 | 35 | 剥片 | 6.4 | 10.7 | 1.9 | 0.14 | 2 | 127 | | | ○ | | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.643 |
| | 3D-96 | 37 | 剥片 | 6.0 | 13.6 | 3.1 | 0.24 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩B1 | | | VI~IXab | 50.640 |
| | 3D-96 | 38 | 楔形石器調整剥片 | 13.9 | 6.5 | 4.1 | 0.22 | P | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | O | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.580 |
| | 3D-96 | 39 | 砕片 | 4.3 | 6.1 | 1.0 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.581 |
| | 3D-96 | 40 | 砕片 | 7.4 | 4.7 | 1.8 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.629 |
| | 3D-96 | 41 | 剥片 | 16.7 | 14.5 | 6.5 | 1.18 | 1 | 123 | | ○ | | 5 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.618 |
| | 3D-96 | 42 | 砕片 | 6.8 | 9.5 | 1.3 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.646 |
| | 3D-96 | 43 | 剥片 | 15.1 | 13.1 | 3.6 | 0.53 | | | | ○ | | 3 | | | | | | | | | H | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.663 |
| | 3D-96 | 44 | 剥片 | 10.3 | 11.2 | 1.8 | 0.13 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI~IXab | 50.672 |
| | 3D-96 | 45 | 剥片 | 9.5 | 9.3 | 2.0 | 0.15 | P | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI~IXab | 50.687 |
| | 3D-96 | 46 | 剥片 | 11.4 | 20.5 | 7.2 | 1.23 | P | | | ○ | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | H | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.574 |
| | 3D-96 | 47 | 剥片 | 11.1 | 7.5 | 0.8 | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | | H | H | 珪質頁岩 | | | VI~IXab | 50.615 |
| | 3D-96 | 48 | 剥片 | 8.4 | 16.0 | 2.7 | 0.21 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI~IXab | 50.622 |
| | 3D-96 | 49 | 砕片 | 5.1 | 7.5 | 1.8 | 0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.654 |
| | 3D-96 | 51 | 剥片 | 23.9 | 20.6 | 8.8 | 2.69 | P | | ○ | ○ | | 2 | | | | | | | | | | | 珪質頁岩1 | | | VI~IXab | 50.627 |
| | 3D-96 | 53 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI~IXab | 50.688 |
| | 3D-96 | 55 | 砕片 | 9.4 | 6.7 | 1.4 | 0.07 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.623 |
| | 3D-96 | 57 | 剥片 | 12.2 | 7.5 | 1.8 | 0.16 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | VI~IXab | 50.719 |
| | 3D-96 | 58 | 剥片 | 7.4 | 17.1 | 6.2 | 0.39 | P | | | | | | | 1 | | 3 | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.694 |
| | 3D-96 | 59 | 砕片 | 7.1 | 8.5 | 1.0 | 0.06 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | |
| | 3D-96 | 60 | 剥片 | 12.5 | 12.3 | 3.9 | 0.35 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | VI~IXab | 50.672 |
| | 3D-96 | 61 | 砕片 | 4.9 | 5.2 | 0.8 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.594 |
| | 3D-96 | 65 | 砕片 | 6.2 | 8.5 | 1.5 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A | | | VI~IXab | 50.691 |

## 第14表　石器観察表　石器集中4（5）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-96 | 66 | 砕片 | 6.1 | 9.6 | 2.0 | 0.07 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.621 |
| | 3D-96 | 67 | 砕片 | 5.1 | 8.7 | 1.4 | 0.04 | P | | | | | | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.630 |
| | 3D-96 | 69 | 剥片 | 12.5 | 12.2 | 3.3 | 0.31 | | | | | ○ | | | | | | | | | | H・L | H | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.677 |
| | 3D-96 | 70 | 砕片 | 4.6 | 3.3 | 2.2 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.626 |
| | 3D-96 | 71 | 砕片 | 7.3 | 7.4 | 3.7 | 0.12 | P | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.600 |
| | 3D-96 | 72 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.661 |
| | 3D-96 | 73 | 砕片 | 7.5 | 4.1 | 0.6 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.661 |
| | 3D-96 | 75 | 剥片 | 19.0 | 9.9 | 3.8 | 0.45 | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.683 |
| | 3D-96 | 76 | 剥片 | 10.8 | 14.7 | 4.5 | 0.58 | 1 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.641 |
| | 3D-96 | 77 | 砕片 | 3.3 | 5.7 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.588 |
| | 3D-96 | 80 | 砕片 | 9.3 | 4.4 | 2.0 | 0.06 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.624 |
| | 3D-96 | 81 | 剥片 | 20.7 | 17.0 | 3.8 | 0.86 | 2 | 81 | ○ | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.615 |
| | 3D-96 | 82 | 剥片 | 16.2 | 6.5 | 16.1 | 0.75 | 1 | 123 | | | | 2 | | | | 1 | | | | | | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.638 |
| | 3D-96 | 83 | 剥片 | 19.1 | 9.9 | 3.5 | 0.59 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | L | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.712 |
| | 3D-96 | 84 | 剥片 | 11.1 | 17.2 | 6.1 | 0.85 | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | H・R | O | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.695 |
| | 3D-96 | 85 | 砕片 | 9.8 | 5.0 | 1.3 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.676 |
| | 3D-96 | 86 | 楔形石器調整剥片 | | | | 0.23 | | | | | | | | | | | | | | | | | 砂岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.624 |
| | 3D-96 | 87 | 剥片 | 12.5 | 4.4 | 2.4 | 0.13 | P | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | F | ホルンフェルス | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.557 |
| | 3D-96 | 89 | 剥片 | 11.7 | 12.0 | 2.5 | 0.32 | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | H・T | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.841 |
| | 3D-96 | 90 | 剥片 | 9.5 | 10.0 | 1.1 | 0.09 | | | | | | | 2 | | | | | | | | H | H | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.757 |
| | 3D-96 | 91 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.562 |
| | 3D-96 | 92 | 砕片 | 3.6 | 5.1 | 1.0 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.358 |
| | 3D-96 | 93 | 剥片 | 15.2 | 15.4 | 2.5 | 0.53 | L | | | | | 1 | | | | | | | | | T | | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.701 |
| | 3D-96 | 94 | 剥片 | 12.0 | 8.3 | 6.5 | 0.46 | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | L・T・H | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.567 |
| | 3D-96 | 95 | 剥片 | 42.0 | 13.1 | 6.8 | 3.29 | 1 | 107 | | ○ | | 1 | | | | | 1 | | | | | F | ホルンフェルス | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.658 |
| | 3D-96 | 96 | 剥片 | 7.0 | 16.0 | 4.0 | 0.31 | L | | | | | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | O | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.670 |
| | 3D-96 | 97 | 礫 | | | | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.617 |
| | 3D-96 | 98 | 砕片 | 8.8 | 8.0 | 1.9 | 0.11 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.618 |
| | 3D-96 | 99 | 砕片 | 8.9 | 4.2 | 2.2 | 0.07 | P | | | | | | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.620 |
| | 3D-96 | 100 | 剥片 | 20.1 | 22.1 | 5.1 | 1.37 | P | | ○ | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.572 |
| | 3D-96 | 101 | 剥片 | 15.8 | 10.9 | 2.1 | 0.27 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | L | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.495 |
| | 3D-96 | 102 | 剥片 | 13.6 | 13.5 | 2.4 | 0.28 | | | | | | 1 | | | | | | | | | H | O | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.564 |
| | 3D-96 | 104 | 砕片 | 5.8 | 5.8 | 2.3 | 0.09 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.572 |
| | 3D-96 | 105 | 砕片 | 4.5 | 5.5 | 2.2 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.575 |
| | 3D-96 | 106 | 剥片 | 11.8 | 10.7 | 3.0 | 0.39 | 1 | 112 | | | | 1 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.624 |
| | 3D-96 | 107 | 剥片 | 46.0 | 54.2 | 22.1 | 46.94 | 4（2） | 102 | | | ○ | 1 | | 2 | | 1 | | | | | | F | ホルンフェルス | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.547 |
| | 3D-96 | 108 | 砕片 | 5.6 | 4.1 | 1.7 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.692 |
| | 3D-96 | 109 | 剥片 | 15.6 | 13.6 | 3.3 | 0.54 | | | | ○ | | 1 | 1 | | | | | | | | H・L | | 珪質頁岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.565 |
| | 3D-96 | 112 | 楔形石器調整剥片 | 18.4 | 5.4 | 2.8 | 0.15 | P | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.615 |
| | 3D-96 | 113 | 剥片 | 10.3 | 10.0 | 2.2 | 0.21 | 1 | 95 | ○ | | | 3 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.560 |
| | 3D-96 | 114 | 剥片 | 13.8 | 10.6 | 3.0 | 0.30 | P | | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.565 |
| | 3D-96 | 115 | 砕片 | 6.8 | 9.5 | 2.4 | 0.16 | L | | | | | | | | 1 | | | | | | | H | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.589 |
| | 3D-96 | 116 | 剥片 | 11.3 | 6.1 | 3.1 | 0.14 | 1 | 98 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.568 |
| | 3D-96 | 117 | 剥片 | 12.9 | 12.3 | 2.6 | 0.29 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.545 |
| | 3D-96 | 118 | 剥片 | 21.3 | 15.3 | 2.3 | 0.78 | 1 | 98 | ○ | | ○ | 2 | | | 2 | | | | | | | H | 珪質頁岩A5 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.770 |
| | 3D-96 | 119 | 剥片 | 24.6 | 15.9 | 6.5 | 2.05 | | | | | ○ | | | | | | | | | | H・T・R・L | | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.575 |
| | 3D-96 | 120 | 剥片 | 14.3 | 9.7 | 4.7 | 0.40 | L | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.827 |
| | 3D-96 | 121 | 剥片 | 18.0 | 16.3 | 4.7 | 1.24 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | T | | 珪質頁岩A6 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.528 |
| | 3D-96 | 122 | 砕片 | 8.4 | 6.3 | 1.7 | 0.08 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | H | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.672 |
| | 3D-96 | 124 | 砕片 | 4.2 | 6.6 | 3.3 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.645 |
| | 3D-96 | 125 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.545 |
| | 3D-96 | 127 | 剥片 | 11.8 | 23.0 | 9.6 | 2.10 | 1 | 83 | | | | 1 | | | | | | | | | R | F | 珪質頁岩1 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.551 |
| | 3D-96 | 129 | 砕片 | 4.3 | 7.0 | 2.0 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.646 |
| | 3D-96 | 131 | 剥片 | 10.8 | 3.1 | 0.9 | 0.02 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.680 |
| | 3D-96 | 132 | 砕片 | 9.6 | 5.6 | 3.4 | 0.13 | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | H | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.518 |
| | 3D-96 | 133 | 砕片 | 8.3 | 6.3 | 2.5 | 0.09 | | | | ○ | | | | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.757 |
| | 3D-96 | 134 | 剥片 | 22.3 | 17.5 | 2.7 | 0.99 | 1 | 103 | ○ | | | 3 | | 1 | | | | | | | | H | 珪質頁岩A5 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.810 |
| | 3D-96 | 135 | 砕片 | 7.6 | 6.3 | 1.1 | 0.05 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | T | | 珪質頁岩A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.830 |
| | 3D-96 | 136 | 砕片 | 4.3 | 7.1 | 2.1 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.550 |
| | 3D-96 | 138 | 剥片 | 13.5 | 5.2 | 3.6 | 0.19 | P | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 珪質頁岩 | | | Ⅵ~Ⅸab | 50.551 |
| | 3D-96 | 139 | 剥片 | 6.8 | 10.7 | 3.6 | 0.16 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.466 |
| | 3D-96 | 140 | 砕片 | 6.9 | 3.2 | 1.6 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.460 |
| | 3D-96 | 141 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 50.547 |

## 第15表　石器観察表　石器集中４（６）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-96 | 143 | 楔形石器調整剥片 | 14.7 | 7.5 | 1.5 | 0.13 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | | 50.485 |
| | 3D-96 | 144 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 50.460 |
| | 3D-96 | 145 | 剥片 | 19.5 | 13.3 | 7.1 | 1.25 | C | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | L | F | 珪質頁岩１ | | | | 50.628 |
| | 3D-96 | 146 | 剥片 | 10.2 | 5.3 | 1.8 | 0.06 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | F | 黒曜石A | | | | 50.567 |
| | 3D-96 | 147 | 剥片 | 10.9 | 13.0 | 3.2 | 0.34 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | O | 頁岩 | | | | 50.514 |
| | 3D-96 | 148 | 剥片 | 12.1 | 12.1 | 3.1 | 0.35 | | | | | | | | | 2 | | | | | | R・L | | 珪質頁岩 | | | | 50.478 |
| | 3D-96 | 149 | 砕片 | 2.1 | 6.2 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.656 |
| | 3D-96 | 150 | 砕片 | 4.6 | 6.6 | 1.6 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.605 |
| | 3D-96 | 151 | 剥片 | 12.6 | 10.7 | 1.6 | 0.19 | P | | | | | | | | 1 | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.500 |
| | 3D-96 | 153 | 砕片 | 4.3 | 4.5 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 50.577 |
| | 3D-96 | 154 | 砕片 | 6.6 | 3.3 | 1.6 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.543 |
| | 3D-96 | 155 | 砕片 | 9.1 | 6.1 | 2.4 | 0.11 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.605 |
| | 3D-96 | 156 | 砕片 | 8.1 | 5.2 | 3.0 | 0.12 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.485 |
| | 3D-96 | 157 | 剥片 | 6.8 | 11.1 | 6.6 | 0.39 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.482 |
| | 3D-96 | 159 | 剥片 | 14.4 | 6.7 | 1.8 | 0.17 | P | | | ○ | | | | | | | | | | | L | H | 黒曜石A | | | | 50.492 |
| | 3D-96 | 160 | 剥片 | 10.7 | 9.4 | 4.6 | 0.57 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | | 50.482 |
| | 3D-96 | 162 | 砕片 | 3.3 | 4.1 | 0.5 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.458 |
| | 3D-96 | 163 | 剥片 | 10.8 | 10.0 | 5.1 | 0.30 | 1 | 95 | | | | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.512 |
| | 3D-96 | 164 | 砕片 | 3.2 | 8.0 | 1.6 | 0.06 | | | | | | | | | | | | | | | H | H | 黒曜石A | | | | 50.460 |
| | 3D-96 | 165 | 砕片 | 6.2 | 8.3 | 2.7 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.481 |
| | 3D-96 | 166 | 剥片 | 18.5 | 10.0 | 4.8 | 0.54 | 1 | 106 | ○ | | | 1 | 2 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | | 50.500 |
| | 3D-96 | 167 | 砕片 | 6.0 | 4.7 | 4.5 | 0.21 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.465 |
| | 3D-96 | 168 | 剥片 | 9.4 | 10.8 | 3.4 | 0.28 | | | | ○ | | | 1 | | | | | | | | H・T | | 黒曜石A | | | | 50.468 |
| | 3D-96 | 170 | 砕片 | 5.1 | 7.2 | 1.5 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.448 |
| | 3D-96 | 171 | 礫 | | | | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 50.478 |
| | 3D-96 | 172 | 砕片 | 4.4 | 5.9 | 2.1 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.466 |
| | 3D-96 | 173 | 剥片 | 14.1 | 6.9 | 2.6 | 0.22 | P | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | F | 珪質頁岩１ | | | | 50.450 |
| | 3D-96 | 174 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 50.445 |
| | 3D-96 | 177 | 剥片 | 9.0 | 11.8 | 1.6 | 0.11 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 珪質頁岩１ | | | | 50.426 |
| | 3D-96 | 178 | 剥片 | 18.3 | 8.1 | 4.4 | 0.75 | 1 | 114 | ○ | | | 2 | 1 | | | | | | | | L・T | | 珪質頁岩A５ | | | | 50.418 |
| | 3D-96 | 179 | 砕片 | 6.4 | 5.5 | 2.5 | 0.07 | | | | | | | | | | | | | | | H | | 珪質頁岩A | | | | 50.426 |
| | 3D-96 | 180 | 楔形石器調整剥片 | 10.1 | 13.3 | 3.0 | 0.35 | L | | ○ | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.486 |
| | 3D-96 | 181 | 剥片 | 15.4 | 18.6 | 3.0 | 0.53 | 1 | | | ○ | | | | | | | | | | | R | F | 黒曜石A | | | | 50.438 |
| | 3D-96 | 182 | 砕片 | 6.0 | 6.7 | 1.4 | 0.06 | | | | | | | | | | | | | | | | H | 黒曜石A | | | | 50.422 |
| | 3D-96 | 183 | 砕片 | 7.2 | 7.5 | 1.2 | 0.05 | P | | | | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.378 |
| | 3D-96 | 184 | 剥片 | 13.4 | 7.9 | 2.6 | 0.27 | P | | | | | | 3 | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | | 50.415 |
| | 3D-96 | 185 | 剥片 | 10.0 | 2.7 | 3.5 | 0.08 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩１ | | | | 50.408 |
| | 3D-96 | 187 | 剥片 | 11.8 | 8.7 | 2.2 | 0.15 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩B | | | | 50.398 |
| | 3D-96 | 188 | 剥片 | 10.3 | 4.5 | 2.2 | 0.10 | P | | | ○ | | | 1 | | 1 | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.402 |
| | 3D-96 | 189 | 砕片 | 3.8 | 4.0 | 2.1 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.395 |
| | 3D-96 | 190 | 砕片 | 2.9 | 4.0 | 0.5 | 0.02 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.405 |
| | 3D-96 | 191 | 楔形石器調整剥片 | 11.0 | 6.4 | 2.2 | 0.11 | P | | | | | 3 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.325 |
| | 3D-96 | 192 | 剥片 | 10.9 | 12.7 | 4.4 | 0.44 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | O | 黒曜石A | | | | 50.353 |
| | 3D-96 | 195 | 剥片 | 12.1 | 15.7 | 6.0 | 0.77 | | | | | | 1 | | | | | | | | | L・T | | 黒曜石A | | | | 50.357 |
| | 3D-96 | 196 | 砕片 | 4.8 | 5.8 | 0.8 | 0.02 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.432 |
| | 3D-96 | 197 | 砕片 | 4.2 | 5.1 | 1.8 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.345 |
| | 3D-96 | 198 | 剥片 | 12.5 | 6.2 | 2.0 | 0.09 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.222 |
| | 3D-96 | 199 | 剥片 | 11.7 | 7.5 | 1.4 | 0.09 | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | H | 黒曜石A | | | | 50.437 |
| | 3D-96 | 200 | 砕片 | 4.3 | 4.4 | 1.0 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.438 |
| | 3D-96 | 201 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 50.542 |
| | 3D-96 | 202 | 剥片 | 10.5 | 3.3 | 1.5 | 0.04 | 1 | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | 黒曜石A | | | | 50.416 |
| | 3D-96 | 203 | 剥片 | 22.6 | 15.0 | 4.7 | 1.66 | 1 | 117 | ○ | | | 4 | | 1 | | | 1 | | | | H | | 珪質頁岩A６ | | | | 50.840 |
| | 3D-96 | 204 | 砕片 | 5.0 | 6.3 | 1.3 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.376 |
| | 3D-96 | 206 | 砕片 | 7.6 | 8.0 | 0.7 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.380 |
| | 3D-96 | 207 | 礫片 | | | | 0.11 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 50.363 |
| | 3D-96 | 209 | 剥片 | 8.0 | 12.7 | 2.7 | 0.27 | 1 | 116 | ○ | | | 2 | | | | | | | | | T | | 黒曜石A | | | | 50.475 |
| | 3D-96 | 210 | 礫 | | | | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | 50.395 |
| | 3D-96 | 211 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | | 50.370 |
| | 3D-96 | 212 | 砕片 | 8.9 | 3.6 | 3.0 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.339 |
| | 3D-96 | 213 | 剥片 | 10.0 | 10.5 | 4.4 | 0.26 | | | | ○ | | | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩１ | | | | 50.402 |
| | 3D-96 | 214 | 剥片 | 9.9 | 21.8 | 4.3 | 0.85 | 1 | 106 | | | | 1 | | | | | | | | | T | | 珪質頁岩１ | | | | 50.380 |
| | 3D-96 | 215 | 砕片 | 6.8 | 7.1 | 3.4 | 0.12 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.368 |
| | 3D-96 | 216 | 砕片 | 9.1 | 5.7 | 2.0 | 0.07 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.402 |

第16表　石器観察表　石器集中４（７）

| 挿図番号 | グリッド | 遺物番号 | 器種 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重量 g | 打面形状 | 打角 ° | 頭部 | 背面構成 C | S | H | T | R | L | D | V | 調整角 ° | 先端角 ° | 調整部位 | 折面部位 | 末端 | 母岩番号 | 接合資料 | 備考 | 層位 | 標高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3D-96 | 217 | 剥片 | 10.9 | 6.2 | 2.4 | 0.11 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.386 |
| | 3D-96 | 218 | 剥片 | 10.2 | 4.1 | 1.7 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.355 |
| | 3D-96 | 219 | 砕片 | 8.0 | 4.1 | 1.9 | 0.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | | 50.325 |
| | 3D-96 | 10A | 砕片 | 4.1 | 5.2 | 0.3 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 黒曜石A | | | III～VI | 50.788 |
| | 3D-96 | 10B | 砕片 | 2.9 | 5.2 | 0.5 | 0.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | |
| | 3D-96 | 1A | 剥片 | 56.1 | 18.3 | 20.0 | 22.01 | | | | | | | | | | | | | | | | | トロトロ石 | | | | |
| | 3D-96 | 36B | 楔形石器調整剥片 | 16.3 | 5.8 | 3.2 | 0.22 | | | | ○ | | | | | | | | | | | H | F | 珪質頁岩A | | | VI～IXab | 50.639 |
| | 3D-97 | 6 | 剥片 | 23.8 | 10.6 | 5.6 | 1.15 | P | | | ○ | | 1 | | | | | | | | | | F | ホルンフェルス6 | | | VI～VII | 50.635 |
| | 3D-97 | 8 | 遺物なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 遺物なし | | | VI～VII | 50.525 |
| | 3D-97 | 12 | 剥片 | 6.8 | 14.8 | 5.7 | 0.60 | 1 | 133 | ○ | | | 3 | | | | | | | | | T | | チャート | | | VI～VII | 50.480 |
| | 3D-97 | 15 | 剥片 | 6.7 | 12.1 | 2.2 | 0.20 | 1 | 124 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 珪質頁岩A | | | VI～VII | 50.515 |
| | 4D-05 | 5 | 剥片 | 9.2 | 11.0 | 2.9 | 0.20 | P | | | | | 2 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩1 | | | | 50.668 |
| | 4D-05 | 6 | 剥片 | 20.7 | 12.1 | 8.1 | 1.47 | | | | | | 2 | | | | | | | | | H | O | 頁岩1 | | 被熱により破砕 | | 50.670 |
| | 4D-05 | 7 | 剥片 | 10.1 | 10.2 | 1.7 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | | H | F | 凝灰岩 | | | | 50.625 |
| | 4D-05 | 8 | 礫片 | | | | 1.56 | | | | | | | | | | | | | | | | | チャート | | | | 50.470 |
| | 4D-05 | 2B | 楔形石器調整剥片 | 11.9 | 11.2 | 3.3 | 0.36 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | H | 珪質頁岩A1 | | | | 50.550 |
| | 4D-06 | 2 | 砕片 | 3.8 | 6.9 | 1.1 | 0.03 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.588 |
| | 4D-06 | 6 | 剥片 | 9.7 | 8.9 | 5.8 | 0.40 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | H | F | 珪質頁岩1 | | | | 50.708 |
| | 4D-06 | 8 | 砕片 | 9.6 | 7.2 | 2.9 | 0.20 | L | | | | | 2 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | | 50.840 |
| | 4D-06 | 9 | 砕片 | 8.2 | 5.1 | 2.7 | 0.09 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩A | | | | 50.620 |
| | 4D-06 | 10 | 剥片 | 12.2 | 8.0 | 3.4 | 0.31 | P | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | T | | 珪質頁岩1 | | | | 50.795 |
| | 4D-06 | 11 | 礫片 | | | | 0.60 | | | | | | | | | | | | | | | | | 珪質頁岩 | | | | 50.579 |
| | 4D-06 | 12 | 剥片 | 13.4 | 11.1 | 3.4 | 0.37 | 1 | 84 | | | | 3 | | | | | | | | | | F | 珪質頁岩A | | | | 50.490 |

## 2．縄文時代

### （1）概要（第42図）

縄文時代の遺構は土坑が14基確認された。しかし伴出遺物が少なく、立地や形状だけで土坑の時期や性格を断定することは難しい。しかし、従来の調査例から、概ね陥穴と判断すべきものであろう。

### （2）遺構と遺物

①遺構（第43図）（図版４～７）

**１号土坑**

1,24m×0.81m、長軸は北西を向き、深さは1.17mを測る。２号溝に切られているが、比較的整った楕円形を呈している。

**２号土坑**

1.06m×0.57m、長軸は北西を向き、深さは0.58mを測る。楕円形を呈するが、底部の形状はほぼ長方形である。

**３号土坑**

1.52m×0.33m、長軸は北西を向き、深さは0.51mを測る。長円形を呈する。

**４号土坑**

1.49m×0.17m、長軸は北東を向き、深さは0.26mを測る。長円形を呈し、覆土下層は青味を帯びたソフトローム層であり、人為的に充塡されたと考えられる。

**５号土坑**

北半分は不明である。短軸は0.59m、深さは1.02mを測る。楕円形を呈し、底部は平坦である。

**６号土坑**

1.43m×0.59m、長軸は北西を向き、深さは0.69mを測る。不定形であり、陥穴ではなく地下式坑のような横穴形状を呈する。

**７号土坑**

1.31m×0.61m、長軸は北西を向き、深さは0.87mを測る。楕円形を呈し、底部に向かって極めて狭くなる典型的な陥穴である。

**８号土坑**

1.4m×0.87m、長軸は北西を向き、深さは1.03mを測る。不定形であるが、覆土中より加曽利Ｂ式の土器片（第　図の26）が出土している

**９号土坑**

1.58m×0.14m、長軸は北東を向き、深さは0.64mを測る。９号住居跡の床面下より検出されたものである。長円形を呈する。

**10号土坑**

1.52m×0.21m、長軸は北東を向き、深さは0.28mを測る。10号住居跡の床面下より検出された。長円形を呈し、底部北側縁には小ピットが２個検出されている。

**11号土坑**

1.5m×1.13m、長軸は北東を向き、深さは1.2mを測る。不定形を呈し、底部も全体的に広く、陥穴としての性格はないと考えられる。

**12号土坑**

1.53m×0.13m、長軸は北東を向き、深さは0.4mを測る。検出された陥穴の中で、最も幅が狭い長円形のものである。

**13号土坑**

1.82m×0.17m、長軸は東を向き、深さは0.33mを測る。9号土坑同様に9号住居跡の床面下より検出されたものである。底部中央に小ピットを有する。覆土は青味がかったソフトローム単一層であり、自然堆積ではなく人為的に埋め戻された可能性がある。

**14号土坑**

2.37m×0.13m、長軸は北西を向き、深さは0.64mを測る。41号住居跡下より検出された。13号土坑同様、覆土は青味がかったソフトローム単一層であり、人為的に埋め戻された可能性がある。

②遺物―土器（第44、45図）（図版59、60）

いずれも加曽利ＢⅠ～Ⅱ式の範疇に入るものと考えられる。1は18号住居跡の覆土中から出土した、深鉢の胴部片である。粗い単節縄文が押捺されている。2も18号住居跡覆土中出土の深鉢口縁部片で、単節縄文の上を棒状工具による条線が施されている。口縁部は指頭成形されている。3は38号住居跡の覆土中より出土した、深鉢片である。2と同様の施文を持っている。4は34号住居跡の覆土中から出土した、浅鉢口縁部片である。棒状工具による条線が櫛目状に施されている。5は27号住居跡の覆土中から出土した、浅鉢片と思われる。胎土は密で焼成も良好であり精製に近い。棒状工具による条線が施されている。6は26号住居跡の覆土中から出土した胴部片で、単節ＲＬ縄文が施されている。7は38号住居跡の覆土中から出土した、粗製の深鉢で、単節ＬＲ縄文と棒状沈線が施されている。8は3C-50グリッド表採品で、雑な単節縄文が押捺され、その上から棒状工具による条線が施されている。9は3ｃ-77グリッド表採品で、精製の深鉢である。細かな単節ＬＲ縄文が施された後、棒状工具による沈線で区画され、外側は擦り消されている。10は25号住居跡の覆土中から出土した、深鉢片で、粗い単節縄文の上を棒状工具によって条線が施されている。11は2号掘立柱建物跡の覆土中から出土した、精製の深鉢口縁部であり、単節ＬＲ縄文が施された後、棒状工具による沈線で口縁部が区画されている。口縁部内側は棒状工具による条線が1本見られる。12は19号土坑の覆土中から出土し口縁部片であり、単節ＬＲ縄文を棒状工具に巻き付け、回転押捺したものと考えられる。口縁部は指頭成形されている。13は38号住居跡の覆土中から出土した、深鉢口縁部片で、口縁部に沿って棒状工具による刻目、その下部に単節ＲＬ縄文が施され、棒状工具による沈線区画がなされている。14、15は3B-54グリッド表採品の深鉢で同一個体の可能性が高い。粗い単節縄文の上を棒状工具による条線が施されている。口縁部は指頭成形されている。16、17も3B-54グリッドの表採品であり、同一個体である可能性が高い。細い棒状工具による条線が施されている。18は22号住居跡の覆土中から出土した、口縁部片である。細かく雑な単節ＬＲ縄文が施された後、口縁部に沿って沈線区画がされている。口唇部裏側は指頭押捺成形されている。19は45号住居跡の覆土中から出土した、深鉢口縁部片である。単節ＲＬ縄文の上を棒状工具によって沈線区画を行い、さらに棒状工具による刻目を、沈線に沿って施してある。20は21号土坑の覆土中から出土した深鉢胴部片である。単節ＲＬ縄文の上に棒状工具による条線が施されている。21は6号住居跡の覆土中から出土した口縁部片で、内外面とも磨きがかけられている。口唇部に棒状工具による刻目が施されている。22は13号住居跡の覆土中より出土したもので、棒状工

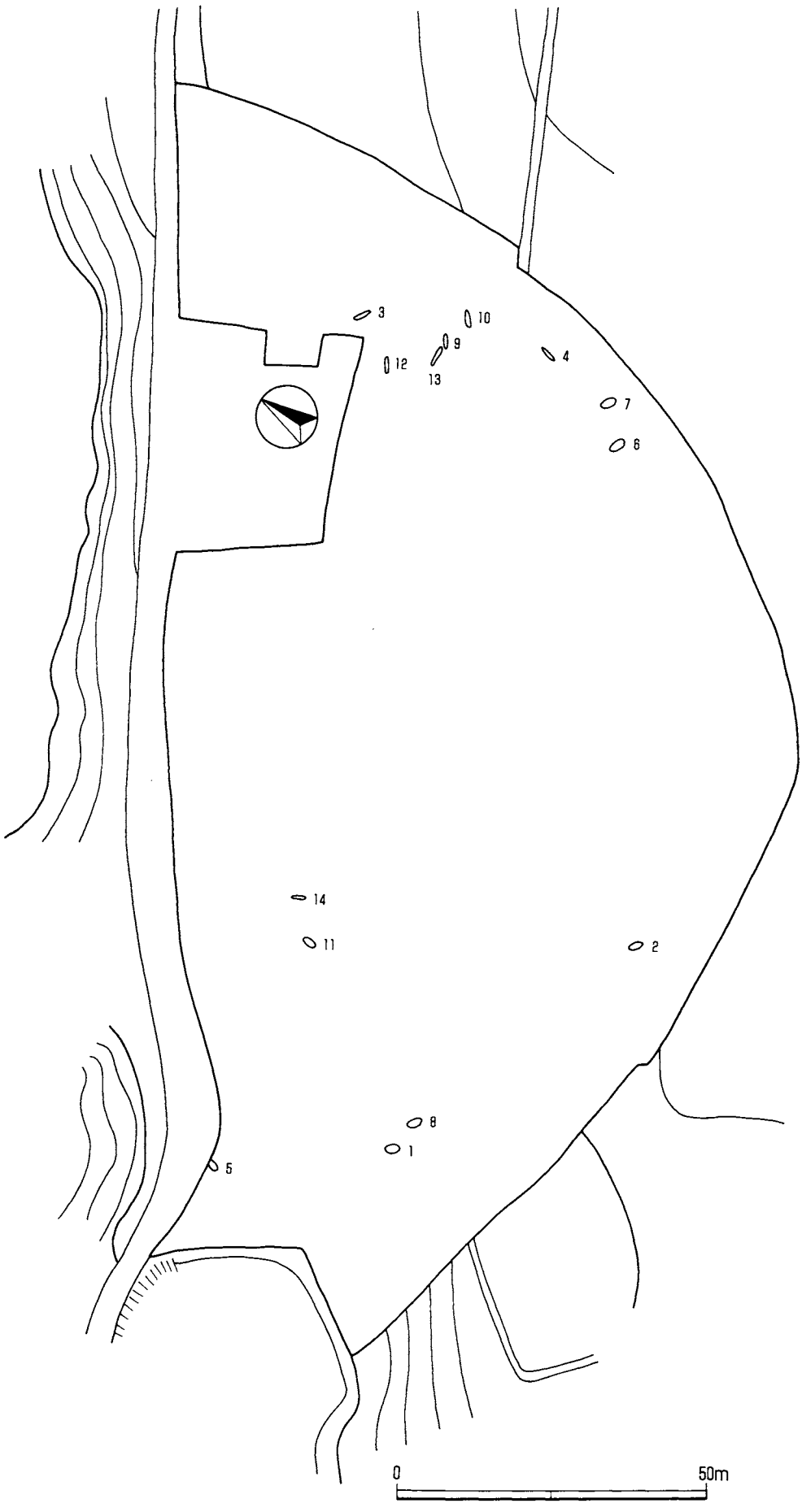
具による条線、及び刻目が施されている。23は36号住居跡の覆土中から出土した浅鉢である。棒状工具による条線が施されている。24は6号住居跡の覆土中から出土した深鉢である。棒状工具による条線が施されている。25は61号住居跡の覆土中から出土した胴部片である。胎土が極めて不良である。半裁竹管のような棒状工具による条線、刺突文が施されている。26は8号土坑（陥穴）から出土したもので、浅鉢であろう。棒状工具による条線が施されている。27は6号住居跡の覆土中から出土した浅鉢である。口縁部は棒状工具による刻目が施されている。28は8号住居跡の覆土中から出土したもので、浅鉢と思われる。内外面とも丁寧な磨きがかけられている。29は4D-4グリッド出土の表採品である。焼成が極めて良好であり、浅鉢口縁部片と思われる。単節ＬＲ縄文の上に棒状工具による条線が施されている。30は6号住居跡、31は54号住居跡、32は13号住居跡の覆土中から出土したいずれも胴部片で、棒状工具による条線が施されている。33は1D-88グリッド表採品であり、紐状の凸帯に棒状工具による刻目が施された口縁部片である。34は21号土坑覆土中より出土した口縁部片で、粗い単節縄文の上に棒状工具による条線が、口縁部は指頭成形がなされている。35は3C-45グリッド出土の表採品であり、棒状工具による刺突が連続してなされている。36は3号住居跡覆土中から出土したもので、粗い単節縄文の押捺痕が認められる。37は3B-44グリッド表採品で、胴部は粗い単節縄文、口縁部に指頭成形が施されている。38は38号住居跡覆土中より出土した口縁部片で浅鉢と思われる。単節ＬＲ縄文の上に、平行沈線が口縁部に沿って引かれている。39は31号住居跡覆土中より出土した口縁部片で、口唇部まで単節ＬＲ縄文に充塡されている。40は22号住居跡、41は5Bグリッド表採品であるが、共に胴部片で、粗い単節縄文の上に棒状工具による条線が施されている。42、43は25号住居跡覆土中から出土したものであるが、胎土、焼成も不良で明確ではないものの、粗い櫛状の施文は縄文土器ではなく、弥生中期土器の可能性もある。

③遺物―石器（第46図、図版61）

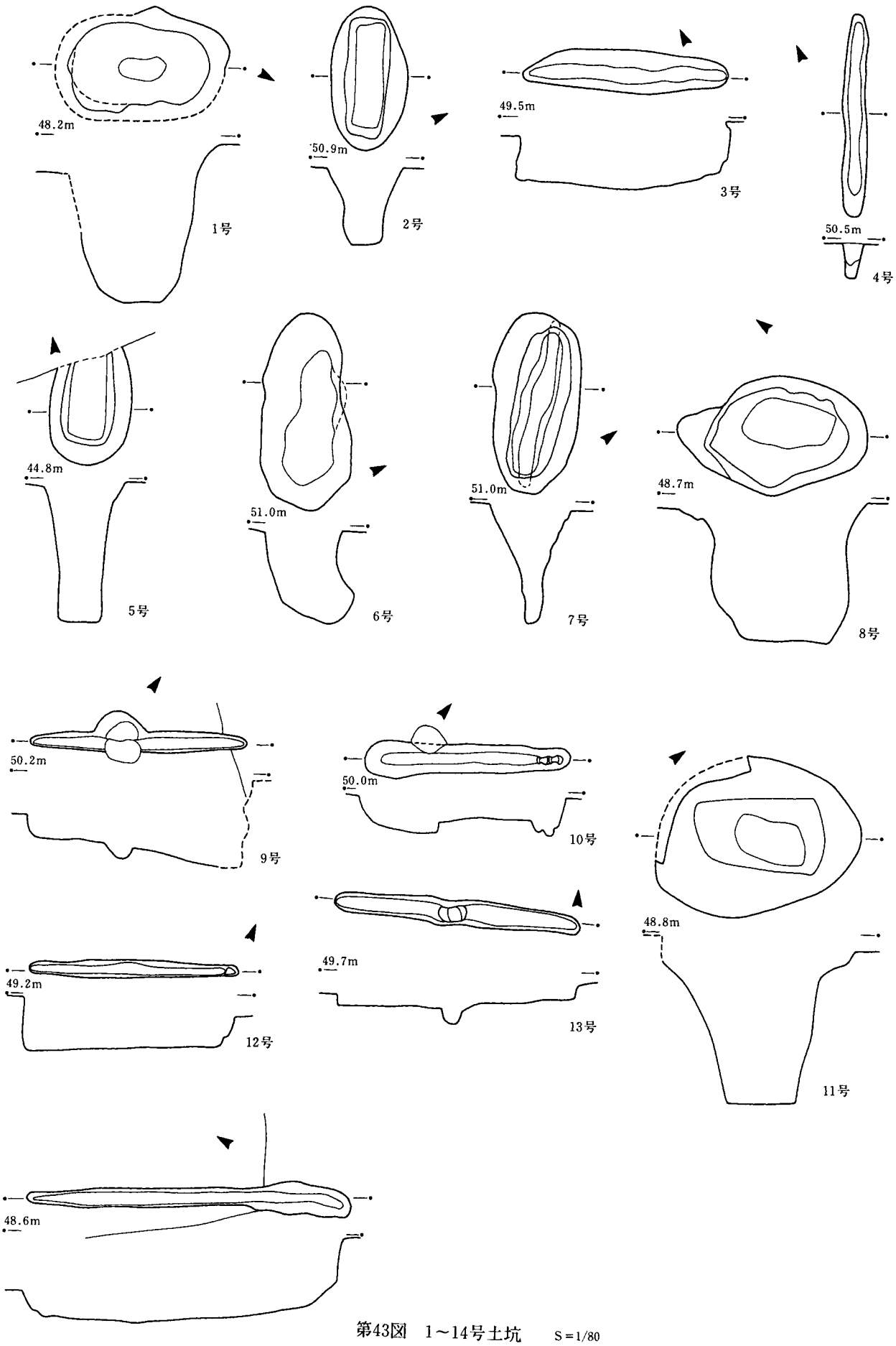
有舌尖頭器（第46図13）　27号遺構の覆土から出土した。安山岩製。やや粗い整形によって両側縁が形成されているため、側縁は鋸歯様を呈している。舌部は、丁寧に調整が施されており、正面左側縁には柄との装着によるものとみられる擦痕状の磨痕が観察される。縄文時代草創期に属する。

石鏃（第46図1～11）　1～11は石鏃である。形態的には、抉りの顕著なもの（1～4）、あまり顕著でないもの（5～11）、側縁が外湾しているもの（1～3・10）、直線的なもの（4～8）、内湾しているもの（9）、各形態が存在する。また、素材剥片の主要剥離面を残すもの（8）や、側縁に先端から基部に至る刺突による衝撃剥離痕が観察される資料（3）もある。利用石材は黒曜石（1・7・10・11）、チャート（2・4・6・9）、珪質頁岩（3・5）、安山岩（8）である。

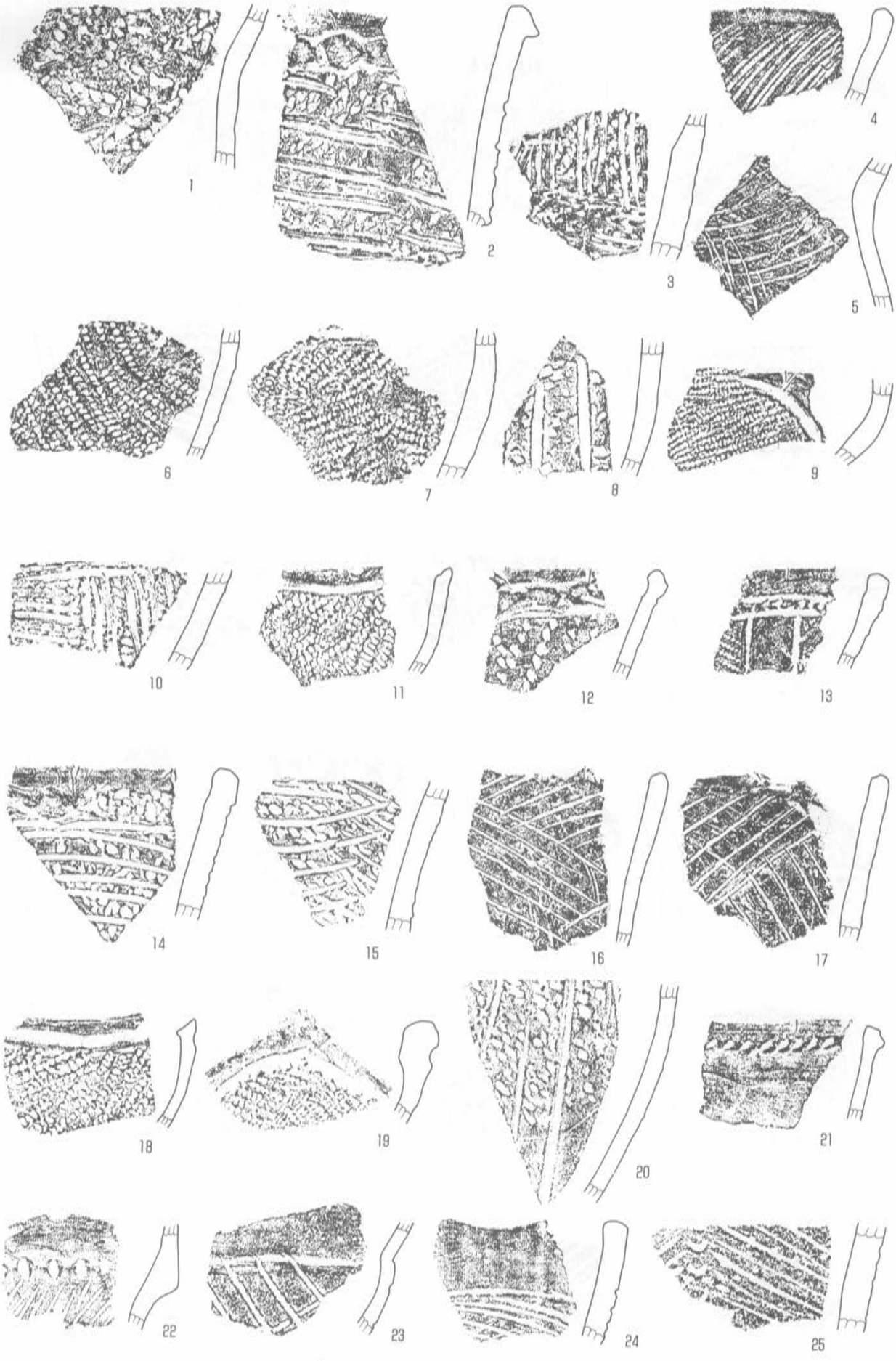
線条痕のある特殊な石器（第46図12）　擦痕は正面の湾曲部により顕著に観察される。下端部には明確な敲打痕が残されている。風化の度合から、当初は円柱状を呈していたものと思われるが剥離後も、側縁の稜が平坦面を形成するほどに整形を施している。時期不明。



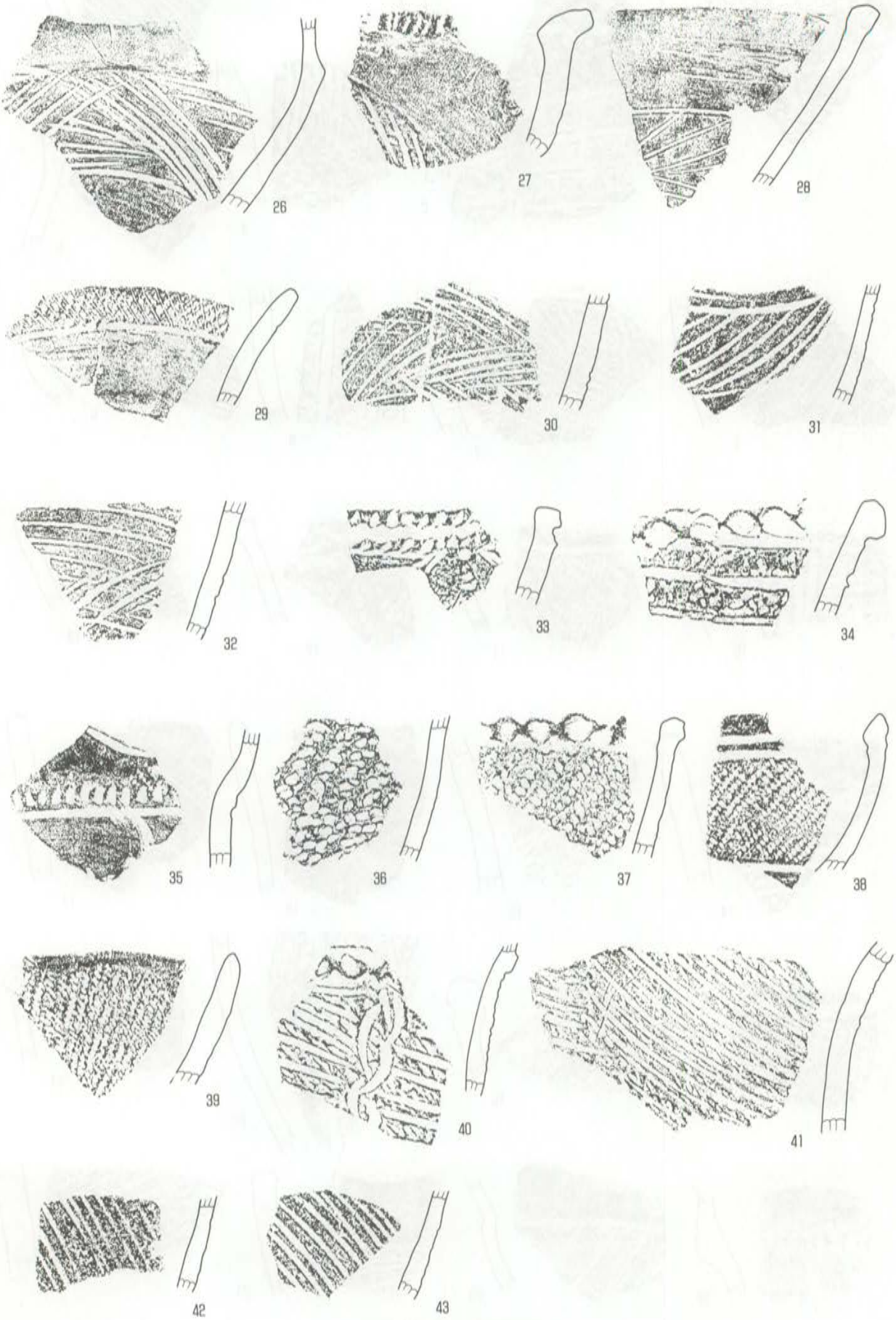

第42図　縄文時代遺構分布図　土坑1～14



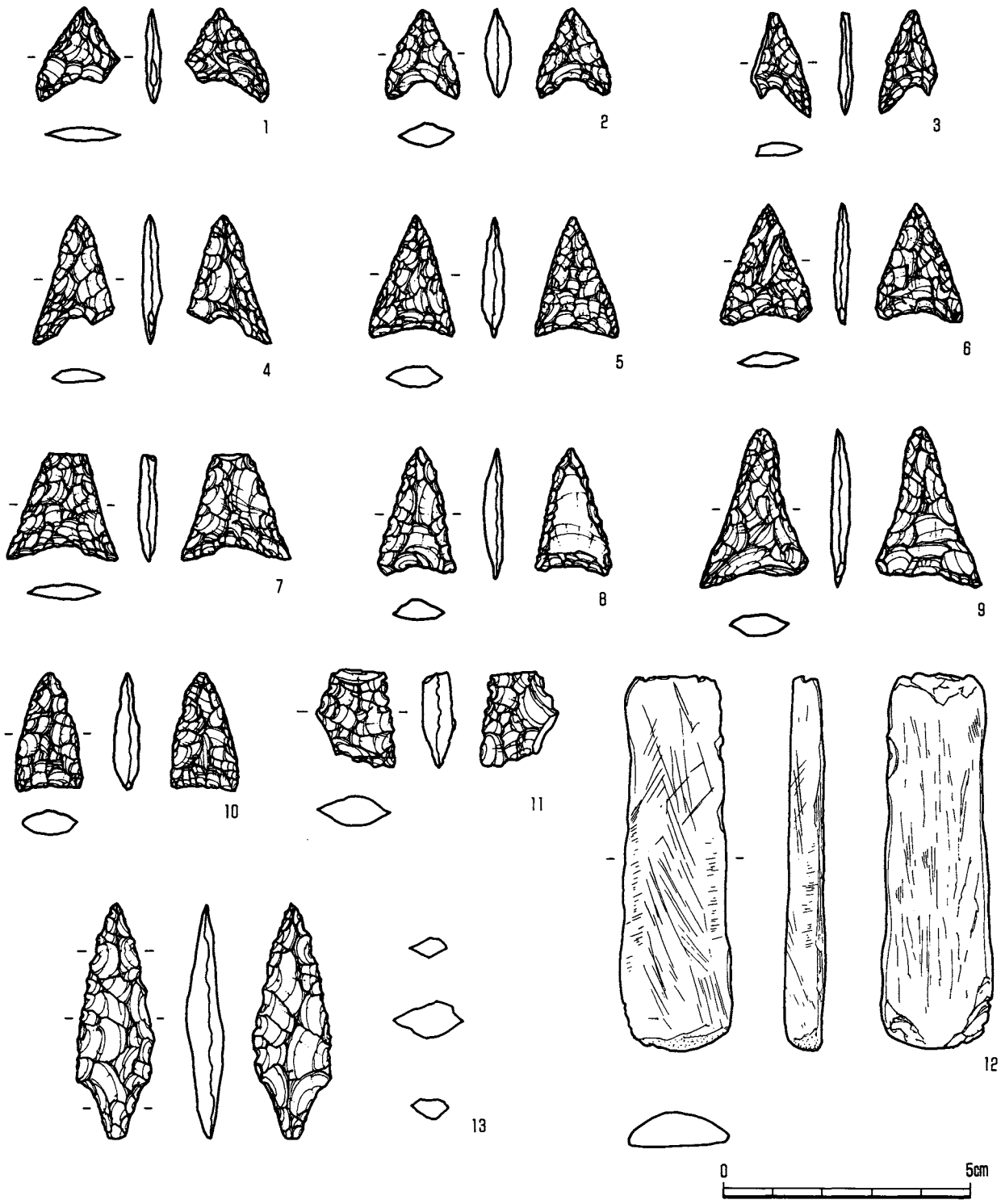

第43図　1～14号土坑　S＝1/80




第44図　縄文土器拓影(1)　S=1/2




第45図　縄文土器拓影(2)




第46図　縄文時代以降の石器

第17表　縄文時代　石器観察表

| No. | 器　種 | 石　材 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重　量 g | 遺物番号 | No. | 器　種 | 石　材 | 最大長 mm | 最大幅 mm | 最大厚 mm | 重　量 g | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石　鏃 | 黒曜石 | 17.9 | 16.8 | 3.1 | 0.6 | 4C35-2 | 8 | 石　鏃 | 安山岩 | 24.7 | 15.0 | 3.8 | 1.3 | 3B53 |
| 2 | 石　鏃 | チャート | 17.5 | 14.3 | 4.7 | 0.9 | 86号-50 | 9 | 石　鏃 | チャート | 32.5 | 20.6 | 4.0 | 1.8 | 3D57-1 |
| 3 | 石　鏃 | 珪質頁岩 | 21.1 | 11.4 | 3.0 | 0.6 | 46号-146 | 10 | 石　鏃 | 黒曜石 | 23.6 | 13.6 | 4.7 | 1.4 | 90号-22 |
| 4 | 石　鏃 | チャート | 25.8 | 16.6 | 3.8 | 1.0 | 86号-213 | 11 | 石　鏃 | 黒曜石 | 19.5 | 16.1 | 6.1 | 1.8 | 64号-2 |
| 5 | 石　鏃 | 頁岩 | 24.2 | 17.3 | 4.2 | 1.2 | 38号-488 | 12 | 線状痕を有する特殊な礫 | 粘板岩 | 75.9 | 23.0 | 8.1 | 21.4 | 44号-66 |
| 6 | 石　鏃 | チャート | 23.0 | 17.5 | 2.6 | 0.9 | 97号-1 | | | | | | | | |
| 7 | 石　鏃 | 黒曜石 | 20.9 | 22.6 | 3.5 | 1.3 | 85号-1 | 13 | 有舌尖頭器 | 安山岩 | 46.6 | 16.3 | 7.1 | 3.9 | 42号-408 |

## 3．古墳時代

### （1）概要（第47図）

「古墳時代」の概念をどのように定めるのか、極めて難しい。今回は特に下限付近が問題となる。畿内を中心とした「飛鳥」、「藤原」といった呼称が、房総地域においてどの程度妥当性があるのか、議論すべきであろうが、少なくとも当地において古墳（この概念もまた意見の分かれるところであるが）が築造され、横穴式石室が存在していた時期は「古墳時代」と呼ぶことができる。一般的な実年代では7世紀後半代であろうが、問題となるのはその直後の時代である。土器の実年代研究が盛んな現在、我々はその時代について、畿内産土師器編年を用いたり、あるいは絶対年代のみの記載とし、時代呼称を省略している場合が多い。やがて8世紀初頭以降については、房総地域においても、官衙遺跡等の調査から律令社会の汎地域的な確立を前提とし、さらに仏教遺跡、遺物の成果からも中央史を受認して「奈良時代、平安時代」と呼称しはじめる。すなわち、一般的には7世紀後葉から8世紀初頭にかけての扱いが常に問題となってくる。

本稿でも、本遺跡周辺で最終段階の代表的古墳である「駄ノ塚西古墳」に相対的に比定できれば「古墳時代」と呼ぶことができよう。しかし、それ以降、律令社会への推移状況について、現時点で考古学的に簡単に検証できるはずもない。したがって、今回は、明らかに古墳時代の所産とされるもの以外については、微妙なものを含め、「歴史時代」として一括しておきたい。「明らかにに古墳時代」としたものは、駄ノ塚西古墳のほか、本遺跡と同じ台地に立地する巨大方墳「駄ノ塚古墳」出土遺物等から判断できる。

今回の調査で古墳時代の遺構として認定したのは、後期の竪穴住居跡50軒（1号住居跡～50号住居跡）、土坑6基（15号土坑～20号土坑）、溝1条（1号溝）である（第47図）。土坑、溝の時期決定については竪穴住居跡に比べ、困難な場合なものも多いが、遺構の複合関係や出土遺物の状況から判断している。第47図にあるように、住居跡等は台地北端の痩せ尾根上にまで立地しており、また、駄ノ塚古墳に向かって東側台地や南側台地にも集落は広がっていたと思われる（第5図）。住居跡の主軸は概ね北西であり、標高約46m～52mのレベルで検出されている。規模は小形のもので約3m四方、大形で約9m四方である。遺構同士の複合関係は少ないが、床面下の調査の結果、いくつかの住居跡で拡張、建て替えが行われていたことが判明している。

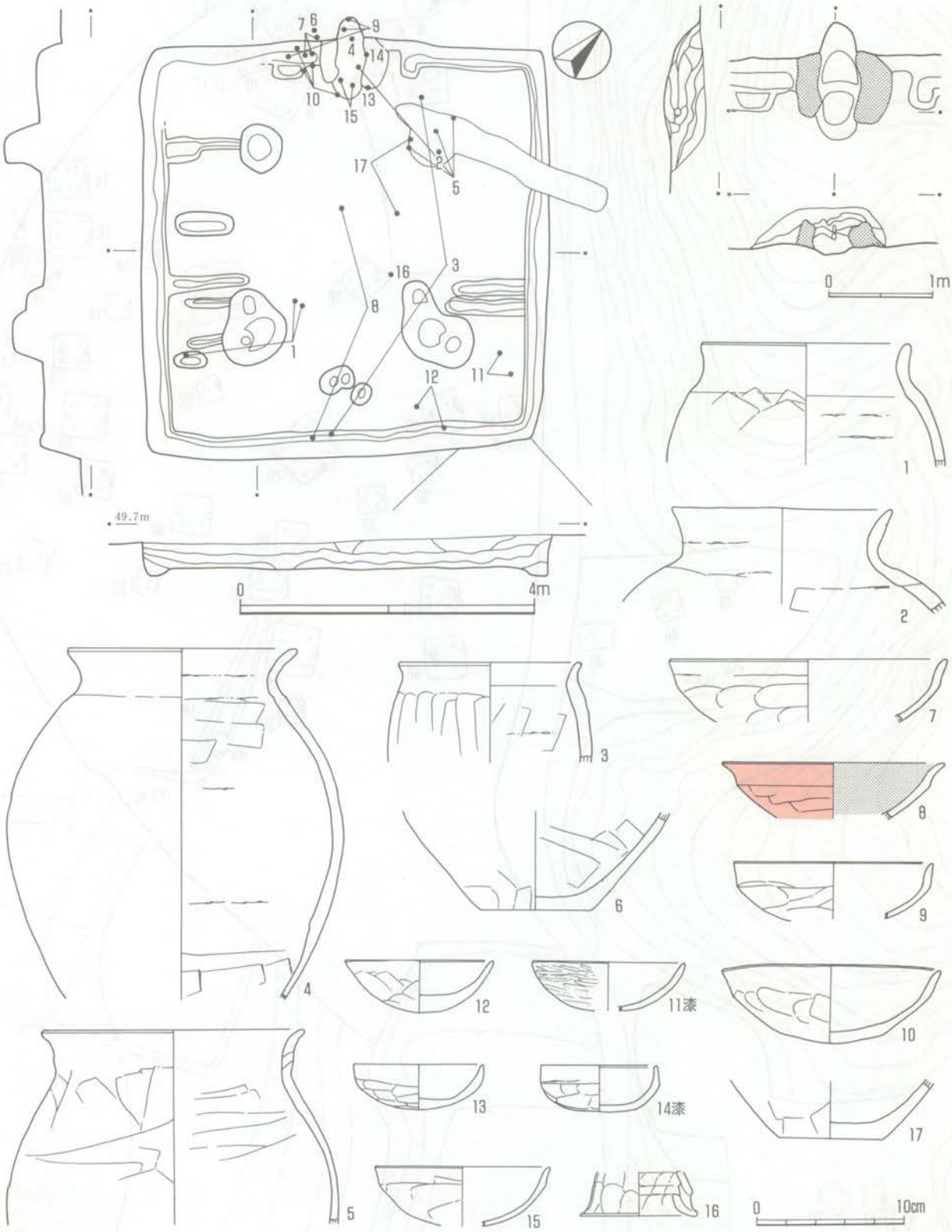
### （2）遺構と遺物

**1号住居跡**（第48図、図版9、62）

北西壁5.3m、北東壁5.2m、南東壁5.2m、南西壁5.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸はN－44°－Wである。覆土は自然堆積で、黒色腐食土層とロームを主体とした褐色土層が交互に堆積する。床面は均一に堅く、柱穴と壁間に複数の溝が検出された。これらは一般的には「間仕切り溝」と称され、本稿でも便宜上そう呼ぶが、検出状況や本数をふまえれば、実際に住居空間を分断した施設の跡だけとは考えられない。むしろ、主柱穴を支える補助施設か壁際に棚等を造設する際の「根太材」の存在も推測される。竈は煙道が壁外に大きく張り出したもので、袖の遺存度は比較的良い。竈内から多くの土器が出土している。

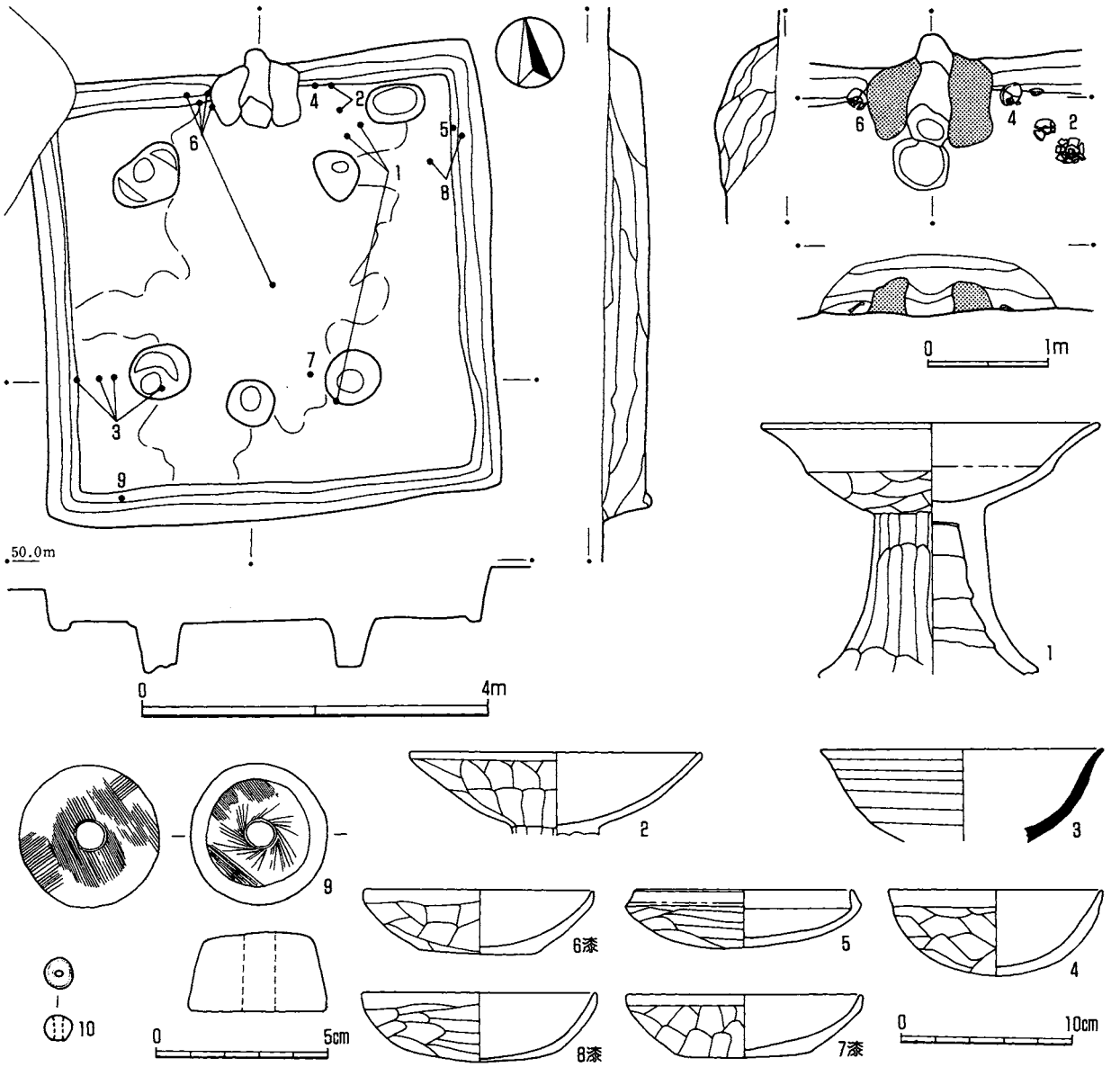
1は口径14.0cmの甕である。外面にタテヘラ削り痕が僅かに残る。2は口径14.4cmの甕である。3は口径10.2cmで外面タテヘラ削り痕が明瞭に残る。4は口径15.2cmの甕で、出土位置から、竈に使用されたものと考えられる。外面の二次焼成が著しく、成形痕は磨滅している。5は口径17.4cmの甕で外面タテヘラ削り後ヨコヘラ削りが施されている。6は底部径7.5cmである。7は口径18.7cmで口縁部ヨコナデ、外面体

第47図　古墳時代　遺構分布図




第48図　1号住居跡

部ヨコヘラ削り後ナデ、である。8は口径14.8cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後ナデ及び外面赤彩、内面炭素吸着、ヘラ磨きである。高坏の可能性がある。9は口径13.5cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨き、10は口径14.8cm，器高5.2cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデ、11は口径10.3cm、内外面ヘラ磨き後、漆仕上げになっている。12は口径10.0cm、器高3.5cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデ、13は口径8.8cm、器高3.0cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。14は口径7.8cm、最大径8.1cm、器高3.1cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きが施されている。内外面とも漆仕上げである。15は口径11.9cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。16は高坏脚部で内部に輪積み痕が明瞭に残る。17は底部径7.0cmである。

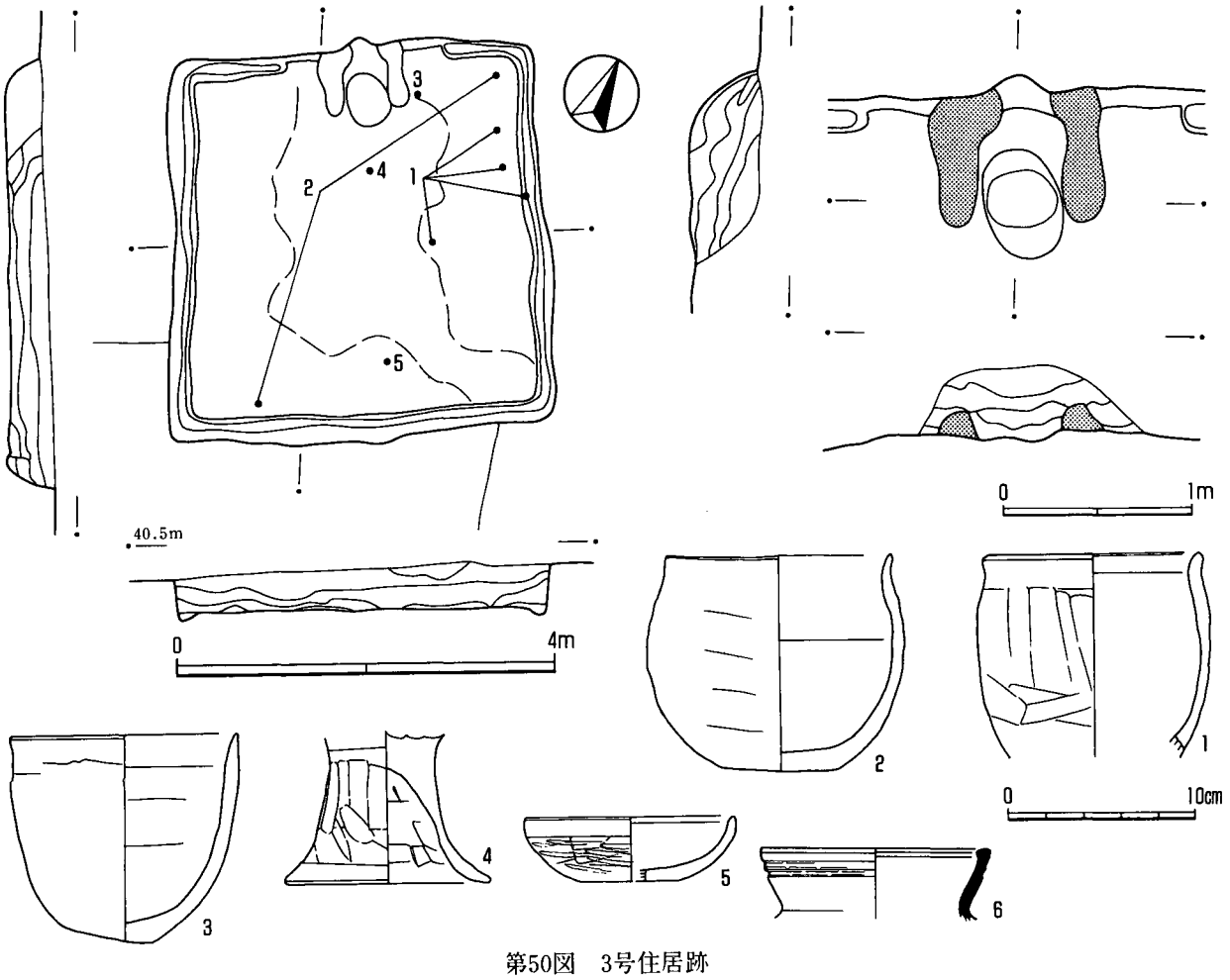



第49図　2号住居跡

**2号住居跡**（第49図、図版9、62）

北壁5.2m（推定）、東壁5.1m、南壁5.3m、西壁4.9m（推定）を測り、ほぼ正方形を呈する。1号住居跡と一部重複しており、本住居跡が古い時期の所産である。図示していないが、東壁から南壁にかけて周溝内側に、もう一本古い周溝が検出されており、本住居跡が拡張されたものであることがわかる。しかし、主柱穴及び入口施設の位置には変化が無い。主軸はN－4°－Eである。覆土は自然堆積で、明瞭では無いが黒色土とローム層を含む褐色土が交互に堆積している。竈内及び周辺の床面には高坏、坏が出土している。袖は比較的幅広で、火床部からかなり手前まで焼土が引き出された痕跡がある。

1は口径19.5cmの高坏で、全体的に丁寧なタテ、ヨコヘラ削りが施されている。2は口径16.9cmである。3は後世の須恵器の混入品と考えたい。口径16.3cmを測る。ロクロ成形で焼成は不良である。4は口径12.4cm、器高5.0cmで竈際から出土した完形品である。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨き、5は口径12.6cm、最大径13.8cm、器高3.3cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。6～8はいずれも内外面とも漆仕上げと思われる。6は口径13.3cm、最大径13.5cm、器高3.7cm、竈際床面より出土している。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削りで底部を作り出している。内面ヘラ磨きである。7は口径13.6cm、器高3.6cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。8は口径13.6cm、器高4.0cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。9は直径4.1cm、孔径0.8cmを測る滑石製の石製紡錘車である。10は土玉で直径0.8cmを測る。




第50図　3号住居跡

**3号住居跡**（第50図、図版10、62　）

北西壁3.8cm、北東壁3.9m、南東壁4.0m、南西壁3.9mを測り、ほぼ正方形を呈する。4号住居跡廃絶後に作られている。主軸はN－27°－Wである。床面に焼土、炭化材が検出された焼失住居跡である。竈は煙道が壁外に僅かしか張り出していない。

1は口径11.2cm、2は口径11.9cm、器高11.3cm、3は口径11.9cm、器高10.9cmの、共に鉢型土器である。器面成形痕はほとんど消滅しており、2の内面には炭化物が付着している。4は底部径10.7cmの高坏脚部であるが、雑な作で磨きもかかっていない。5は口径11.1cm、最大径11.4cmの坏で口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨きが加えられている。底部はヘラ削りで作り出されている。内面ヘラ磨きである。6は須恵器の短頸壺と思われる。微粒小石を胎土に含む。還元が強すぎたためか、白色を呈している。

**4号住居跡**（第51図、図版10、62）

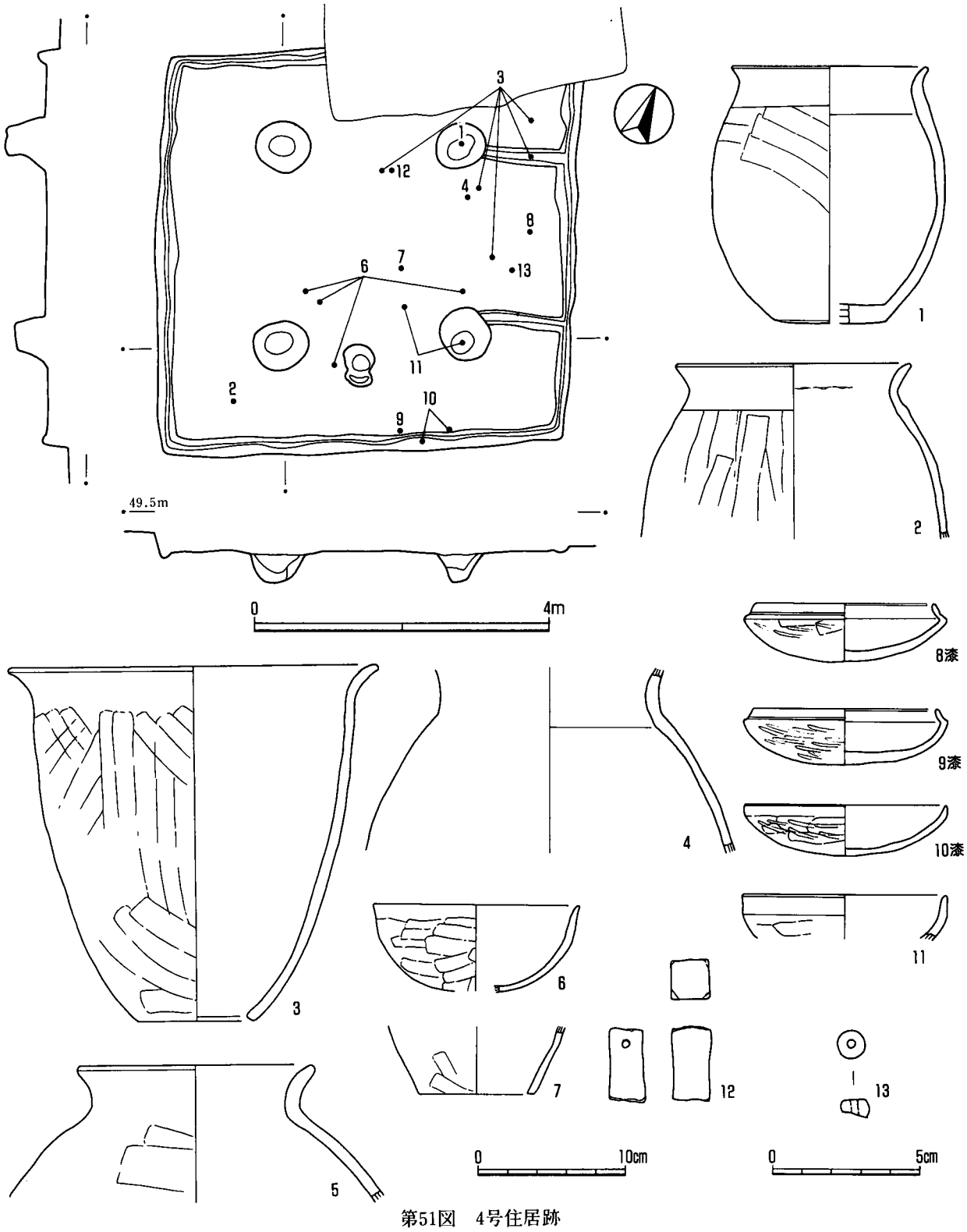
北西壁5.6m（推定）、北東壁5.2m（推定）、南東壁5.4m、南西壁5.3mを測り、ほぼ正方形を呈する。3号住居跡及び5号住居跡と一部重複関係にあり、本住居跡が最も古い時期の所産である。覆土は3号、4号、5号住居跡共に自然堆積であり、最も古い本住居跡を人為的に埋め戻した痕跡も無い。主軸はN－24°－Wである。竈は3号住居跡によって壊されている。

1は口径13.0cm、2は口径15.7cmの甕で丁寧なヘラ削りが施されている。3は口径24.5cm、器高23.6cmの甑で胴上部は丁寧なタテヘラ削り、下部はヨコヘラ削りが施されている。4は内外面共に著しく摩滅している。5は口径15.5cmの甕である。6は口径13.9cmの坏で丁寧なヨコヘラ削りが見られる。7は底部径7.8cmの甑底部である。8～11はいずれも内外面とも漆仕上げの丸底の坏である。8は口径12.0cm、最大径13.8cm、器高3.9cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後一部ヘラ磨き、内面ヘラ磨きである。9は口径12.4cm、最大径13.9cm、器高3.7cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後一部ヘラ磨き、内面ヘラ磨きである。10は口径13.6cm、器高3.4cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後一部磨き、内面ヘラ磨きである。11は口径13.7cmを測る。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。12は砥石で4面とも使用されて磨り減っている。13は直径0.9cm、孔径0.3cmを測る滑石製臼玉である。

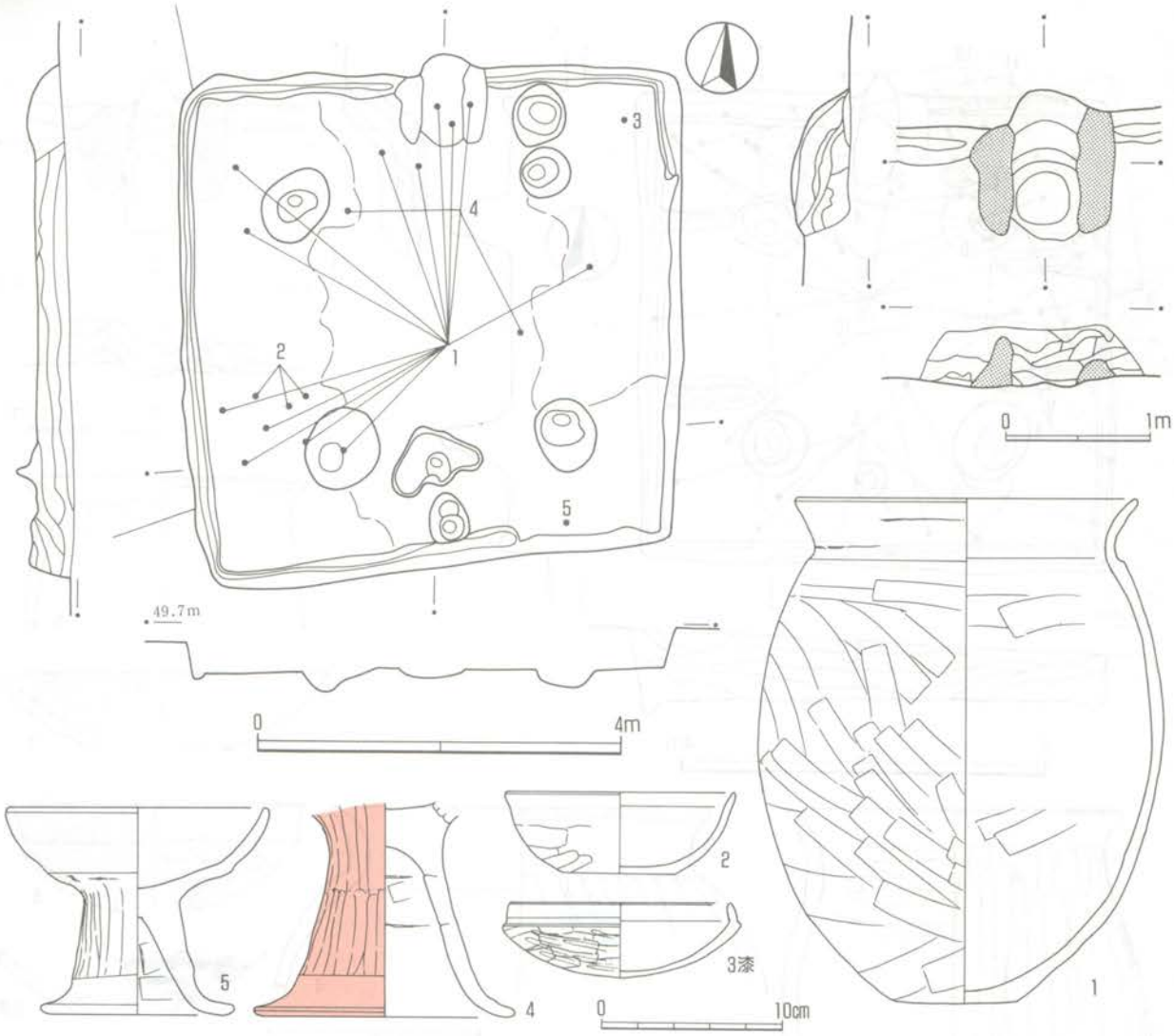
**5号住居跡**（第52図、図版11、62）

北西壁5.4m、北東壁5.0m、南東壁5.1m、南西壁5.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸はN－8°－Wである。4号住居跡廃絶後に作られている。床面の良好な硬化面を中央部分に持つものの、柱穴は貧弱である。東壁の周溝は検出されなかった。竈は床面が焼けておらず、火床部が床より上部にあった可能性がある。住居跡全体に大形の甕、1の破片が分散していた。なぜこのような状態になったのか不明であるが、大形破片は竈内にあり、覆土の状態を考えると、おそらく住居跡廃絶後の覆土堆積の際に自然に分散したと思われる。

1は口径18.6cm、器高27.4cmを測る。ヘラ削りが丁寧に行われ、大きさの割には器肉を薄く仕上げてある。竈内で煮沸用として用いたものであろう。2は口径12.6cm、器高4.5cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、底部はヘラ削りによる作だし、内面ヘラナデである。3は口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。口径12.2cm、最大径13.3cm、器高4.0cmを測る坏で、内外面共に漆仕上げが施されている。4は底部径13.6cmの高坏脚部で、外面は磨きに近いタテヘラ削りで赤彩処理が施されている。5は口径14.6cm、器高11.3cmの高坏で、坏部及び脚裾部はヘラ削り後、ヨコナデされている。




第51図　4号住居跡



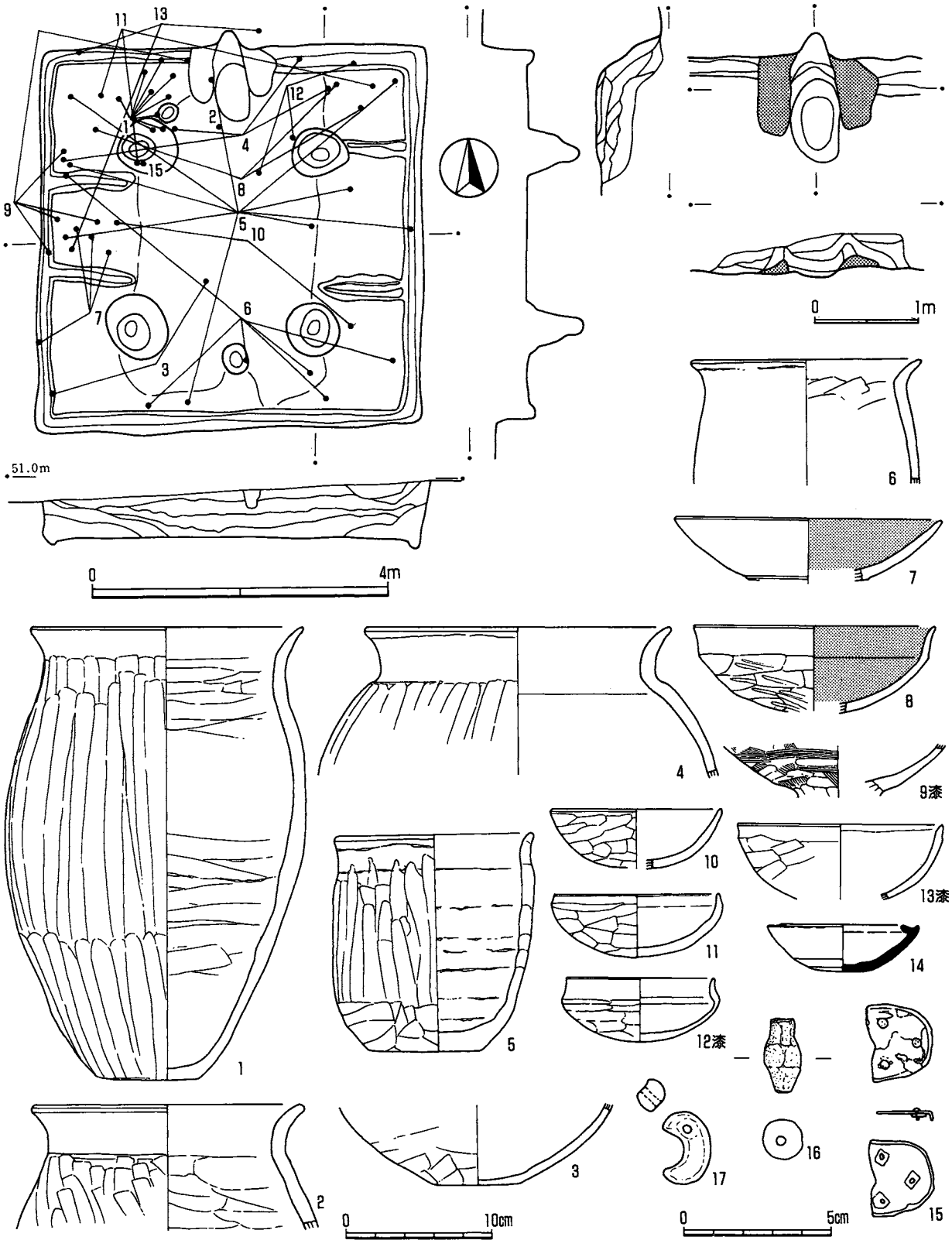

第52図　5号住居跡

**6号住居跡**（第53図、図版、11、80）

北壁5.2m、東壁5.0m、南壁5.2m、西壁5.1mを測り、 ほぼ正方形を呈する。

主軸はN－4°－Eである。床中央部に硬化面があり、主柱穴から壁に向かって溝が検出されている。覆土上層部には新期テフラを含んでいる。暗褐色土を基調とする自然堆積である。竈は煙道部が壁外に比較的大きく張り出しており、袖はほとんど削られている。

1は口径18.3cm、器高30.4cm長胴の甕で、単位の長いタテヘラ削りが丁寧に施されている。2は口径18.0cm、3は底部径5.8cm、4は口径20.7cm、の甕で、ヘラ削りが施され、器肉は薄く仕上げられている。5は口径13.4cm、器高14.6cmの鉢で内部に輪積痕が残る。胴上部はタテヘラ、下部はヨコヘラ削りである。6は口径15.3cmの長胴の甕である。7は口径18.0cmの高坏坏部で外面は赤彩、内面は炭素吸着で、丁寧なヘラ磨きが施されている。8は口径14.1cm、器高4.2cmと比較的深底の坏で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面炭素吸着、ヘラ磨きである。9は内面は漆仕上げと思われる。外面にはハケ目が残る高坏破片である。10～13は土師器坏で10は口径11.4cm、器高4.0cm、口縁部も含め外面体部はヨコヘラ削


11
13
12
2
1
4
15
8
9
5
10
7
6
3
51.0m
0
4m
0
1m
6
7
8
4
9漆
10
13漆
11
14
12漆
5
1
2
3
17
16
15
0
10cm
0
5cm

第53図　6号住居跡

り、内面ヘラナデである。11は口径11.2cm、最大径11.7cm、器高4.3cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。12は内外面とも漆仕上げで、口径10.0cm、最大径10.8cm、器高4.2cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。13は内外面漆仕上げで、口径13.9cmを計る。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。14は半損品である。良好な焼成で灰色を呈する。合子状坏身の須恵器で口径8.3cm、最大径10.3cm、器高3.2cmの小形であり、底部は同心円状にヘラ削りが施されている。湖西産と思われるが詳細は後述する。15は銅地金張りの帯先金具である。最大長2.3cm、最大幅2.6cm、厚さ0.1cm弱である。16は直径1.3cm、孔径0.3cmの管状土錘である。17は蛇紋岩製勾玉（巻頭図版）である。全長2.5cm、身幅0.9cmを測る。

**7号住居跡**（第54図、図版11、12、63）

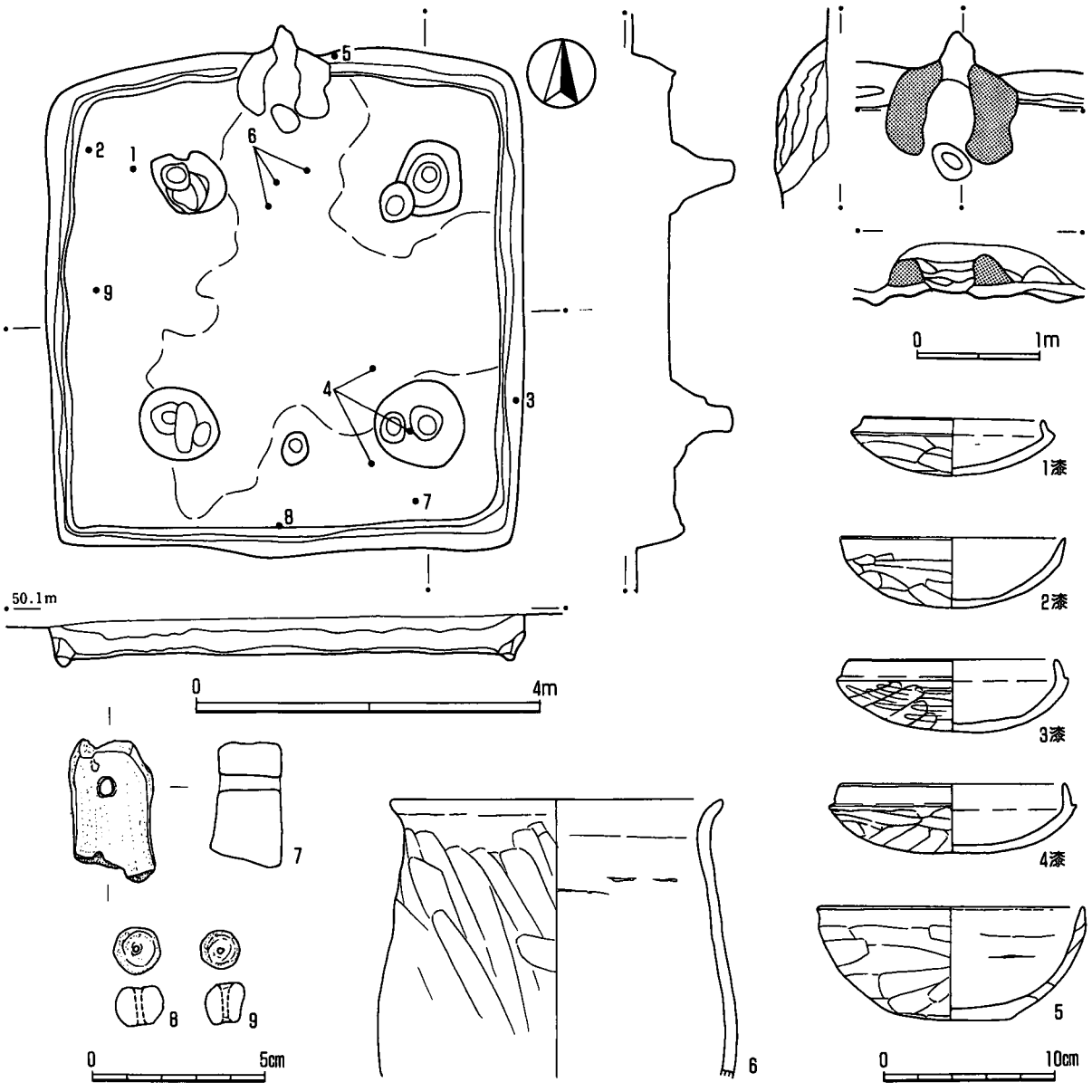
北西壁5.3m、北東壁5.5m、南東壁5.3m、南西壁5.2mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸はN－2°－Wである。主柱穴の状態から判断して、外側に住居が拡張されたと考えられる。覆土は自然堆積で、上層には新期テフラを含む。竈の火床部は床面上位にあり、被熱が床面に及んでいない。

1は口径10.4cm、最大径11.9cm、器高3.2cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。2は口径13.0cm、器高4.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。3は口径12.0cm、最大径13.6cm、器高4.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後一部磨き、4は口径13.0cm、最大径14.6cm、器高3.9cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。1～4はいずれも内外面漆仕上げである。5は口径15.3cm、器高6.5cmの鉢で内部に輪積痕が残る。6は竈際より出土したもので煮沸用の甕である。ヘラ削りにより器壁が薄く仕上げられている。口径19.2cmを測る。7は砥石で4面使用されている。8は直径1.4cm、高さ1.1cm、孔径0.2cm、9は直径1.1cm、高さ1.2cm、孔径0.2cmの土玉である。

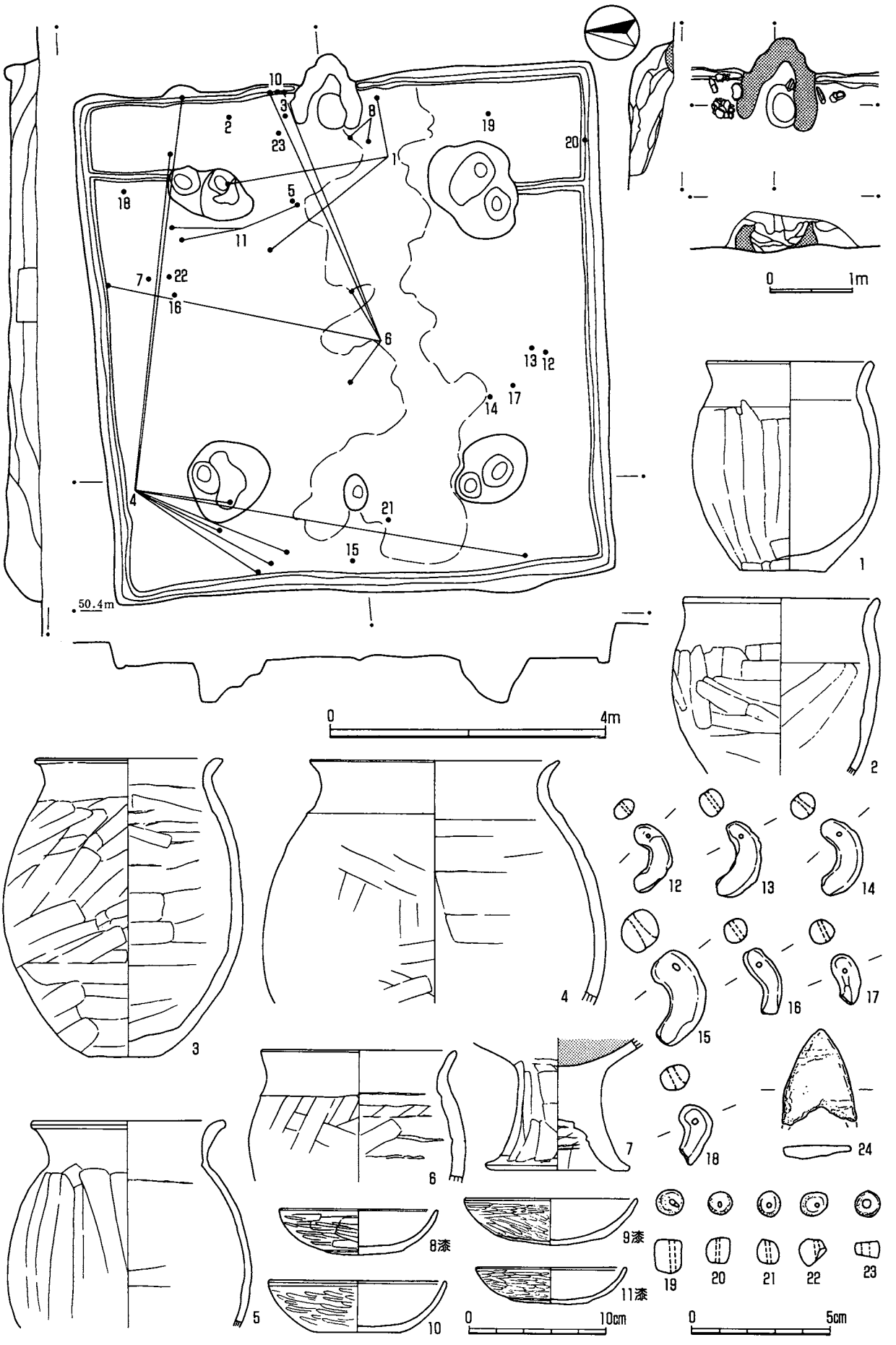
**8号住居跡**（第55図、図版12、63）

東壁7.5m、南壁7.2m、西壁7.3m、北壁7.3mを測り、比較的大形のほぼ正方形を呈する。主軸はN－83°－Eである。床硬化面は広くは無い。竈が東壁に作られており、主軸が他の住居跡と異なるが、主柱穴の状態から判断すると本住居跡も拡張された住居跡であり、従前は北壁に竈があったと思われる。覆土上層は黒色腐食土であり、下層はローム層基調の褐色土の自然堆積である。竈は堀り方が大きく壁外に張り出すものであるが、大形住居の割には小形の竈である。

1は口径11.8cm、器高15.0cm、2は口径14.0cm、3は口径13.2cm、器高21.5cmのいづれも竈の際から出土した比較的小形の甕である。5，6も含め、ほぼ法量が同じで、竈の規模に合わせたものと考えられる。丁寧なヘラ削りが見られる。4は口径18.0cm、の大形の甕で、竈から離れて散在しており、ヘラ削りも雑である。大きさも考えると本住居跡では煮沸用具で無かった可能性がある。5は口径13.8cm、6は口径14.0cm。7は底部径8.7cmの高坏で坏部内面に黒色処理が施されている。脚部内側には輪積痕が明瞭に残る。8は口径11.3cm、器高3.3cm、口唇部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。底部はヘラ削りによる作りだしで稜線を有し、胎土、焼成も極めて良好であり、いわゆる東北系の土器とされるものである。9は口径12.5cm、器高3.4cm、内外面ヘラ磨きが丁寧に行われた漆仕上げである。ヨコナデよりもヘラ磨きを最終調整としており、在地の成形技法とは異質な感がある。底部に稜線を有する点から8同様、東北系と考えられるが、詳細は後述する。10は口径12.7cm、器高3.7cm、器壁が摩滅しているがヘラ磨きが主体となっている。底部はヘラ削りで作り出されており、ほとんど平底となっている。11は口径10.8




第54図　7号住居跡




第55図　8号住居跡

cm、器高2.5cmで9と同じ成形技法である。12～18は土製の勾玉、19～23は土玉である。計測値は以下のとおりである。いずれも茶褐色の同一色、焼成であり、一括して作成されたと思われる。24は鉄鏃であるが、銹化が著しい。最大長1.7cm、最大幅1.4cmである。

| 番号 | 全長 | 身幅 |
|---|---|---|
| 12 | 2.5 | 0.8 |
| 13 | 2.7 | 0.9 |
| 14 | 2.8 | 0.9 |
| 15 | 3.4 | 1.3 |
| 16 | 2.4 | 0.7 |
| 17 | — | 0.7 |
| 18 | — | 0.8 |

土製勾玉計測値（単位cm）

| 番号 | 直径 | 高さ |
|---|---|---|
| 19 | 1.0 | 1.2 |
| 20 | 0.9 | 0.9 |
| 21 | 0.8 | 0.9 |
| 22 | 1.0 | 1.0 |
| 23 | 0.9 | 0.6 |

土玉計測値（単位cm）

**9号住居跡**（第56図、図版13、63、64）

北東壁6.9m、南東壁6.9m、南西壁6.7m、北西壁6.7mを測り、ほぼ正方形を呈する。東壁際に間仕切り溝が3本検出された。覆土は全体的にローム層を基調とした粘質層である。興味深い点は、東壁際の床面にハードローム層が棚状に固くに盛土されていたことであり、間仕切り溝の性格を示す資料として注目したい。

主軸はN－8°－Eである。竈の遺存度は良好で、天井部も一部残存していた。

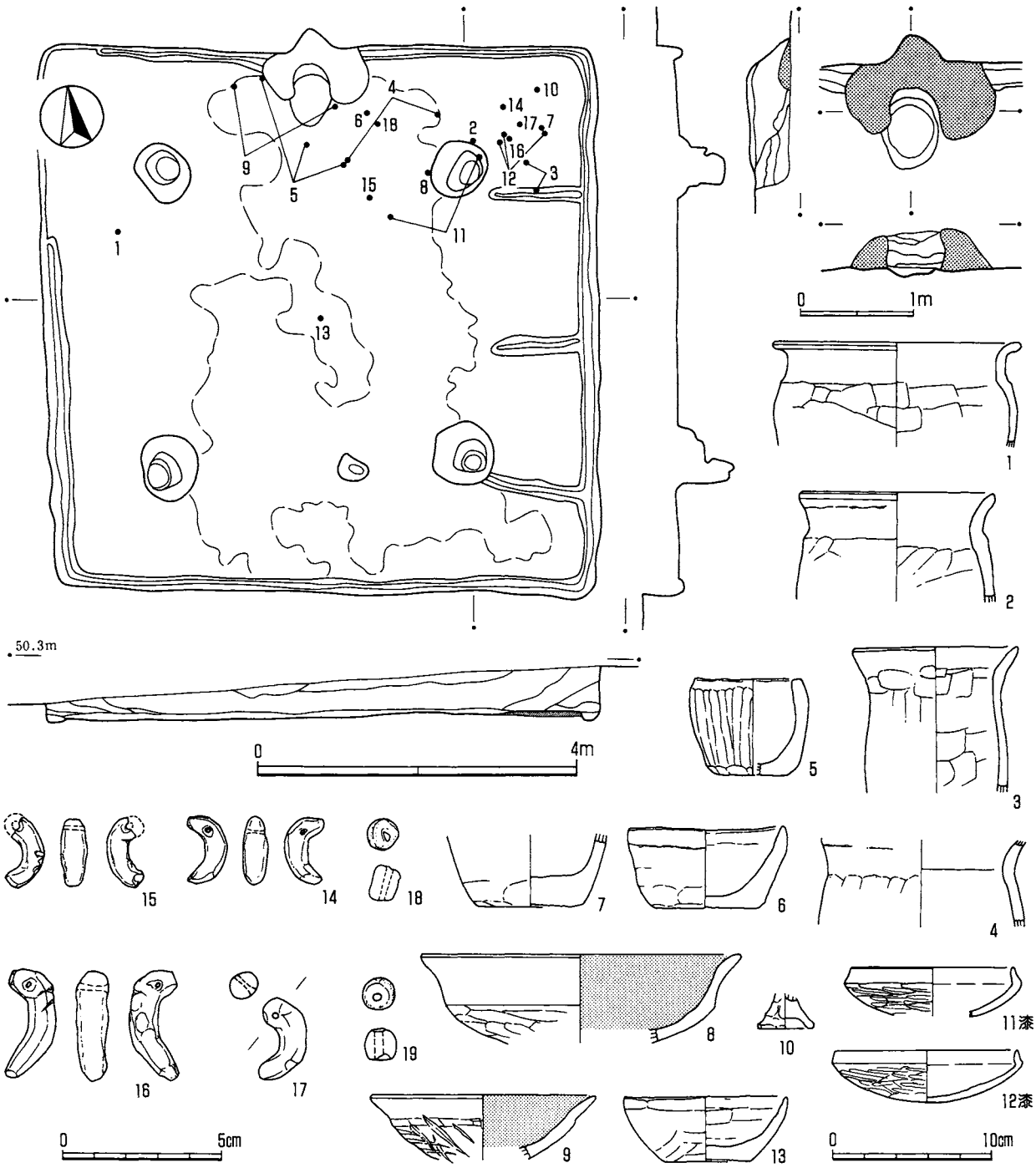
1は口径15.0cm、2は口径12.0cm、3は口径10.2cm、の比較的小形の甕である。4も含め外面タテ、内面ヨコヘラ削りが施されている。5は口径6.5cm、6は口径9.6cm、器高4.8cm、7は底部径6.7cmのいずれも手づくね土器である。5はタテヘラ削り、6の底部には木葉痕が残る。8は口径20.0cmの高坏の坏部である。口縁部はヨコナデされて強く外反する。内面は炭素吸着、ヘラ磨きである。9は口径14.0cmの高坏であるが砥石に転用されている。内面は炭素吸着、ヘラ磨きである。10は底部径3,4cmのミニチュア土器である。高坏形状であったと思われる。11は口径10.2cm、最大径11.2cm、内外面漆仕上げ、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。12は口径11.5cm、最大径12.0cm、器高3.2cm、内外面とも漆仕上げ、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。13は口径10.1cm、器高4.1cmの雑な成形の小形鉢である。14～17は土製勾玉、18、19は土玉で、8号住居跡のセットと同一規格品である。

| 番号 | 全長 | 身幅 |
|---|---|---|
| 14 | 2.1 | 0.7 |
| 15 | 2.3 | 0.7 |
| 16 | 3.4 | 0.9 |
| 17 | 2.6 | 0.8 |

土製勾玉計測値（単位cm）

| 番号 | 直径 | 高さ |
|---|---|---|
| 18 | 1.0 | 1.1 |
| 19 | 1.0 | 1.0 |

土玉計測値（単位cm）




第56図　9号住居跡

**10号住居跡**（第57図、図版13、64）

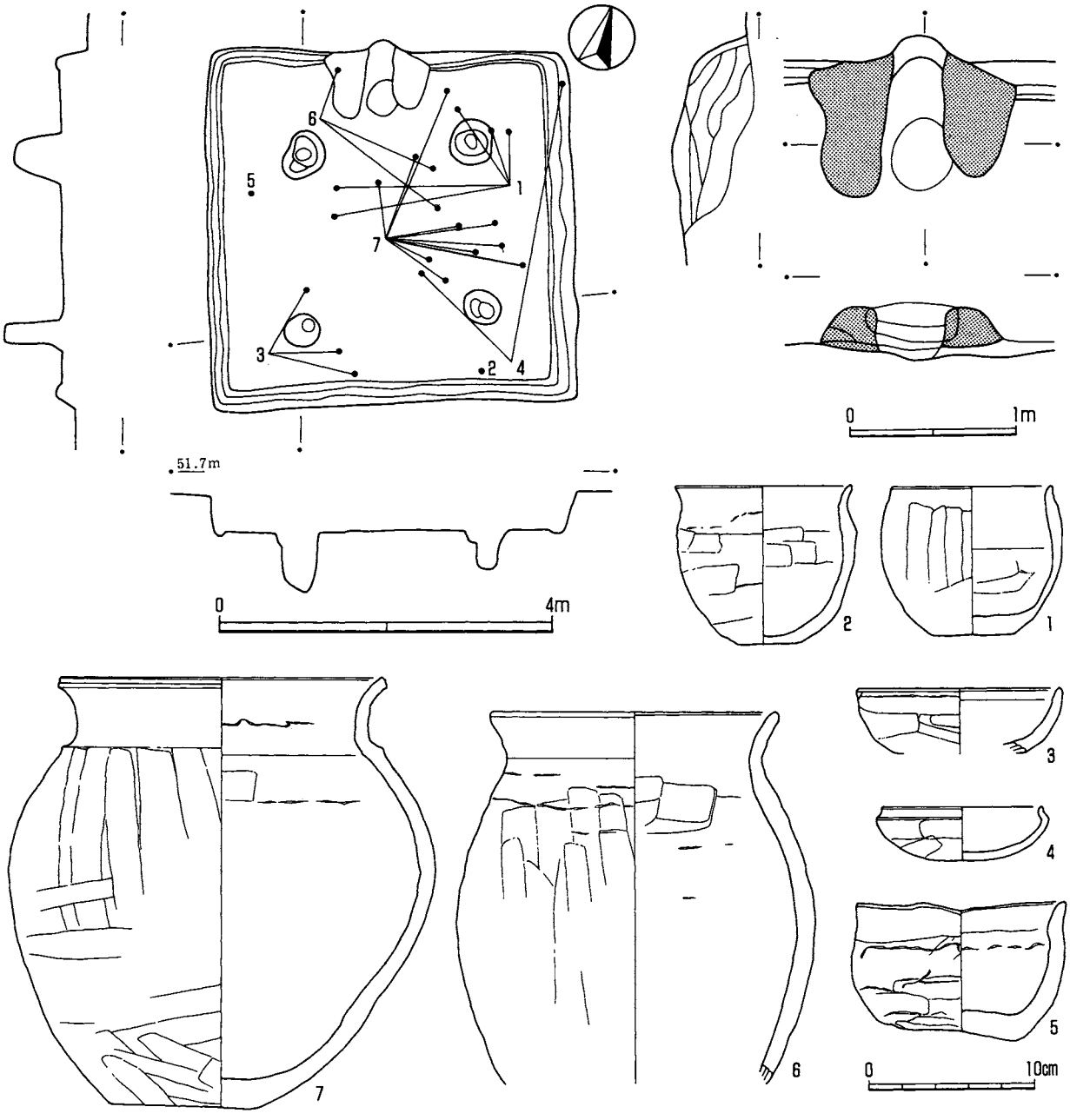
北西壁4.2m、北東壁4.2m、南東壁4.3m、南西壁4.3mを測り、ほぼ正方形を呈する。11号住居跡の廃絶後に作られたものである。小形住居の割には主柱穴が深く、竈も大形である。主軸はN－19°－Wである。覆土は新期テフラを含む黒色土を基調とする自然堆積である。竈の堀り方は明瞭に検出されず、床面の被熱も少ない。

1は口径9.6cm、器高8.8cm、2は口径10.5cm、器高9.4cm、木葉痕底部の小形甕もしくは鉢である。1はタテ、2はヨコヘラ削りであるが、両者とも丁寧な作である。3は口径12.1cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。4は口径9.6cm、最大径10.4cm、器高3.2cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。5は口径12.5cm、器高7.2cmの雑な作りの小形鉢で、粗いヘラ削りが施され、内外面に輪積痕を残している。6は口径17.1cmの甕で、ヘラ削りは雑で器壁も厚い。輪積痕を一部残す。7は口径19.3cm、器高25.7cmの甕で、胴上部はタテヘラ削り、下部はヨコヘラ削りが施されている。内部に輪積痕を一部残す。

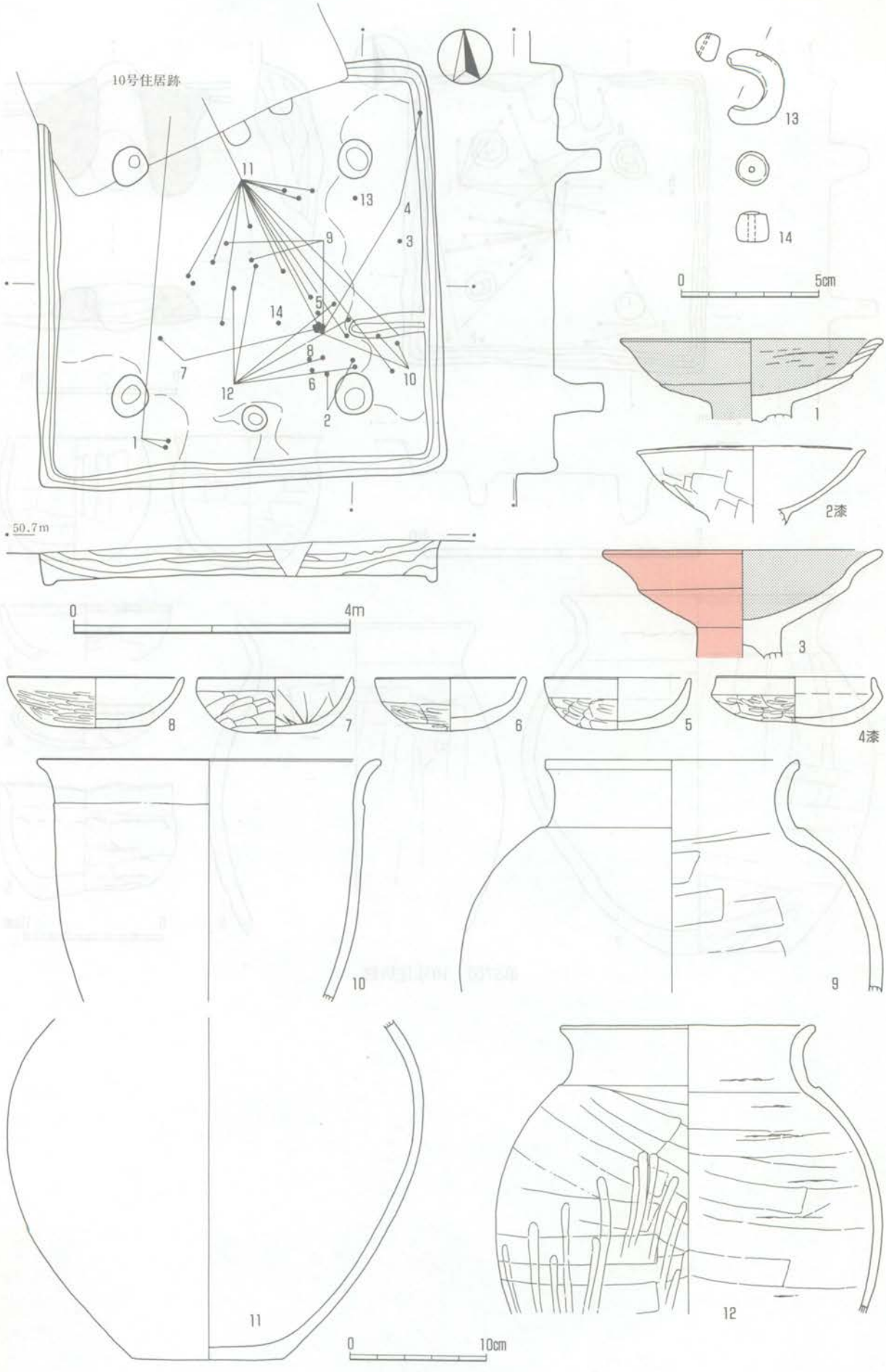
**11号住居跡**（第58、59図、図版14、64）

北壁5.6m（推定）、東壁5.7m、南壁5.9m、西壁5.8m（推定）を測り、ほぼ正方形を呈する。北西側を10号住居跡によって切られている。なお、本住居跡は四方壁が拡張されたもので、従前の堀り方も検出されているので図示した(第59図)。覆土最上層には新期テフラを含む。黒色土を基調とした自然堆積である。主柱穴及び入口施設が複数検出され、建て替えが行われたと考えたい。竈は10号住居跡によって削平されている。主軸はN－1°－Eである。

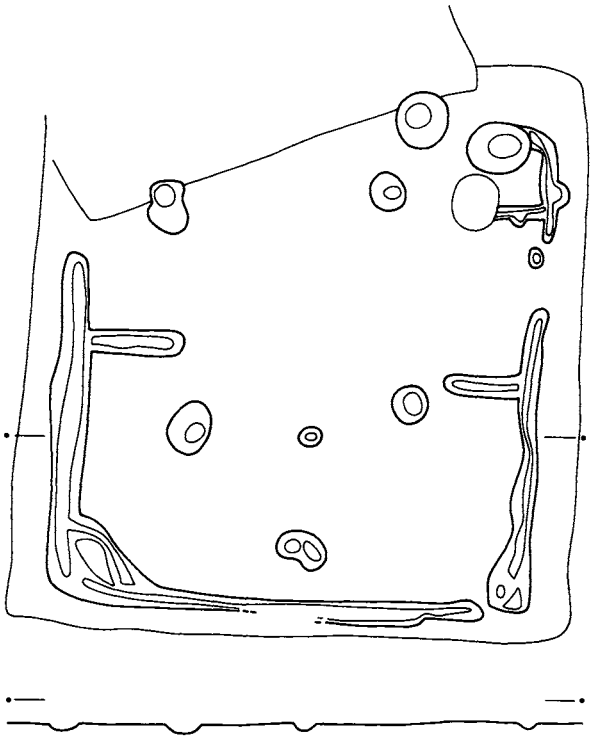
1は口径18.7cm、2は内外面漆仕上げで口径16.5cm、3は口径20.0cmのいずれも高坏である。1は内外面炭素吸着、ヘラ磨き、3は外面赤彩、内面炭素吸着であり、丁寧なヘラ磨き及びヨコナデが施されている。4は内外面漆仕上げで口径11.3cm、最大径12.5cm、器高2.3cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後雑なヘラ磨き、内面ヘラ磨きである。5は口径10.5cm、器高3.8cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後雑なヘラ磨き、内面ヘラ磨きである。6は口径10.8cm、器高3.8cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後雑なヘラ磨き内面ヘラ磨きである。7は口径11.1cm、最大径11.5cm、器高4.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後ナデ、内面放射状にヘラ痕が残る。8は口径12.7cm、器高3.6cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。9は口径18.3cm、10は口径24.6cm、11は底部径11.0cm、12は口径18.2cmのいずれも甕であるが10は甑の可能性が高い。ヘラ削りが丁寧に施され、12の胴下部には磨きに近いタテヘラ削りが見られる。内面ヘラ削りも丁寧で器壁も薄い。13は土製勾玉で全長2.8cm、身幅0.8cm、14は土玉で直径1.2cm、高さ1.2cmを測る。隣接する8、9号住居跡出土品と同一規格である。




第57図　10号住居跡




第58図　11号住居跡

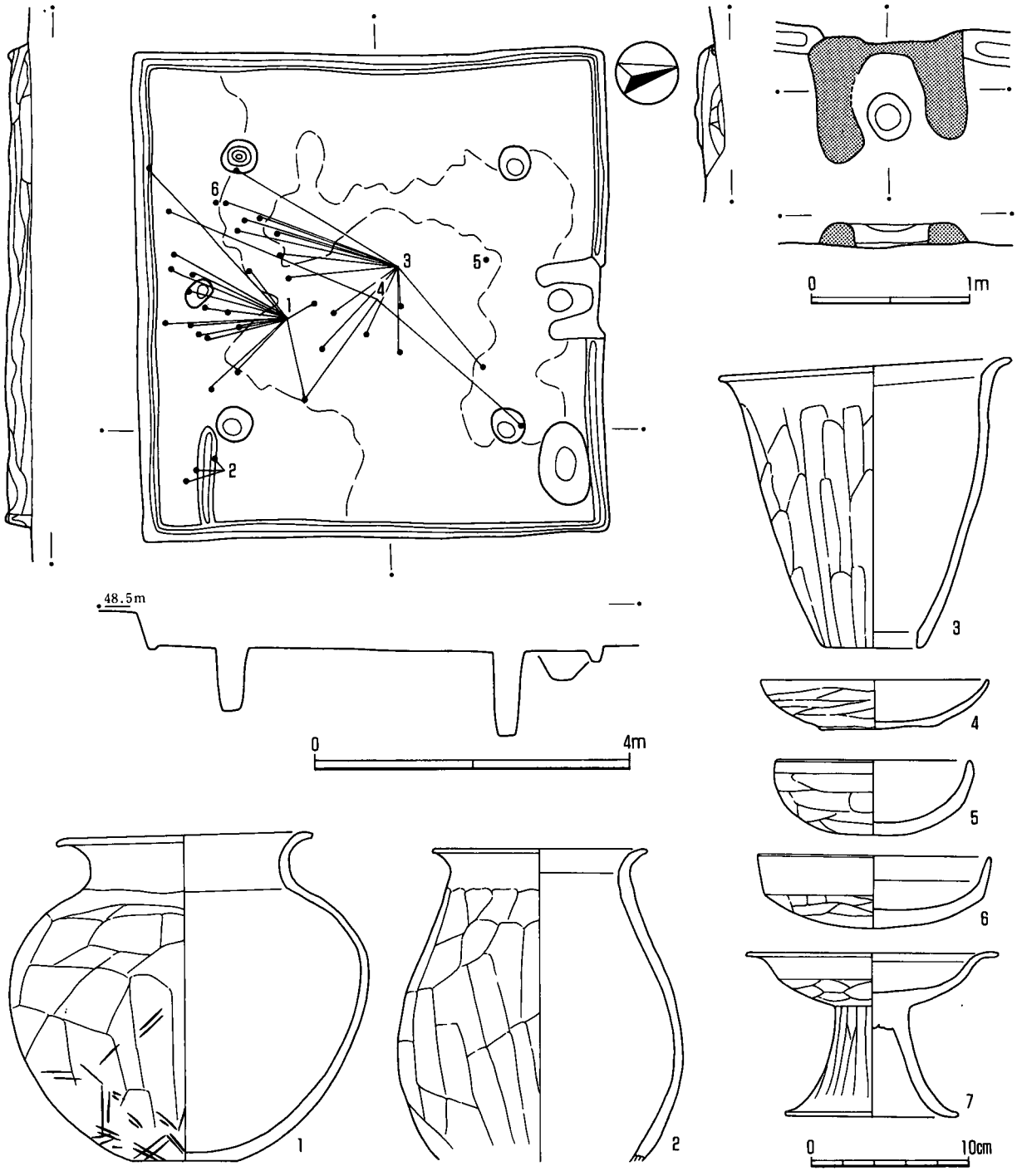


第59図　11号住居跡(古)

**12号住居跡**（第60図、図版14、64）

西壁6.0m、北壁6.0m、東壁5.9m、南壁6.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。壁際を中心に炭化材、焼土が多量に検出された焼失住居跡である。覆土は自然堆積であるが、各層に炭化材、焼土が混在している。竈は天井部が大きく削平され、袖基盤が薄く残っている。火床部も浅く、床面もほとんど被熱されていない。主軸はN－13°－Eである。

1は口径15.5cm、器高20.4cm、2は口径13.3cmは甕である。1の底部から胴中央部に向かって、櫛状工具痕が数条残っている。1，2共に丁寧なヘラ削りが施されている。3は口径18.2cm、器高17.6cmの甑である。法量、形状から考えて、1のセットとなるものであろう。4は口径14.3cm、器高3.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。底部はヘラ削りによる作りだしで平底を呈している。5は口径12.2cm、最大径12.6cm、器高4.7cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。6は口径14.7cm、器高4.5cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。7は口径15.2cm、器高10.4cmの高坏である。口縁部はヨコナデされ、大きく外反している。坏部はヨコヘラ削り、脚部は丁寧なタテヘラ削りが施されている。




第60図　12号住居跡

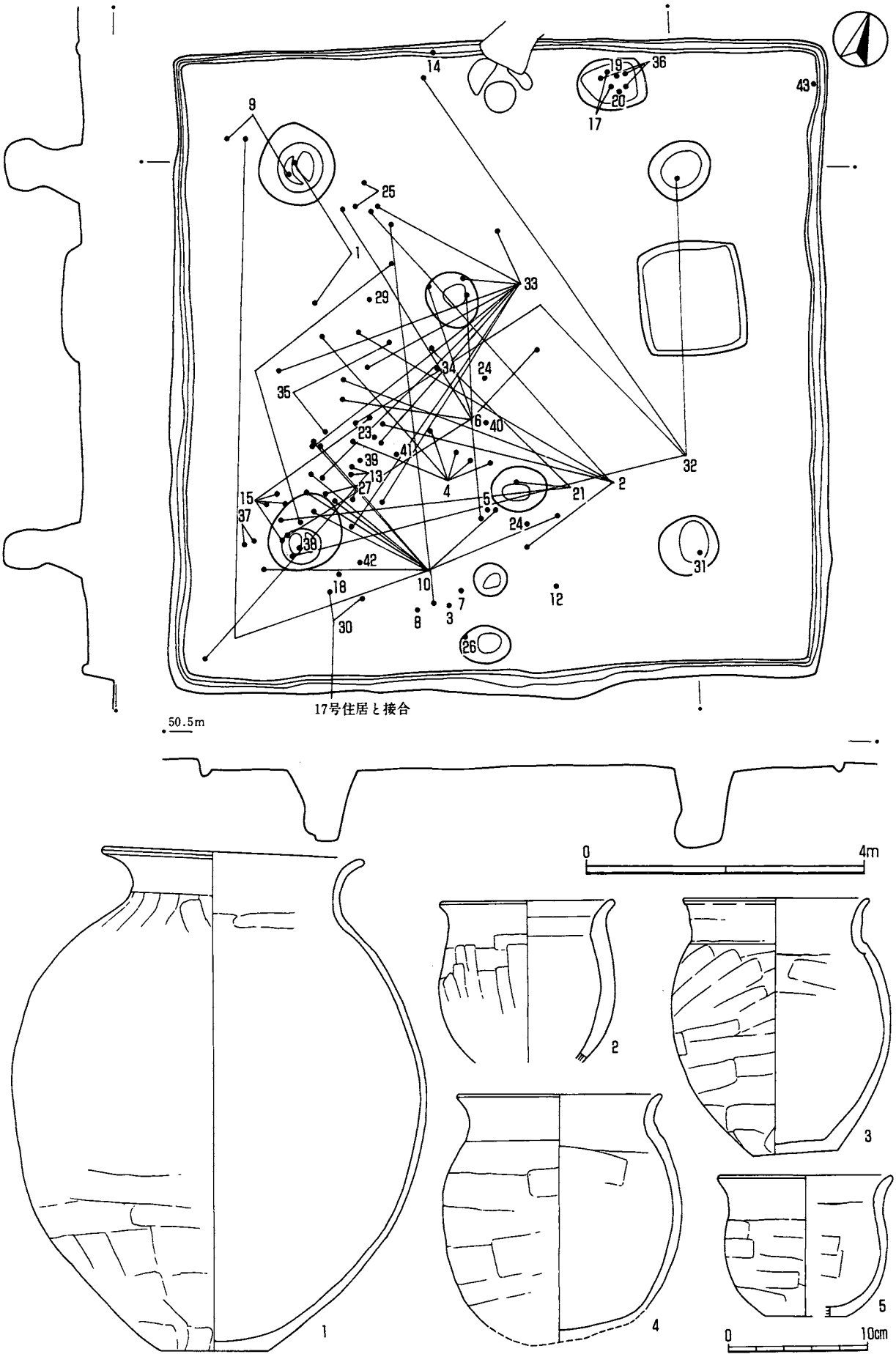
**13号住居跡**（第61、62、63図、図版15、16、64、65）

北西壁9.4m、北東壁9.0m、南東壁9.3m、南西壁9.0mを測り、本集落最大の住居跡である。ほぼ正方形を呈する。甕を主体に遺存度の良好な土器が大量に出土している。主軸はN－20°－Wである。主柱穴内側にある２つのピットは、深さ10cm程で性格は明らかで無い。覆土内より土器片も出土しており、場所的にも柱穴とは考えにくい。東床面より検出された方形のピットは深さ20cm程で、後世の攪乱では無いものの、本住居の貯蔵穴とするには浅い感があり、類例も無い。竈は袖と火床部が僅かに残存する程度であるが、住居の規模からすると、極めて小型と言えよう。

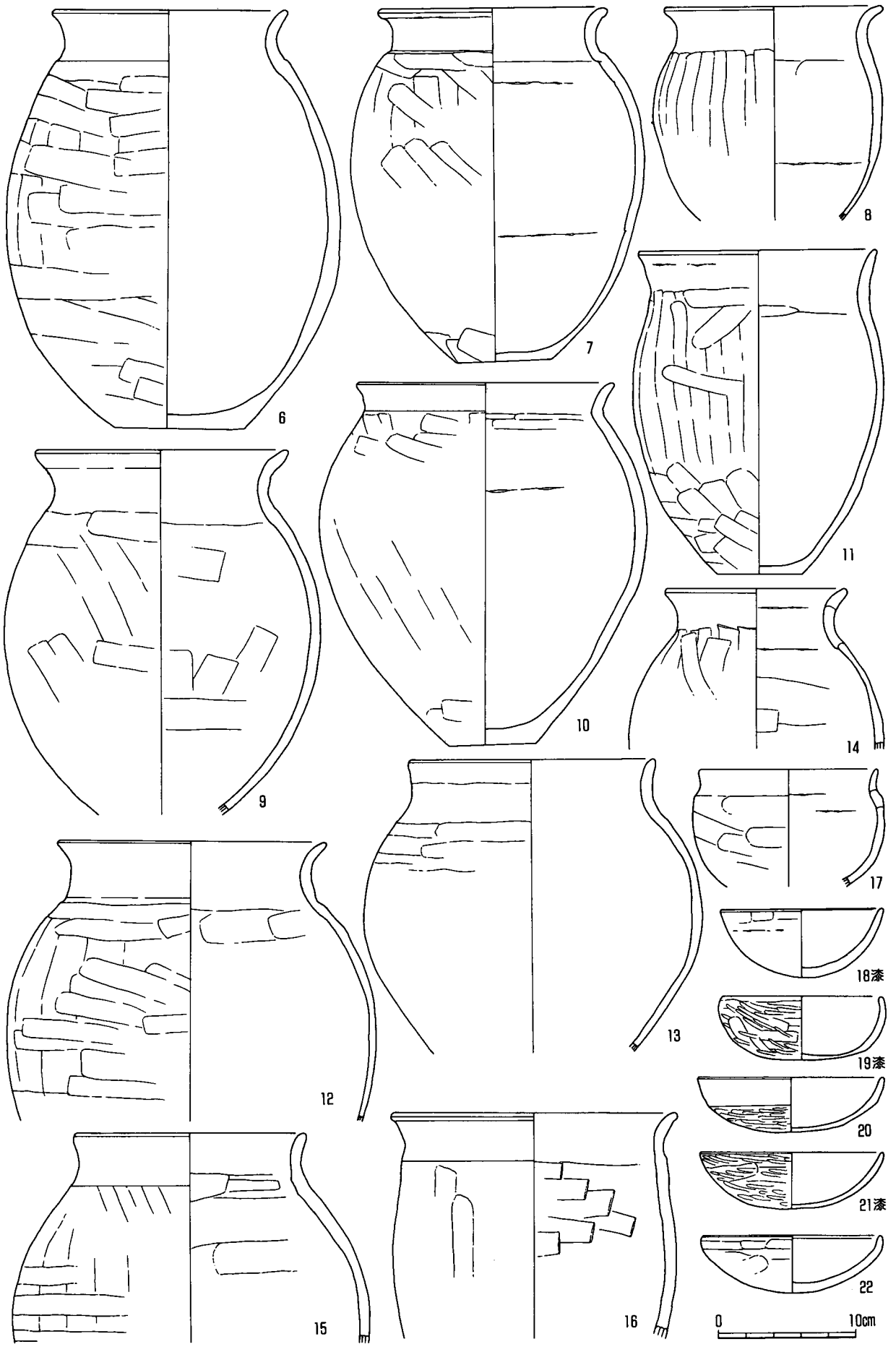
１～17及び33～35は、一部に鉢の形式を含む甕である。１は口径18.5cm、器高35.4cm、２は口径12.2cm、３は口径13.3cm、器高18.1cm、４は口径14.6cm、５は口径12.3cm、６は口径16.8cm、器高30.4cm、７は口径16.2cm、器高25.7cm、８は口径15.6cm、９は口径18.0cm、10は口径18.5cm、器高26.0cm、11は口径17.1cm、器高23.2cm、12は口径19.2cm、13は口径17.7cm、14は口径18.0cm、15は口径16.5cm、16は口径20.6cm、17は口径12.8cm、33は底部径7.4cm、34は口径15.6cm、35は底部径7.8cmを測る。これだけの数の甕が、すべて本住居跡に帰属するものとは断定できない。すべて竈外の覆土からの出土であり、後世に本住居跡にまとめて廃棄されたものも含まれるであろう。甕の大きさや形状によって、ヘラ削りに一定の向き等の規則性があるわけでは無いが、胴下半部はタテヘラ削りを主体に、丁寧な成形が見られることが特徴である。18～27が土師器の坏である。18は内外面とも漆仕上げで口径11.8cm、器高4.9cm、19は内外面とも漆仕上げで口径11.6cm、最大径12.3cm、器高4.5cm、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。20は口径13.4cm、器高4.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。21は内外面とも漆仕上げで口径13.2cm、器高4.0cm、22は口径13.0cm、器高4.1cm、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。23～25はいずれも内外面とも漆仕上げである。23は口径10.1cm、最大径11.0cm、器高2.9cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。24は口径11.8cm、外面口縁部～体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。25は口径11.8cm、器高3.3cm、外面口縁部～体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。26は口径12.4cm、最大径14.6cm、器高3.8cm、内外面炭素吸着処理と思われる。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。27は内外面とも漆仕上げで、口径13.3cm、器高3.4cm、外面口縁部～体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。24、25も含め、底部はヘラ削りによる作りだしで稜線を有し、いわゆる東北系と言われるものである。

28は口径9.8cm、器高4.5cm、29は口径9.6cm、最大径12.1cm、器高3.7cm、30は口径9.4cm、最大径11.7cm、器高3.7cmのいずれも須恵器の坏である。焼成は良好で灰色を呈する。湖西産と思われるが詳細は後述する。注目すべきは、30の坏が17号住居跡出土の破片と接合関係を持つことであり、こうした事例は、栗焼棒遺跡では他の住居跡でも須恵器に限ってある。17号住居跡からは蓋（９）が出土しており、セットとして考えると30は本来17号住居跡に帰属するものかもしれない。

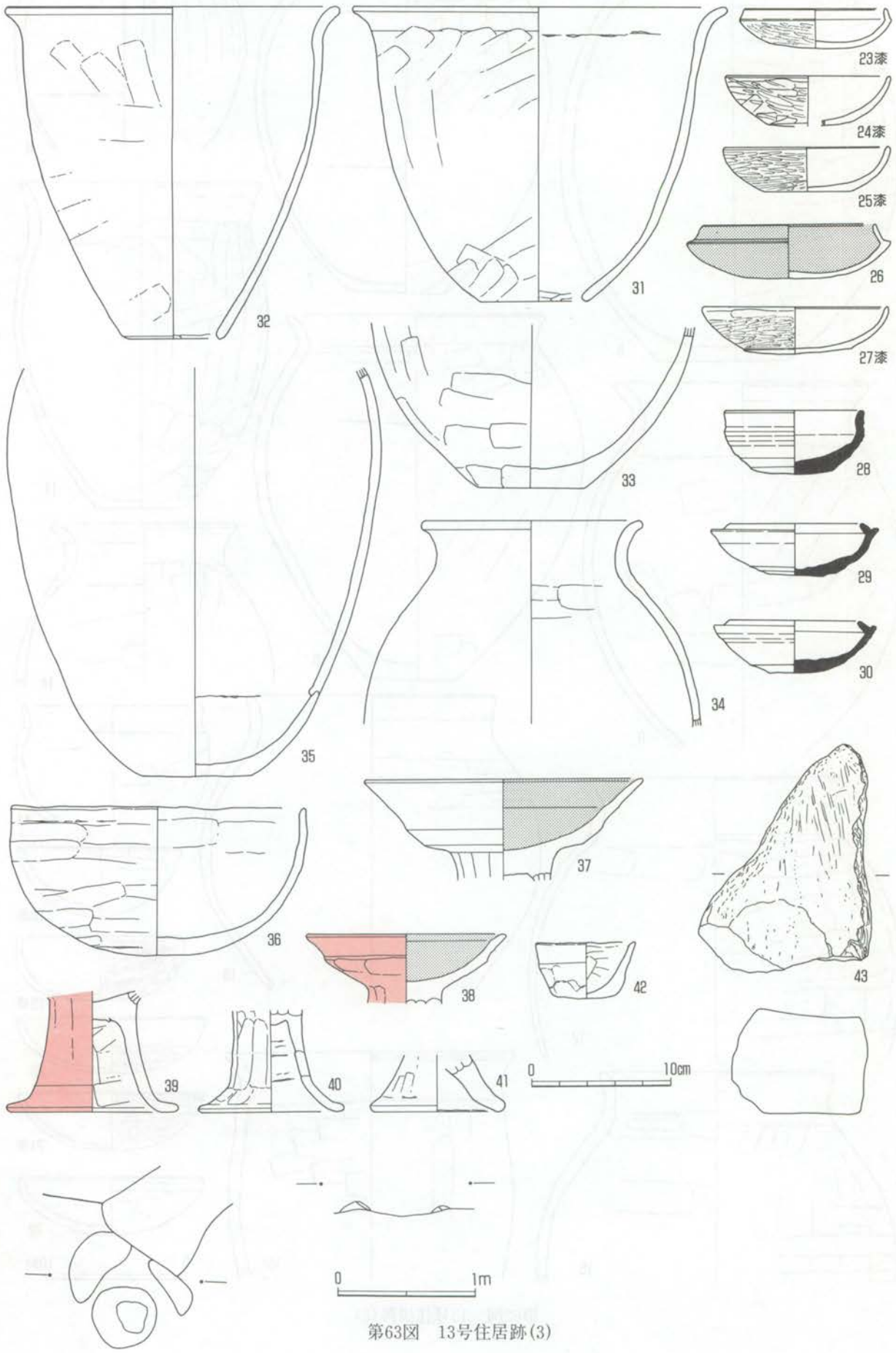
31は口径27.0cm、器高21.2cm、32は口径23.6cm、器高23.8cmの甑である。両者とも丁寧なヘラ削りで整った形状である。竈からは離れて出土しており、特に31は柱穴覆土内に完形で出土した。36は口径21.1cm、器高10.6cmの鉢で、内外面とも粗いヨコヘラ削りが見られ、雑な成形である。37は口径20.0cm、38は口径14.7cmの高坏坏部で内面は丁寧に磨かれ、炭素吸着が施されている。39は底部径21.0cm、40は底部径19.8cm、41は底部径14.0cmの高坏脚部で、裾部が外反する。42は口径7.1cm、器高4.0cmの手づくね土器である。43は自然礫片を使用した砥石である。




第61図　13号住居跡(1)




第62図　13号住居跡(2)

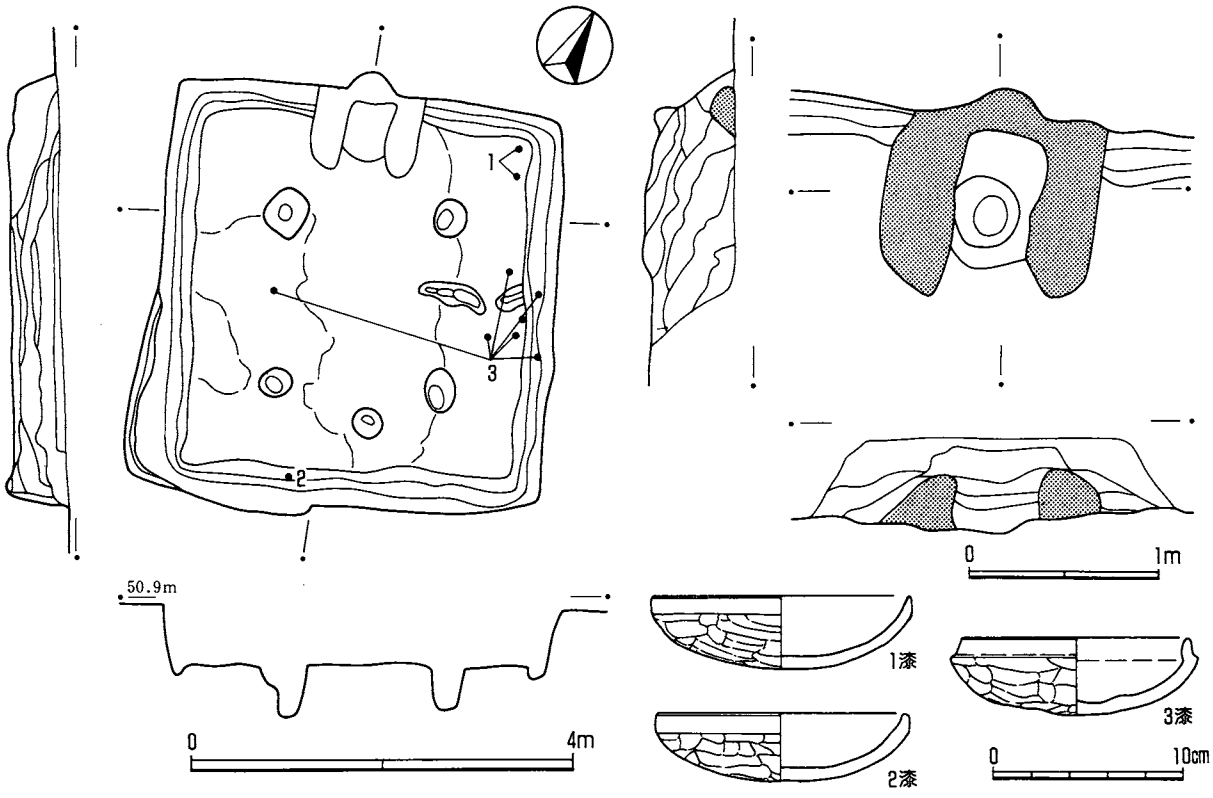



第63図　13号住居跡(3)

**14号住居跡**（第64図、図版16、66）

北西壁4.0m、北東壁3.9m、南東壁4.3m、南西壁4.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。覆土は暗褐色土にロームブロックを多く含む層を基調にした自然堆積である。東側床面に深さ5cm程の間仕切り溝を2本有する。竈は比較的遺存度が良く、天井の一部も残存する。袖、火床部とも大形の作である。主軸はN－25°－Wである。

1は内外面とも漆仕上げで口径13.5cm、器高3.8cm、2は内外面とも漆仕上げで口径13.0cm、最大径13.3cm、器高3.5cm、3も内外面とも漆仕上げで口径12.0cm、最大径13.1cm、器高4.0cmでいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。




第64図　14号住居跡

**15号住居跡**（第65図、図版16、17、66）

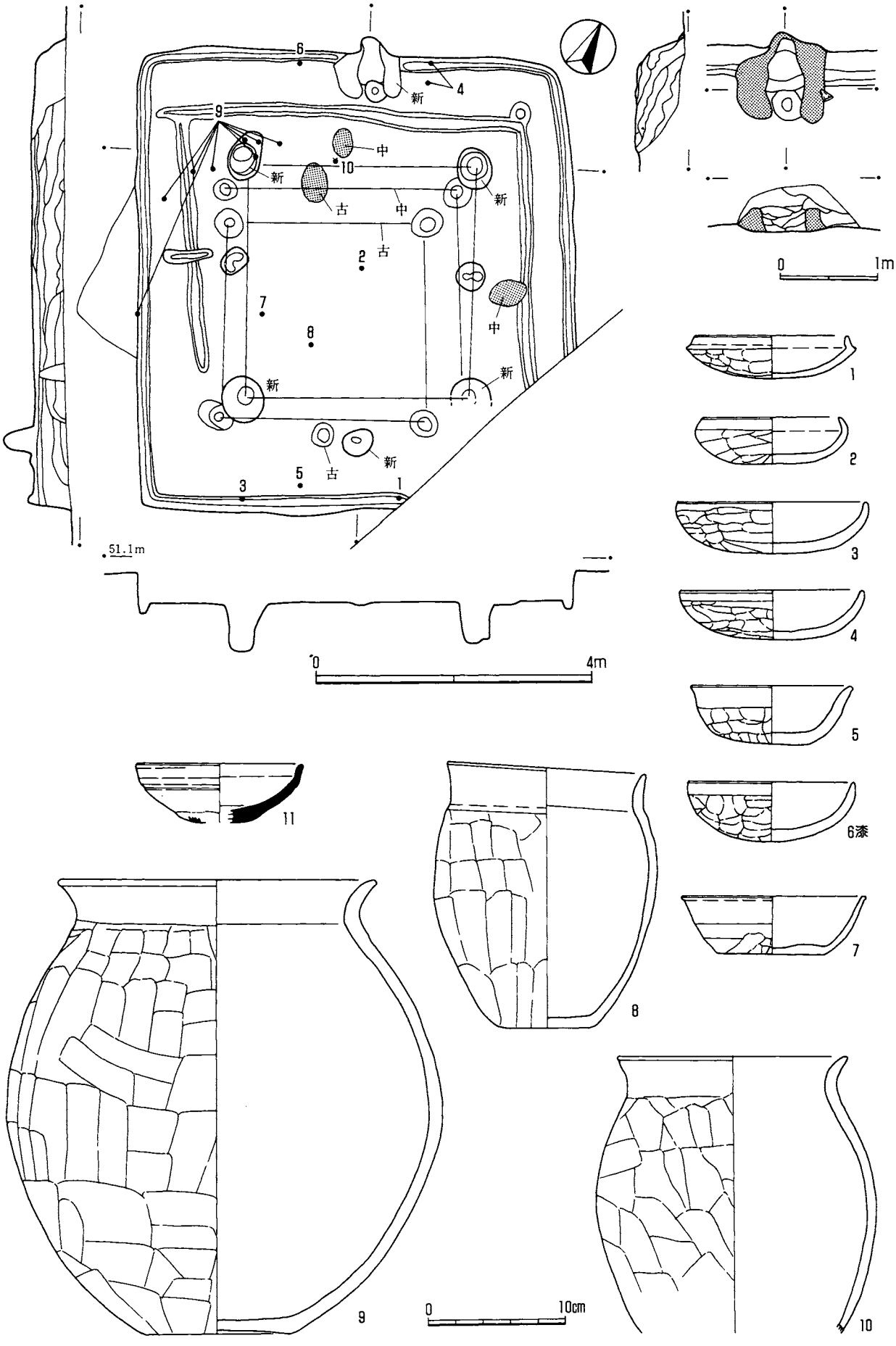
北西壁6.0m、北東壁6.4m（推定）、南東壁6.4m（推定）、南西壁6.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸はN－28°－Wである。竈の火床部跡と思われる焼土が他に2カ所、主柱穴、入口施設跡も複数検出されている。おそらく合計で3回の建て替え（拡張）があったと判断される。古、中、新とした場合、古段階の周溝は今回検出されていない。なお、この場所は後世（平安時代）に51号住居跡によってさらに切られている。覆土は暗褐色土を基調としたロームブロックを含む自然堆積である。

1～7は坏であるが7については51号住居跡の混入品と思われる。1は口径11.1cm、最大径12.3cm、器高3.0cm、2は口径10.0cm、最大径11.0cm、器高3.4cm、3は口径13.7cm、最大径14.0cm、器高3.7cm、4は口径13.2cm、器高3.5cm、5は口径11.5cm、器高4.2cm、6は内外面とも漆仕上げで口径12.0cm、器高4.2cm、を計る。いずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。1～6は外面ヘラ削り後「ヘラ磨き」を施さない点が共通している。7は口径13.1cm、器高4.2cm、ロクロ成形で底部は手持ちヘラ削りで平底を呈する。51号住居跡の混入品と考えたい。8は口径14.3cm、器高18.4cm、9は22.4cm、器高32.2cm、10は口径16.4cmのいずれも甕である。外面は丁寧なヘラ削りが施されている。11は2／3程を欠損する。口径12.1cm（復元）器高4.3cm（復元）の蓋坏無台坏身としたが蓋とも考えられる。底部は瘤状にやや盛り上がり、同心円状の回転ヘラ削り？が施されているが、定かでない。平行板目痕が残る。上記の特徴から湖西産と思われ、詳細は後述するが、口径からすると湖西III期第2小期に比定される。しかし、口径が9cm前後と小形であるが、11のように底部が瘤状に盛り上がるものは第1小期等古い時期に類例がある。11の口径は復元数値であるため、詳細は不明である。なお、瘤状の盛り上がりが意図的な成形であるとすれば、体部から底部にかけて稜線を有し、本遺跡からも出土する「東北系の坏」との関連が問題となるが、この点も後述する。

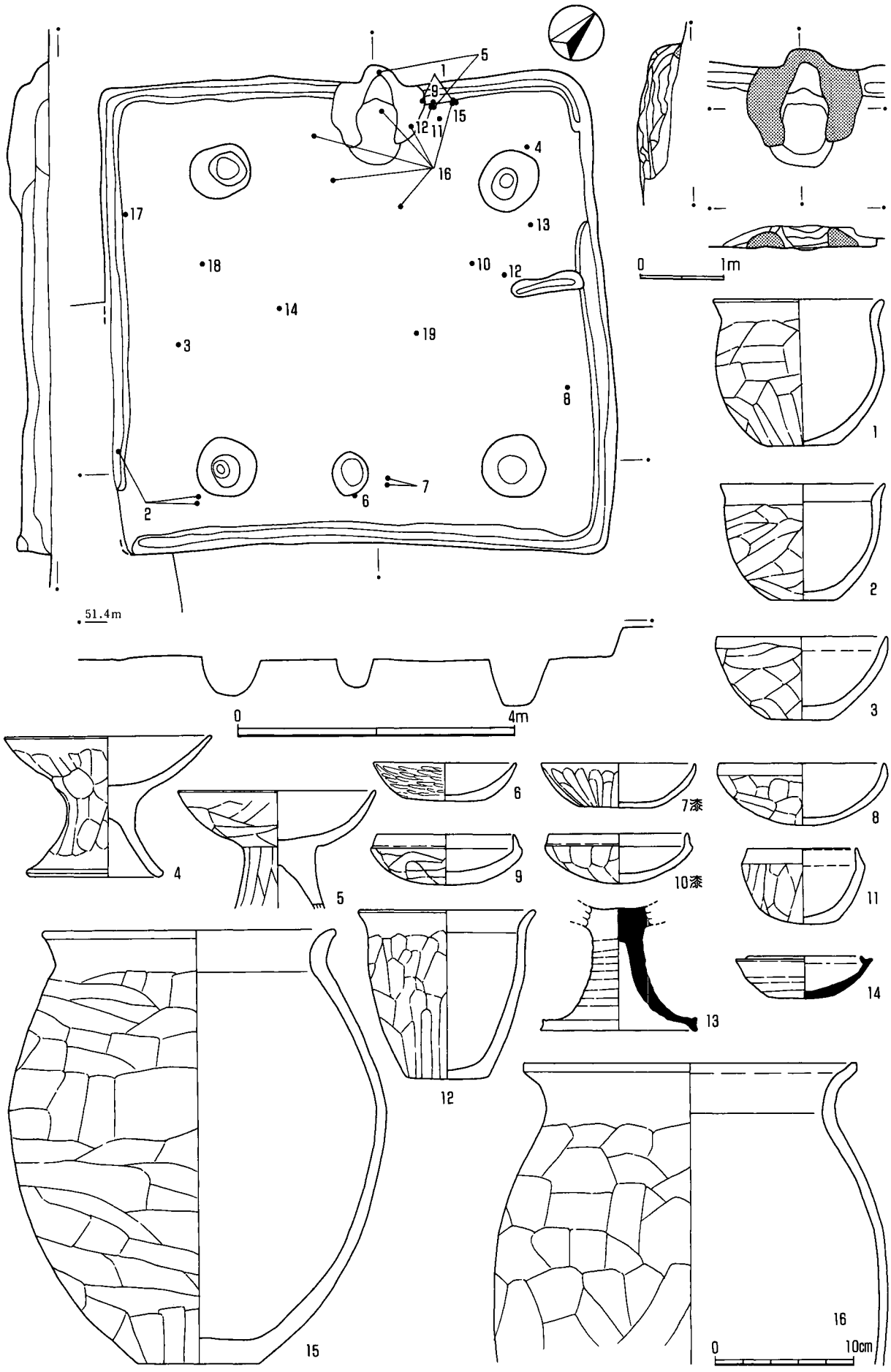
**16号住居跡**（第66、67図、図版17、18、66、67）

北西壁6.8m、北東壁6.9m、南東壁7.0m、南西壁6.7mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面下に古い周溝の一部が検出され、本住居跡も拡張を行っている可能性がある。遺物が分散しておらず、完形品が床面上に多く出土した。覆土最上層には新期テフラを多く含んでいる。竈周辺には土器が集中しており、天井の一部も残存する。主軸はN－47°－Wである。

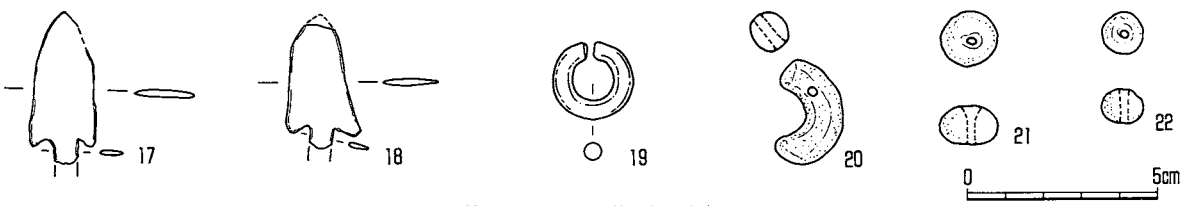
1は口径12.0cm、器高10.5cm、2は口径11.8cm、器高8.4cm、3は口径12.3cm、器高5.9cmのいずれも鉢である。外面は丁寧なヘラ削りが施されている。1，2は形状は甕形であるが二次焼成痕も無く、法量的にも煮沸用とは考えにくい。11、12も同様に鉢と考えたい。11は口径7.9cm、最大径9.0cm、器高5.4cm、12は口径12.7cm、器高12.0cmを測る。4は口径14.7cm、器高10.0cm、5は口径14.1cmの高坏である。やや雑なヘラ削りであり、外面を飾る技法を取り入れていない。6～10は坏である。6は口径10.3cm、器高2.7cmで内外面とも丁寧なヘラ磨きが施されている。7は内外面とも漆仕上げで口径11.0cm、器高3.2cm、8は口径12.0cm、器高4.5cm、9は口径10.0cm、最大径11.1cm、器高3.5cm、10は内外面とも漆仕上げで口径10.0cm、最大径10.6cm、器高3.5cmを測り、いずれも外面ヘラ削り、内面ヘラ磨きである。13は底部径11.1cmの須恵器高坏である。14は口径8.2cm、最大径10.0cm、器高3.1cmの合子状坏身の須恵器である。体部下部回転ヘラ削り、底部は同心円状の回転ヘラ削りであり、×状のヘラ記号が残る。湖西産と思われる。15は口径20.8cm、器高30.9cm、16は口径24.0cmの甕でいずれも二次焼成を受け、竈際から出土している。本住居跡に帰属する一括遺物であろう。17は鉄鏃であるが、銹化が極めて著しい。刃部最大長3.5cm、最大幅1.8cm、


6
4
新
9
中
10
新
古
中
新
2
古
7
8
中
新
新
新
古
5
3
1
51.1m
0
4m
0
1m
1
2
3
4
5
6漆
7
8
9
10
11
0
10cm

第65図　15号住居跡




第66図　16住居跡(1)



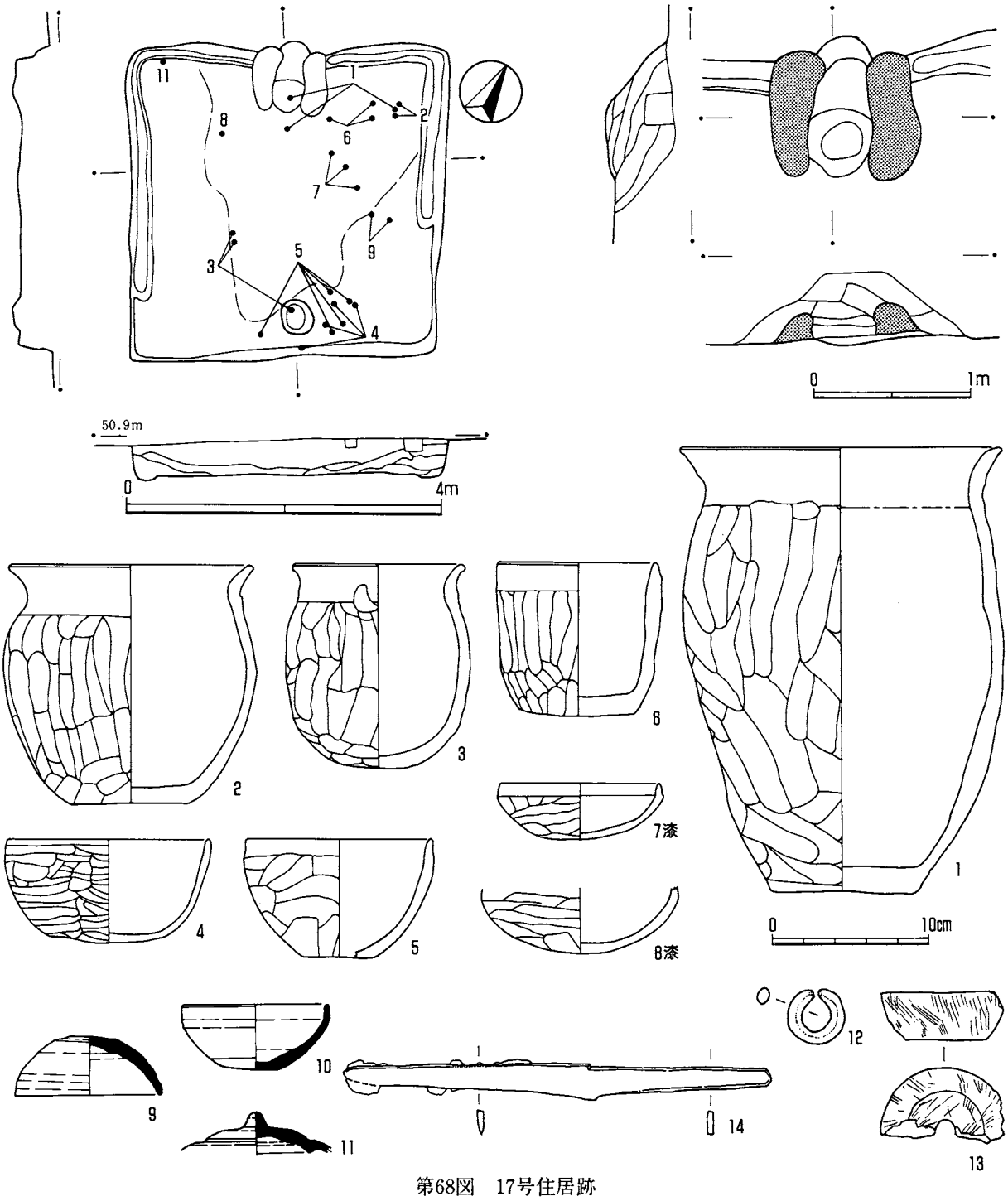

第67図　16号住居跡(2)

18は刃部最大長2.9cm、最大幅2.0cmを測る。19は銅地金張か塗金(金メッキ)の耳環で、直径2.1cmを測る。20は土製勾玉で、全長2.7cm、身幅1.0cmを測る。21は土玉で直径1.5cm、高さ1.0cm、22も土玉で直径1.1cm、高さ0.9cmを測る。

**17号住居跡**（第68図、図版18、19、67）

北西壁4.0m、北東壁3.8m、南東壁3.9m、南西壁3.9mを測る小形の住居跡である。ほぼ正方形を呈する。南側壁際には周溝が検出されなかった。主柱穴も検出されず、深さ10cm程の浅い入口施設ピットのみ存在する。床面は周溝の存在する北側を中心に硬化面となっている。こうした竪穴構造から上屋の復元を想定すると、本住居には四方に壁や屋根が存在したか、疑問に思われてくる。入口付近は、大きく開いた間口であったと考えることもできる。覆土最上層には新期テフラを多く含んでいる。主軸はN－28°－Wである。

1は口径20.2cm、器高27.7cmの甕で竈火床部から出土した。外面は粗いヘラ削りが施され、器壁の凹凸が目立つ。二次焼成を強く受けている。2～6は鉢と考えられる。2は口径15.0cm、器高14.8cmで丁寧なヘラ削りで二次焼成を受けていない。3は口径10.6cm、器高12.7cm、4は口径12.8cm、器高6.4cmで外面は磨きに近い丁寧なヘラ削りが施されている。5は口径11.7cm、器高7,3cm、6は口径10.1cm、器高9.6cmを測る。7は内外面とも漆仕上げの口径10.0cm、最大径10.6cm、器高3.5cmの坏である。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、8も内外面とも漆仕上げの坏であろう。丁寧なヘラ削りが見られる。9は口径9.4cm、器高4.6cmの合子状坏蓋の須恵器である。天井部は同心円状の回転ヘラ削りである。湖西産と思われる。10は口径9.4cm、器高4.1cmの蓋坏無台坏身の須恵器で、体部下部回転ヘラ削り、底部は同心円状の回転ヘラ削りである。焼成が9に比べやや不良であるが、これも湖西産と思われる。11はかえり付坏蓋の須恵器で乳頭状つまみを持つ。推定口径は11cm前後のものである。天井部は同心円状の回転ヘラ削り後、丸みをつけられている。自然釉がかかる。12は銅地金張か塗金の耳環である。直径1.8cmを測る。13は石製紡錘車である。推定直径4.2cm、孔径0.6cmを測る。14は鉄製刀子である。刃部長さは8cm、茎長さは6cmである。直径1.8cmを測る。

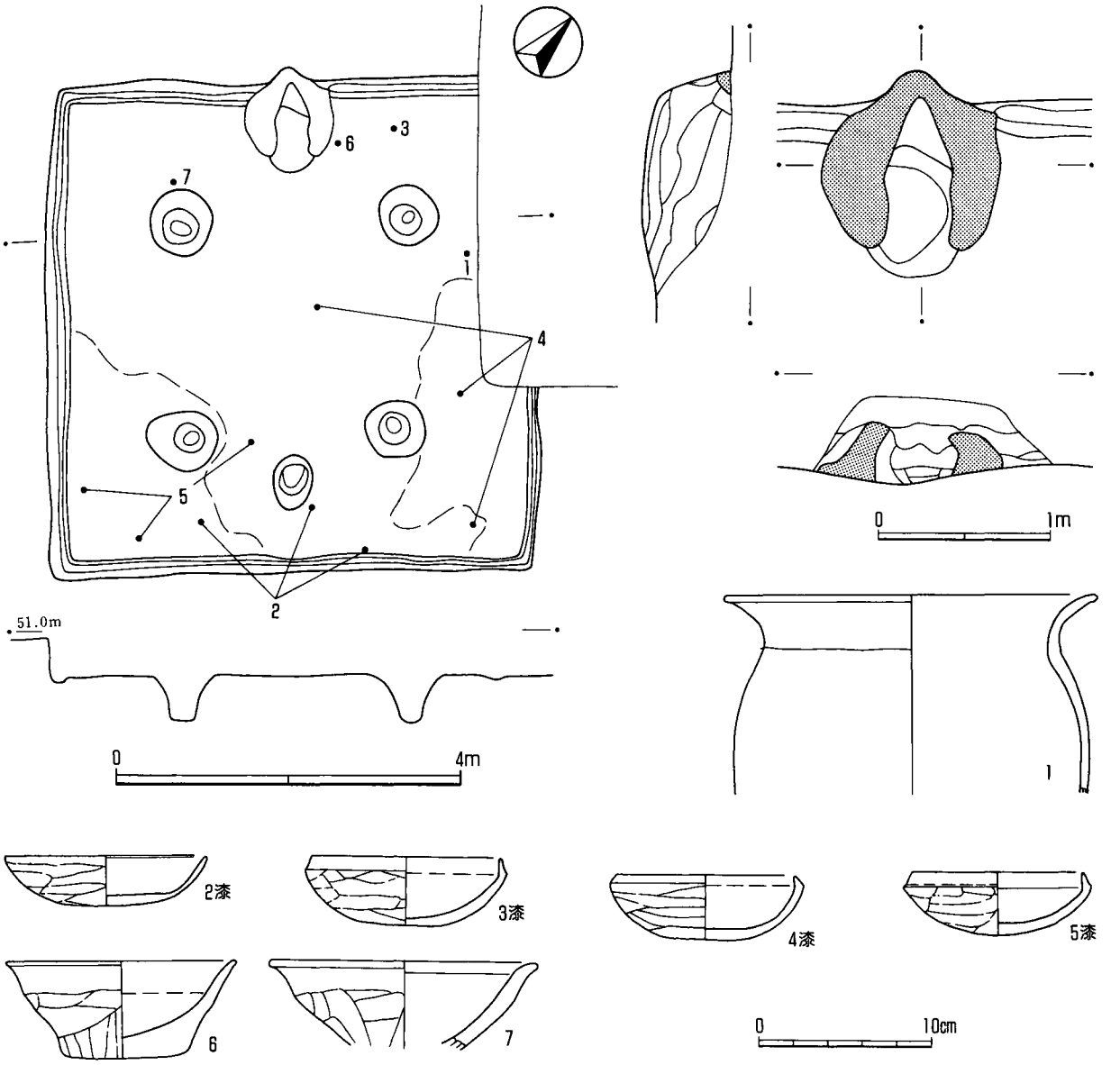



第68図　17号住居跡

**18号住居跡**（第69図、図版19、67）

北西壁5.6m（推定）、北東壁5.7m（推定）、南東壁5.6m、南西壁5.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。16号住居跡によって北東壁の一部を切られている。竈周辺の床面が特に硬化している。覆土は最上部に新期テフラを含む自然堆積である。竈の遺存度は良好で、天井の一部も残存する。主軸はN－43°－Wである。

1は口径21.4cmの甕で器壁の摩滅が著しい。2～5は内外面とも漆仕上げの坏である。2は口径11.7cm、器高2.9cm、3は口径11.0cm、最大径11.8cm、器高3.9cm、4は口径10.4cm、最大径11.3cm、器高3.7cm、5は口径10.0cm、最大径11.0cm、器高3.6cmでいずれも外面は丁寧なヘラ削り、内面はヘラ磨きである。6は口径13.3cm、器高5.5cm、7は口径15.2cmを測る鉢であるが7は高坏かもしれない。外面はヘラ削り、内面はヘラ磨きである。

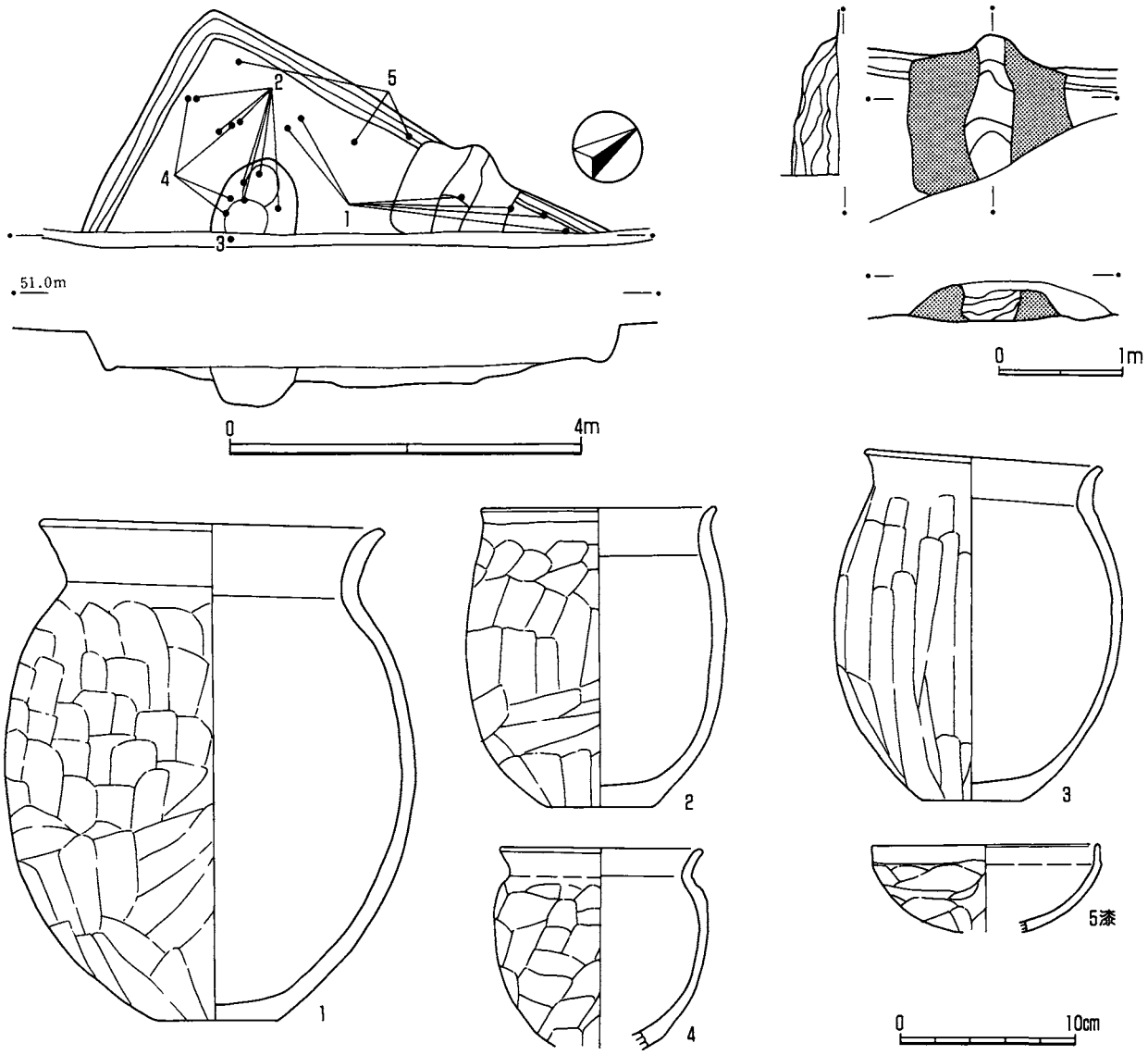



第69図　18号住居跡

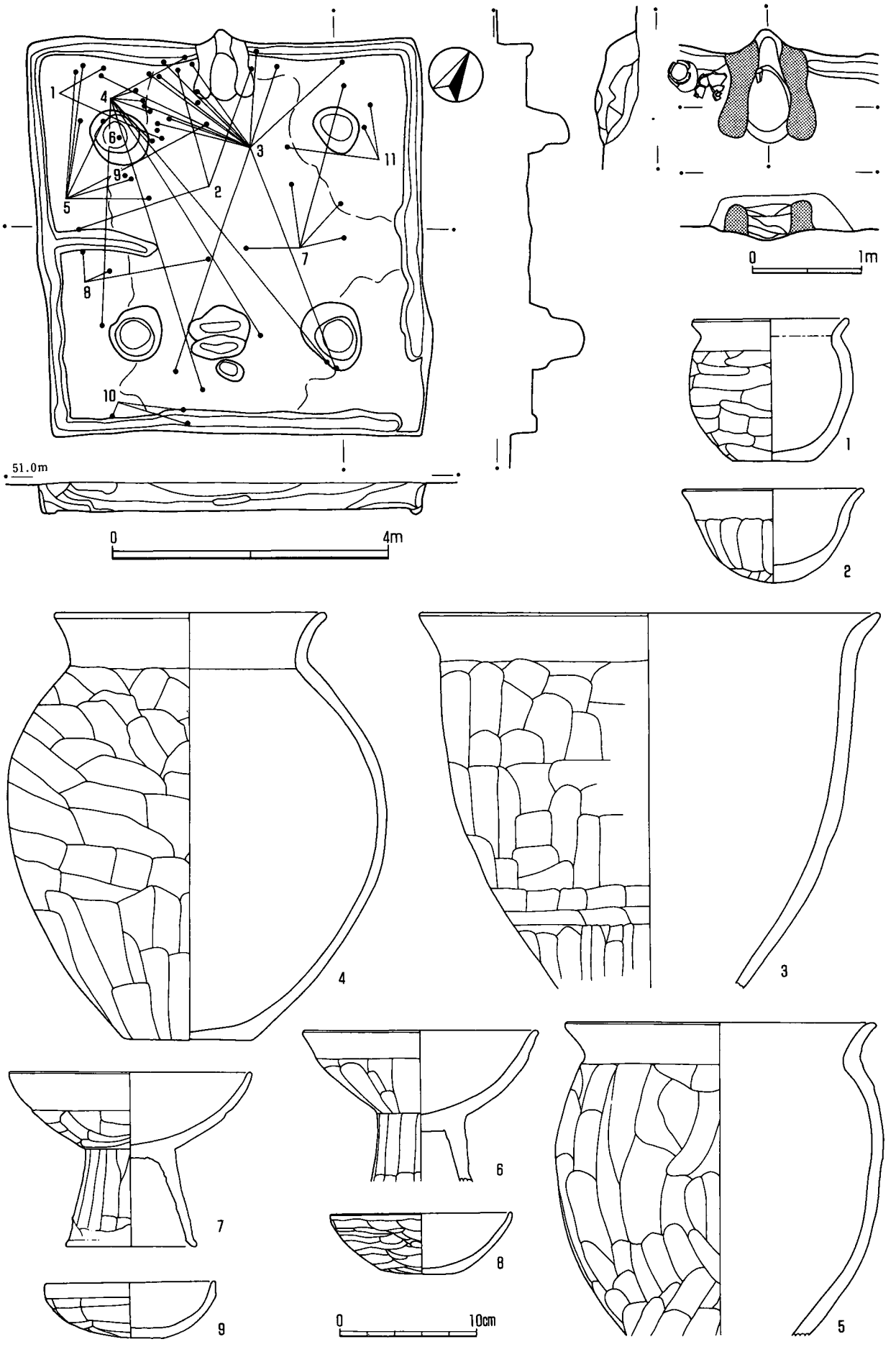
**19号住居跡**（第70図、図版19、67、68）

北西部一部の検出である。主軸はN－29°－Wである。主柱穴は１基しか検出されていないが、状況から見ると建て替え（拡張）を行った可能性が高い。住居断面からも、ロームブロックを敷き詰めた明確な張り床が確認されている。竈の袖の遺存度は良好で、遺物も多く出土している。

１は口径19.1cm、器高27.8cmの甕で、竈内部を中心に出土したものである。本住居跡に確実に帰属する土器である。２は口径13.3cm、器高16.8cm、３は口径13.2cm、器高19.3cm、４は口径11.4cmのいずれも甕形ではあるが、二次焼成痕は無く、煮沸用途であったかどうか不明である。５は内外面とも漆仕上げの坏で、口径12.8cm、最大径13.1cmを測る。口縁部はつまみ上げられ、外面はヘラ削り、内面はヘラ磨きである。




第70図　19号住居跡

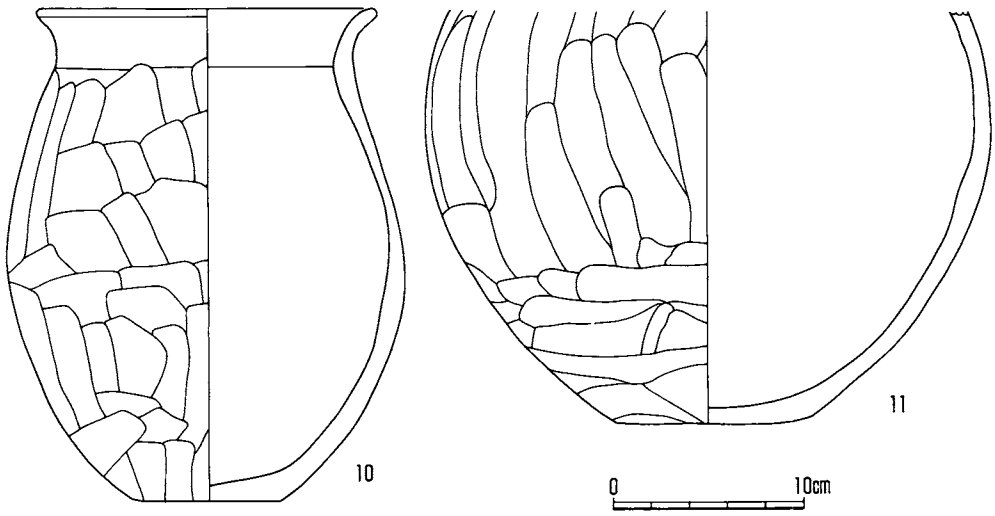



第71図　20号住居跡(1)

**20号住居跡**（第71、72図、図版20、68）

北西壁5.8m、北東壁5.8m、南東壁5.4m、南西壁5.7mを測り、ほぼ正方形を呈する。周溝は東南部で一部欠如する。床面西側に間仕切り溝が１条検出されている。覆土は最上層に新期テフラを含む自然堆積である。竈は袖の奥行きが比較的長く、火床部も大形である。主軸はN－31°－Wである。

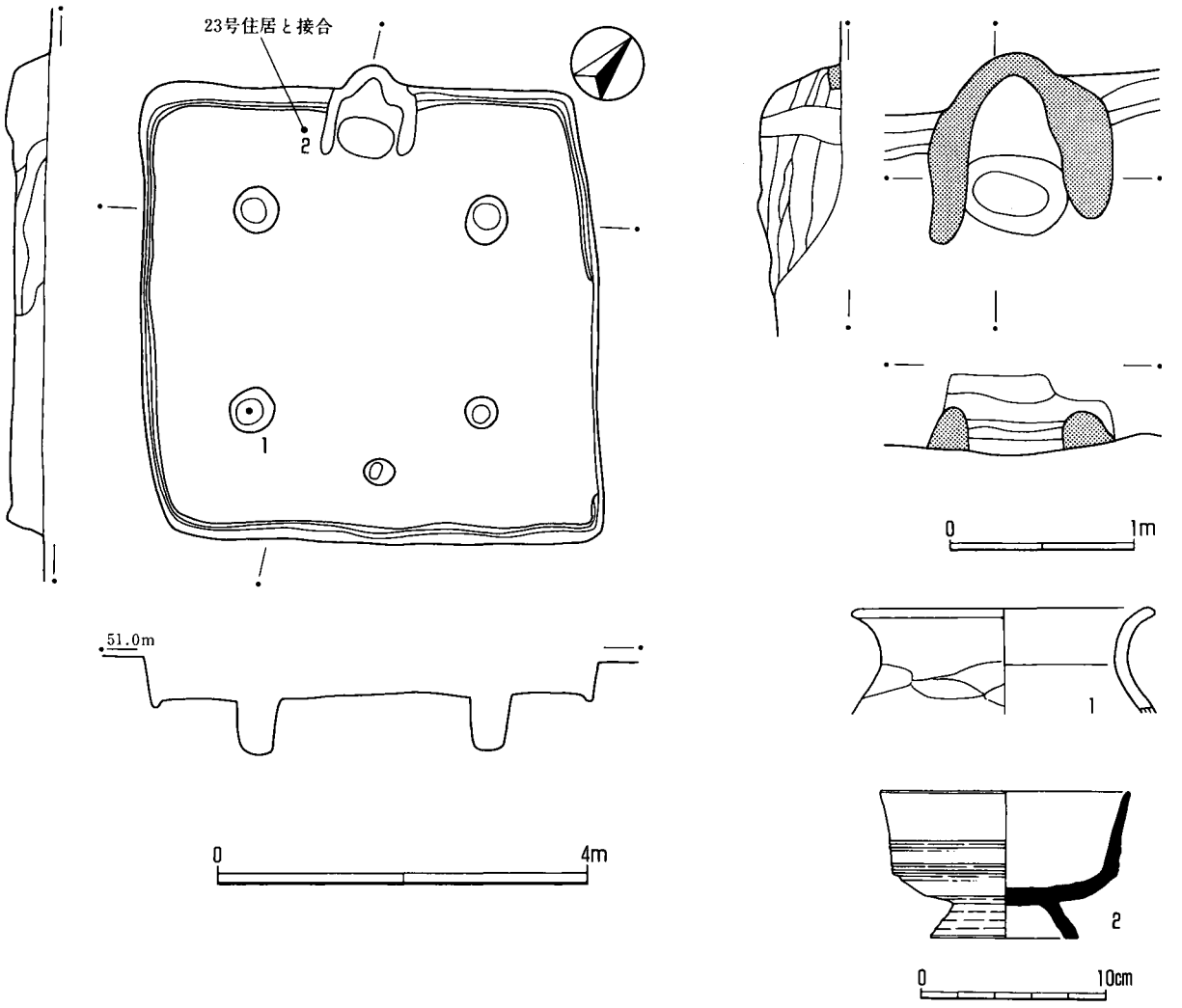
１は外面ヨコヘラ削り、口径11.1cm、器高10.2cm、２は外面タテヘラ削り、口径13.0cm、器高6.8cmの鉢である。。３は竈周辺に散在していたもので、口径33.4cmの甑である。胴部下部は丁寧なタテヘラ削りが施されている。４は口径19.5cm、器高30.7cmの甕で、二次焼成は特に受けていない。形状、法量的に３とのセットにはならない。５は口径22.3cmの甕である。、６は口径17.0cm、７は口径17.6cm、器高9.4cmで、坏部はタテヘラ削り、脚部はヨコヘラ削りである。内部はヘラ磨きが施されている。８は口径13.2cm、器高4.4cm、９は口径12.3cm、最大径12.5cm、器高3.9cmの坏で、共に外面は丁寧なヘラ削りが施されている。10は口径17.5cm、器高25.5cm、11は底部径10.3cmを測る甕である。11の胴部下部はヨコヘラ削りが施されている。




第72図　20号住居跡(2)

**21号住居跡**（第73図、図版20、68）

北西壁4.5m、北東壁4.7m、南東壁4.7m、南西壁4.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。図示していないが、ゴボウのトレンチャーによる攪乱が極めて著しい。伴出した土器も少ない。主軸はN－36°－Wである。１は口径14.7cmの甕である。２は須恵器の台付椀であるが、23号住居跡の覆土内の破片と接合する。口径13.4cm、器高7.9cmを測る。詳細は後述するが、胎土は粗く、焼成が不良で黒色度が高く、湖西産とは思われず、産地推定が難しい。器形的には金属器の模倣である。

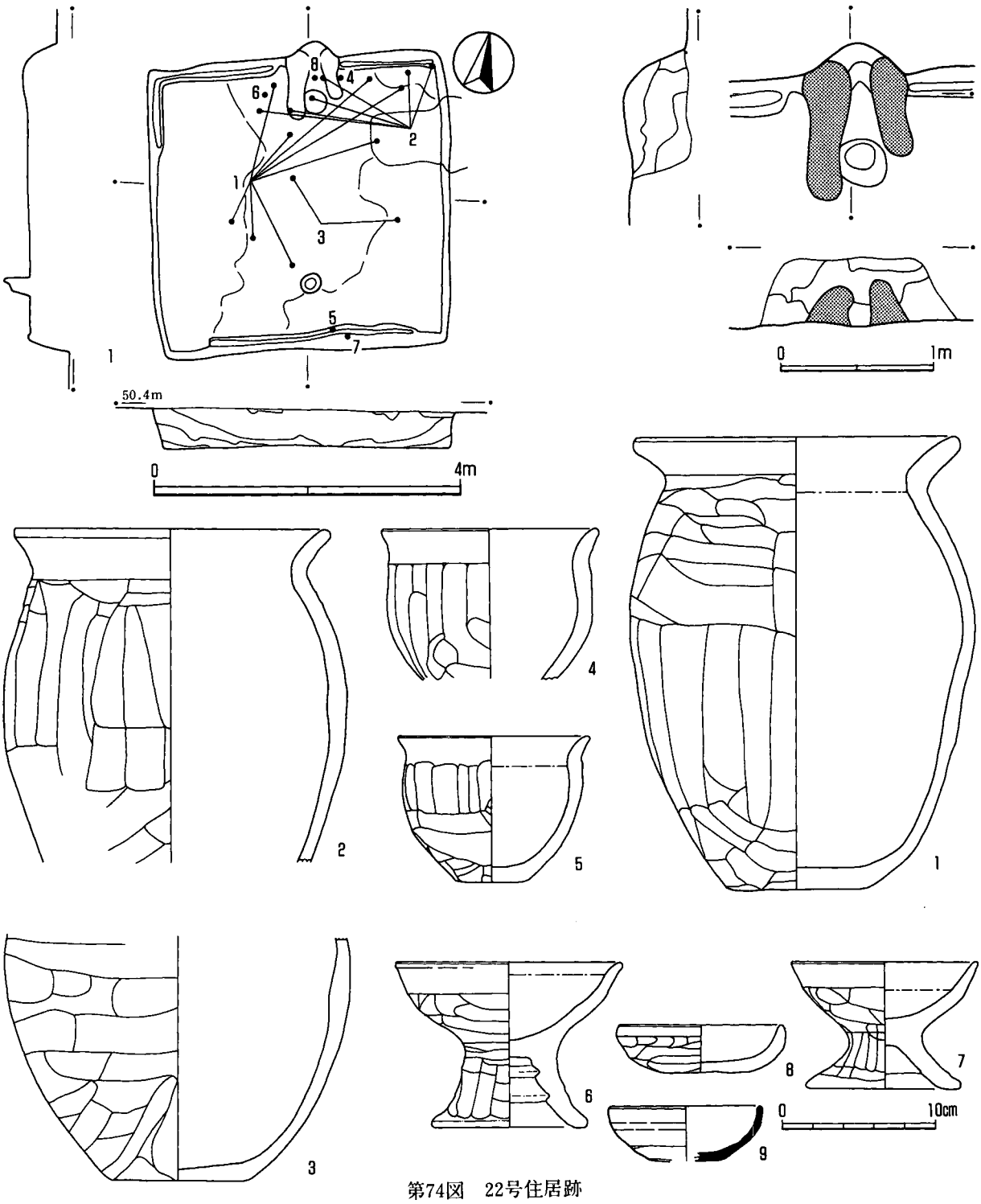



第73図　21号住居跡

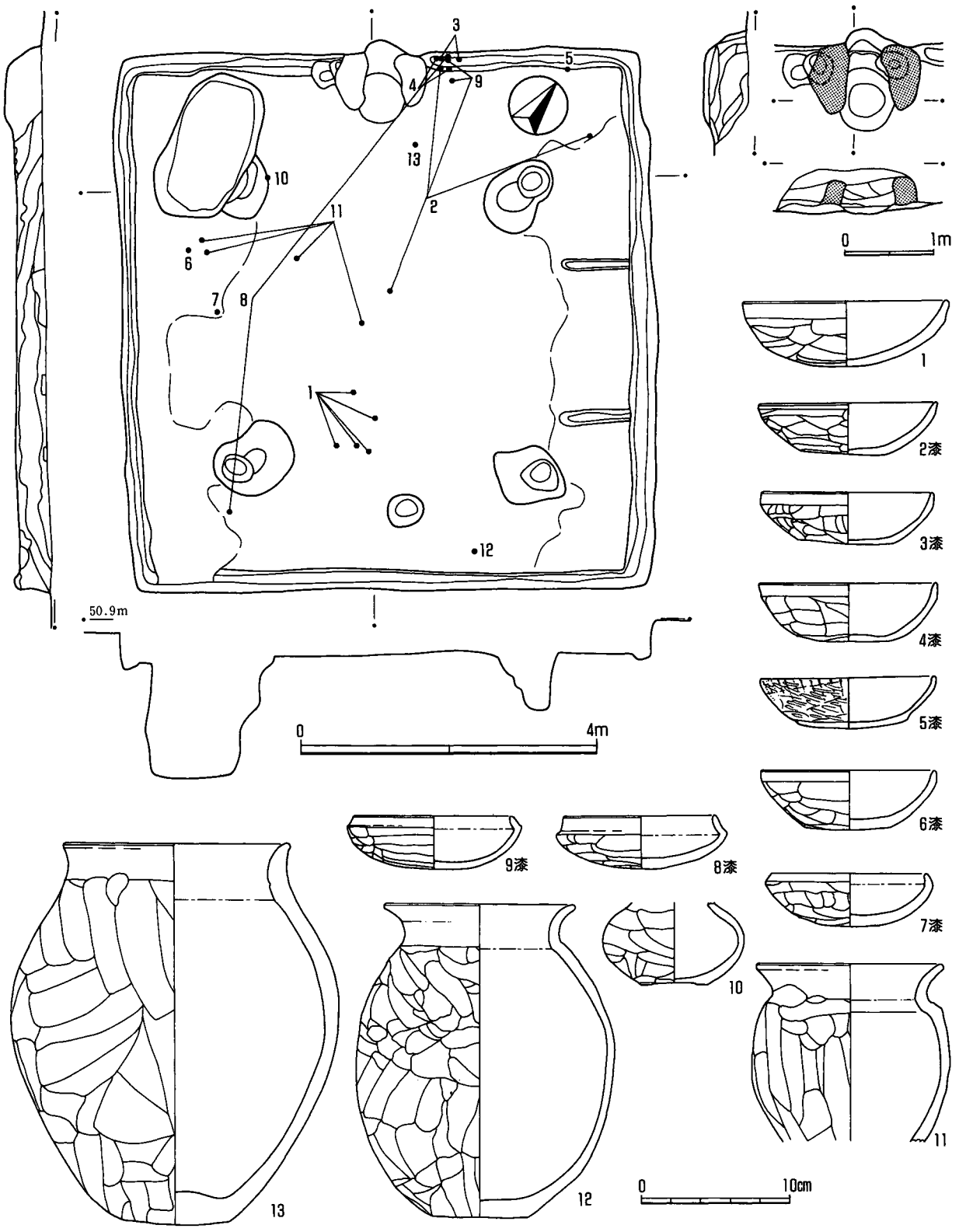
**22号住居跡**（第74図、図版21、68）

北西壁3.8m、北東壁3.8m、南東壁3.7m、南西壁3.8mの小形の住居跡である。ほぼ正方形を呈する。主柱穴は検出されず、周溝もかなりの部分で欠損している。覆土はローム層を主体とした自然堆積である。竈は、袖の形状や火床部の位置から判断すると、かなり奥行きがある。主軸はN－14°－Wである。

1は口径20.8cm、器高29.3cm、2は口径20.2cm、3は底部径8.9cmのいずれも甕で、タテ、ヨコヘラ削りが施されているが、器壁は厚い。4は口径14.0cm、5は口径12.5cm、器高9.5cmの鉢で、成形は甕と同一である。6は口径14.8cm、器高10.7cm、7は口径12.1cm、器高8.2cmの高坏であるが、装飾的成形が施されず、ヘラ削りも雑である。8は口径10.6cm、器高3.1cmの坏で粗雑な作で器壁も厚い。9は半損品で口径9.9cm（推定）、器高3.5cm（推定）を測る。胎土は含有粒子がほとんど見られないほど緻密で、焼成も良好な蓋付無台坏身の須恵器である。半損品のため底部成形は明瞭で無いが、体部下部は回転ヘラ削りが施されている。詳細は後述するが湖西産と思われる。




第74図　22号住居跡

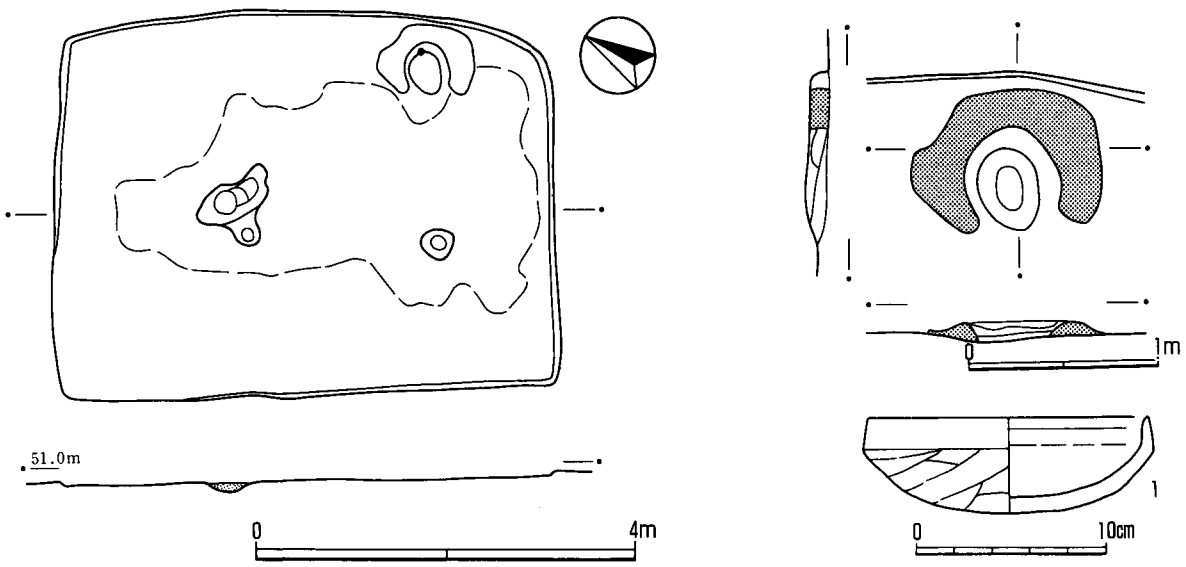



第75図　23号住居跡

**23号住居跡**（第75図、図版21、22、69）

北西壁7.0m、北東壁7.1m、南東壁6.9m、南西壁7.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。東床面より間仕切り溝が2条検出されている。床面北西角に深さ1.5m程の深い方形ピットが検出されているが、主柱穴を切っており、本住居跡に伴う施設かどうか、疑問である。住居跡覆土は黒色土とローム層を主体とした褐色土が、交互に見られる自然堆積である。竈は袖下よりピットが2個検出されたが、おそらく袖を支える部材か、竈の煙道部を作る際の壁材等の痕跡と思われる。主軸はN－39°－Wである。

1～9は坏で、内2～9はすべて内外面とも漆仕上げと思われる。1は口径13.8cm、器高4.3cm、2は口径11.9cm、器高3.4cm、3は口径11.5cm、器高3.5cm、4は口径11.9cm、器高3.8cm、1～4はいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。5は口径11.7cm、器高3.4cm、器壁が固かったためであろう「ヘラ削りムラ」が残っている。底部に稜線を残し、最終調整をヘラ磨きとする。器形は東北系である。6は口径11.7cm、器高3.9cm、7は口径10.5cm、最大径11.4cm、器高3.5cm、8は口径10.2cm、最大径11.6cm、器高3.5cm、9は口径10.6cm、最大径11.9cm、器高3.5cmを測る。6～9はいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。10は底部径4.5cmの坩と思われ、底部が凹状になっている。11は口径12.3cm、12は口径12.7cm、器高20.9cm、13は口径15.0cm、器高25.5cmの甕で、13は二次焼成痕、出土位置からすると竈で使用されたものと考えられるが、11,12の用途は不明である。




第76図　24号住居跡

**24号住居跡**（第76図、図版21、22）

北東壁5.1m、南東壁3.4m、南西壁5.2m、北西壁3.7mを測り、長方形を呈する。後世の17号土坑に一部切られている。周溝、主柱穴は検出されず、床面には焼土が堆積した浅いピットが1カ所存在する。炉のような形状を示しているが性格は不明である。竈が偏った位置にあるが、壁外に煙道を作らず、壁から離れた状態になっている。火床部から坏の完形品が出土した。1は口径14.8cm、最大径15.4cm、器高4.9cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。

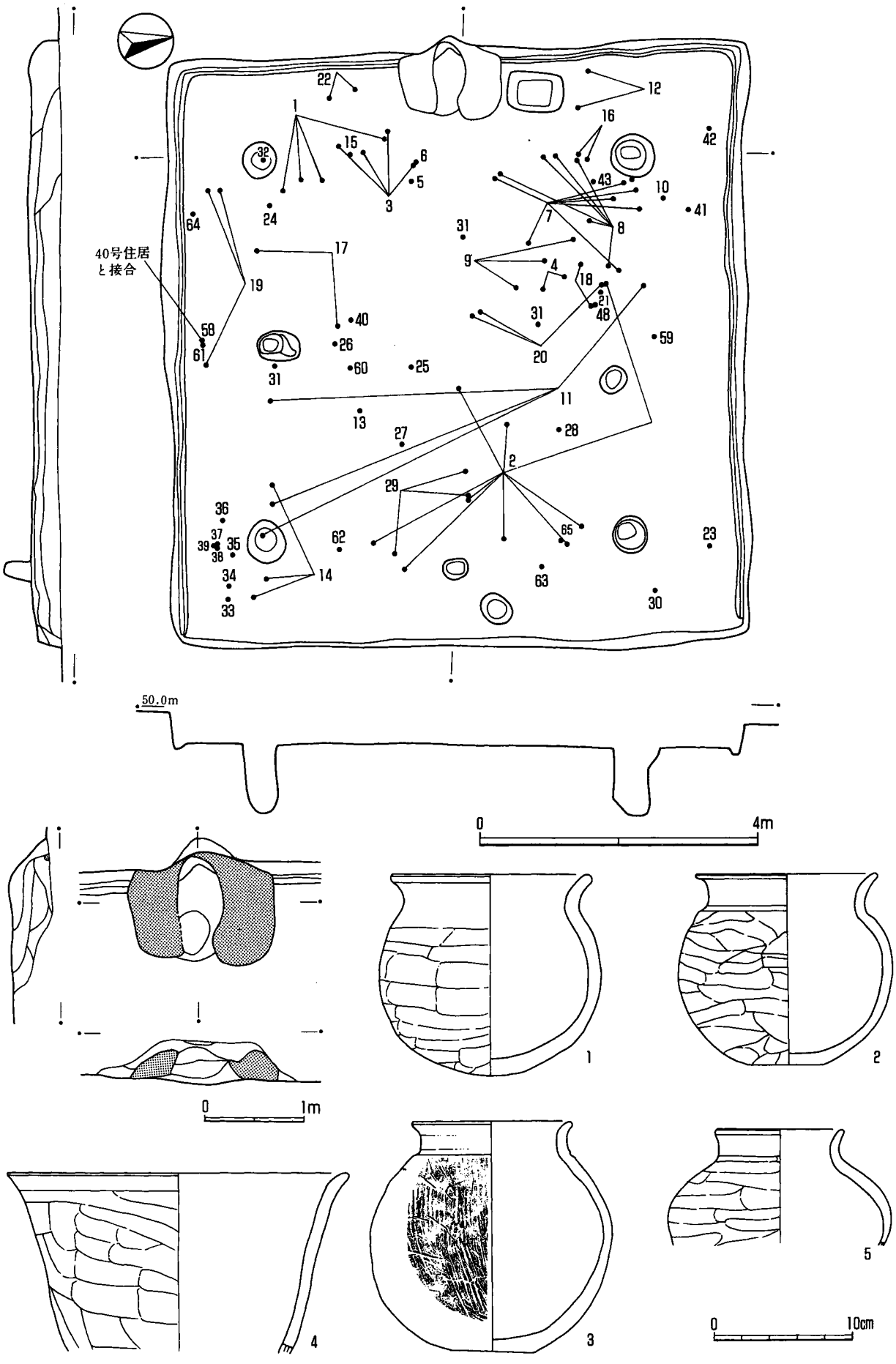
**25号住居跡**（第77、78、79図、図版22、69、70）

北西壁8.4m、北東壁8.4m、南東壁8.2m、南西壁8.2mを測り、ほぼ正方形を呈する。13号住居跡と並ぶ大形住居跡である。しかし、主軸はN－82°－Wと他住居跡に比べ偏っている。床面に炭化材が散在しており、焼失住居と考えられる。４本の主柱穴の間に補助的な柱穴がいくつか検出されているが、深さは10cm程度と浅い。竈際には深さ約40cmの方形のピットが検出されている。入口側壁際は周溝は存在しない。覆土は全体に炭化材を含む自然堆積である。

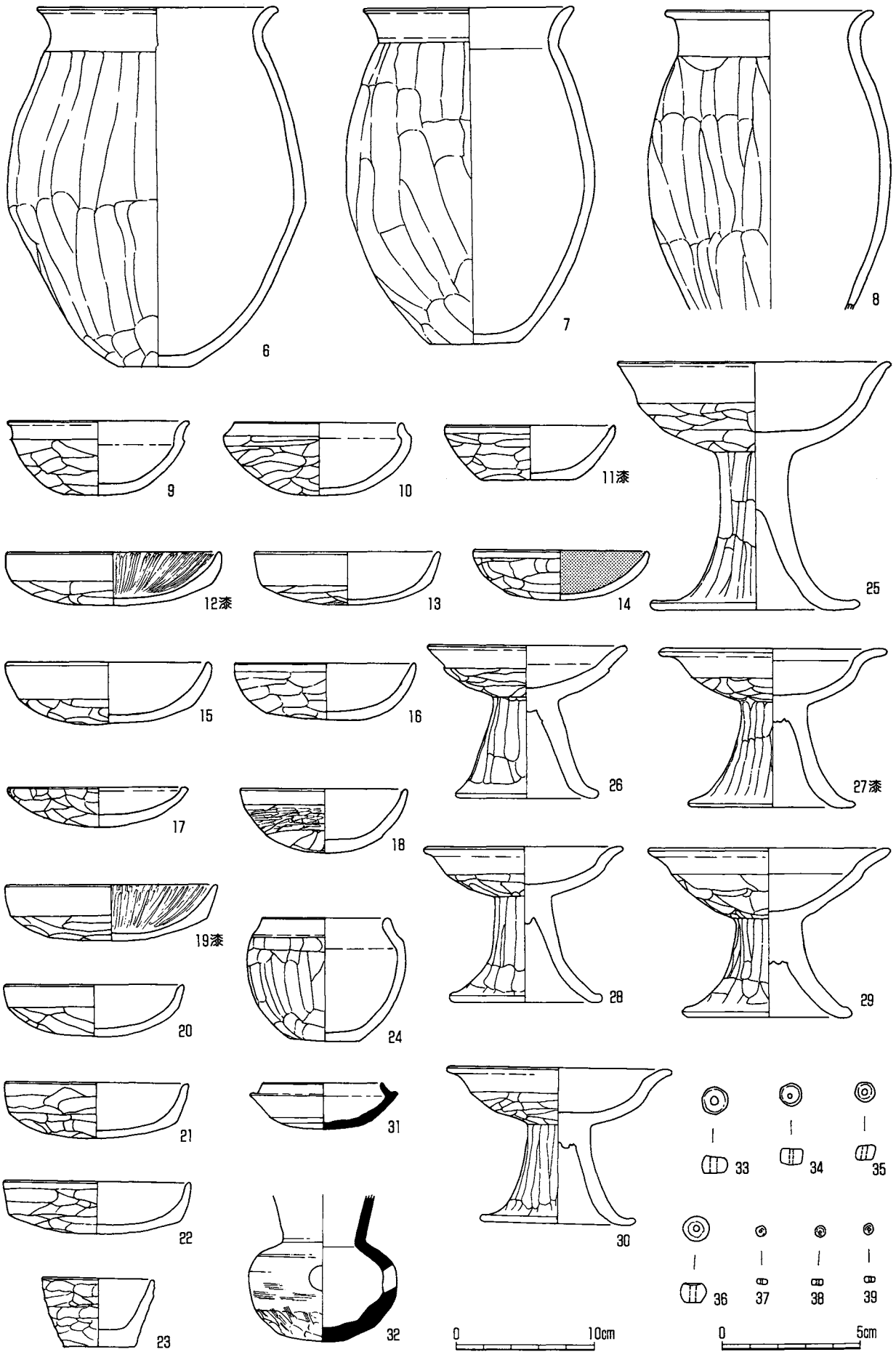
土師器、須恵器をはじめ、鉄製品、石製品、土製品が大量に出土している。１～３は、形状、法量がほぼ同一の小形の甕であり、１は口径14.2cm、器高14.3cm、２は口径12.8cm、器高13.5cm、３は口径11.3cm、器高16.3cmを計る。１，２は外面ヘラ削りであるが、３はヘラ削り後に粗い櫛状工具による成形を施しており、この時期の土師器としては在地では希有な例と言え、栗囲式等で「ハケメ」と称される系統と考える。４は口径24.4cmで甑であろう。５は口径9.0cmで坩と思われる。６～８は長胴甕で、外面にタテヘラ削りが丁寧に施されている。６は口径17.2cm、器高26.0cm、７は口径15.0cm、器高24.4cm、８は口径14.8cmを測る。

９～22は坏である。内、明確に漆仕上げと判断できるものは11、12、19であるが、器壁が荒れているものも多く、定かでない。また、炭素吸着との差異を判断しかねるものもある。11のみ平底で体部が直線的に開く形状を呈しており、時期的な異質感が強い。他は口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削りを基本とし、一部にヘラ磨きが加わる。内面はヘラ磨きである。特に12、19はタテヘラ磨きが放射状に行われている。17は形状的には蓋とすべきかもしれない。９は口径12.9cm、器高5.3cm、10は口径12.0cm、最大径13.5cm、器高5.2cm、11は口径12.2cm、器高3.8cm、12は口径15.3cm、最大径15.5cm、器高3.8cm、13は口径13.2cm、器高3.8cm、14は口径12.4cm、器高3.6cm、15は口径14.5cm、器高4.3cm、16は口径12.9cm、器高4.0cm、17は口径12.7cm、最大径13.0cm、器高2.9cm、18は口径11.8cm、器高4.6cm、19は口径15.1cm、器高3.9cm、20は口径12.8cm、器高3.7cm、21は口径13.2cm、器高4.0cm、22は口径13.3cm、器高3.7cmを測る。23は口径8.0cm、器高4.9cmの手づくね土器である。24は口径9.0cm、器高8.8cmの鉢である。25～30は高坏で、27には脚内部以外に漆仕上げが認められる。25は口径19.5cm、器高17.6cm、26は口径14.2cm、器高9.9cm、27は口径15.5cm、器高11.2cm、28は口径14.0cm、器高11.0cm、29は口径17.0cm、器高12.1cm、30は口径15.6cm、器高11.0cmで、いずれも外面は磨きに近いヘラ削りが施されている。31は口径8.5cm、最大径10.7cm、器高3.2cmの合子状坏身の須恵器であるが、胎土、焼成とも不良で黒色度が強く、21号住居跡の２の須恵器と同一産地と思われる。体部下部から底部にかけて同心円状にヘラ削りが施されている。32は瓶であり胎土も密で焼成も良好であり、自然釉が見られる。胴下半部は丁寧なヘラ削りが施され、カキメも残っている。

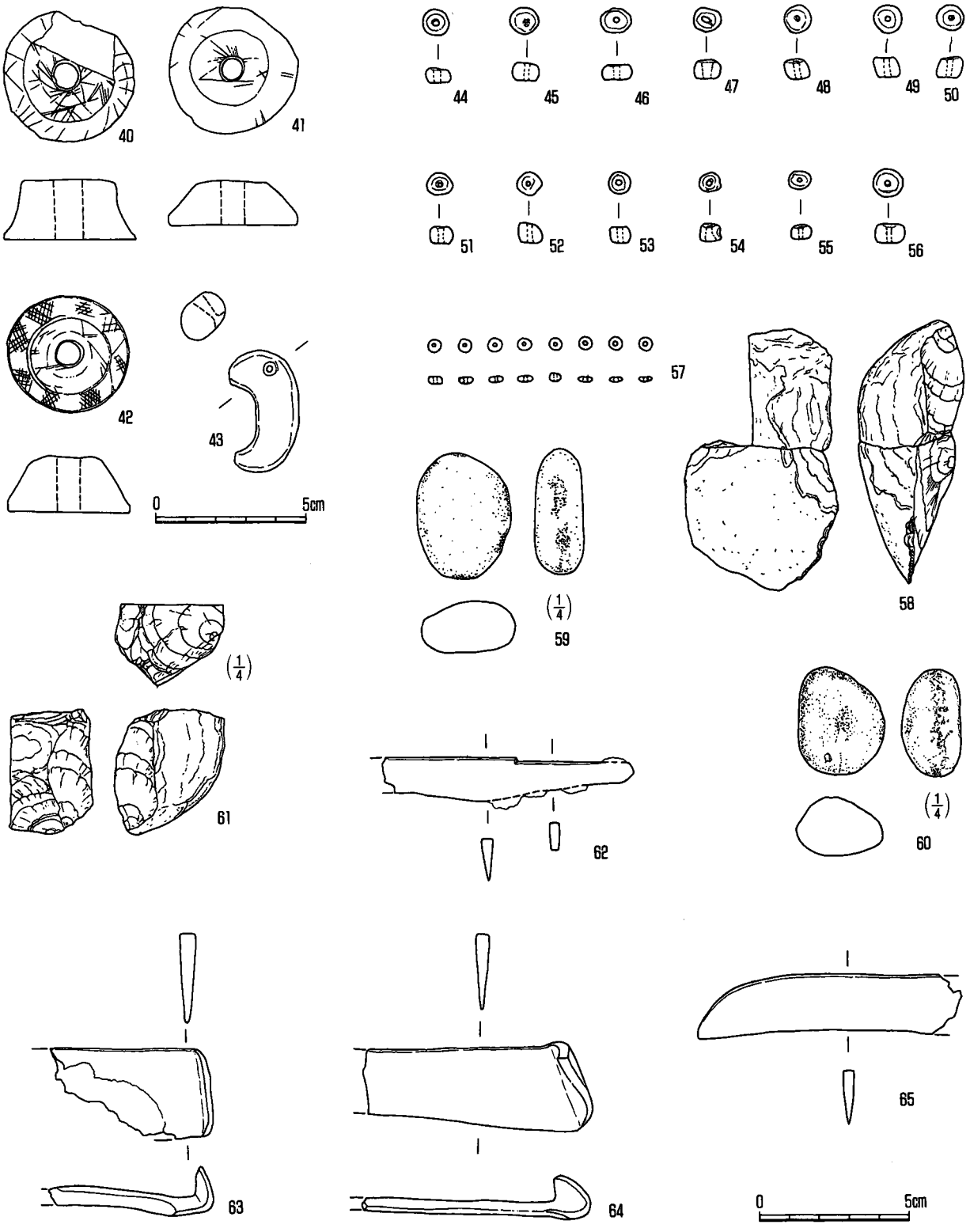
33～39、44～57はすべてガラス玉である。計測値は最小の57で直径0.4cm、高さ0.5cm、最大で36の直径1.0cm、高さ0.7cmである。色調はいずれも青系であるが濃淡に個体差がある。40は直径4.3cm、孔径0.8cm、41は直径4.2cm、孔径0.7cm、42は直径4.0cm、孔径0.8cmの石製紡錘車である。いずれも表面が脂質光沢を持ち、黒色から黒褐色の粘板岩と思われる。表面に削痕等が無数に残る。43は土製の勾玉であり本遺跡では最大である。全長4.0cm、身幅1.2cmを測る。58、61は砂岩製石皿片で、58は40号住居跡の破片と接合する。59、60は砂岩製敲石である。62は鉄製刀子、63、64、65は鉄製鎌と思われる。




第77図　25号住居跡(1)




第78図　25号住居跡(2)

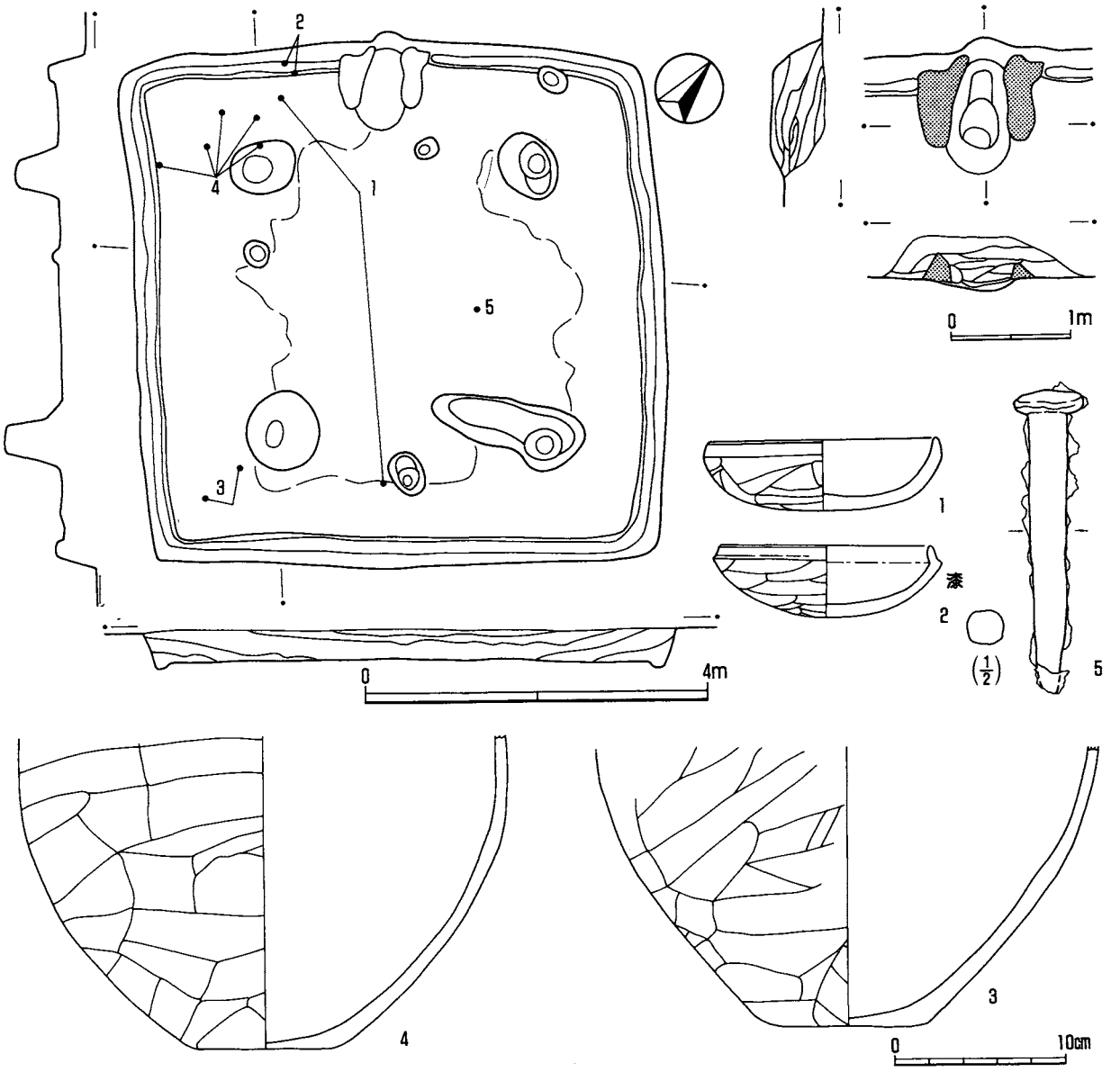



第79図　25号住居跡(3)　S=1/2と1/4

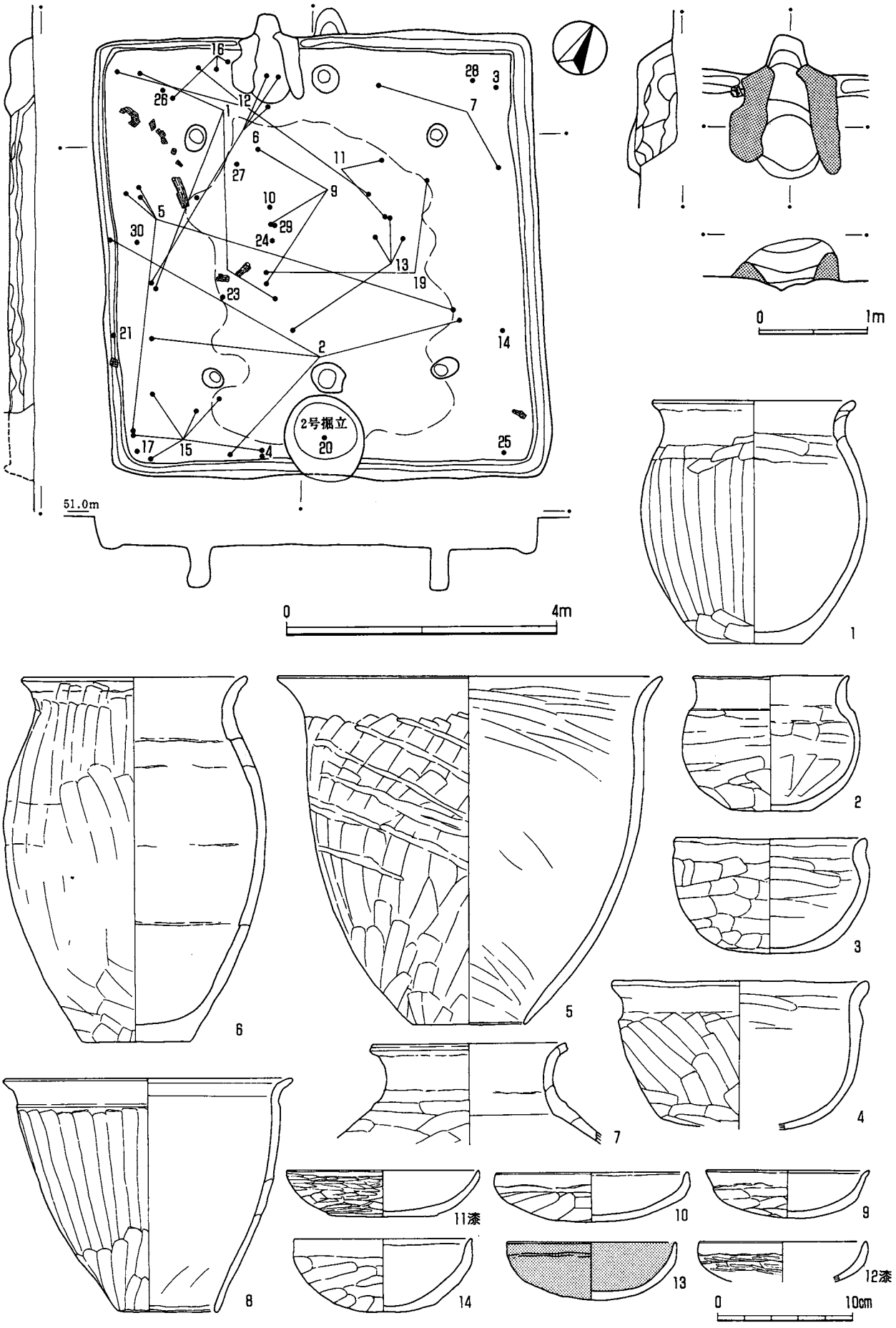
**26号住居跡**（第80図、図版23、70）

北西壁6.0m、北東壁5.6m、南東壁5.8m、南西壁5.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。覆土はローム層を主体とする自然堆積である。竈は煙道部は壁外に僅かに張り出す程度であるが、火床部は大きくほりこまれている。主軸はN－42°－Wである

1は口径13.1cm、最大径13.9cm、器高4.1cmの坏、2も口径12.2cm、最大径13.3cm、器高4.2cmの坏で漆仕上げである。いずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。3は底部径8.5cm、4は底部径7.8cmの甕底部で外面に丁寧なヘラ削りが施されている。5は銹化が著しいが、断面がほぼ正方形の鉄製和釘である。




第80図　26号住居跡

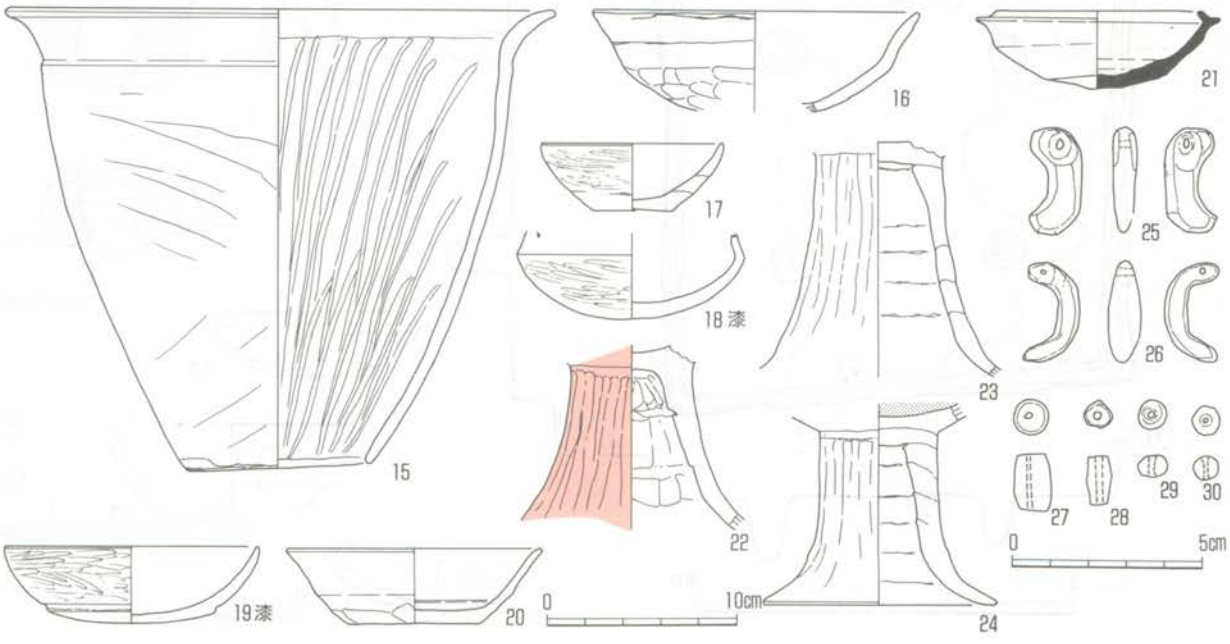



第81図　27号住居跡(1)

**27号住居跡**（第81、82図、図版23、70、71）

北西壁6.3m、北東壁6.4m、南東壁6.4m、南西壁6.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。入口付近に2号掘立柱建物跡の一部が検出され、覆土の状況から判断すると、明らかに2号掘立柱建物跡が後世の所産であることがわかる。床面に少量の炭化材が散在する。竈は当初、北壁中央部に存在していたと思われるが、すぐ西側に作り替えが行われている。主軸はN－31°－Wである。

1は口径14.7cm、器高17.7cmの甕で、外面はタテヘラ削りを主に頸部、底部付近にヨコヘラ削りを施している。2は口径11.4cm、器高14.8cm、3は口径14.0cm、器高13.3cm、4は口径18.7cmの鉢で、いずれも内面は粗いヘラナデが見られる。5は口径28.4cm、器高25.2cm、8は口径20.9cm、器高16.9cm、15は口径28.5cm、器高23.9cmのいずれも甑である。5は外面タテヘラ削り後、簡単なヘラナデが見られる。8はタテヘラ削りが規則的に丁寧に施されている。11の内面には簡単なヘラ磨きが見られる。6は口径16.3cm、器高26.4cm、7は口径14.3cmの甕で内面に輪積痕が残る。9～14、16～20は坏である。9は口径12.0cm、器高3.5cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。10は口径14.1cm、最大径14.5cm、器高3.6cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。11は口径14.2cm、器高3.4cm、内外面とも漆仕上げ、最終調整をヘラ磨きとし、平底丁底部をヘラ削りによって作り出し、稜線を有する。いわゆる東北系である。12は口径12.3cm、最大径12.6cm、内外面とも漆仕上げ、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。13は口径12.4cm、器高4.2cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。内外面とも炭素吸着と思われる。14は口径13.1cm、器高5.3cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。16は口径17.1cmで高坏の可能性もある。17は口径9.4cm、器高3.4cmでヘラ削りが施されているが、雑で手づくね風である。18は最大径12.1cm、内外面ともヘラ磨き後、漆仕上げ、19も内外面とも漆仕上げで口径13.3cm、器高3.9cm、11と同様の東北系で



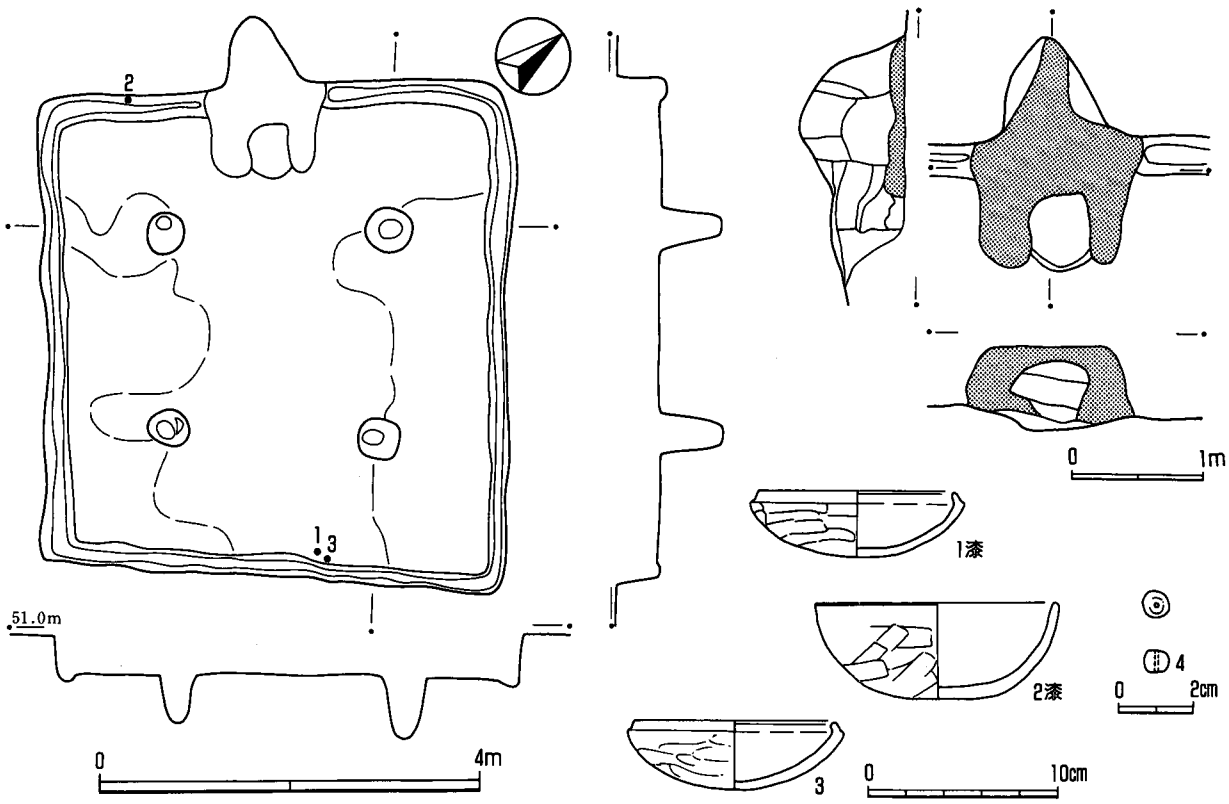

第82図　27号住居跡(2)

ある。20はロクロ成形、回転糸切り底部であり、後世の混入品と考えたい。出土位置からすると2号掘立柱建物跡の所産である可能性が高い。口径13.2cm、器高3.8cmを測る。21は口径10.8cm、最大径12.9cm、器高4.0cmの須恵器である。粗いロクロ成形である。胎土に5㎜程の小石を多く含む。明灰色で焼成は良好である。22～24は高坏脚部で、内面に輪積痕を明瞭に残す。25は全長2.8cm、身幅0.8cm、26は全長2.6cm、身幅0.6cmの土製勾玉である。27は直径0.9cm、高さ1.5cm、28は直径0.7cm、高さ1.3cmのいずれも形態上は管状土錘であるが、土玉もしくは管玉としての用途があったかもしれない。29、30は土玉であり、共に直径0.8cm、高さ0.6cmを測る。

**28号住居跡**（第83図、図版24、71）

北西壁4.9m、北東壁5.2m、南東壁4.8m、南西壁4.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴は4本検出されているが、入口施設は確認されていない。図示していないが本住居跡も27号同様、2号掘立柱建物跡に切られている。覆土はローム粒が混じった褐色土単一層で、短時間に埋め戻された可能性がある。竈は遺存度が良好で、天井も一部残存する。袖が火床部から浮いた形で検出されており、内部構造は不明な点が多い。主軸はN－54°－Wである。

1は口径10.4cm、最大径11.4cm、器高3.4cm、2は口径12.7cm、器高5.0cm、3は口径10.6cm、最大径11.5cm、器高3.5cmのいずれも坏で、1，2は内外面とも漆仕上げと思われる。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。4は土玉である。直径0.7cm、高さ0.6cmを測る。




第83図　28号住居跡

**29号住居跡**（第84図、図版24、25、72）

北西壁4.8m、北東壁4.9m、南東壁4.7m、南西壁4.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴は4本検出され、北西角には貯蔵穴と思われるピットが確認されている。深さは約40cmである。住居跡覆土はローム層主体の自然堆積である。竈は袖の遺存度は良好であるが、火床部は明確で無い。主軸はN－42°－Wである。

1は口径17.0cm、器高13.2cm、2は口径12.3cm、器高14.3cm、3は口径13.8cm、器高13.3cm、4は口径11.7cm、器高11.1cmのいずれも小形の甕、もしくは鉢であるが、二次焼成や炭化物付着、器壁摩滅が著しく、それが煮沸用途によるものか、廃棄後のものかは不明である。5は口径25.6cm、器高27.1cmの甑である。外面は丁寧なタテヘラ削りが施されている。6は口径18.0cm、最大径19.5cm、器高8.2cmの鉢で、内面のヘラ磨きが特に丁寧である。7は口径13.2cm、器高5.5cm、8は口径12.2cm、最大径13.4cm、器高3.2cmで共に内面炭素吸着である。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。9は口径14.0cm、10は底部径13.0cmの高坏で内面には輪積痕が明瞭に残る。11は直径1.0cm、高さ0.9cmの土玉である。

**30号住居跡**（第85図、図版25、26、71、72）

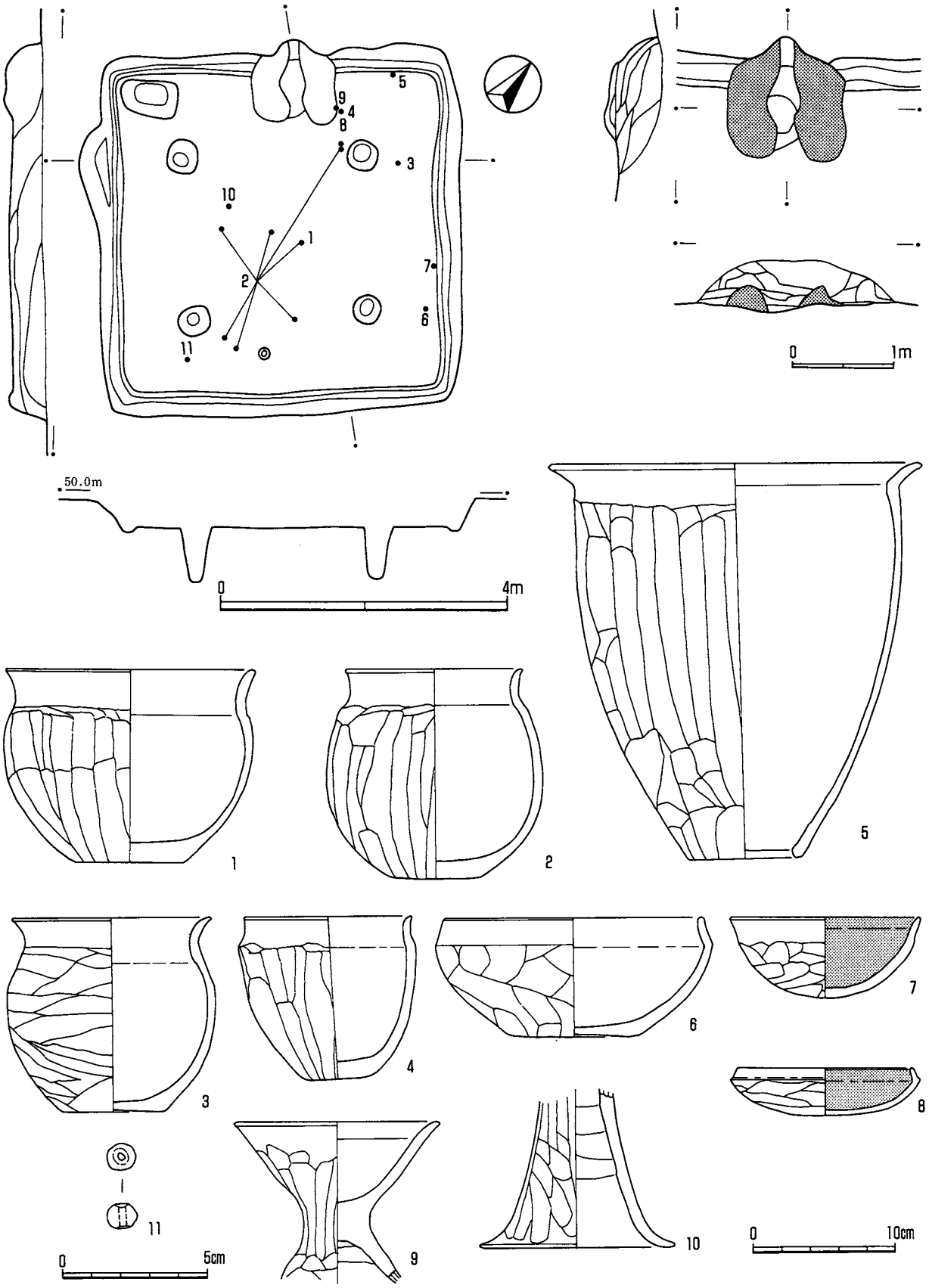
北西壁6.2m、北東壁6.0m、南東壁6.2m、南西壁6.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。入口施設及び主柱穴の一部が複数検出されたため床面をはがしたが、建て替え等の痕跡は無かった。覆土上部層に炭化物、焼土が多く含まれるが、床面は焼成を受けていない。おそらく覆土がある程度堆積した、すり鉢状の段階で火がおこされたと考えたい。竈火床部には土製支脚が残存していた。主軸はN－39°－Wである。

1は口径12.0cm、最大径13.5cm、器高4.4cmで漆仕上げ、2は口径12.7cm、器高4.0cm、3は口径11.9cm、最大径13.0cm、器高3.7cmで漆仕上げ、4は口径15.5cm、器高4.5cmで漆仕上げ、5は口径11.3cm、最大径13.0cm、器高4.8cmで漆仕上げ、6は口径10.0cm、最大径11.9cm、器高3.1cmで漆仕上げ、7は坏の破片と思われる。1～7はいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。4についてはヘラ削りにより平底風底部を作り出しているが、東北系と断定できない。8は口径17.8cmで器壁が厚く、貯蔵用の鉢と言えよう。9は底部径8.0cmの甕で器壁が薄く、二次焼成もある。10は直径3.6cm、孔径0.7cmの黒色粘板岩製と思われる紡錘車で、炭化した木製軸一部残存していた。11は鉄鏃である。刃部最大長2.9cm、最大幅1.7cmである。12は11の茎部片とも思われるが、厚みがありすぎ、別製品の可能性が強い。13は縦に半損した羽口である。先端部の口径が直径約1cmにすぼまっており、その周囲は還元されて濃い灰褐色を呈している。

**31号住居跡**（第86図、図版26、72）

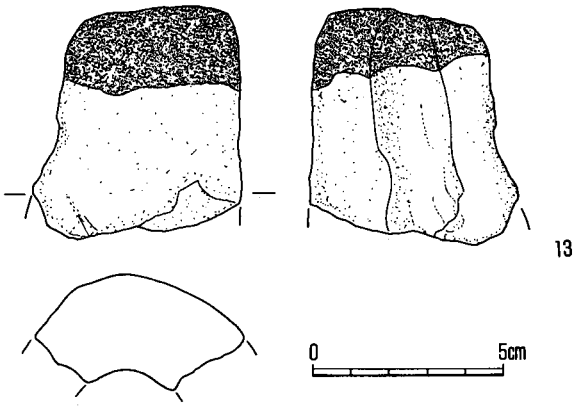
北西壁5.8m（推定）、北東壁5.0m、南東壁5.2m、南西壁5.2m（推定）を測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴以外に深さ約10cmの小ピットが床面中央部に検出されている。55号住居跡に一部切られている。覆土はローム層を主体とする自然堆積である。竈は煙道部が壁外に大きく張り出し、被熱が袖下の床面下層に及んでいる。主軸はN－56°－Wである。

1は口径17.5cmの甕で胴下半部は摩滅し、二次焼成痕が著しい。2は口径15.2cm、器高10.5cm、3は口径12.9cm、4は底部径7.7cmのいずれも鉢であり、外面は丁寧なヘラ削りが施されている。5は口径12.7cm、器高6.8cmの椀であるが、内面のみ漆仕上げが確認できる。6は口径17.3cm、器高5.9cm、7は口径13.0cm、最大径14.1cm、器高4.4cm、8は口径12.3cm、器高3.8cm、9は口径12.7cm、最大径13.4cm、器高4.5cm、10は口径12.5cm、器高4.2cm、11は口径12.5cm、器高3.9cmを測るいずれも坏である。口縁部ヨコナデ、外面

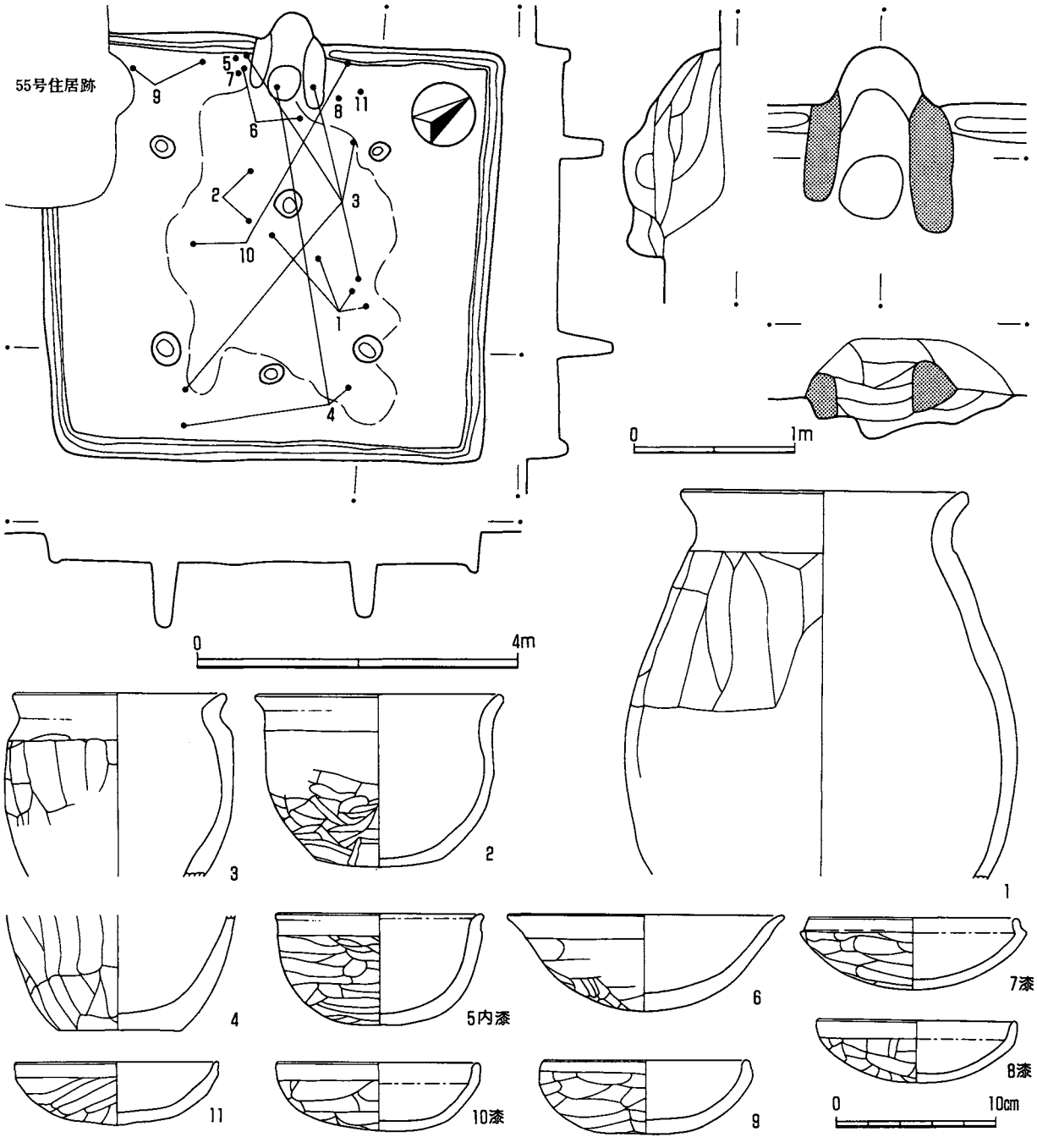



第84図　29号住居跡

第85図　30号住居跡(1)




第85図　30号住居跡(2)




第86図　31号住居跡

体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。7,8,10は内外面とも漆仕上げである。

**32号住居跡**（第87図、図版27、72）

北西壁5.8m、北東壁6.2m、南東壁6.3m、南西壁6.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴以外のピットが2カ所検出されたが、いずれも深さ10cm程度と浅い。覆土最上層は黒色腐食土が堆積している。竈火床部は深い。袖の遺存度は良く、天井の一部も残存していた。主軸はN－32°－Wである。

1は底部径7.2cmの長胴甕で丁寧なヘラ削りにより器壁は薄い。2は口径14.6cmの甕で、二次焼成痕焼成がある。3は口径16.6cm、器高12.0cm、4は底部径12.4cmの高坏である。5は口径11.8cm、器高3.2cm、成形は明瞭で無いがヘラ磨きを基調としている。6は口径11.8cm、最大径12.7cm、器高3.4cmの漆仕上げの坏で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。

**33号住居跡**（第88図、図版27）

北西壁4.3m、北東壁3.9m、南東壁3.5m、南西壁4.0mを測り、ほぼ正方形を呈する。1号掘立柱建物跡と7号溝に切られている。7号溝は33号住居跡の床面まで堀り込みが及んでいない。竈は袖下部まで被熱が及び、袖の遺存度も良くない。主軸はN－49°－Wである。1は底部径7.2cmを測る甑である。外面は丁寧なヘラ削りが施されている。

**34号住居跡**（第89図、図版28、72）

北西壁4.0m、北東壁4.0m、南東壁4.0m、南西壁3.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。図示していないが16号土坑を切っている。主柱穴は4カ所検出されているが、東側2本は深さ20cm程度と浅い。入口ピットも確認されていない。覆土はローム層が多量に含まれる自然堆積である。竈は火床部が大きく、被熱は袖下部に及んでいる。主軸はN－24°－Wである。1は口径12.7cm、最大径13.0cm、器高5.0cmで口縁部ヨコナデ、底部はヘラ削りで平底を呈し、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。

**35号住居跡**（第90図、図版28、73）

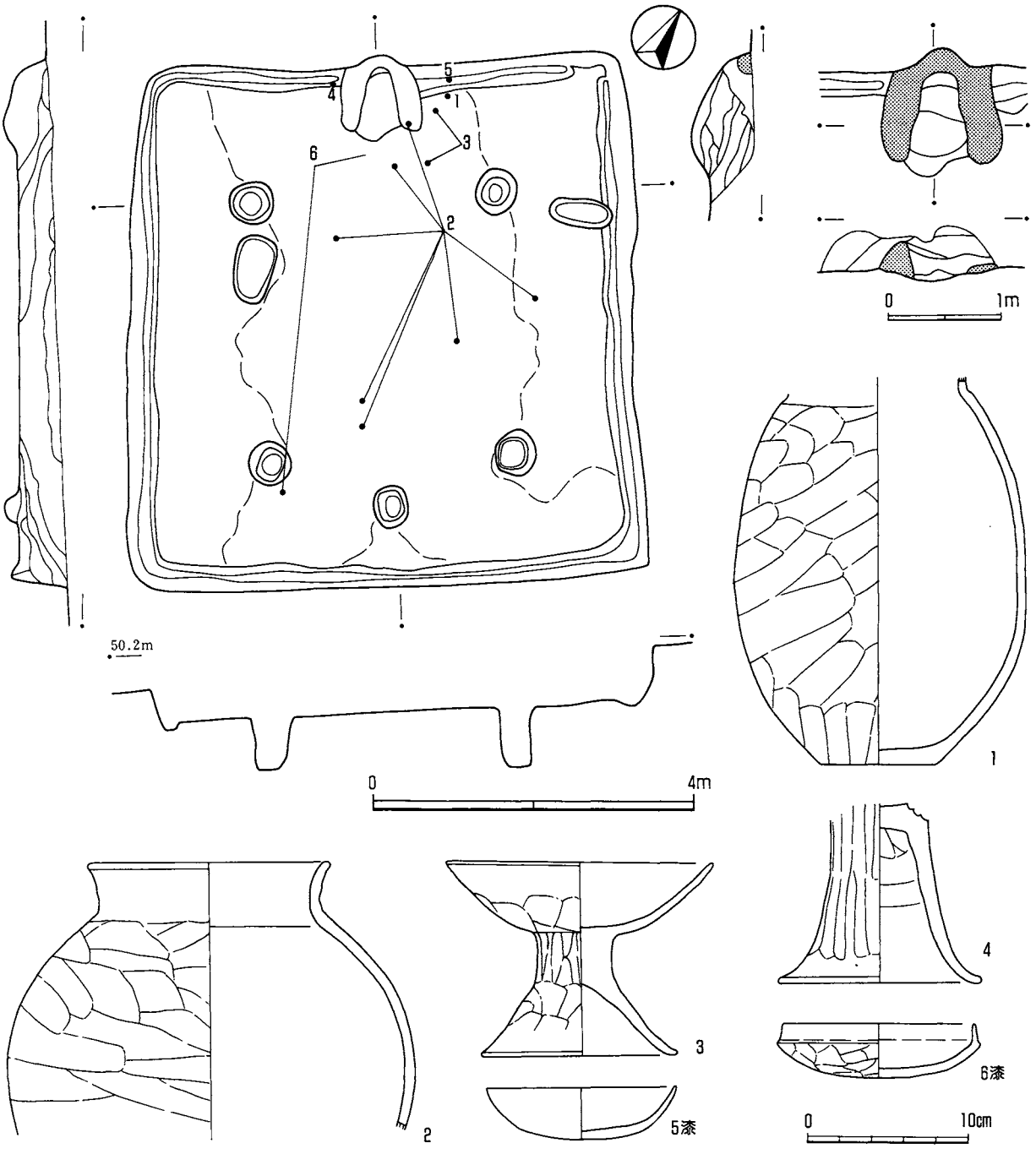
北西壁6.3m、北東壁6.2m、南東壁6.2m、南西壁6.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。北壁一部は周溝が欠損する。入口付近に小ピット3カ所及び、曲線の溝が1カ所検出された。いずれも深さ約3～5cmと浅い。竈横の貯蔵穴は深さ30cm程である。覆土は黒色土を主体とした自然堆積である。竈の煙道部は壁外に大きく張り出すが、火床部は浅く、床面をほとんど堀り込んでいない。主軸はN－19°－Wである。

1は口径8.4cm、器高4.2cm、2は口径9.4cm、器高4.3cmの手づくね土器である。底部はいずれも木葉痕である。3は口径13.1cm、器高3.8cm、4は口径13.0cm、最大径14.4cm、器高4.0cm、5は口径13.7cm、器高4.7cmのいずれも坏で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。5の内面には線刻が残る。6は口径14.5cmの高坏で表面の摩滅が著しい。7は口径20.8cm、器高17.4cmで、外面は丁寧なタテヘラ削りで赤彩が施されている高坏であるが、やはり表面の摩滅が著しい。8は砥石片で4面とも使用されている。

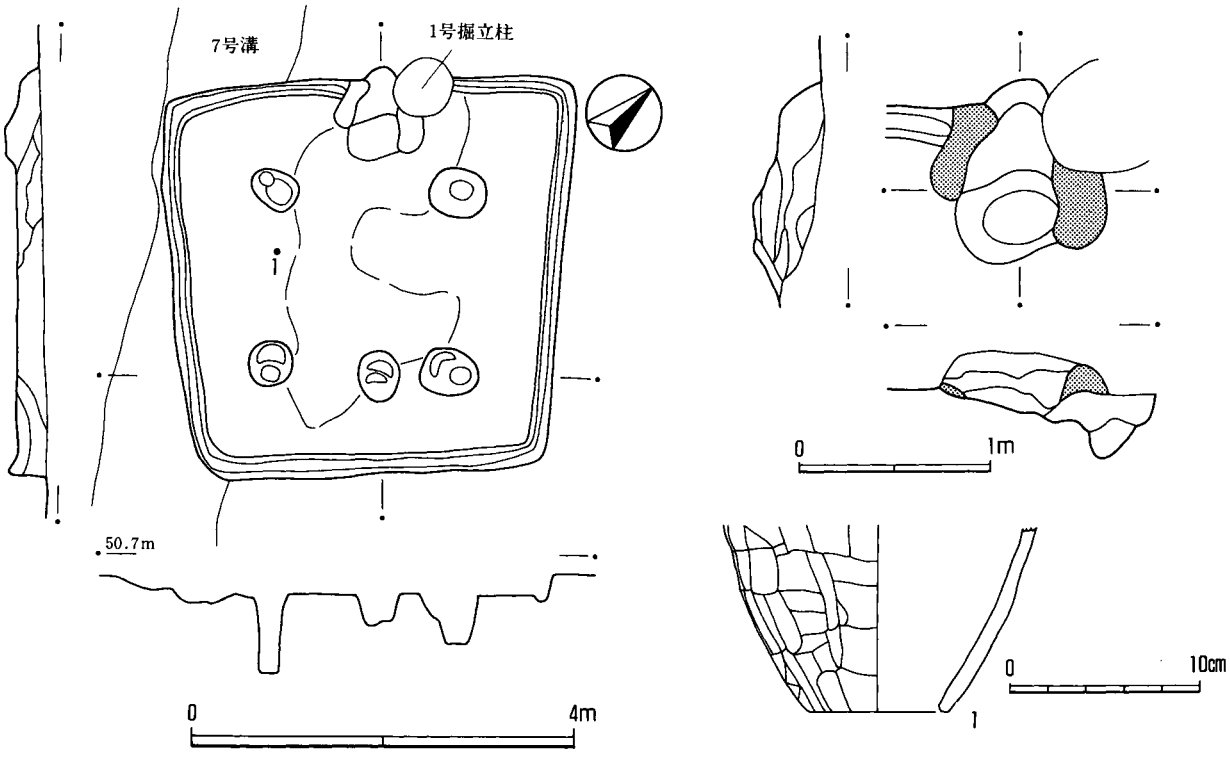
**36号住居跡**（第91図、図版28、73）

北西壁4.4m、北東壁4.2m、南東壁4.3m、南西壁4.7mを測り、ほぼ正方形を呈する。主軸はN－23°－Wである。入口ピットの深さは10cm程である。覆土は黒色土を主体とした自然堆積である。竈は煙道部が壁外に大きく張り出しており、火床部も明瞭に残る。

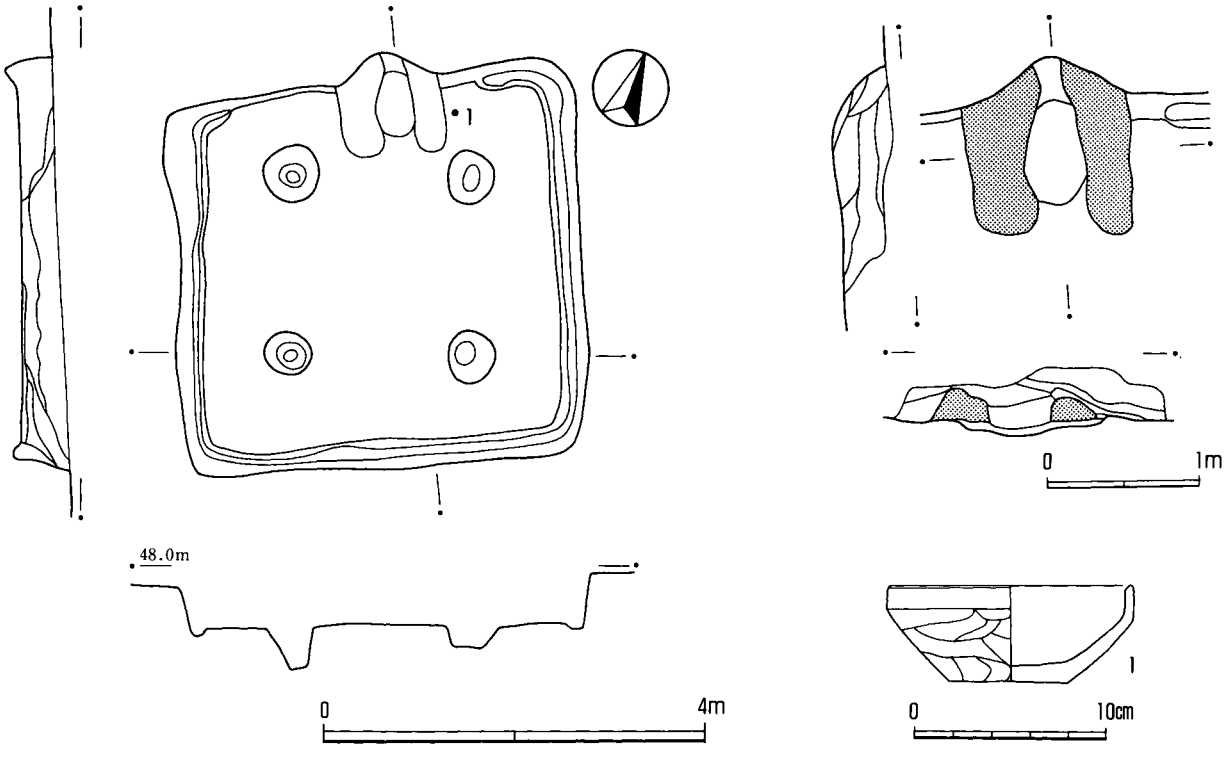
1は口径11.6cm、器高5.2cm、2は口径10.1cm、最大径11.2cm、器高5.5cmでいずれも小形の鉢である。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。3は全長3.5cm、身幅1.0cm、4は全長2.3



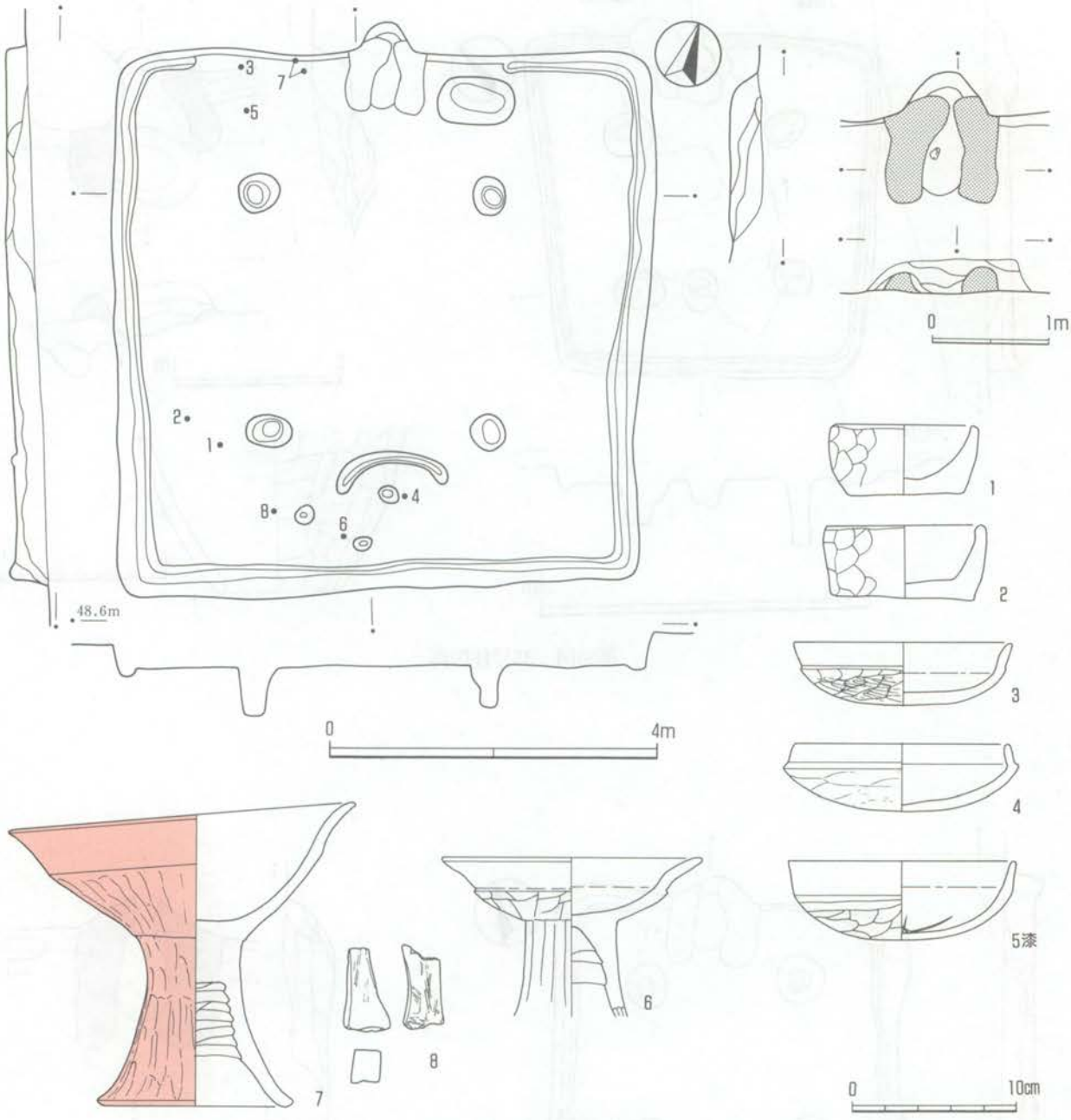

第87図　32号住居跡



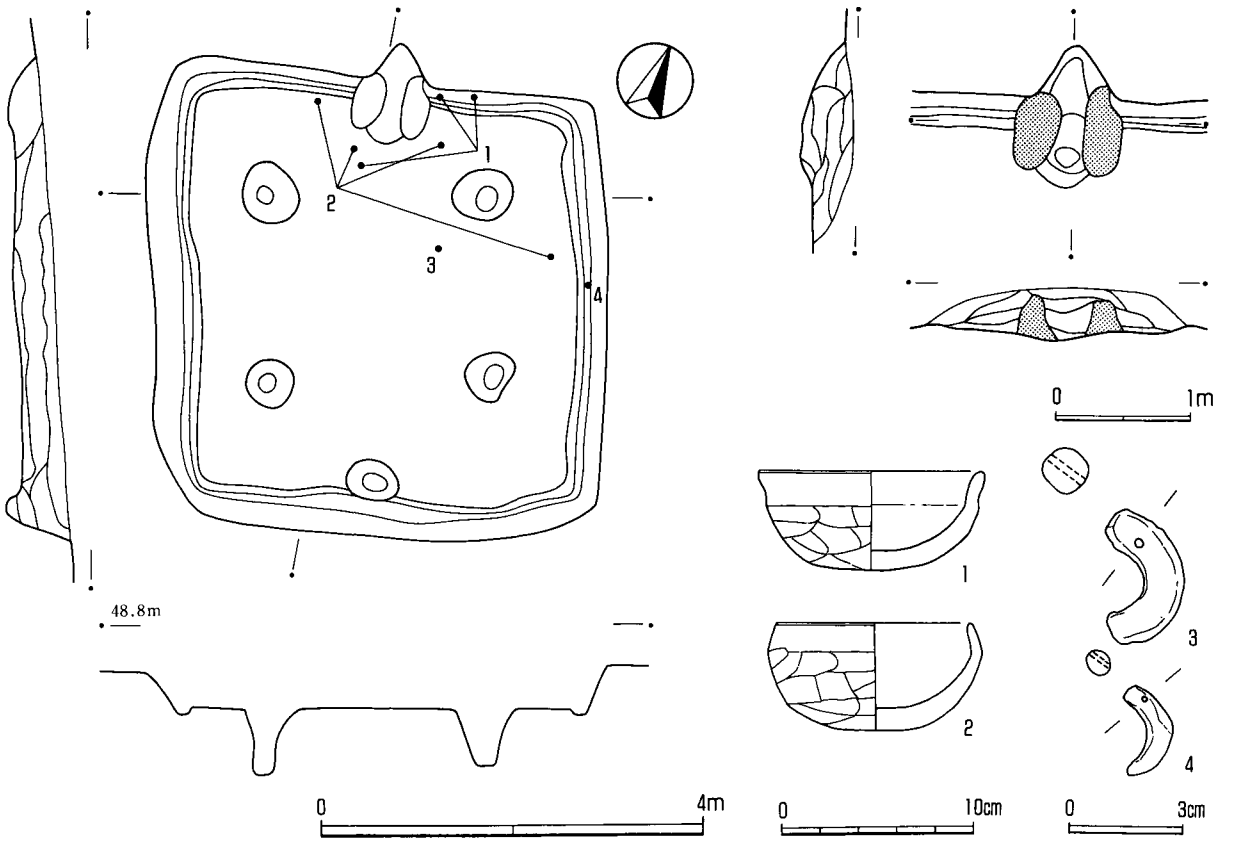

第88図　33号住居跡




第89図　34号住居跡




第90図　35号住居跡



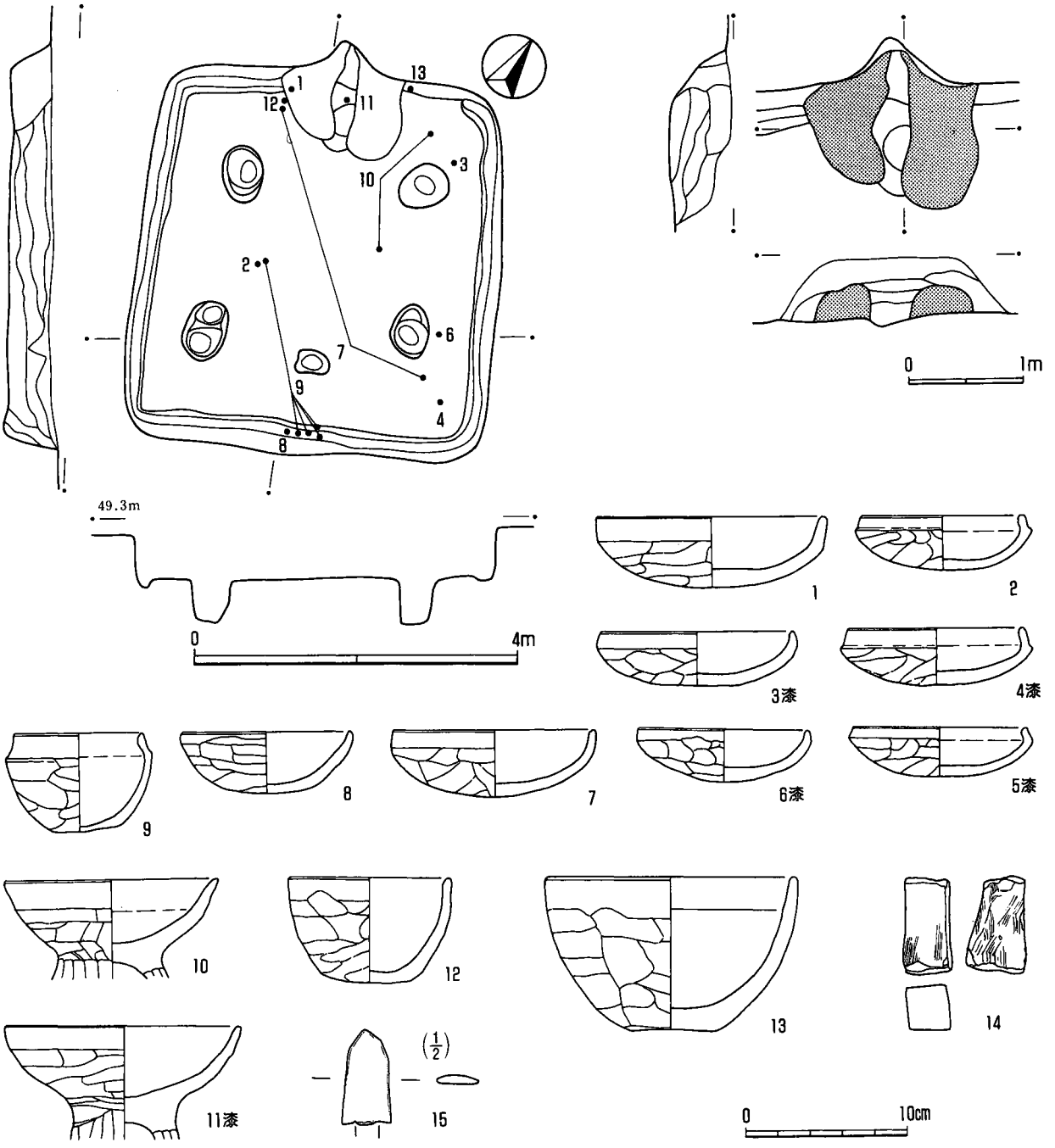

第91図　36号住居跡

cm、身幅0.6cmの土製の勾玉である。

**37号住居跡**（第92図、図版29、73）

北西壁4.0m、北東壁4.2m、南東壁4.2m、南西壁4.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴の一部に2本の柱痕跡があるが、特に建て替えの痕跡はない。入口施設は深さ20cm程である。竈は袖の幅が広く火床部がかなり狭い。主軸はN－30°－Wである。

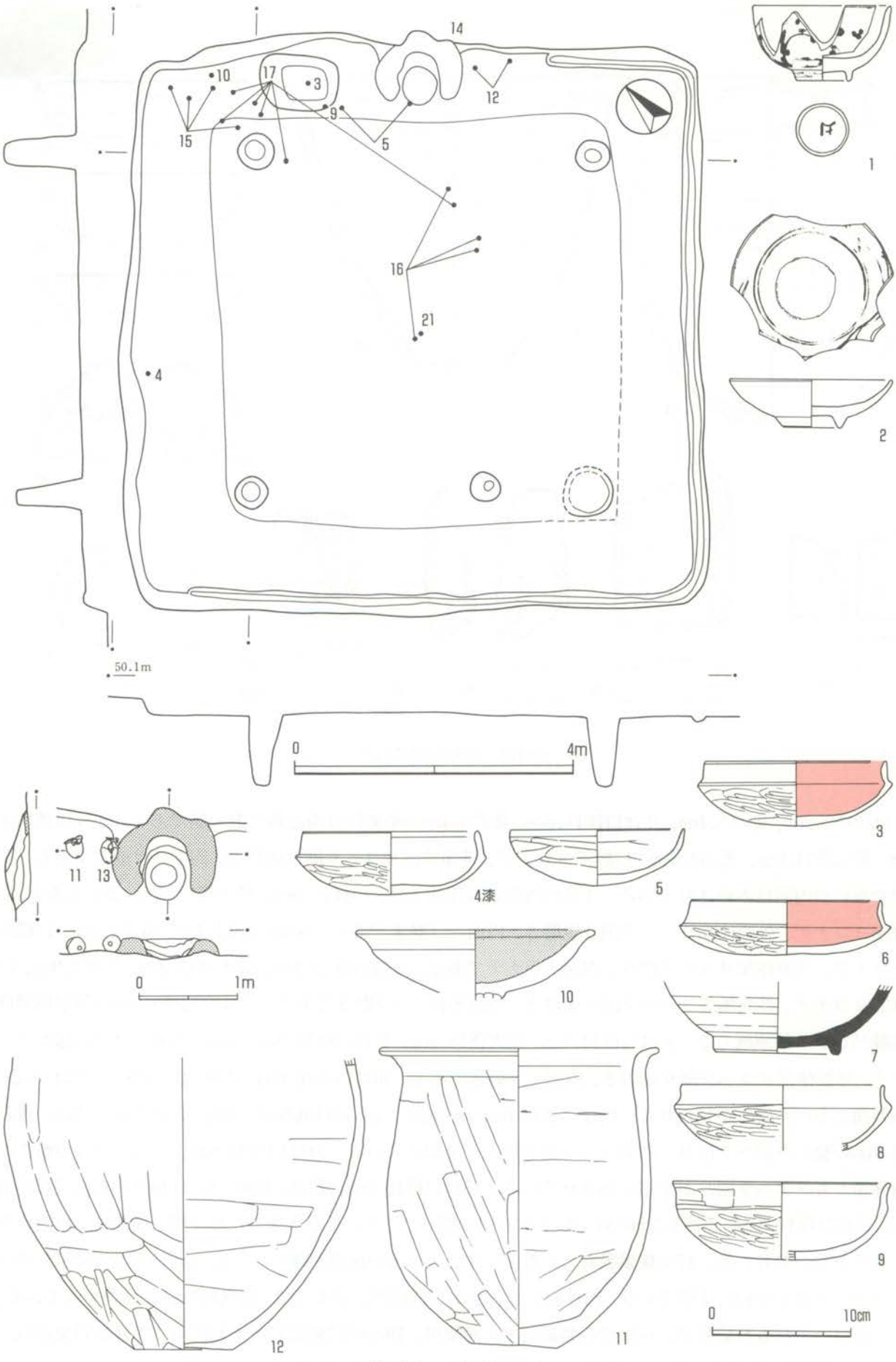
1は口径14.1cm、器高4.3cm、2は口径10.0cm、最大径11.0cm、器高3.3cm、3は口径11.8cm、最大径13.5cm、器高3.3cm、4は口径10.8cm、最大径12.0cm、器高3.4cm、5は口径10.7cm、最大径11.5cm、器高3.0cm、6は口径10.5cm、最大径10.8cm、器高3.2cm、7は口径12.5cm、最大径12.8cm、器高4.1cm、8は口径10.3cm、器高3.8cmでいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。3～6は内外面とも漆仕上げである。9は口径7.9cm、最大径9.0cm、器高6.1cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。10は口径13.0cm、11は口径14.3cmの高坏で外面体部ヨコヘラ削り、脚部はタテヘラ削りである。12は口径9.8cm、器高6.4cm、13は口径15.3cm、器高9.4cmの鉢で、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。14は砥石で4面とも使用されている。15は鉄鏃で、銹化が著しい。刃部最大長2.9cm、幅1.5cmを測る。



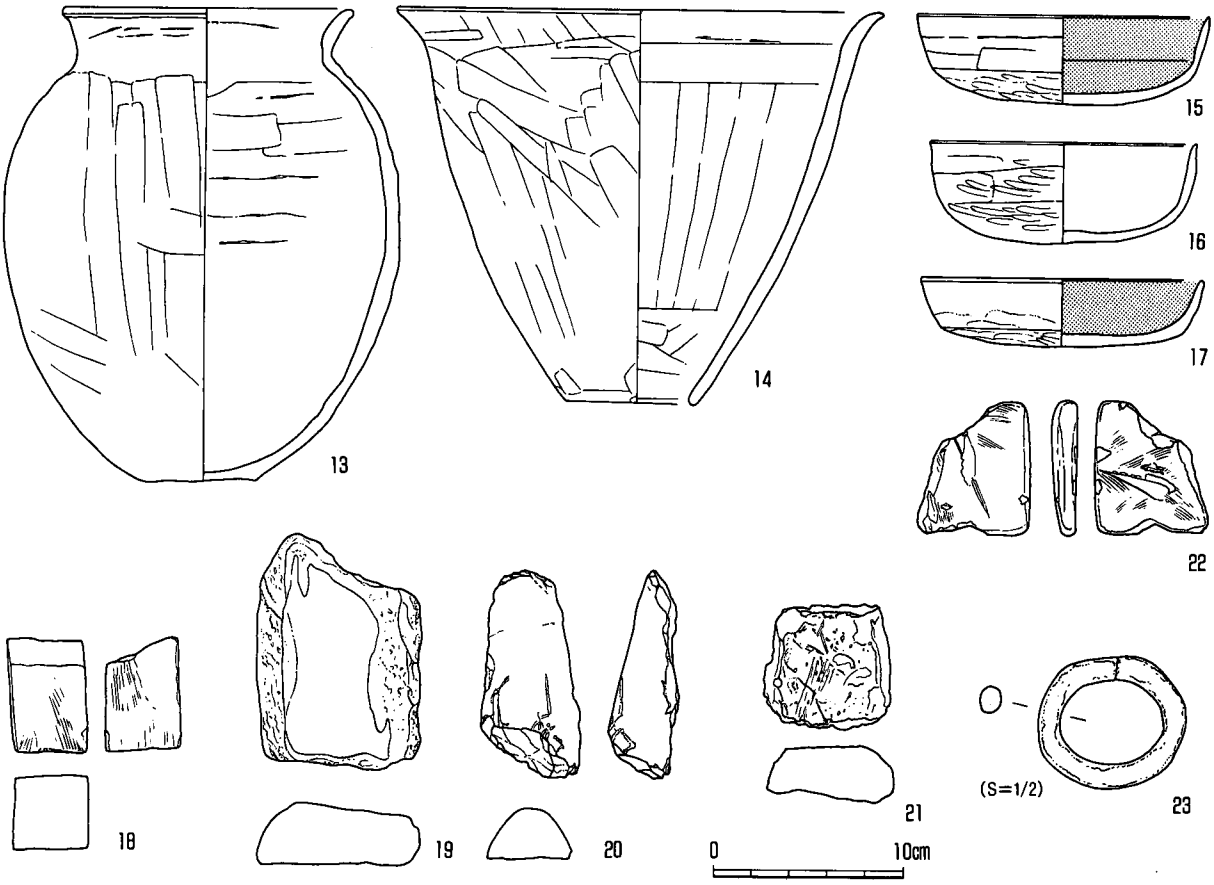

第92図　37号住居跡

**38号住居跡**（第93、94、95図、図版29、74）

北東壁8.0m、南東壁7.6m、南西壁8.0m、北西壁7.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。古い住居跡が床面下より検出されている。壁がほとんど残存していないが、床面の遺存度は良く、主柱穴、入口ピット共に明確に検出された。入口施設は深さ約20cm程である。周溝は北西壁下は存在していない。竈際には深さ約50cmの方形の貯蔵穴が検出されている。古い住居跡は約5.8m四方の正方形を呈し、竈、主柱穴、入口ピット、溝等検出されている。一部攪乱があるものの、床面も硬化面が明瞭に残っていた。主軸も同一でN－43°－Eである。

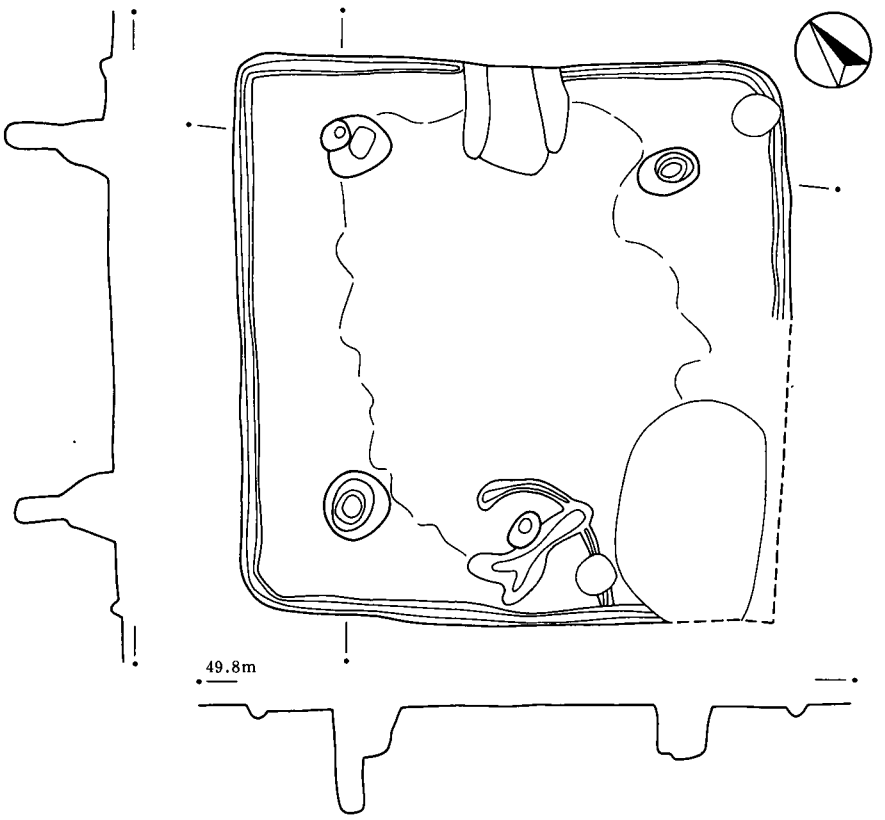



第93図　38号住居跡(1)




第94図　38号住居跡(2)

1は口径4.9cm、器高5.4cm、2は口径11.6cm、器高3.4cmの染め付け陶磁器で混入品である。3は口径13.0cm、最大径14.0cm、器高4.6cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。明瞭でないが内面は赤彩されている。4は内外面とも漆仕上げ、口径12.6cm、最大径13.8cm、器高4.4cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。5は口径12.4cm、器高4.0cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。6は口径13.7cm、最大径15.2cm、器高3.9cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面赤彩、ヘラ磨きである。7は底部径8.8cmの須恵器で自然釉がかかる長頸瓶でる。8は口径14.4cm、最大径15.6cm、9は口径15.5cm、器高5.5cmで共に口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。10は口径16.6cm、内面は炭素吸着と思われる。内外面ともヘラ磨きが見られる。11は口径19.6cm、器高21.1cm、12は底部径7.2cm、13は口径15.0cm、器高24.7cmの甕で外面ヘラ削り、内面もヘラ削り後ナデを加えている。14は口径25.6cm、器高20.6cmの甑で、内外面ともタテヘラ削りが丁寧に施されている。15は口径15.3cm、器高4.6cm、16は口径14.1cm、器高5.4cm、17は口径14.8cm、器高3.5cmの坏でいずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。なお、15、17を炭素吸着としたが、漆仕上げとの区別が難しい。17は実測図では図示していないがヘラ磨きが特に丁寧であり、内外面とも底部から口唇部に至るまで、縦横斜め交互に磨かれている。18～21はいずれも石製品で、18は滑石製砥石で4面使用、19も砂岩製砥石で1面使用、20は砂岩製敲石、21、22は砂岩製砥石で2面使用である。23は直径3.9cmの鉄製品であるが用途は不明である。

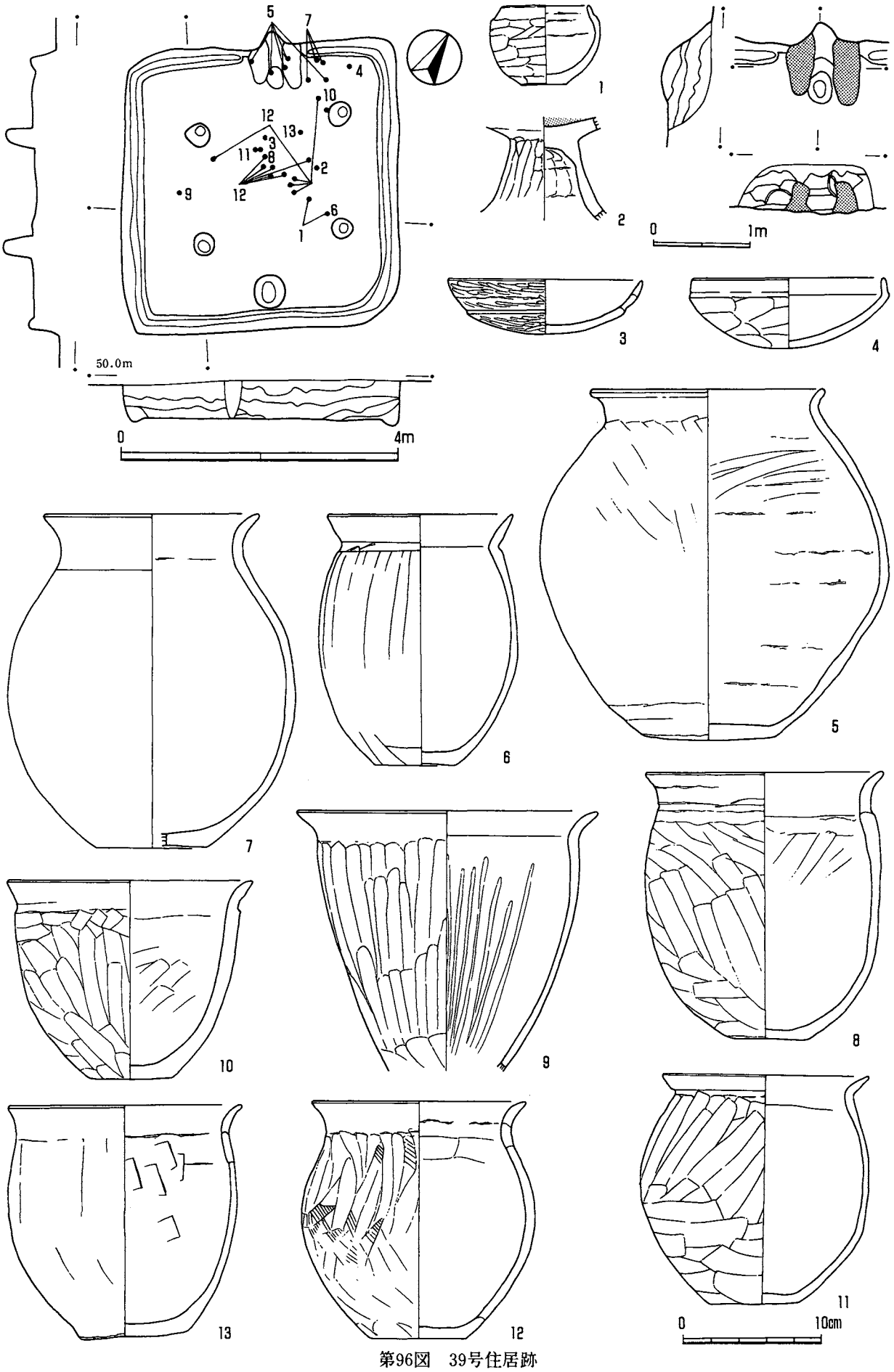



第95図　38号住居跡(古)

**39号住居跡**（第96図、図版30、74、75）

北西壁3.8m、北東壁3.7m、南東壁3.6m、南西壁3.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。入口ピットの深さは約15cm。覆土は黒色土を基調とした自然堆積である。主軸はN－32°－Wである。

1は口径6.4cm、最大径8.0cm、器高5.7cmの小形の鉢で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデであるが一部に輪積痕が残る。2は高坏の脚部片で内面黒色処理である。3は口径14.0cm、器高3.8cmの東北系とされる坏である。体部に稜線を有し、最終調整をヘラ磨きとしているが、一部に輪積痕を残す。4は口径13.8cm、最大径14.6cm、器高5.0cmの坏で口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。5は口径16.6cm、器高25.2cm、外面に黒色付着物多く、内面の器面剝離が著しい。6は口径13.5cm、器高18.0cm、7は口径15.4cm、器高13.9cm、8は口径17.0cm、器高19.1cmのいずれも甕である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデである。9は口径21.4cmの甑である。口縁部ヨコナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後簡単なタテヘラ磨きが加えられている。10は口径12.5cm、器高14.2cm、11は口径14.8cm、器高16.3cm、12は口径15.5cm、器高17.0cm、13は口径16.7cm、器高16.5cmのいずれも甕である。11の口縁部には黒色付着物が多く残る。12はハケ状工具痕が一部に残る。口縁部ヨコナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラ削り後ナデである。

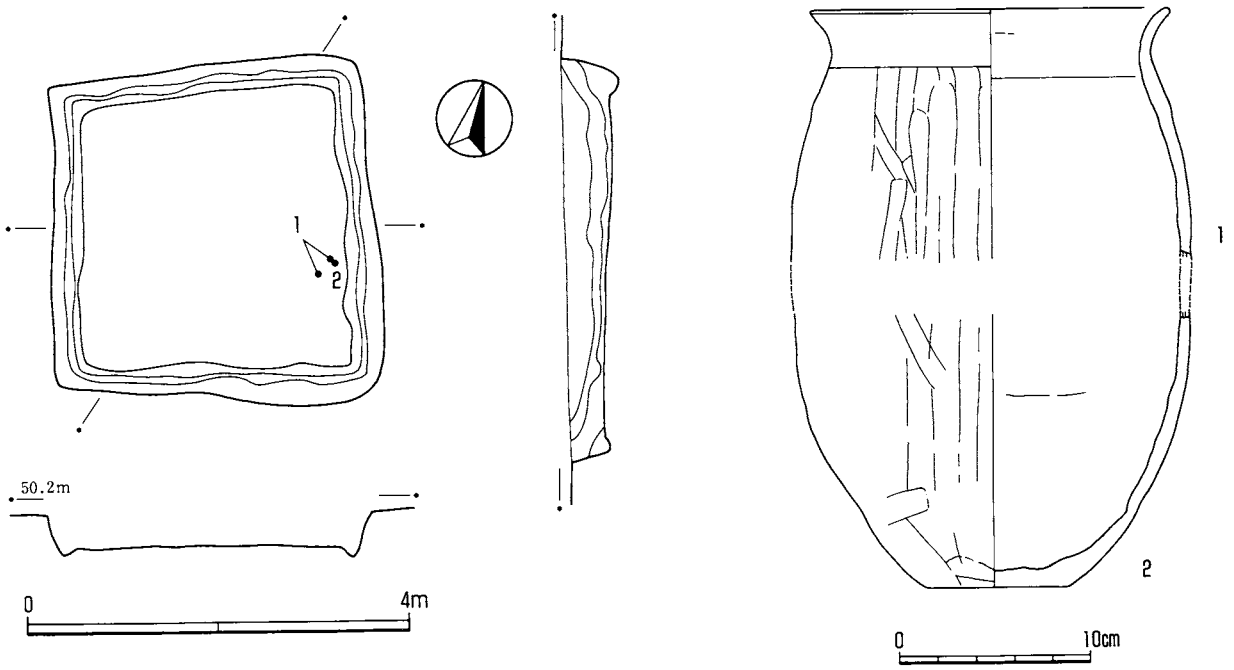



第96図　39号住居跡

**40号住居跡**（第97図、図版31）

北西壁3.2m、北東壁3.4m、南東壁3.3m、南西壁3.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面は軟弱で柱穴及び竈は検出されていない。覆土はローム層を基調とした自然堆積である。主軸はN－18°－Wである。

1、2は長胴の甕で口径18.6cmを計る。口縁部ヨコナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデである。

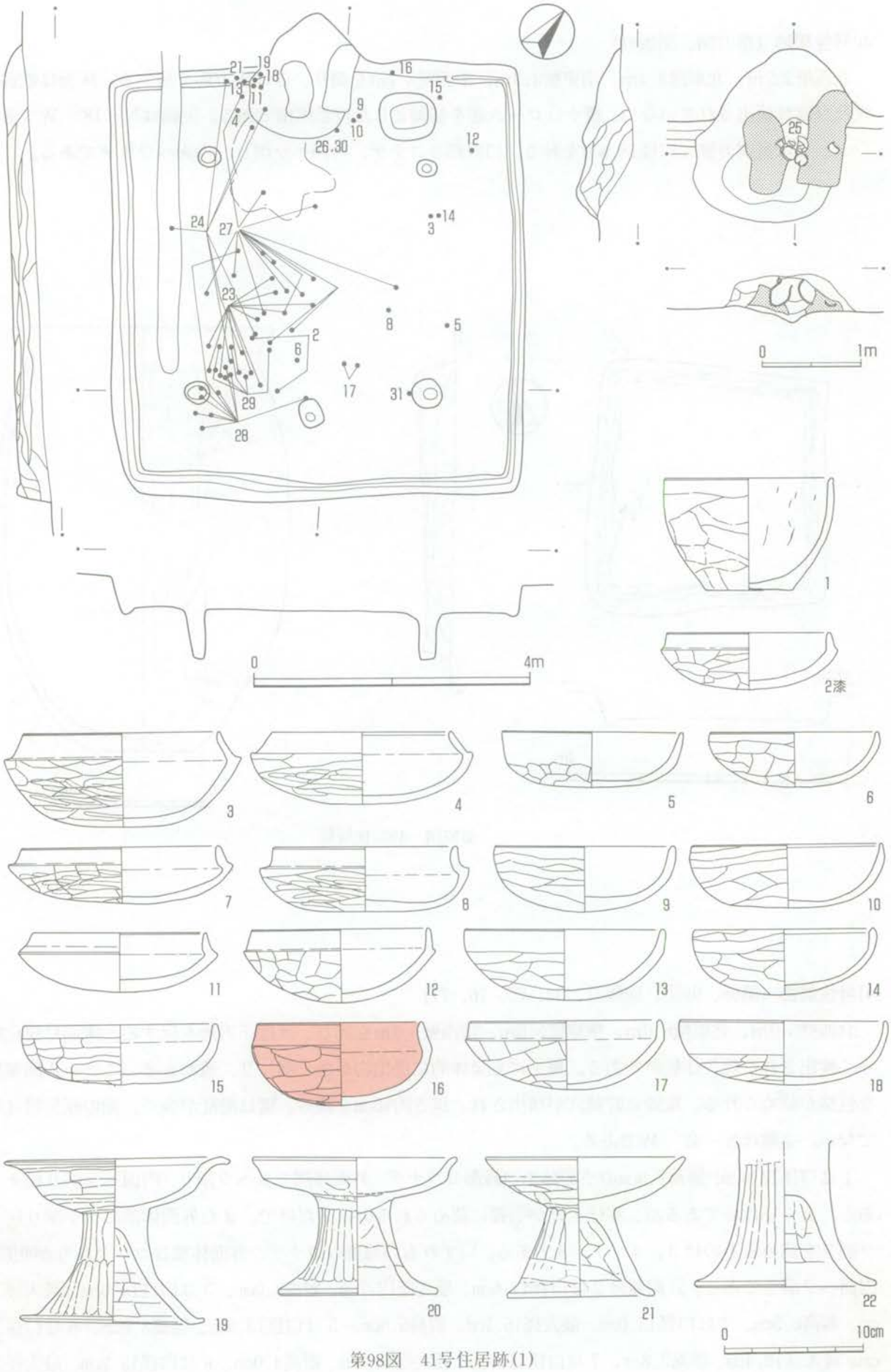



第97図　40号住居跡

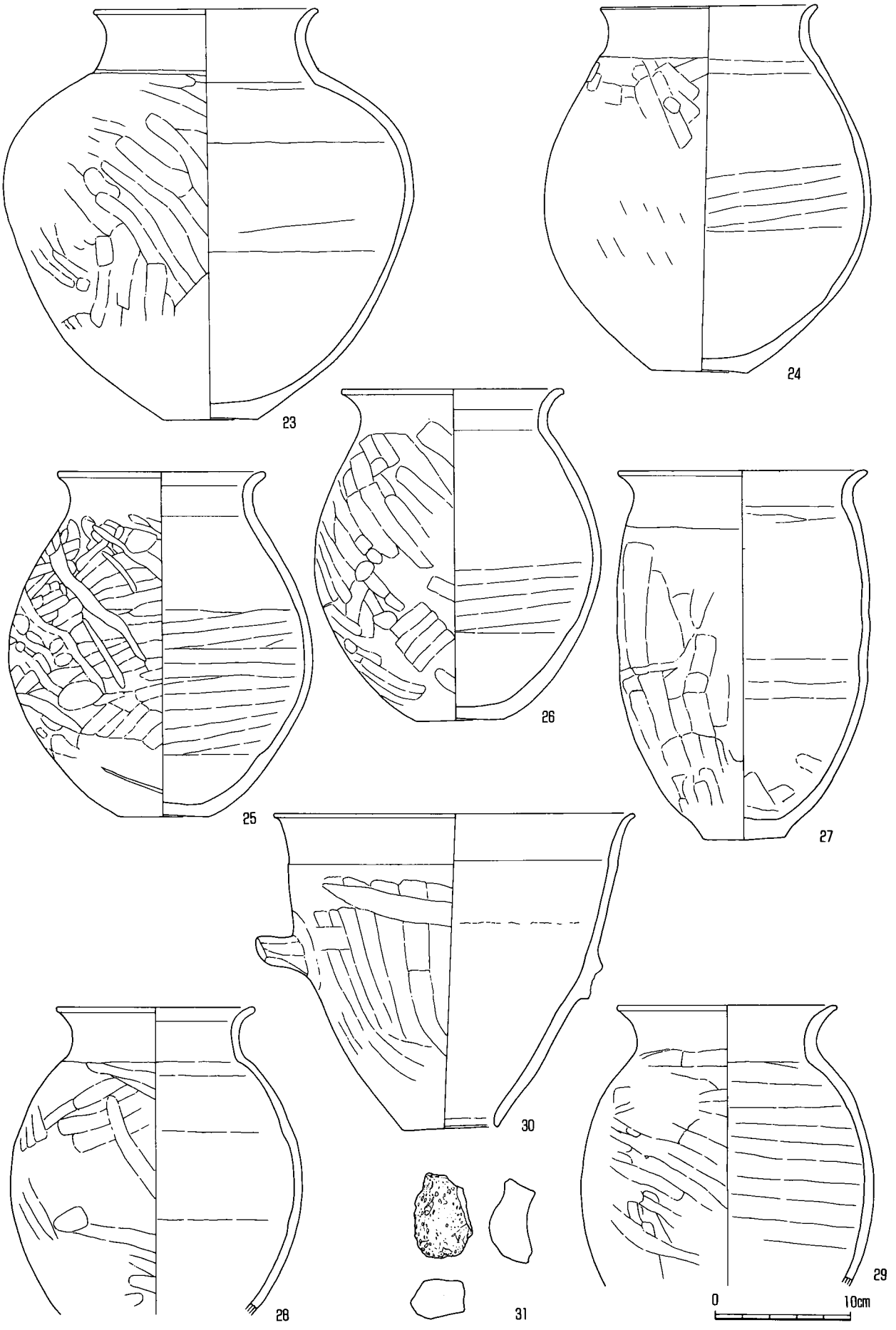
**41号住居跡**（第98、99図、図版31、32、75、76、77）

北西壁5.9m、北東壁6.0m、南東壁5.5m、南西壁5.9mを測り、ほぼ正方形を呈する。床面に炭化物が多く検出された焼失住居跡である。覆土にも全体的に炭化物が多く混じり、遺物も多いことから廃棄場的な性格が認められる。竈際に貯蔵穴が検出され、深さ約40cmを測る。竈は攪乱が多く、袖の原位置は定かでない。主軸はN－42°－Wである。

1は口径12.0cm、器高7.9cmの小形鉢で口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ削り後ナデである。2～18は坏であるが、漆仕上げが明確に認められるのは2だけで、また外面体部にヘラ削り後のヘラ磨きを認めるものは3，4，7，8である。いずれも口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削りが明瞭で、内面ヘラ磨きである。計測値は2は口径11.6cm、最大径12.7cm、器高4.0cm、3は口径14.0cm、最大径17.0cm、器高6.5cm、4は口径13.0cm、最大径16.1cm、器高5.0cm、5は口径13.0cm、器高3.9cm、6は口径12.0cm、最大径12.4cm、器高3.8cm、7は口径14.0cm、最大径16.1cm、器高4.0cm、8は口径13.2cm、最大径15.3



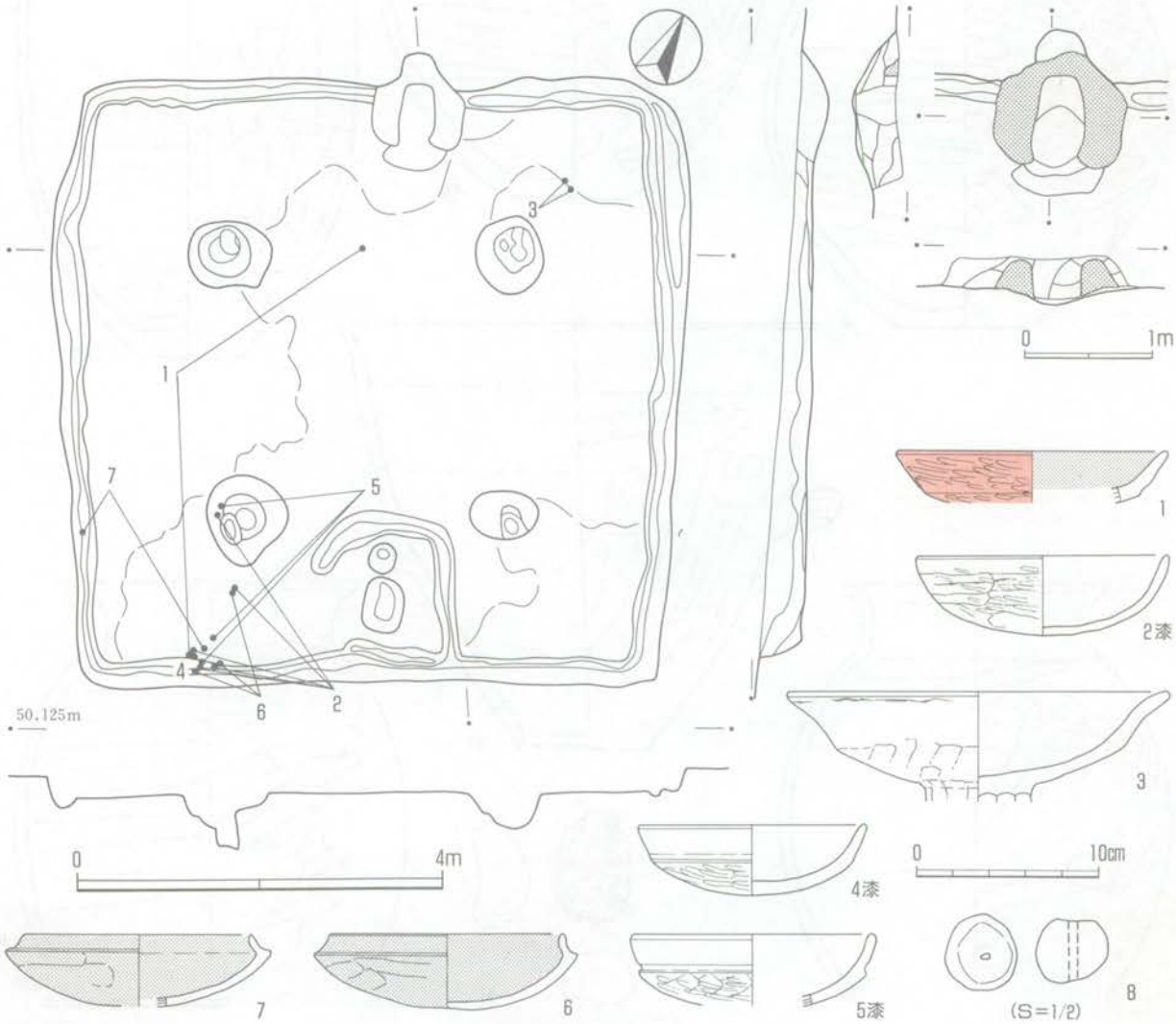

第98図　41号住居跡(1)




第99図　41号住居跡(2)

cm、器高4.6cm、9は口径12.8cm、最大径13.1cm、器高4.7cm、10は口径13.6cm、最大径14.1cm、器高4.5cm、11は口径12.4cm、最大径14.3cm、器高4.2cm、12は口径12.8cm、最大径14.0cm、器高5.1cm、13は口径14.2cm、器高4.9cm、14は口径12.8cm、器高4.5cm、15は口径13.7cm、器高4.3cm、16は口径11.8cm、最大径13.1cm、器高5.9cm、17は口径13.6cm、最大径14.4cm、器高5.0cm、18は口径14.8cm、器高4.6cmである。

19は口径15.3cm、器高11.7cm、20は口径14.7cm、器高9.7cm、21は口径14.1cm、器高9.9cm、22は底部径12.8cmのいずれも高坏である。口縁部ヨコナデ、坏外面体部ヨコヘラ削り、脚部はタテヘラ削りである。23は口径16.2cm、器高30.3cm、24は口径15.8cm、器高26.9cm、25は口径15.0cm、器高25.2cm、26は口径16.0cm、器高24.3cm、27は口径18.0cm、器高27.0cm、28は口径14.4cm、29は口径15.8cmのいずれも甕である。本住居跡に確実に伴うものは25で、竈内より出土した。23や27は出土状態からすると本住居跡に投げ込まれたものかもしれない。いずれも口縁部ヨコナデ、外面ヘラ削りが丁寧に施されており、器壁はかなり薄く仕上げられている。内面はヘラ削り後のヘラナデやヨコナデが見られる。30は口径26.5cm、器高23.0cmの甑である。口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラ削り後ナデである。左右の耳の高さがずれている。31は軽石で一部に磨り減った部分が認められる。

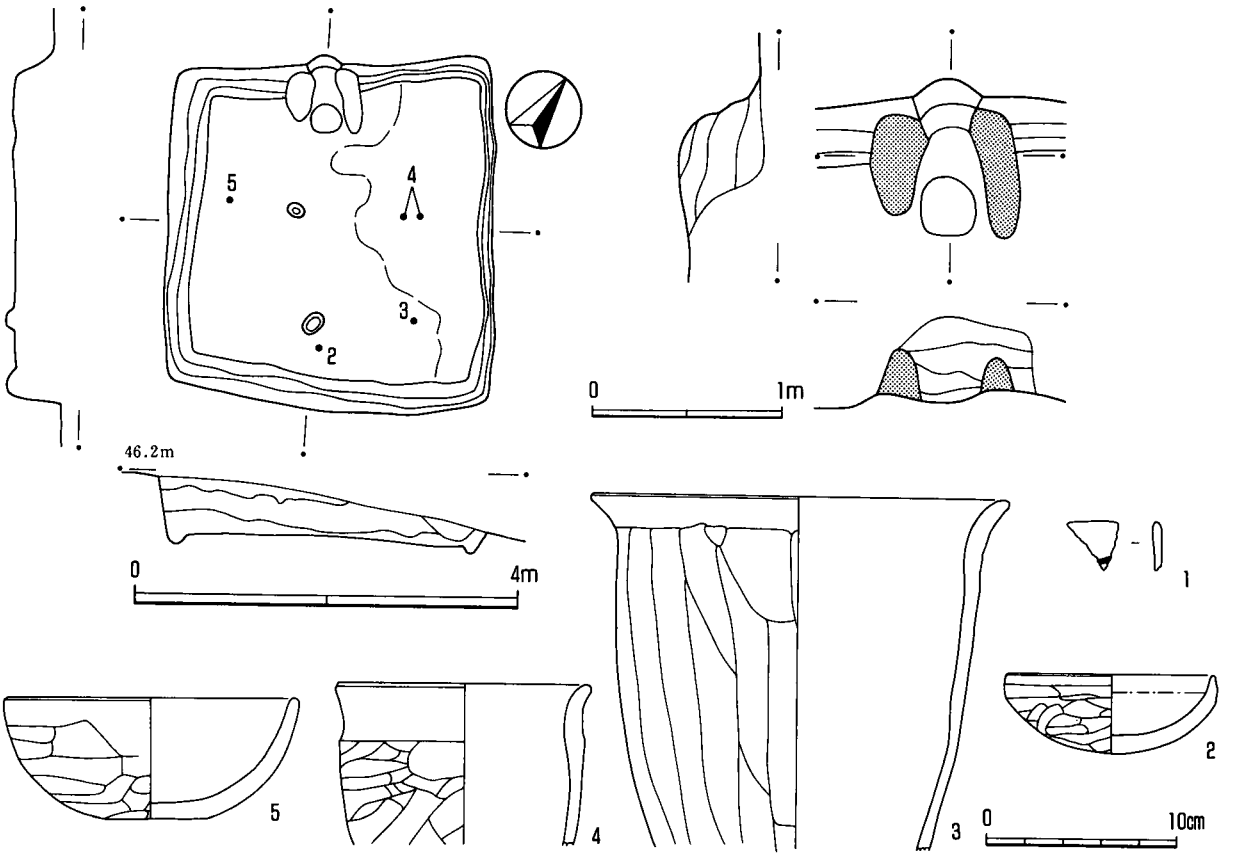



第100図　42号住居跡

**42号住居跡**（第100図、図版32、33、76、77）

北西壁6.6m、北東壁6.3m、南東壁6.3m、南西壁6.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。入口ピットの周囲に溝が検出されているが深さ3～5cmと浅い。入口ピットも深さ7cm程度である。覆土はローム層を基調とした自然堆積である。竈は遺存度が良好で天井の一部も残存していた。主軸はN－28°－Wである。

1は口径14.8cm、外面体部ヨコヘラ削り後磨きで赤彩が施されている。内面ヘラナデで炭素吸着、東北系と言われるものである。2は口径14.7cm、器高4.3cm、内外面とも漆仕上げで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラナデである。3は口径20.8cmの高坏で口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。4は口径12.4cm、器高3.7cmで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き内面ヘラ磨きである。内外面とも漆仕上げである。5は口径13.1cmで成形は4と同じである。6は口径12.9cm、最大径14.6cm、器高4.0cm、7は口径12.4cm、最大径14,5cmの坏で内外面とも炭素吸着と思われる。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。8は直径2.0cm、孔径0.2cmの土玉である。

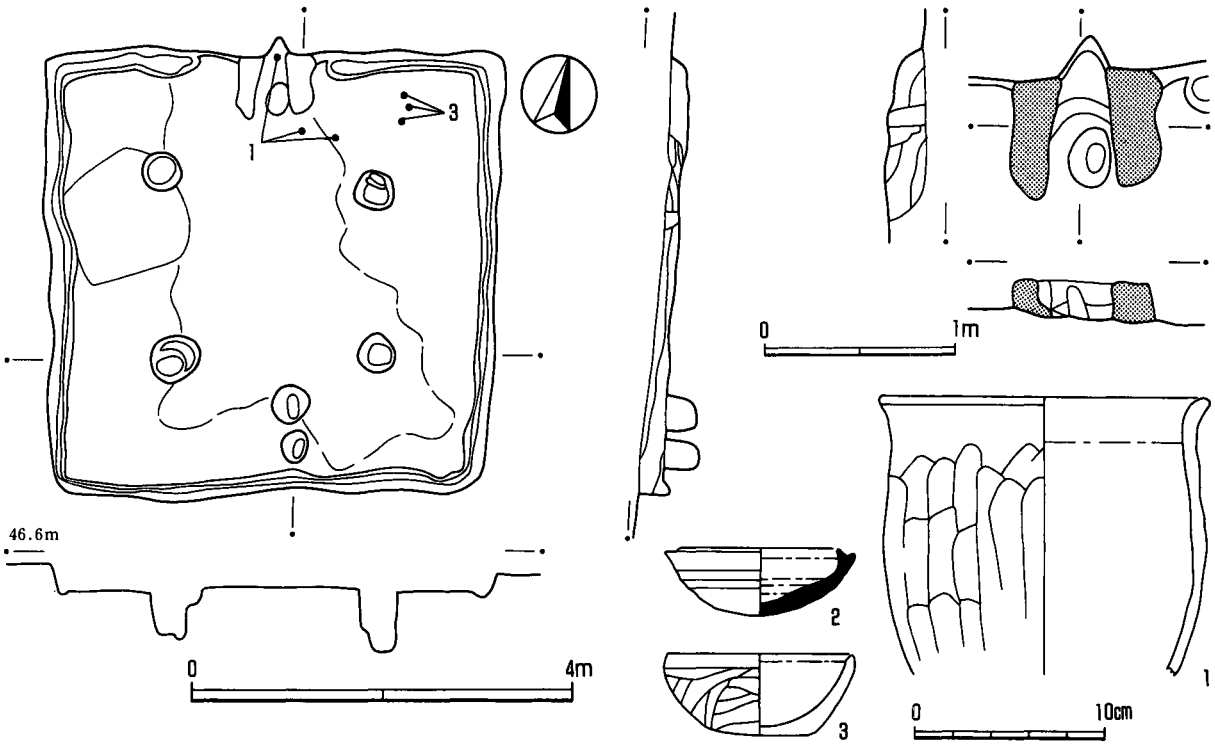



第101図　43号住居跡

**43号住居跡**（第101図、図版33、77）

北西壁3.3m、北東壁3.5m、南東壁3.4m、南西壁3.2mの小形住居跡である。ほぼ正方形を呈する。地山が東の谷に向かって下がっており、床面も東半分が軟弱である。主柱穴も検出されていない。覆土は黒色度を基調にした水平堆積である。主軸はN－35°－Wである。

1は後世の混入品であるが墨書土器片である。2は口径10.9cm、最大径11.1cm、器高4.1cmの坏で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。3は口径21.6cmの甕もしくは甑で、口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。4は口径13.1cm、口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。5は口径15.1cmの鉢で口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。




第102図　44号住居跡

**44号住居跡**（第102図、図版33、77）

北西壁4.8m、北東壁4.4m、南東壁4.4m、南西壁4.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。入口ピットは2カ所検出され、共に深さ40cmとかなり深い穴である。周溝は竈付近で終結している。竈火床部は浅く、床面と同レベルである。主軸はN－12°－Wである。

1は口径17.2cmの甕で口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。2は口径8.4cm、器高3.5cmの合子状坏身の須恵器で体部下部回転ヘラ削り、底部は同心円状の回転ヘラ削りが施されている。胎土に混入物は少なく、焼成も良好で湖西産と思われる。3は口径9.7cm、最大径10.0cm、器高4.2cmの小形鉢で口縁部ヨコナデ、外面体部ヘラ削り、内面ヘラナデである。

**45号住居跡**（第103図、図版34、77）

北西壁4.0m、北東壁5.4m、南東壁4.2m、南西壁5.4mを測り、長方形を呈する。浅い住居跡で、覆土はほとんど黒色土単一層である。竈は堀り方は検出されたが、袖等は残存していない。一方で炉としか考えられない焼土の堆積が床面より検出されている。主柱穴、入口ピット等は無い。主軸はN－27°－Wである。

1は口径27.0cm、器高27.3cmの甑である。竈から離れ、炉の周囲から出土している。口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。2は口径18.4cmの甕で口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。3は口径12.8cm、最大径13.3cm、器高3.7cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。4は管状土錘である。直径0.8cm、高さ2.8cmを測る。

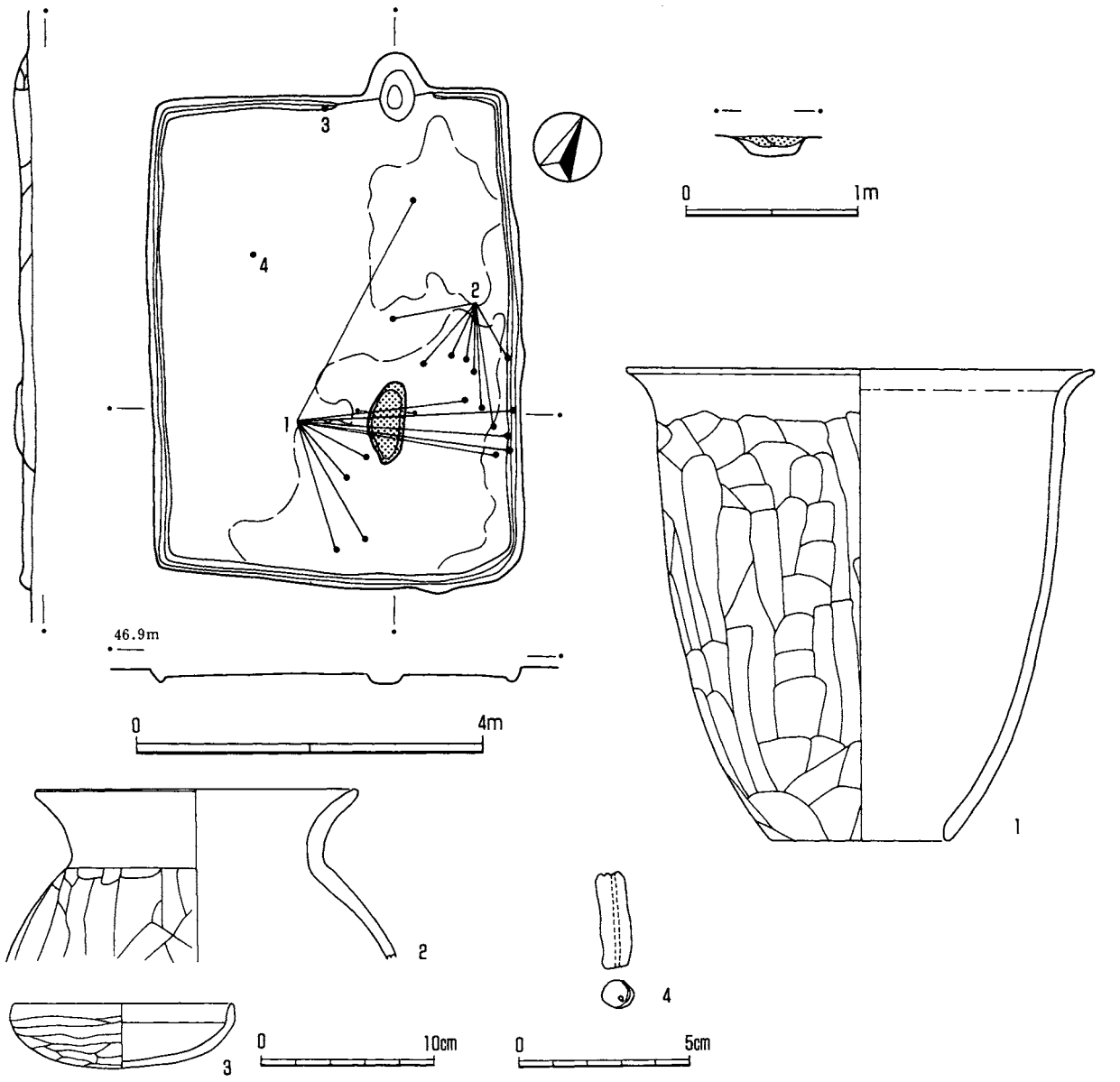
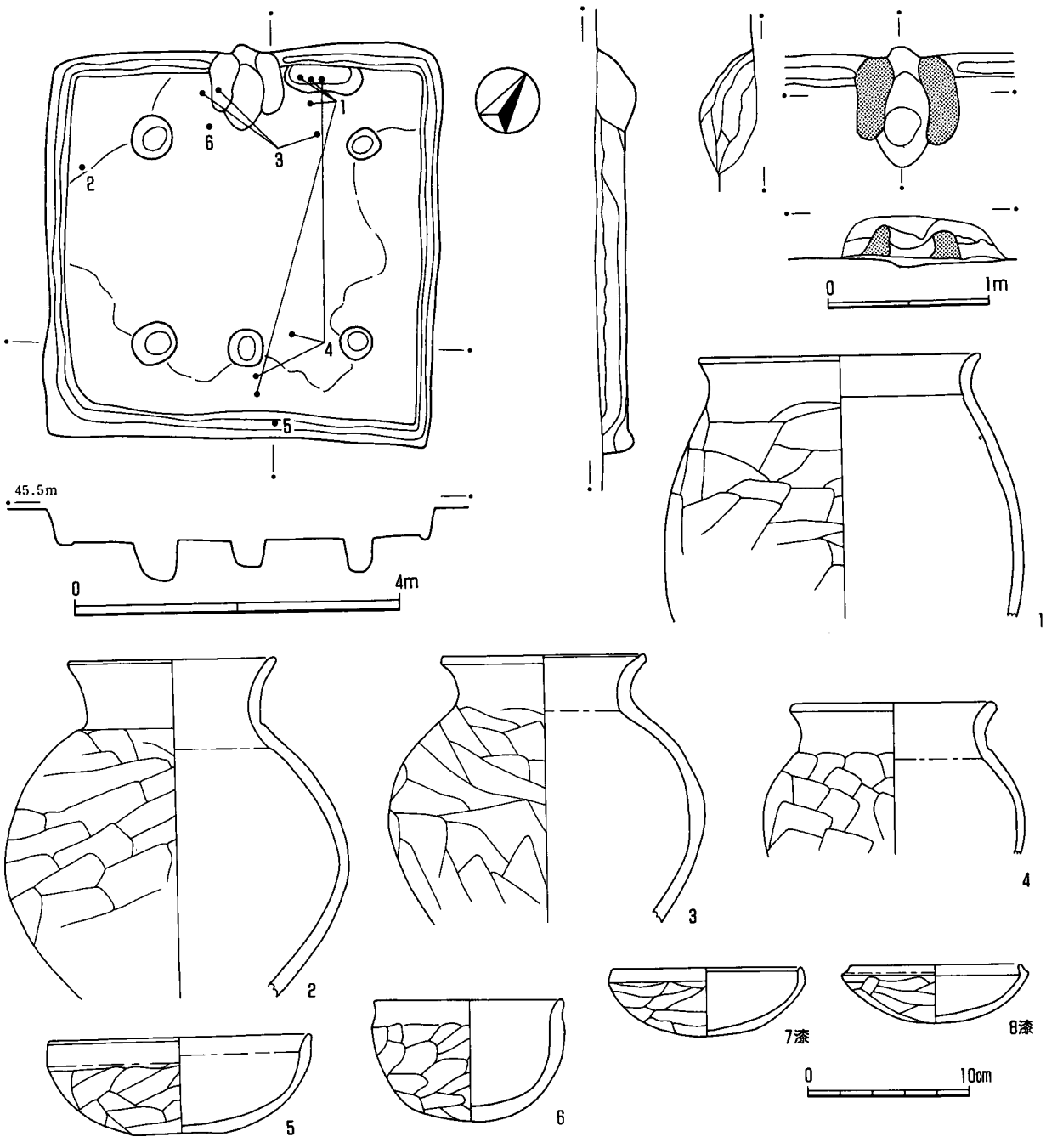



図103図　45号住居跡

**46号住居跡**（第104図、図版34、77）

北西壁4.7m、北東壁4.8m、南東壁4.7m、南西壁4.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。覆土はローム層を基調にした自然堆積である。竈際に深さ10cm程度の貯蔵穴が検出された。主軸はN－34°－Wである。

1は口径17.2cm、2は口径2.6cm、3は口径12.6cm、4は口径12.0cmのいずれも甕である。口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。5は口径16.1cm、器高4.9cm、6は口径11.7cm、器高7.4cmのいずれも鉢である。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。7は口径11.7cm、最大径12.3cm、器高4.3cm、8は口径10.6cm、最大径11.6cm、器高3.6cmの坏でいずれも内外面とも漆仕上げ、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。

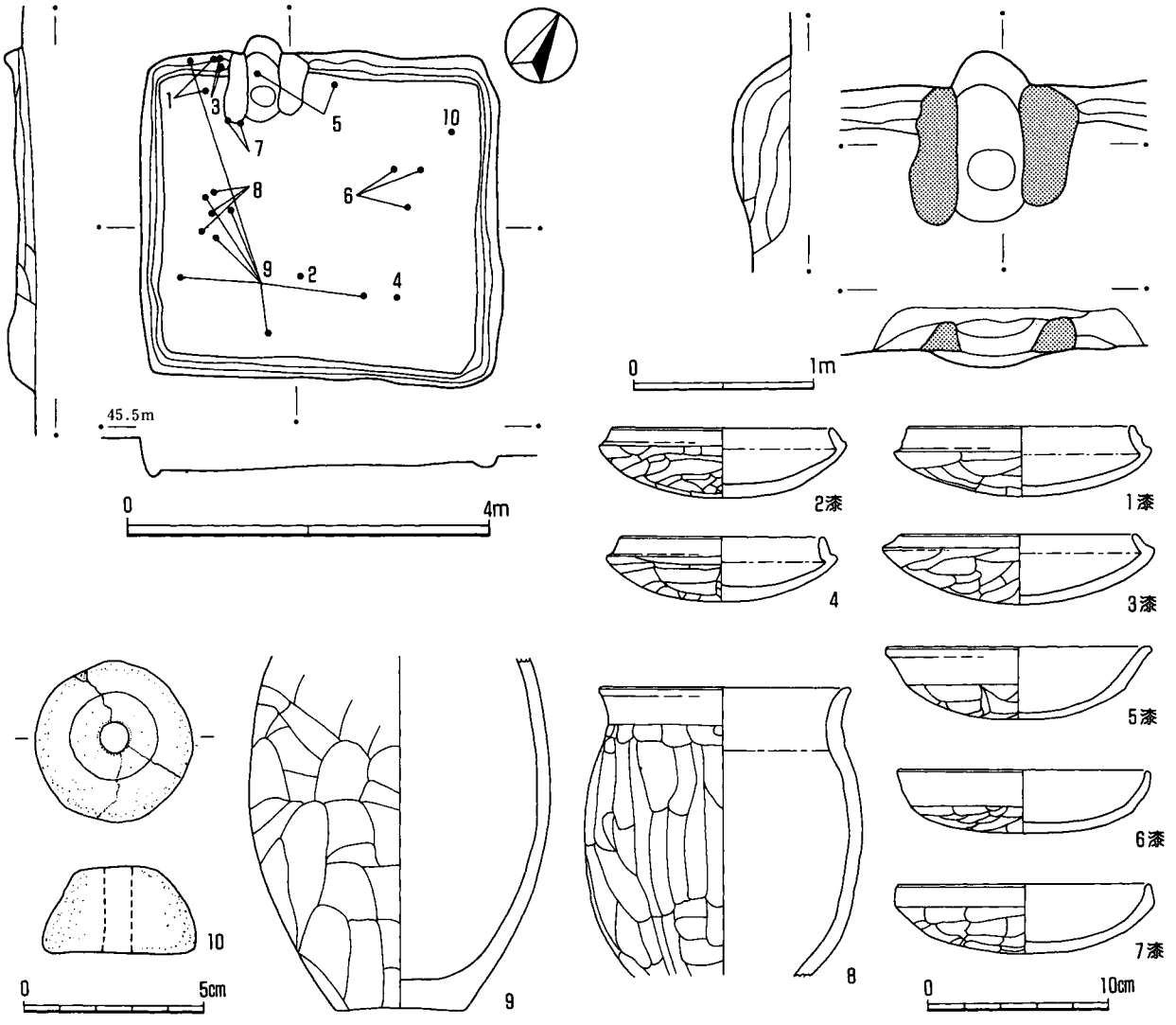



第104図　46号住居跡

**47号住居跡**（第105図、図版34、77）

北西壁3.7m、北東壁3.6m、南東壁3.7m、南西壁3.4mを測り、ほぼ正方形を呈する。覆土上層には新期テフラを含む。主柱穴等ピットは全く検出されていない。床面も全体的に軟弱である。竈の火床部は大形である。主軸はN－31°－Wである。

1は口径12.4cm、最大径14.4cm、器高3.9cm、2は口径12.3cm、最大径13.8cm、器高3.8cm、3は口径13.1cm、最大径15.1cm、器高3.8cm、4は口径11.3cm、最大径13.0cm、器高3.5cm、5は口径14.5cm、器高4.0cm、6は口径13.9cm、器高3.4cm、7は口径13.9cm、最大径14.4cm、器高3.9cm、のいずれも坏であり、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。外面にヘラ磨きを施しているものはない。4を除き内外面とも漆仕上げである。8は口径13.7cm、9は底部径7.0cmの甕で口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。10は直径4.4cm、孔径0.8cmの土製紡錘車である。

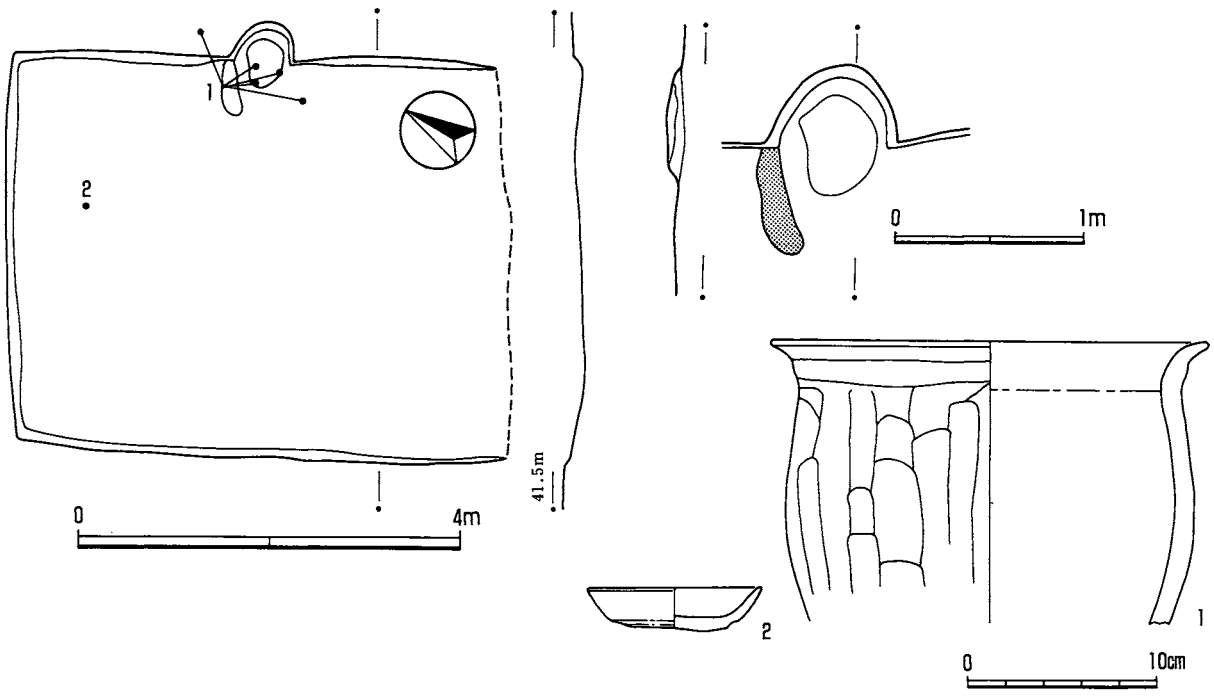



第105図　47号住居跡

**48号住居跡**（第106図、図版35）

北東壁5.1m（推定）、南東壁4.0m（推定）、南西壁5.2m（推定）、北東壁4.0mを測り、長方形を呈する。非常に浅く、床面も軟弱で主柱穴等ピットは検出されていない。竈も遺存度が不良である。火床部部が壁外に大きく張り出している。主軸はN－59°－Eである。

1は口径23.0cmの竈で口縁部ヨコナデされているが輪積痕が残る。外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。2は口径9.2cm、器高2.1cmのかわらけで後世の混入品である。底部は回転糸切りである。



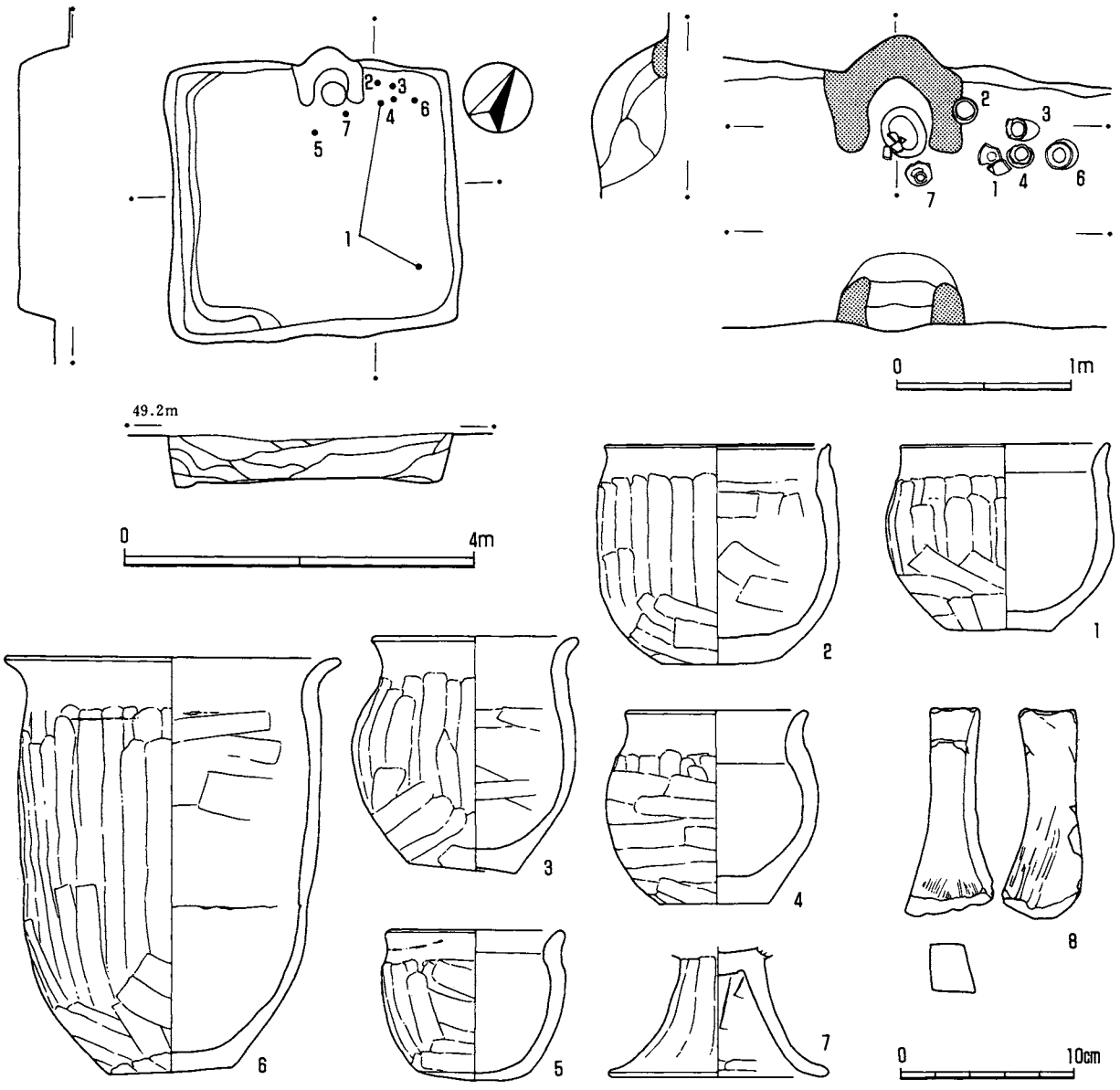

第106図　48号住居跡

**49号住居跡**（第107図、図版35、77、78）

北西壁3.2m、北東壁2.8m、南東壁3.3m、南西壁3.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。幅広い周溝が西壁際に検出されたものの、他には存在しない。主柱穴等も検出されていない。床面は全体的に軟弱である。覆土は黒色土とローム層が交互に堆積する。竈の遺存度は良く、完形品の甕がいくつも周囲から出土している。主軸はN－32°－Wである。

1は口径11.9cm、器高10.5cm、2は口径12.8cm、器高12.5cm、3は口径11.6cm、器高13.3cm、4は口径

10.1cm、器高11.0cm、5は口径9.8cm、器高8.5cmの鉢である。口縁部ヨコナデ、外面上部タテヘラ削り、下部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。6は口径19.0cm、器高23.5cmの甕で、外面上部タテヘラ削り、下部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。7は底部径12.1cmの高坏脚部で外面タテヘラ削りである。

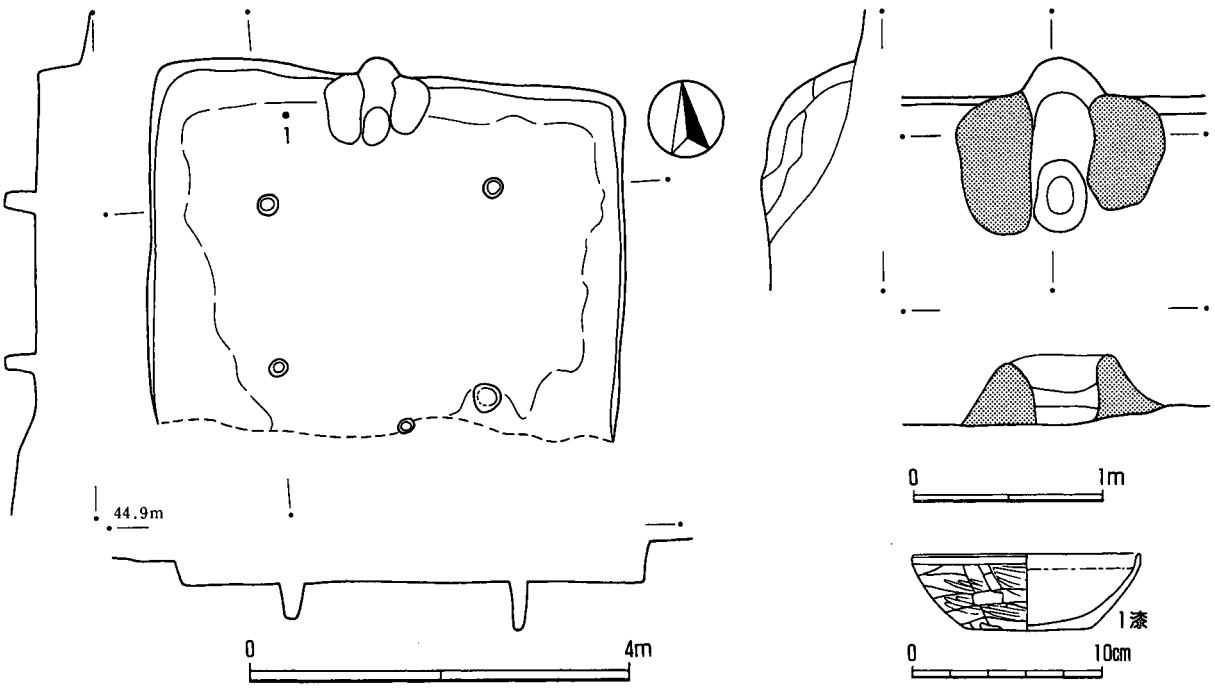



第107図　49号住居跡

**50号住居跡**（第108図、図版35、79）

北東壁4.9m、南東壁3.5m、北西壁3.7mを測り、ほぼ正方形を呈する。南壁は削平されている。細い主柱穴及び、深さ約12cmの入口ピットが検出されている。周溝は検出されず、床面はほぼ全域が硬化面である。覆土はローム層を基調とした単一層である。主軸はN－6°－Eである。

1は口径12.0cm、器高3.9cmを測る。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り後一部磨き、内面ヘラ磨きである。底部もヘラ削り後、やや丸みのある平底を丁寧にナデて作り上げている。内外面とも漆仕上げであるが、摩滅が著しい。




第108図　50号住居跡

**15号土坑**（第109図、図版36）

長軸3.1×短軸2.2m、深さ0.3m、覆土上層には新期テフラを含む。古墳時代後期土器片を含む。

**16号土坑**（第109図、図版36）

長軸1.6×短軸1.0m、深さ0.4m、034号住居跡に切られている。覆土には山砂を含む。遺物は出土していない。

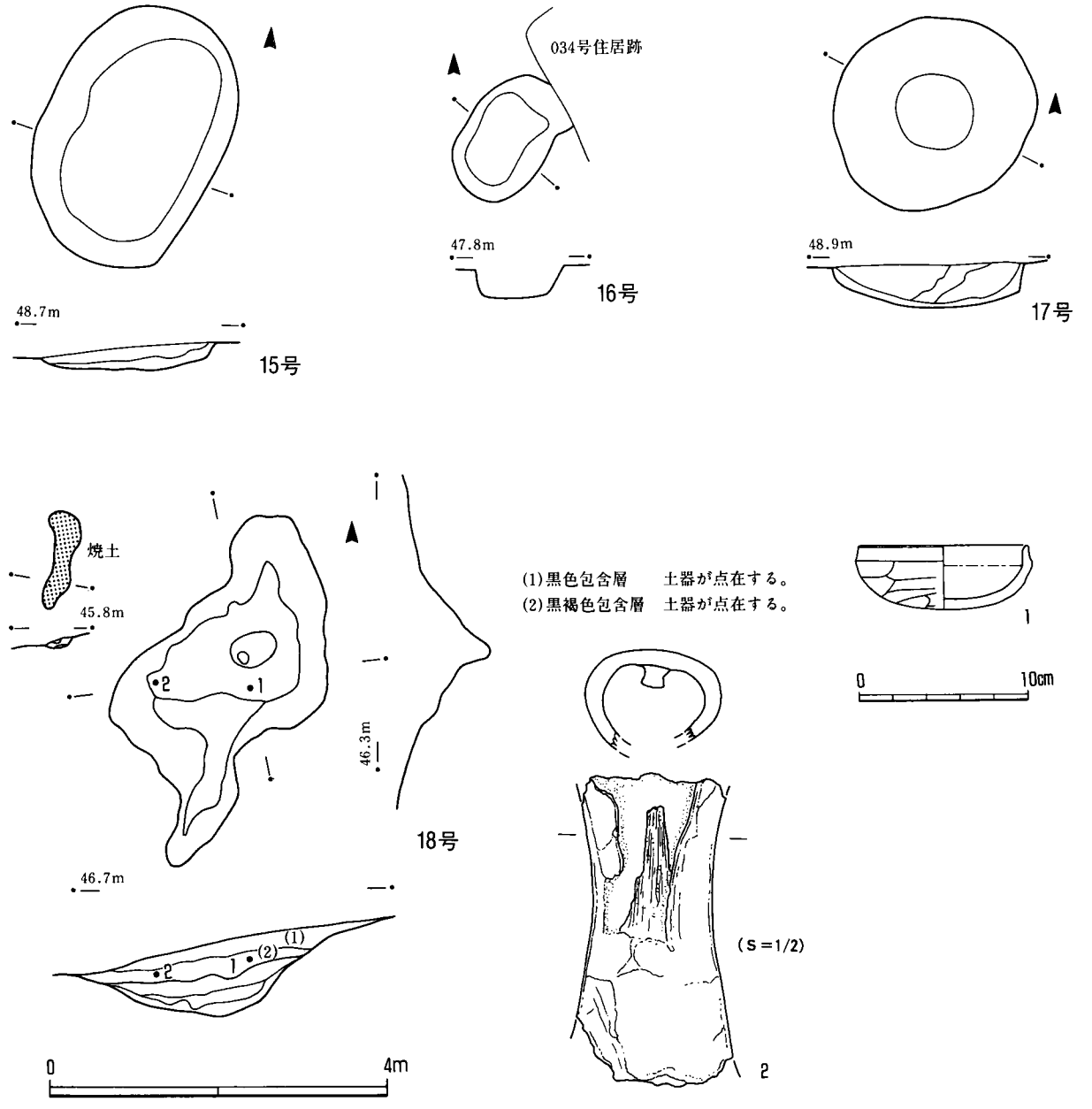
**17号土坑**（第109図）

長軸2.4×短軸2.3m、深さ0,4cm、ほぼ円形を呈する。覆土はハードローム層主体である。024号住居跡を切っている。

**18号土坑**（第109図、図版36）

長軸4.3×短軸1.7m、深さ0.9m、不定形を呈し、大地北側緩斜面に位置する。近接して焼土の堆積がある。覆土上層は黒色土包含層で、下層部はローム層主体の自然堆積である。上層より古墳時代後期土器片が出土する。

1は口径10.0cm、最大径10.5cm、器高3.7cmの坏で口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラ磨きである。2は鉄斧片で木質柄部が残存する。共に（2）層から出土した。




第109図　15号～18号土坑

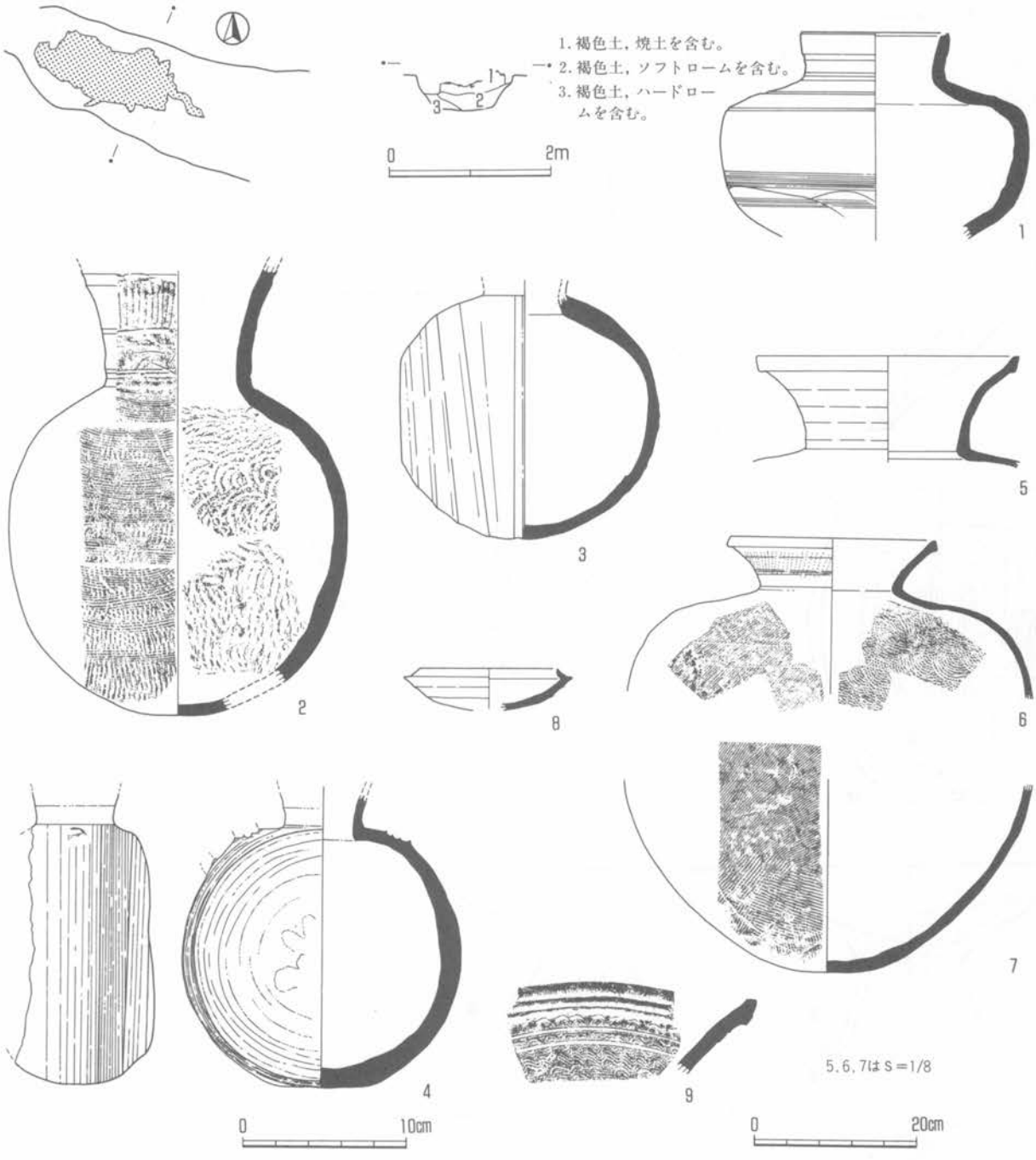
**19号土坑**（土器溜まり）（第110、111図、図版37、78、79）

長軸約2.3×短軸約0.7m、厚さ10cm程の範囲で、1号溝覆土上層部より一括して土器片等が出土したもので、土器溜まりである。便宜上土坑としたが堀り方はない。土器片が出土した直下層には焼土が僅かに混じっているが、その下層は細かなローム粒が混じる自然堆積土である。調査時は須恵器の多量の伴出から、墓坑、主体部等の可能性に留意したが、堀り方や周囲に周溝は検出されず、土器下の土も1号溝の覆土であり、硬化面、平坦面等の人為的痕跡は特に検出されなかった。したがって、状況から判断すると、これらの一括土器は、1号溝が自然の状態でかなり埋没した段階で、一時期に「同時廃棄」された可能性が高い。

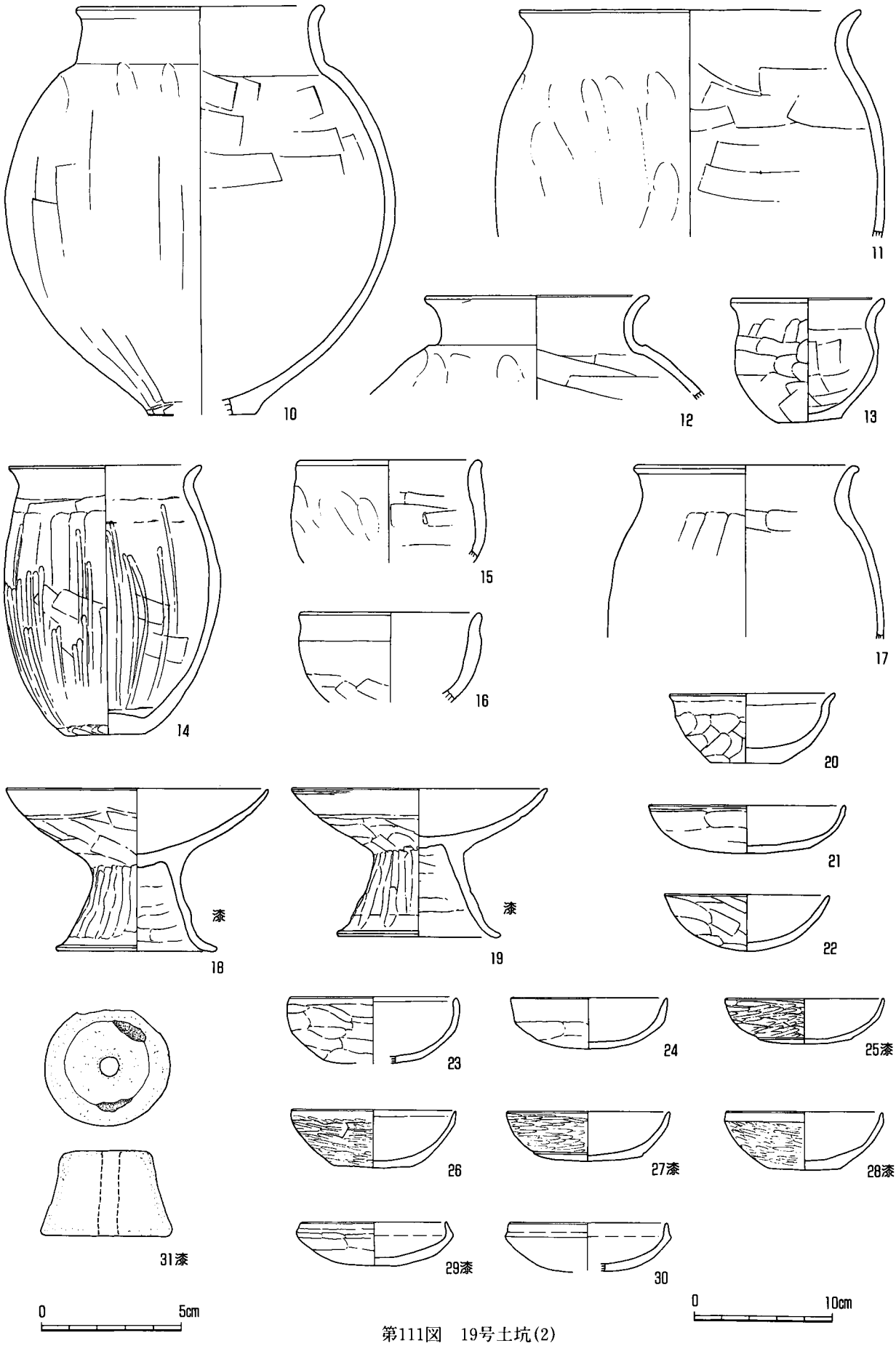
1～7は須恵器である。1は口径8.9cmの短頸壺で体部下半部にヘラ削りが施されて、その後カキ目調整が行われている。2は長頸壺でフラスコ状を呈する。口頸部は平行タタキ後、沈線が巡る。体部も平行タタキ後、カキ目調整が施されている。内面にはあて具痕が残る。3は長頸瓶で体部は回転ヘラ削りで自然釉が残る。4は堤瓶で自然釉が残る。把手は輪状と思われるが、基部の遺存度が不良で断定できない。ボタン状か鍵状の可能性もある。体部は回転ヘラ削り後カキ目調整で、中央部には指頭圧痕が残る。5は口径16.0cmの甕である。6は口径25.0cmの大甕で口頸部には明瞭なロクロ痕が残り、浅い沈線状になっているが列点文を区画していない。外面にタタキ目が見れ、内面にはあて具痕が残る。口縁端部は四角形に近い。自然釉が残る。　7は大甕の胴下半部で外面にタタキ目、自然釉が残る。8は口径8.5cm、最大径10.5cm、器高2.7cm(推定)の合子状坏身で、胎土に小石を多く含み、体部下部は回転ヘラ削りが施されている。焼成が不良で黒色度が強いもので、1～7とは異質である。21号住居跡の2、の須恵器鉢と胎土、焼成が類似しており、同一産地である可能性が高い。9は大甕の口縁部片で波状文を沈線が区画している。

以上の須恵器については廃棄の同時性を認めるものの、8の須恵器は他と胎土、焼成を全く異にしており産地、流通等の違いを感じさせる。しかし、このほかについては他の住居跡出土須恵器同様、概ね湖西II期第5小期～III期第1小期（7世紀前半）の中に類例を求めることができるが、詳細は後述する。

10は口径17.4cm、器高29.5cm、11は口径24.6cm、12は口径16.0cm、13は口径10.0cm、器高8.8cm、14は口径13.8cm、器高19.2cm、15は口径13.0cm、16は口径13.0cm、17は口径15.6cmの甕及び鉢である。甕はいずれも口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヨコヘラ削りであるが13は内外面ともタテヘラ磨きを一部に施している。。18は口径18.9cm、器高11.5cm、19は口径18.6cm、器高10.6cmの高坏でいずれも脚内部以外漆仕上げである。口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、脚部外面磨きに近いタテヘラ削り、内面ヘラ磨きである。20は口径11.8cm、器高5.0cmの小鉢で口縁部ヨコナデ、外面退部～底部ヘラ削り、内面ヘラナデである。21は口径19.0cm、器高3.4cm、22は口径11.8cm、器高4.1cm、23は口径12.0cm、最大径12.5cm、24は口径11.3cm、器高3.6cmで、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。25は口径11.4cm、器高3.2cmの内外面とも漆仕上げで、外面体部ヨコヘラ削り後口縁部まで磨き、内面もヘラ磨きである。東北系とされるものである。26は口径11.8cm、器高4.1cm、口縁部は僅かに内わんする。外面体部ヨコヘラ削り後磨き、内面ヘラ磨きである。27は口径11.7cm、器高3.5cm、内外面とも漆仕上げで24同様の成形で東北系とされる。28は口径11.3cm、器高4.1cm、25と同様の成形で、内外面とも漆仕上げである。29は口径10.5cm、最大径11.5cm、器高3.1cm、内外面とも漆仕上げで口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。30は口径11.3cm、最大径12.1cm、口縁部ヨコナデ、外面体部丁寧なヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。31は土製の紡錘車で漆仕上げである。直径4.5cm、孔径0.7cmを測る。




第110図　19号土坑(1)

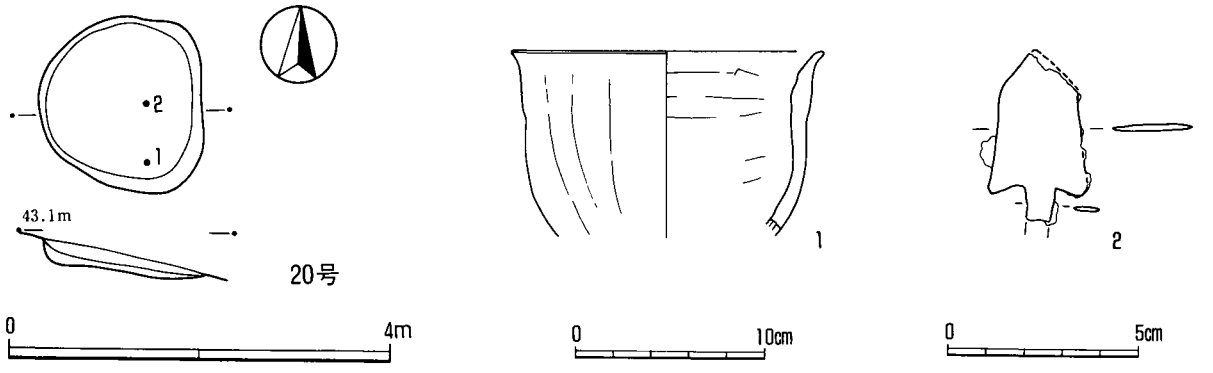



第111図　19号土坑(2)

**20号土坑**（第112図、図版37）

遺跡内の痩せ尾根北端部の緩斜面に位置するもので、長軸1.8×短軸1.7mのほぼ円形を呈し、深さ0.25mを測る。覆土は黒色土を主体とする自然堆積である。

1は口径16.3cmの甕で、口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。2は鉄鏃である。刃部最大長3.7cm最大幅2.6cmとやや大形である。



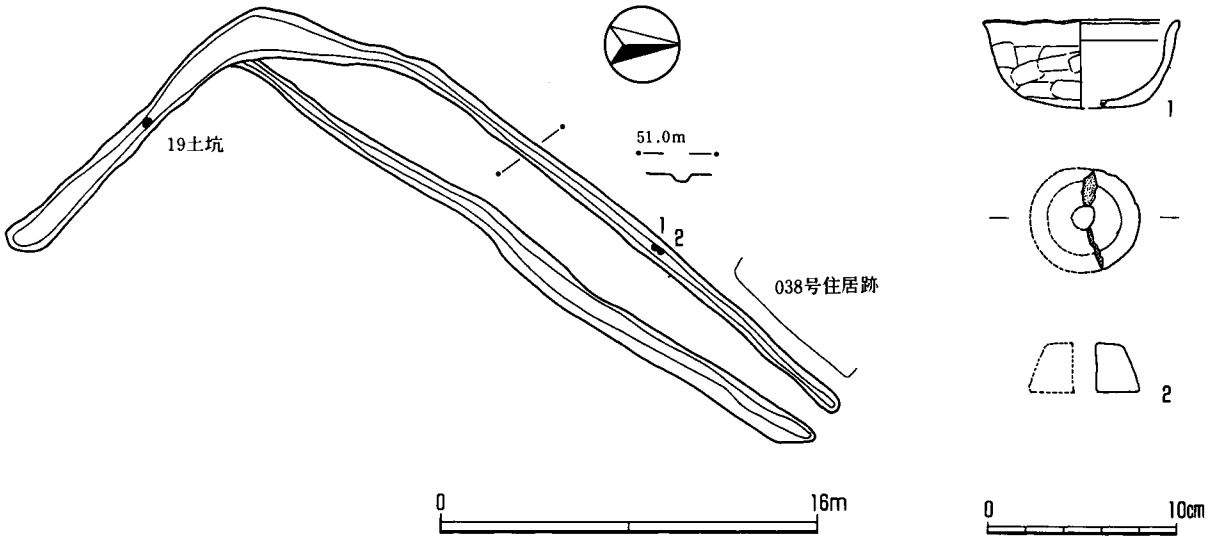

第112図　20号土坑

**1号溝**（第113図、図版79）

遺跡南側からやや北上し、東方面に右折する溝で、深さは10cm～50cmと差がある。19号土坑が検出された地区は深く、東に向かって浅くなる。床面水準も約20cm程東側が高く、38号住居跡入口南の地点で溝は終結する。溝の性格は不明であるが、水路であるとすれば38号住居跡南から19号土坑に向かって流れる。溝の軸が、38号住居跡他、古墳時代後期住居跡の多数の主軸に沿っていることにも注目したい。

前述したように、7世紀前半に流通した須恵器が、1号溝覆土上部に一括して出土している(19号土坑)。この事実は、溝がその機能を果たしていた期間はその時期に近いことを想定できるものの、溝の覆土の堆積時間によって、かなり時期がずれてこよう。しかし、溝の土層断面の観察では、きめ細かいすり鉢状の堆積土が2枚であり、長年かかって堆積したり削平されたりした累積痕もない。したがって、溝の営まれていた時期もまた、土器が廃棄された時期とほぼ同様であると考えておきたい。

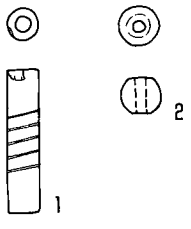
1は口径10.2cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。2は直径5.8cm、孔径1.2cmの土製紡錘車である。




第113図　1号溝

**表採遺物**（第114図、図版80）

1は3B-67グリッド表採の珪岩製管玉である。直径0.8cm、長さ（高さ）3.7cmを測る。細い紐状の圧痕が残る。2は蛇紋岩製臼玉で、3B-55グリッド表採品である。青黒い光沢を持っている。直径1.1cm、高さ0.9cmを計る。




第114図　表採

## 4．歴史時代

### （1）概要（115図）

竪穴住居跡13軒（51号住居跡～63号住居跡）、掘立柱建物跡３棟（１号掘立～３号掘立）、土坑３基（21号土坑～23号土坑）、溝５条（２号溝～６号溝）、については、主に「ロクロ土師器の出土」という根拠で、歴史時代とした。しかし、２号溝は「ロクロ未使用で平底土器」が出土したという点で検討を要する。また、63号住居跡も古墳時代の所産である可能性が高い（後述）。

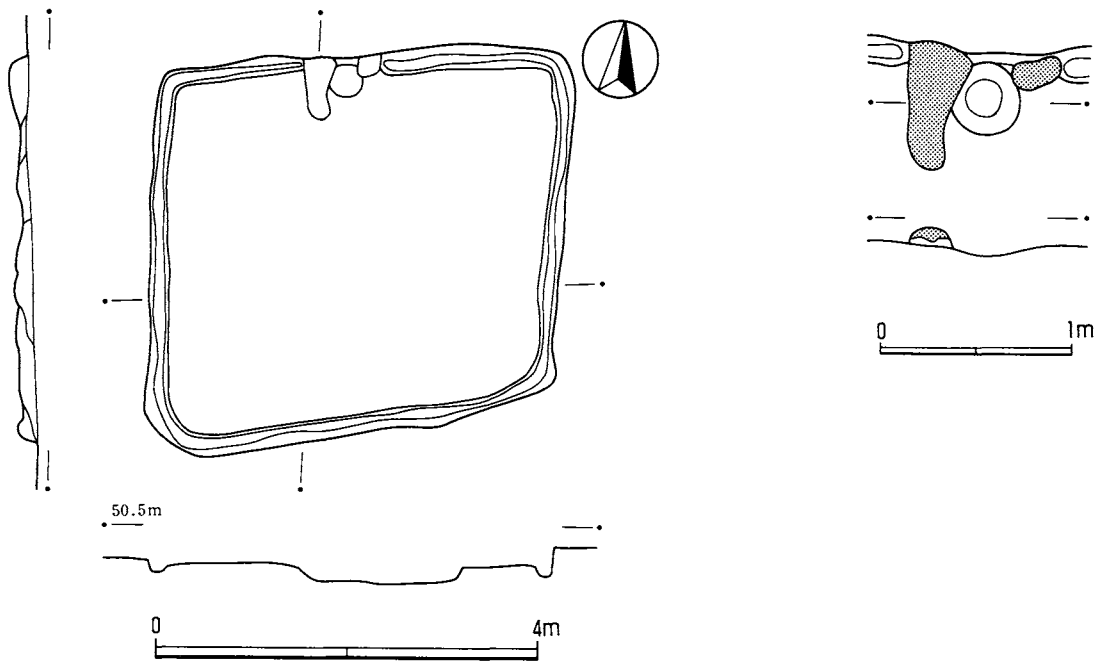
今回の調査では、歴史時代の遺物の出土が、検出遺構数の割には少量であり、そのほとんどが土師器坏である。須恵器の伴出もごく僅かであり、断片的な資料であることは否めない。

なお、塚については近世の所産と考えられるが、本稿に含めた。

### （2）遺構と遺物

**51号住居跡**（第116図、図版38）

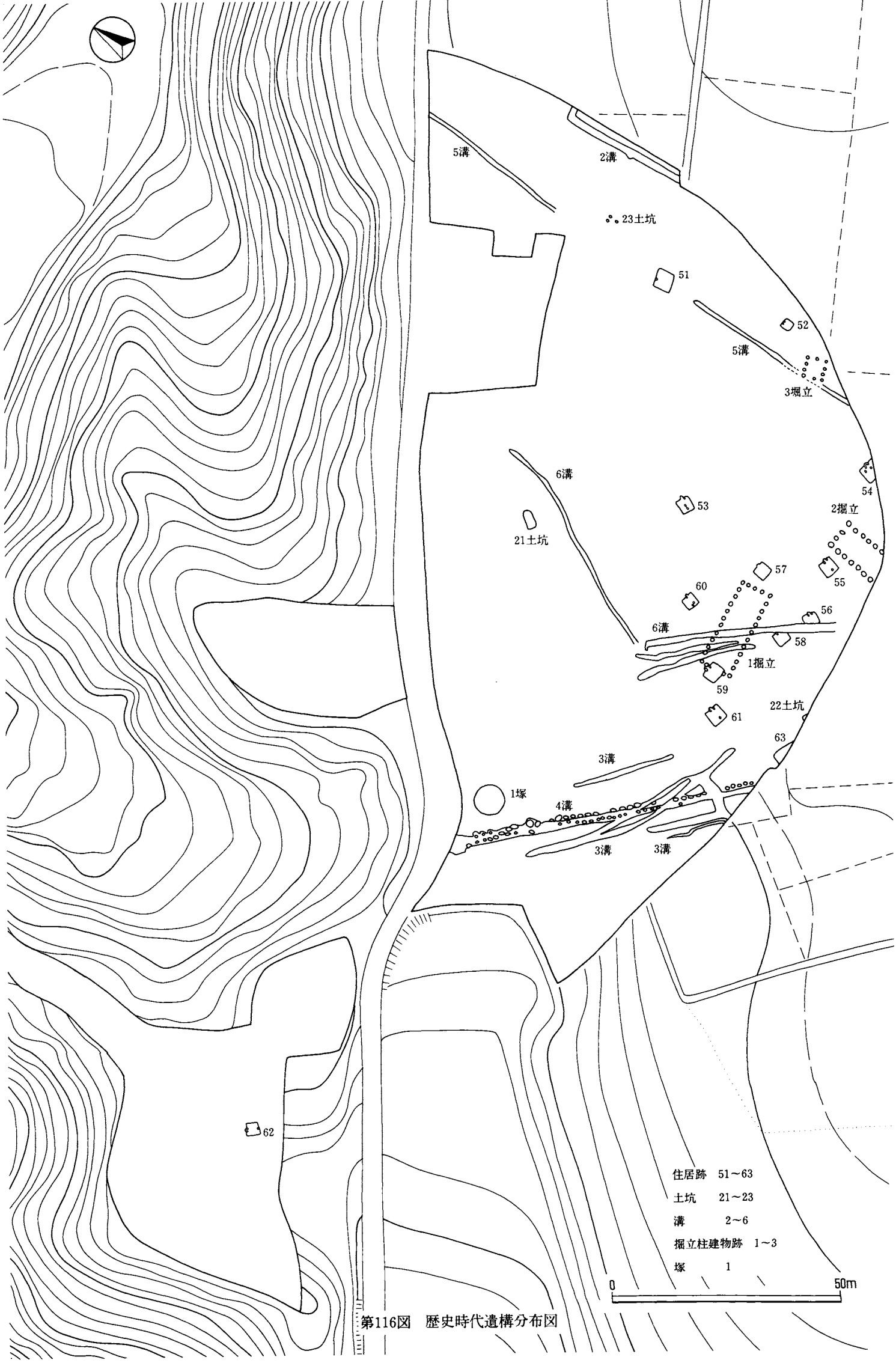
北西壁4.2m、北東壁3.5m、南東壁4.2m、南西壁4.0mを測り、ほぼ正方形を呈する。周溝は全周する。床中央は近世の炭窯によって破壊されている。壁は低く、床は全体的に軟弱であり、主柱穴等も検出されていない。竈も袖が片方残っていない。主軸はN－7°－W。覆土内出土細片土器から平安時代としている。



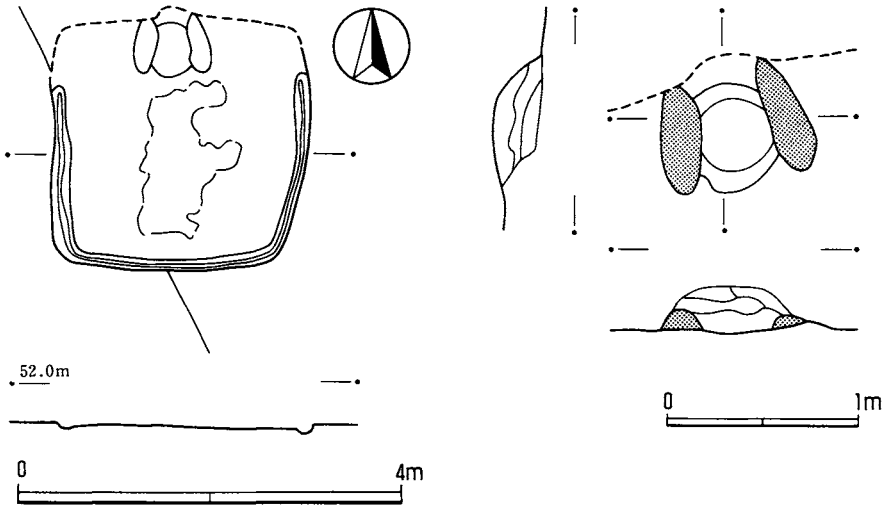

第115図　51号住居跡

**52号住居跡**（第117図、図版38）

北壁2.5m、東壁2.5m、南壁2.3m、西壁2.5mを測り、ほぼ正方形を呈するがやや隅丸である。古墳時代住居跡（15号住居跡）の上に作られたものである。北壁及び周溝の一部を欠損し、主柱穴等も検出されていないが、床面には硬化面を有する。主軸はN－4°－Eである。覆土内出土細片土器から平安時代とした。




第116図　歴史時代遺構分布図

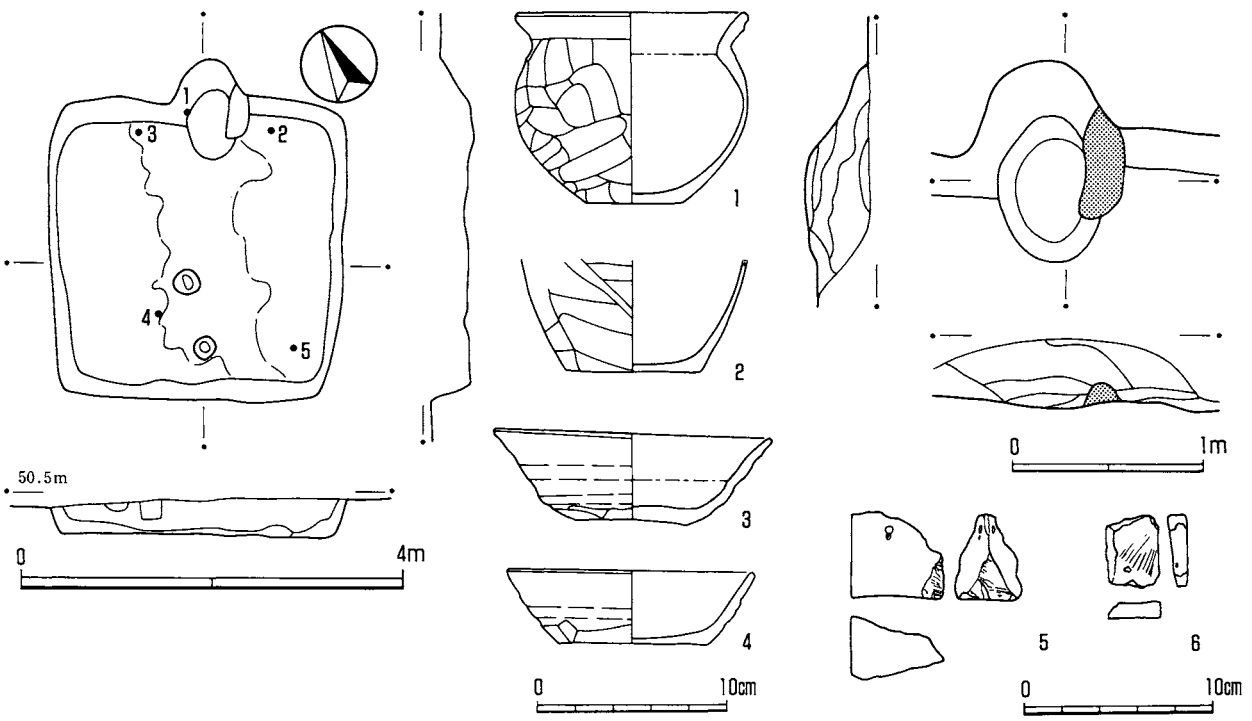



第117図　52号住居跡

**53号住居跡**（第118図、図版39、79）

北東壁2.9m、南東壁2.9m、南西壁2.7m、北西壁3.0mを測り、ほぼ正方形を呈する。周溝は検出されず、深さ10cm程の小ピットが２カ所検出された。床面中央部に硬化面を有する。竈は袖の遺存度は良くないが、火床部は壁外に大きく張り出して残存していた。主軸はN－30°－Eである。

１は口径12.0cm、器高9.9cmの甕で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヘラ削り、内面ヘラナデである。２は底部径7.1cmの甕底部で、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラナデである。３は口径14.5cm、器高4.4cmのロクロ土師器で、体部下部は手持ちヘラ削り、底部は回転糸切り後、一方方向の手持ちヘラ削りである。４は口径12.9cm、器高3.8cmのロクロ土師器で、体部下部は手持ちヘラ削り、底部は回転糸切り後、一方方向の手持ちヘラ削りである。５、６は滑石製の砥石片である。

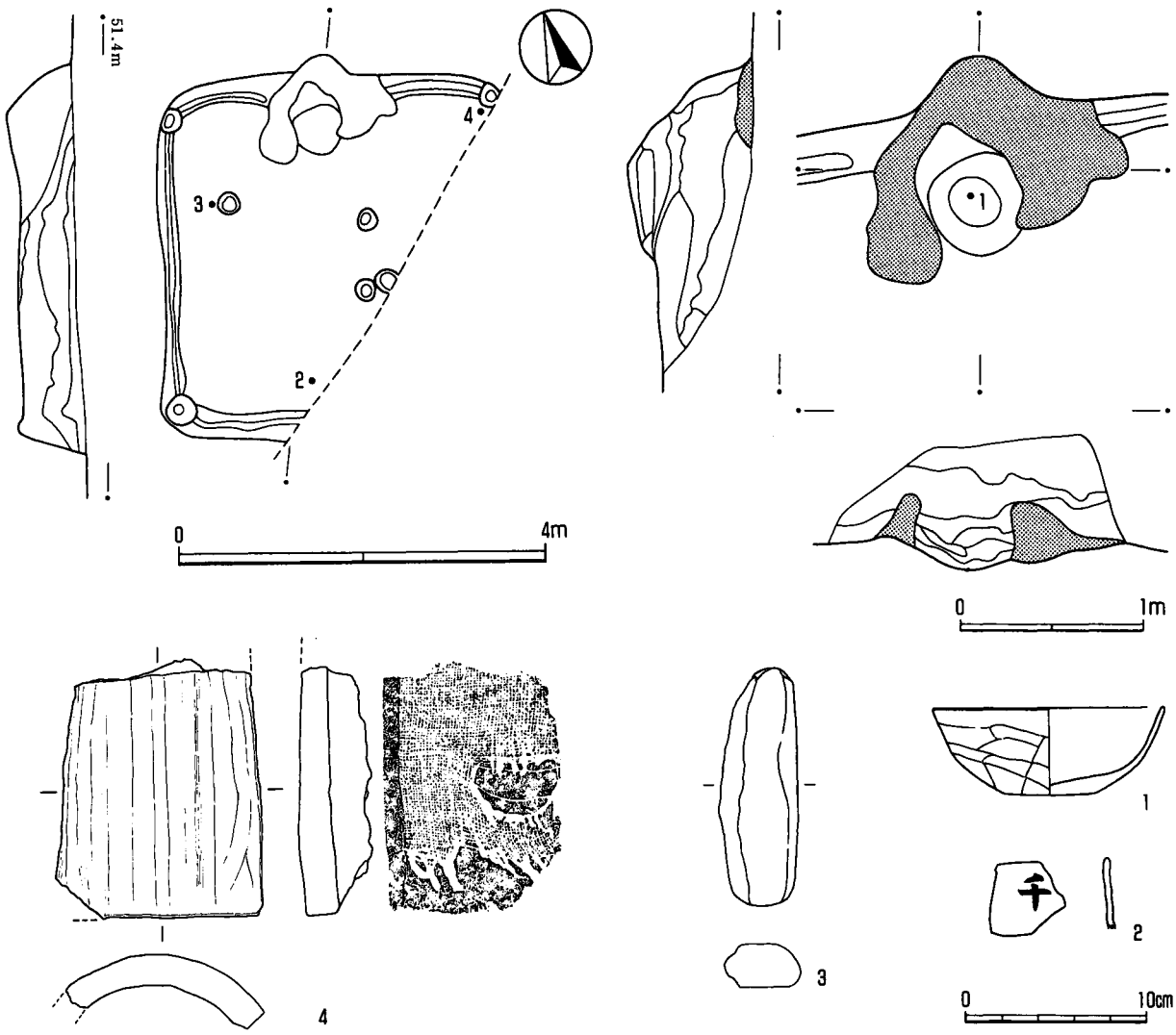



第118図　53号住居跡

**54号住居跡**（第119図、図版39）

北東壁3.6m、北西壁3.6mを測る。主軸はN－19°－Eである。覆土は黒色土と褐色土が交互に自然堆積したものである。床面四隅に深さ約10cm程の小ピットが検出されている。細い柱が立っていたようである。床面からは同様な浅い（5cm～10cm）ピットが4カ所検出された。竈は天井の一部も残存するものの、破壊が著しい。

1は口径12.6cm、器高4.7cmを測るロクロ土師器坏で、体部はヘラ削りがかなり施され、底部の最終調整は一方方向のヘラ削りである。2は墨書があるロクロ土師器細片で「千」の字が見られる。3は用途不明であるが、敲石と思われる。但し明瞭な使用痕は確認できない。砂岩製である。4は丸瓦片で、裏面に布目痕が残るが、胎土、焼成等からしても真行寺廃寺出土瓦に類似する。破壊が著しい竈横から出土しており、状況から判断しても竈袖等の補強材として使用されたと考えたい。

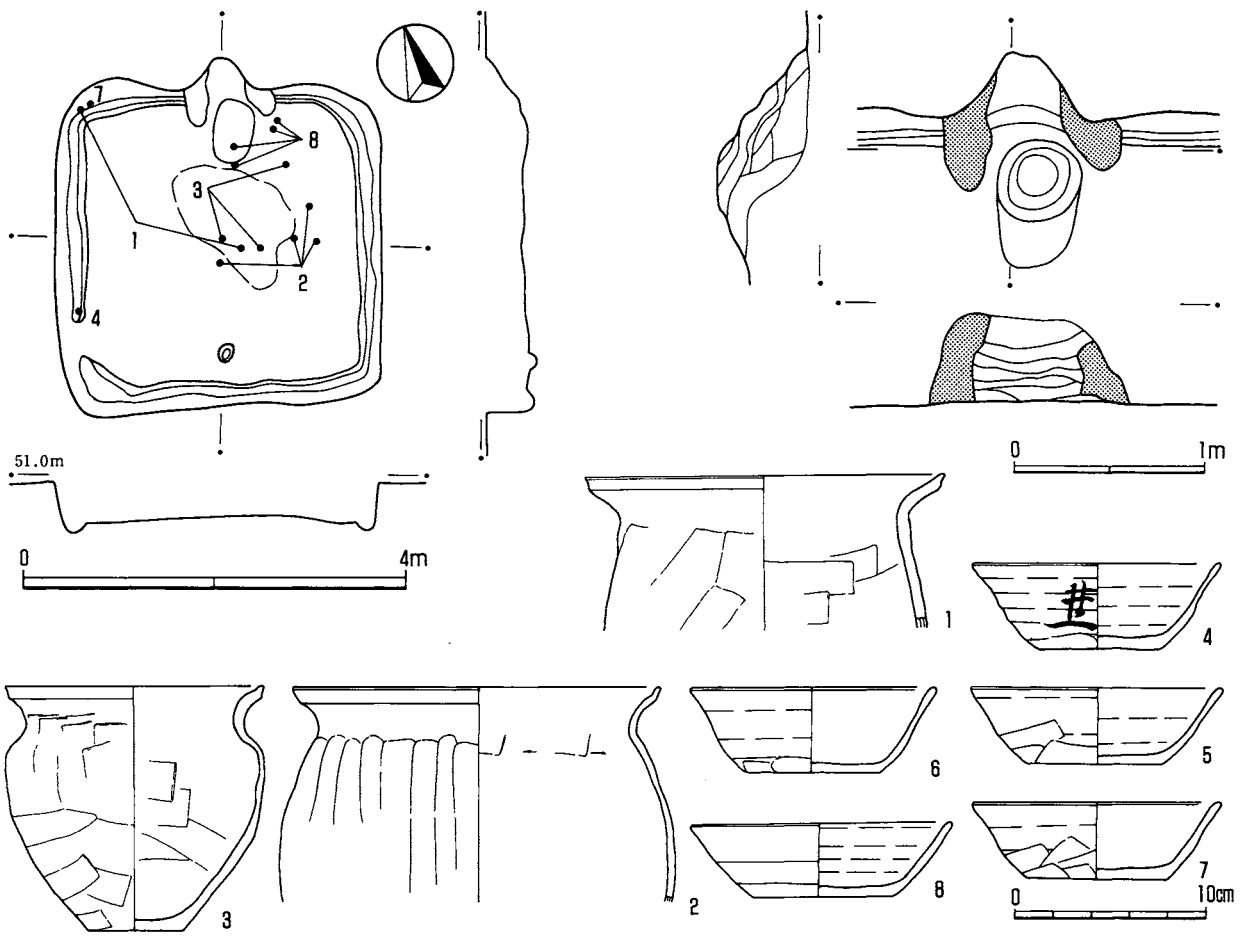



第119図　54号住居跡

**55号住居跡**（第120図、図版40、79）

北東壁3.1m、南東壁2.9m、南西壁3.1m、北西壁3.2mを測り、ほぼ正方形を呈する。周溝は一部欠損する。覆土は褐色土を基調とした自然堆積である。床面下には黒色土が堆積しており、張り床状態が明瞭である。入口ピットが1カ所検出されたが、深さ約5cmと浅い。床面中央部はやや硬化している。主軸はN－17°－Eである。

1は口径18.8cmの甕で、口唇部はヨコナデが施されている。外面ヘラ削り、内面は削りに近いヘラナデである。2は口径19.2cm、3は口径13.5cm、器高12.7cmのいずれも甕で、器面調整は1と同様である。4は口径13.0cm、器高4.4cm、墨書土器で「井上」を重ねた書体である。体部下部手持ちヘラ削り、底部は切り離しは不明で、最終調整は手持ちヘラ削り、5は口径13.1cm、器高4.0cm、底部は回転糸切り後、雑な手持ちヘラ削り、6は口径12.8cm、器高4.4cm、器面調整は5に同じ、7は口径12.9cm、器高4.0cm、器面調整は5に同様、8は口径13.5cm、器高3.9cm、体部下部は手持ちヘラ削り、底部は切り離しは不明で、最終調整は手持ちヘラ削りである。坏はいずれもロクロ土師器である。

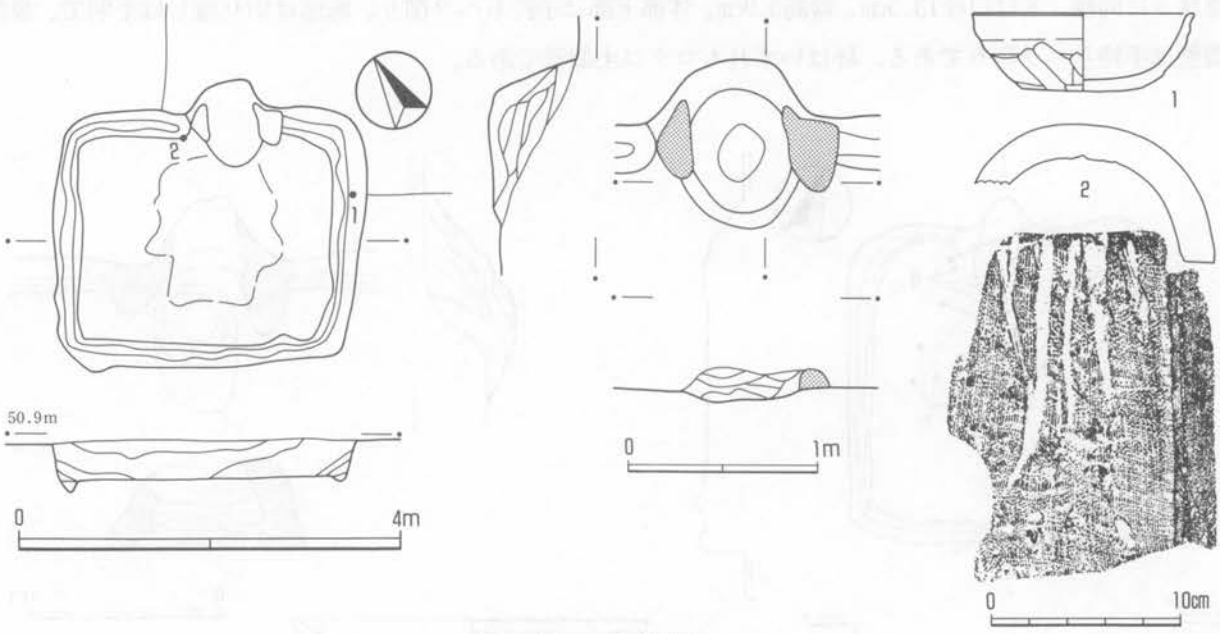



第120図　55号住居跡

**56号住居跡**（第121図、図版40、79）

北東壁3.0m、南東壁2.4m、南西壁2.9m、北西壁2.5mを測り、ほぼ正方形を呈する。古墳時代後期の31号住居跡を切っている。周溝は全周するが、柱穴等検出されていない。床面中央部に硬化面を有する。覆土はローム層を多く含む褐色土を基調としている。自然堆積であるが、均一性が強い。主軸はN－35°－Wである。

1は口径11.5cm、器高4.0cmのロクロ土師器坏で、体部は内わんし、中央部までヘラ削り、底部も最終調整は一方方向のヘラ削りである。2は丸瓦片で、内面に布目痕が残る。金属器によると思われる削痕も数条残る。竈袖際より出土しており、53号住居跡同様、真行寺廃寺類似品で袖補強材に使用されたと考えたい。

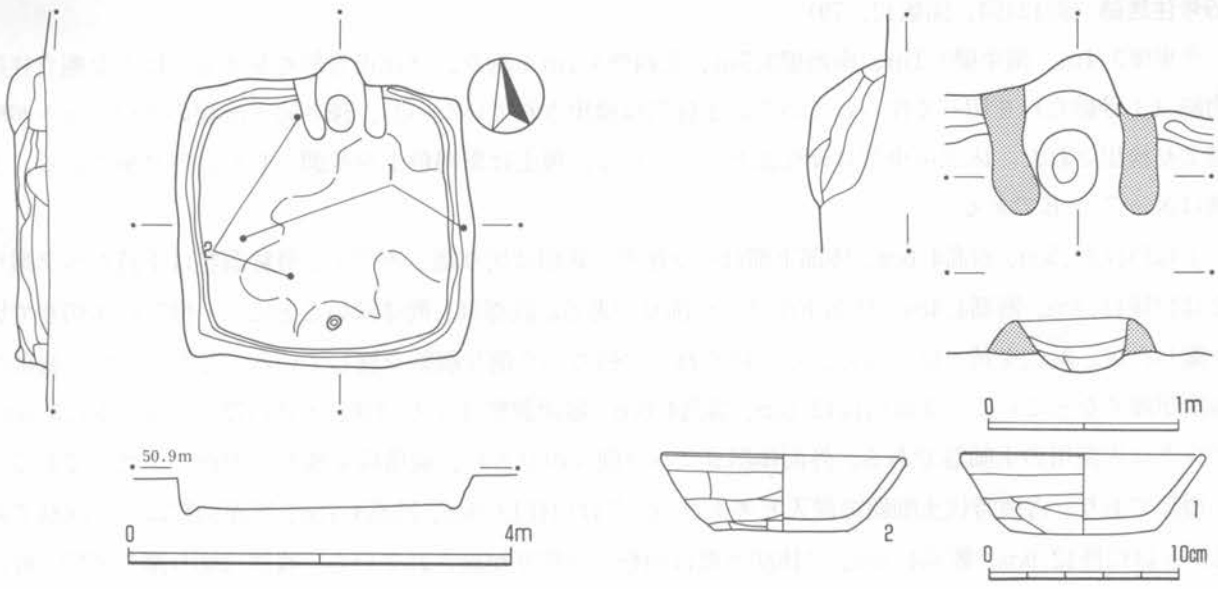



第121図　56号住居跡

**57号住居跡**（第122図、図版41、79）

北東壁2.8m、南東壁2.7m、南西壁2.7m、北西壁2.8mを測り、ほぼ正方形を呈する。内面形状は、やや隅丸方形となっている。周溝は全周するが、主柱穴は検出されていない。深さ約10cm入口ピットが1カ所検出されている。床面硬化面は比較的広い。覆土は大粒のローム粒が多く含まれる自然堆積である。主軸はN－9°－Eである。

1は口径12.6cm、器高4.1cm、ロクロ土師器で体部ヘラ削り、底部は切り離し不明で、最終調整は手持ちヘラ削り、2は口径12.7cm、器高3.9cmのロクロ土師器で、器面調整は1と同様である。

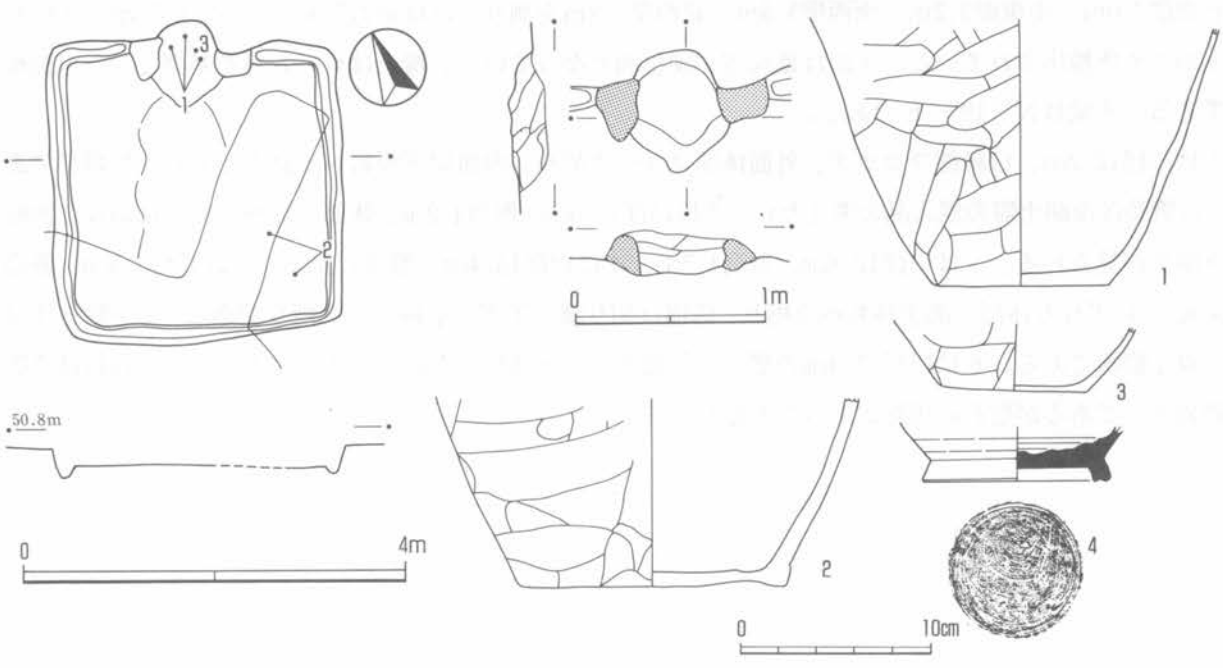



第122図　57号住居跡

**58号住居跡**（第123図、図版41、79）

北東壁2.9m、南東壁2.7m、南西壁2.8m、北西壁3.0mを測り、ほぼ正方形を呈する。1号堀立柱建物跡を切っている。床面に攪乱が多い。床中央部は硬化面である。主柱穴等検出されていない。覆土はローム層を主体とした単一覆土層で、人為的に埋め戻された感がある。主軸はN－22°－Eである。

1は底部径9.0cm、2は底部径13.9cm、3は底部径7.7cmのいずれも甕で、外面ヘラ削り、内面ヘラナデである。4は須恵器の高台部片で回転糸切り痕が見られる。高台部口径は10cmである。




第123図　58号住居跡

**59号住居跡**（第124図、図版42、79）

北東壁3.4m、南東壁3.1m、南西壁3.5m、北西壁3.1mを測り、ほぼ正方形を呈する。巨大な掘立柱建物跡（1号掘立）を切って作られている。主柱穴は検出されていないが、深さ約8cm程の入口ピットが壁際より検出された。床面中央部は硬化面となっている。覆土は黒褐色土を基調とした自然堆積である。主軸はN－7°－Eである。

1は口径12.5cm、器高4.0cm、体部下部はヘラ削り、底部は切り離し不明で、最終調整は手持ちヘラ削り 2は口径11.4cm、器高4.4cm、体部下部はヘラ削りである。底部は、興味深いことに、一度回転糸切りで切り離した後、粘土を薄く貼り付け、さらにそれに手持ちヘラ削り調整を施している。したがって、底部の器肉が厚くなっている。3は口径12.0cm、器高4.0cm、器面調整は1と同様、4は口径13.1cm、器高5.4cm、でロクロ未使用の土師器である。外面体部ヨコヘラ削りが見られ、輪積痕も残る。内面ヘラ磨きである。欠損品であり、古墳時代土師器の混入と考えたい。5は口径13.0cm、器高3.7cm、器面調整は1と同様である。6は口径12.9cm、器高4.1cm、で体部下部は回転ヘラ削りが施されている。底部は切り離し不明、最終調整は手持ちヘラ削りである。7は底部径6.6cmの甕でヘラ削りが著しく、器壁が極めて薄くなっている。8は底部径14.8cmの甕で、内外面とも摩耗が著しいため図示できないが、外面に平行敲目が残る須恵器で茶褐色を呈するものである。9は滑石製砥石片である。4面使用されている。10は53、55号住居跡同様に真行寺瓦を竈袖の補強材としたものであろう。

**60号住居跡**（第125図、図版42）

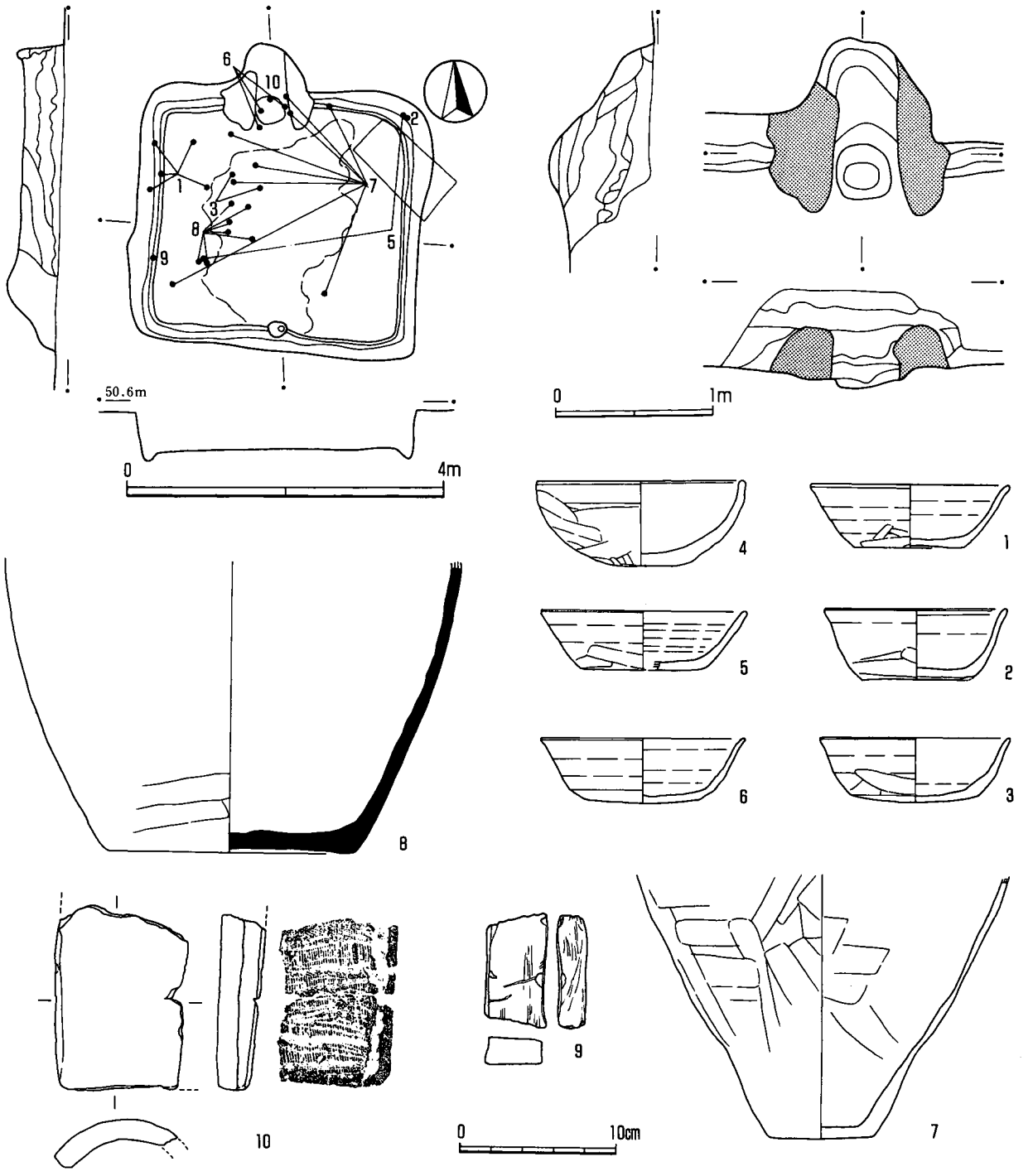
北東壁2.8m、南東壁2.5m、南西壁2.6m、北西壁2.6mを測り、ほぼ正方形を呈する。主柱穴は検出されていないが、深さ約5cmの入口ピットが2カ所検出されている。床面は中央部を中心に硬化面がかなり広い。主軸はN－13°－Eである。

1は石材は不明（砂岩？）であるが、敲石の用途があったと考えられる。

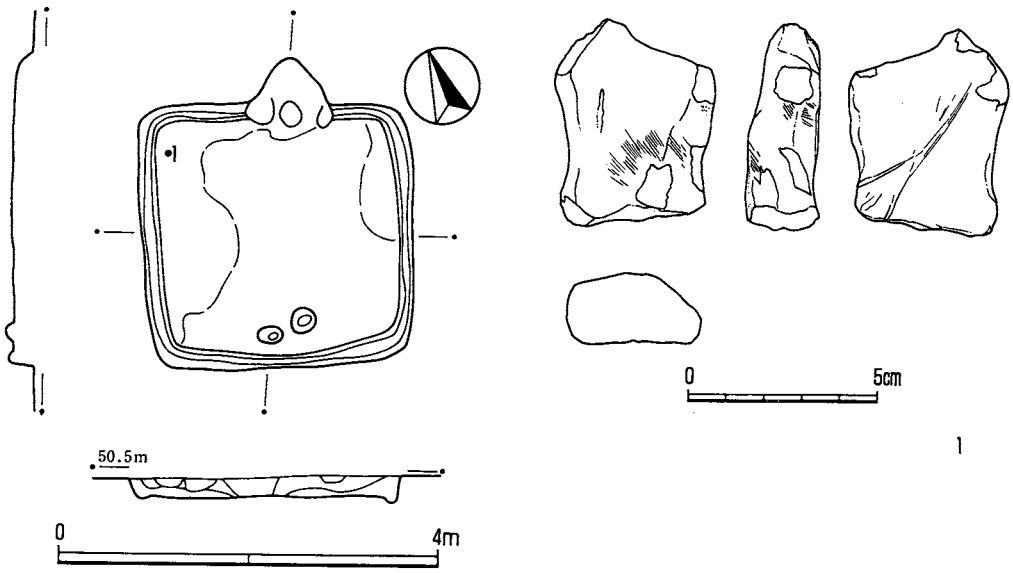
**61号住居跡**（第126図、図版42、79）

北東壁3.0m、南東壁3.2m、南西壁3.5m、北西壁3.2mを測り、ほぼ正方形を呈する。約10cmの入口ピットが1カ所検出されている。床面は竈周辺が硬化面となっている。覆土はローム層を基調とした自然堆積である。主軸はN－19°－Eである。

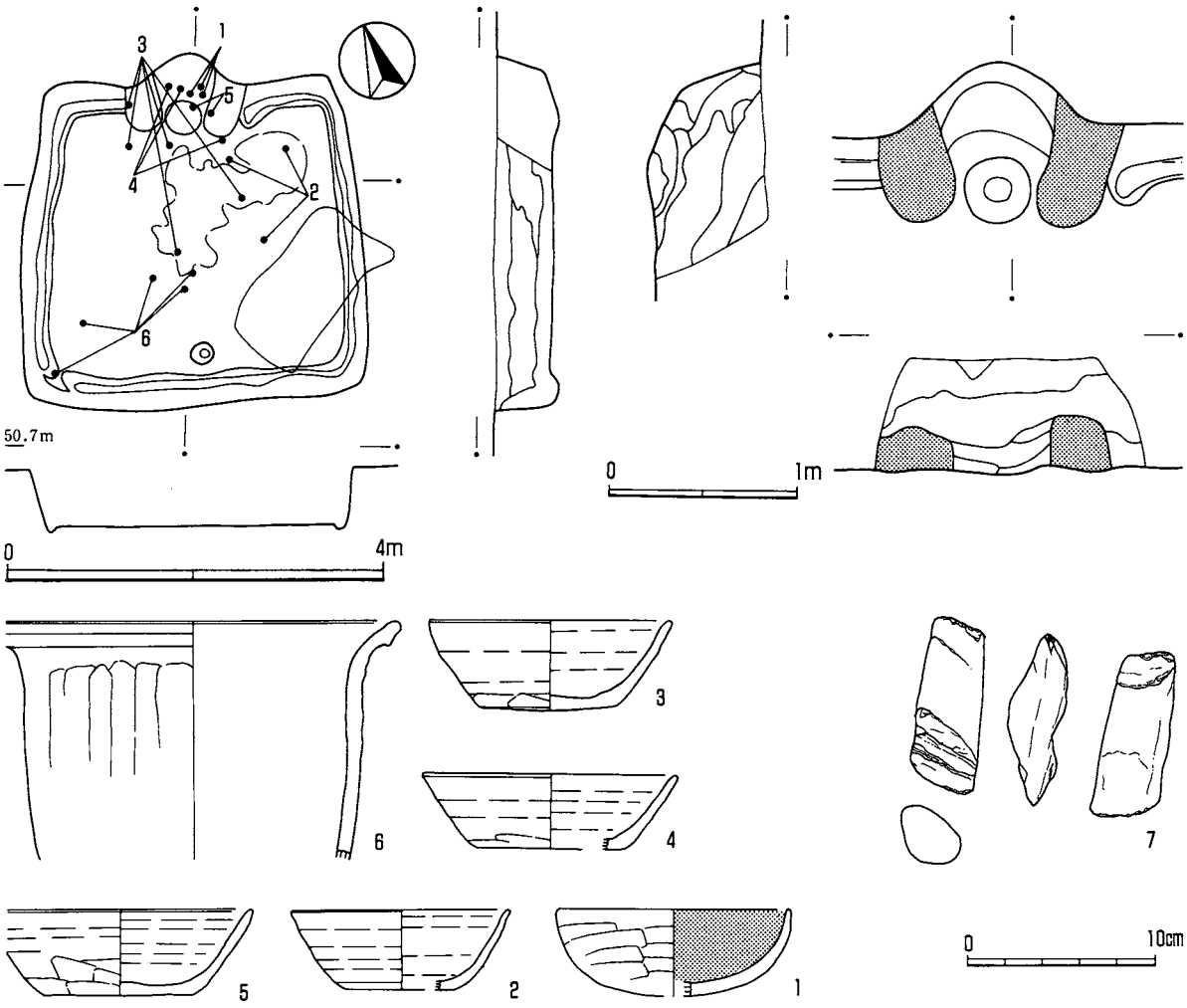
1は口径12.2cm、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面炭素吸着ヘラ磨きである。欠損品であり、古墳時代後期土器の混入品と考えたい。2は口径11.5cm、器高4.2cm、体部下部から底部にかけて回転ヘラ削りが見られる。3は口径12.8cm、器高4.7cm、4は口径13.4cm、器高3.9cm、5は口径13.8cm、器高4.5cm、でいずれも体部下部手持ちヘラ削り、底部は切り離し不明の手持ちヘラ削りである。1を除き坏はロクロ土師器である。6は口径21.4cmの甕で、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。7は石材は不明（砂岩？）であるが敲石の用途があったと思われる。




第124図　59号住居跡



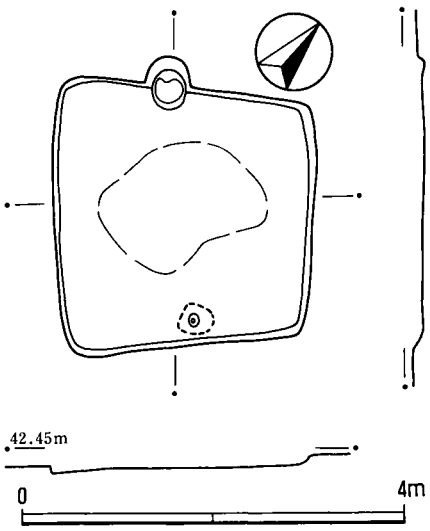

第125図　60号住居跡




第126図　61号住居跡

**62号住居跡**（第127図、図版43）

北西壁2.6m、北東壁2.4m、南東壁2.4m、南西壁2.9mを測り、ほぼ正方形を呈する。周溝主柱穴とも検出されていないが深さ約10cm程の入口ピットが検出された。その周囲(点線部分)は僅かに凹んでいる。床面中央部に硬化面を持つ。覆土は黒色土を基調とした単一層である。主軸はN－42°－Wである。遺物は図示できるものは出土していないが、覆土内出土細片土器から平安時代とした。

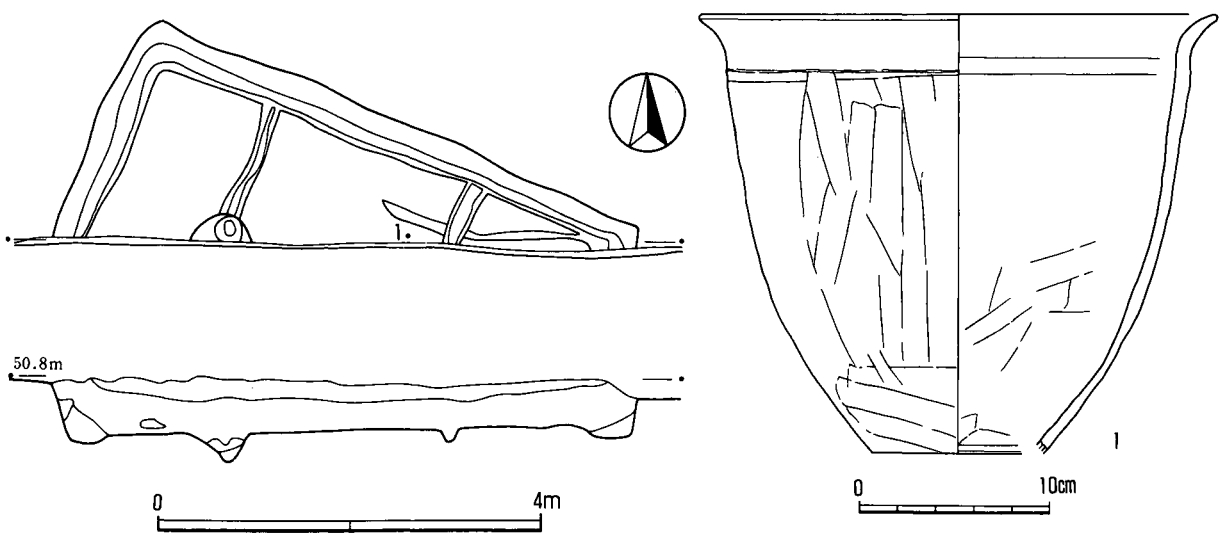



第127図　62号住居跡

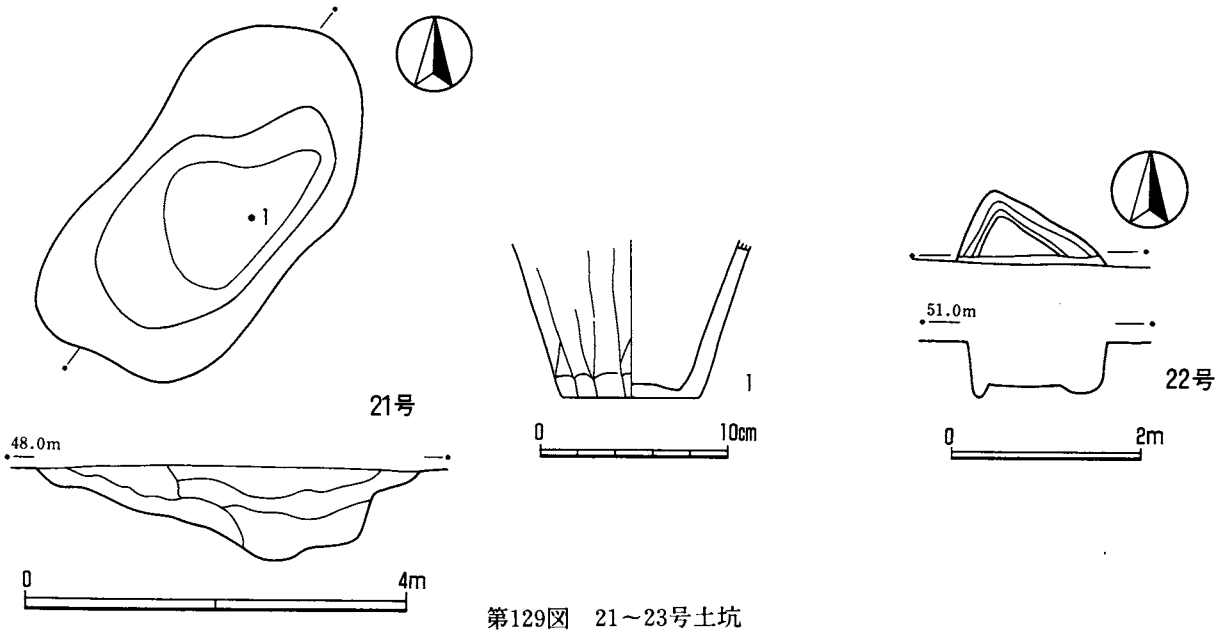
**63号住居跡**（第128図、図版43）

北西壁5.5mを測る。ほとんどが調査区域外にあるため、全容は明らかでない。周溝、間仕切り溝、主柱穴が確認され、古墳時代後期の所産である可能性が高いが、ほとんどが調査区域外にあるため、全容は明らかでない。主軸はN－26°－Wである。

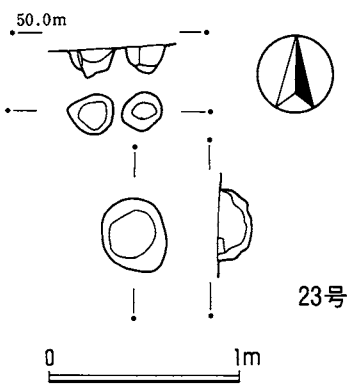
1は口径27.4cmの甕、もしくは甑である。古墳時代後期の土器とも考えられるが、欠損品であり、覆土内出土細片土器にはロクロ土師器片も多いため、断定はできない。




第128図　63号住居跡




第129図　21～23号土坑



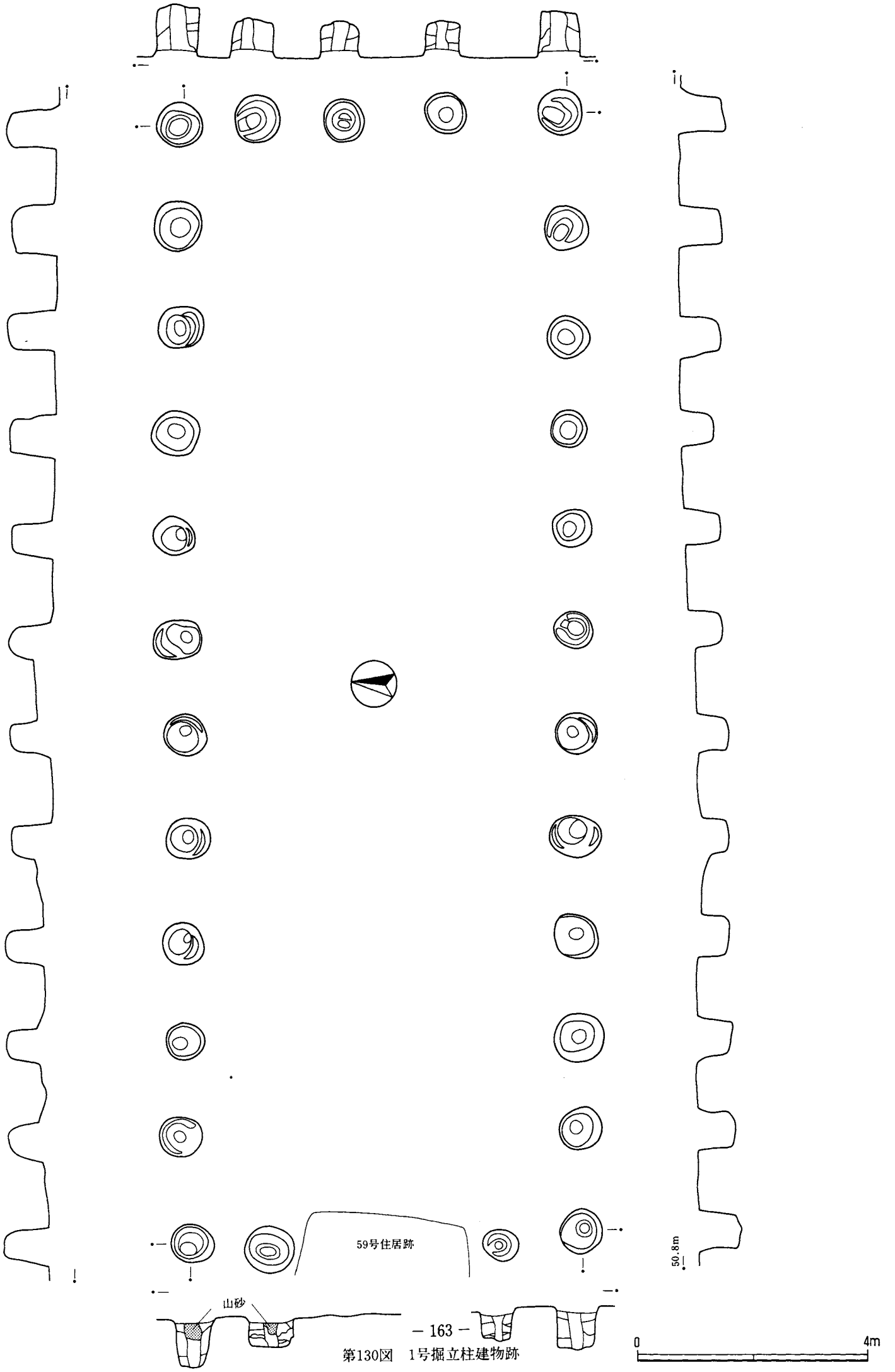

**21号土坑～23号土坑**（第129図、図版44）

21号は長軸4.2m×短軸1.1mを測る。黒色土とローム層が交互に自然堆積している。1は底部径7.2cmの甕で、体部から底部までヘラ削りが施されている。22号は周溝を持つもので、住居跡の一部のような状況もあるが、小形であり、全容は明らかで無い。ロクロ土師器細片が出土する。23号は単独検出の柱穴であり、ロクロ土師器細片が出土する。

**1号掘立柱建物跡**（第130図、図版45）

桁行11間（9.2m）×梁行4間（東側6.6m、西側6.8m）の最も大形の掘立遺構である。梁行方位がN－6°－Wの東西棟である。側柱の構造で、西側柱は平安時代の59号住居跡、及び7号溝に切られ、北側柱2本が古墳時代後期の33号住居跡を切っている。桁行の柱痕間は約1.8mであるが、梁行はやや不均等である。西側の梁行にはさらに2カ所の柱穴が存在したと考えられるが、59号住居跡の床面底部レベルを考えると、それによって壊されたようである。掘り方は円形であり、想定される柱の直径は20cm～28cmで、30cmを越えるものは無い。断面図観察では、柱痕部分は黒色を呈しているが、上位に山砂ブロックが含まれ、砂質になっているものがある。しかし、それはすべての柱に見られるものではない。柱周囲はハードローム層を使用して何層にも固められている。

柱痕部分に混ざる山砂は、しばしば検出されることがあるが、その性格は明瞭ではない。しかし、今回、柱痕部分上位にそれが検出されている事実は、柱建築時に基盤として堀り方底面に敷かれたものではないことが想定できる。おそらく、柱を建てた時の柱と堀り方の隙間補塡として使用し、そのまま残ったか、もしくは柱を抜き取った跡の凹みに、上屋の何らかの部材として使われた山砂が自然に流れ込んだものか、あるいは凹みを山砂で人為的に埋め戻したか、等が考えられよう。

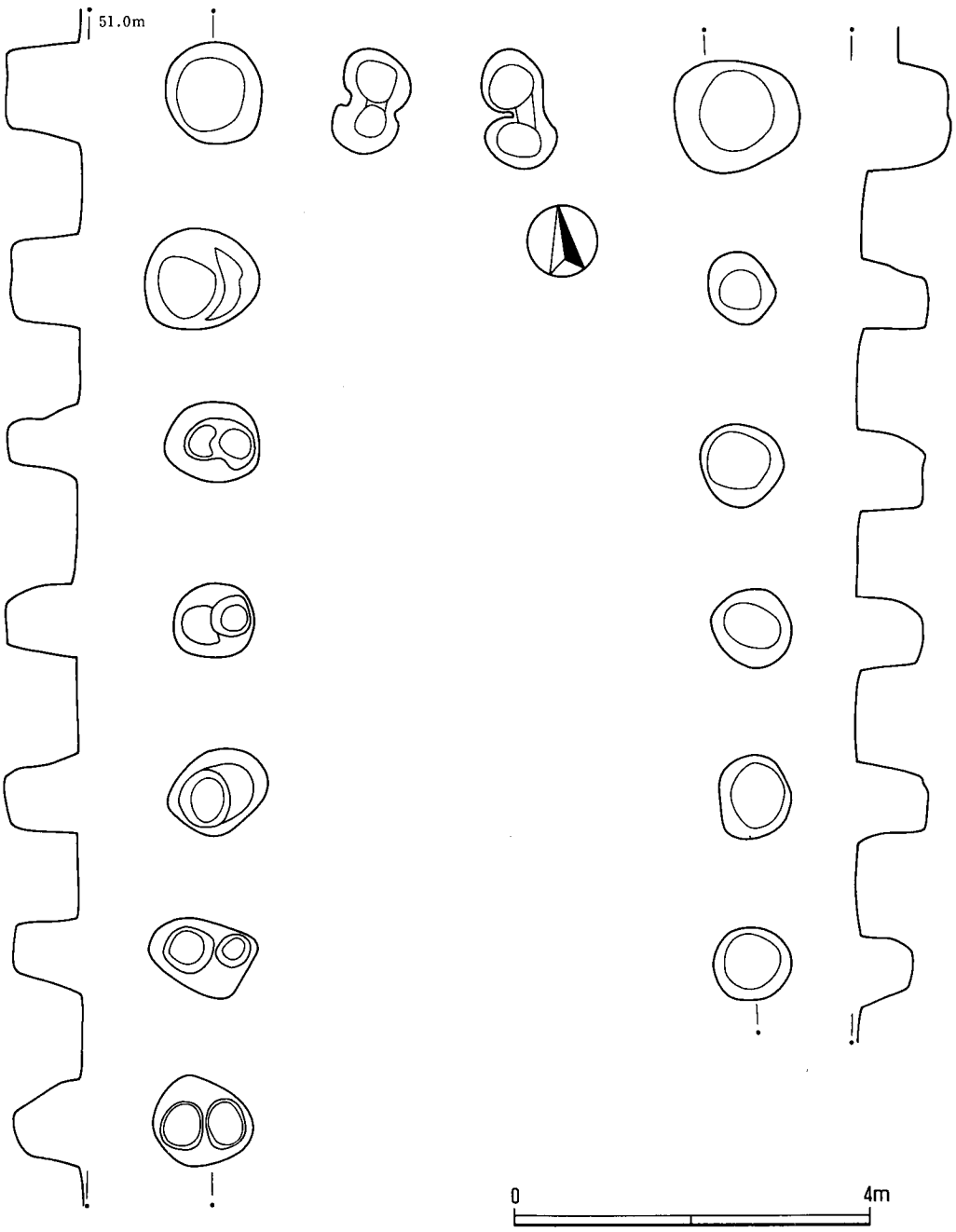





第130図　1号掘立柱建物跡

**2号掘立柱建物跡**（第131図、図版46）

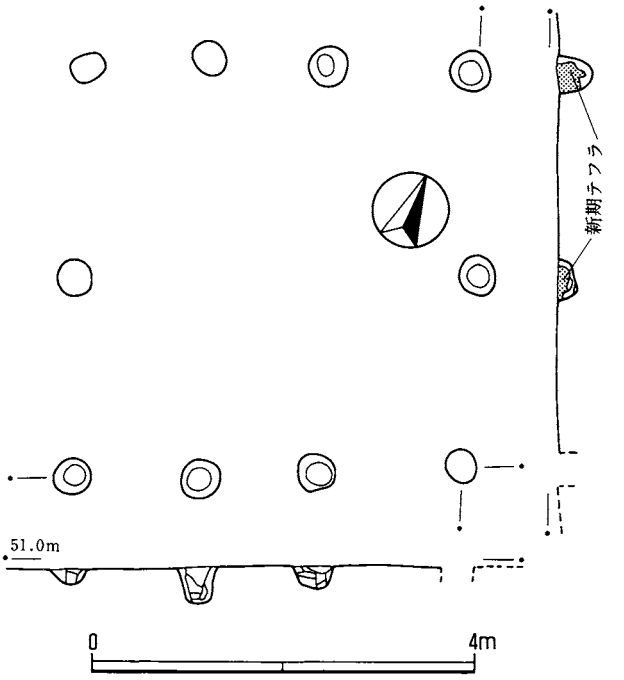
梁行は3間（6,0m）、桁行は不明であるが、10間以上であることは確認されている。1号同様、側柱構造であるが、桁行方位がN－10°－Eの南北棟である。古墳時代後期の27、28号住居跡を切っている。掘り方は円形であり、隅の2つの掘り方は大形で、直径約1.2m～1.4mを測る。その他の掘り方は0.7m～1.2mと一回り小形と言えよう。柱痕がすべて確認されなかったため、断面図は図示はしていないが、柱を支えていたものは1号同様、ハードローム層主体の土である。柱痕が全く確認されない事実は、それが意図的に抜き取られた可能性が高い。また、山砂も全く検出されていない。




第131図　2号掘立柱建物跡

**3号掘立柱建物跡**（第132図）

梁行2間（4.2m）×桁行3間（4.2m）の正方形を呈する。梁行方位がN－19°－Wである。古墳時代後期の18号、19号住居跡を切っている。掘り方の直径は0.6m～0.8mで、断面観察では明瞭な柱痕は確認できない。掘り方の深さが不定であり、1，2号掘立柱建物跡と比較すると上屋の貧弱さが強調される。また、覆土のかなりの深さから、新期テフラ層が堆積しており、この点でも1，2号とは異質である。




第132図　3号掘立柱建物跡

**3、4号溝**（第133図、図版44）

連続したピットを伴う溝（4号溝）とそれに近接するもの（3号溝）をとりまとめた。いずれも北西方向に向かって水準が下がる。これは現地形の状況とも一致する。4号溝は現畑の境界の延長線に一致している。時期的にはかなり新しい所産とも考えられるが、覆土内からは僅かであるがロクロ土師器の細片も出土している。溝本体は10cm～40cmの範囲で浅く、掘り方にも規格性はない。付属するピットも大きさ、配列位置も一様でなく、深さも10cm～50cm程で掘り方も不定形である。したがって、柵列のような遺構とは考えられず、状況から判断して地境溝とそれに伴う植林跡と考えておきたい。3号溝も4号溝との重複関係から同時期の所産と考えたい。

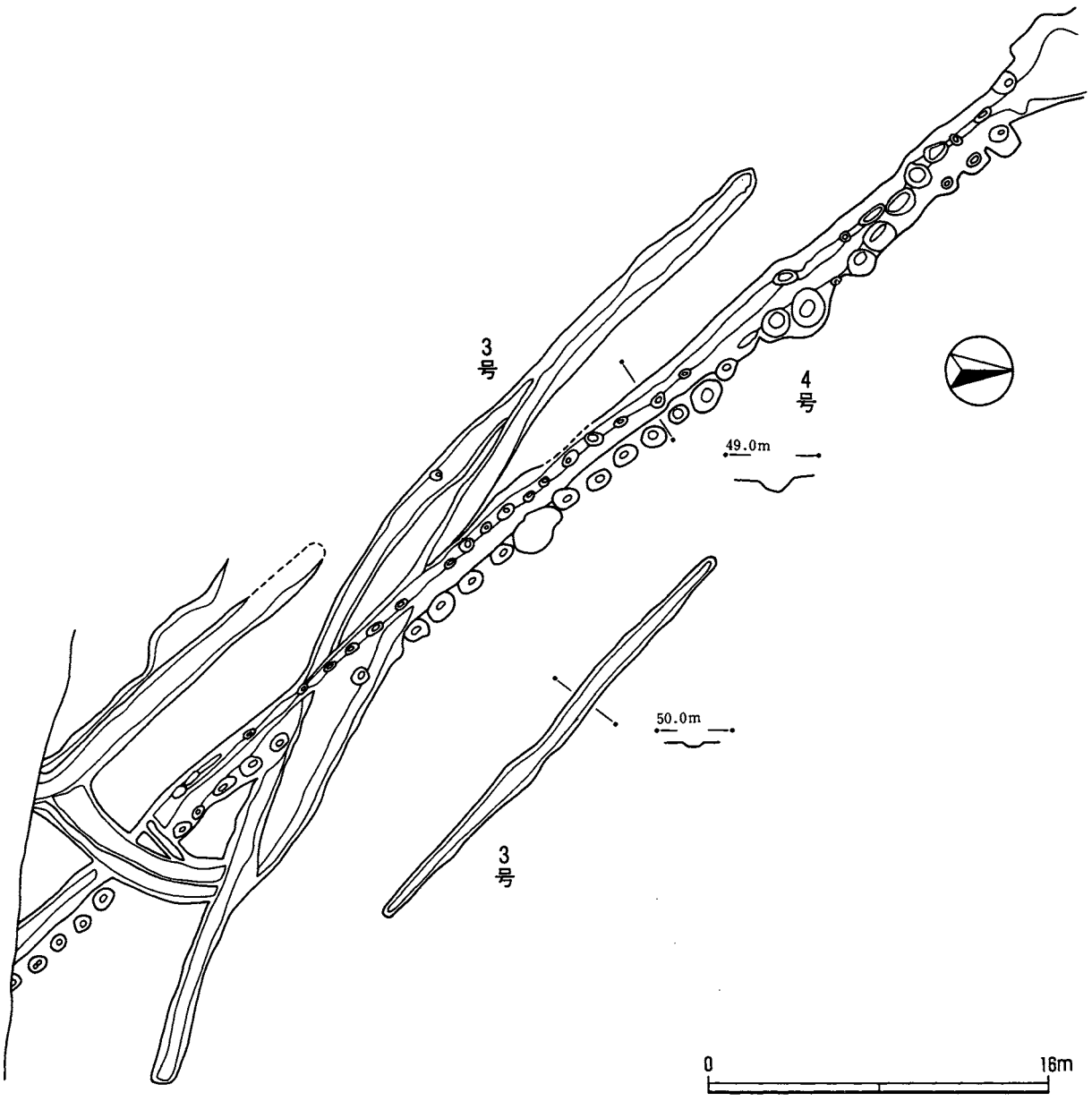
**5号溝**（第134図）

ほぼ磁北に沿って、南北に直線的に検出されたもので、現存する溝は極めて浅い(10cm～20cm)。欠損地域があるが方向が一致するため共に5号溝とした。古墳時代後期住居跡をいくつか切って作られているが、3号掘立柱建物跡、51号住居跡との新旧関係は明らかでない。

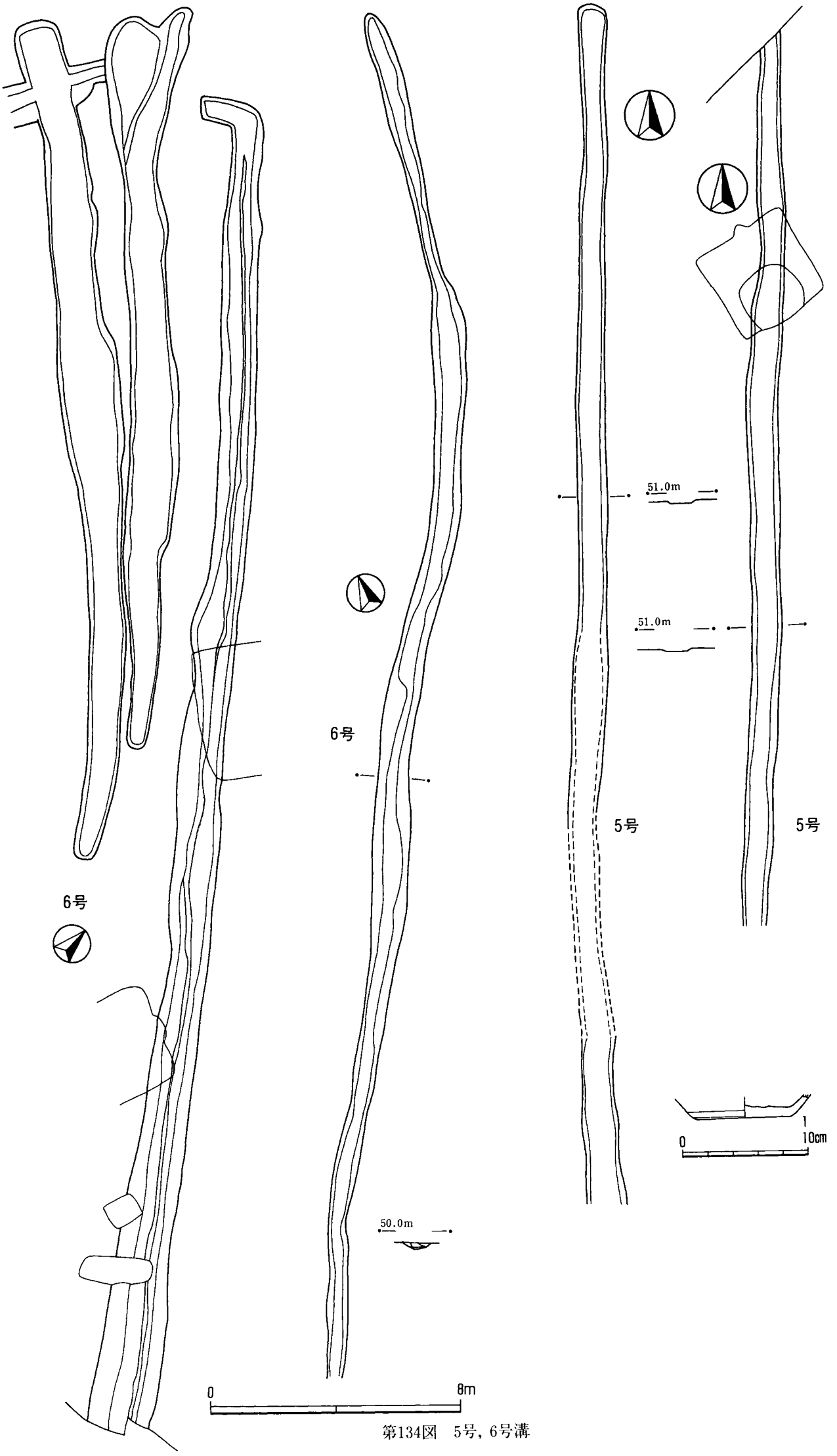
1はロクロ土師器片で、覆土から出土した。体部下部から底部にかけて回転ヘラ削りが施されている。本溝は2号溝（方形周溝状遺構）の主軸に近いが、出土遺物に相違があり、関連は無いものと考えたい。水路であるとすれば南から北へ向かって流れるものである。

**6号溝**（第134図、図版45）

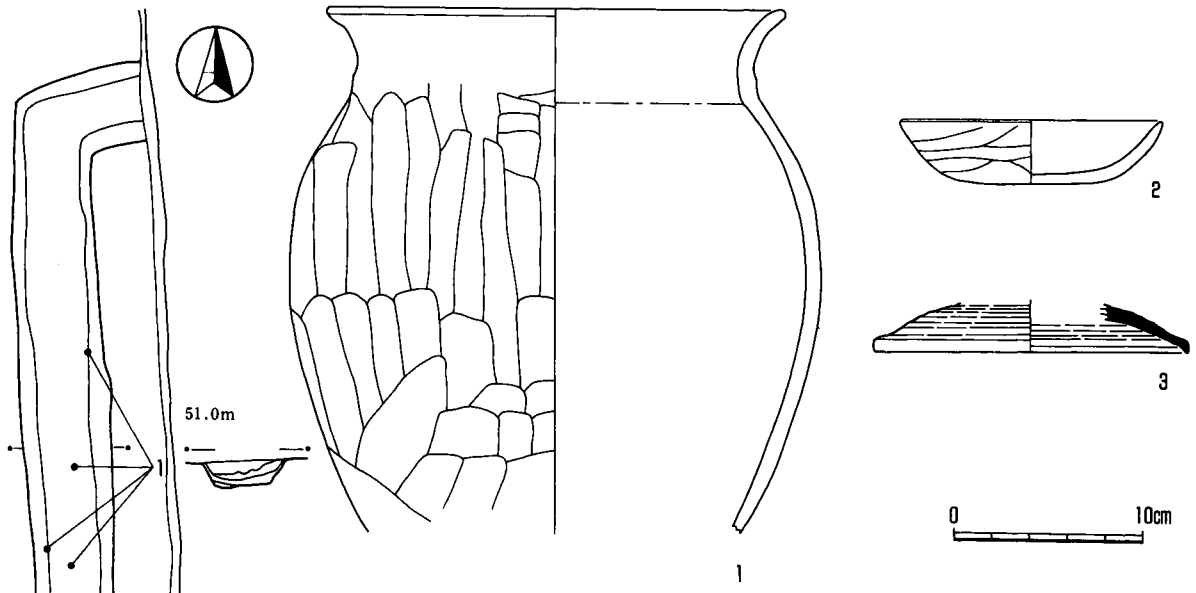
55号住居跡や57号住居跡を切って作られている。4号溝に平行するもので、規模、形状も類似し、同時期の所産と考えられる。



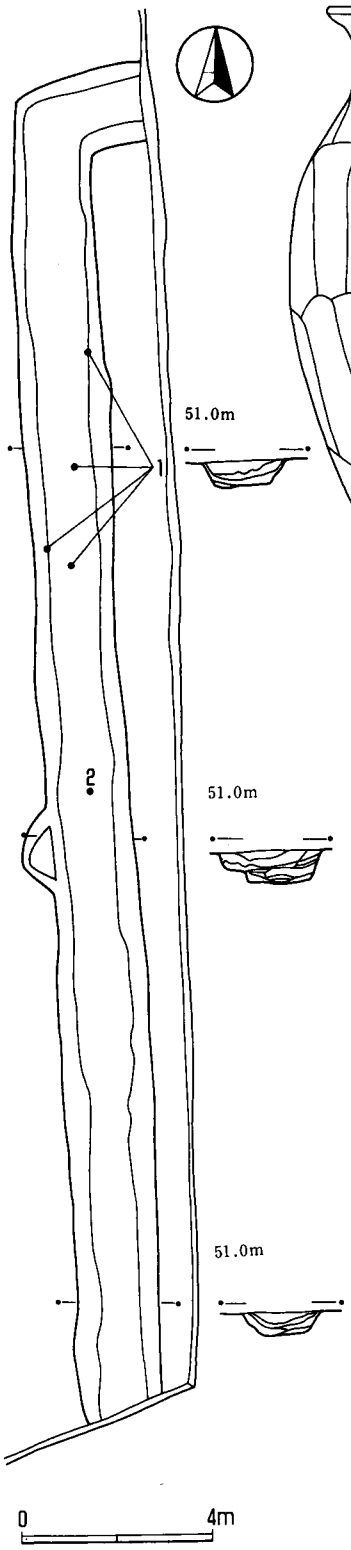

第133図　3号，4号溝




第134図　5号，6号溝




第135図　2号溝



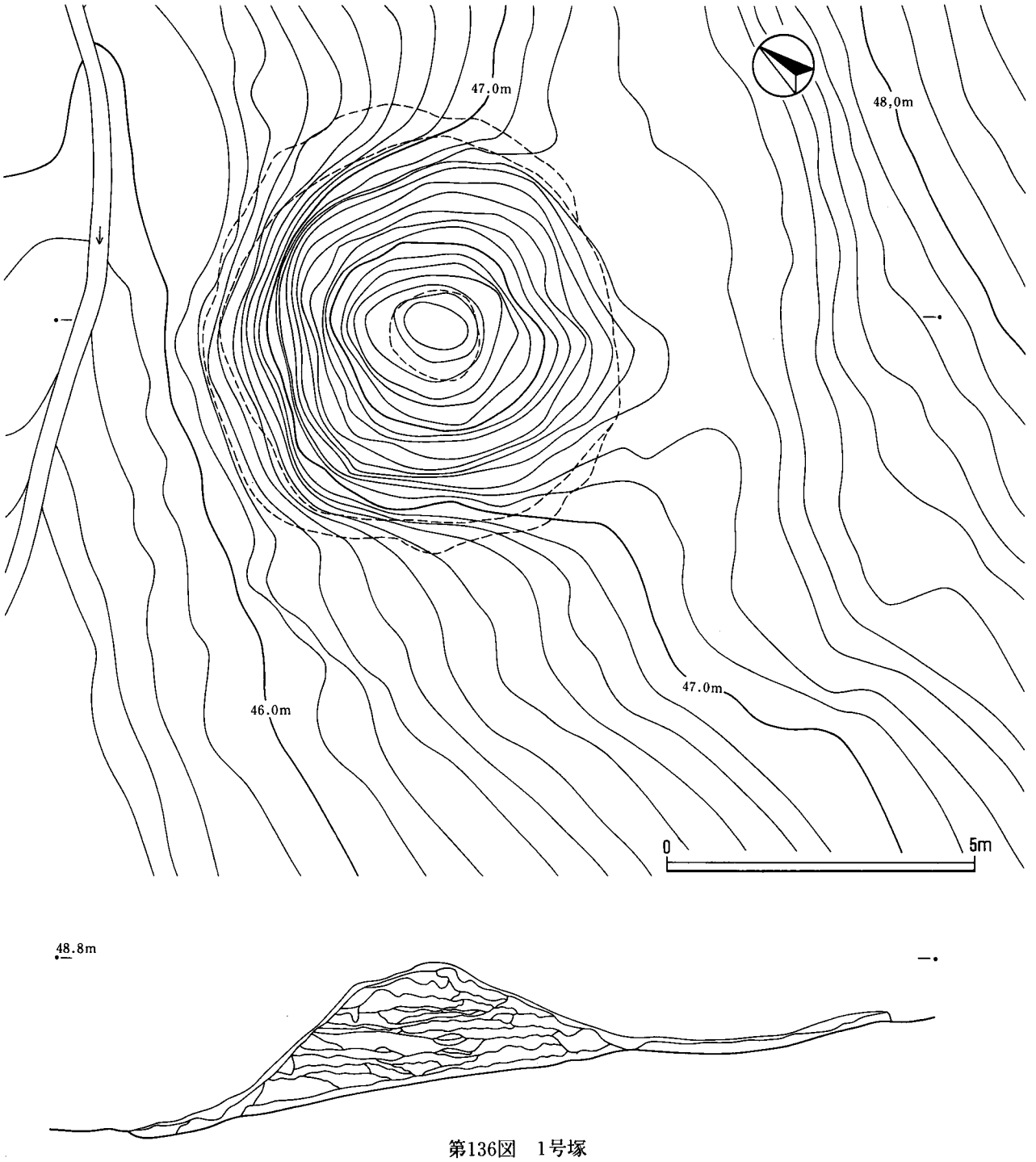

**2号溝**（第135図、図版45）

調査区際に検出されたもので、いわゆる方形周溝状遺構の可能性もある。北側がほぼ直角に曲がるコーナーであり、溝の掘り方にも規則性がある。逆ハの字に直線的に掘り下がり、底面も平坦であり、深さもほぼ一様である。中央部に性格不明の張り出し部があるが、覆土の状況から判断すると、後世の攪乱部と考えておきたい。溝の覆土は黒色土を基調とする自然堆積である。主軸はN－6°－Eで他の古墳時代住居跡に一致するものがある。

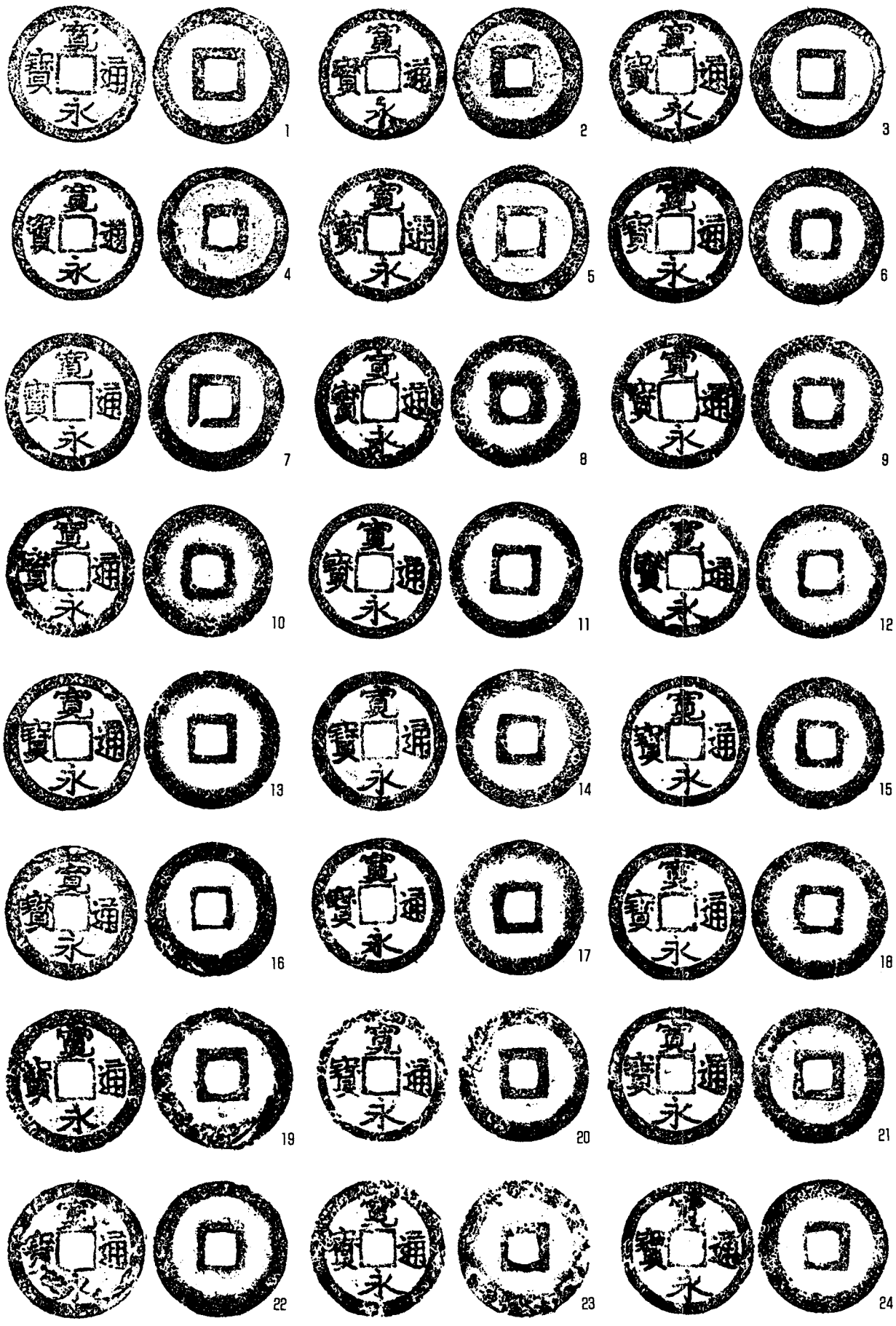
1は口径24.0cmの甕で、口縁部ヨコナデ、外面タテヘラ削り、内面ヘラナデである。2は口径13.7cm、器高3.4cmの坏で、口縁部ヨコナデ、外面体部ヨコヘラ削り、内面ヘラ磨きである。底部はヘラ削りにより緩やかな平底を呈している。3は須恵器の坏蓋で、欠損品であるが、推定最大径16.8cmを計る。かえりのないもので、胎土、焼成は良好で、明るい灰色を呈する湖西産と考えられる。

**1号塚**（第136、137、138図、図版46、47、48）

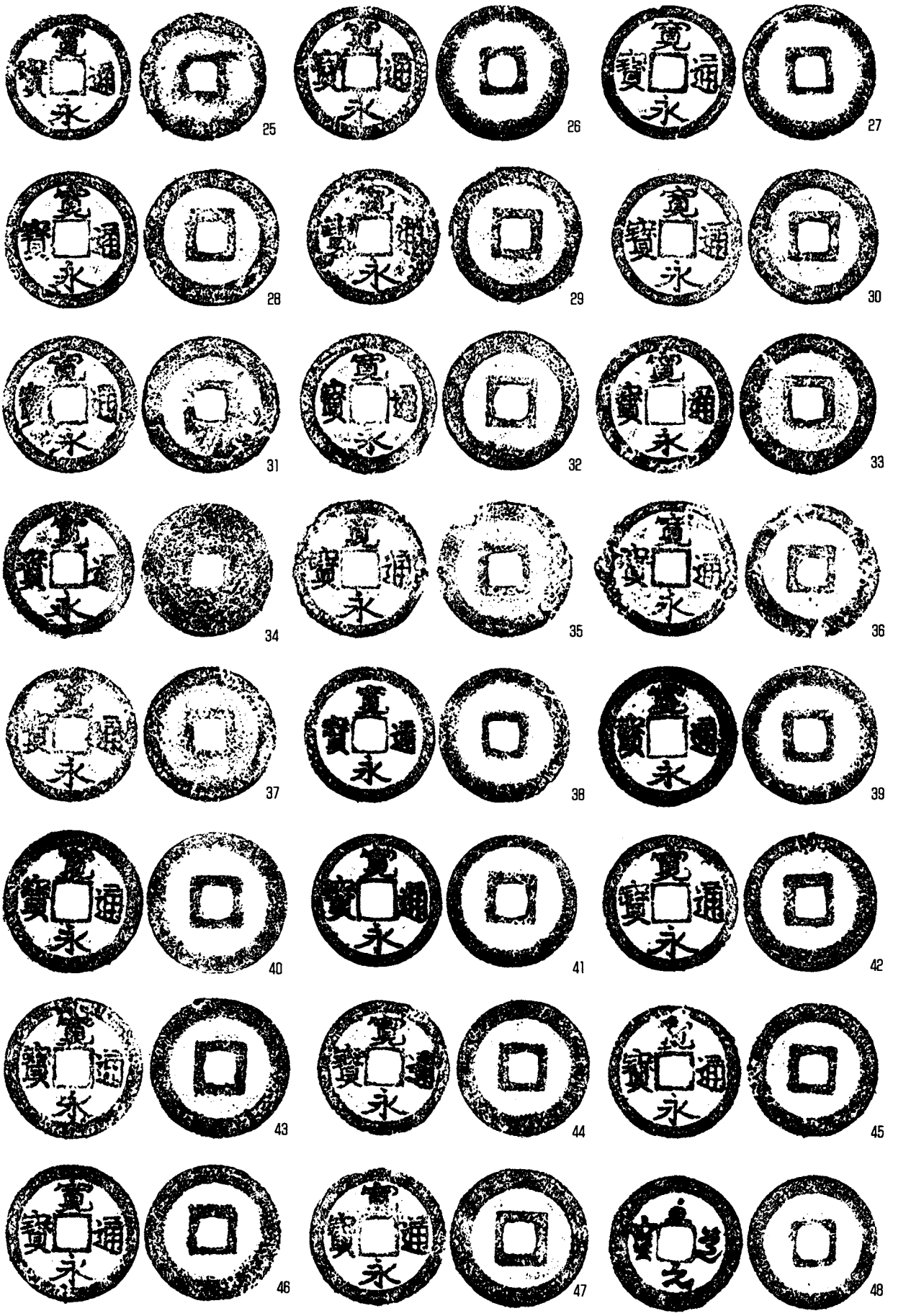
本遺跡には3号溝に近接して塚が1基発見されている。北側の谷に向かって緩やかに下る斜面上につくられたものである。立地的には「見晴らし塚」の感がある。測量図では隅丸方形に近い不定形と言えよう。高さは最高で1.9mを測る。構築方法は単純に黒色土、ローム層を不規則に水平に積み上げたもので、踏み固められた痕跡等は確認できない。全体的に軟弱である。出土遺物として「寛永通宝」が47枚（1～47）、48のみ「至道元宝」（北宋、995年）の可能性もあるが、断定できない。出土位置はすべて頂部から30～50cm程水平に掘り下げた面であり、一括してまとまって出土している。




第136図　1号塚




第137図　1号塚出土貨幣




第138図　1号塚出土貨幣

# Ⅲ まとめ

## 1．旧石器時代

本遺跡においては、4つの石器集中地点を検出することができた。調査時における出土層位は、各集中地点においてそれぞれ異なっていることは先に述べたとおりである。再度繰り返すと、石器集中4はⅦ層下部～Ⅸ層、石器集中3はⅨ層、石器集中2はⅨ層下部～Ⅹ層上面、石器集中1はⅩ層中位～Ⅺ層上面を中心に検出された。

これだけを見ると、第2黒色帯上半部以下武蔵野ロームに至るまで何枚かの文化層が続いているかのようであるが、以下の二点から、これらは全て石器集中4（Ⅶ層下部～Ⅸ層上部）と同一か、若しくは時間差があってもかなり短いものであると考える。

・最下層から検出された石器集中1の層序（第9図）を見ると、北側へ向かう谷部ではⅨa層直上にⅢ層が堆積していると認識されている。この細分はおそらく、水の付いたような変質したローム以下を武蔵野ロームとし、その境界以上でソフト化されたロームをⅢ層としたものと考えられる。したがって、この両層境界は立川・武蔵野ロームの境界ではなく、Ⅹ・Ⅺ層から出土したとする石器集中1・2の石器群は本来、より上位（Ⅶ～Ⅸ層）のものであると考えざるを得ない。

・石器集中3と石器集中4aには接合関係が確認された。また、石器集中2・石器集中3・石器集中4で検出された黒曜石は、視覚的には全て近似のものであり、特に石器集中2と石器集中4では、楔形石器製作に伴う砕片がまとまって出土している。

以上の二点によって、各集中地点はほぼ同一時期の所産であると考えられるが、石器集中4における集中域aと集中域bの特徴を述べた上で、更に補強したい。

石器集中4には明確な集中域が2ヶ所検出された。いずれも径が4m～6mの小範囲であり、楔形石器を主体とした石器群であるが、出土した石器を見ると若干性格の異なる点がある。まず接合関係に注目してみると、集中域間には1個体の接合関係がみられるのみであり、それ以外は全て各集中域内で収束している。さらに、これら集中域内における接合資料を見ると、集中域aは小剥片もしくは、かなり剥離の進んだ楔形石器同士のものであり、必然的に接合資料は小形である。一方、集中域bは接合によって原石に近い形にまで復元できたものが多く、結果的に集中域aよりも大形の接合資料が主体を占める。

このことは、各集中域にみられる石材の種類、形状によって大きく左右しているようである。集中域aには黒曜石・珪質頁岩、集中域bにはチャート・ホルンフェルス・砂岩・メノウといった石材が主体を占めている。しかも、集中域bの楔形石器製作に関係する接合資料において、チャート、砂岩、メノウの多くは原石のまま遺跡内に持ち込まれ、石器製作が行われ、そのまま残されたとの考えられる。

これらの原石は5cm前後の円礫と、本遺跡では大きな部類に入るわけであるが、石器集中2でみられる楔形石器の素材として利用される小円礫は2cm前後と小さい。さらに石器集中1ではそのような1～3cm前後の小円礫が散漫な出土状況で検出されている。

つまり、石器集中1と石器集中2はチャートを主体とする小円礫を利用する楔形石器とその原石をもち、石器集中2と石器集中4は、素材の大きさが異なるが、楔形石器という共通した石器を主体とし、楔形石

器製作に伴うと考えられる黒曜石製の砕片をもつ。そして石器集中１と石器集中３は、石器組成や石材構成で際だった共通点をもたないが、接合関係が確認されている。

このように、石器集中４を中心にして各石器集中が何かしら関係性をもつことが明かとなり、各石器集中が大きな時期差をもって残されたものではないことが理解されたところで、石器群全体の位置づけについて考えたい。

下総台地の特に北東部において、本遺跡と同様に楔形石器を特徴的に保有する石器群がいくつか知られている。これらは、第２黒色帯中の石器群のひとつとして、関東地方の中で下総台地に特徴的に検出される石器群として注目され、調査報告書や雑誌論文等でよくまとめられている[1)7)8)]。今回は論文中に集成されている諸遺跡と最近報告された石器群について、栗焼棒石器群と簡単な比較をしてまとめにかえたい。

調査事例が一番古く、その後、両極剥離の工程が「遠山技法」[1)]と命名された横芝町遠山天ノ作遺跡[2)]、３千点以上の石器を保有する佐原市出口遺跡[3)]、隣接する台地上から検出された佐倉市大林遺跡・芋窪遺跡・大堀遺跡[4)]、「千田台技法」「下総型石刃再生技法」などと呼ばれる石器群を伴う多古町千田台遺跡[5)]・大網白里町一本松遺跡[6)]、現在整理中の成田市東峰御幸畑西遺跡（空港№61）において、石器組成中の楔形石器の比率が顕著に高い。それらの遺跡は、石器の総点数中に含まれる楔形石器の割合が、５％前後以上である。特に遠山天ノ作遺跡、東峰御幸畑西遺跡は10％以上とその比率が突出している。栗焼棒遺跡では石器集中１～４の総計では楔形石器の占める割合は7.5％であるが、石器集中４ａ・ｂの中だけでは9.9％と高い。10％前後の割合を占めるこれら三遺跡は、石器群の平面分布においてもよく類似している。１ブロックが径数ｍの小範囲に収まる「密集」した形態をとり、そのようなブロックが数カ所隣接して形成される。この規模を拡大したものが出口遺跡ともいえる。一方芋窪・大林遺跡、一本松遺跡では、数点～数十点単位の小ブロックが寄り集まるように集合した形態をとり、各ブロックをさらに大きくしたものが千田台遺跡でみられる。

栗焼棒遺跡において楔形石器に利用される石材はチャート以外に珪質頁岩・黒曜石が用いられている。同様の石材構成がみられるのは千田台遺跡、比率は異なるが遠山天ノ作遺跡がある。遠山天ノ作は、楔形石器の素材に１cm～３cm前後のチャートを主体とした小円礫を主に用いている点で東峰御幸畑西遺跡や出口遺跡と平面分布とともに非常に近似した石器群といえる。逆に栗焼棒遺跡は本文でも述べたように楔形石器の素材は５cm前後の円礫のものと一般的な剥片剥離により得られた剥片を素材としている点でそれらの石器群とは若干異なる様相を示している。

最後に、楔形石器自体の位置づけであるが、楔形石器から剥離される縦長の小剥片を目的的に剥離するための石核としての機能と楔形石器自体の利器（楔）としての機能、という二面性を考えなければいけないとされる。本報告では、両極剥離によって剥離された剥片を楔形石器調整剥片としているが、より特徴的なもののみを抽出しているため、その実数はより多くなるものと思われる。さて、そのような楔形石器調整剥片をみると、使用によると思われる微細な剥離痕が観察される資料もあるにはあるが、その比率はきわめて低く、形態的にも定型化されたものは少ない。しかしながら、ここに挙げた２面性も、より表層的なことであり、楔形石器から両極剥離によって剥離された剥片を使ってさらに両極剥離をくり返している資料が多くの接合関係で明らかとなり、両極剥離が重層的にみられる現象こそが、より踏みこまなければならない論点ともいえる。

楔形石器を高い比率で保有する石器群には以上のように石材構成・石器組成・平面分布等で様々な表現

形態をとることが理解される。今後は、よりトータルな分析を通して、それらを規制する要因を探ることが課題となる。

注 1 田村　隆1989「収束」『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1 』㈶千葉県文化財センター

2 奥田正彦・高橋博文「遠山天ノ作遺跡」1986『主要地方道成田松尾線Ⅲ』㈶千葉県文化財センター

3 新田浩三1991「出口遺跡」『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』㈶千葉県文化財センター

4 野口行雄・田村隆他1989『佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1 』㈶千葉県文化財センター

5 矢本節朗1996『多古町千田台遺跡』㈶千葉県文化財センター

6 鳴田浩司1997「第 2 章　一本松遺跡」『県道山田台大網白里線埋蔵文化財調査報告書 1 』

7 新田浩三1988「遠山天ノ作遺跡の再検討」竹箆 5　北総たけべらの会

8 田村隆1992『小見川町天神後遺跡』㈶千葉県文化財センター

## 2．縄文時代

縄文時代の遺構は、土坑が14基検出された（第43図）。このうち形状的に陥穴と思われるのは、2、3、4、5、7、9、10、12、13、14号土坑である。しかし、遺構内からは出土遺物がなく、時期は決定できない。本遺跡では現表土内や古墳時代以降の住居跡覆土内から縄文土器が出土しているが、すべて後期であり(第43図)、したがって陥穴もこの時期の所産と考えるべきであろうか。しかし、当地域において陥穴は、空港№10遺跡[1]に代表されるように、概ね早期に属するとされており、検討を要する。

1、5、6、8、11号土坑の用途は不明である。形状的には袋状（6号)、井戸状（11号）等含まれ、多様である。8号土坑からは後期土器片（加曽利B式、第44図の26）が1点出土している。

石器では有舌尖頭器が1点、石鏃が11点出土しているが(第46図)、土器同様に表採品が多い。有舌尖頭器は草創期の所産と考えられる。石鏃はいずれも無茎鏃である。時期的な断定はできないが、土器同様に後期としておくべきであろうか。しかし、陥穴と石鏃の関係を強調するならば、より古い時期の所産とも考えられる。

注1㈶千葉県文化財センター　1985『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ№10遺跡』

## 3．古墳時代

### （1）古墳時代の土師器について

#### （a）はじめに

土師器の分類については、器種ごとに形状や製作技法の違いを基準にして細分を行い、それらの時間的な前後関係を、遺構の重複や共伴関係から想定し、最後に須恵器や畿内産土師器を基に実年代を当てはめるというパターンが定着しているようである。特に歴史時代の土師器研究は各地で熱心に行われ、四半世紀などは当然の如く細かな実年代が与えられている。各遺跡から出土した土師器について、表現されている諸属性をできる限り抽出し、それを配列する型式学的研究の基本的手法は、常に前提とされなければならない。問題となるのは、その後、「仮説として類型化された」土器一つ一つに対し、仮に四半世紀単位のような細かな実年代を、どのような根拠で与えるかである。

律令萌芽期の当地域の歴史は、大形前方後円墳や方墳及び郡衙、郡寺の推定遺跡調査例から示されるように、かなり短期間にドラステイックな展開が想定できる。各遺跡が、そうした歴史の流れの中に、どのように関わっているかを究明するのは当然の姿勢ではあろう。その中で我々が知りたい重要な情報の一つは土器の実年代であり、確かにそれは四半世紀、あるいはさらに細かければ細かいほど良いであろう。しかしながら、一つの土師器にそれを与える以前に果たされるべき課題は多いはずである。それは土師器の型式学的研究に伴う相対的編年論の深化である。

本来、土師器の型式学的研究の目的は、こうした実年代論とは別の次元にあるはずである。例えば「土師器の地域性」の問題は多くの研究者によって事象は提示されているものの、その根拠となっている異系統土器の系譜論や製作技法の違いや相対的編年論等については多くは議論されていない。それは「型式」としての視点を意識的に避けるかの如く、であり、実年代による提示で視点をぼかしているようで残念でならない。本遺跡でもいわゆる「東北系」とされる土器が出土しているが、その系譜について、形状は「栗囲式」の影響を否定しないものの、製作技法は全く異なっている。実年代の基準となっている畿内産土師

器の出土地域も県内でもかなり偏っているし、陶邑や湖西産須恵器の器種や既成年代幅も、各遺跡でより問題とすべきであり、こうした視点こそ第一義的に検討されるべきものではなかったか。鬼高式以降の「型式」不在の現実を、実年代優先のもと、放置して良いのかどうかという疑問も含め、議論の高まりに期待したい。

（b）坏の「羅列」と「分類」

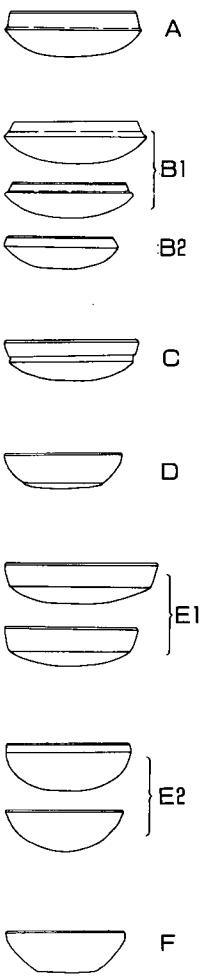
下記の①～④に示す要素について、まず、器種（この概念規定もあくまで便宜的であり、厳密には甕は甕形とすべきであるが、ここでは言及しない）ごとに「羅列」する。羅列とは、便宜的な基準による情報の複数提示のこととしたい。その後、情報同士を複層的に結びつけることにより配列が生まれ、それらに規則性が生じた場合、型式属性としての仮説となり得る。この作業を「分類」としたい。しかし、それすらあくまで一つの遺跡内での、一部の表現にすぎず、他地域との比較検討の中で修正、否定されるものもあろうし、正しく検証される場合もあろう。なお、出土量的な問題から対象器種が限られてしまうことは避けられない。統計的な処理に耐え得る量を出土したのは坏だけである。他の器種については別途分析していきたい。対象となる遺構は、大まかに古墳時代と規定した１号住居跡から50号住居跡、15号土坑から20号土坑、１号溝である。

① 形状＝合子状、稜線、内わん、外反、丸底、平底、丸胴、長胴等、

② 成形＝ヨコナデ、ヘラ削り、ヘラ磨き等

③ 寸法＝口径、最大径、器高、等

④ 塗彩＝赤彩、黒色処理（炭素吸着）、漆仕上げ



第139図　坏の形状羅列

（c）羅列結果（第139図）

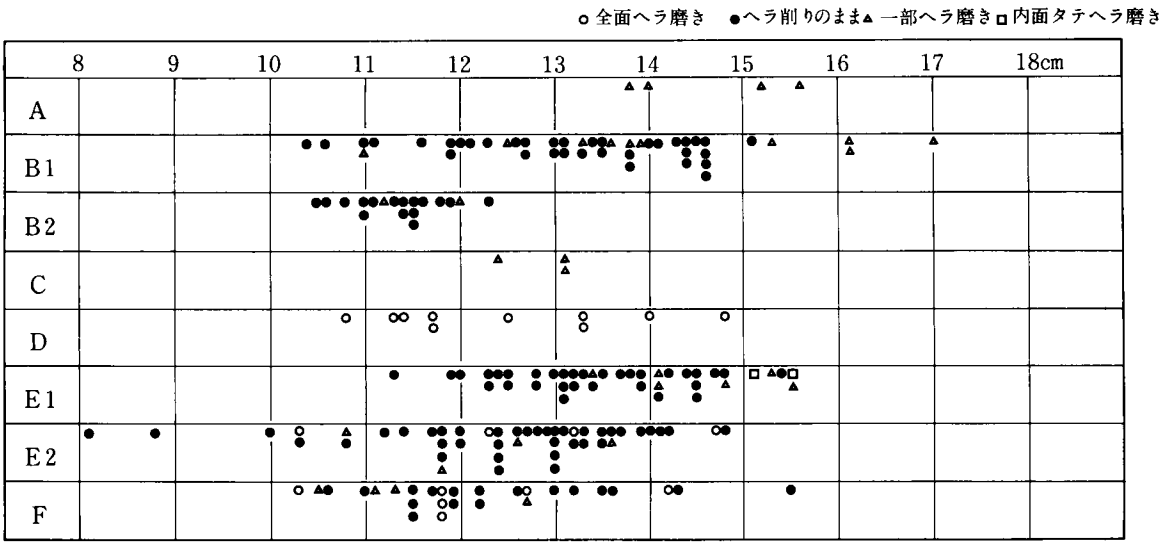
坏の形状は最も顕著な差を持っている。A～Fまで羅列したのが第139図である。A、B(B1、B2)はいわゆる合子状とされるものである。Aは直立気味に口縁部が発達し、蓋受け部の段を持つ。B１も有段であるが、口縁部が短く、内わん気味になり、B２は段が明瞭でなく、稜線状となるものである。しかし、こうした「～状」「～気味」「～傾向」という表現での基準は最も曖昧なものである。本来は数量的な基準で区別できれば良いのであるが、それとてどこで区分するかの問題が残る。したがって、とりあえずここでは「有段」と「稜線」により便宜的に区分する。Cは数は少ないが、体部上部に明瞭な段、もしくは稜線を持ち、口縁部が外反する形状のものである。Dは稜線が体部下部から底部に持ち、坩を平たくしたような形状である。E（E1、E2）は半円状の坏で内わんするものであるが、口縁部の造作に微妙な違いがある。また、器高差が大きく、椀とすべき形状もある。

なお、A～Eはすべて丸底である。平底坏はすべてFとした。

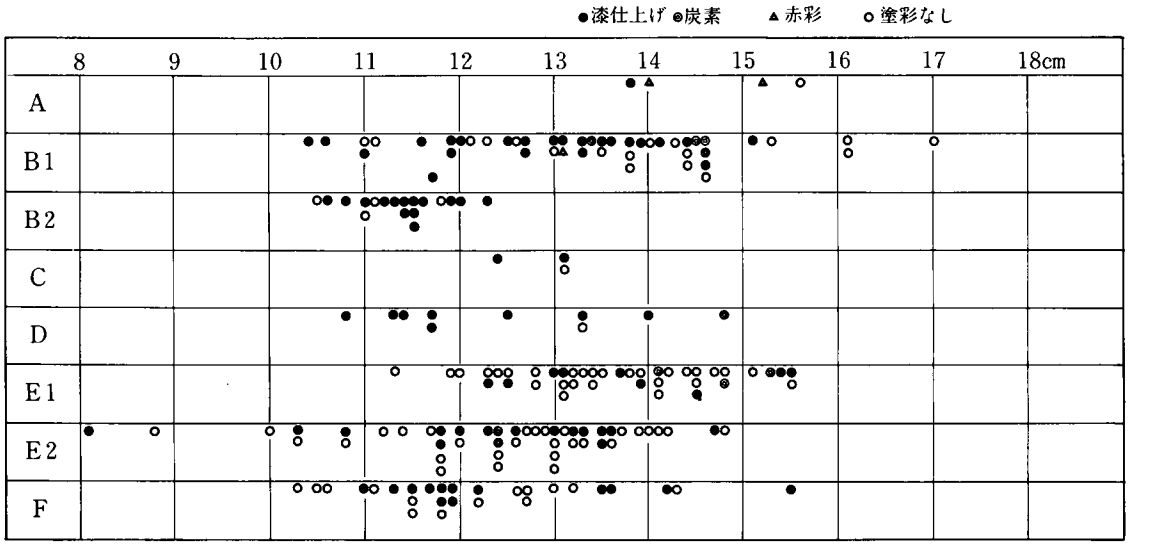
形状差と寸法及び成形の相互関係を示したものが第140図

である。第141図はさらに塗彩を加えた相互関係である。これらに出土量を加味し、分析を行っていく。

（d）分類経過（坏の形状と寸法、成形、塗彩の相関関係（第140図、141図）




第140図　形状と寸法(最大径)と成形




第141図　形状と寸法(最大径)と塗彩

**赤彩と外面ヘラ磨きの伝統が残るＡとＢ１の大形品**

Ａは数少ないが、いずれも「外面体部ヘラ削り後ヘラ磨き」があり、赤彩も残るもので、当地域にその系譜を認めるものである（第147図)。同時にＢ１の大型品（15cm以上）にも共通点が認められる。また、Ｂ１の中でも、41号住居跡で見られるようにＢ１の内わん気味の口縁部でも、それほど退化していないものは大形で、体部ヘラ磨きが残り、Ａとの共通点が多い。型式学的には本遺跡では初現的な要素と言えよう。もう一つ注目しておきたい点は、Ａに「蓋」はあったか、である。可能性があるのはＥ１であるが、15cm以上のＥ１はいずれも口縁部が外反し、形状的に蓋となりにくい。したがって、Ａ（及びＢ１の大型品）は最も合子状でありながら、本来は合子状坏身ではなく、坏として単独使用されていたと考えたい。これはＡの内面に赤彩が残ることも無関係ではないであろう。ただし、今回はＡの数量が少ないため問題は多い。

**合子状坏（Ｂ１小形品とＢ２）と半円状坏（Ｅ２）の坏蓋関係**

第140図のＢ１の寸法10.4cm～14.6cmの集中に注目したい。15cm以上は少なく、これらの大形品は前記したように、塗彩がなく(第２図)、器高が高いものもあり、成形も外面体部にヘラ磨きを加えるというＡに共通した要素が見られた。したがって、これらを除くＢ１を一つのまとまり（Ｂ１小形品）と考える。一方、合子状の段が不明瞭なＢ２はほとんどが小形であり（10,4cm～12.3cm）ことに注目したい。また、Ｂ１小形品及びＢ２は、かなりの割合で「漆仕上げ」であり、量的にも坏の約40％を占める。型式学的に考えれば、本遺跡の主体である一つの分類とすべきであろう。これと対するのが半円状の形状のＥ２である。そして、例外的な小形品（９cm以下）を除くと、Ｂ１小形品とＥ２の寸法はほぼ一致することに注目したい。ここには「坏と蓋」の関係が一部にあったと考えられる。形状や寸法だけでなく、豊富な出土量、成形にも共通要素が見られるからである。

**稜線を持つ坏（Ｅ１）の多様性**

蓋としての性格を一部に看守できるＥ２に対し、Ｅ１は形状的には多種であり、分類が難しい。器高が高く、椀状の形状もある。特に15cm以上の大形品に２点、内面を放射状にタテヘラ磨きするものがある。さらに細かな視点から観察すると、口縁部が長く、外反の強いＥ１は、比較的大形で炭素吸着があり、高坏の坏部と形状が類似する。すなわちＥ１の大形品には「飾る坏」としての意識が強いことが推察される。

Ｅ１はＥ２同様、出土量も多く、他との共伴頻度も高いことから同時期に主体的に作られたものと考えられるが、分類上、再構築されるべき要素が多い。

**平底坏（Ｆ）の２つの系統**

平底という形状は、後の時代のロクロ土師器を考えれば新しい要素である。確かにＡとは伴わない点からもＦの新出性が見られるが、短絡的には断言できない。と言うのも、Ｆを出土した11号住居跡や23号住居跡を見ると、ＦとＥ２及びＤの強い成形上の共通性を無視できないからである。Ｅ２は前述したように、ヘラ削り後、全面ヘラ磨きを取り入れるものがあるが、平底のＦにもそのまま同じ成形が施されているものがある。また、ヘラ磨きが無い場合でも、２号住居跡の６，７，８で見られるように、Ｅ２とＦはヘラ削りの微妙な向きの差や頻度差によって丸底、平底に分けられているに過ぎない状況が看取されるのである。一方27号住居跡の11にも注目したい。この土器は平底であるが、成形的には明らかにＤと同一である。Ｄは後述するが、Ｅ２とはまた別な系譜を認めるものである。第147図にあるように、体部下部に作り出した稜線が、さらに下部に作られることにより平底が形成されている。

丸底から平底へと言う変化を仮に想定したとしても、以上のように異なる２つの系統（Ｅ２→平底、Ｄ→平底）を考えなければならないであろう。しかし、この時期は丸底、平底の新旧関係をことさら強調すべきでなく、本遺跡でもそれを検証すべき情報も少ない。むしろ両者の近似性が目立ってしまう。

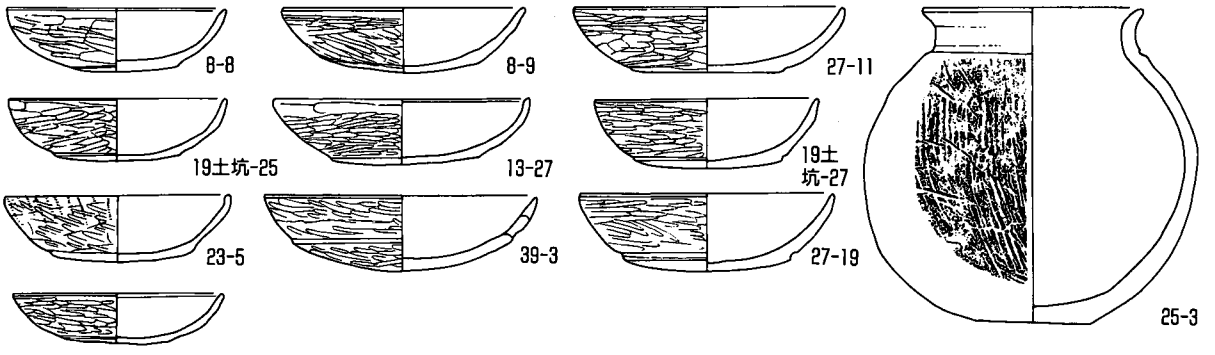
**在地系のＣと、東北系のＤについて**（第142図）（図版83）

Ｃは２点しか出土していないが、問題とすべきタイプであり、系譜の見極めが重要である。Ｄと形状的に類似し、共に粘土の質からして他の坏同様に、在地で作られたものと思われる。まず、Ｃは35号住居跡の３に見られるように、Ａの口縁部をそのまま外反させたような形状であるが、Ｄに比べ体部上部に段が強調されている。成形は「口縁部ヨコナデのまま、体部ヘラ削り後磨き」で漆仕上げである。これはＡ同様、当地域の前時代の大形（口径15cm以上）坏の形状、成形の系譜をそのまま引き継いでいる。ただし、前時代は赤彩が主体である。なお、この系譜から考えると、Ｅ１の中でＣの稜線が退化したかの形状を持

つものがある(47号住居跡の5等)。しかし、この形状も、既に前時代大形赤彩坏に存在しており、Cの中から発生したものと考えるべきではない（第148図)。

Dは内わん気味に外反する口縁部で、段や稜線は体部中央から下部に存在する。この形状については当地域の前時代に見い出すことは難しい。そのため注目されているのが東北地方である。九十九里平野から太平洋を望む当地域周辺が、畿内勢力の東北波及の拠点地域とした説[1)]を裏付けるかのように、古墳時代後期に東北南部の海に近い各遺跡で「関東系」と称する土器が数多く出土している。逆に本遺跡周辺からもDに類似し、「東北系」とされた土器の出土報告も目立っている。東北地方の当該期の代表的型式は「栗囲式」である。その型式範囲は広いものの、坏においては、①口縁部が内わん気味に逆ハの字に開き、体部下半が鋭く張り出し、明瞭な稜線を持っている。②いわゆる内黒（炭素吸着）を主体とする、③口縁部はヨコナデが最終調整である、④外面体部はヘラ削りで、その後ヘラナデはあっても、丁寧に磨き上げられることはないこと、が型式の主要要素と考えられる。しかし、以上の項目でDに当てはまるのは①だけである。Dは第2図で明らかなように、口唇部に一部ヨコナデ痕は残るものはあるが、最終調整として坏の内外面とも全面にヘラ磨きが丁寧にかけられている。内黒はなく、ほとんどが内外面とも漆仕上げである。こうした成形ゆえ器面が極めて滑らかとなり、器壁がかなり薄いものもある。Dの形状には確かに外来的系譜を考えなくてはならないかもしれない。しかし、それを「栗囲式」とスポット的に断定することは危険である。Dの成形を細かに観察すると、さらに着目すべき事実がある。それはDの底部「稜線」である。厳密に言えばこの線については、張り出した底部角がもたらす「稜線」と言うべきものではない。底部成形はヘラ状工具で底部周辺器壁をえぐり、その粘土を底部にこすりつけて僅かに盛り上げて底部を作り出している、というより「浮かび出し」ている程度である。えぐられた部分は凹んだままのものもあり、それが沈線状にも見える場合すらある。(8号住居の8、11、19号土坑の25等)。そのため底部はあたかも「張り出し底部」の状態を呈することになるが、遠目では丸底に見える程曖昧な成形と言える。東北地方においては張り出しは明瞭であり、ここにDの「模倣品」としての性格が看守される。

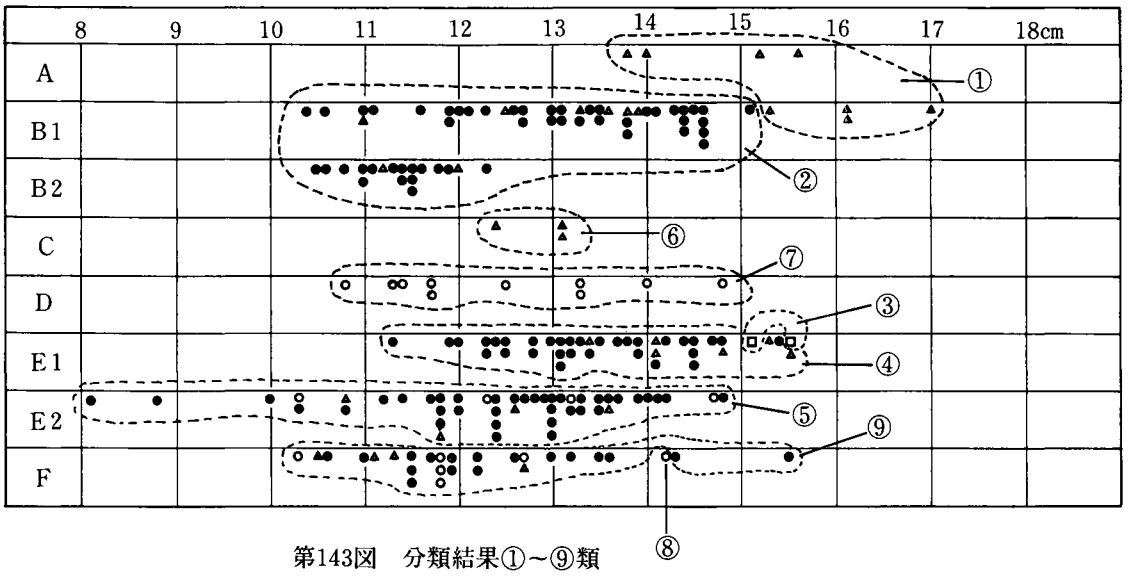
Dは「稜線を持つ坏」を模倣、簡略化した可能性が強い。それは「栗囲式」でなくても存在しており、それ以前の東北地方南部の型式をはじめ、東北地方北部、あるいはそれ以外にも系譜を検討すべきである。中でも重要な視点は「須恵器の模倣説」[2)]である。本遺跡でも15号住居の11の形状はDに類似している。そもそもA、Bが須恵器の合子状坏身の模倣と言われることを考えれば、当然の発想かもしれない。




第142図　いわゆる東北系とされる土器

（e）分類結果（第143図）

第140図と第141図の経過を踏まえて、坏の羅列を再構築＝「分類」したのが下記の「①類～⑨類」（第143図）である。これらについて、当地域の他遺跡出土例との分析を加え、型式学的な系譜を検討した上で、時間的な推移を仮説として示す。その検証の一部として、いくつかの角度からの共伴頻度も調べてみた（第144図～146図）。




第143図　分類結果①～⑨類

| | |
|---|---|
| ①類 | （合子状）坏・赤彩（一部）・大形（最大径約14cm以上）・ヨコナデ・外面体部ヨコヘラ削り後磨き・全面ヘラ磨きはない。 |

前項のA、B１の大形品（約14cm以上）が相当する。口縁部が長く直立し、器高の１/３程度を占める。やや内わん気味のものもあるが、受け口部の段は明瞭で、口縁部も発達している。赤彩が一部に残存する。以上の要素の系譜は当地域前時代に存在し、山武町久保谷遺跡[3]に見られる坏を考えたい。合子状坏としたが、蓋とのセット関係はなかった可能性がある。①類は口縁部が退化し、口径が小形化して赤彩が消滅し、漆仕上げを主体として大量に普及していく（②類）。

| | |
|---|---|
| ②類 | 合子状坏・漆仕上げ（約60％）・小形規格化（最大径10,4cm～14,6cm）・ヨコナデ・外面体部ヨコヘラ削りのままが主体・全面ヘラ磨きはない。蓋とセットのものもある。 |

前項のB１小形品、B２が相当する。最大径を重視した分類で、前項E２の一部を蓋と想定した。漆仕上げの頻度は特に小形品（B２）が高い（約80％）。①に系譜を持つ。内黒（炭素吸着）も一部に残るが、最大径13cm以上の比較的大形品に限られるようである。

| | |
|---|---|
| ③類 | 25号住居跡の２点＝内面タテヘラ磨き（放射状）・口縁部外反・稜線強調・大形（15cm以上）・漆仕上げ |

前項のＥ１の内、25号住居跡の２点については、内面ヘラ磨きの手法が異なる大形品である。このような異質の土器を、型式学的研究においてはどのように扱うのかが問題となる。形状、成形(へら磨き)、塗彩面から言えばＥ１に含まれるが、漆仕上げも内面の黒色度合が強く、「内面を飾る坏」という要素は、主観的であるものの、「形式」の違いを強調すべきかもしれない。

| | |
|---|---|
| ④類 | 口縁部外反・稜線・口縁部ヨコナデ・外面体部ヘラ削りのまま・大形椀状あり（15cm～）・漆仕上げは頻度低い（約20%）・口径約11cm～15cmに集中 |

前項のＥ１で③を除くものを設定した。出土量の割には漆仕上げが少なく、全面ヘラ磨きがないことが特徴である。形状は最も多様化しており、さらに細分できる要素を持つが、明確な基準を示すことはできない。

| | |
|---|---|
| ⑤類 | 半円状坏・曖昧な稜線・外面体部ヘラ削りのままが多いが全面ヘラ磨きもあり・漆仕上げは頻度が低い（約30%）・一部は②類の蓋・平底化あり |

前項のＥ２すべてである。小形品もあり、さらに細かく分類可能であるが、④類同様明確な基準を示せない。②類や④類が退化したような形状もある。この類から平底が発生する。

| | |
|---|---|
| ⑥類 | 35号、42号住居跡の３点＝口縁部外反・稜線強調（合子状に近い）・漆仕上げ　口縁部ヨコナデ強調、体部ヘラ削りのまま |

前項のＣであるが、３点しか出土していない。合子状坏身の口縁部が外反した形状で、当地域の前時代の大形赤彩土器に系譜が存在する（第147図)。

| | |
|---|---|
| ⑦類 | 体部～底部稜線・張り出し底部（模倣も含む）・小形（10.8cm～14.8cm）全面ヘラ磨き・漆仕上げ（約90%）・平底化有り |

前項のＤである。東北地方の坏、あるいは須恵器坏もしくは蓋の「形状のみ」模倣したものと考えている。この類の成形技法からも平底が発生する。

| | |
|---|---|
| ⑧類 | 27号住居跡の１点＝⑦類の底部が平底となったもの |

| | |
|---|---|
| ⑨類 | ⑤類の底部が平底化したもの |

（ｆ）各類の相対的編年観（144図～146図）

以上の各類の相対的な編年観を検証するために次の作業を実施する。

まず、前記の型式学的系譜の検討から

①類（合子状坏大形）→②類（合子状坏大形）→②類（合子状坏小形）

⑦類（東北系）→⑧類（平底）

⑤類（半円状坏）→⑨類（平底）

と言う仮説が設定できた。しかし、型式学的な編年観は、このように直線的とは限らず、複層的に推移することが考えられる。そのためまず、各類相互の共伴頻度を調べ（第144図）、大まかな相対編年観をつかむ。その後、特に合子状坏を中心に、仮説の重要な視点ともなった「寸法（口径、最大径）」の変化についてさらに分析し（第145図、146図）、できるだけ明確な型式学的分類基準（数量値によるものが最も分かりやすい）の設定を行ってみたい。

第144図は各住居跡等の一括遺物を基に調べたものである。仮に①類が３点、②類が２点、③類が１点共伴した場合、頻度は最小の③類を基準にしてある。したがって、•印は一個づつである。このようにして作成したものであるから、頻度表というよりも共伴「傾向」に近いかもしれない。作業も繁雑であったため、多少の誤りが生じているかもしれないが、大まかな相対的編年観をつかむのには差し支えない。

と考えている。

①類であるが３点が④類の大形品（14cm以上）と伴う（38号住居跡）。それも炭素吸着等前時代の系譜を残すものである。その意味からも①類は初現的である。

②類は小形品（約13cm以下）が、もともと小形品の多い⑤類と平底の⑨類に伴う頻度が高い。④類、特に15cm以上の大形品とは伴わない。

③類は数が少ないため言及できないが、概ね④、⑤類と同時期の所産であろう。

④類は形状的に類似する⑤類と最も伴うものの、小形品（約13cm以下）は平底の⑨類と、14cmを越える大形は初現的な①類に伴っていることに注目したい。

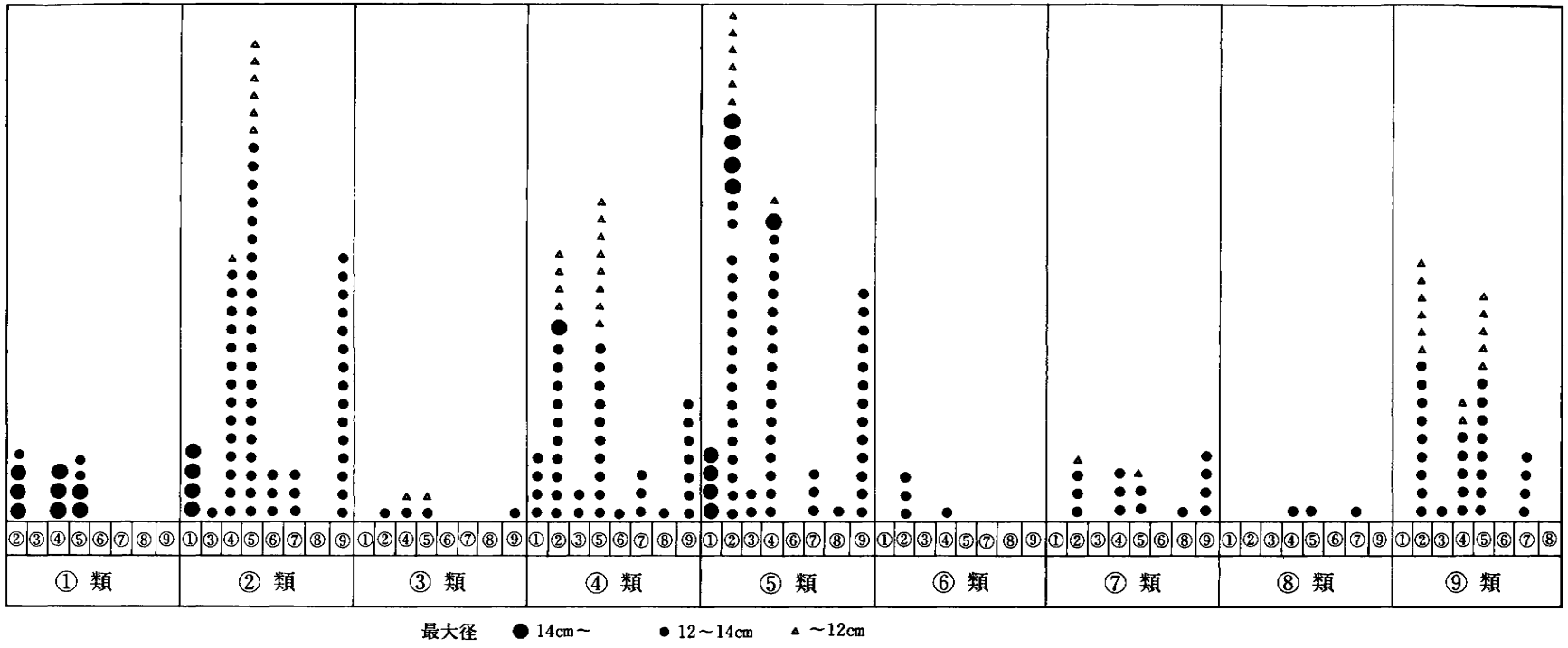
⑤類は前記のとおり、最も②と伴う。坏と蓋というセット関係も強調されるであろう。

⑥類は数が少ないが、概ね②類と同時期の所産であろう。

⑦類は②類、④、⑤類及び平底の⑨類にも伴う。④類は特に小形品でもなく、⑦類が比較的時間幅を持っていたことが考えられる。

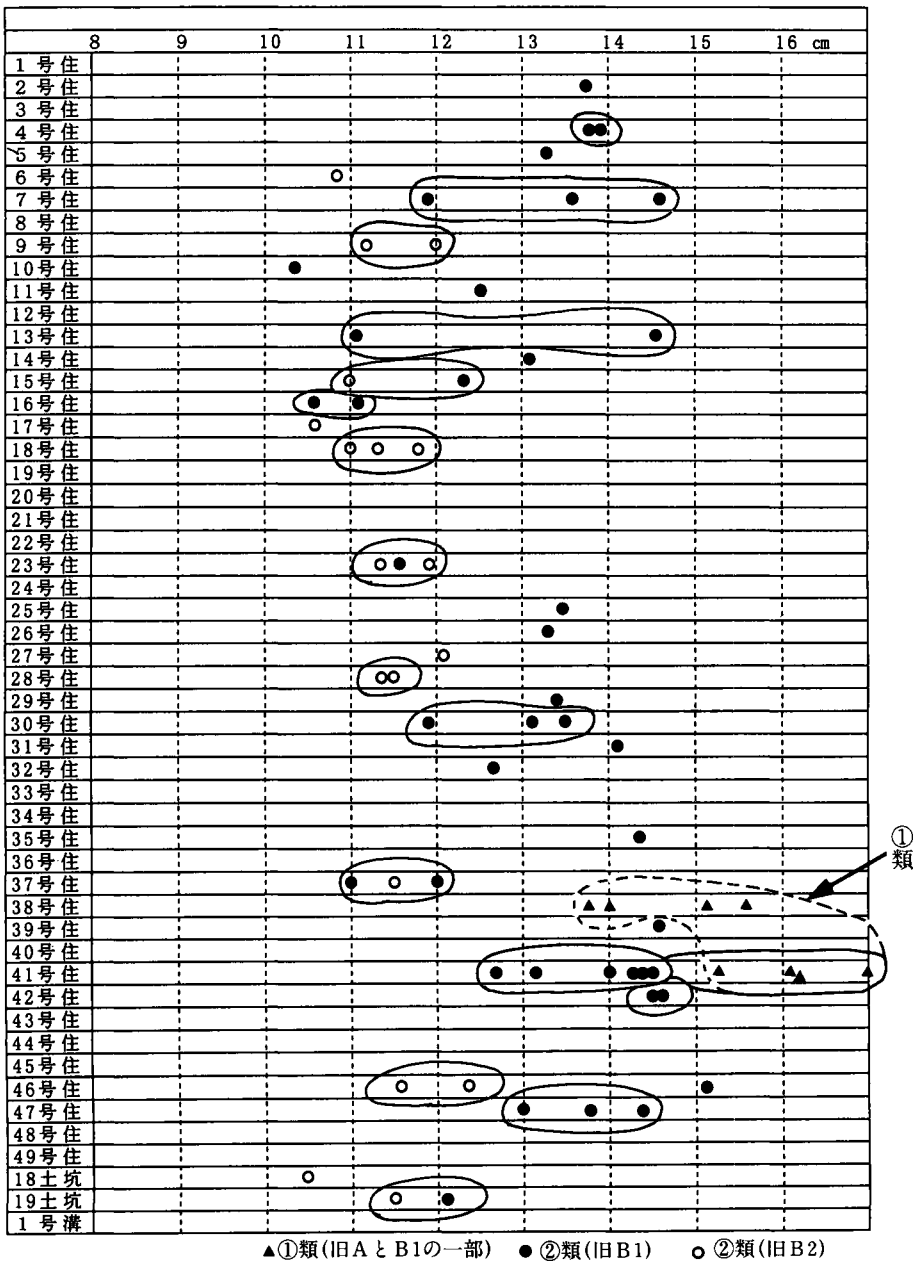
⑧類は⑦類の底部変化の視点から設定したものであるが、ここでは特に⑦類との時間的断絶は明確には認められない。

⑨類は⑤類からの底部変化を想定したが、前記してきたように、②、⑤類の小形品と伴う例が多く、この類の時期に発生した平底としたい。⑨類自体、口径等かなり多様化しており、時期差よりも用途差も考えられる。




第144図　各類の共伴頻度

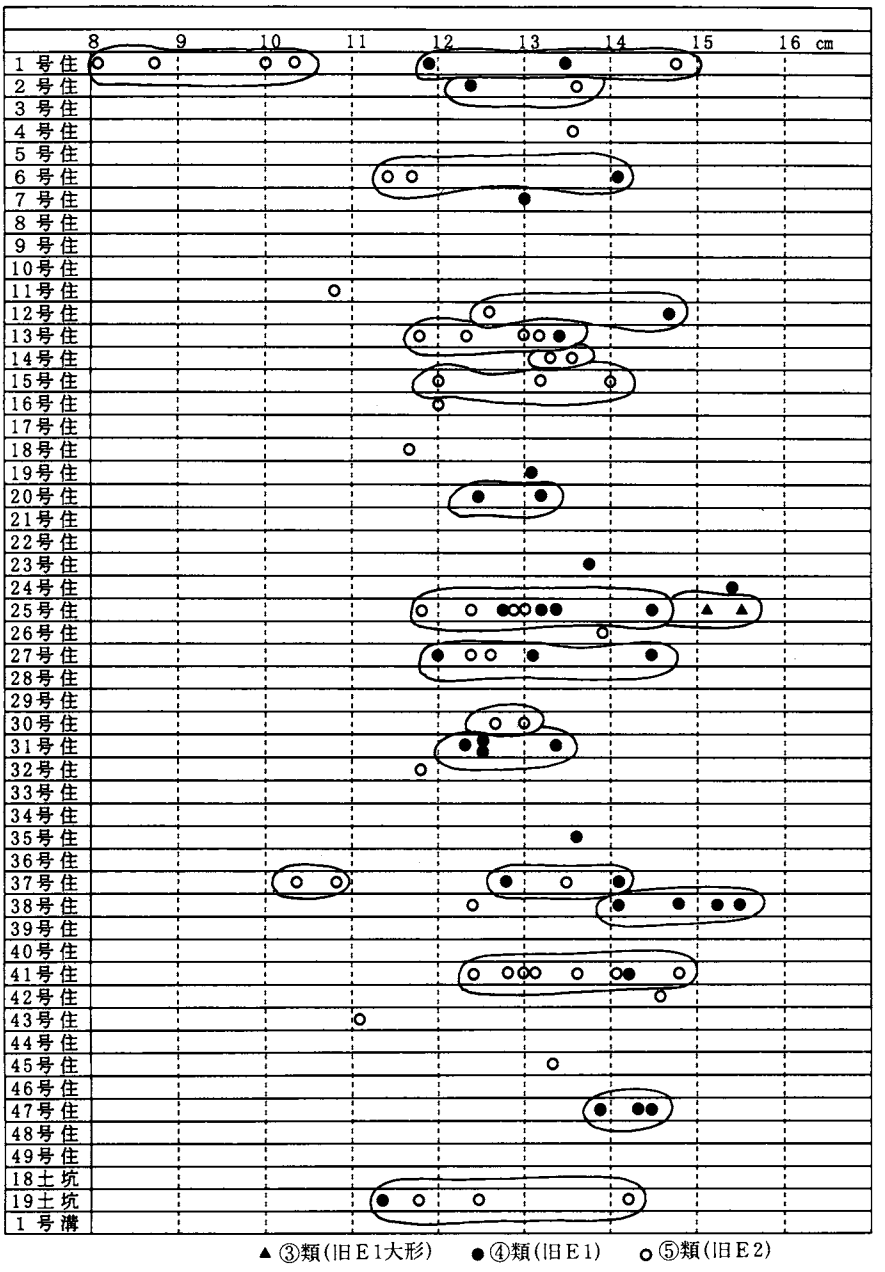
続いて第145図により、①、②類において「寸法＝口径、最大径」がどのようなまとまりで現出されているのか、を分析した。その結果、合子状坏②類は、①類を母胎とし、やがて寸法が小形化し、口縁部が退化していく（Ｂ１→Ｂ２）傾向があるが、具体的には３つの段階が想定できた。第144図では15cm前後①類を初現の段階＝第１段階とし、第２段階として12～15cmの範囲でまとまりが認められる。第３段階としては10cm～12cmの範囲であり、旧分類のＢ２（合子状有段部が退化し、稜線に近くなったもの）を主体とする時期である。量的には第１段階は少なく、41号住居跡の一括資料から考えれば２段階と重なる要素が考えられる。したがって、この３つの段階は、直線的で階段状の平均した時間の推移とは考えられない。



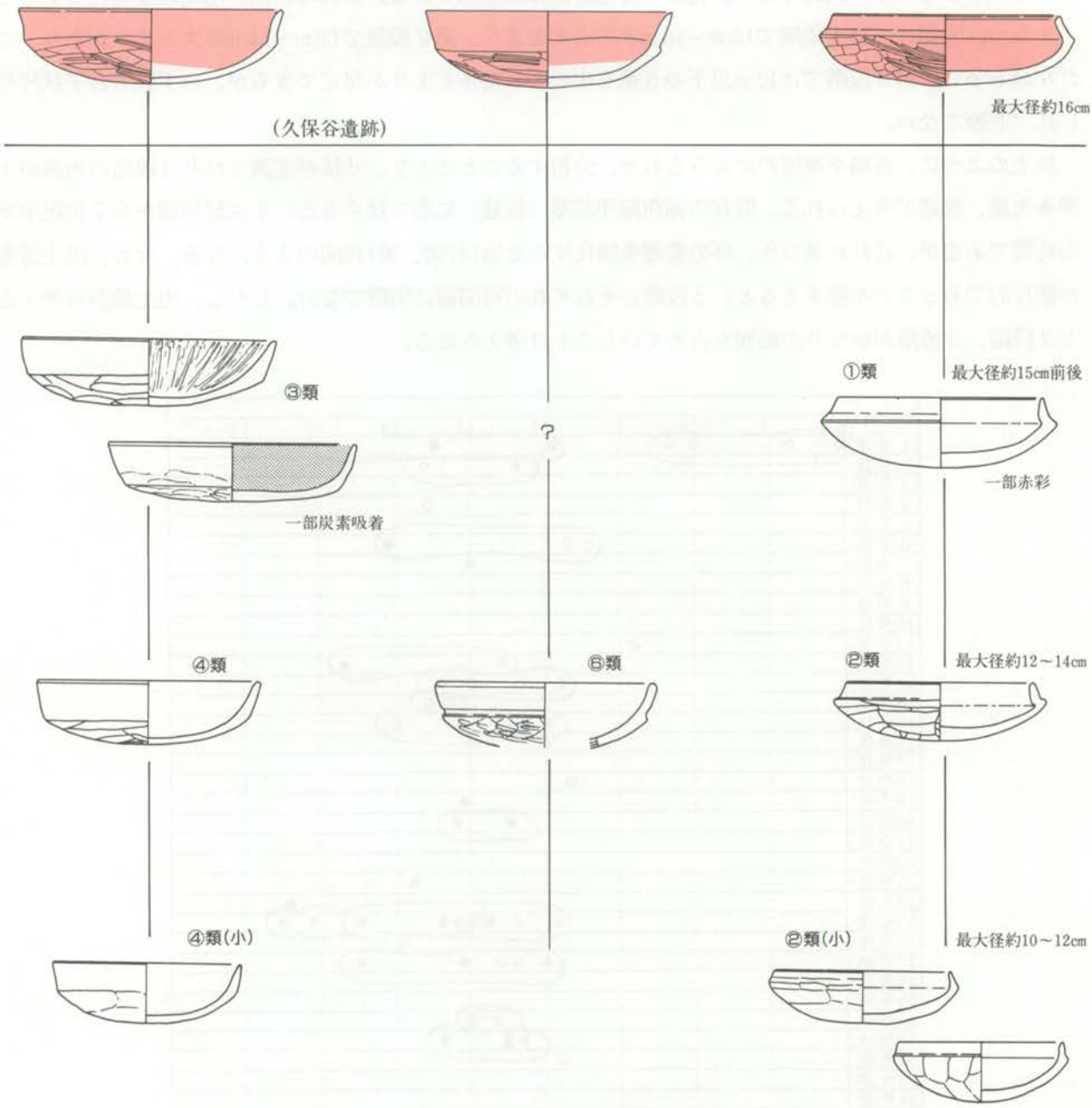

第145図　①, ②類の最大径

次に146図により③、④、⑤類の同様な状況を見てみよう。ここでは①、②類に比べ、特に⑤類は各住居跡で寸法のまとまりが明瞭でない。特に１号住居跡は典型例である。これは⑤類の用途の多様性もあると考えたい。④類は、第１段階で12cm～16cmまでのまとまり、第２段階で12cm～14cmのまとまりがあり、これが最も多い。第３段階では12cm以下の５類を中心としたまとまりが想定できるが、いずれも合子状坏類に比べ明瞭でない。

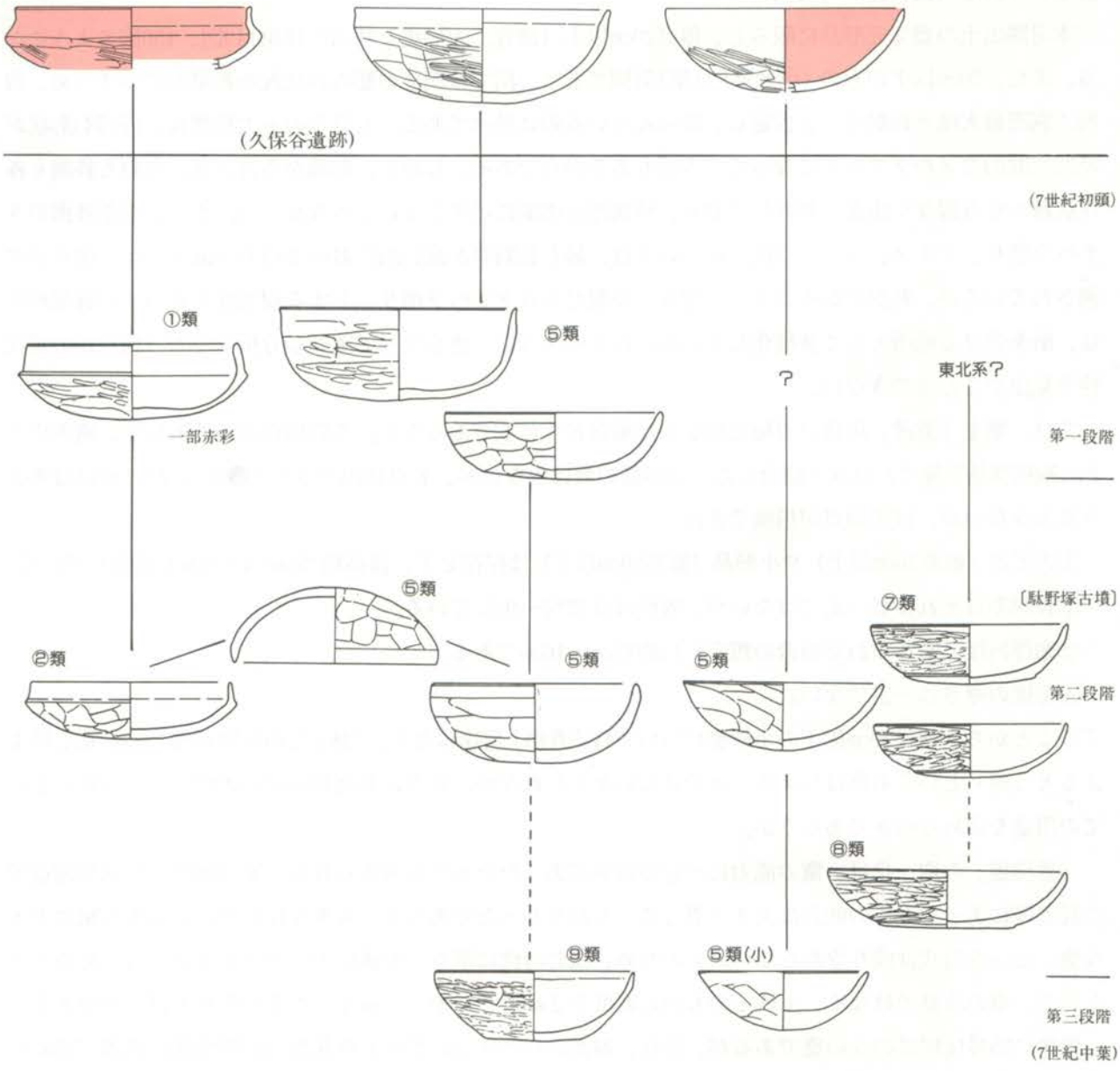
以上のように、各類を複層的にかみ合わせ、分析することにより、寸法が意識された３段階の当時の土師器生産、流通が考えられる。既存の湖西編年基準（後述）に当てはめると、７世紀初頭から７世紀中葉の範囲であるが、これに基づき、坏の変遷を図化すると第147図、第148図のようになる。なお、出土遺物が断片的であることを踏まえると、３段階のそれぞれの時間幅は明瞭でない。しかし、出土量から考えると２段階、３段階がかなりの範囲を占めていたことは考えられる。




第146図　③,④,⑤類の最大径


最大径約16cm
(久保谷遺跡)
③類
①類
最大径約15cm前後
?
一部赤彩
一部炭素吸着
④類
⑥類
②類
最大径約12～14cm
④類(小)
②類(小)
最大径約10～12cm

第147図　坏の変遷(1)


(久保谷遺跡)
(7世紀初頭)
①類
⑤類
一部赤彩
?
東北系?
第一段階
⑤類
⑦類
〔駄野塚古墳〕
②類
⑤類
⑤類
第二段階
⑧類
⑨類
⑤類(小)
第三段階
(7世紀中葉)

第148図　坏の変遷(2)

（g）その他の器種について

①甕について（第149図～151図）

本遺跡出土の甕で完形品に限ると、器高20cm以上（便宜上大形甕と呼ぶ）は第149図、150図のようになる。また、20cm以下のもの（小形甕）は第151図である。図では胴部の膨らみ状況を数量的に示すため、器高÷胴部最大径＝長胴率、と仮定し、膨らんでいる順に並べてある。と言うのも大形甕は、「長胴」形状が時間空間的なメルクマールになっている感もあるからである。しかし、結論から言えば、丸胴も長胴も各住居跡から万遍なく出土、共伴しており、時期差を明瞭に示すことはできなかった。また、胴部外面のタテヘラ削り、ナナメ、ヨコヘラ削りについては、最も長胴率が高い34においてのみ外面タテヘラ削りが強調されているが、丸胴だからヨコヘラ削り、長胴だからタテヘラ削り、とする規則性もない。口縁部形状は、甑を受ける場所として多様化している。以上のように、甕をすべて羅列し分析しても、何らかの規則性を見出すことはできない。

では、甕を「煮沸」用途の器種と限定した場合どうなるであろうか。この場合の条件として、竈内出土品（袖補強品を除く）のみを抽出した。完形品の数は少ないが、8点抽出できる（●印）。統計的にはあまりにも少ないが、以下の点が指摘できた。

①大形品（器高30cm以上）や小形品（器高20cm以下）は存在せず、器高約25cm～約28cmと近似している。

②長胴率はそれほど一定ではないが、容積はほぼ均一化している。

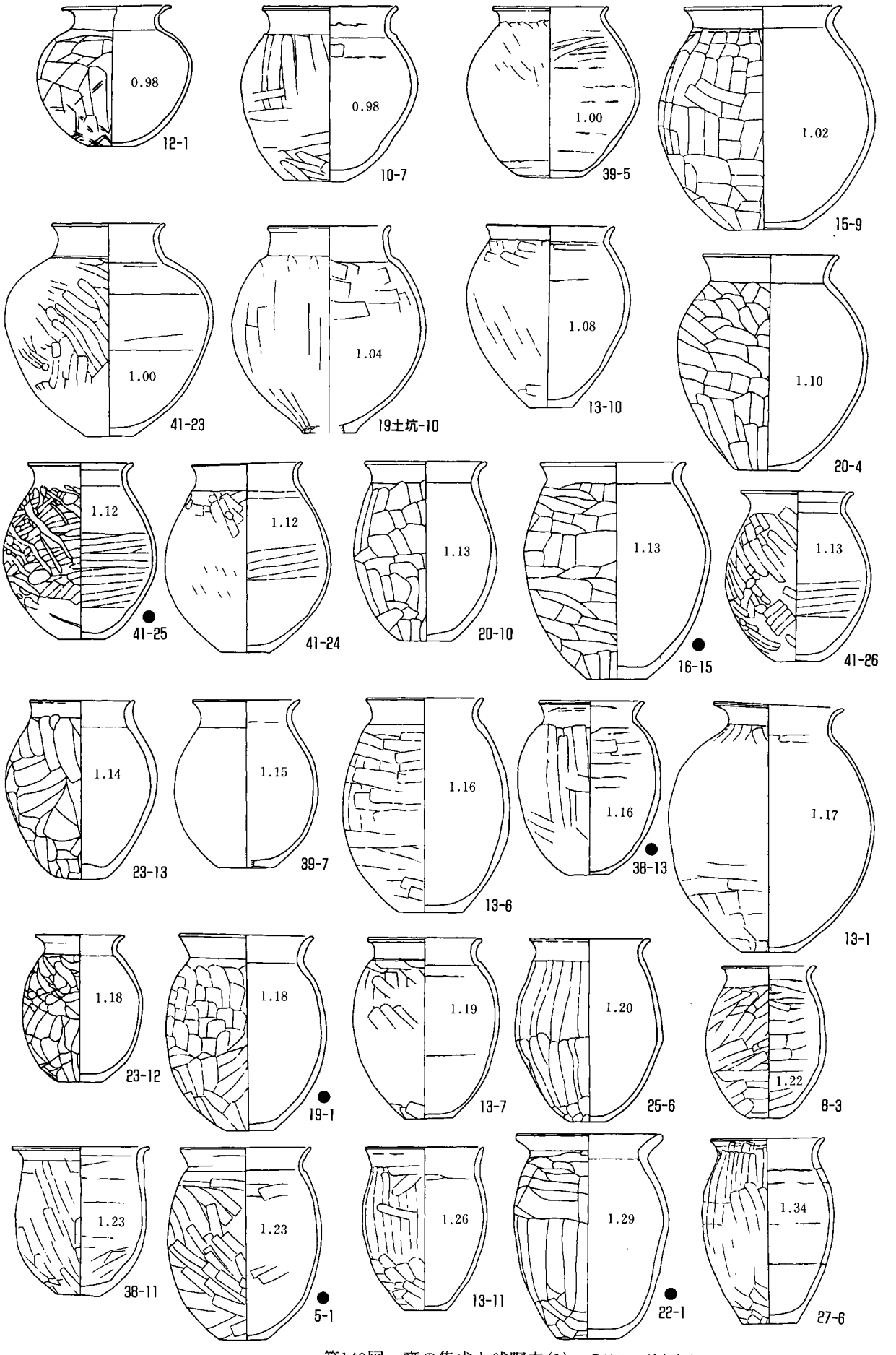
③頸部内径（甑を重ねた場合の想定）は約12cm～16cmである。

④器壁の厚さは一定でない。

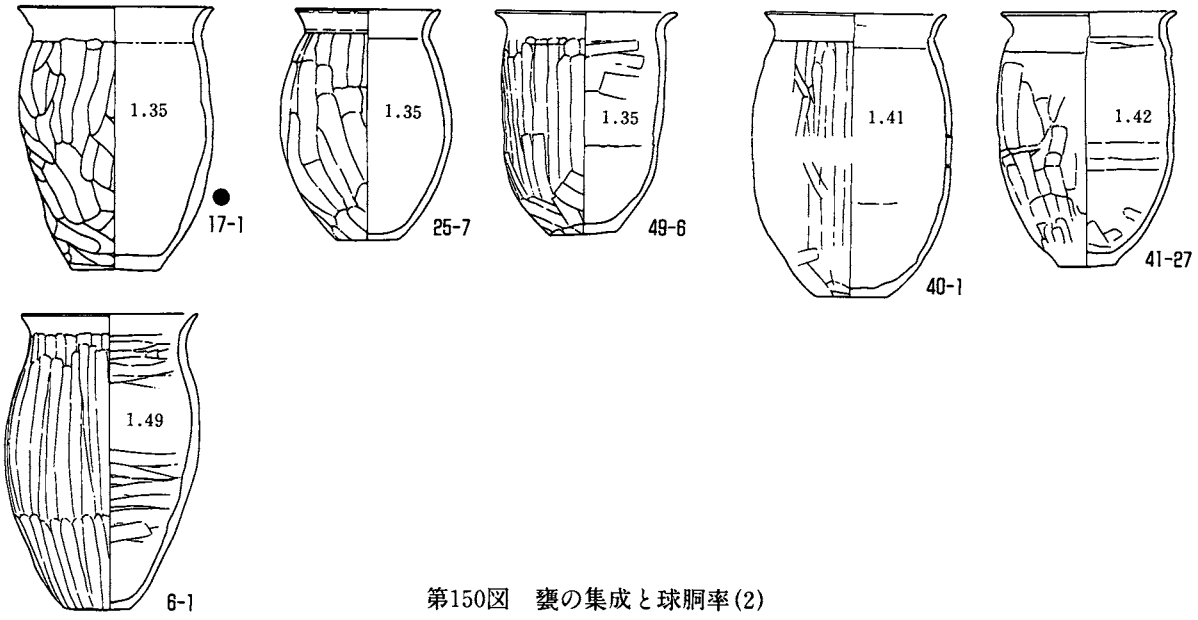
このことから、特に20cm以下の小形甕については「煮沸」用途はなく、「鉢」との区別が難しい形状も踏まえると「甕」という名称は与えるべきではないかもしれない。さらに器高40cm近い大形品も「貯蔵」としての用途を認めるべきであろうか。

「煮沸甕」の均一化は、竈の能力に一定の限界があったためとも考えられる。竈の容積、形状や煙道部の長さ等によってもその能力は大きく異なることがなかったであろう。大きな住居だから大きな竈に大きな甕、という図式は成り立たたない。そのため、後の時代に至り、煮沸能力、熱効率を高めるための手段として、竈の改良ではなく、土器そのものの器壁を2㎜近くに削って薄くした甕を作り上げたのである。

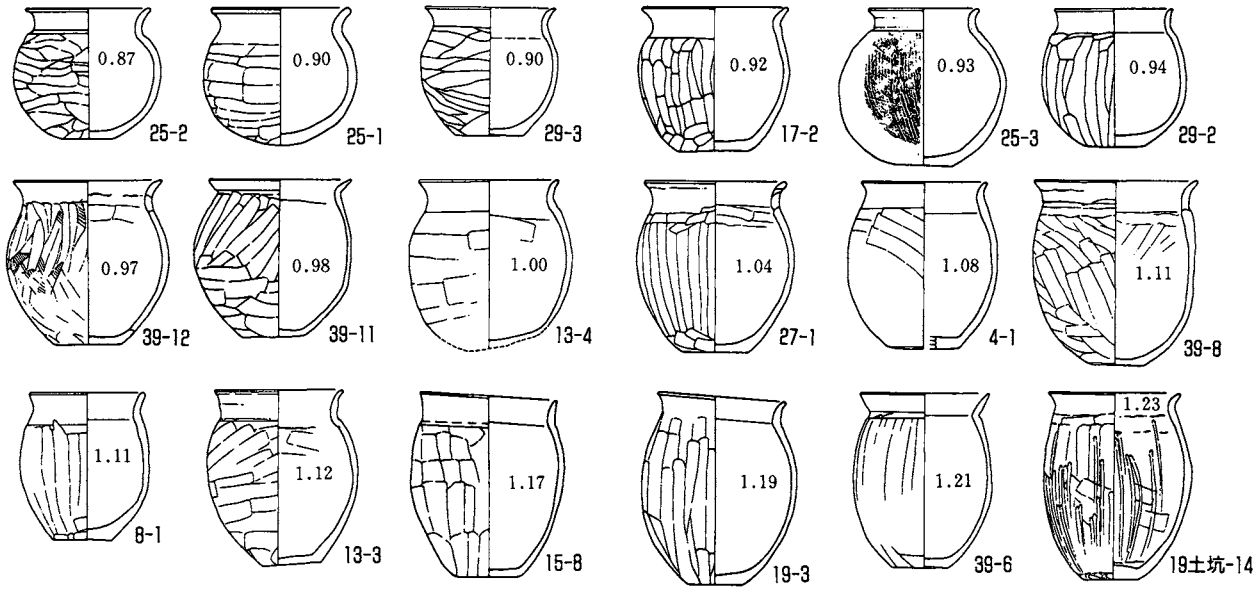
最後に25号住居跡の3の甕であるが、形状、器面のハケメはいずれも東北地方南部地域に系譜が認められる。坏同様の視点が必要であろう。




第149図　甕の集成と球胴率(1)　●はカマド内出土



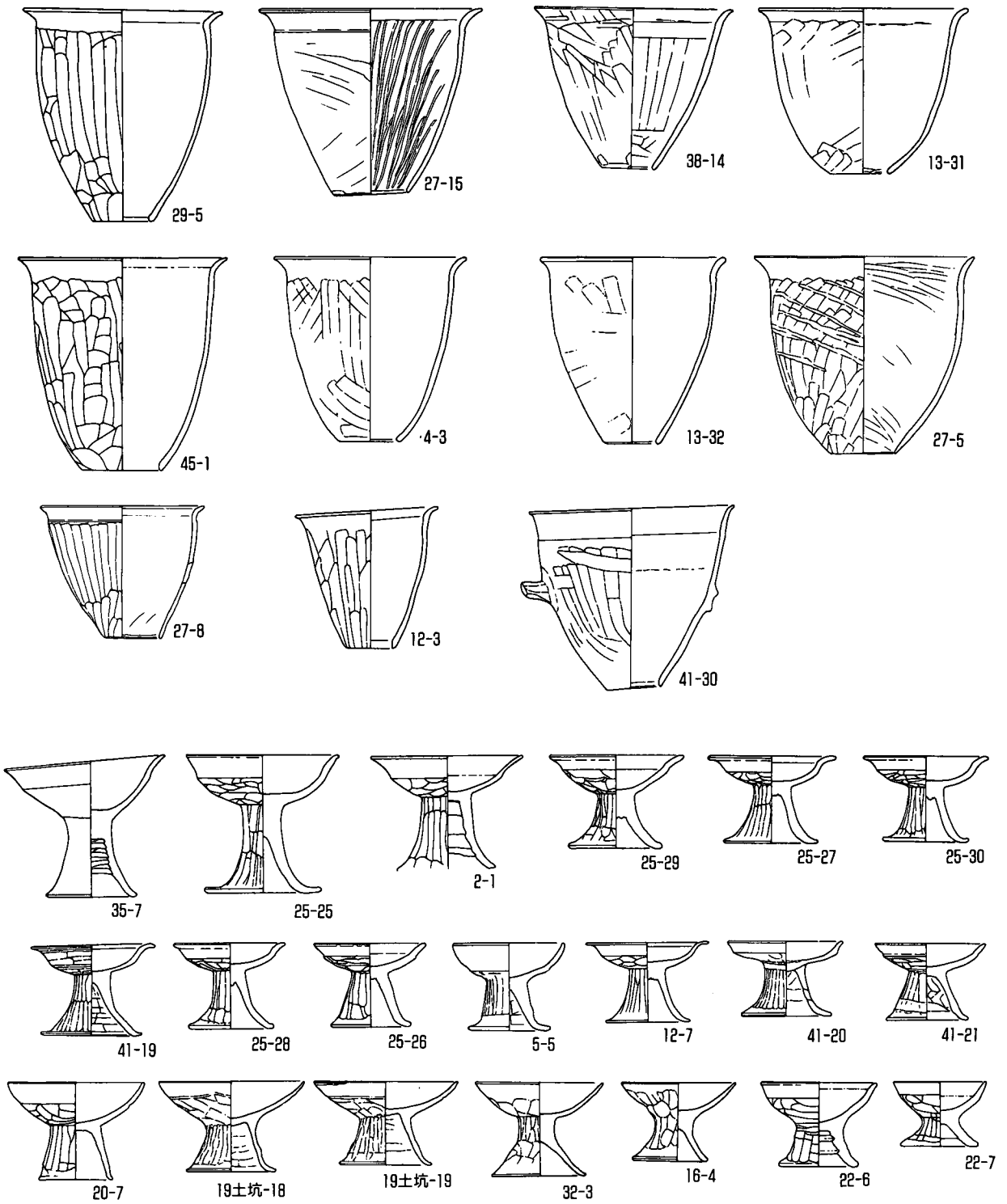

第150図　甕の集成と球胴率(2)




第151図　小形甕の集成と球胴率

②甑について（152図）

甑は土師器の中でも用途が限定できる数少ない器種である。形状はいずれも緩やかな逆ハの字を呈してはいるが、容積、底部内径等多様化している。しかし、いずれも前述した煮沸甕の頸部内径の範囲（12cm～16cm）で直立することができる。大形の27-5であっても頸部内径が16cmあれば物理的に直立できる。なお、破片を復元しても図示した以上の大きさの甑は存在しない。この点からも竈内には特に大形の甕は設置されなかったと考えられる。また、41-30の把手は当然ではあるが、煮沸甕の口縁に架ける用途ではなく、甑を持つためのものである。




第152図　甑と高坏の集成

③高坏について（152図）

完形品で図示できるのは第152図のみである。形状、口径、器高、塗彩において多様化しているが、概して、赤彩が残る35ー7に代表されるように、大形で坏体部に明瞭な稜線を持ち、口縁部にかけて外反し、脚の裾が開く丁寧な作りのもの（A）と、椀状の坏部で器高が低く、成形も粗いもの（B）に2大別できそうである。両者については出土状況の違いに注目したい。Aを多く出土した25号住居跡は大規模で、須恵器、玉類他出土品も多く、逆にBを出土する22号住居跡は、極めて小形で貧弱である。今回の資料ではA、Bの共伴は見出せないが、それを時期差とすべきで無く、用途の違いを第一に強調しておきたい。

（2）古墳時代の須恵器について（第153図）

湖西地方、陶邑等の搬入品かどうか、それらの地域の代表的な研究者の鑑定を経ていないが、先学の指導を得たため[4]できる限りの型式観を提示していきたい。なお、型式名、実年代は後藤健一氏の1989年及び1995年の業績[5]に、基づいている。

①合子状坏身（第153図1～8）

遺存度が良好な8点を対象にする。内2点（7，8）は胎土、焼成から判断して除外するが、他は湖西産としたい。後藤氏による型式分類では1は最大径（12.8cm）からすると、6世紀末から7世紀初頭とかなり古くなる。しかし、いわゆる底部「渦巻き状ヘラ削り」は見られず、むしろ底部ヘラ削り自体が簡略化されている。したがって、もう少し年代的に新しくしたほうが良いと考えたい[4]。2～6は「合子状坏身D」の最大径9～12cm、器高3～4cm、底部同心円状ヘラ削りであり実年代は7世紀初頭から7世紀初頭から中葉（湖西II期第5、6小期）となる。

7，8の産地は不明であるが、法量、成形技法で比較すると湖西II期第6小期＝7世紀第2四半期になる。

②合子状坏蓋（第153図9、10？）

9は最大径9.4cmと小形である。天井部と口縁部の境に稜線を施すタイプの合子状坏蓋D3に比定され、湖西III期第1小期＝7世紀中葉となる。天井部は同心円状の回転ヘラ削りである。一方、10は坏か蓋か判断できない。

③蓋付無台坏（10？、11～14）

通常の「坏」でなく、直立もしくは内わん気味に開く口縁部形状から蓋付と判断した。10は遺存度が不良のため口径については極めて不明瞭である。復元数値では口径12.1cmと大形となり、湖西編年では7世紀第3四半期になり、他とややかけ離れる。11、12は湖西III期第2小期前＝7世紀中葉から第3四半期で、13はIII期第1小期＝7世紀中葉に比定される。いずれも①，②の合子状坏身、坏蓋のセットよりもやや新しい様相を示している。しかし、10をはじめ、蓋との区別が困難である。

⑤かえり付坏蓋（第153図14）

破片で1点出土している。復元数値では最大径が11cm前後と思われ、湖西II期第6小期＝7世紀第2四半期となろうか。

⑤瓶（第78図32）

湖西産であるかどうか判断できない。類例からすれば陶邑産とも考えられる。そうであるならば、年代観が最も大きくかけ離れるものである。残存する頸部の角度からして、ラッパ状に大きく開く長い頸部のものか、あるいは短いものなのか、極めて微妙である。しかし、頸基部が太く、最大径が体部高1/2よりや

や上部にある点、カキメ、ヘラ削り等の状況からして中村陶邑編年[6]のII型式の第2～3段階に比定されることが考えられる。となれば既成実年代観で言えば6世紀中葉であり、前述してきた他器種と約1世紀のズレが生じている。

⑥台坏椀（第73図2）

第153図7，8と同一焼成、胎土で同じ産地と考えられる。形状的には仏教遺物としての金属器の模倣の可能性がある。千葉県内はじめ、周辺地域にも類例は乏しい。

陶邑で考えるとIII型式第1段階に、宇治市隼上り瓦窯跡[7]でも7世紀前半に類似品が出土している。焼成、胎土の状況からそれらの地域産とは思われないが、時期的な整合性はあるかもしれない。

⑦19号土坑一括品について（第110図）

19号土坑は須恵器各器種が一括して廃棄された遺構である。1は湖西、陶邑共に類似品があり、概ね両者の年代観は一致し、7世紀前半の範囲には当てはまる。2は類例に乏しい。形状的に「長頸壷」としたが、この器種は、文様と言っても古い時期に口縁部凸帯か浅い沈線がある程度で、ほとんど無文が多い。また、自然釉も多く、体部のヘラ削りも指標とされている。しかし、2は平行タタキ、円弧タタキカキメ、沈線、を全面に施しており、むしろ甕（6，7）に共通する技法である。頚基部も長頸壷にしては太く、色調も3の長頸瓶と比べても黒色度が高く、焼成もやや甘い。湖西、陶邑以外の産地を考えたほうが妥当かもしれない。

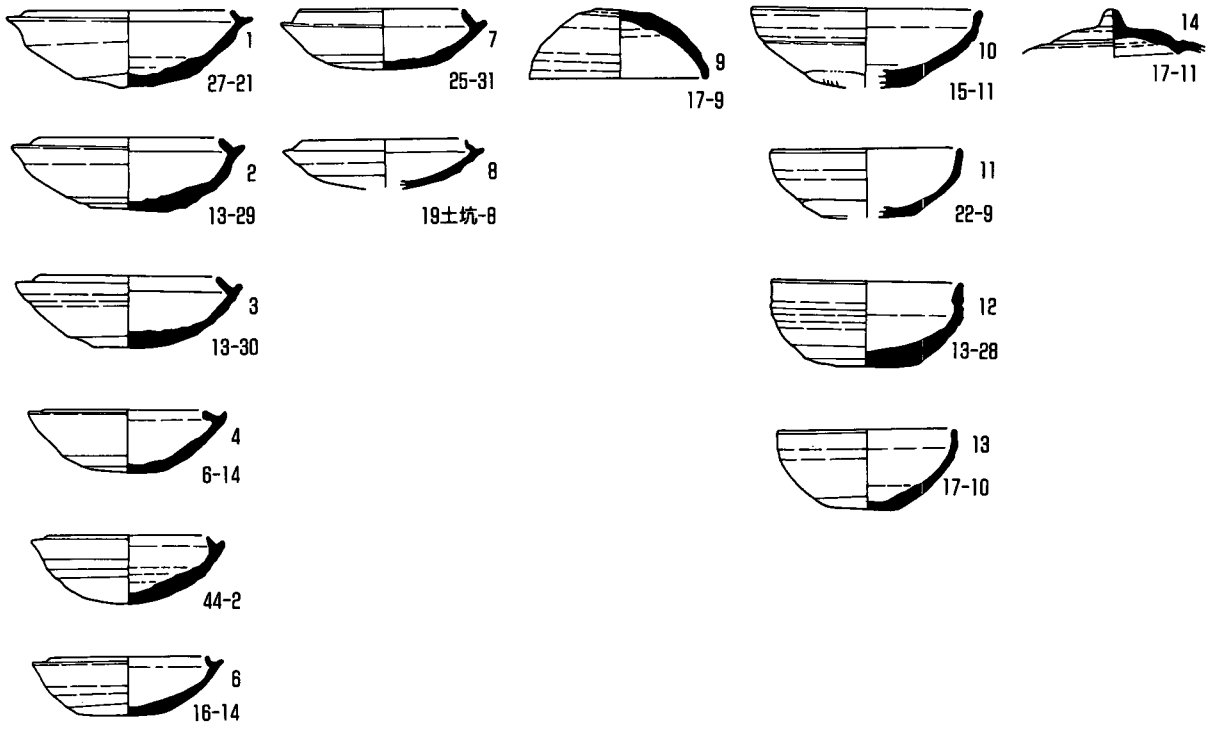
年代的な推定も不可能であるが、仮に湖西編年で考えると、2のような丸底のフラスコ状の長頸壷自体は、7世紀初頭から7世紀第3四半期までの所産とされている。一方、文様構造を甕に置き換えると、西笠子64号窯に類例が存在し、最も古いもので第2期第3小期＝6世紀後半までさかのぼってしまう。

3は典型的なフラスコ状長頸瓶であり、口縁部、頚部が不明であるが湖西第II期第5小期＝7世紀第1四半期と考えたい。4は湖西産とは断定できず、陶邑TK43型式（6世紀第3四半期）に類例を求められる。5～9は胎土、焼成、色調が近似し、湖西産と考えたい。湖西の甕は無文のものも多く、文様の有無による年代観は危険であるが、6の列点文、9の明瞭な波状文は合子状坏蓋が存在している時期に多いようであり、湖西III期第1小期（7世紀中葉）を下限としている。ただし、この時期の甕の指標でもある口縁部から頚部の凸帯は本例にはない。類例としては湖西第2期第4～6小期にあり、概ね6世紀末～7世紀前半の広い年代観しか与えられない。8は①項で記した。

以上のように、19号土坑には、複数の産地の幅広い年代観の須恵器が同時に廃棄されている。廃棄の同時性は、製作、使用期の同時性とは基本的に異なるものの、50年以上の既存年代観の違いには注目したい。各住居跡出土須恵器にも、⑤の瓏は別格であるが、ある程度の年代幅（7世紀初頭～中葉）が看守される。重要な点は、土師器の型式学的研究の結果得られた相対年代観と、須恵器の実年代観の整合性である。例えば、実年代観の異なる須恵器を出土している6号と27号住居跡、15号と17号住居跡等では、数多く出土した土師器の内容を見れば、相対的な年代差を強調できない。住居跡の「一括遺物」の判断は混入品の見極めも重要であるが、縄文土器や陶磁器を除外するが如く須恵器を見極めることは、実際上極めて困難である。

古墳時代に須恵器を在地で生産していない条件を考慮した場合、型式学的研究が可能な程の多量の須恵器が伴出した場合は別であろうが、単発出土品を土師器の四半期、あるいはさらに細かい実年代編年のメルクマールとすることは危険である。特に本遺跡の場合、須恵器が住居跡同士で接合する例がいくつかあ

り、土師器との一括性にも疑問が呈されている。したがって、本遺跡の場合は、概ね7世紀初頭から中葉にかけて、畿内、東海及びその他第3の地域との須恵器ルートがあったことは想定できるものの、それ以上の検証はできない。




第153図　主な出土須恵器

（3）駄ノ塚古墳との接点

駄ノ塚古墳は2つの実年代観が与えられている。一つは杉山晋作氏の、主に鉄鏃の視点から想定される6世紀末という説、もう一つは白石太一郎氏の陶邑編年に基づく7世紀初頭（610年代）説である[8]。これらに直接言及することはできないものの、本遺跡出土遺物との比較は必要である。そこから駄ノ塚古墳との接点を探って見たい。

（a）出土遺物での接点

「銅地金張帯先金具」（6号住居跡の15）が本遺跡から1点出土している。用途は不明であり、馬具であるか否かも分からない。駄ノ塚古墳では馬具としての「鉄地銀張爪形金具」が36点出土しているが、本遺跡例の幅2.6cmに比べ、いずれも一回り小さく、板状の鉄板に薄い銀板をかぶせたものである[9]。本遺跡例は地金は銅製と思われ、蓋状に細工されており、より丁寧な作りと言えよう。鋲も銅製であり、2mm四方程の方形の裏金（駄ノ塚古墳例には確認できていない）が残存していた。裏金には皮の一部がこびりついて

いる。本製品が馬具か人間の帯金具なのか明瞭ではないが、製作技法等から、大形の前方後円墳最終段階での古墳出土品に類例がある[9]。

耳環（16号住居跡の19、17号住居跡の12）は2点とも小形である。銅芯に金張りをしたものか、塗金（金メッキ）したものか明瞭でないが、ほとんど同じ大きさの耳環が駄ノ塚古墳からも出土する。駄ノ塚古墳例では銅芯に薄い金板を巻く技法である[9]。

鉄製品としては鉄鏃（8号住居跡の24、16号住居跡の17、18、30号住居跡の11、37号住居跡の15、20号土坑の2）があるが、いずれも銹化が著しいため明確ではないが、16号住居跡例の2点は、共に関にかえりを持つ無頸式と思われる。杉山氏の指摘では6世紀後葉代にさかのぼるものである[8]。30号住居跡例は、通常、大形の鉄鏃にある身の孔があり、興味深い。駄ノ塚古墳では類例がなく、機能的側面から見れば「木の柄に紐を通してしっかりくくりつける」ための孔であろう。駄ノ塚古墳では「副葬品」、本遺跡では「実用品」としての性格が看守される。鏃身自体の形状は16号住居跡例同様である。37号住居跡例は直角関幅狭で長身と言える。これも杉山氏によれば7世紀には入らない所産と言えようか。一方、20号土坑例のみ新しい様相とされる。小形であるが幅広で7世紀前半代に比定されている。

その他、鉄製品は刀子が2点（17号住居跡の14、25号住居跡の62）、鎌が3点（25号住居跡63～65）、鉄斧が1点（18号土坑の2）、和釘が一点（26号住居跡の5）、環状金具が1点（38号住居跡の23）出土している。いずれも古墳時代の所産として問題はないが、ほとんどが欠損品であり、型式上の言及はできない。また、駄ノ塚古墳との関係で言及しておくべき特記事項もない。一方、いくつかの住居跡から鉄滓が出土するが、量的には少ない。椀形滓等図示できるものもなく、関連遺構の検出もない。しかし、羽口が30号住居跡より出土しており、本遺跡南側に延びる集落には、何らかの製鉄関連遺構の存在を予想させる。

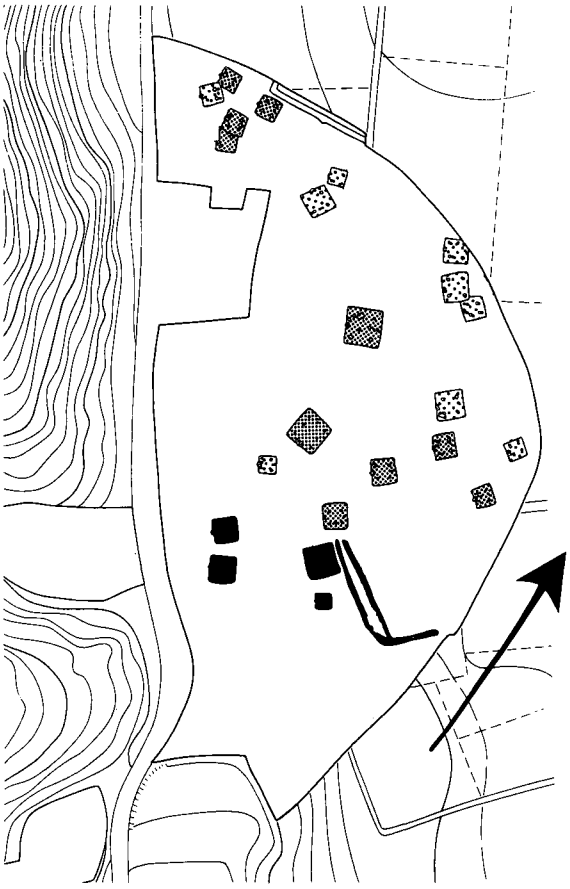
石製品、土製品では、多くのガラス玉、珪岩製管玉（3B－67グリッド表採）、蛇紋岩製勾玉（6号住居跡の17）、めのう製勾玉（25号住居跡の43）が本遺跡の代表的装飾製品であるが、一方で土製の模造品（特に勾玉）が極めて多いことにも注目したい。駄ノ塚古墳では「琥珀」「水晶」「めのう」と言った石材が見られるが、めのうが共通するほかは、本遺跡では全く取り入れられていない。

最後に土器であるが、土師器は本遺跡で主体的に多く出土する②類と⑤類であり、報告者は鬼高Ⅳ式に比定されている。須恵器は陶邑産と湖西産とされており、白石氏はＴＰ209型式の細分から、7世紀初頭（610年代）の位置づけを行っている。

（b）集落の年代観と駄ノ塚古墳の位置（第154図）

先の土師器の相対年代観を3段階に時期区分したが、それぞれの土器を含む主な住居跡をいくつか色分けし、土師器以外の出土遺物の共通性等も補足すると、第154図のとおり、住居の立地の変化が認められてくる

第1段階には38～42号住居跡、1号溝が伴っていたと考えられる。台地先端部の47号住居跡も含め、台地南西地域に広がる集落が想定できる。第2段階は先の分類により、7，13、30号住居跡を抽出できる。さらに、7号住居跡は2，5，6，号住居跡と規模、主軸が酷似しており、こうしたまとまりを補足しながら考えると、第1段階から集落が東へ移動していく状況が看守されてくる。第3段階はさらに東へ移動する。9，15、16、18、23、28号住居跡が代表的である。今回の資料は断片的であることを踏まえても、こうした移動傾向は注目に値する。



第154図　集落の移動

なお、7世紀初頭から7世紀中葉の既存年代観を持つ本遺跡の須恵器群は、第2段階から第3段階にまたがって出土している。また、駄ノ塚古墳に共通する2点の耳環は第3段階、鉄鏃は2～3段階に出土する。駄ノ塚古墳出土の土師器は、本遺跡では第2段階に比定されよう。以上のことから駄ノ塚古墳は本遺跡の第2段階には築造されていたことが考えられる。この段階は13、25号住居跡という大形住居が存在し、須恵器の搬入が盛んになった頃と想定される。それ以後、第3段階まで、装飾品等も、駄ノ塚古墳の模造品のような土製品を主体として、集落内でも定着したようである。

以上のように駄ノ塚古墳の位置を本遺跡第2段階に位置づけると、第1段階を（既存の湖西編年で）7世紀初頭した場合、それ以降、中葉以前、ということなる。しかし、第1段階の時間幅はかなり狭いことが想定されるため、駄ノ塚古墳は概ね7世紀初頭の築造としておくべきであろう。

注1㈶千葉県文化財センター1992『古墳時代（2）』房総考古学ライブラリー6
2当センター小林信一氏が指摘している。
3久保谷遺跡は本遺跡同様、千葉東金道路（二期）事業地内の調査であり、現在報告書刊行中である。
4原田享二氏、村山好文氏の御指導による。
5後藤健一1989　『静岡県の窯業遺跡』「静岡県文化財調査報告書第42集」
後藤健一他1995　『須恵器集成図録第3巻　東日本編』雄山閣出版
6注5、後藤他1995、87項の編年対比表に基づく。
7宇治市教育委員会1983『隼上り瓦窯跡発掘調査報告書』
8白石太一郎、杉山晋作1996「千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告書」『国立歴史民俗博物館研究報告第65集東国における古墳の終末《附編》』
9注8、大久保奈奈「装身具」「考古学的考察」

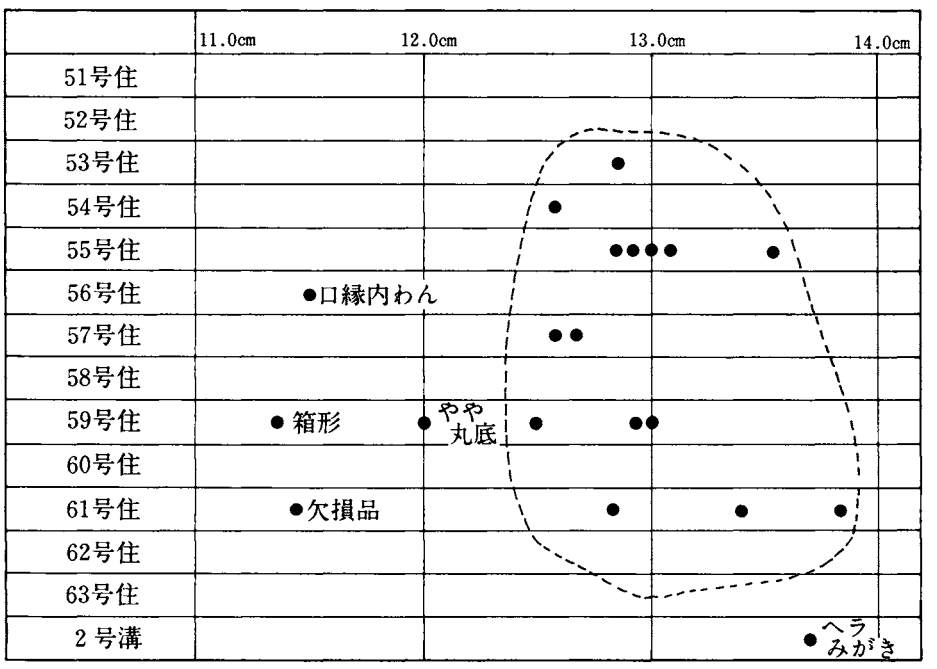
## 4．歴史時代

### （1）歴史時代の土師器について

#### （a）坏について（155図）

歴史時代の土師器のほとんどは坏である。これらは「ロクロ使用後の体部調整」、「底部成形」、「口径、形状の規格性」の3要素に視点を置くことができる。古墳時代で重要な要素となった「塗彩」については該当例がない。「ロクロ使用後の体部調整」ではいずれも「手持ちヘラ削り」が施されている。その範囲が体部上部まで及ぶか下部のみか、が異なっている。「底部成形」でも共通性が強い。ほとんどが切り離し技法は不明であるが、内側に凹み気味になる形状は、回転糸切りの特徴と言え、それを平らに補正するための手持ちヘラ削り（1方向）が施されていると考えたい。完全に回転糸切りのまま、というものは存在せず、27号住居跡出土品（20＝混入品）のみ、それに近いものの、回転糸切りによる切り離しがたまたま平坦にできたため、ヘラ削りが僅かですんだものと言える。59号住居跡の2においては回転糸切り後、粘土板を貼り付けヘラ削りを行うという底部補正すら行われている。ここに、回転糸切り技法をあくまで制作、成形上の一過程とし、伝統的な「ヘラ削り」を主体とする型式学的属性を認めることができる。

「口径、形状の規格性」は第155図の点線内の12.5cm～13.8cmの範囲のものは、形状的に、僅かに外反する口縁部と直線的な体部を持ち、底部は平坦もしくは僅かに凹み気味である。底部径と口径の比は、底部径が比較的大きく、口径の1/2以下のものはない点があげられる。




第155図　歴史時代土師器坏の最大径

（b）年代観について

該時期の実年代研究はかなり進んでいるが、冒頭で述べたように、浅学ゆえに本稿で上記の土器の実年代を、現時点で細かに断定するつもりはない。と言うのも、当地域周辺には多くの資料が蓄積されており、（1）で示した型式学的属性の相対的検討等を、筆者自身がまず行うべきだからである。しかし、怠慢ゆえに先学の業績の一部を拝借すると、東金市妙経遺跡ＳＩ078住居跡一括品に、第155表の点線枠内の坏のほとんどが存在していることがわかる[1]。幸いなことに妙経遺跡例では須恵器の伴出もあり、報告者によれば、須恵器の多くは中原窯等の下総産と少量の永田不入窯産が認められると言う。このことから報告者は9世紀前半の実年代を提示されているが、（1）で示した諸要素について、相対年代研究として当地域の資料同士でさらに深めれば、より細かな実年代観も与えられるかもしれない。なお、第155表の点線枠外のものについて、2号溝（方形周溝遺構？）出土品は、次項で述べるが、内面にヘラ磨きが残る平底坏であり、年代的にかなり遡ることが指摘される。

（2）巨大な掘立柱建物跡と直線的な溝の時間差。

巨大な1号、2号掘立掘立柱建物跡と直線的な2号溝、5号溝（以下「掘立等」）について、発掘調査担当者である半澤幹雄氏は、これらをまとめて「武射（むさ）郡衙関連遺構」と推測し、既に私見を述べられている[2]。以前から本遺跡周辺は「真行寺廃寺」や「駄ノ塚古墳」と言った地域を代表する遺跡が存在し、真行寺廃寺の「武射寺」の墨書出土から、郡衙推定地を本遺跡周辺に求めようとする議論も高まっていた[3]。ところが、最近になって、冒頭でも述べたように、近接する嶋戸東遺跡の発掘調査が行われ、同様に巨大な掘立柱建物跡を中心とする遺構の検出があり、これにより、郡衙推定地の議論は見直しが必要となってきた。

結論から言えば、本遺跡の「掘立等」を郡衙関連遺構とすることは現状では難しい。その理由に、半澤氏も認めている資料的な乏しさもある。郡衙関連の「可能性を示唆」することは、乏しい資料でも考古学的裏付けがあれば説得力があるが、「掘立等」を時間、空間的にひとまとめにした説にはかなり無理がある。また、「掘立等」が「7世紀末から8世紀初頭にかけてそれ以前の集落を排除する形で造営され・・」と説明されたが、「集落を排除する形」という「征服的」な発想は具体的にどのようなものなのか、説明がつかない。さらに、遺跡を区画するとした直線的な溝（5号溝）は途中で消滅する不定形である。1，2号掘立の掘り方はすべて円形で、間尺は6尺以下である。墨書土器の出土もほとんどなく、金属製品等も出土していない。主軸の視点は当然重要であるが、本遺跡は古墳時代後期より新しい遺構は、近世の遺構を除けばすべて北北東、北北西と「北」を意識したものであり、「掘立等」のみそれを強調すべきでない。

考古学的検証とは、具体的に提示された資料を具体的に積み上げるものであり、むしろ、第一に注目すべきは遺物を伴う2号溝である。ここでは、湖西編年で言えば8世紀第1四半期に当たる須恵器坏蓋が出土している。土師器の編年観は難しいが、口径、平底形状、底部成形を考えると、須恵器よりもさらに遡るかもしれない。いずれにしても、2号溝の時期を平安時代、9世紀等と位置づけることはできない。 次に27号住居跡出土のロクロ土師器（20）である。これは27号住居跡を切っている2号掘立の柱穴内覆土上層のもの、と整理作業によって明らかになった。この土器は先に述べたように、妙経遺跡須恵器例から判断すると9世紀前半に相当する。となるとこの時期を下限に、2号掘立は廃絶されていたことになる。

次に重要な視点は2棟の掘立が立て替えの痕跡がないことである。さらに柱穴の断面図を細かく観察すれば、1号掘立には柱痕が残るが、2号掘立はそれがなく、柱を抜き取ったと考えられる点である。おそ

らく柱穴内の9世紀前半の土師器は、この時同時に廃棄されたと考えられよう。となると、立て替えのない2号掘立の耐用年数を考えれば、それが建立されていた年代も9世紀前半から大きくさかのぼるものでは無いであろう。以上の視点から、まず、2号溝と2号掘立の想定築造時期が1世紀近く、あるいはそれ以上ずれてくることがわかる。さらに小形の3号掘立については、覆土にかなりの量で新期テフラが検出されており、1，2号掘立との違いが強調されよう。以上のような状況では「掘立等」を時間空間的にひとまとめに郡衙関連と位置づけることは、まず不可能である。

郡衙関連遺構は他例を見る限り、近接する場所での立て替えが非常に多い。これは立地に対するこだわりであり、その場所でなくてはならない背景が推察されよう。この事実は考古学的な資料の蓄積成果であり、この視点からすると、本遺跡の2棟の掘立柱建物跡は異質である。とは言え、桁行11間、20m近い掘立柱建物跡は、確かに県内においては大畑Ⅰ遺跡例[4]を除けば類例はないほど巨大である。また、半澤氏も指摘する「クリヤキボウ」の地名が「廚家」、「坊」との関連で無視できない。これらを解決するには、本遺跡南東側平坦地の状況を調査するほかないであろう。

（3）歴史時代の住居跡について

主軸はいずれも北北東もしくは北北西、一辺が2.5m～4m程の小形方形、主柱穴はなし、周溝、硬化面は明瞭である。簡潔に共通要素を示せばこのようになる。複合関係もなく、土器型式の上からは判断すれば、第155表の点線枠内の坏を出土した住居はほぼ同一時期と考えたい。また、62号住居跡が、北西の痩せ尾根部に離れて一軒だけ存在していることも、この時期の集落形態の一端かもしれない。住居跡は上記した規格性と土師器の年代観からすれば、いずれも平安時代の範疇と思われるが、54号、56号、59号の出土坏には、体部が内わん気味であり、ヘラ削りが多用されるものが含まれている。興味深いことはこれら3軒の住居にのみ、真行寺廃寺のものと考えられる瓦片が竈袖の補強材として使われていることである。これが時期的な違いを示すものかどうかは不明である。

（4）古墳時代～歴史時代（平安時代）の総括

以上を総括すれば次のようになる。

①、古墳時代後期は土師器編年では3つの段階に分けられるが、2段階と3段階が主体である。既存湖西編年を前提にすると概ね7世紀初頭～中葉に当たる。

②、第2段階の頃、駄ノ塚古墳が築造され、当集落にも構造変革があり、大形住居の出現や装飾品の生産が始まった。さらに須恵器の搬入が盛んになり、東北地域と交流も一部であったと考えられる。

③、その後、7世紀後半代は集落の断絶が想定されるが[5]、やがて2号溝（＝方形周溝遺構？）が築造された。その後おそらく9世紀に近く、巨大な掘立柱建物跡が2棟設営された。この背景には律令機構下における政治、社会体制及び仏教の定着等が想定できるが不明な点が多い。しかし、この巨大な掘立柱建物跡も建て替えられることもなく、9世紀前半には平安時代集落によって廃絶されている。

④平安時代の人々は、主柱穴のない小形の住居に住んでいたが、床面も硬化しており、一時的な住居でなかったようである。しかし、鉄製品も発見されない出土遺物から判断すると、かなり質素な生活であったと思われる。

注１糸川道行1994『妙経遺跡・井戸谷９号墳』㈶千葉県文化財センター
２半澤幹雄1994「栗焼棒遺跡出土の掘立柱建物跡について」『研究連絡紙第42号』㈶千葉県文化財センター
３栗田則久1995『シンポ゜ジ゛ウム３地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会、ひたちなか市
４石田広美1985「大畑Ⅰ遺跡の調査」『主要地方道成田安食線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
５古代の土器研究会1997　『第５回シンポジウム　古代の土器研究　律令土器様式の西・東５、７世紀の土器』ここでは須恵器の実年代を下げるべく議論がなされている。資料を見てはいないが、陶邑産、湖西産については特に言及されていないようである。総体として平行移動的に年代が下がるのか、器種ごとに異なるのか、あるいは年代幅が広がるのか等の見極めも重要である。しかし、実年代論に振り回され過ぎると、今回のように７世紀後半の資料断絶の説明も難しい。土師器の相対年代観で言えば、２号溝出土品は、他と大きく断絶するとは思われない。

（５）近世（１号塚）について

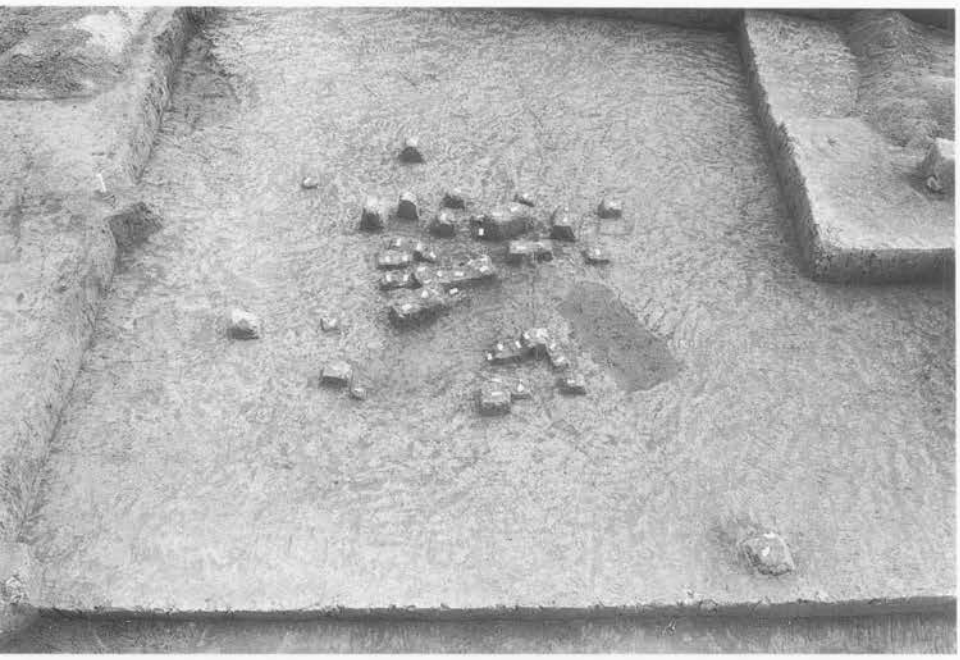
近世の所産と思われる１号塚からの古銭の出土は「供養」的色彩が強い。しかし、古銭以外の出土品や施設の痕跡もなく、骨片等も確認できなかったため、性格的な断定はできない。。

寛永通宝は、いずれもいわゆる「古寛永」と呼ばれるもので「寛」の字の12画と13画が同位置から書き出されている。「新寛永」の「ハ宝」に対し「ス宝」とも呼ばれている。古寛永は寛永13年（1636年）を初鋳としており、後に錫母銭を用いて規格的に作られた新寛永に比べ、鋳造的に書体等も多種に及んでいる。新寛永が「文」の字を付けて広まる段階（文銭）は、17世紀後半の寛文年間とも言われており[1]、１号塚から新寛永が一点も出土していない事実は、塚の年代を1636年以降、17世紀中葉までの期間に限定できるかもしれない。しかし、そうした銭貨学上の鋳造年代観を、遺跡から発見される寛永通宝にも無条件で当てはめて、年代の物差しとするには未だ危険が伴う。と言うのも、寛永通宝自体の型式学的研究が十分確立されていないからである。寛永通宝を考古学的な遺物として集成していくことからそれが出発するが、１号塚出土品はその一括性から貴重な資料となり得るだろう。

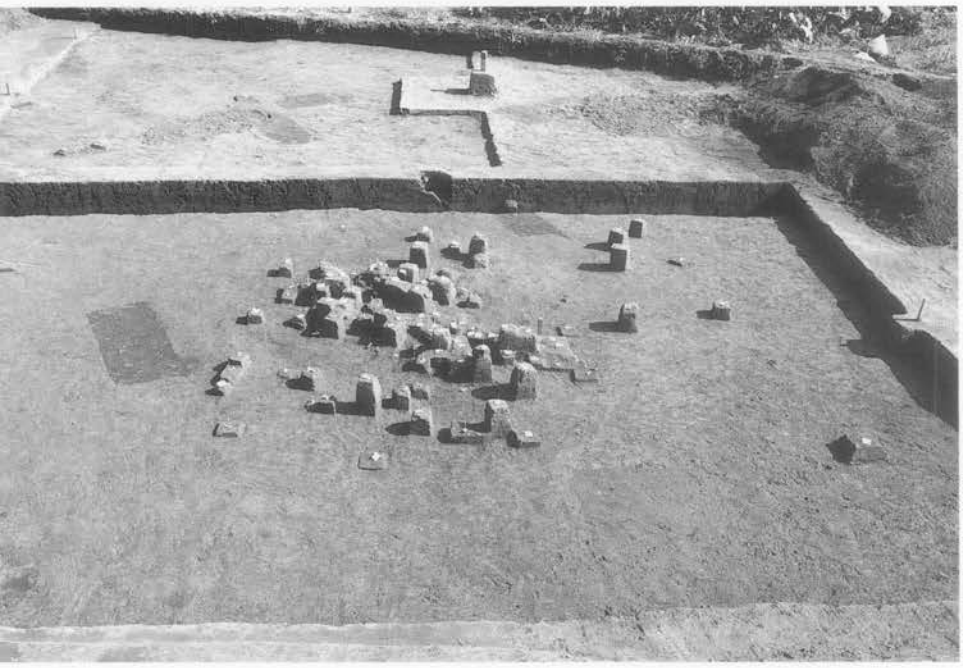
注１川根正教1995『寛永通宝銭の基礎的研究１（上)』「出土銭貨　合冊」出土銭貨研究会

# 写真図版

栗焼棒遺跡遠景

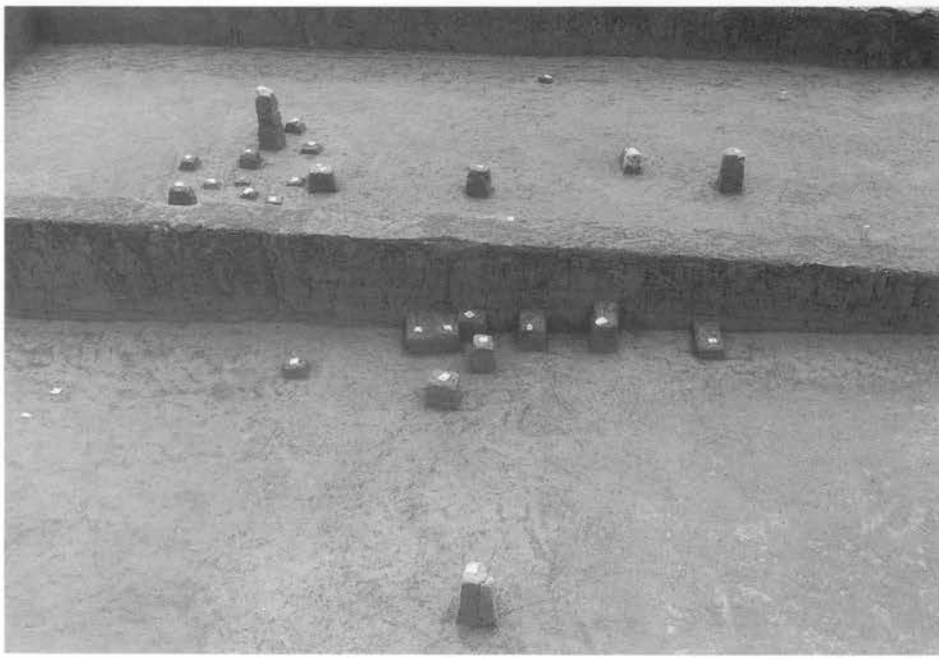


石器集中 4



石器集中 4

石器集中 4



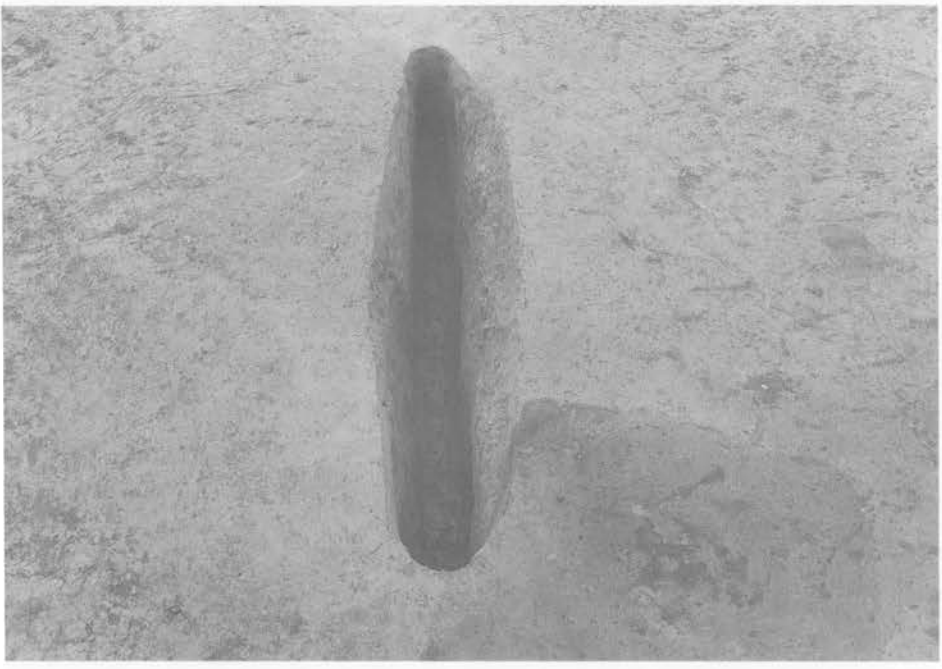
石器集中 2

石器集中 2

石器集中 3

1 号土坑

2 号土坑

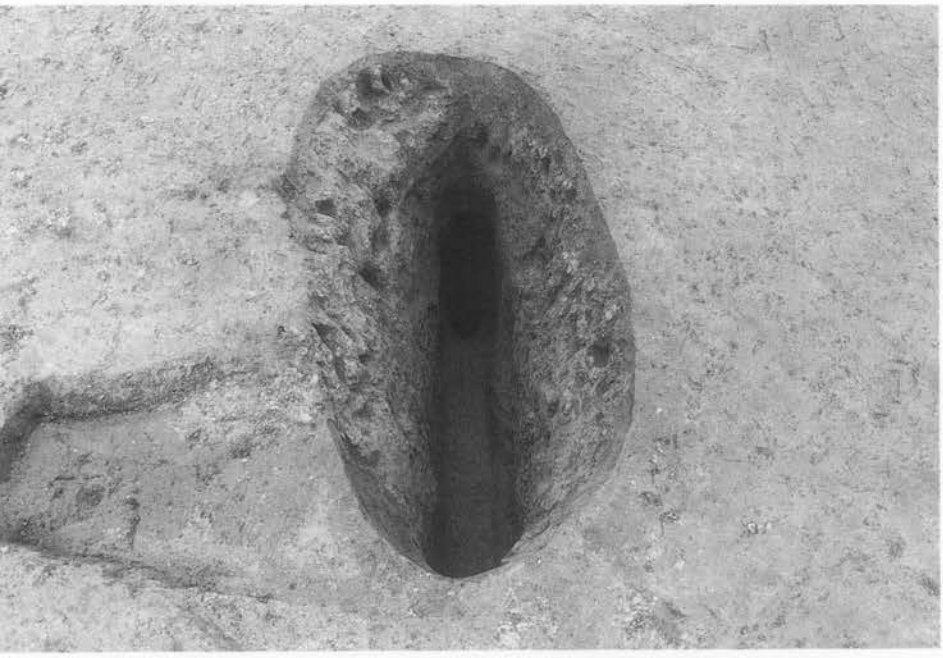


3 号土坑

4号土坑

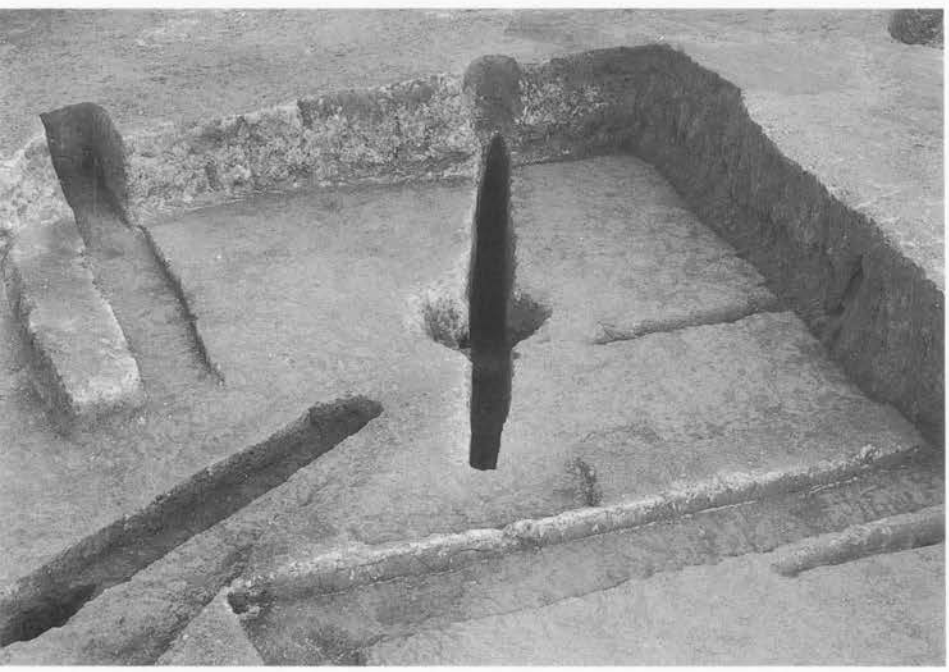
5号土坑

6号土坑



7号土坑

8号土坑



9号土坑

10号土坑

11号土坑

12号土坑

13号土坑

14号土坑

1号住居跡

1号住居跡
カマド

2号住居跡

3号住居跡

3号住居跡
カマド

4号住居跡

5号住居跡

6号住居跡

7号住居跡

7号住居跡
カマド

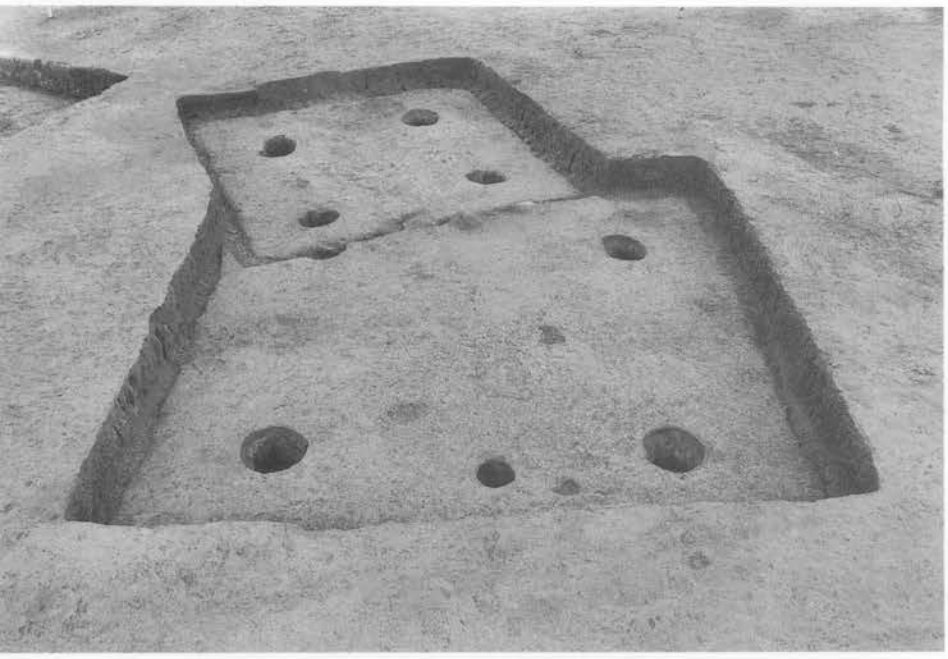
8号住居跡

8号住居跡
カマド

9号住居跡

10号住居跡

10号住居跡
遺物出土状況

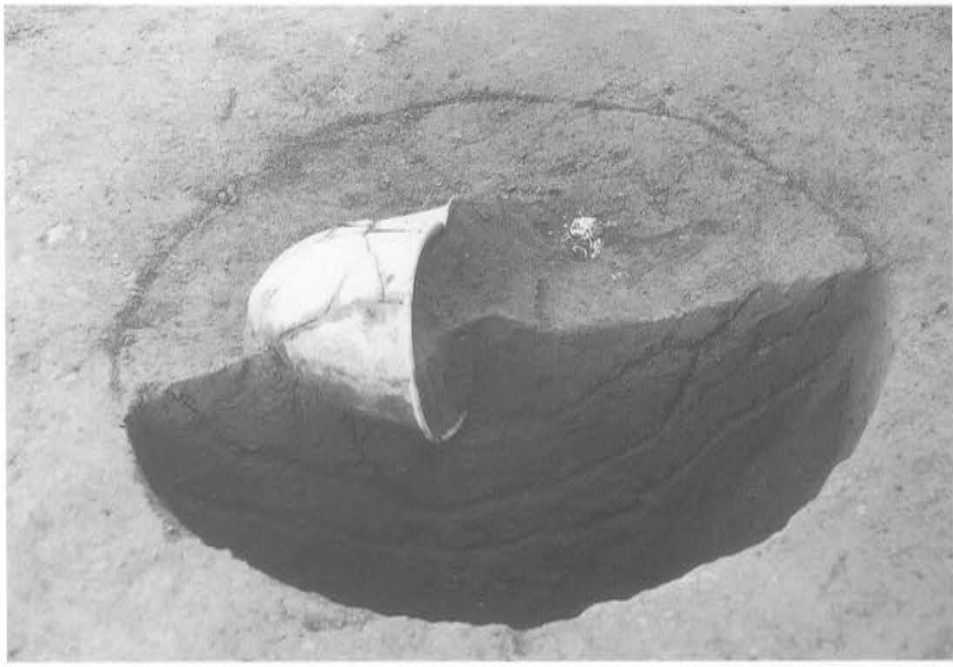


11号住居跡

11号住居跡
遺物出土状況

12号住居跡

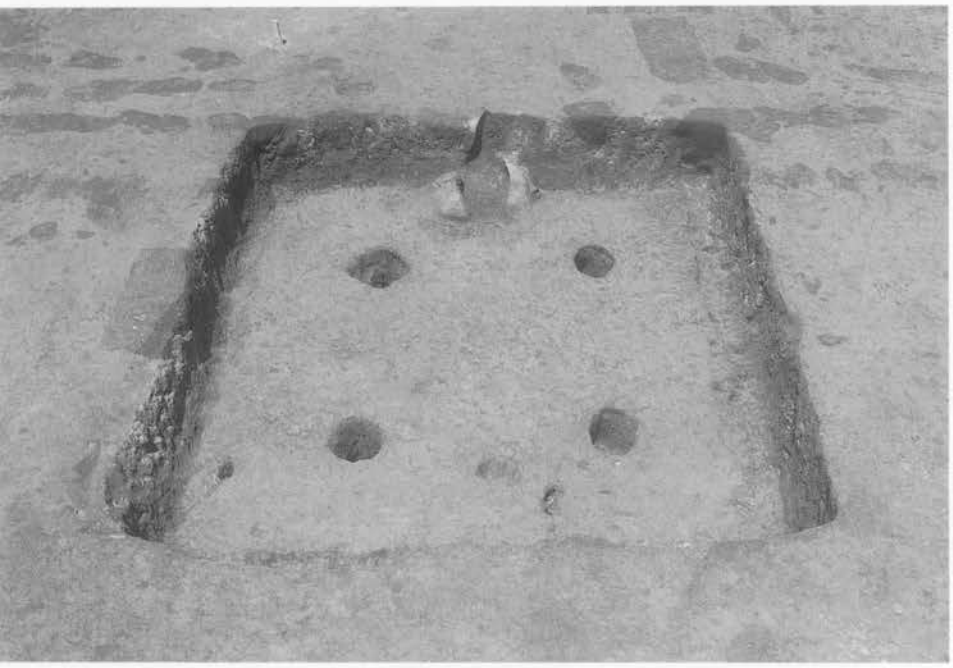
13号住居跡



13号住居跡
遺物出土状況

13号住居跡
遺物出土状況

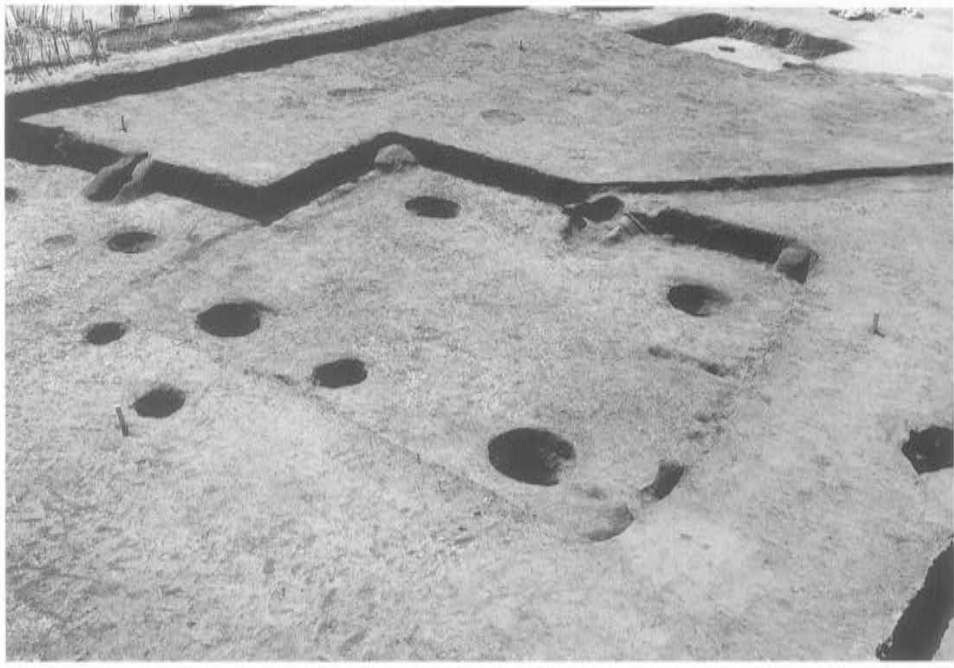
13号住居跡
遺物出土状況



14号住居跡

15号住居跡

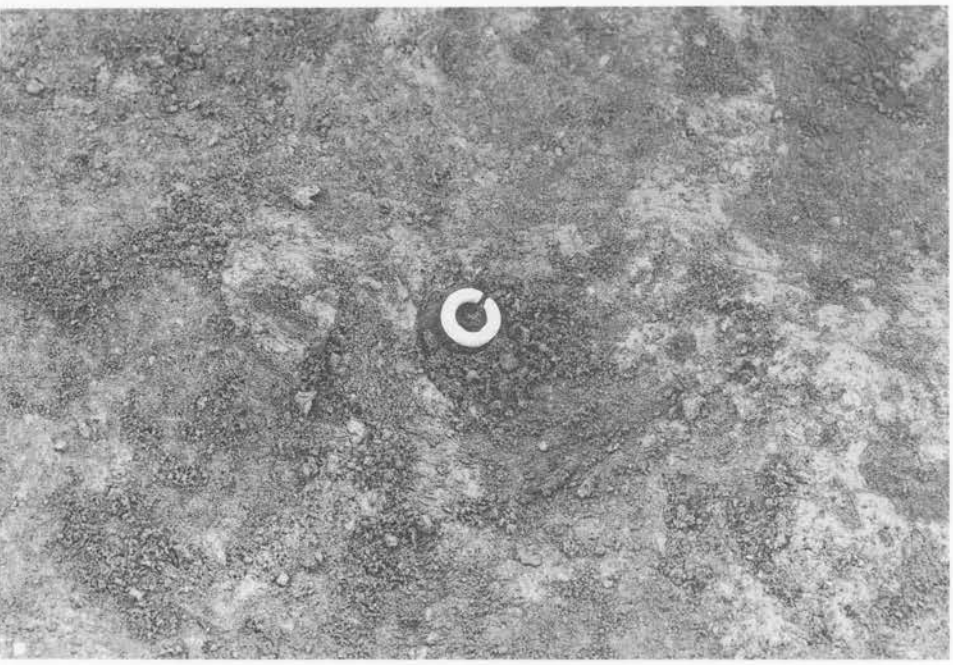
15号住居跡
カマド



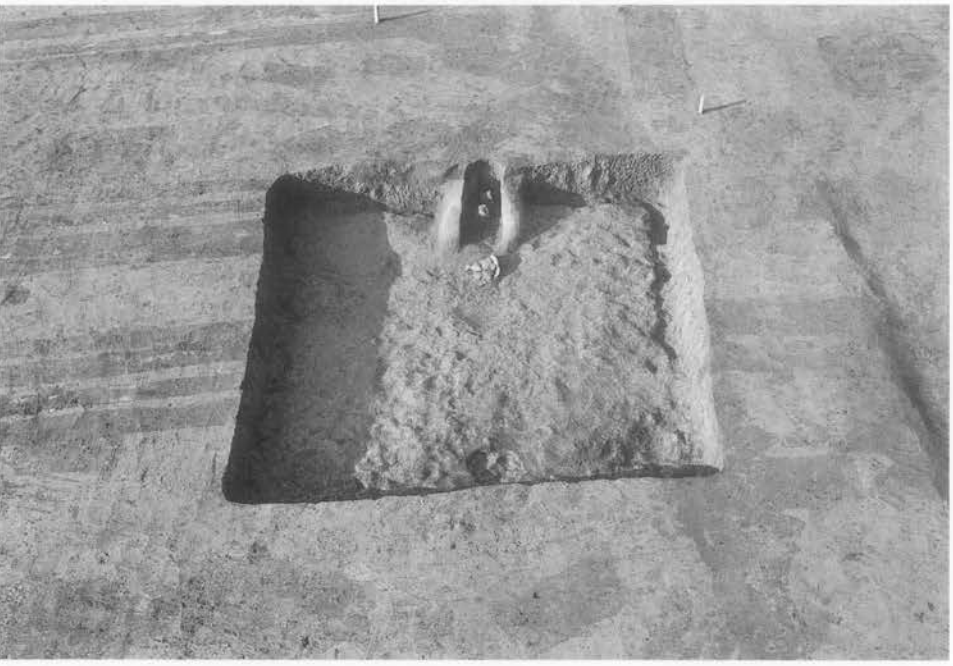
16号住居跡

16号住居跡
遺物出土状況

16号住居跡
遺物出土状況



16号住居跡
遺物出土状況



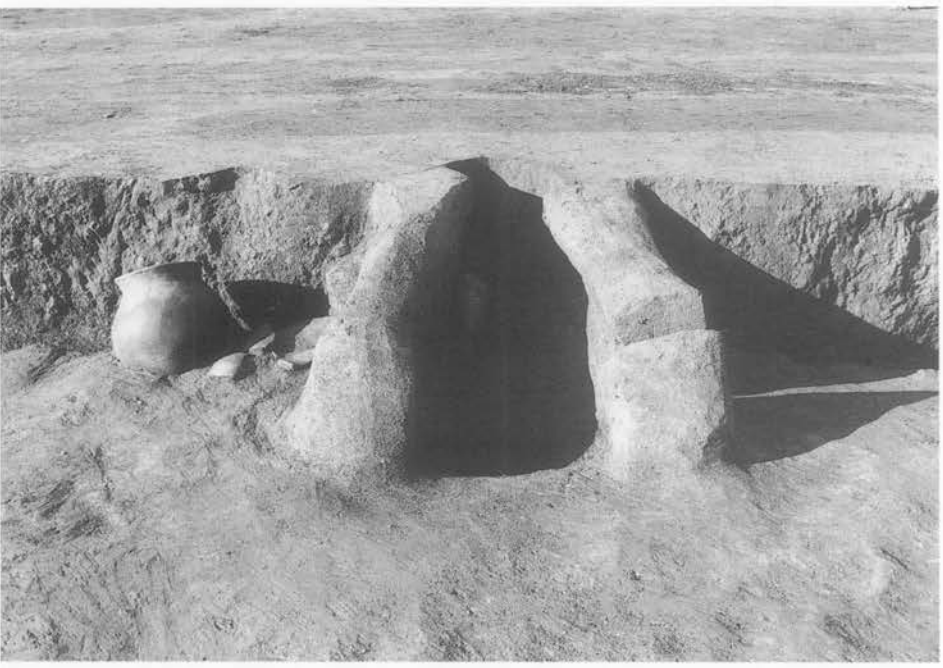
17号住居跡

17号住居跡
カマド

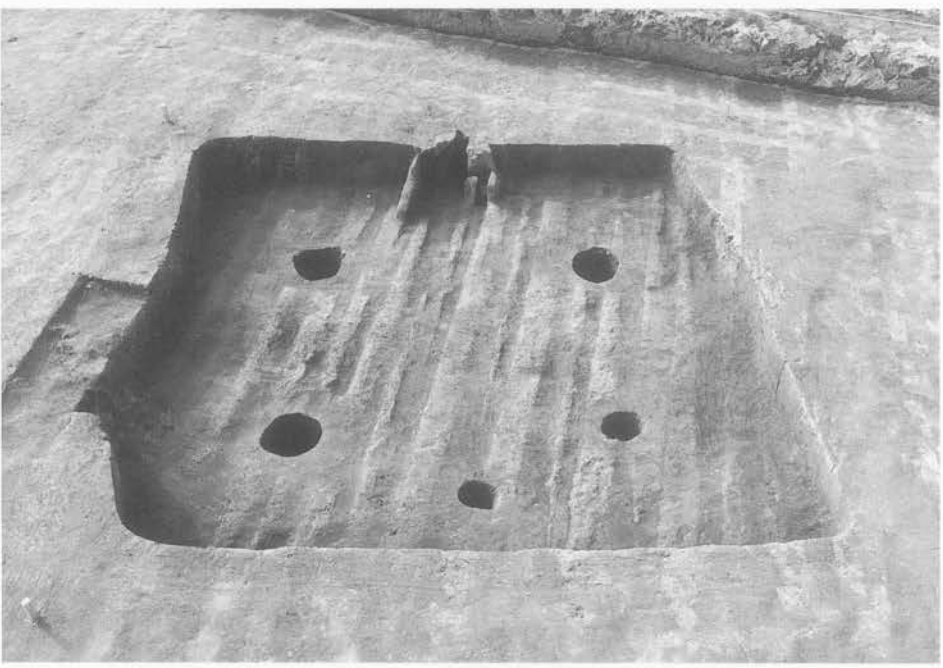
18号住居跡

19号住居跡

20号住居跡



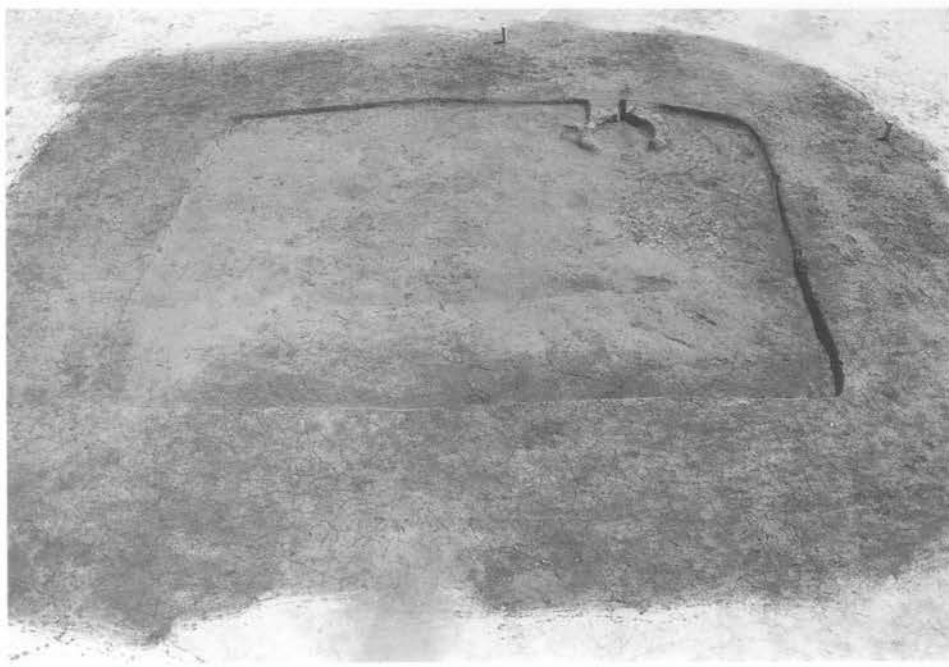
20号住居跡
カマド



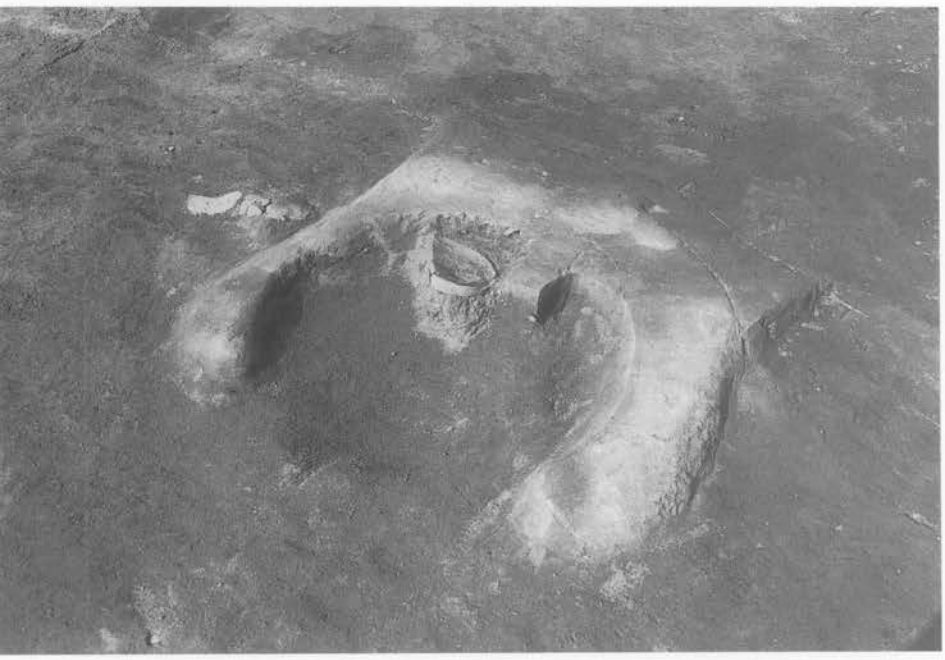
21号住居跡

22号住居跡

23号住居跡



24号住居跡

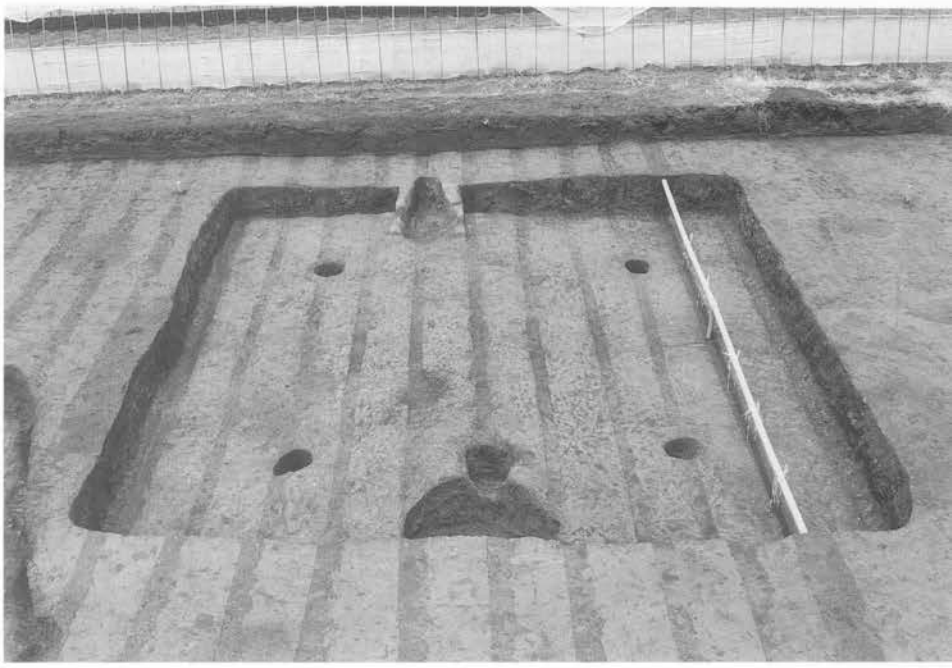


24号住居跡
カマド

25号住居跡

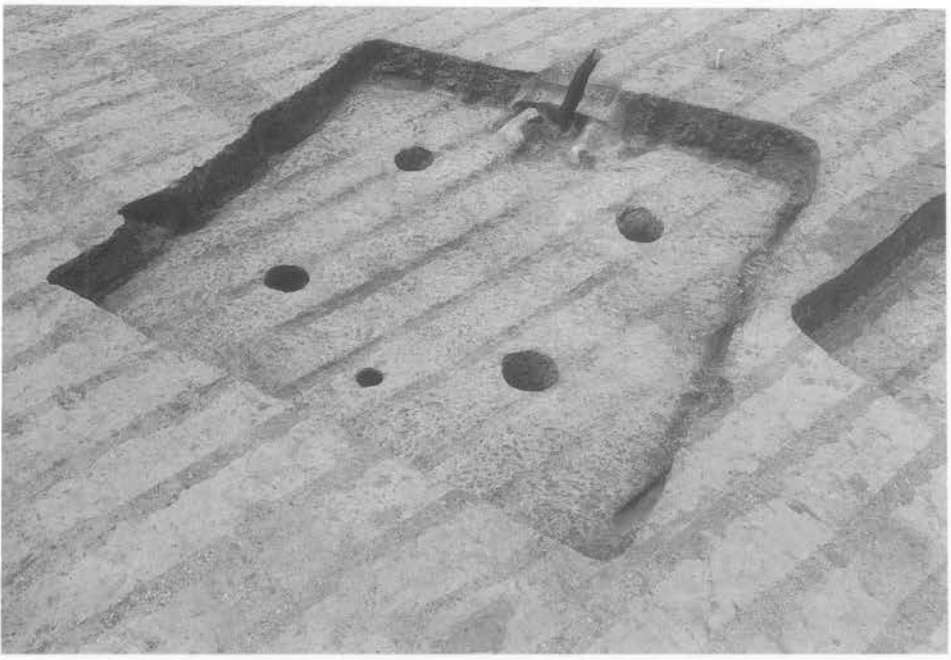
25号住居跡

26号住居跡



27号住居跡

27号住居跡
遺物出土状況

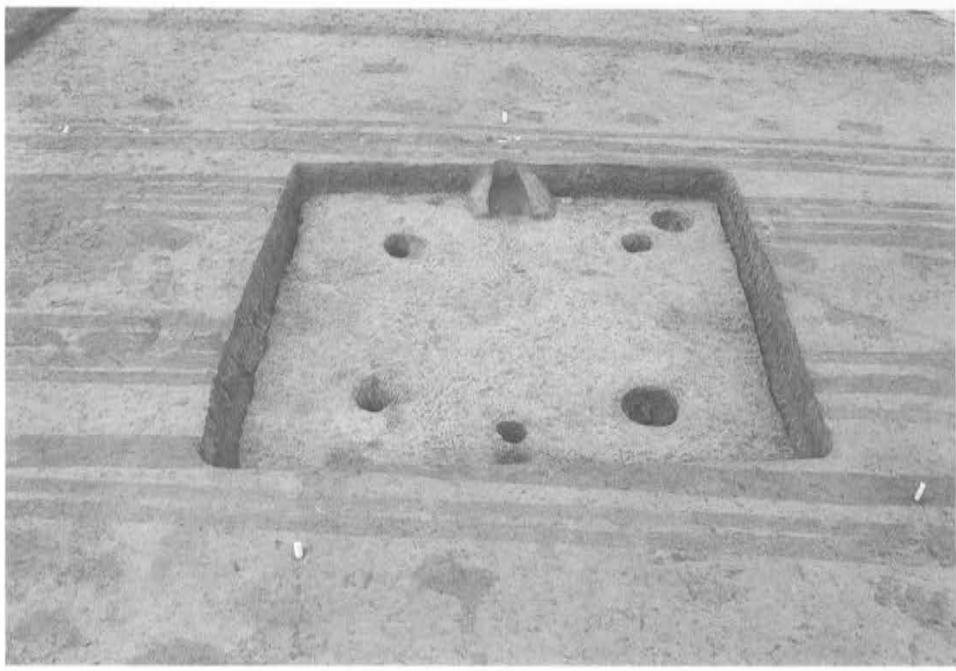


28号住居跡

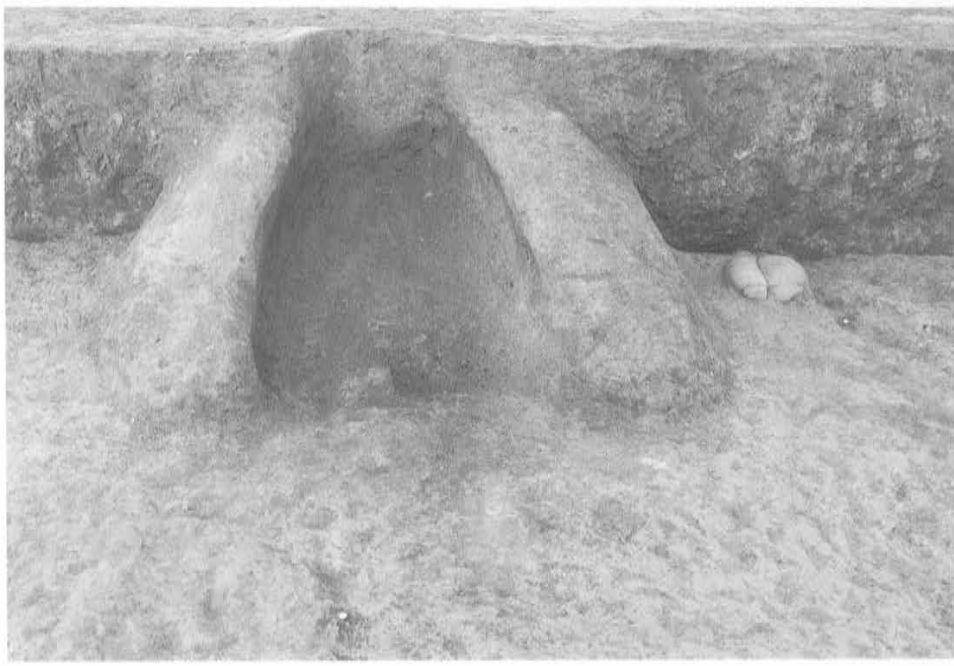
29号住居跡
遺物出土状況

29号住居跡

29号住居跡
カマド



30号住居跡



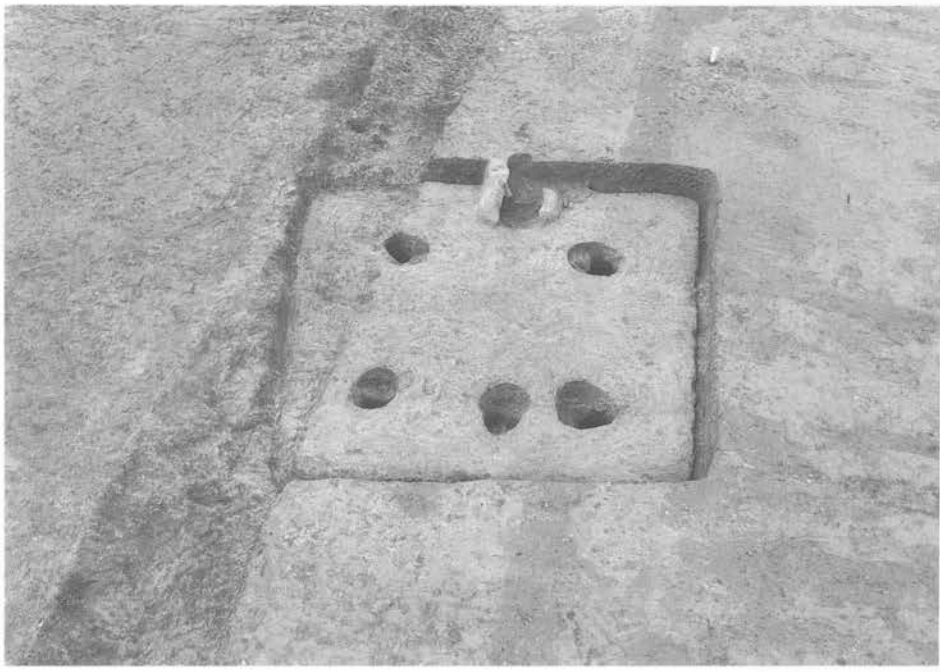
30号住居跡
カマド

30号住居跡
軸付き紡錘車

31号住居跡

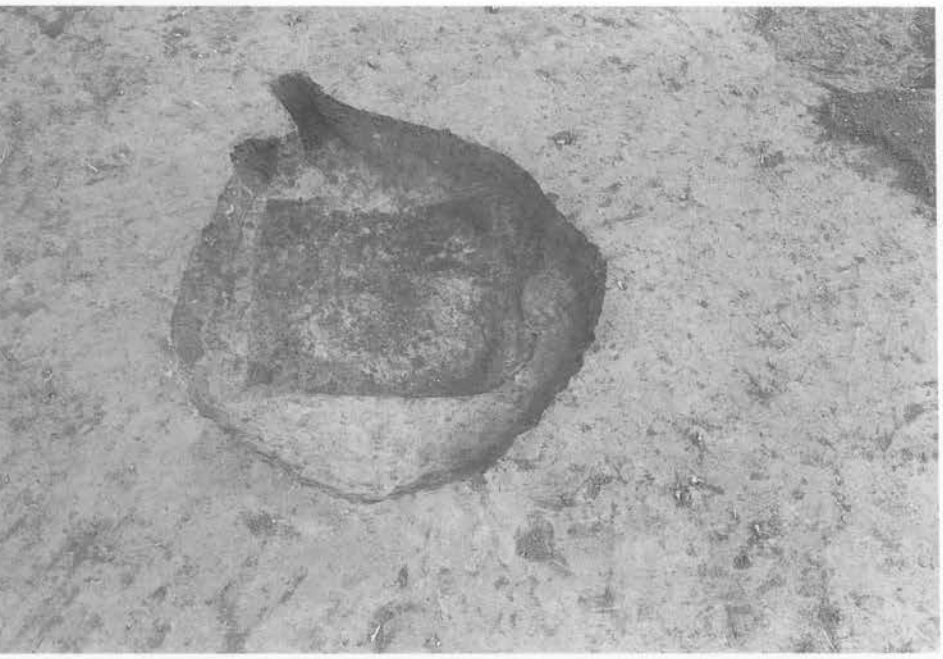
31号住居跡
カマド

32号住居跡



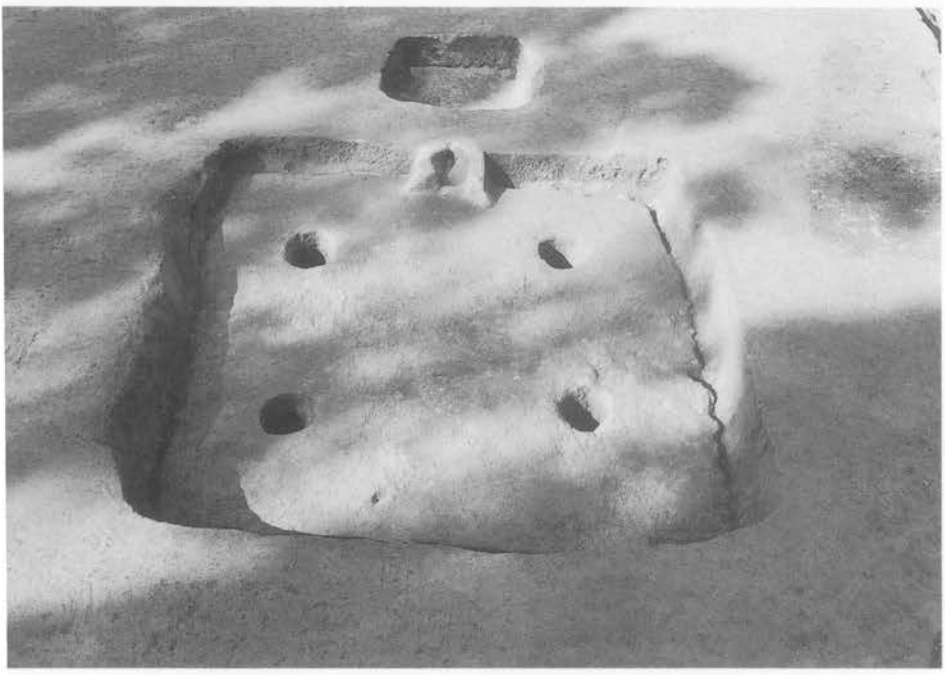
33号住居跡

33号住居跡
カマド



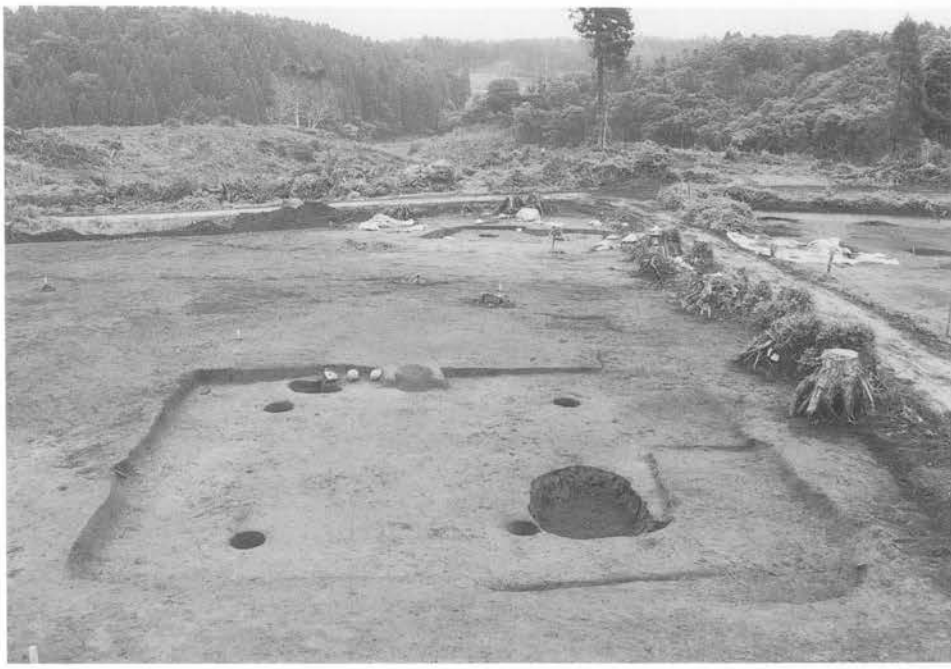
34号住居跡
土坑炭化物出土状況

35号住居跡

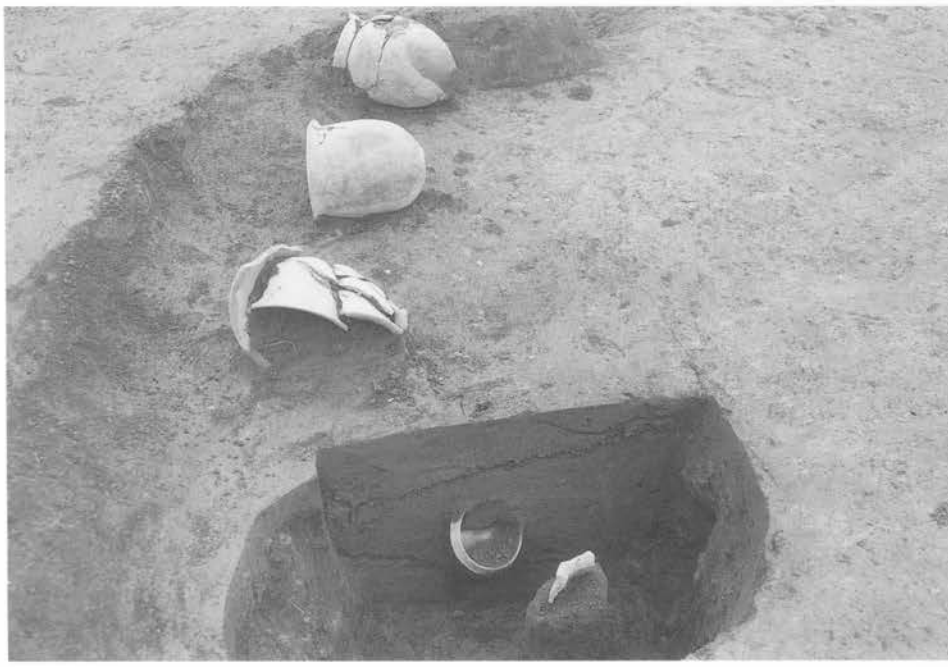


36号住居跡

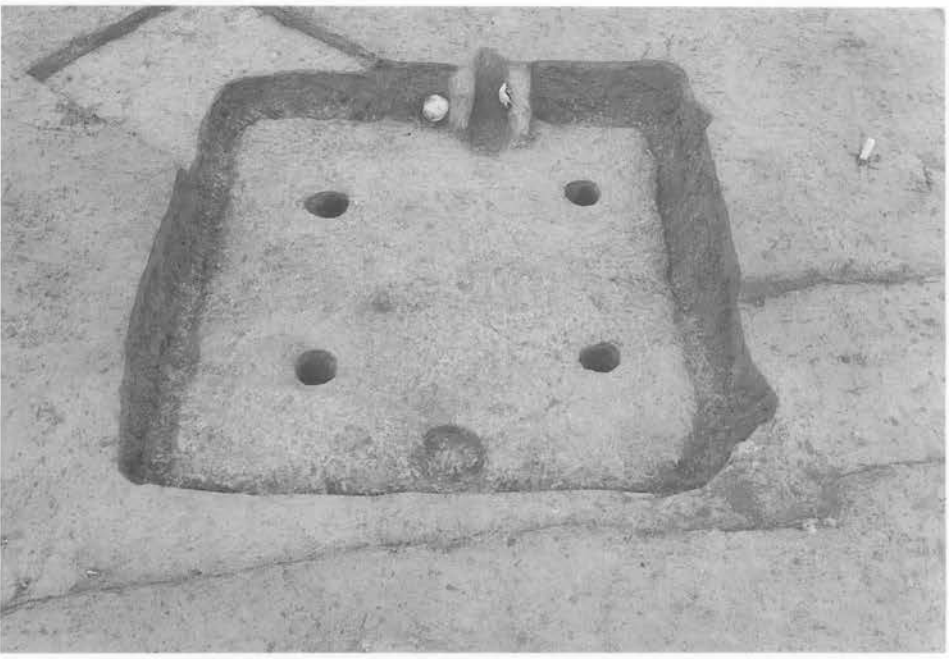
37号住居跡



38号住居跡



38号住居跡
遺物出土状況



39号住居跡

39号住居跡
遺物出土状況

39号住居跡
カマド

40号住居跡

41号住居跡

41号住居跡
遺物出土状況

41号住居跡
遺物出土状況

42号住居跡

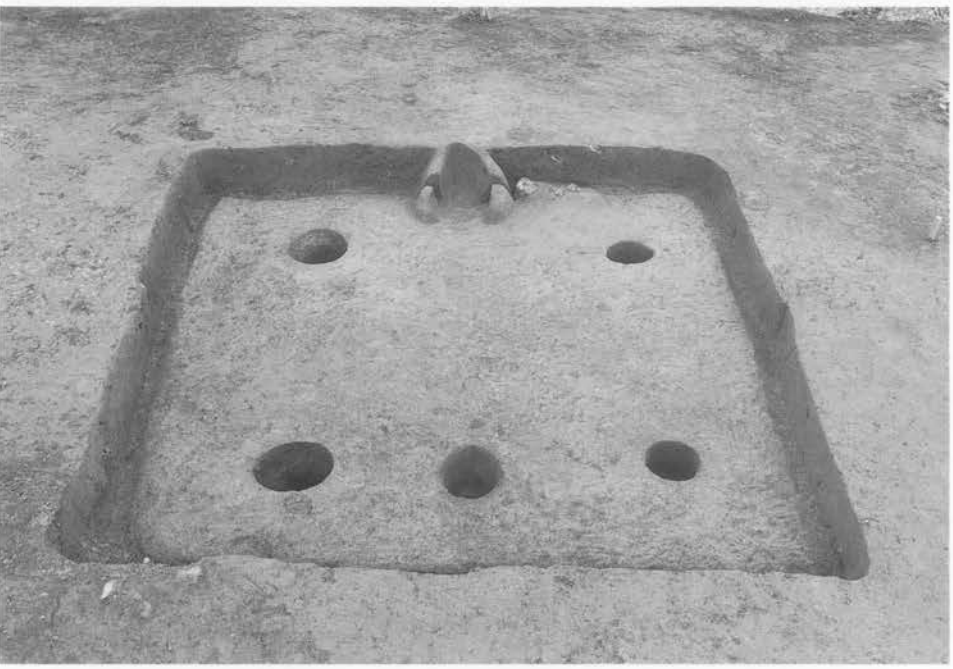
42号住居跡

42号住居跡
カマド

43号住居跡

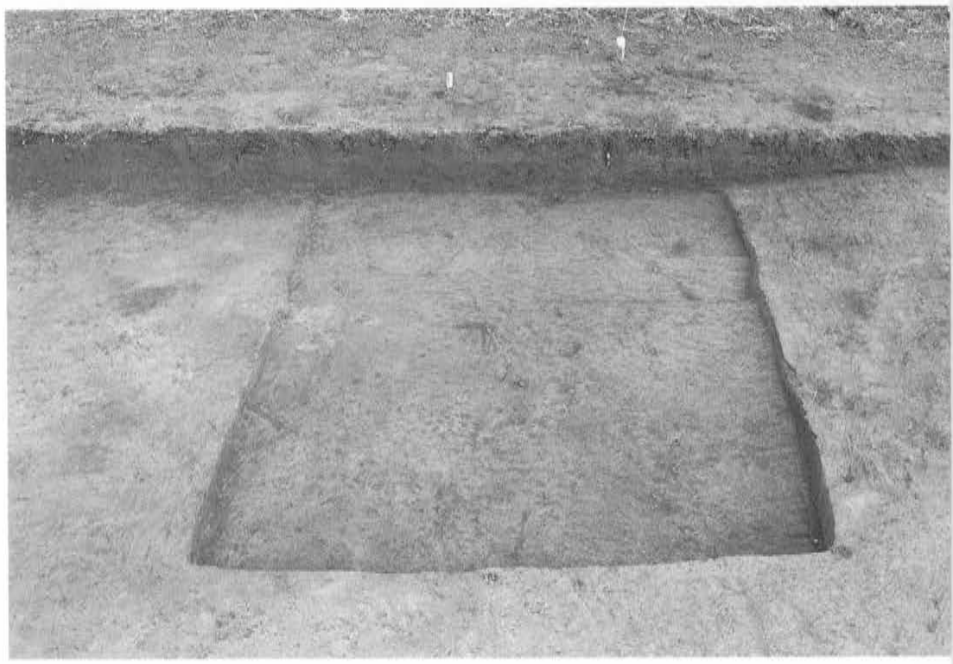
44号住居跡

45号住居跡

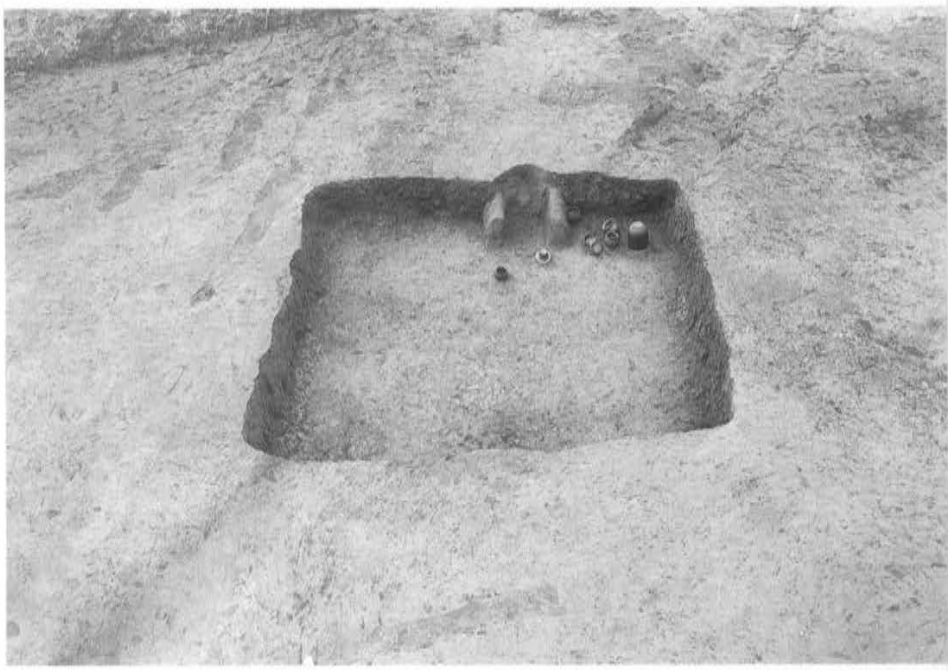


46号住居跡

47号住居跡

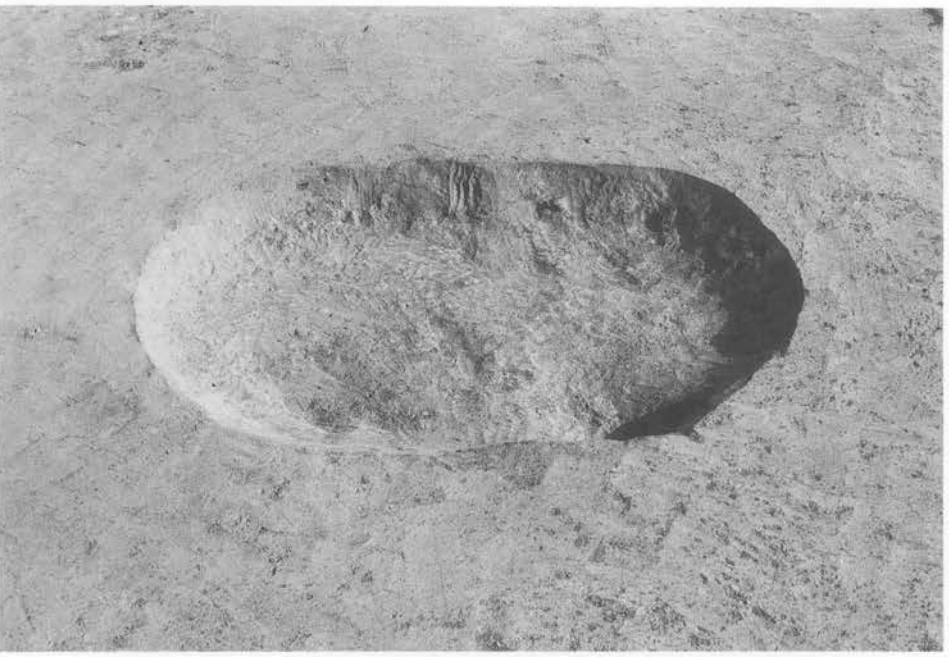


48号住居跡



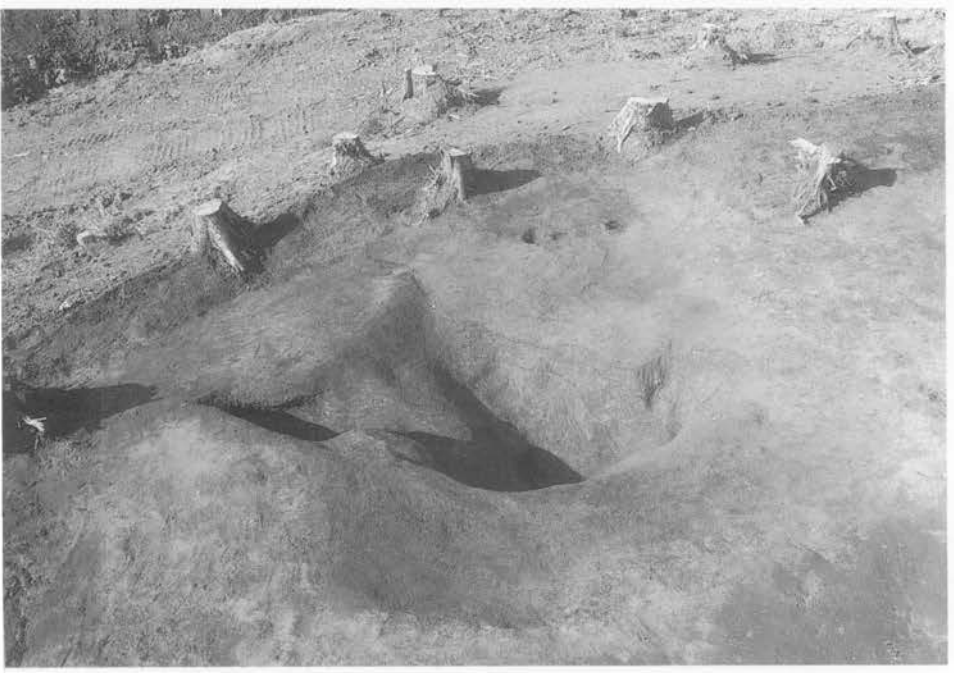
49号住居跡

50号住居跡

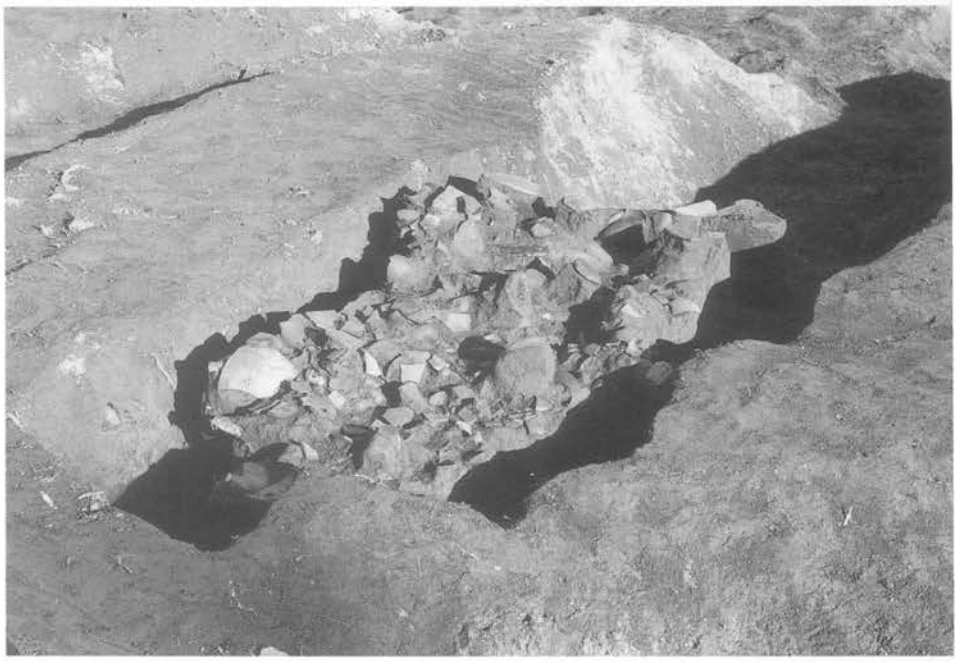


15号土坑

16号土坑



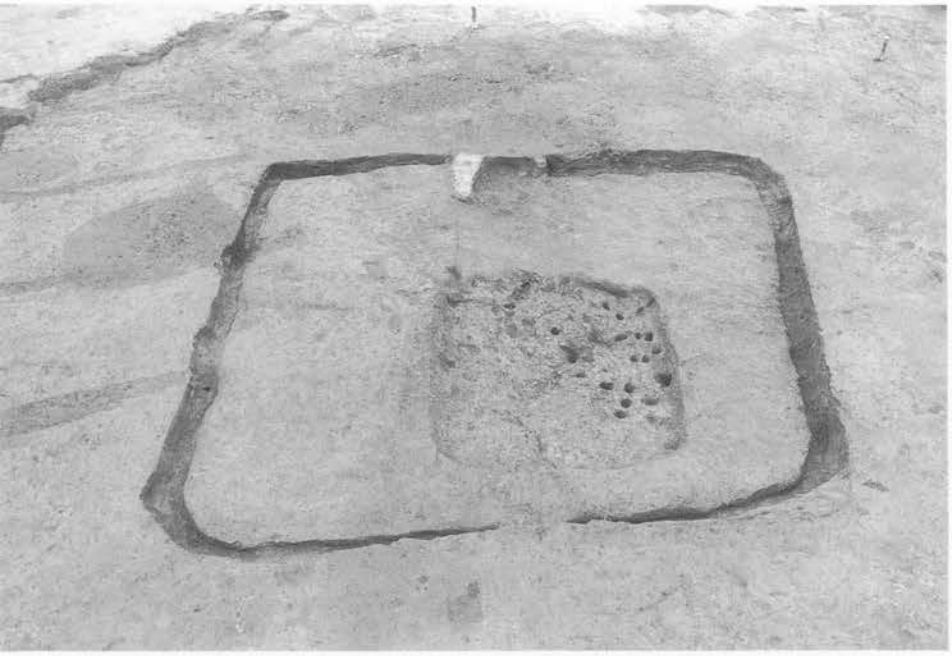
18号土坑



19号土坑

19号土坑

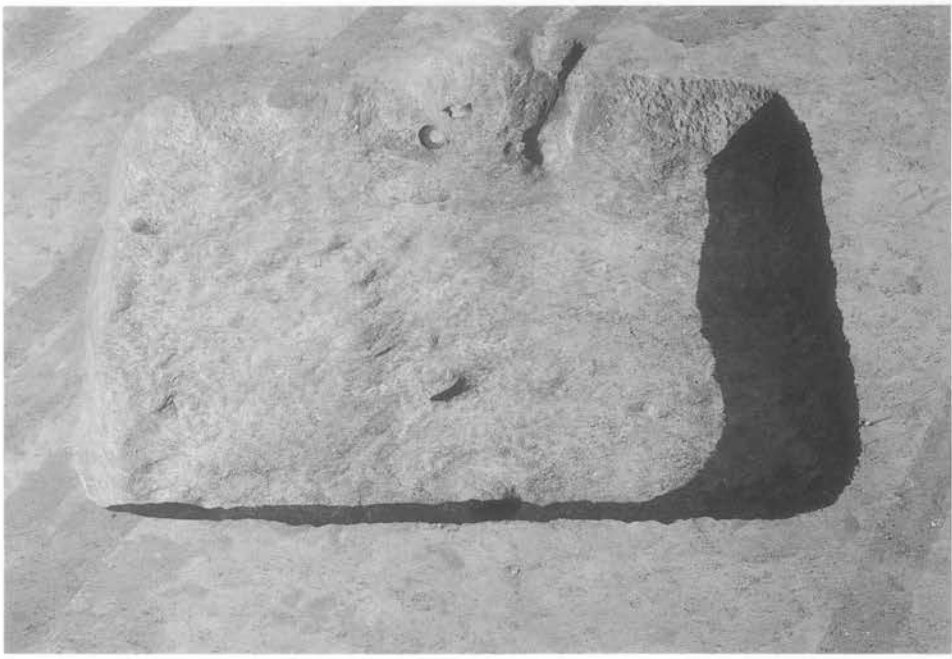
20号土坑



51号住居跡

52号住居跡

52号住居跡
カマド



53号住居跡

54号住居跡

54号住居跡
カマド

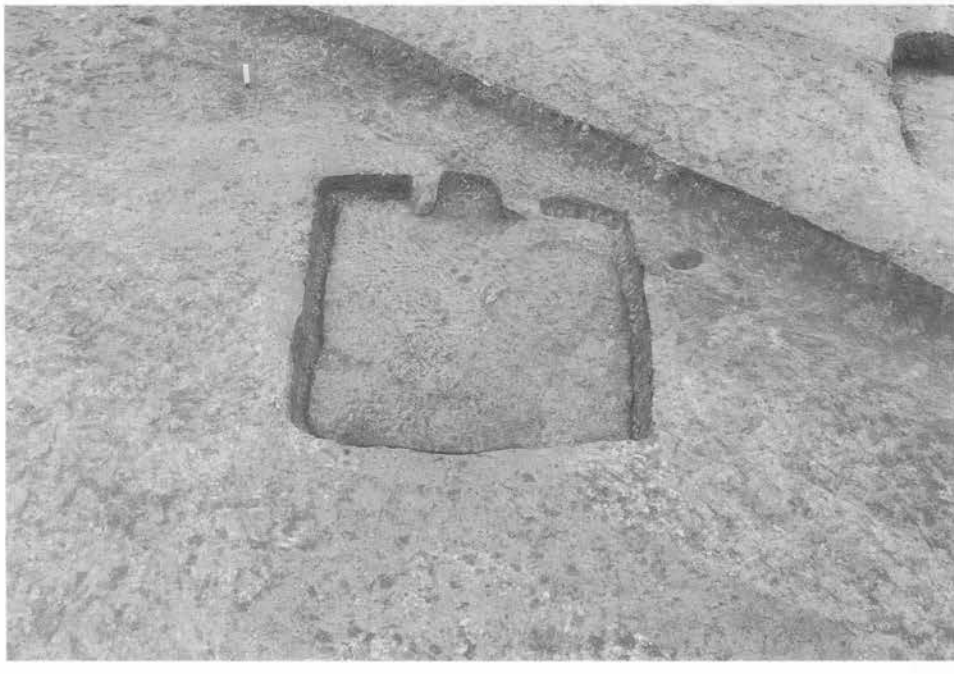
55号住居跡

55号住居跡
遺物出土状況

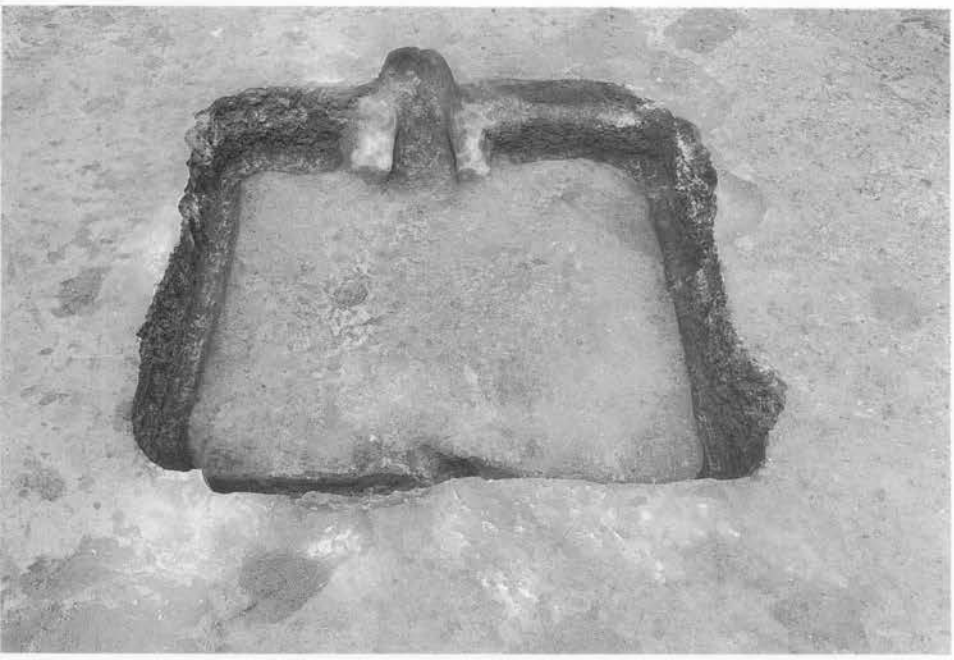
56号住居跡

57号住居跡

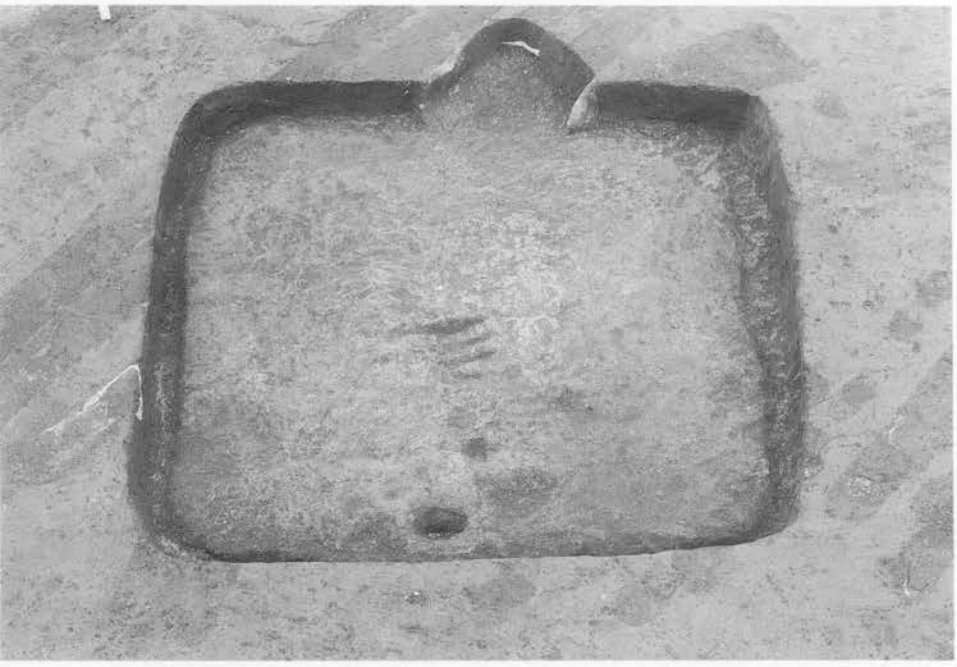
57号住居跡
カマド



58号住居跡



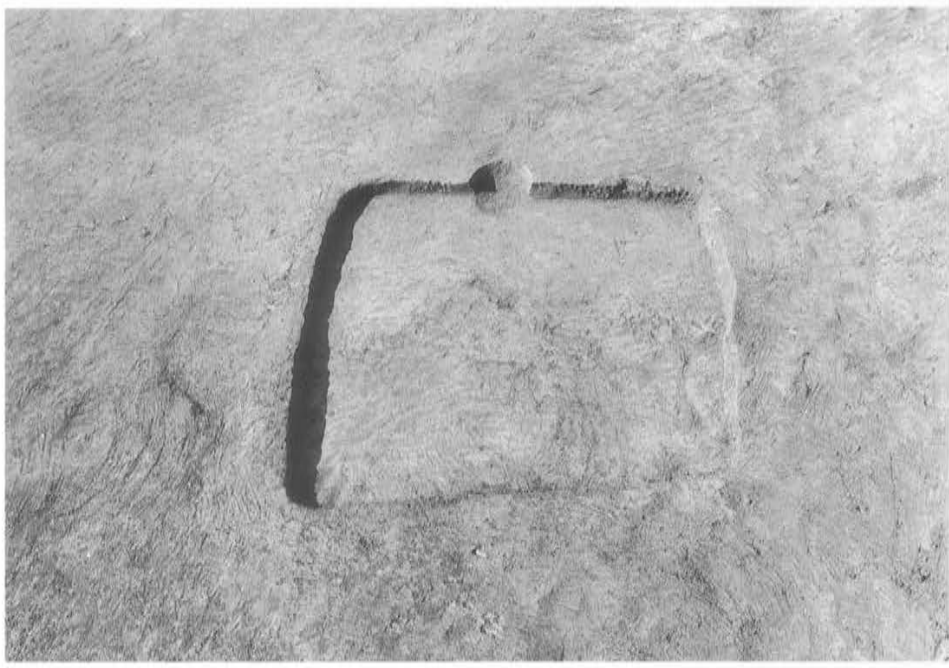
59号住居跡



60号住居跡

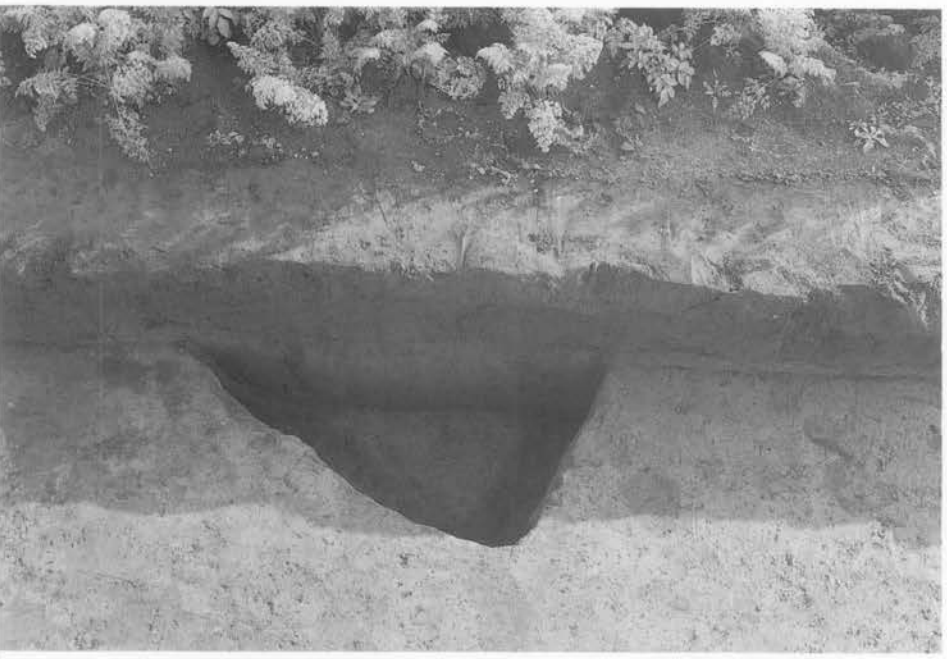
61号住居跡

61号住居跡
カマド

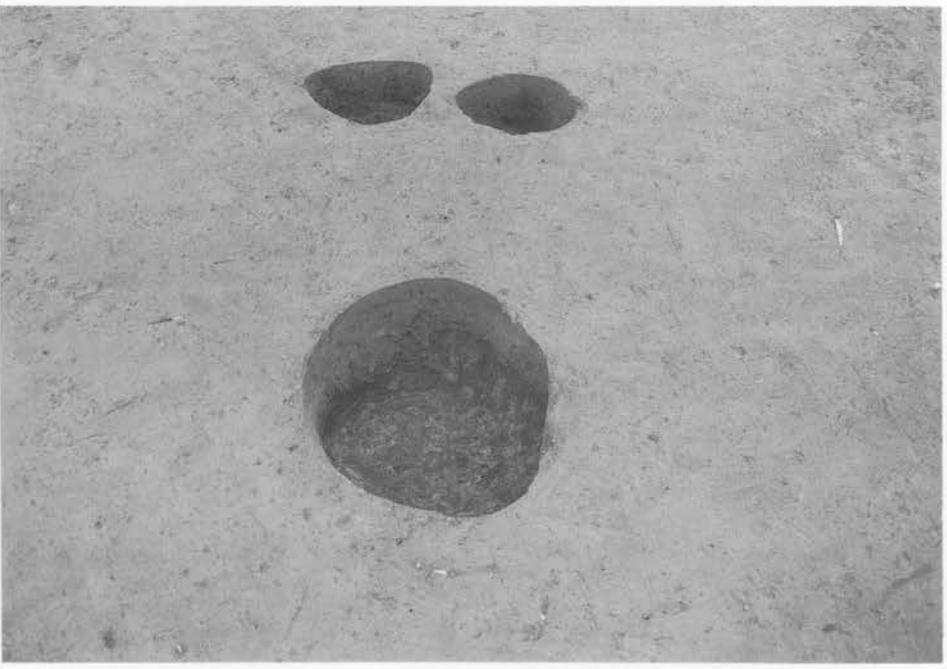


62号住居跡

63号住居跡



22号土坑



23号土坑

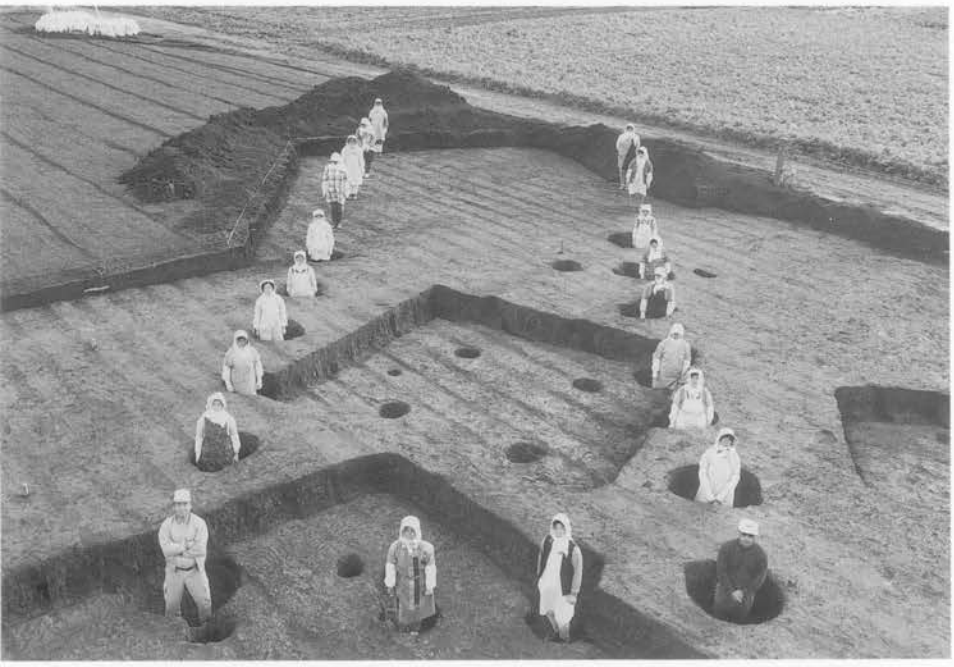
3,4号溝

2号溝

6号溝

1号掘立

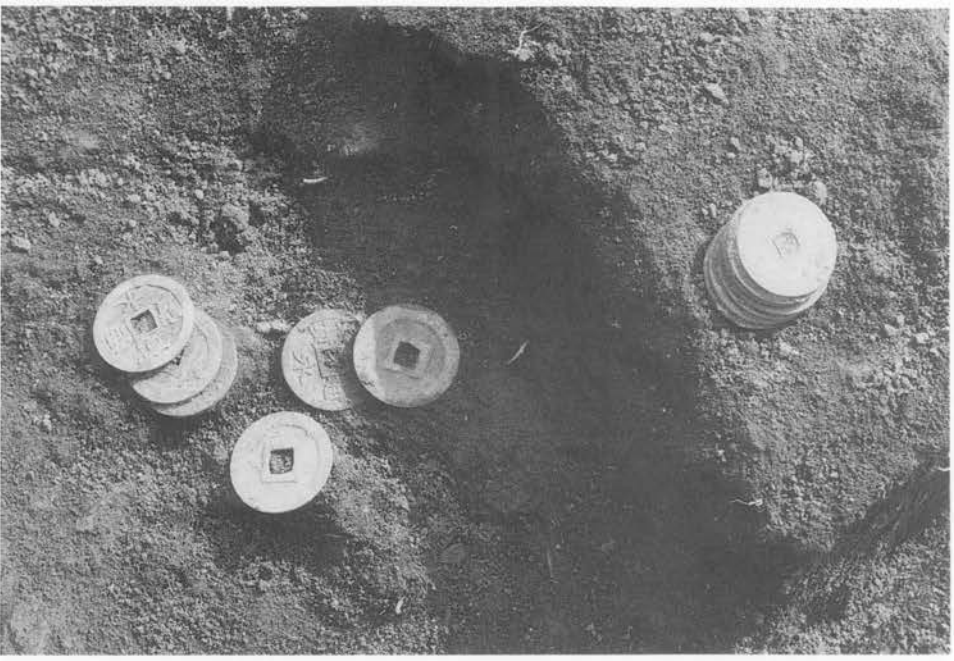
2号堀立



1号塚

1号塚

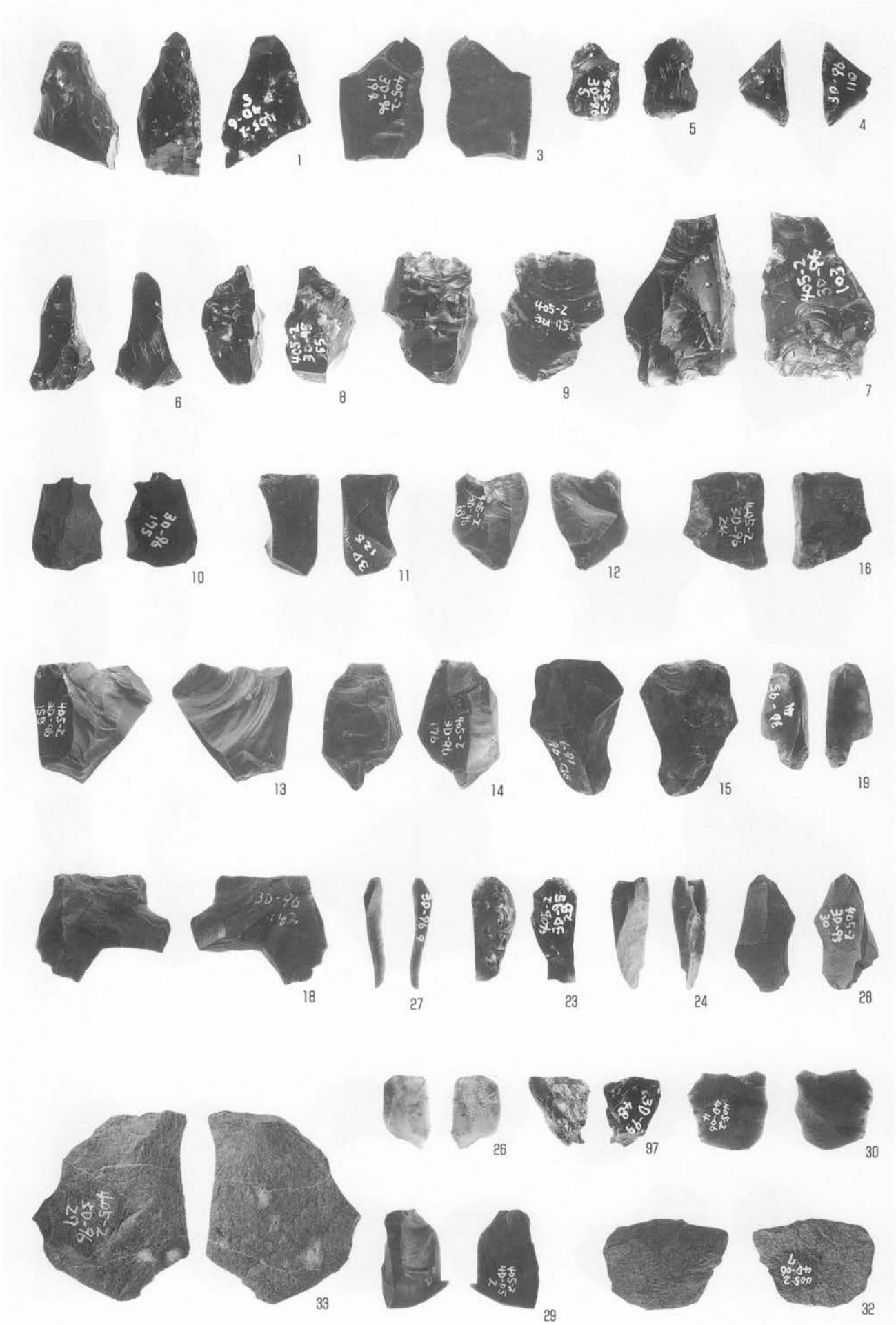
1号塚
古銭出土状況



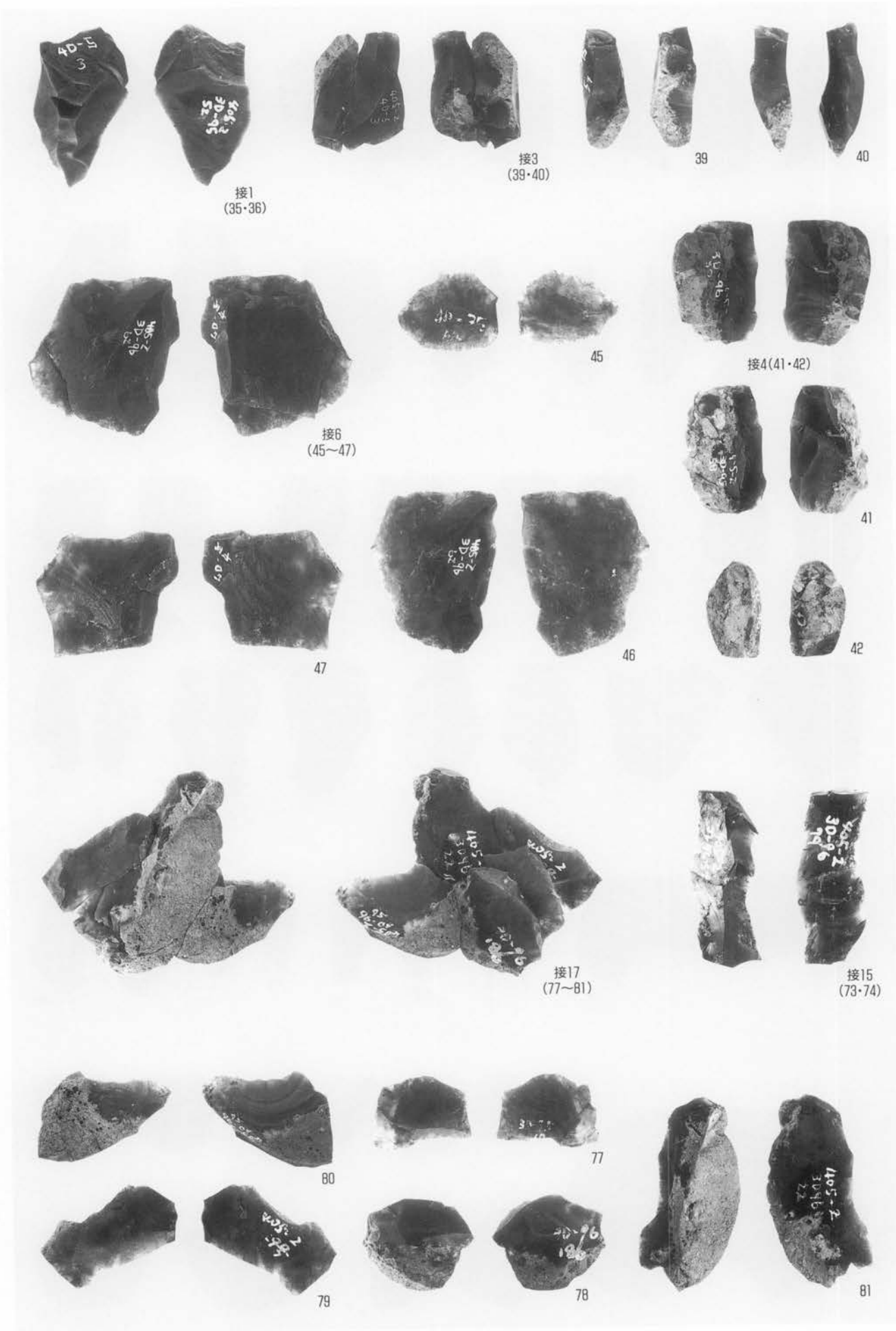
1号塚
古銭出土状況

調査風景

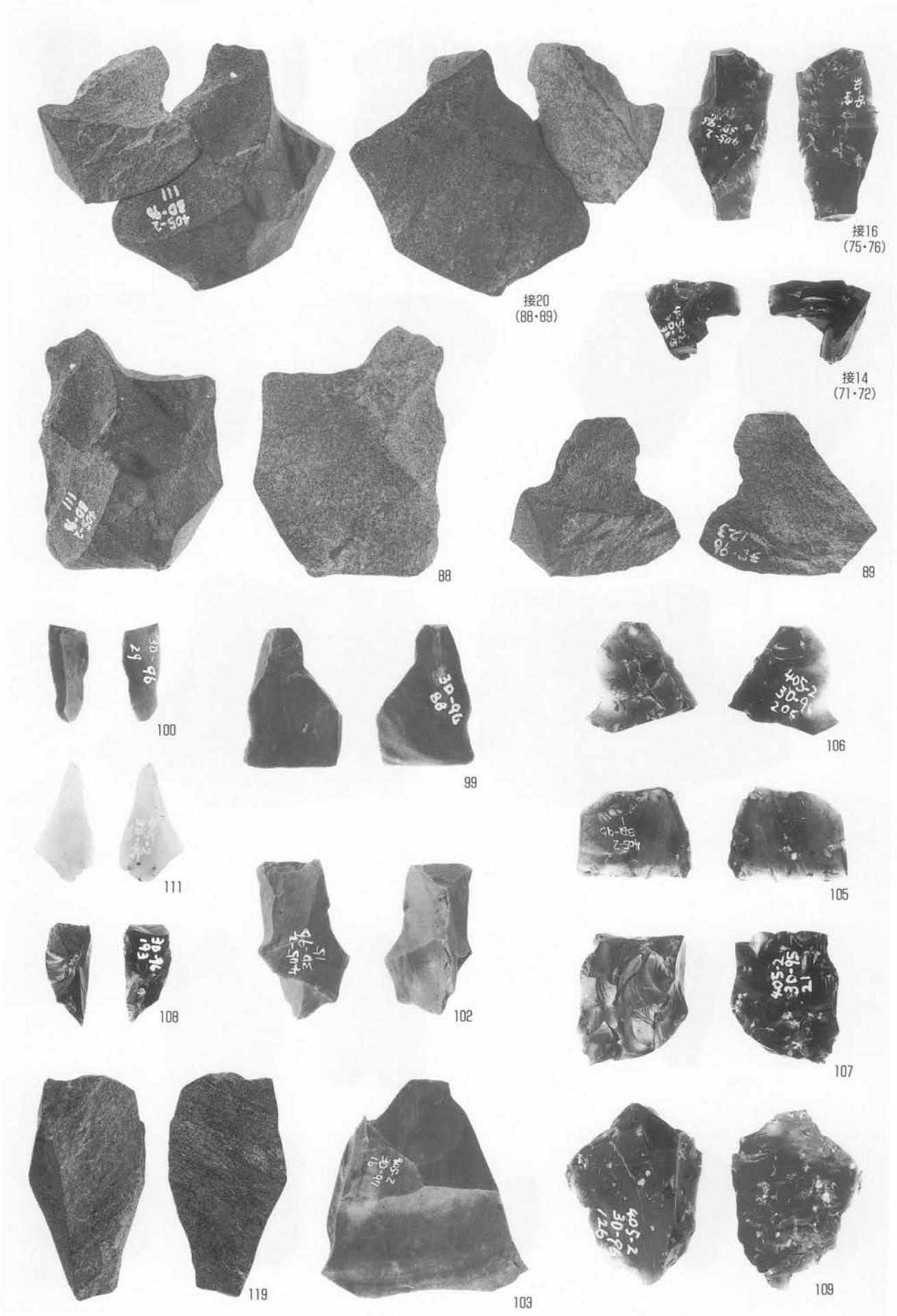
調査風景



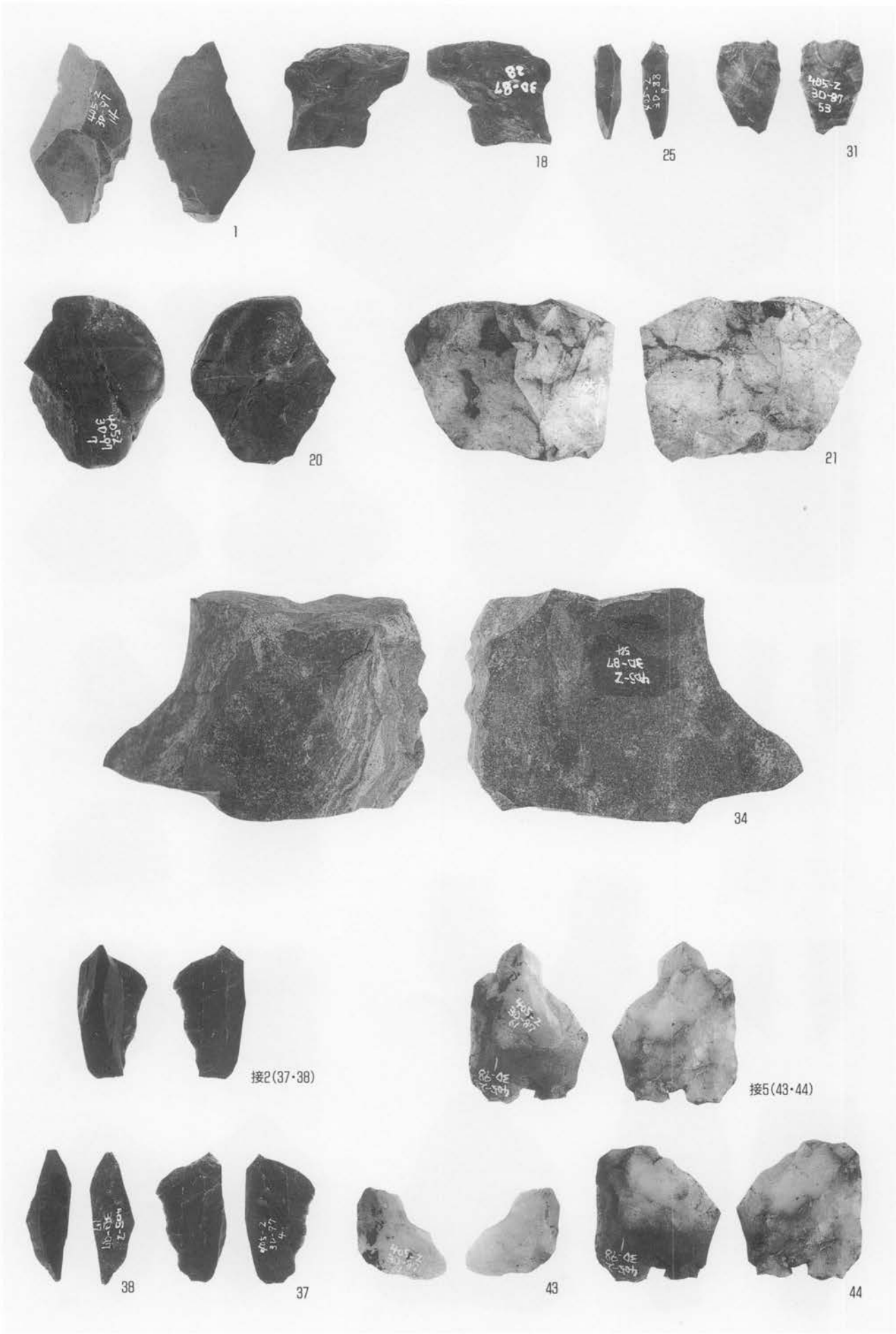

石器集中4a 出土石器(1)



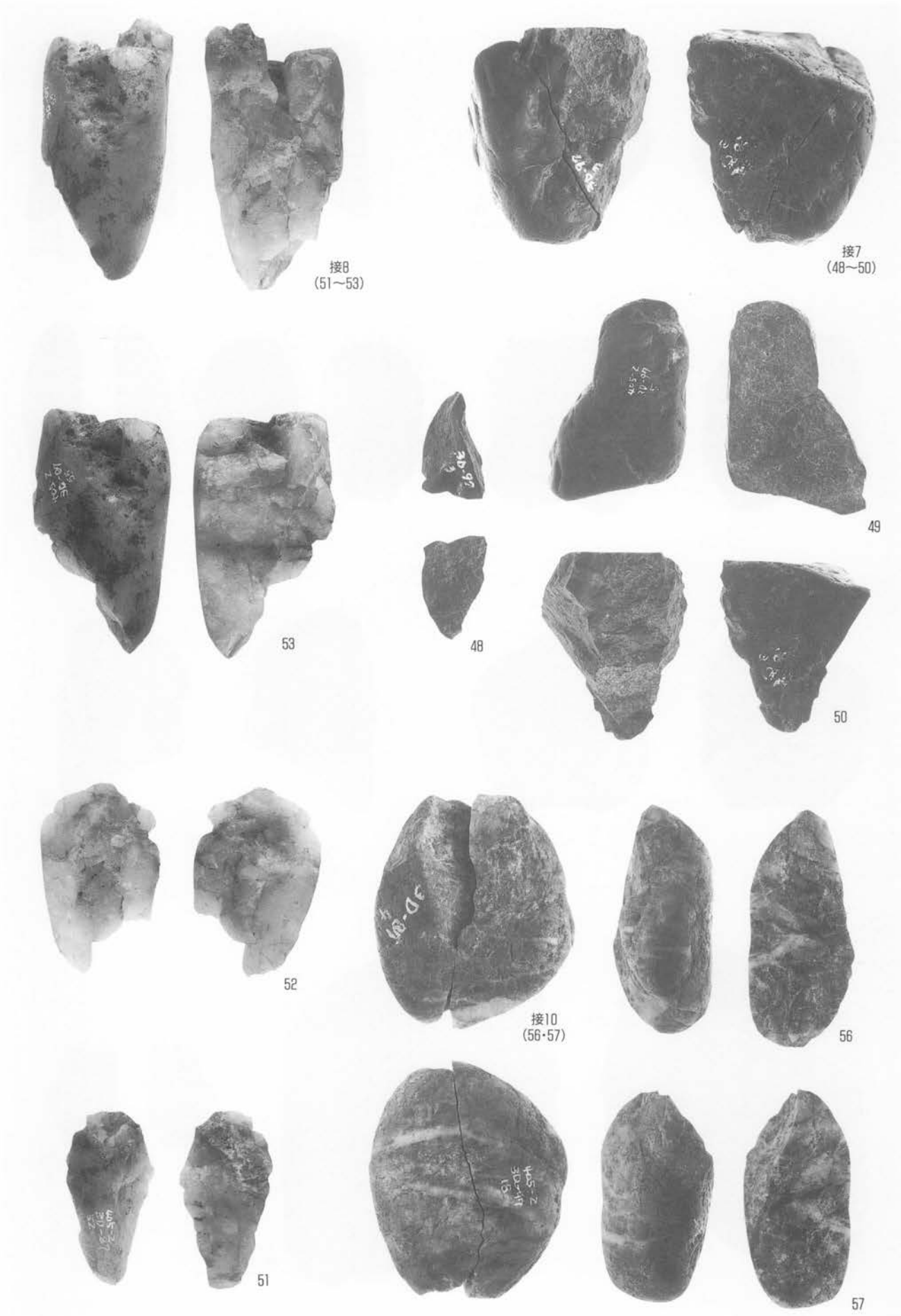

石器集中4a 出土石器(2)



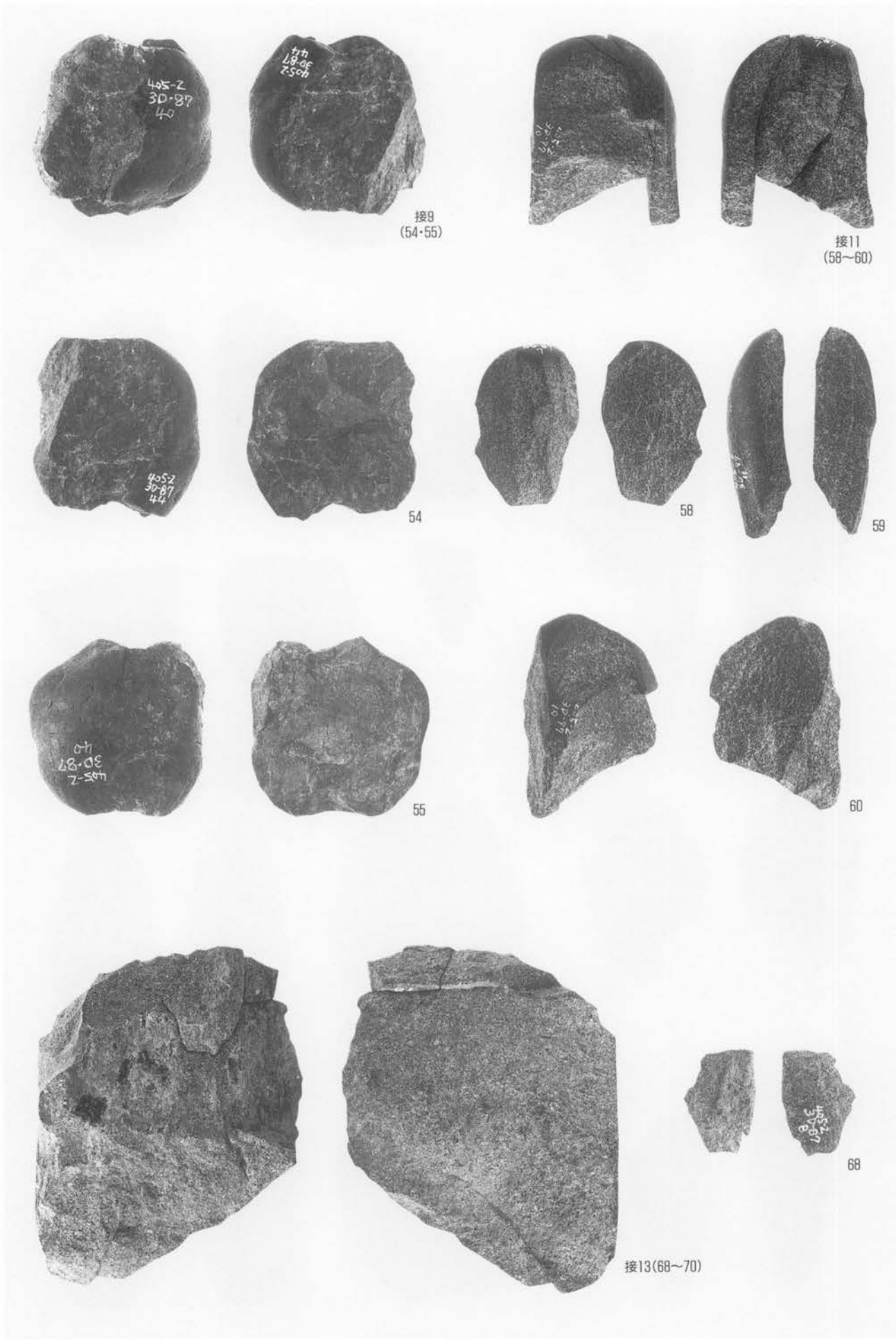

石器集中4a 出土石器(3)



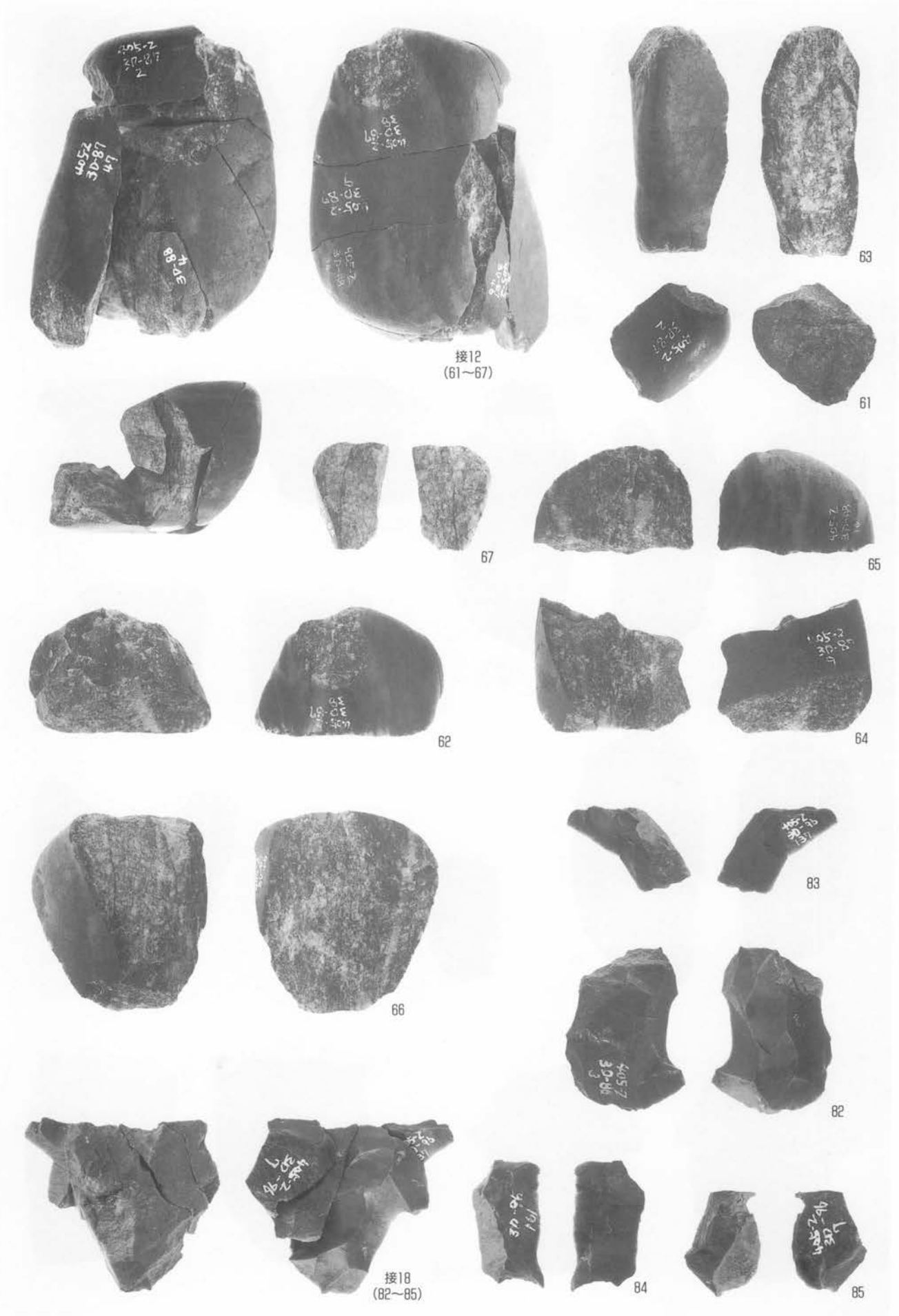

石器集中4b 出土石器(1)



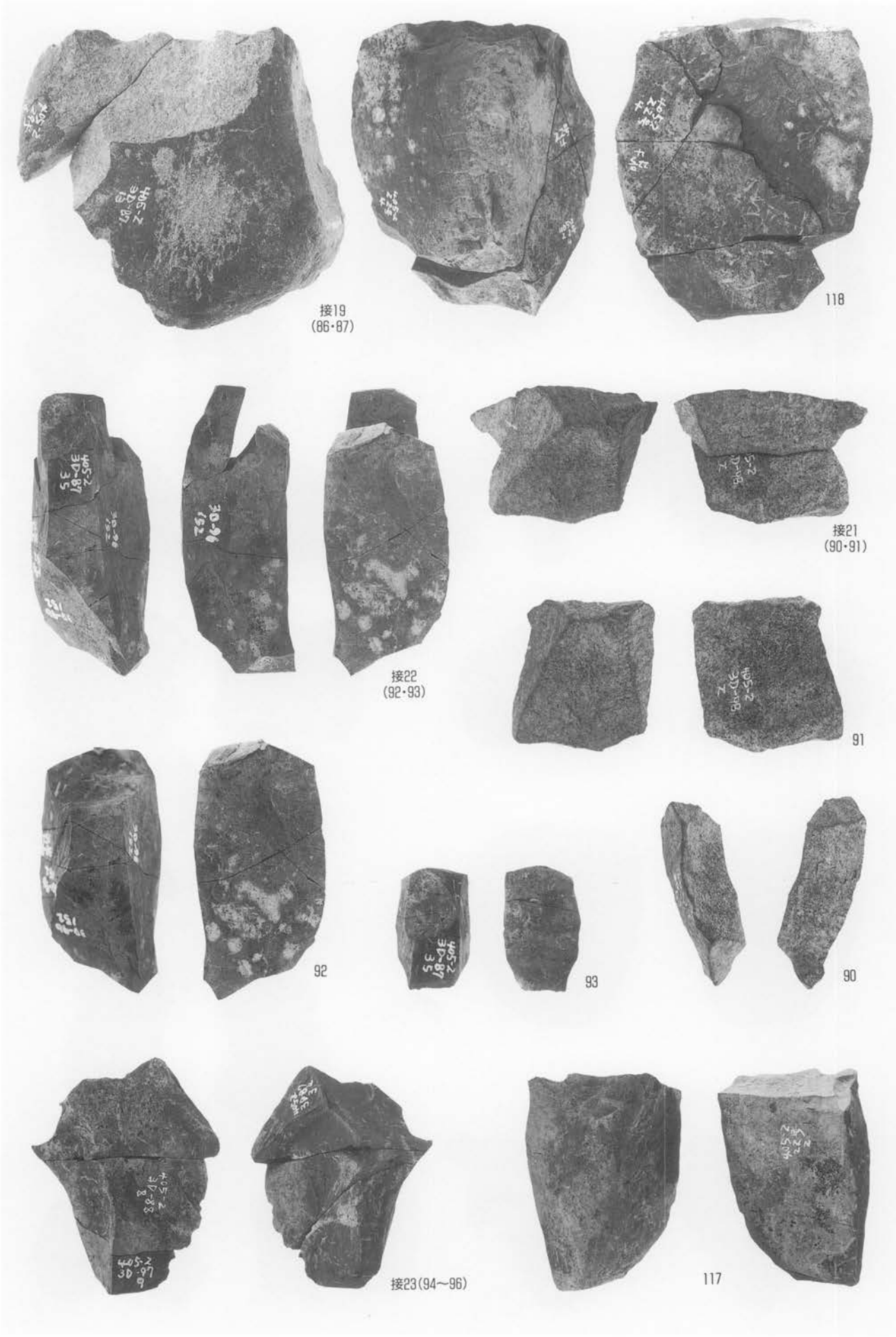

石器集中4b 出土石器(2)



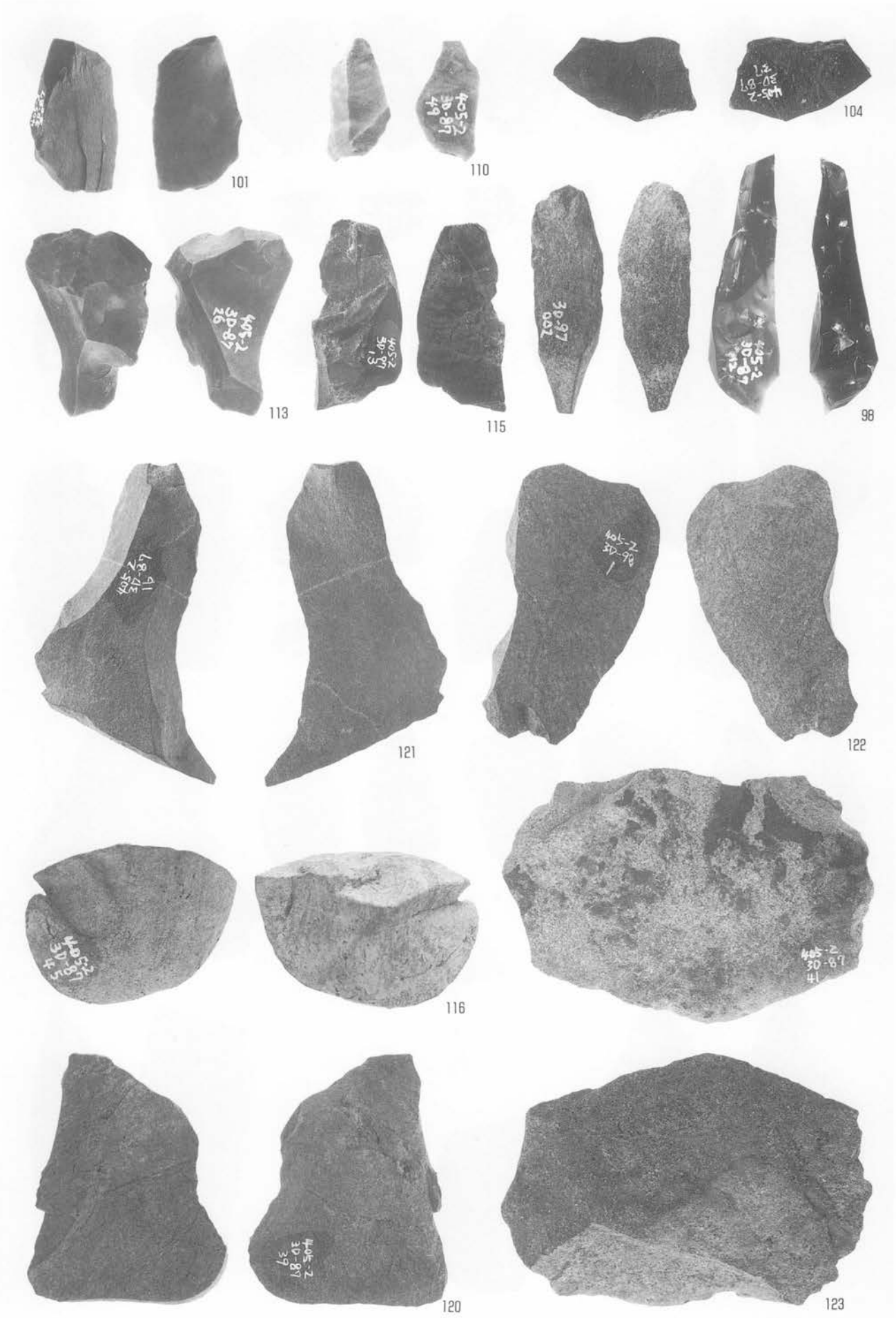

石器集中4b 出土石器(3)



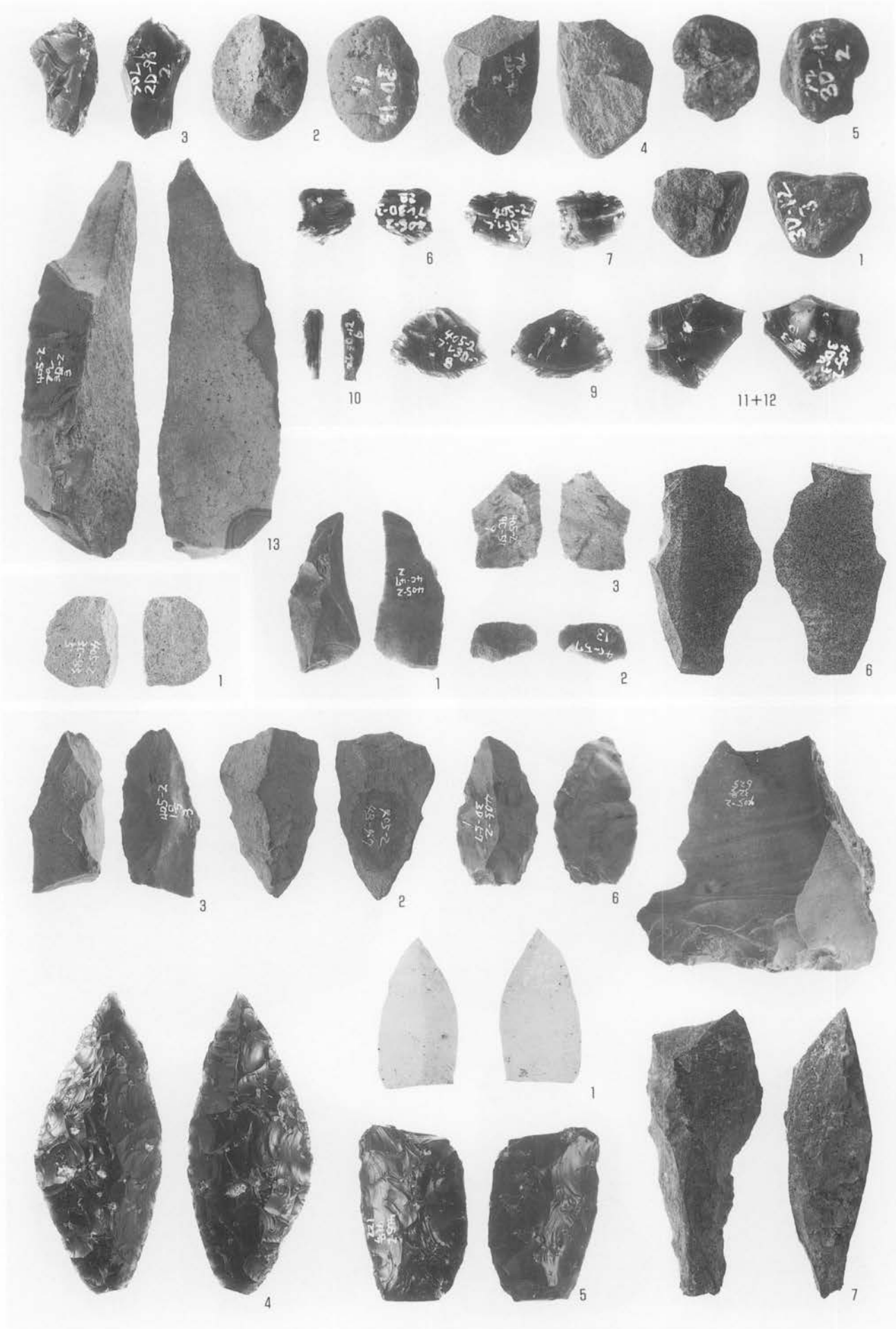

石器集中4b 出土石器(4)



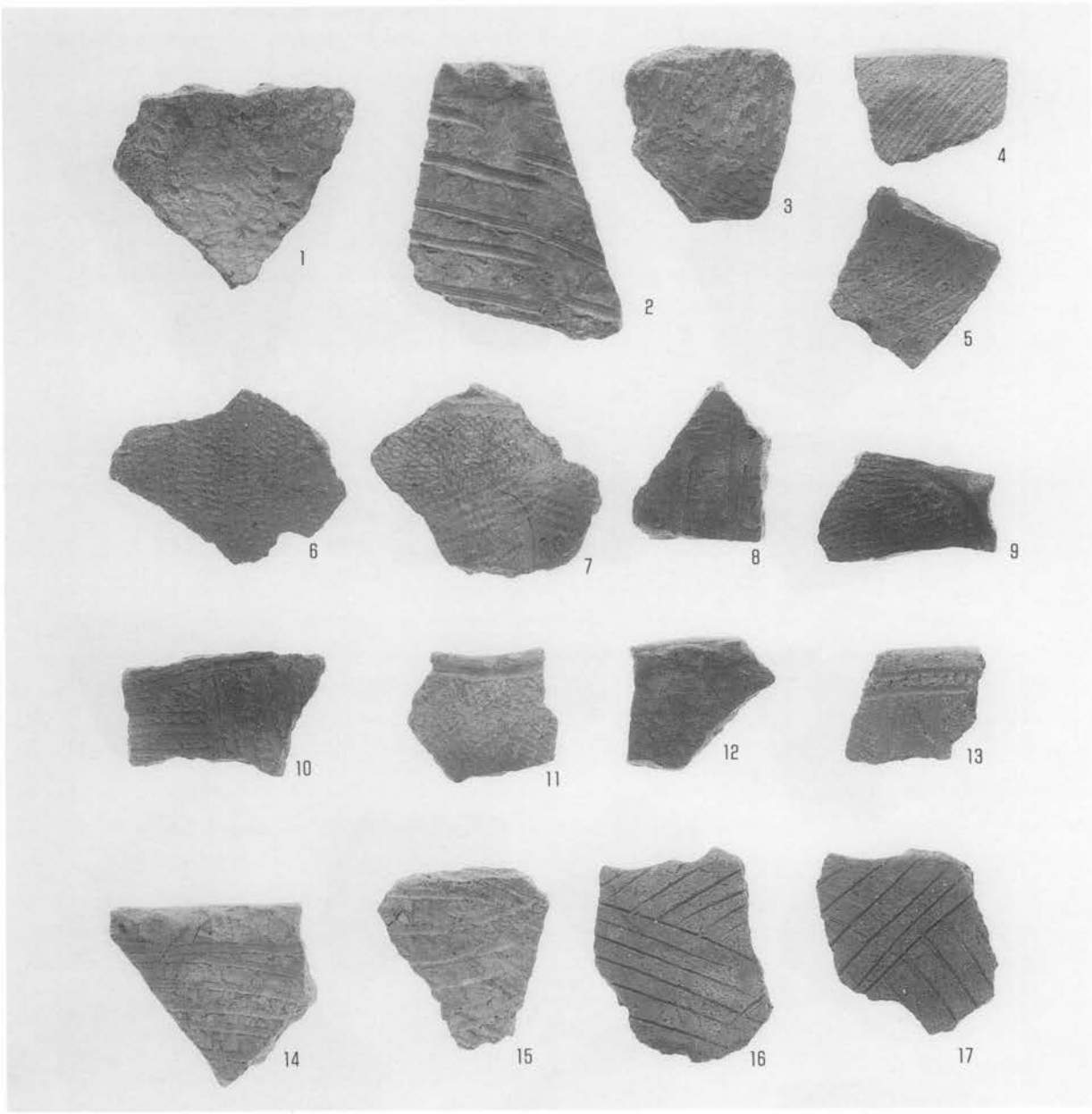

石器集中4b 出土石器(5)

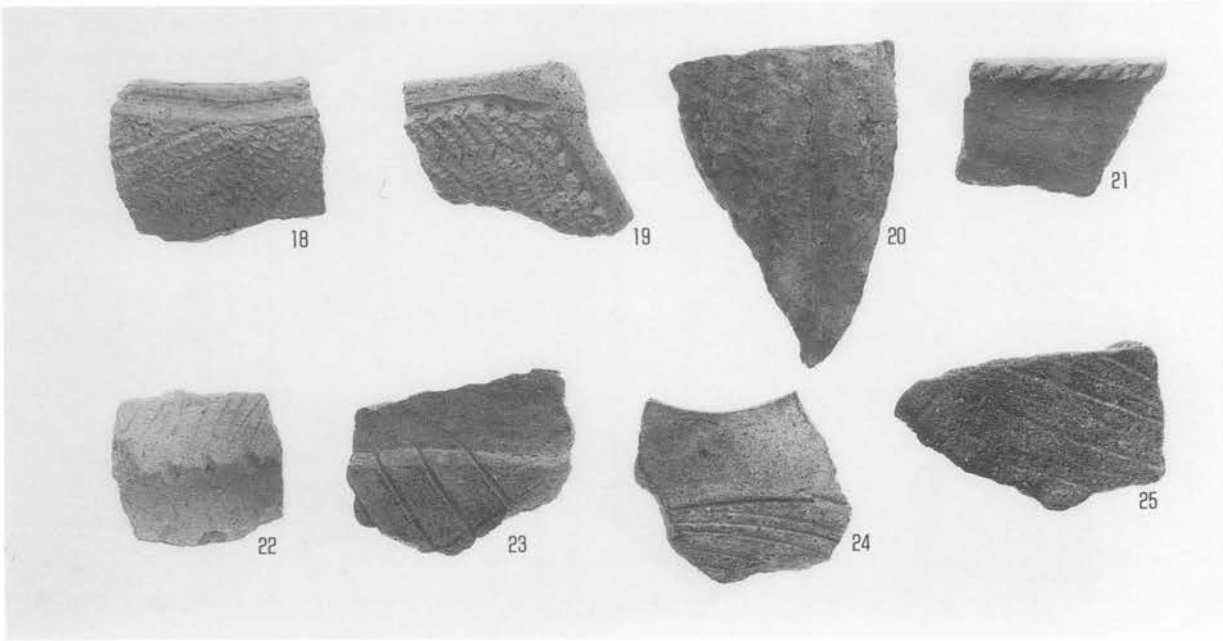



石器集中4b 出土石器(6)

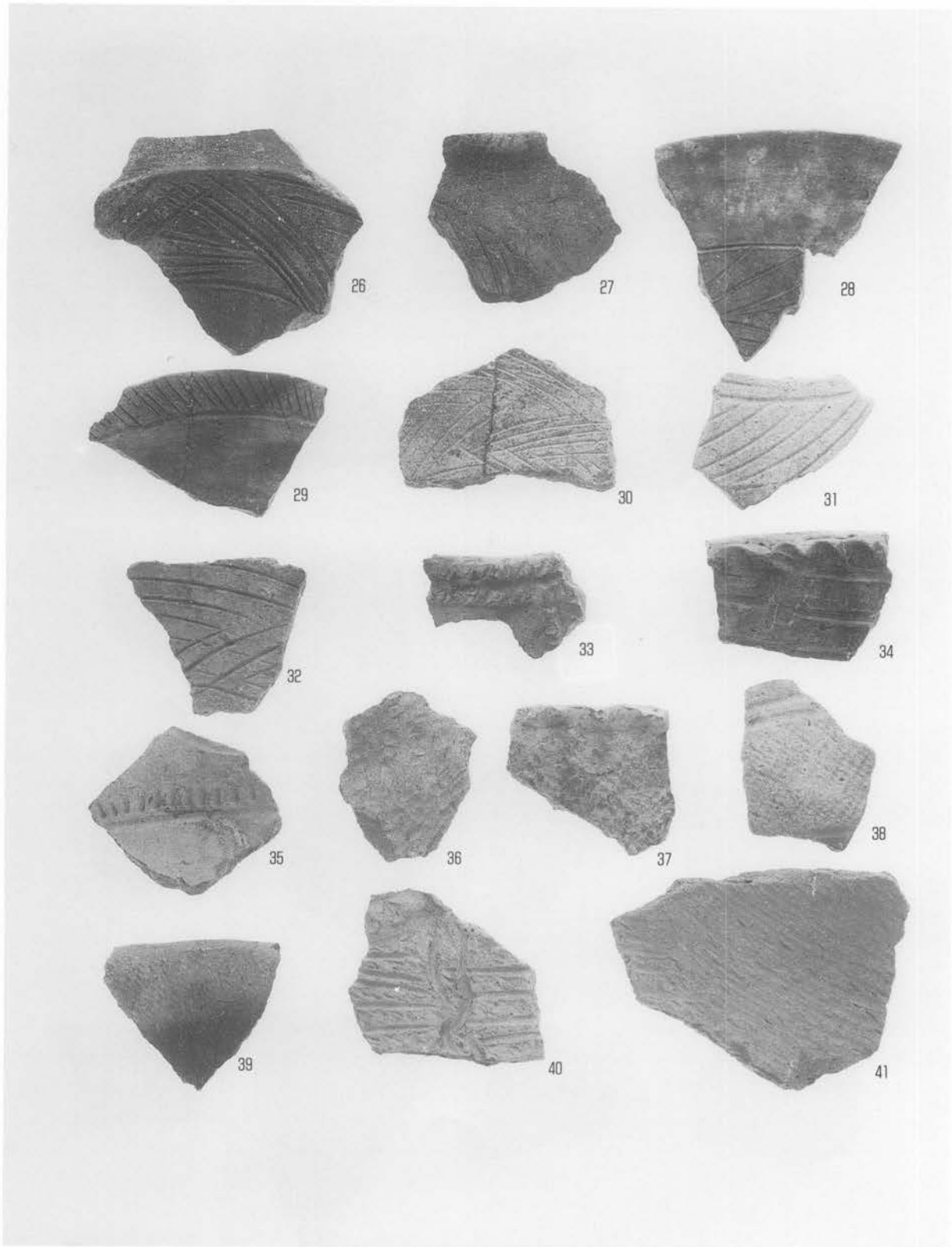


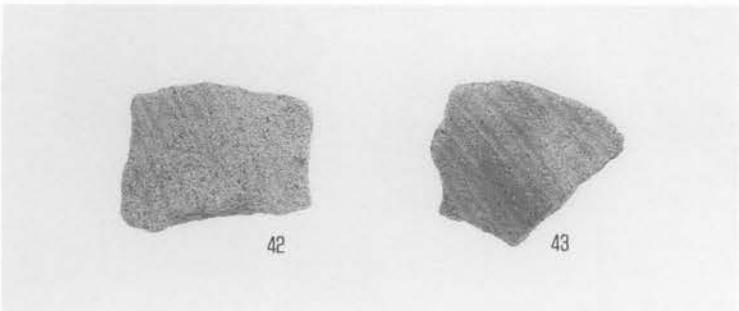
上段：石器集中2　中段：石器集中1・3　下段：石器集中地点外



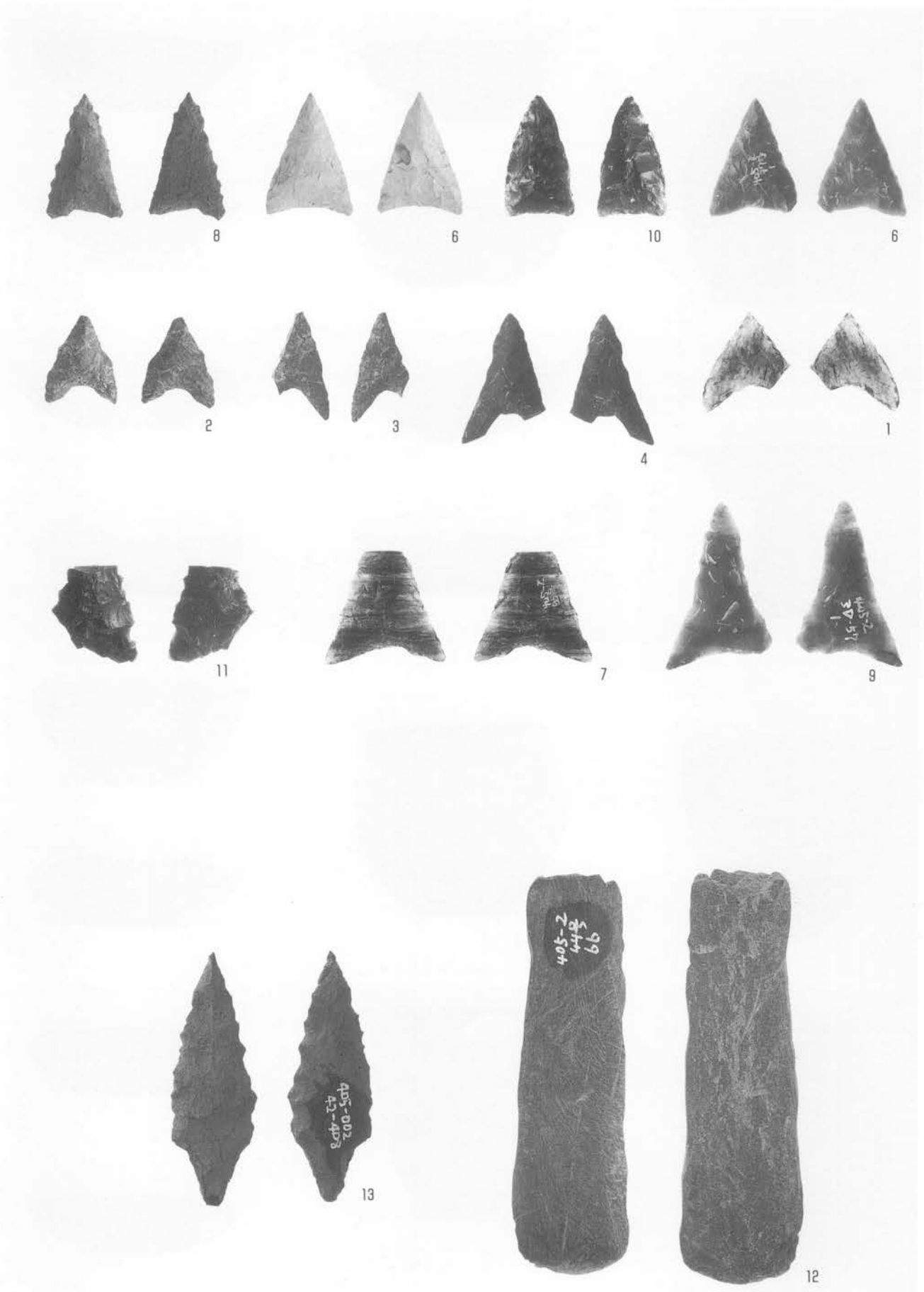




縄文土器1（S＝1/2）




縄文土器2（S＝1/2）




縄文時代以降の石器（原寸）

1～4号住居跡

5-1

5-5

5-3

6-11

6-5

6-12

7-3

6-14

7-5

8-1

8-2

8-9

8-8

8-3

8-10

9-6

9-5

5～9号住居跡

9-12

9-13

10-4

10-1

10-2

10-5

10-7

11-4

11-5

12-1

12-2

13-18

13-19

13-20

13-21

13-23

13-26

13-27

9～13号住居跡

13-28

13-30

13-36

13-1

13-4

13-6

13-7

13-10

13-11

13-17

13-32

13-31

13-35

13-42

13-36

13号住居跡

14-1

14-3

15-2

15-3

15-4

15-5

15-6

15-7

16-1

16-2

16-4

16-10

16-5

16-9

16-11

16-3

16-7

14～16号住居跡

16-9

16-10

16-14

16-13

16-15

17-2

17-1

17-6

17-7

17-9

18-2

18-3

18-4

18-5

18-7

19-5

19-1

19-2

16～19号住居跡

19-3

19-4

20-4

20-5

20-6

20-10

20-9

22-5

22-1

21-2

22-8

22-6

22-7

19～22号住居跡

23-1

23-2

23-3

23-4

23-5

23-6

23-7

23-12

25-10

25-11

25-13

25-2

25-6

25-14

25-16

25-3

25-7

25-17

25-19

23～25号住居跡

25-21

25-22

25-31

25-23

25-24

25-25

25-26

25-27

25-28

25-29

25-30

25-32

26-1

27-11

27-13

25～27号住居跡

27-16

27-18

27-21

27-1

27-2

27-3

27-4

27-5

27-6

27-8

27-15

28-1

28-2

28-3

30-1

30-3

27～30号住居跡

30-4

29-3

31-5

31-2

32-5

32-6

29-1

29-4

31-7

31-10

32-1

29-2

29-5

31-9

32-3

34-1

29～34号住居跡

35-1

35-4

35-7

35-2

35-5

35-6

36-1

37-1

36-2

37-2

36-3

36-6

36-

36-4

36-7

36-10

36-11

36-13

36-12

36-9

35～36号住居跡

38-1

38-3

38-5

38-2

38-4

38-6

38-7

38-11

38-13

38-9

38-14

38-15

38-16

39-1

39-3

39-4

39-5

39-6

38～39号住居跡

39-7

39-8

39-12

39-9

39-10

39-11

41-2

41-3

41-4

41-5

41-6

41-7

41-8

41-9

41-10

41-11

41-12

41-13

39～41号住居跡

41-1

41-14

41-15

41-16

41-17

41-23

41-19

41-20

41-21

41-24

41-18

41-25

41-26

41-28

42-2

41～42号住居跡

41-29

41-30

42-4

42-6

43-2

44-2

45-3

46-2

46-6

46-8

47-1

47-5

49-1

47-8

49-2

49-3

41～49号住居跡

49-4

49-5

49-6

19土坑-1

19土坑-4

19土坑-12

19土坑-2

19土坑-5

19土坑-16

19土坑-3

19土坑-11

19土坑-18

19土坑-19

49号住居跡・19号土坑

53-1

53-3

53-4

55-3

55-4

55-6

56-1

55-5

55-7

56-2

57-2

59-4

59-6

61-3

61-5

19土坑-27

19土坑-25

2溝-1

1溝-1

50-1

19号土坑・1号～2号溝・50～61号住居跡

45-4

7-8

29-11

8-21

25-37～39

7-9

8-19

9-17

25-35

4D-93表採

25-34

8-22

25-33

25-36

3D-67表採

8-23

11-14

28-4

3B-55
表採

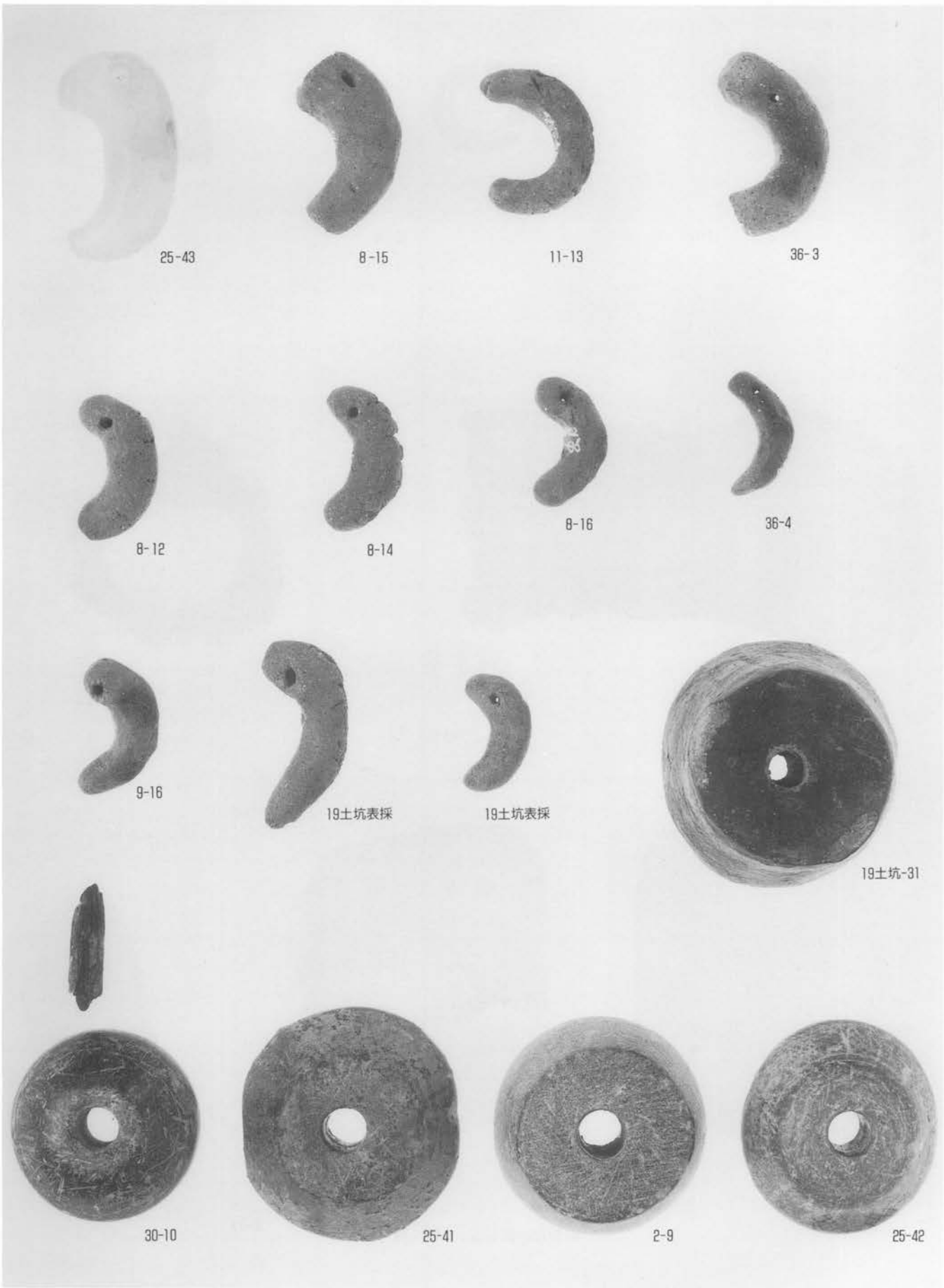
4-12

7-7

42-8

6-17

石製品，土製品1(原寸)


25-43
8-15
11-13
36-3
8-12
8-14
8-16
36-4
9-16
19土坑表採
19土坑表採
19土坑-31
30-10
25-41
2-9
25-42

石製品，土製品2(原寸)

17-12

16-19

6-15

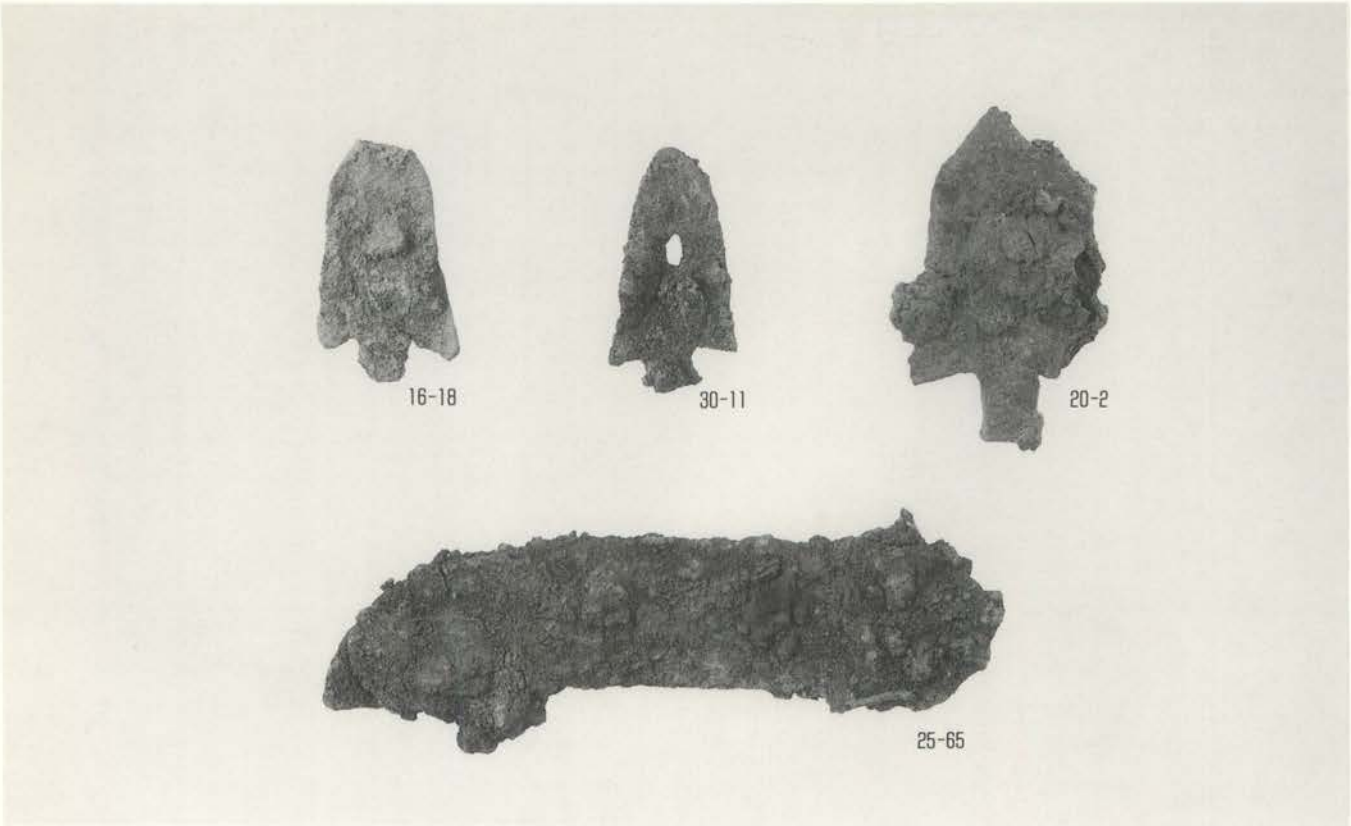
18土坑2

38-23

30-13

8-24

銅製品、鉄製品、羽口(原寸)




鉄製品(原寸)

1 漆仕上げ土器の内面と断面

2 炭素吸着土器の内面と断面

3 いわゆる東北系土器の底部と漆仕上げ状況

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さんぶまちくりやきぼういせき |
| 書名 | 千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書 |
| 副書名 | 山武町栗焼棒遺跡遺跡 |
| 巻次 | 1 |
| シリーズ名 | 財団法人千葉県文化財センター調査報告 |
| シリーズ番号 | 第330集 |
| 編著者名 | 加藤修司・永塚俊司 |
| 編集機関 | 財団法人千葉県文化財センター |
| 所在地 | 〒284　千葉県四街道市鹿渡809−2　Tel 043-422-8811 |
| 発行年月日 | 西暦　1997　年　12月　26日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 栗焼棒遺跡（くりやきぼういせき） | 千葉県山武郡山武町矢部字日向497-1他（ちばけんさんぶぐんさんぶまち やべあざひゅうが） | 12405 | 002 | 35度<br>36分<br>49秒 | 140度<br>23分<br>24秒 | 19930105～<br>19930331<br>19930401～<br>19940331 | 13,500<br>17,900 | 千葉東金道路（二期）建設に伴う事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 栗焼棒遺跡 | 集落 | 旧石器時代 | 石器集中地点　4地点 | 楔形石器、ナイフ形石器<br>彫刻刀形石器、礫、剝片 | |
| | | 縄文時代 | 土坑14基 | 縄文土器（後期）<br>有舌尖頭器、石鏃 | |
| | | 古墳時代後期 | 竪穴住居跡50軒<br>土坑6基<br>溝1条 | 土師器、須恵器、石器、砥石<br>石製紡錘車、勾玉、管玉、臼玉<br>ガラス玉、鉄鏃、鉄製刀子、<br>鉄製鎌、鉄斧、釘、銅製帯金具<br>耳環、管状土錘、土製勾玉、<br>土玉 | |
| | | 奈良・平安時代 | 竪穴住居跡13軒<br>掘立柱建物跡3棟<br>土坑3基<br>溝5条 | 土師器、須恵器、瓦、石器 | 大形の掘立柱建物跡が2棟検出されている。 |
| | | 近世 | 塚 | 寛永通宝 | |

千葉県文化財センター調査報告第330集

# 千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書１

山武町栗焼棒遺跡

平成10年３月31日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　日本道路公団
千葉市若葉区みつわ台二丁目34番１号
東京第一建設局　千葉工事事務所

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地２

印　刷　株式会社　弘報社印刷
千葉市緑区古市場町474－268